

**田園環境都市おやまビジョン  
市民アンケート集計・分析業務  
報告書**

**2024年6月**

**株式会社あしぎん総合研究所**

# 目次

---

1. 調査の概要	1
(1) 調査の目的	2
(2) 調査対象者	2
(3) 実施概要	2
(4) 回収結果	2
(5) 報告書を見る際の留意点	2
2. 調査の結果	3
(1) 基本情報	4
(2) 大項目	9
(3) 生涯学習・文化・スポーツ	22
① 生涯学習	22
② 文化芸術	29
③ 地域の伝統行事	34
④ 文化財・史跡	38
⑤ 結城紬の伝統技術の継承	43
⑥ スポーツ振興	48
⑦ レジャー・娯楽	54
(4) 福祉・医療・健康・介護	58
① 障がい者との共生	58
② 生活困窮者の支援	63
③ ひきこもり相談支援	67
④ 地域医療体制	72
⑤ 健康づくり	76
⑥ 高齢化対策	81
(5) 教育・子育て	85
① 地域による子育て	85
② 健幸（健やかで幸せ）な家庭生活	89
③ 青少年育成	93
④ 子どもの学習権の保証	97
⑤ 子どもの権利の尊重	101
⑥ 少子化対策・子育て支援	105
(6) 農業・自然	110
① 農業	110
② 市街地内の農地	115
③ 自然	119
④ 平地林の保全、再生、創出、維持管理	123

⑤ 生物多様性の保全、ネイチャーポジティブ .....	126
(7) 商工業 .....	130
① 自分らしい働き方 .....	130
② バランスのとれた労働と余暇 ワーク・ライフ・バランス .....	134
③ 起業支援 .....	138
(8) コミュニティ・多文化共生 .....	143
① 地域コミュニティ .....	143
② 自治会機能の十分な発揮 .....	149
③ 市民活動 .....	156
④ ボランティア活動 .....	163
⑤ 男女共同参画 .....	168
⑥ 多文化共生 .....	172
(9) 防犯・防災 .....	177
① 防災 .....	177
② 防犯 .....	183
③ 犯罪被害者支援等 .....	187
(10) 公共施設・公共交通 .....	192
① 公共施設 .....	192
② 公共交通 .....	197
(11) まちづくり .....	201
① ウォーカブルなまちづくり .....	201
② 道路交通網 .....	206
③ インフラ整備・更新 .....	211
④ 企業 .....	215
(12) 関係人口・行政運営 .....	219
① 関係人口 .....	219
② 行政運営 .....	222

## 1. 調査の概要

---

## (1) 調査の目的

市制100周年を迎える2054年の小山市の理想の姿を描く田園環境都市おやまビジョン策定に際し、広く市民の意見を聴取するため、市民アンケートを実施する。

## (2) 調査対象者

- 小山市民および小山市に通勤・通学している方
- 小山市に興味・関心がある方

## (3) 実施概要

- 調査地域：小山市内全域
- 調査方法：出張所や各展示スペース等の公共施設内に紙媒体のアンケート調査票及びWebアンケートにリンクする二次元コードを設置・配布し実施。
- 調査期間：令和5年10月中旬～令和6年2月末日まで

## (4) 回収結果

各調査項目の回収数は以下のとおり。

調査項目	回収数	調査項目	回収数
基本情報	3,217	商工業	1,043
大項目	2,392	コミュニティ・多文化共生	1,036
生涯学習・文化・スポーツ	1,565	防犯・防災	1,025
福祉・医療・健康・介護	1,303	公共施設・公共交通	1,003
教育・子育て	1,264	まちづくり	1,038
農業・自然	1,085	関係人口・行政運営	1,002

## (5) 報告書を見る際の留意点

- 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを示しているため、その合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答の設問の場合、回答比率の合計は100.0%を超える場合があります。
- グラフ中の「n」とは、その設問の回答者数（母数）を表しています。
- 属性ごとの回答者数が20人以下の場合、傾向について本文中では触れません。なお、該当する属性は右記カッコ書き “” で表します。
- 割合が一定以下の場合、グラフの見やすさを優先し、比率を記載していません。詳細は集計結果をご確認ください。

## 2. 調査の結果

---

## (1) 基本情報

### Q1 性別を教えてください。

【選択肢】

- 1 男性
- 2 女性
- 3 無回答
- 4 その他

	1	2	3	4	総計
n	1432	1724	55	4	3215
%	44.5	53.6	1.7	0.1	100.0

### Q2 年齢を教えてください。

【選択肢】

- 1 10代以下
- 2 20代
- 3 30代
- 4 40代
- 5 50代
- 6 60代
- 7 70代以上

	1	2	3	4	5	6	7	総計
n	22	394	803	904	679	357	56	3215
%	0.7	12.3	25.0	28.1	21.1	11.1	1.7	100.0

### Q3 職業を教えてください。

【選択肢】

- 1 会社員
- 2 公務員
- 3 団体職員
- 4 自営業
- 5 農業
- 6 パート/アルバイト
- 7 学生
- 8 家事専業
- 9 無職
- 10 その他

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	総計
n	989	1135	34	111	14	448	44	224	168	49	3216
%	30.8	35.3	1.1	3.5	0.4	13.9	1.4	7.0	5.2	1.5	100.0

**Q4 国籍を教えてください。**

【選択肢】

- 1 日本
- 2 日本以外

	1	2	総計
n	3200	15	3215
%	99.5	0.5	100.0

**Q5 世帯を教えてください。**

【選択肢】

- 1 本人のみ
- 2 2人世帯
- 3 3人世帯
- 4 4人世帯
- 5 5人以上

	1	2	3	4	5	総計
n	684	696	638	764	434	3216
%	21.3	21.6	19.8	23.8	13.5	100.0

**Q6 世帯員構成を教えてください。**

【選択肢】

- 1 配偶者（法的婚姻）
- 2 パートナー
- 3 祖父
- 4 祖母
- 5 父
- 6 母
- 7 子（成人）
- 8 子（18歳未満）
- 9 孫
- 10 その他

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	総計
n	1914	84	42	85	379	568	399	1406	31	98	3217
%	59.5	2.6	1.3	2.6	11.8	17.7	12.4	43.7	1.0	3.0	100.0

**Q7 お住まいの地域**

【選択肢】

- |         |        |         |
|---------|--------|---------|
| 1 生井    | 5 大谷南部 | 9 穂積    |
| 2 豊田    | 6 桑    | 10 中    |
| 3 小山    | 7 絹    | 11 寒川   |
| 4 大谷北中部 | 8 間々田  | 12 小山市外 |

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総計
n	19	133	1076	656	45	299	40	494	63	19	27	340	3211
%	0.6	4.1	33.5	20.4	1.4	9.3	1.2	15.4	2.0	0.6	0.8	10.6	100.0

**Q8 通学・通勤されている場合は通学・通勤先を教えてください。**

【選択肢】

- 1 市内
- 2 市外（栃木県内）
- 3 市外（栃木県外）

	1	2	3	総計
n	2017	445	355	2817
%	71.6	15.8	12.6	100.0

**Q9 小山市への居住年数を教えてください。**

【選択肢】

- |          |          |
|----------|----------|
| 1 ~5年    | 4 21~30年 |
| 2 6~10年  | 5 31~50年 |
| 3 11~20年 | 6 51年~   |

	1	2	3	4	5	6	総計
n	476	410	538	427	832	323	3006
%	15.8	13.6	17.9	14.2	27.7	10.7	100.0

**Q10 小山市への居住歴を教えてください。**

**【選択肢】**

- 1 生まれてからずっと小山市の同じ地区に住んでいる
- 2 ずっと小山市に住んでいるが、市内で転居歴がある
- 3 小山市出身だが、市外への転出歴がある
- 4 県内の他市町から転入してきた
- 5 県外の他市町から転入してきた

	1	2	3	4	5	総計
n	386	380	516	593	1002	2877
%	13.4	13.2	17.9	20.6	34.8	100.0

**Q10-2 Q10 で2と答えた方にお聞きします。転居前に居住していた地域を教えてください。**

**【選択肢】**

- 1 生井
- 2 豊田
- 3 小山
- 4 大谷北中部
- 5 大谷南部
- 6 桑
- 7 絹
- 8 間々田
- 9 穂積
- 10 中
- 11 寒川

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	総計
n	3	11	122	94	8	40	6	72	15	7	3	381
%	0.8	2.9	32.0	24.7	2.1	10.5	1.6	18.9	3.9	1.8	0.8	100.0

**Q10-3 Q10 で3、4、5と答えた方にお聞きします。小山市に転入した(UIJ ターンにより戻ってきた)理由を教えてください**

**【選択肢】**

- 1 自身または家族の仕事の都合  
(就職・転勤等)
- 2 通勤への利便性
- 3 進学
- 4 結婚
- 5 子育て
- 6 介護
- 7 その他

	1	2	3	4	5	6	7	総計
n	1128	285	85	500	185	40	179	2103
%	53.6	13.6	4.0	23.8	8.8	1.9	8.5	100.0

**Q11 このアンケートをどこで知りましたか。**

**【選択肢】**

- |   |                          |                |
|---|--------------------------|----------------|
| 1 小山市公式ホームページ                                 | 7 知人からの紹介                | 12 おやまーる       |
| 2 小山市公式 SNS<br>(X, LINE, Facebook, Instagram) | 8 デジタルサイネージ<br>(電子掲示板)   | 13 ロブレマルシェ     |
| 3 上記以外の SNS                                   | 9 イベント等でのチラシ配布           | 14 中央図書館       |
| 4 市広報   | 10 カフェ (喫茶店) のチラシ<br>や紹介 | 15 小中学校からのお知らせ |
| 5 ポスター掲示                                      | 11 保健センター                | 16 大学からのお知らせ   |
| 6 メール・郵送による個別配信                               |                          | 17 その他         |

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
n	351	72	13	346	25	102	55	13	56
%	22.9	4.7	0.8	22.6	1.6	6.7	3.6	0.8	3.7
	10	11	12	13	14	15	16	17	総計
n	2	14	2	20	8	169	4	278	1530
%	0.1	0.9	0.1	1.3	0.5	11.0	0.3	18.2	100.0

## (2)大項目

**Q1 【人口政策】** 少子高齢化の進行に伴い、日本の人口は2008年をピークに、世界に先駆けて減少が始まっており、小山市においても9月1日現在の人口は166,228人ですが、2040年に157,459人、2055年に141,720人になるとされています（国立社会保障・人口問題研究所推計）今後の小山市の人口政策についてどのように考えますか。【n=2,367】

今後の小山市の人口政策については、全体で「選択肢2」が54.1%で最も高く、次いで「選択肢3」が22.8%、「選択肢1」が21.4%となっている。

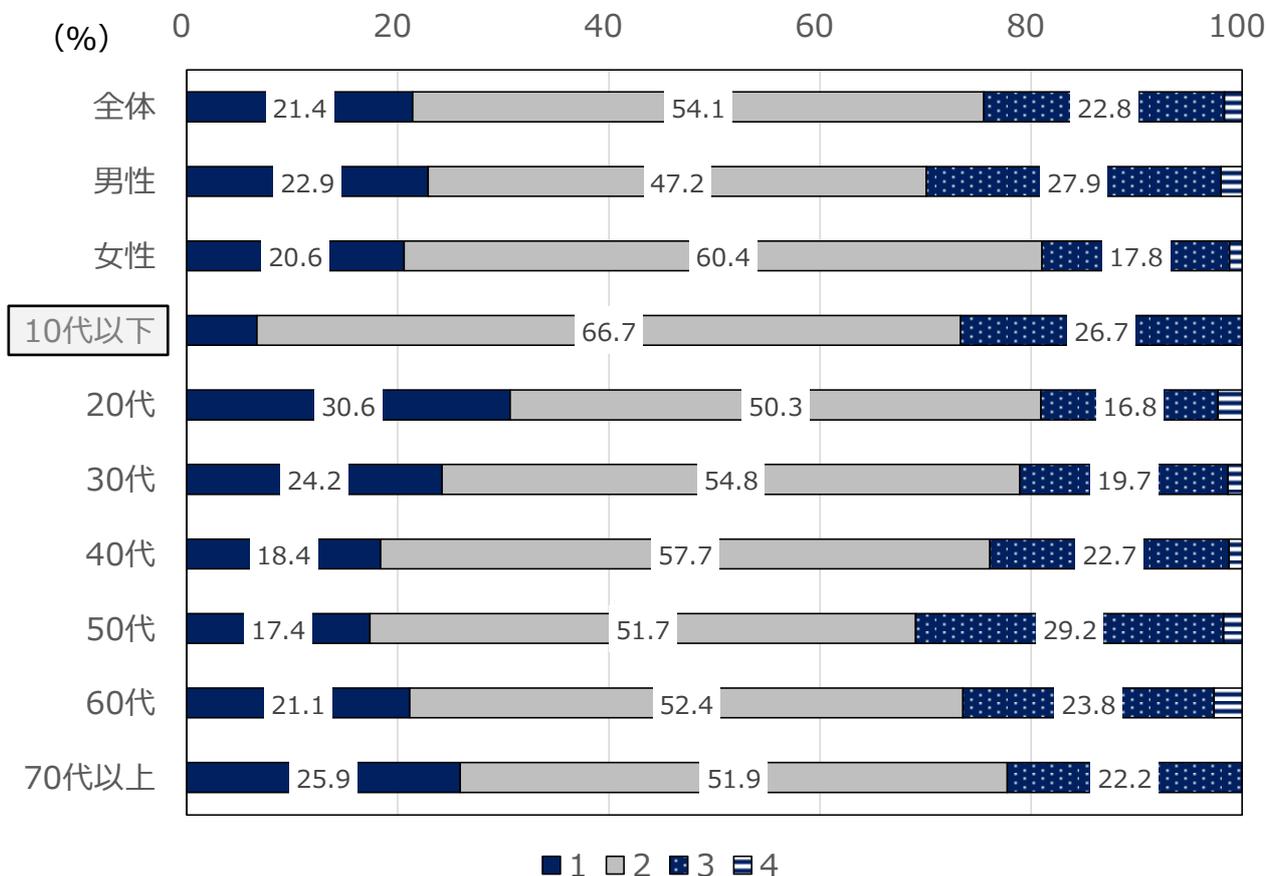
性別では、「選択肢2」で男性が47.2%となっている一方、女性が60.4%とやや高くなっている。

年代別では、各年代で「選択肢2」が過半数を超えている。

※大項目については選択肢記述が長いため、選択肢番号で表記します。

### 【選択肢】

- 1 移住者への市独自の支援（補助金等）をはじめ、子育て支援や高齢者支援の充実、大規模な住宅開発等あらゆる政策により積極的に移住定住を促進するべきである。
- 2 人口増加を第一の目的とせず、現在居住している市民にとってより良い生活が送れるようになるために必要な政策を着実に実行し、人口の減少幅が少しでも小さくなることを目指すべきである。
- 3 人口減少を食い止めることは非常に困難であり、小山市としては人口減少自体を防止するのではなく、人口減少しても市民が支障なく生活を送れる施策に力を入れるべきである。
- 4 その他



**Q2 【経済成長】**日常生活を送る上で経済問題は非常に重要ですが、この数十年かつてのような経済成長が達成されず、地球環境問題が深刻化し、貧富の格差が拡大しています。小山市のこれからの経済はどのような方向性を目指すべきと考えますか。【n=2,367】

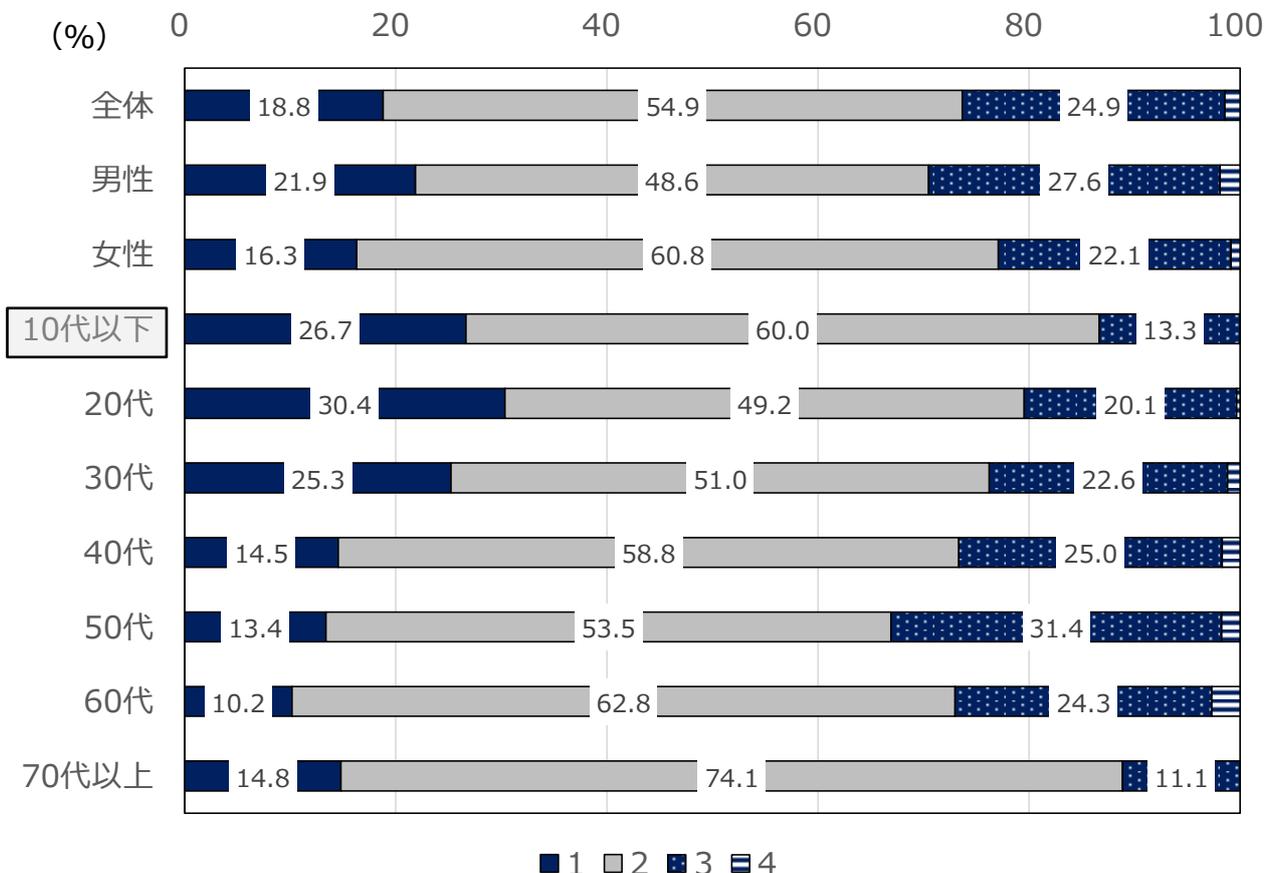
小山市のこれからの経済の方向性については、全体で「選択肢2」が54.9%で最も高く、次いで「選択肢3」が24.9%、「選択肢1」が18.8%となっている。

性別では、「選択肢2」で男性が48.6%である一方、女性が60.8%とやや高くなっている。

年代別では、各年代で「選択肢2」が5割程度から7割超と最も高くなっている。「選択肢1」は20～30代では「選択肢1」の割合が40～60代に比べて大きく、反対に40～60代は「選択肢3」の割合が大きくなっている。

**【選択肢】**

- 1 経済活性化のために大規模な投資事業を官民協力して行い、高度経済成長の再現を目指すべきである。
- 2 深刻化する環境問題や貧富の格差に十分配慮してそれらの対策を優先しながら可能な範囲での経済成長を目指すべきである。
- 3 経済成長がなくても市民生活が成り立つような社会システムに変えていくことを目指すべきである。
- 4 その他



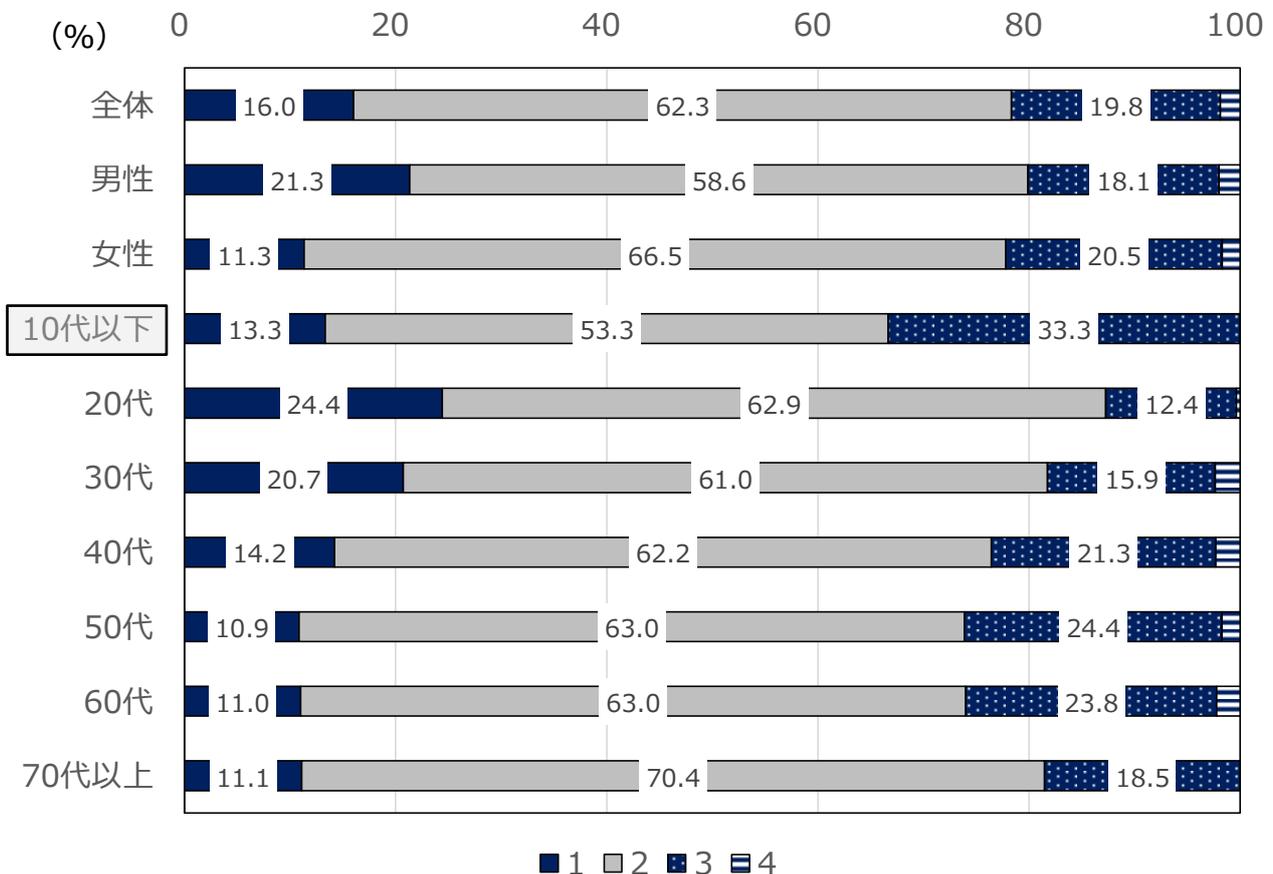
**Q3 【自然環境の保全】** 小山市内に点在する平地林や田園環境、思川などの河川、渡良瀬遊水地などの豊かな自然は、多様な動植物を育み、私たちは自然や生き物から多くの恵み（食べ物や酸素の供給、国土の保全、災害の防止、水源のかん養、良好な景観の形成、文化の伝承、レクリエーションの場の提供など）を受けています。これらの自然をどのように保全すべきと考えますか。【n=2,365】

小山市の自然をどのように保全すべきかについては、全体で「選択肢2」が62.3%で最も高く、次いで「選択肢3」が24.9%、「選択肢1」が18.8%となっている。

性別では、「選択肢1」で女性が11.3%となっている一方、男性が21.3%とやや高くなっている。年代別では、各年代で「選択肢2」が6割から7割と最も高くなっている。

**【選択肢】**

- 1 自然環境は再生が可能であり、小山市の自然環境には余裕があるので、自然環境を保全すべき区域と積極的に開発すべき区域に区分して、一定の範囲については、保全よりも開発を優先すべきである。
- 2 自然環境は一旦破壊すると環境再生は非常に困難であり、小山市においても以前と比べると自然環境が失われている。現在小山市に残っている良好な自然については、保全することを原則とし、どうしても開発しなければならない場合には、失われる自然と同量の自然が別な場所で再生されるような代償措置をとるべきである。
- 3 地球環境の悪化が深刻化して人類の生存が危機的状況を迎える中では、これ以上の自然破壊は許されず、むしろ自然再生を強力に推進すべきである。
- 4 その他



**Q4 【生活環境の保全】大量生産、大量消費、大量廃棄を前提としてきた私たちの日常生活や企業による事業活動は、大気、水、土壌をはじめとする私たちを取り巻く環境に対して負荷をかけ続けてきました。その結果、二酸化炭素等の温室効果ガスの増加による地球温暖化が進行し、また生物の多様性が加速度的に喪失しています。これからの私たちの日常生活や企業による事業活動のあるべき姿をどのように考えますか。【n=2,366】**

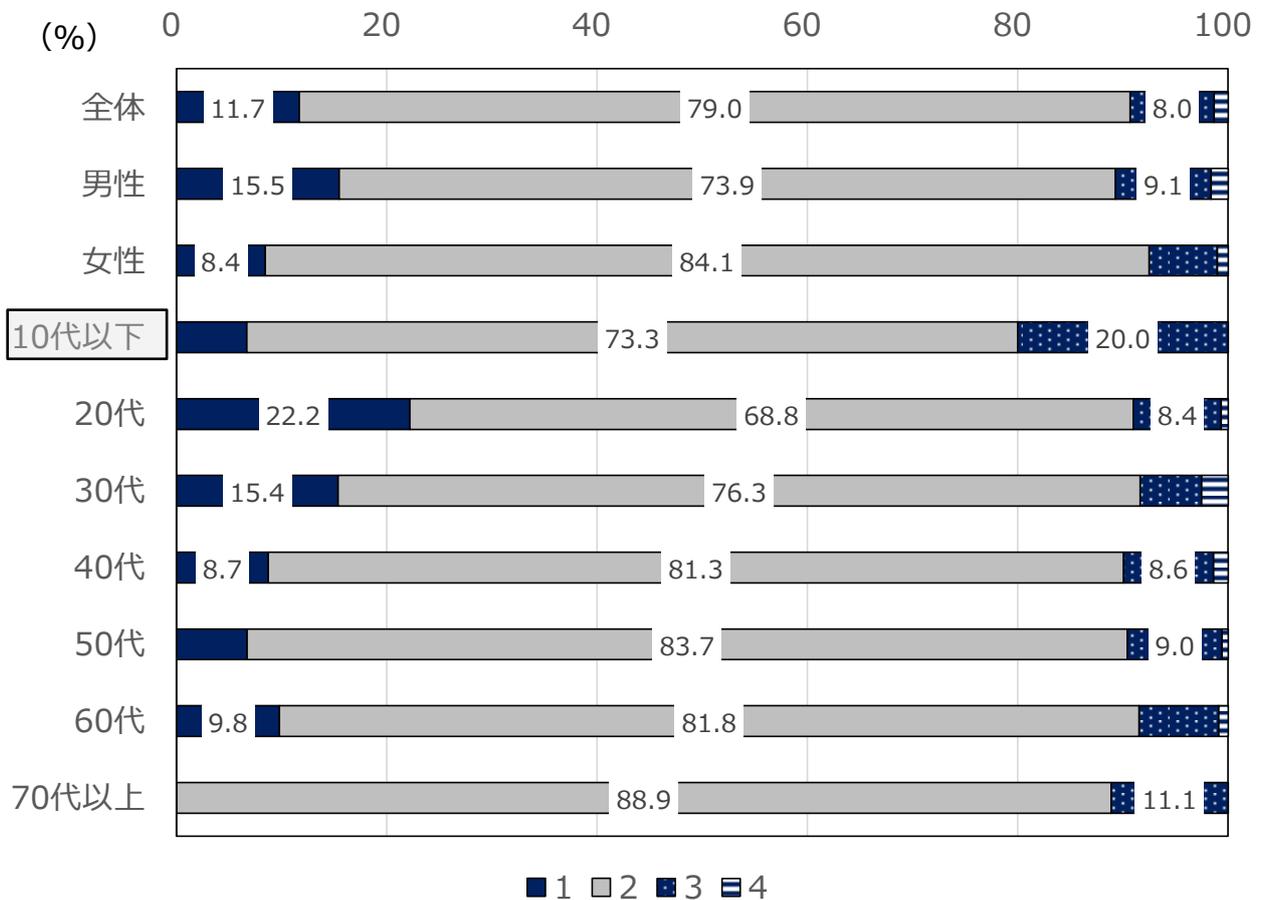
日常生活や企業による事業活動のあるべき姿については、全体で「選択肢2」が79.0%で最も高く、次いで「選択肢1」が11.7%、「選択肢3」が8.0%となっている。

性別では、「選択肢2」で男性が73.9%である一方、女性が84.1%とやや高くなっている。

年代別では、各年代で「選択肢2」が7割程度から8割超と最も高くなっている。

**【選択肢】**

- 1 地球温暖化の進行や生物多様性の喪失による影響は限定的なものであり、利便性を追求して、私たちの生活の快適性を図っていくことは何よりも優先させるべきである。
- 2 これ以上環境に負荷をかけないようにするため、循環型の社会経済システムへの転換を図ると共に技術開発を可能な限り進め、それでもカバーしきれない場合には、私たちの日常生活の利便性や事業活動の効率性も見直すべきである。
- 3 環境に負荷をかける行動は、一切禁止して、脱炭素や生物多様性の向上を最優先にするべきである。
- 4 その他



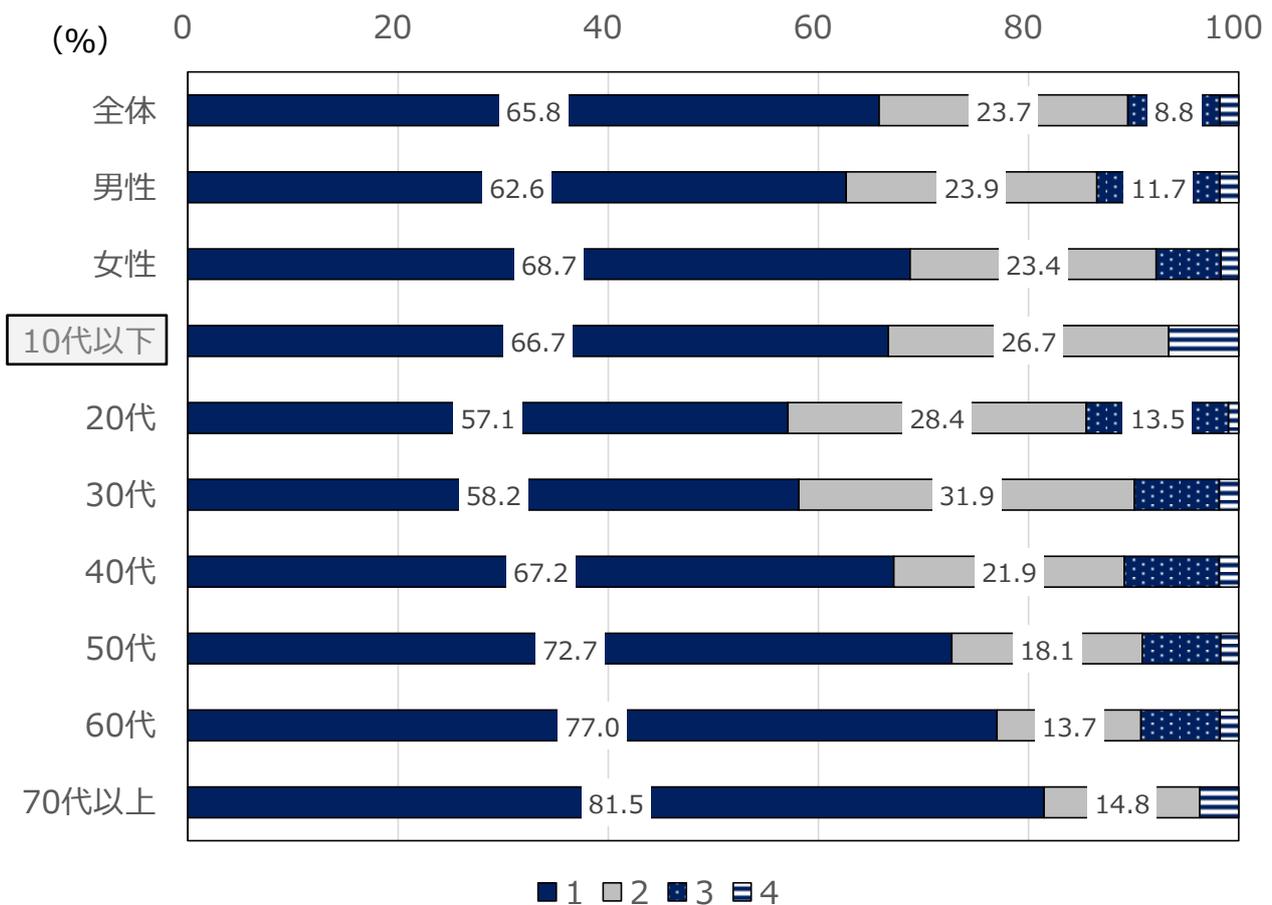
**Q5 【廃棄物対策】生活環境を保全していく上で廃棄物対策は極めて重要ですが、どのように取り組むべきと考えますか。【n=2,361】**

廃棄物対策への取り組み方については、全体で「選択肢1」が65.8%で最も高く、次いで「選択肢2」が23.7%、「選択肢3」が8.8%となっている。

年代別では、「選択肢1」が過半数から8割程度となっており、年代が上がるにつれて割合も大きくなっている。

**【選択肢】**

- 1 限りある資源を有効に活用しリサイクルを進めるためには、廃棄物の発生抑制に努めるとともに、家庭での分別に手間がかかっても家庭用生ごみ処理機による堆肥化、紙類やプラスチック類の分別の細分化を図り、積極的に廃棄物の資源化に取り組むべきである。
- 2 廃棄物対策に高額なコストがかかっても、家庭での分別の煩わしさを回避し、市民の負担のない範囲で廃棄物の資源化を図れば十分である。
- 3 環境に負荷がかかるとしても廃棄物の処理は焼却処分するのが最も効率的であり、どうしても焼却できない廃棄物についてのみ、リサイクルをはじめ資源化に取り組めば十分である。
- 4 その他



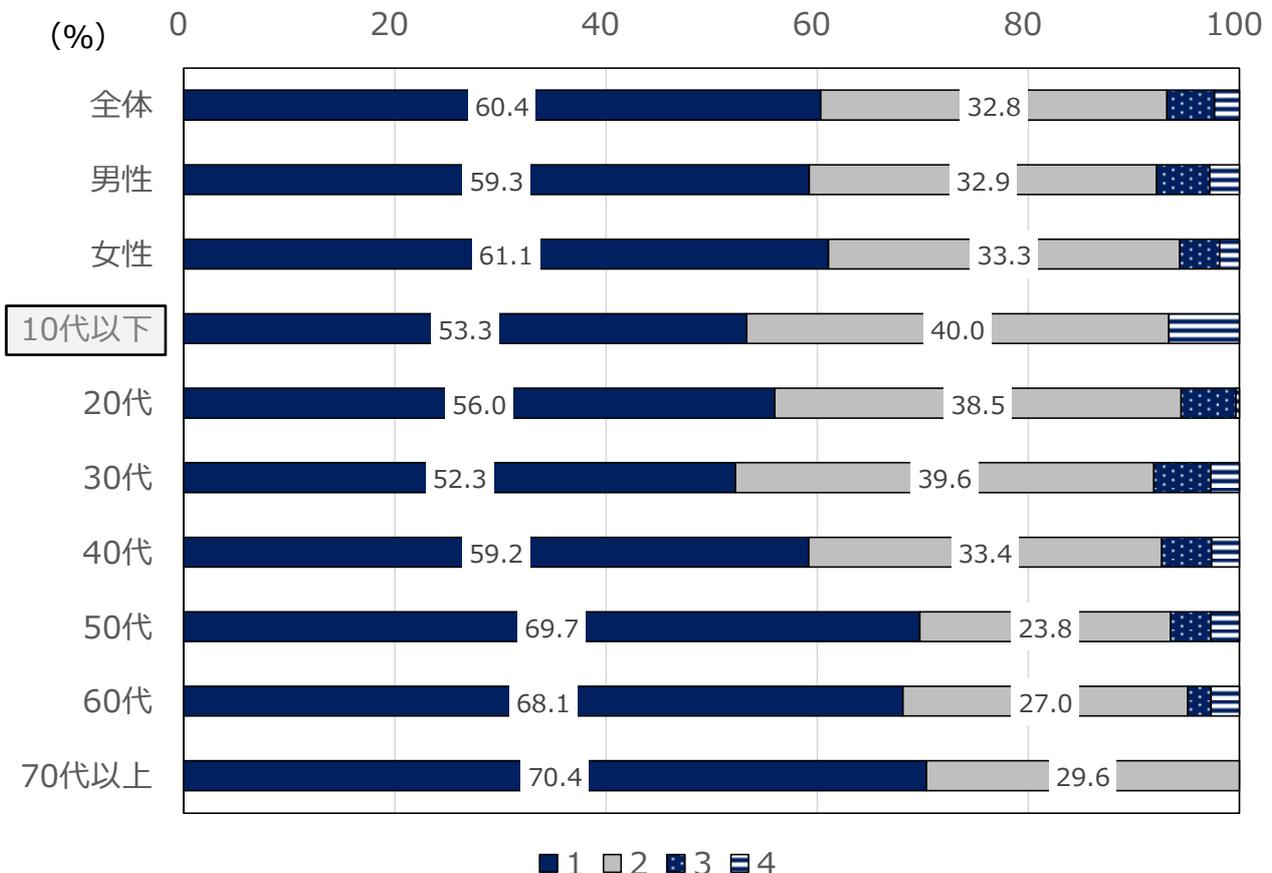
**Q6 【地球環境問題の国際目標への取り組み】地球温暖化や生物多様性の喪失に対応するための2050年を目途とする国際的な目標であるカーボンニュートラル（二酸化炭素などの温室効果ガス「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて実質ゼロにすること）やネイチャーポジティブ（生物多様性の損失を止め回復軌道に乗せて自然共生社会を実現すること）についてどのように考えますか。【n=2,356】**

地球環境問題の国際目標への取り組みについては、全体で「選択肢1」が60.4%で最も高く、次いで「選択肢2」が32.8%となっている。

年代別では、「選択肢1」が過半数から7割程度となっており、20～40代が5割台である一方、50～70代が7割前後とやや高くなっている。

**【選択肢】**

- 1 私たちの生活をより良いものにしていくために、これら国際的な目標の実現は欠かせないものであるから、行政のみならず市民自ら積極的に取り組む必要がある。
- 2 先ずは行政がこれらの国際的な目標の実現に取り組むべきであり、行政から具体的に指示される範囲で市民が協力すれば十分である。
- 3 これら国際的な目標の実現は、行政が率先して行うべきことであり、市民の取り組むべき課題ではない。
- 4 その他



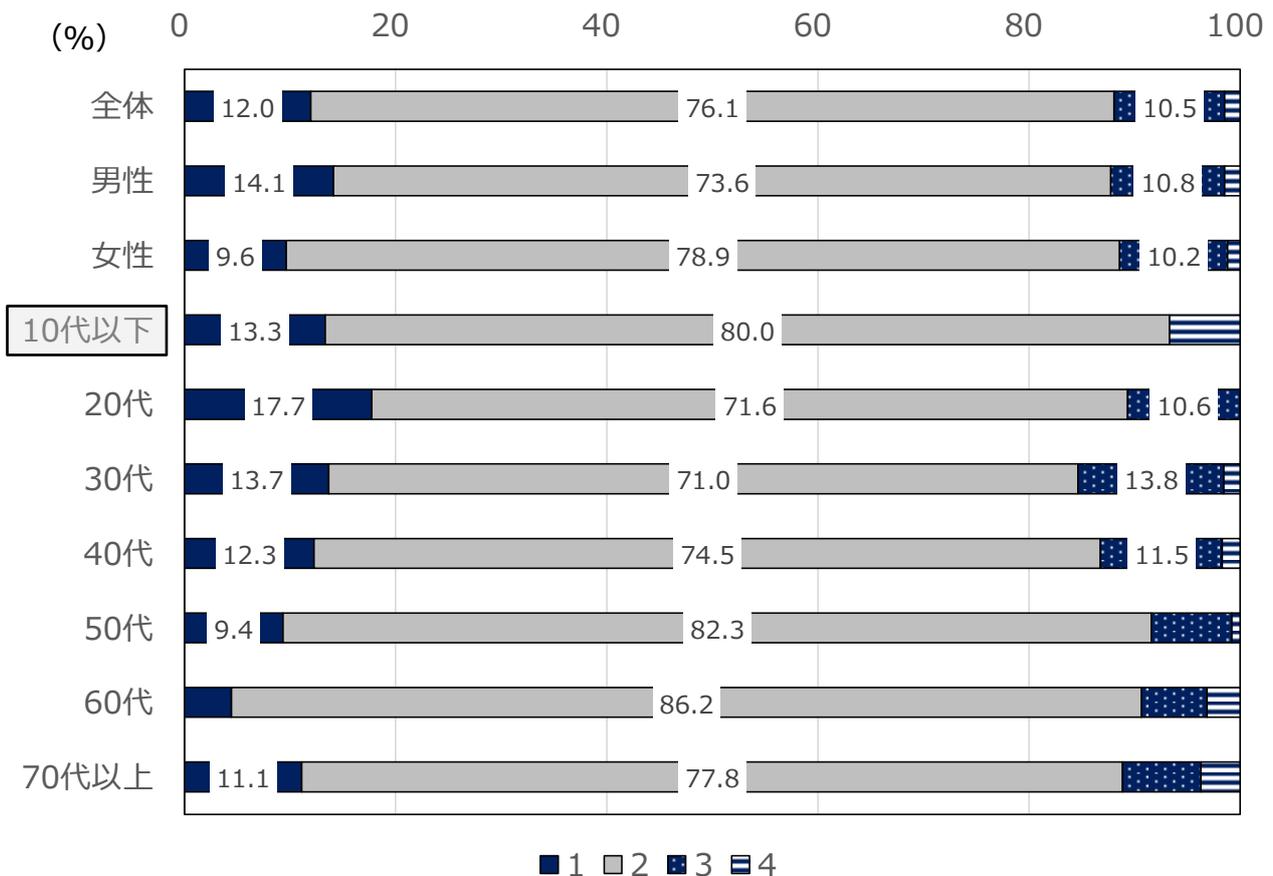
**Q7 【自然生態系保全への市民・企業の関わり】豊かな自然生態系と生物多様性に富んだコウノトリが生息するラムサール条約湿地/渡良瀬遊水地をはじめ思川、鬼怒川、その周辺に広がる農地、平地林等を将来世代に引き継ぐために、市民や企業がどのように関わって保全していくべきと考えますか。【n=2,357】**

自然生態系保全への市民・企業の関わりについては、全体で「選択肢2」が76.1%で最も高く、次いで「選択肢1」が12.0%、「選択肢3」が10.5%となっている。

性別・年代別においても「選択肢2」が7割から8割超となっている。

**【選択肢】**

- 1 今までの行政による自然生態系等の保全は不十分であったので、今後は市民と企業が主導する形で保全を図っていくべきである。
- 2 自然生態系の保全について、行政だけで対応できる範囲には限界があり、行政と市民や企業が連携して一体となって保全に取り組むべきである。
- 3 自然生態系の保全は行政が責任を持って取り組むべき課題であり、ボランティアとして協力できる市民や企業が協力すれば十分である。
- 4 その他



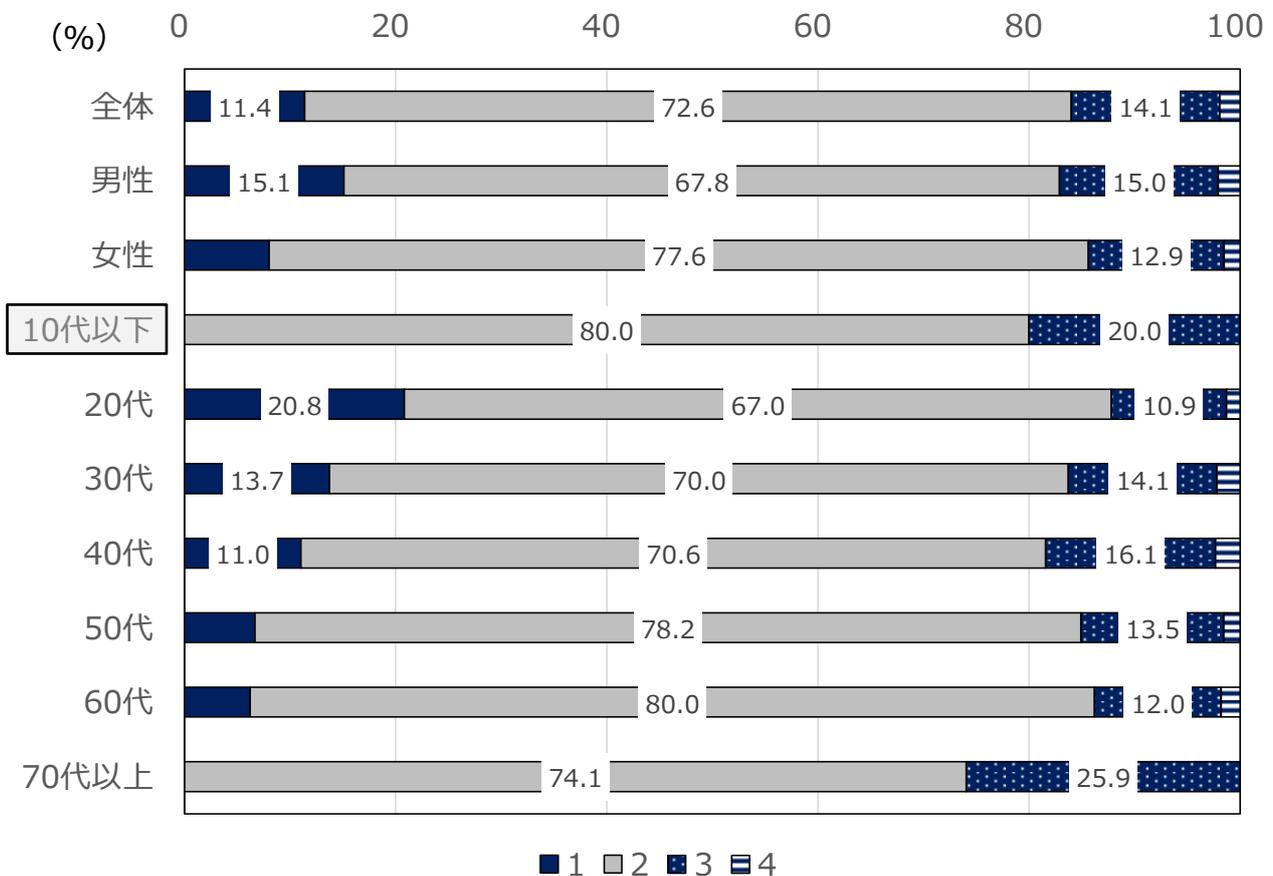
**Q8 【安全安心な食料の安定供給と農業・農村の振興】**日本は食料の多くを輸入に依存してきましたが、ウクライナ危機や気候変動問題を受け、今後の安定供給に対する懸念が高まっています。小山市は、米麦はもとより都市近郊型の園芸作物の生産も盛んでしたが、農業従事者の高齢化と後継者不足などの問題が生じており、農村部の過疎化も進行しています。これからの農業・農村のあり方についてどのように考えますか。【n=2,364】

これからの農業・農村のあり方については、全体で「選択肢2」が72.6%で最も高く、次いで「選択肢3」が14.1%、「選択肢1」が11.4%となっている。

性別・年代別においても「選択肢2」が7割程度から8割となっている。

**【選択肢】**

- 1 日本農業の効率性は国際的にも低く、今後日本と農業・農村の発展は期待できないので、より効率的に農業が行われている国々からの確実な農産物の確保ができるようあらゆる方策を講じるべきである。
- 2 農業は農産物の生産だけでなく、国土の保全や水源のかん養、生物多様性の保全等の多面的機能を発揮しており、農産物を輸入して安定的供給を図れても、多面的機能を代替することはできないので、農業・農村の振興を図り、食料自給率の向上に努めるべきである。
- 3 自給自足や地産地消は、地球環境の危機や不安定な国際情勢の中では欠かせないことであるため、食料自給率が100%達成できるよう、農業・農村の振興を図るべきである。
- 4 その他



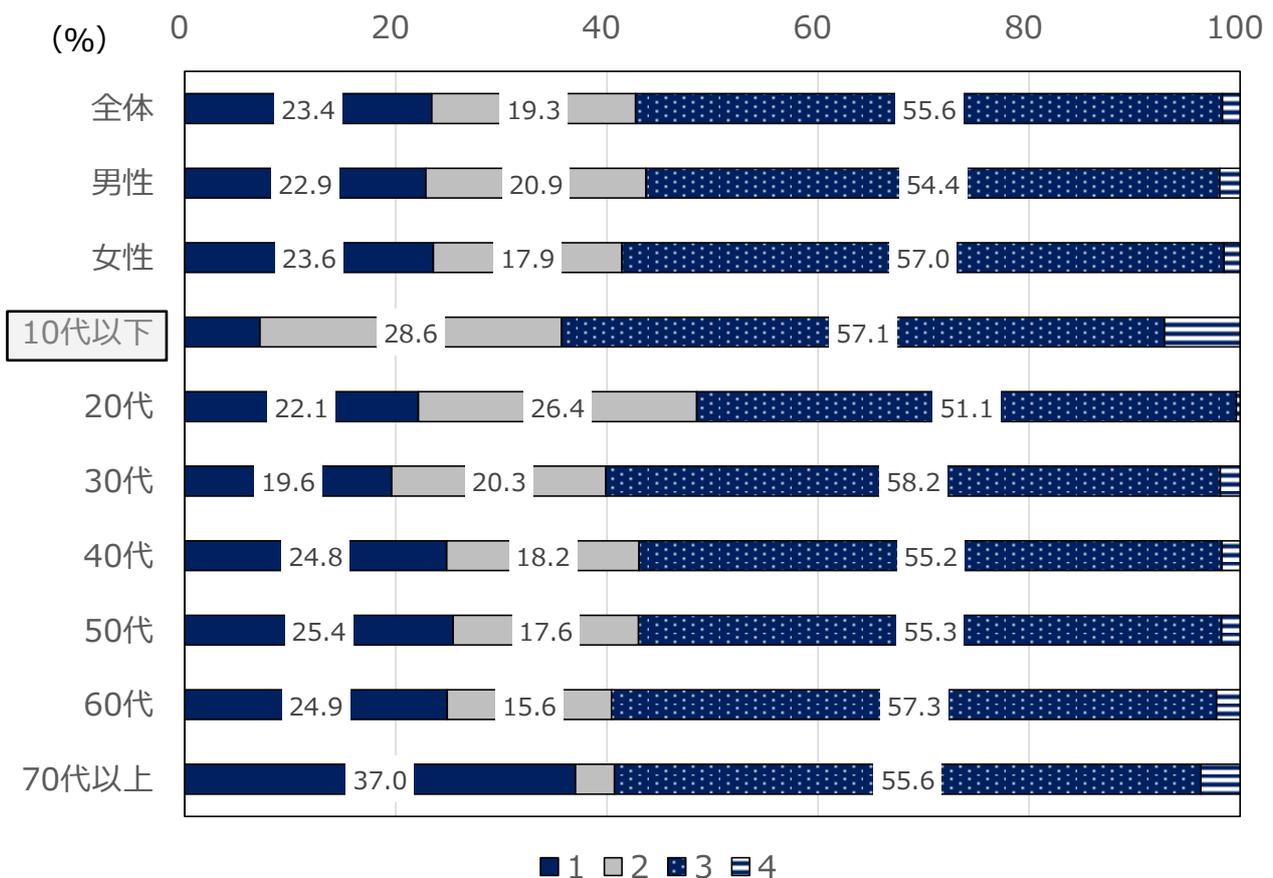
**Q9 【有機農業の拡大】政府は2021年、みどりの食料システム戦略を策定して2050年までに耕地面積の25%（100万ha）を化学農薬や化学肥料を一切使用しない有機農業にすることを目標に掲げていますが、小山市では有機農業にどのように取り組むべきと考えますか。【n=2,352】**

有機農業への取り組みについては、全体で「選択肢3」が55.6%で最も高く、次いで「選択肢1」が23.4%、「選択肢2」が19.3%となっている。

性別、70代以上を除く年代別においても「選択肢3」が5割台となっており、「選択肢1」及び「選択肢2」がそれぞれ2割前後となっている。

**【選択肢】**

- 1 EUでは2030年までに有機農業を25%にする目標を掲げており、有機農業の拡大は国際的潮流であるから、日本が乗り遅れないよう小山市としても積極的に有機農業の振興を図るべきである。
- 2 現状0.6%程度でしかない有機農業を2050年までに25%にしていくことは現実的には極めて困難であり、有機農業の振興は慎重に行うべきである。
- 3 後継者不足が深刻な日本農業はその存続自体が危ぶまれており、有機農業の振興を図るよりも前にまずは農業を存続させていくこと自体への取り組みをしっかりと行うべきである。
- 4 その他



**Q10 【イノベーション（新しい技術や考え方）の推進】**最近では、新しい技術や新しい考え方の導入（ガソリン自動車から電気自動車への転換、DX(デジタルトランスフォーメーション)や AI（人工知能）の活用など）が私たちの社会生活を大きく変えています。また、教育の現場では小学生からタブレットや電子黒板を使った授業が行われ IT 化が進んでいます。今後の技術革新や新しい考え方の導入についてどのように考えますか。【n=2,359】

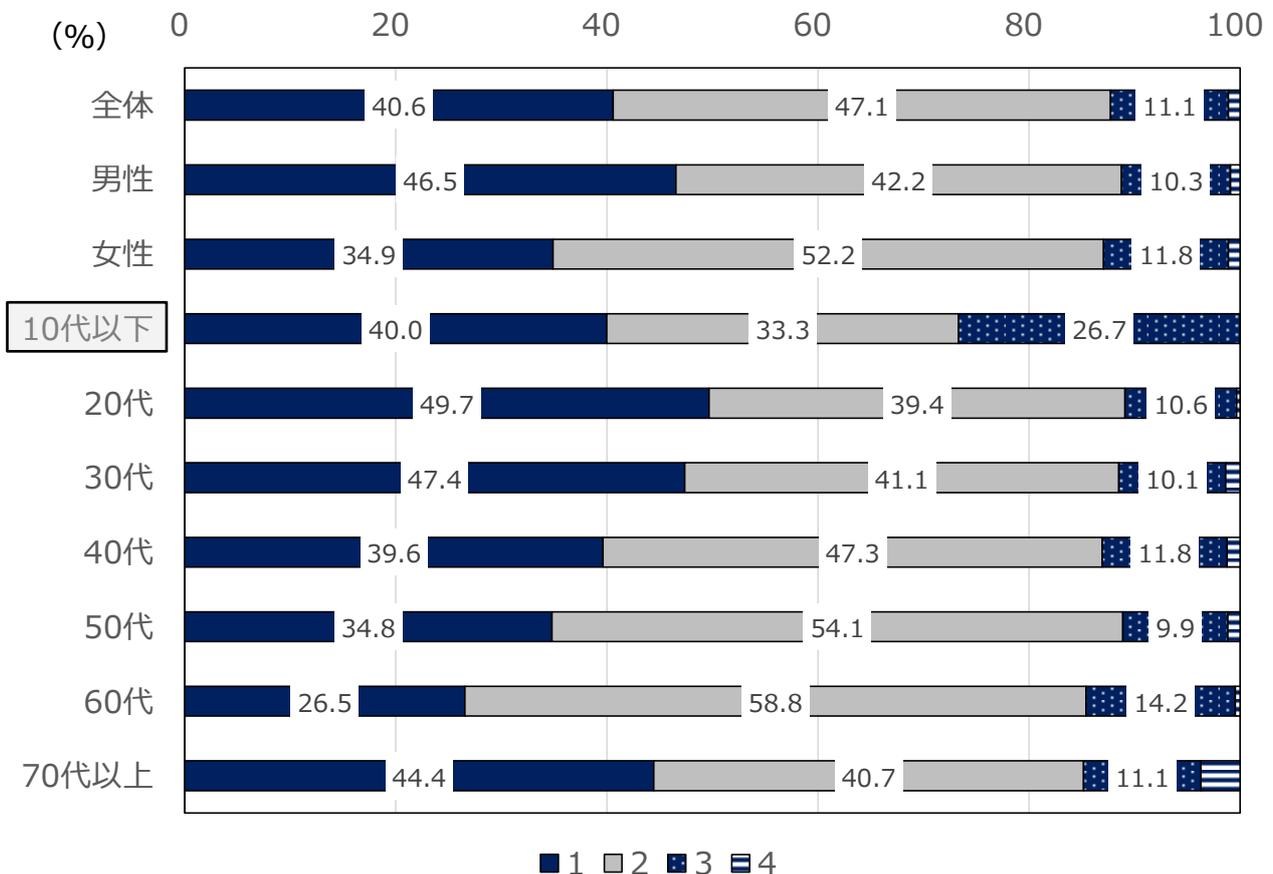
今後の技術革新や新しい考え方の導入については、全体で「選択肢2」が47.1%で最も高く、次いで「選択肢1」が40.6%、「選択肢3」が11.1%となっている。

性別では、男性は「選択肢1」が46.5%で最も高い一方、女性は「選択肢2」が52.2%で最も高く、「選択肢1」は2番目となっている。

年代別では、「選択肢2」の割合は年代が上がるにつれて大きくなっている。

**【選択肢】**

- 1 技術革新や新しい考え方の導入は、社会生活の利便性を高めるので、必要となるルールや仕組みの見直しも迅速に行って積極的に取り組むべきである。
- 2 技術革新や新しい考え方の導入は、社会生活の利便性を高めるので進めるべきであるが、同時に人間が十分にコントロールできなくなる危険性などについても適切に是正していくことが必要である。
- 3 技術革新や新しい考え方の導入は、社会生活を大きく変えてしまい、多くの人々が適応できなかったり不安を感じるので慎重に行うべきである。
- 4 その他



**Q 1 1 【地域の多様性】** 小山市内はもともと 10 地区（小山、大谷、間々田、寒川、生井、豊田、中、穂積、桑、絹）に分かれており、合併によって現在の小山市となった経緯があります。これからの地区のあり方についてどのように考えますか。【n=2,362】

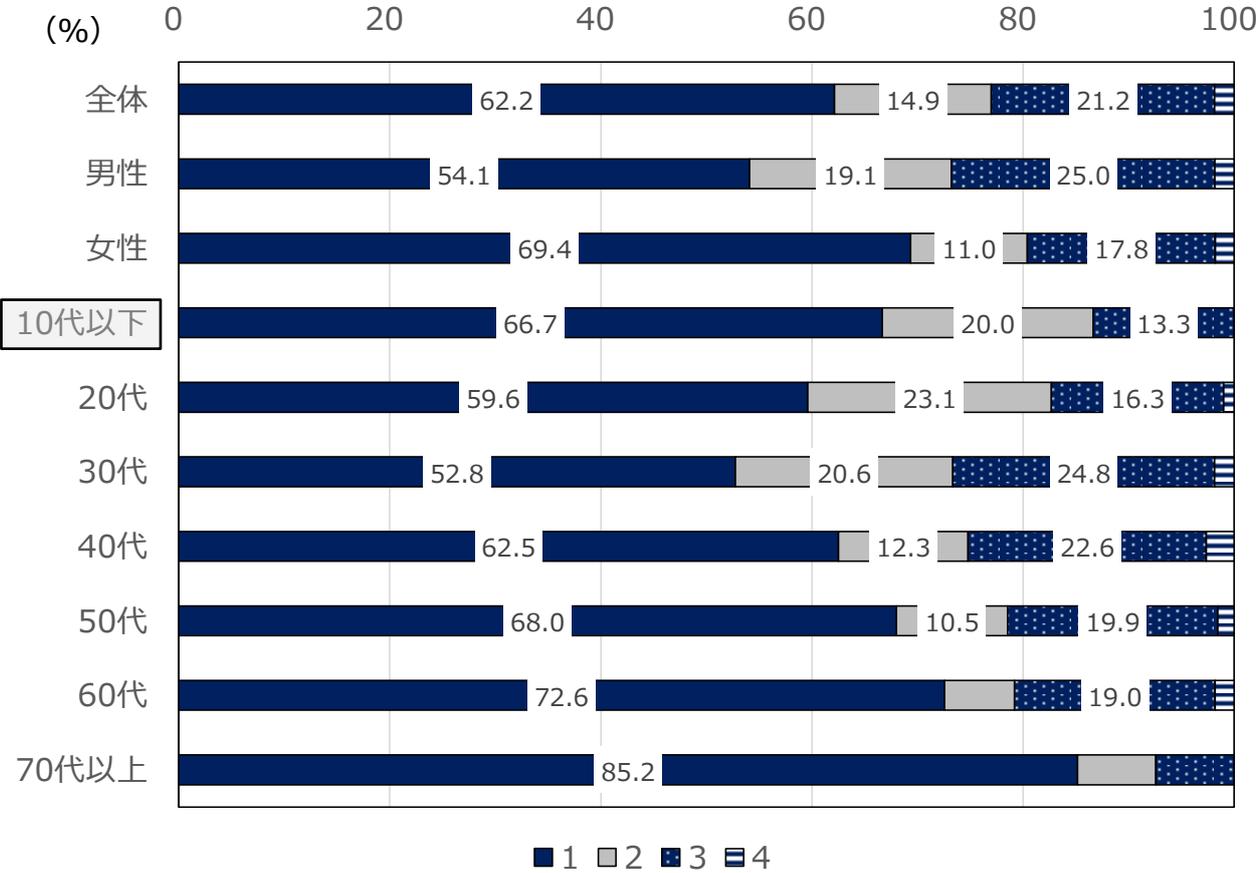
これからの地区のあり方については、全体で「選択肢 1」が 62.2%で最も高く、次いで「選択肢 3」が 21.2%、「選択肢 2」が 14.9%となっている。

性別では、「選択肢 1」で男性が 54.1%である一方、女性が 69.4%とやや高くなっている。

年代別では、「選択肢 1」が 5割から 8割超となっており、割合は年代が上がるにつれて大きくなる傾向にある。

**【選択肢】**

- 1 10 地区には、地勢や歴史、文化などそれぞれの特色があり、小山市全体の魅力につながっている  
ので、それらを活かし、伸ばしていくまちづくり（都市部の良さ、農村部の良いところや大切な  
ものを見出し、守っていくまちづくり）を進めるべきである。
- 2 10 地区にかつてほどの違いもないし、小山市は都市化が進んで発展してきたので、これからは都  
市部を中心にまちづくりを進めるべきである。
- 3 10 地区の特色を残そうとしても、過疎化が進む市街化調整区域では担うべき人材もいないので、  
現実的には 10 地区にこだわらず地区の特色を残せる地区だけが残っていくようなまちづくりを進め  
るべきである。
- 4 その他



**Q12 【都市部と農村部の関係】** 小山市では、当面の間人口が微増あるいは維持されていく市街化区域と呼ばれる都市部と、人口減少が進行する市街化調整区域と呼ばれる農村部から成り立っていますが、これからの都市部と農村部についてどうあるべきと考えますか。【n=2,357】

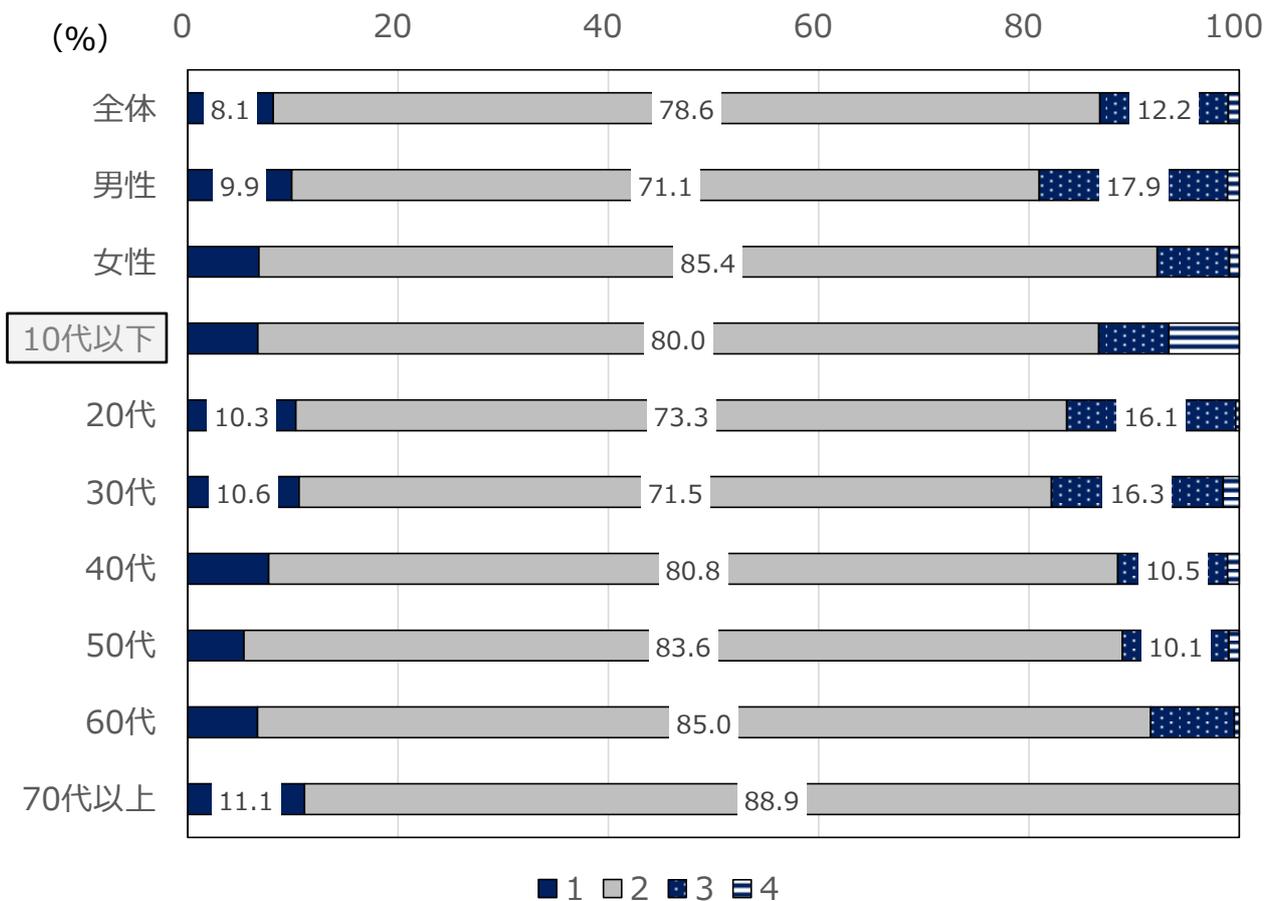
これからの都市部と農村部については、全体で「選択肢2」が78.6%で最も高く、次いで「選択肢3」が12.2%、「選択肢1」が8.1%となっている。

性別では、「選択肢2」で男性が71.1%である一方、女性が85.4%とやや高くなっている。

年代別では、「選択肢2」が7割から9割弱となっている。

**【選択肢】**

- 1 農村を維持していくためには、人口減少に歯止めをかけることが急務であり、積極的に都市部から農村部への移住策を講じていくべきである。
- 2 小山市の多様性は都市部だけでなく農村部によって支えられており、小山市らしさを将来に残していくためにも、都市と農村がうまく連携し、活性化できるようバランスの良いまちづくりを目指すべきである。
- 3 国全体で人口減少化が進んでいく中では農村部の人口減少に歯止めをかけることは困難であり、都市部での人口を維持していくため、都市機能の一層の充実を図るべきである。
- 4 その他



**Q13 【市民と行政の協働による市政運営】市民にとってより良い小山市とするために、これからの小山市の市政運営のあり方についてどのように考えますか。【n=2,360】**

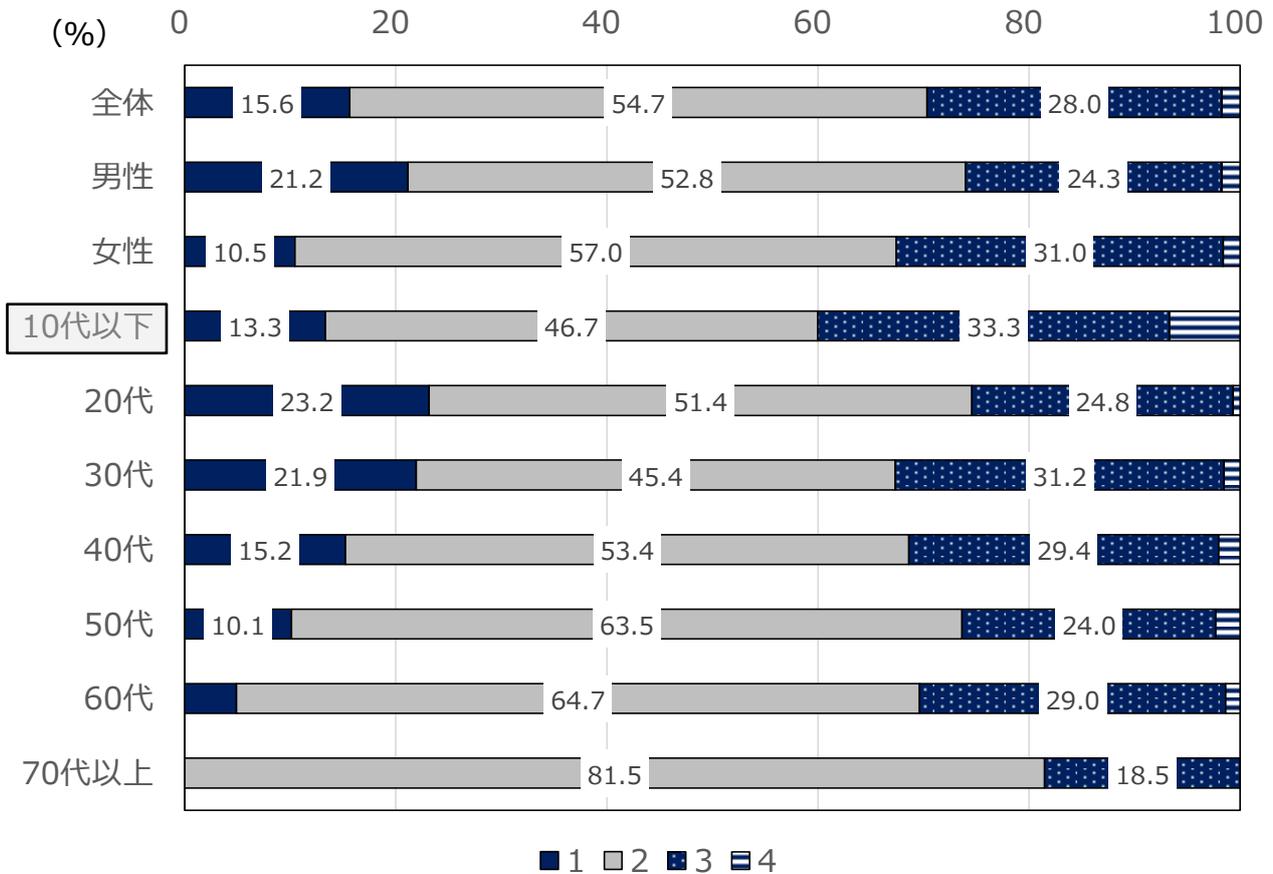
これからの小山市の市政運営のあり方については、全体で「選択肢2」が54.7%で最も高く、次いで「選択肢3」が28.0%、「選択肢1」が15.6%となっている。

性別では、「選択肢1」で女性が10.5%である一方、男性が21.2%とやや高くなっている。

年代別では、「選択肢2」が5割程度から8割超となっており、割合は年代が上がるにつれて大きくなる傾向にある。

**【選択肢】**

- 1 行政主導による市政運営（スピーディーに専門的知見に基づいて行い事務的な効率が高いが、市民の意見が必ず反映されるとは限らない。）を目指すべきである。
- 2 市民と行政が対話を重ねる市政運営（それなりの時間を必要とし事務的な効率性も高いとは言えないが、専門的知見に加え市民の意見を反映できる。）を目指すべきである。
- 3 必要があれば住民投票も行うなど、市民の意見を重視する市政運営（専門的知見と市民の意見がかけ離れて事務的に非効率となる場合もあるが、市民の意見を可能な限り反映できる。）を目指すべきである。
- 4 その他



### (3)生涯学習・文化・スポーツ

#### ① 生涯学習

**Q 1 あなたは今、学校教育以外で学びたいことがありますか、学ぶことができますか。【n=1,548】**

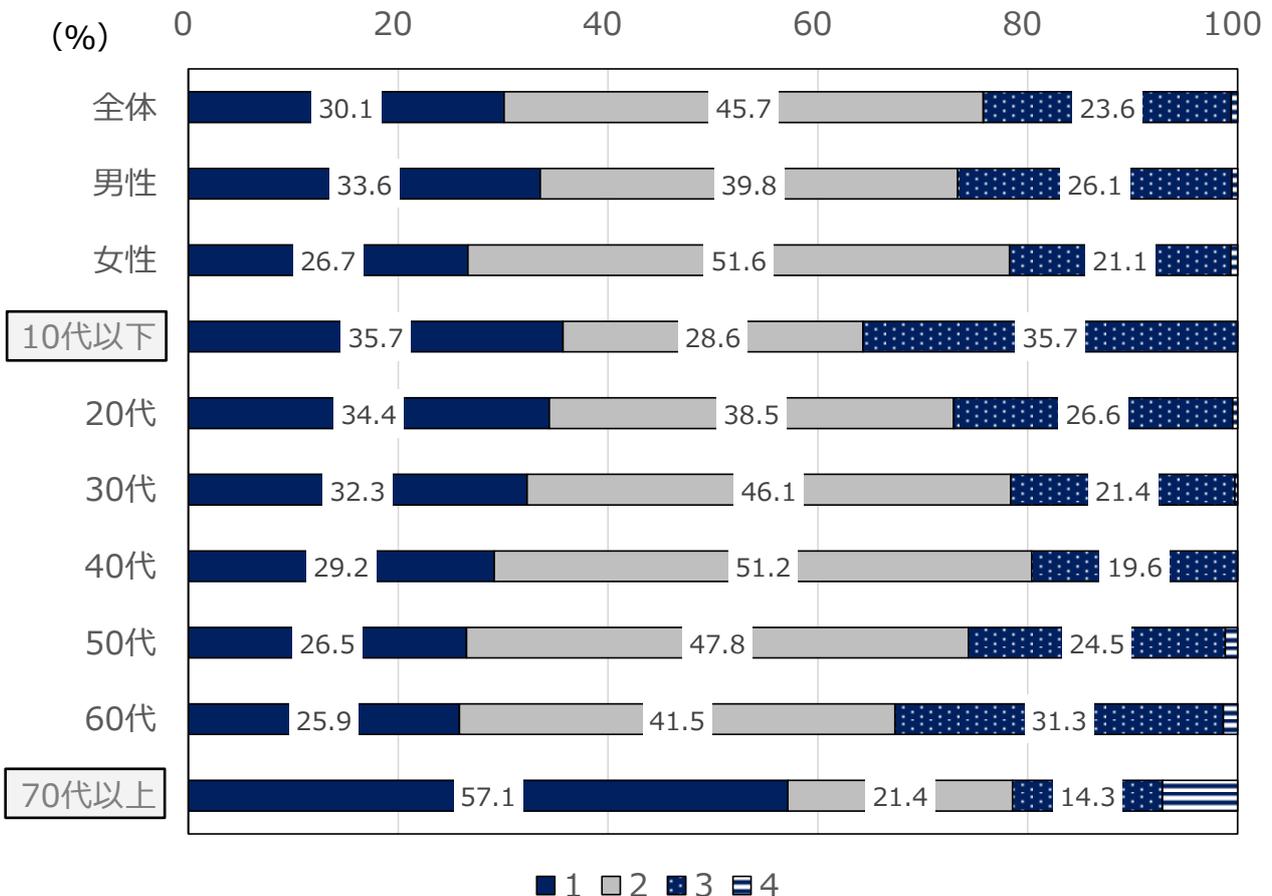
学校教育以外で学びたいことについては、全体で「学びたいことはあるが、自由に学ぶことができない。」が 45.7%で最も高く、次いで「学びたいことがあります、自由に学ぶことができる。」が 30.1%となっている。

性別では、「学びたいことはあるが、自由に学ぶことができない。」が男性で 39.8%である一方、女性で 51.6%とやや高くなっている。

年代別では、「学びたいことはあるが、自由に学ぶことができない。」が4割から5割程度で最も高く、「学びたいことがあります、自由に学ぶことができる。」の割合は年代が上がるにつれてやや小さくなる傾向にある。

#### 【選択肢】

- 1 学びたいことがあります、自由に学ぶことができる。
- 2 学びたいことはあるが、自由に学ぶことができない。
- 3 学びたいことはない。
- 4 その他



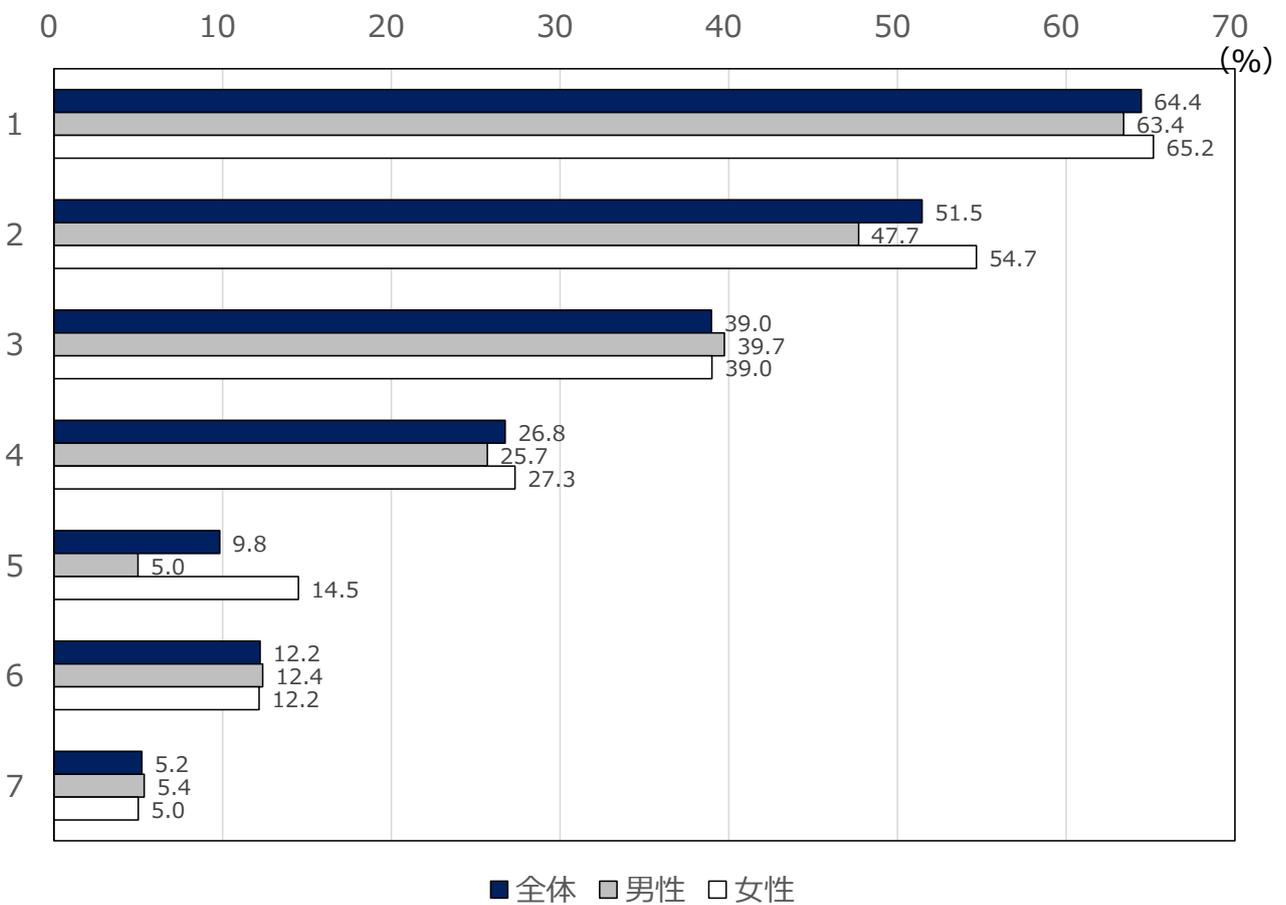
**Q2 Q1で1、2と答えた方に質問します。あなたが学びたいことはどのような内容ですか。(3つまで選択可)【n=1,170】**

学びたいことについては、全体で「趣味・娯楽」が64.4%で最も高く、次いで「教養（文学・歴史・語学等）」が51.5%、「健康・スポーツ」が39.0%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 趣味・娯楽
- 2 教養（文学・歴史・語学等）
- 3 健康・スポーツ
- 4 パソコン・インターネット関連
- 5 子育て支援
- 6 ボランティア活動・地域活動
- 7 その他



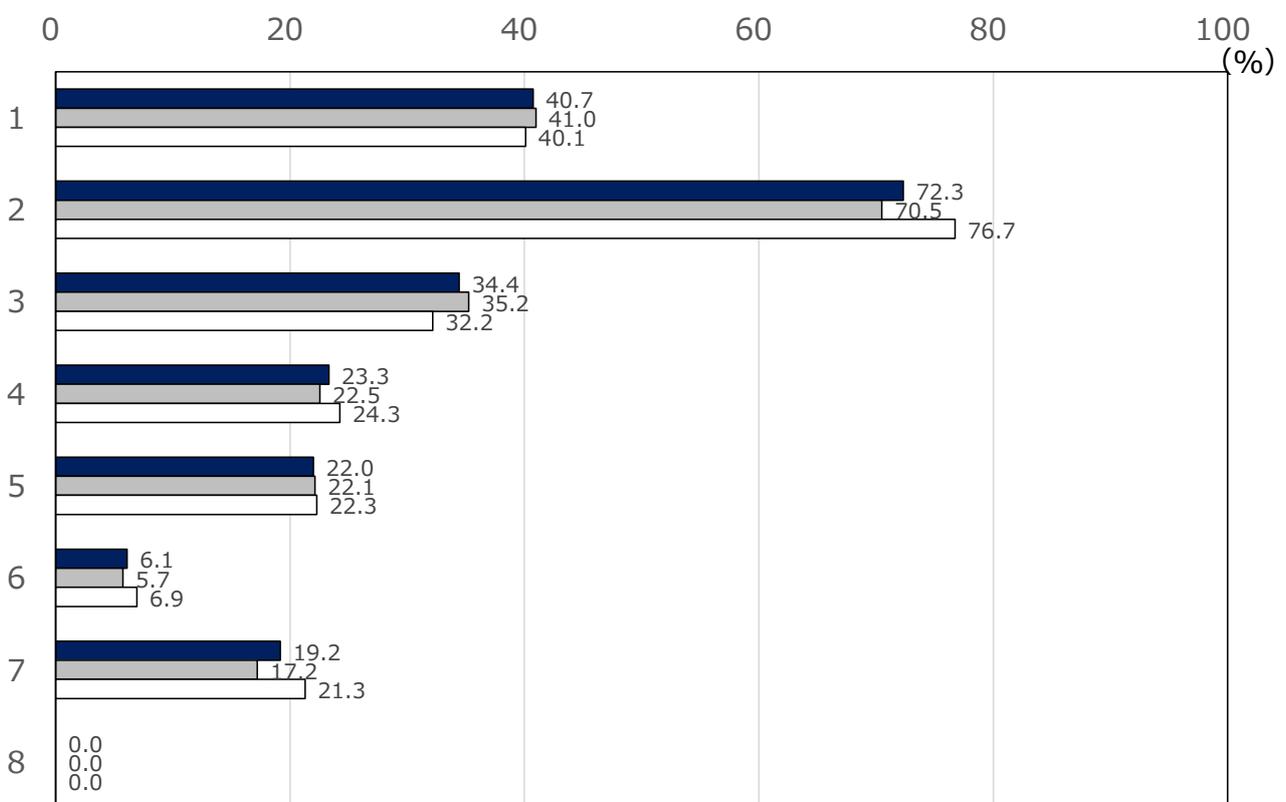
**Q3 Q1で1と答えた方に質問します。あなたにとって学習したことはどのような面で役立っていますか。(3つまで選択可)【n=459】**

学習で役立つ面については、全体で「自分の人生を豊かにしている。」が72.3%で最も高く、次いで「仕事上役立っている」が40.7%、「日常生活で役立っている。」が34.4%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 仕事上役立っている。
- 2 自分の人生を豊かにしている。
- 3 日常生活で役立っている。
- 4 健康維持・増進に役立っている。
- 5 仲間作りや交流に役立っている。
- 6 社会変化の対応に役立っている。
- 7 余暇の有効活用に役立っている。
- 8 その他



■全体 □男性 □女性

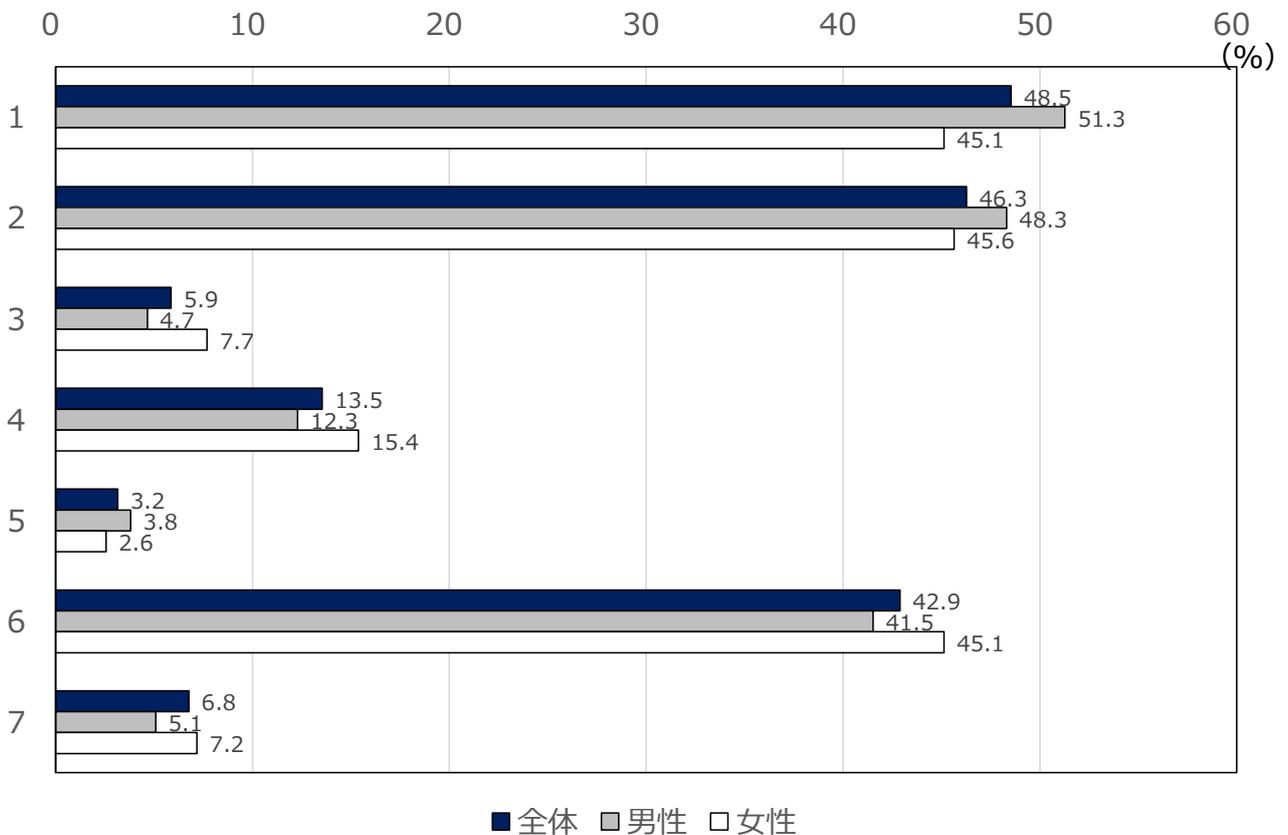
**Q4 Q1で1と答えた方に質問します。あなたは自分が得た知識や講座・イベントで学んだ知識やスキルをどのように生かしたいですか。(3つまで選択可)【n=443】**

学んだ知識やスキルの生かし方については、全体で「友人・知人・子どもたち等に教える。」が48.5%で最も高く、次いで「共有できる仲間を増やす。」が46.3%、「さらに極める。」が42.9%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 友人・知人・子どもたち等に教える。
- 2 共有できる仲間を増やす。
- 3 地域で展示や発表をする。
- 4 ボランティア活動や地域活動をする。
- 5 自主サークルを立ち上げる。
- 6 さらに極める。
- 7 その他



**Q5 Q1で2と答えた方に質問します。あなたが学ぶことができないのはどのような理由からですか。【n=694】**

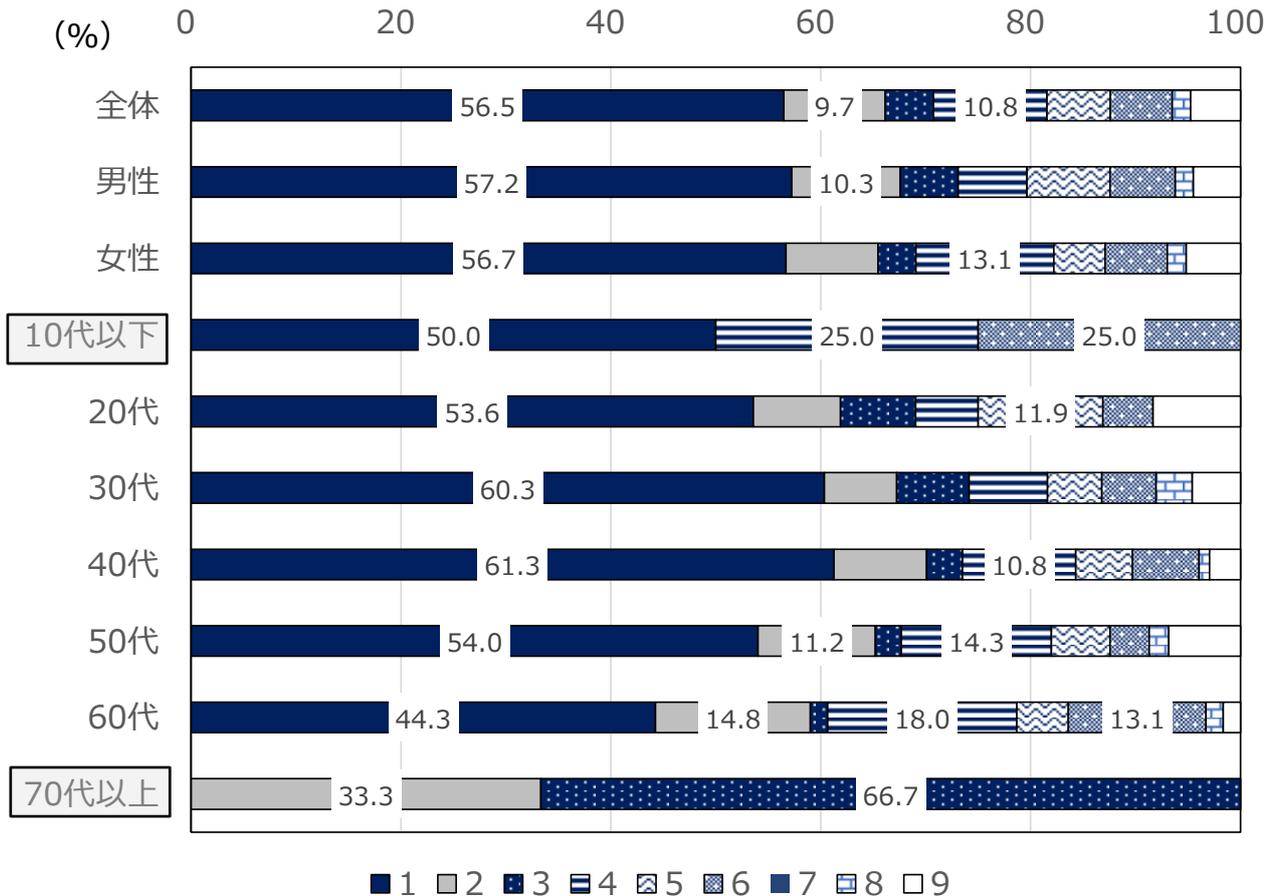
学ぶことのできない理由については、全体で「時間がない。」が56.5%で最も高く、次いで「希望する講座等の時間が合わない。」が10.8%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

年代別では、全体と同様「時間がない。」が最も高いが、60代のみ半数を下回っている。

**【選択肢】**

- 1 時間がない。
- 2 興味のある講座等がない。
- 3 興味はあるが自力で行ける場所（会場）がない。
- 4 希望する講座等の時間が合わない。
- 5 何をすればよいかわからない。
- 6 情報が不足していて探せない。
- 7 行いたくない、特に必要がない。
- 8 人と接するのが苦手、人が集まる場所には行きたくない。
- 9 その他



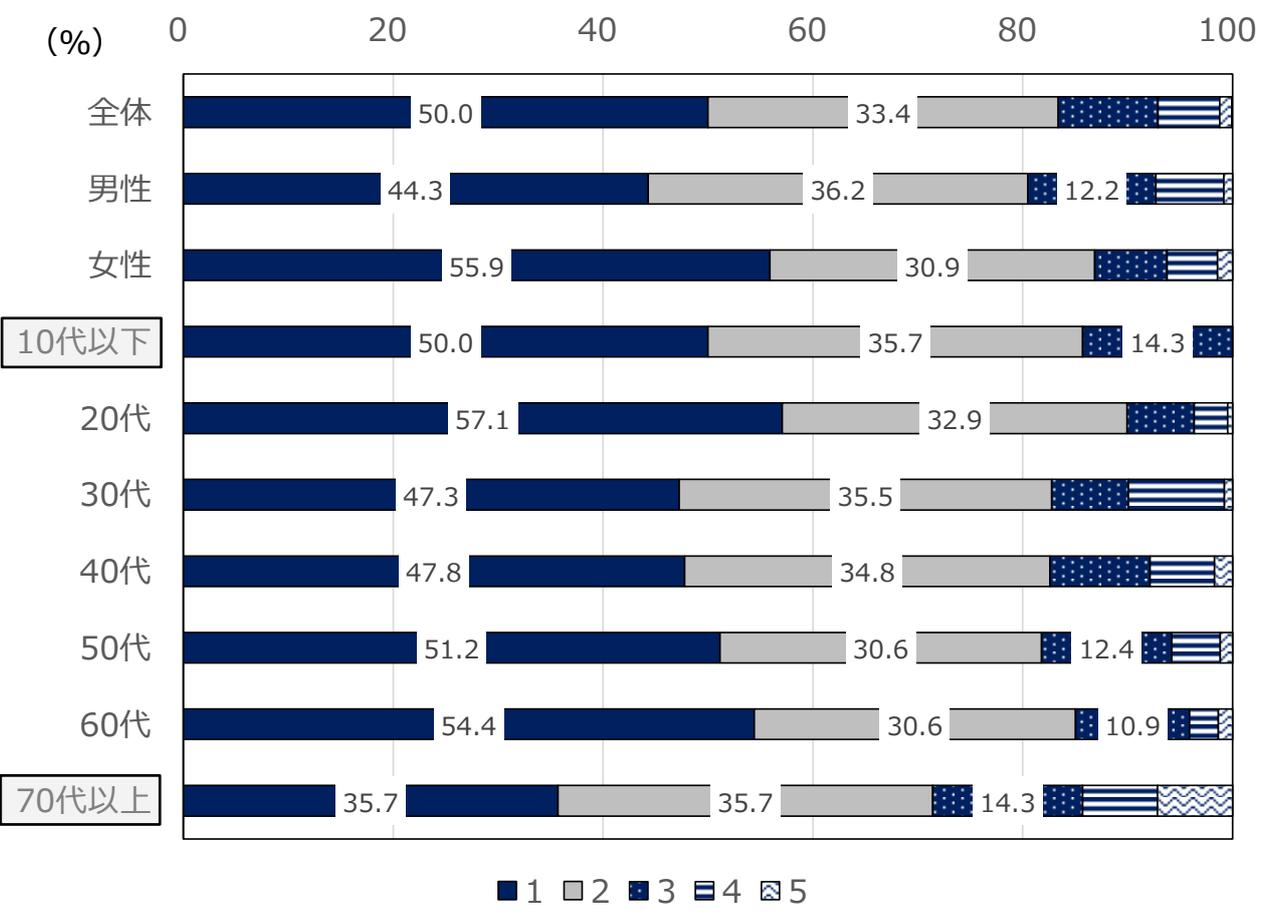
**Q6 30年後の小山市における生涯学習の取り組みはどのようになっているのが望ましいと考えますか。【n=1,548】**

生涯学習の取り組みについては、全体で「すべての市民が年齢、性別、障がいの有無、国籍等にかかわらず自分の思うとおりに学習できる環境になっていればよい。」が50.0%で最も高く、次いで「より良い生活を送るためには生涯学び続けることが必要なので、すべての市民一人ひとりが各自に相応しい学習ができるような積極的支援が行われるようにすべきである。」が33.4%となっている。

性別・年代別においても上記項目が1番目及び2番目に割合の大きい項目となっている。

**【選択肢】**

- 1 すべての市民が年齢、性別、障がいの有無、国籍等にかかわらず自分の思うとおりに学習できる環境になっていればよい。
- 2 より良い生活を送るためには生涯学び続けることが必要なので、すべての市民一人ひとりが各自に相応しい学習ができるような積極的支援が行われるようにすべきである。
- 3 生活に追われている人にまで無理して学習の機会を与える必要はないので、退職した高齢者等学べる条件を充たす人が学べる環境であればよい。
- 4 学習は本来学校教育として行われるべきものであるから、学校に行きたい人に対する支援が充実していれば十分である。
- 5 その他



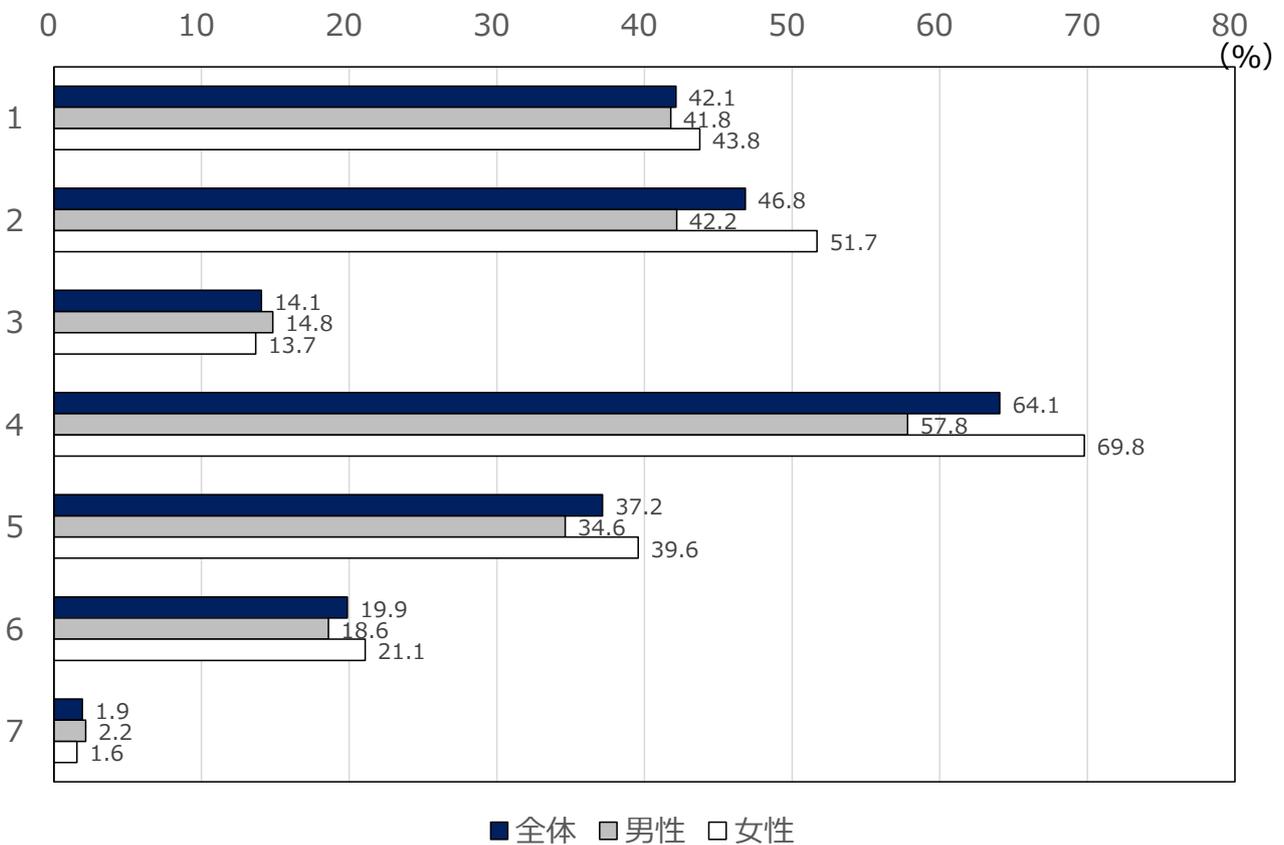
**Q7 生涯学習を通して、市民が生きがいを持ち、小山市や地域をより活性化させるための施策として必要なものは何ですか。（3つまで選択可）【n=1,550】**

小山市や地域をより活性化させるための施策については、全体で「初めてでも参加しやすい環境づくり。」が64.1%で最も高く、次いで「生涯学習ができる施設の整備。」が46.8%、「指導者や企画者の人材育成。」が42.1%となっている。

性別では、「初めてでも参加しやすい環境づくり。」及び「生涯学習ができる施設の整備。」は男性に比べて女性の割合が大きくなっている。

**【選択肢】**

- |                     |                            |
|---------------------|----------------------------|
| 1 指導者や企画者の人材育成。     | 5 どこからでも参加できるインターネット環境の整備。 |
| 2 生涯学習ができる施設の整備。    | 6 成果を生かす場や機会の増加。           |
| 3 地域ボランティアの充実。      | 7 その他                      |
| 4 初めてでも参加しやすい環境づくり。 |                            |



## ② 文化芸術

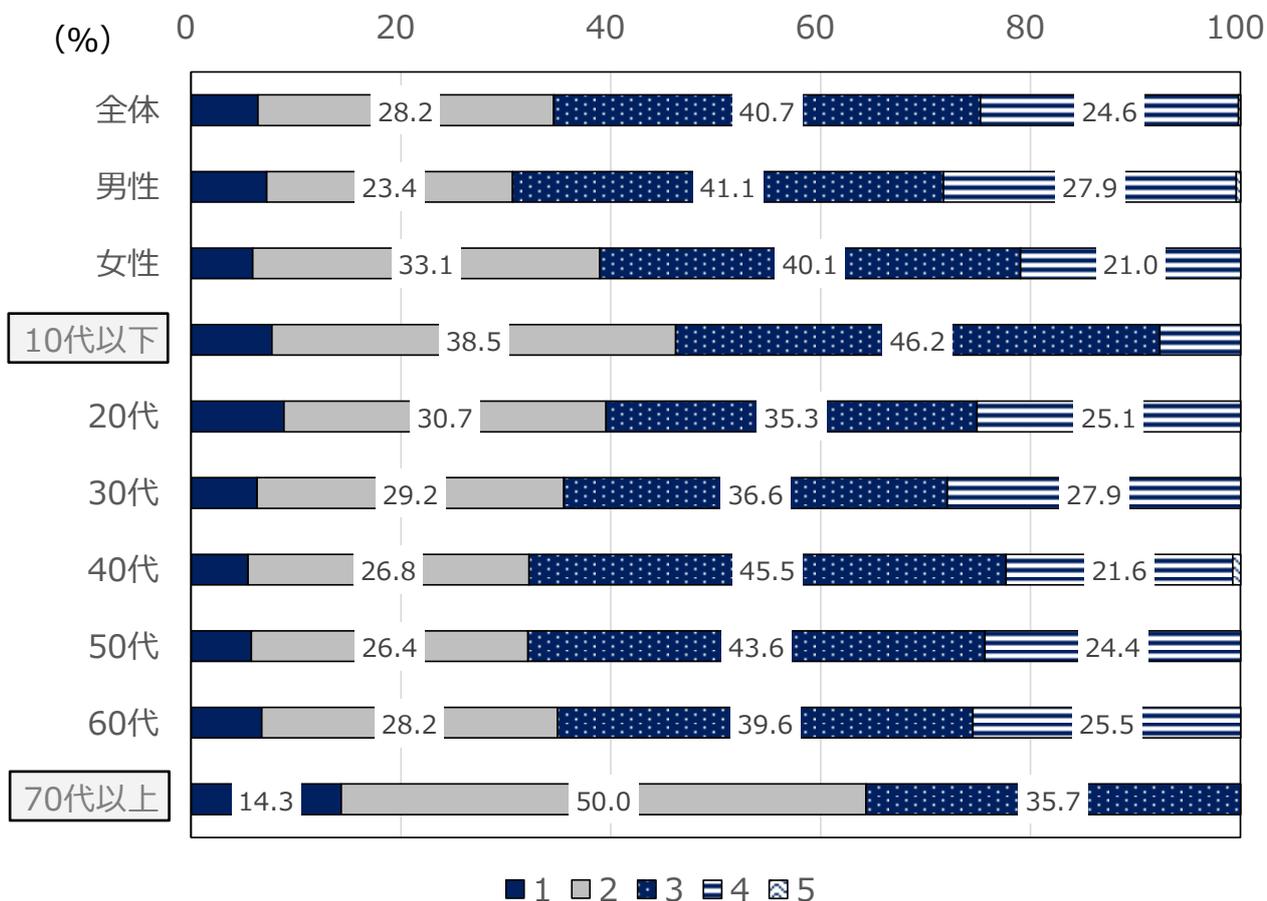
Q1 あなたは、今、文化芸術に十分親しんでいますか。 【n=1,546】

文化芸術に親しんでいるかについては、全体で「どちらかと言えば親しんでいない。」が40.7%で最も高く、次いで「どちらかと言えば親しんでいる。」が28.2%、「全く親しんでいない。」が24.6%となっている。

性別・年代別を問わず「どちらかと言えば親しんでいない。」及び「全く親しんでいない。」の合計は6割から7割となっている。

### 【選択肢】

- 1 十分に親しんでいる。
- 2 どちらかと言えば親しんでいる。
- 3 どちらかと言えば親しんでいない。
- 4 全く親しんでいない。
- 5 その他



**Q2 Q1で3、4と答えた方に質問します。あなたは今後文化芸術に親しみたいと思いますか。【n=1,004】**

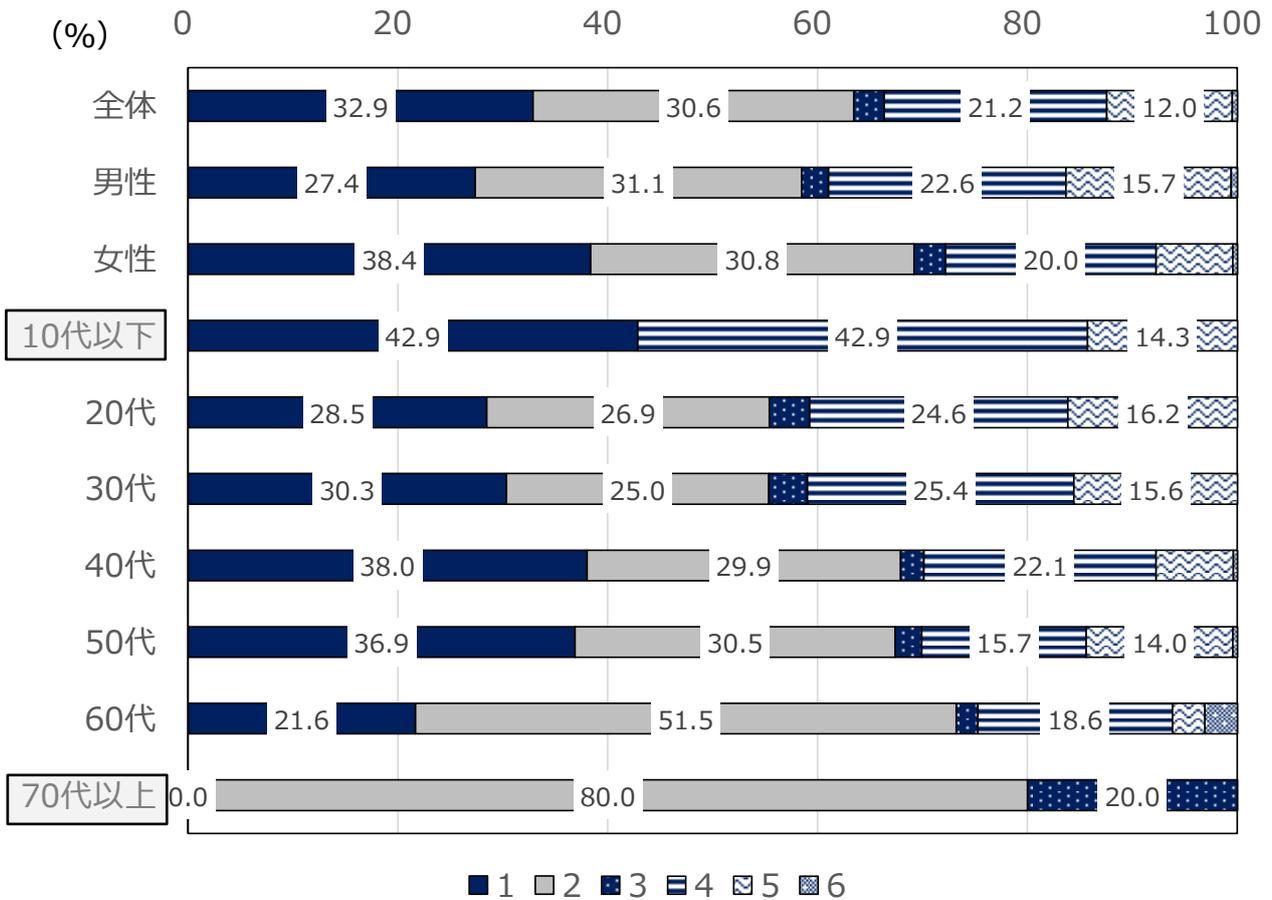
文化芸術に親しみたいかについては、全体で「文化芸術に親しむ経済的あるいは時間的余裕があれば親しみたい。」が32.9%で最も高く、次いで「文化芸術に親しめる機会があれば親しみたい。」が30.6%、「文化芸術の親しみ方が分からない。」が21.2%となっている。

性別では、「文化芸術に親しむ経済的あるいは時間的余裕があれば親しみたい。」が男性で27.4%となっている一方、女性で38.4%とやや高くなっている。

年代別では、「文化芸術に親しめる機会があれば親しみたい。」が20～50代で3割前後である一方、60代で51.5%と高くなっている。

**【選択肢】**

- 1 文化芸術に親しむ経済的あるいは時間的余裕があれば親しみたい。
- 2 文化芸術に親しめる機会があれば親しみたい。
- 3 鑑賞するだけでなく自ら文化芸術活動を行いたい。
- 4 文化芸術の親しみ方が分からない。
- 5 親しみたいと思わない。
- 6 その他



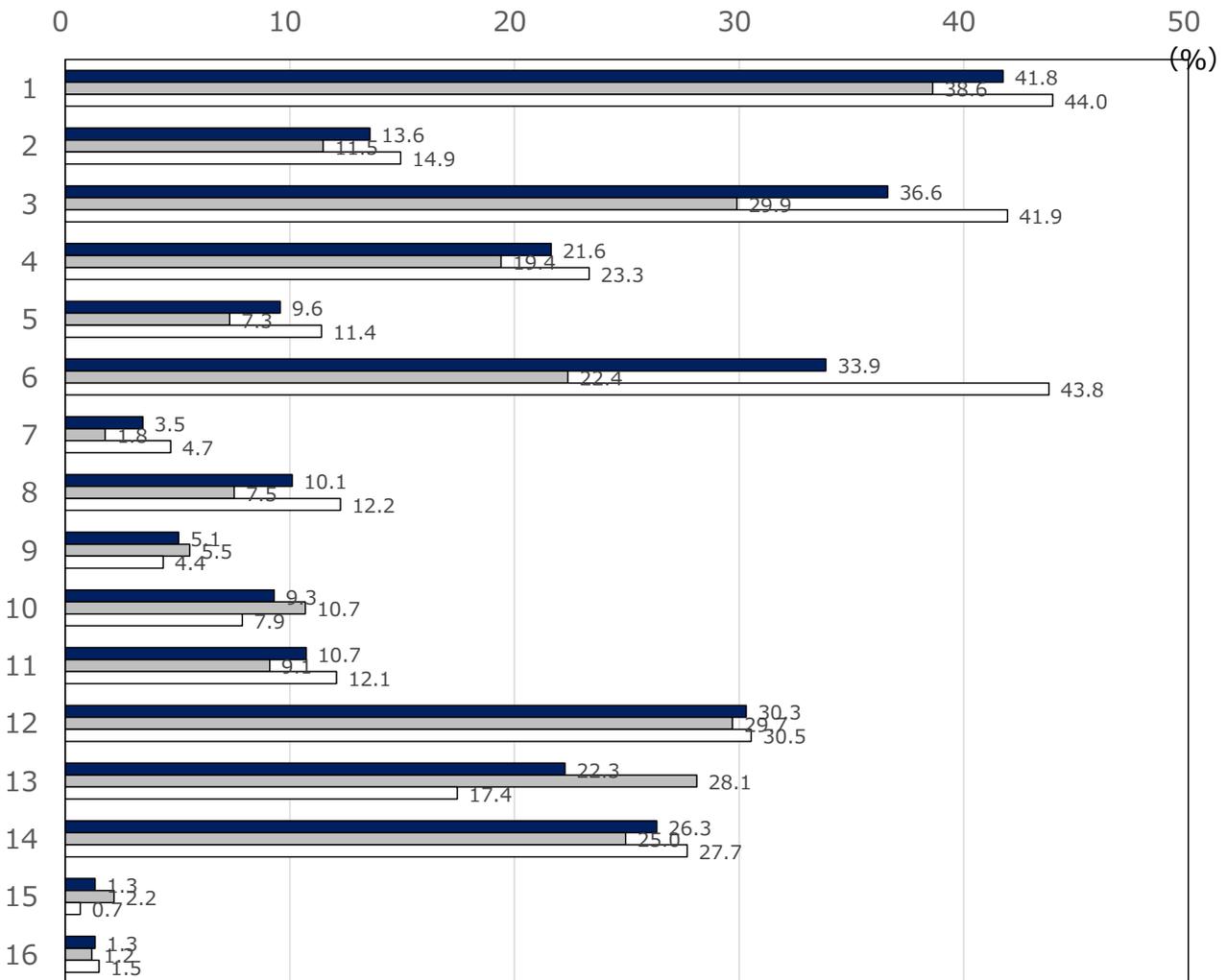
**Q3 Q1で1、2と答えた方、あるいはQ2の1、2と答えた方に質問します。あなたが親しんでいる文化芸術、あるいは親しんでいないが親しみたい文化芸術はどの分野ですか。（複数選択可）【n=1,128】**

親しんでいるまたは親しみたい文化芸術については、全体で「美術」が41.8%で最も高く、次いで「オーケストラ等音楽」が36.6%、「演劇・ミュージカル」が33.9%となっている。

男性に比べて女性の割合が大きい項目は「オーケストラ等音楽」や「演劇・ミュージカル」、女性に比べて男性の割合が大きい項目は「歴史文化」となっている。

**【選択肢】**

- |             |           |              |
|-------------|-----------|--------------|
| 1 美術        | 7 舞踊      | 13 歴史文化      |
| 2 文芸        | 8 伝統芸能    | 14 まつりや地域の行事 |
| 3 オーケストラ等音楽 | 9 演芸      | 15 特にない      |
| 4 歌         | 10 メディア芸術 | 16 その他       |
| 5 日本の伝統音楽   | 11 生活文化   |              |
| 6 演劇・ミュージカル | 12 食文化    |              |



■全体 □男性 □女性

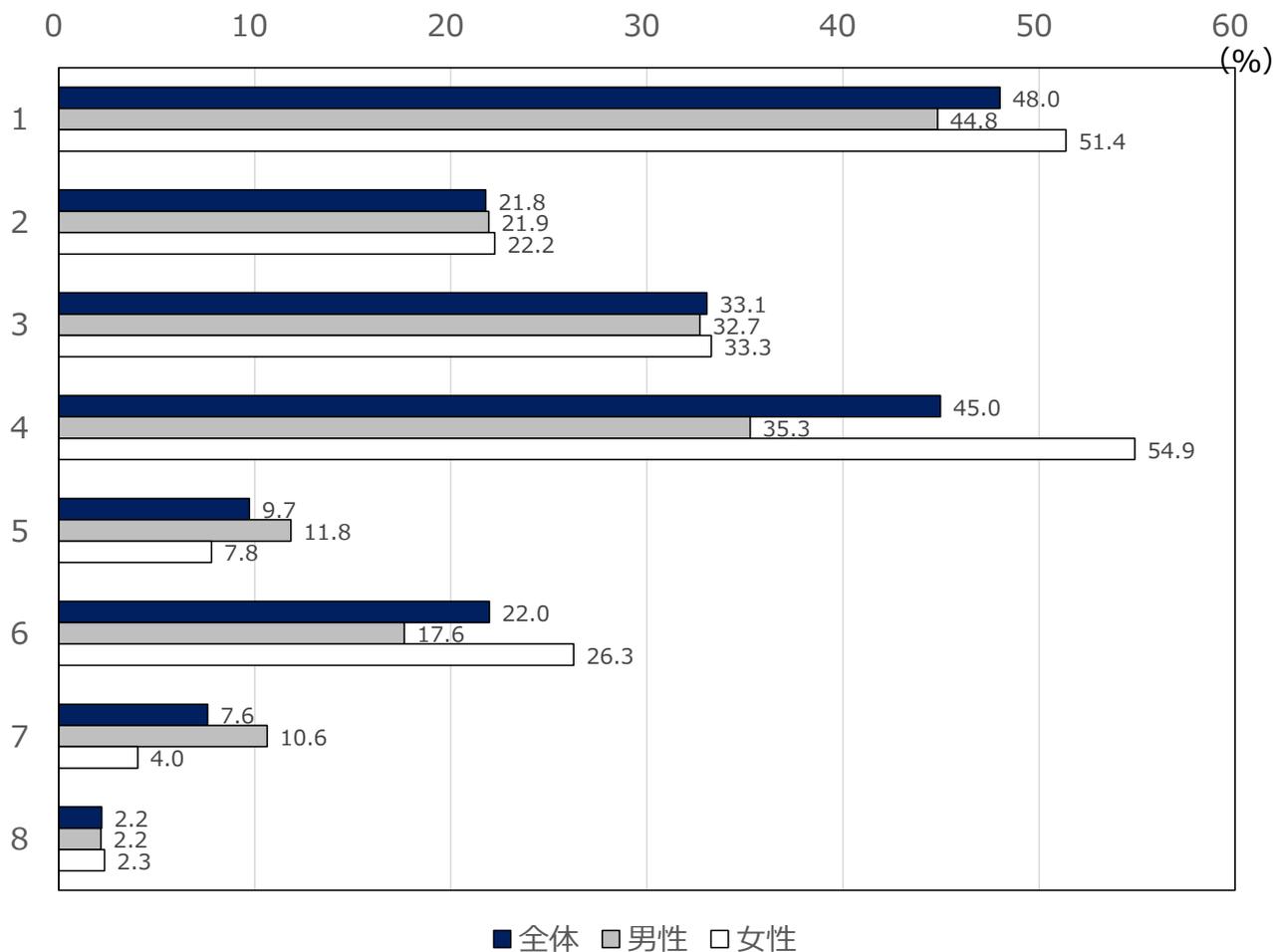
**Q4 30年後、市民が十分文化芸術に親しむことができるようにするためには、どのような取り組みが必要と考えますか（3つまで選択可）【n=1,552】**

市民が文化芸術に親しむための取り組みについては、全体で「文化芸術の中心となる文化センター、博物館、美術館等の施設整備を充実させる。」が48.0%で最も高く、次いで「手頃な料金で文化芸術の催しを鑑賞できるよう料金割引等の支援を行う。」が45.0%となっている。

上記項目は、男性に比べて女性の割合が大きくなっている。

**【選択肢】**

- 1 文化芸術の中心となる文化センター、博物館、美術館等の施設整備を充実させる。
- 2 文化芸術活動を行う個人や団体に対する経済的支援を行う。
- 3 市民が文化芸術に十分親しめる時間を確保できるように働き方改革を進める。
- 4 手頃な料金で文化芸術の催しを鑑賞できるよう料金割引等の支援を行う。
- 5 文化芸術に関する指導者の養成や研修等を積極的に行う。
- 6 文化芸術の親しみ方を学べるような市民のための講座を開いたり、講演会を行う。
- 7 特に必要ない。
- 8 その他



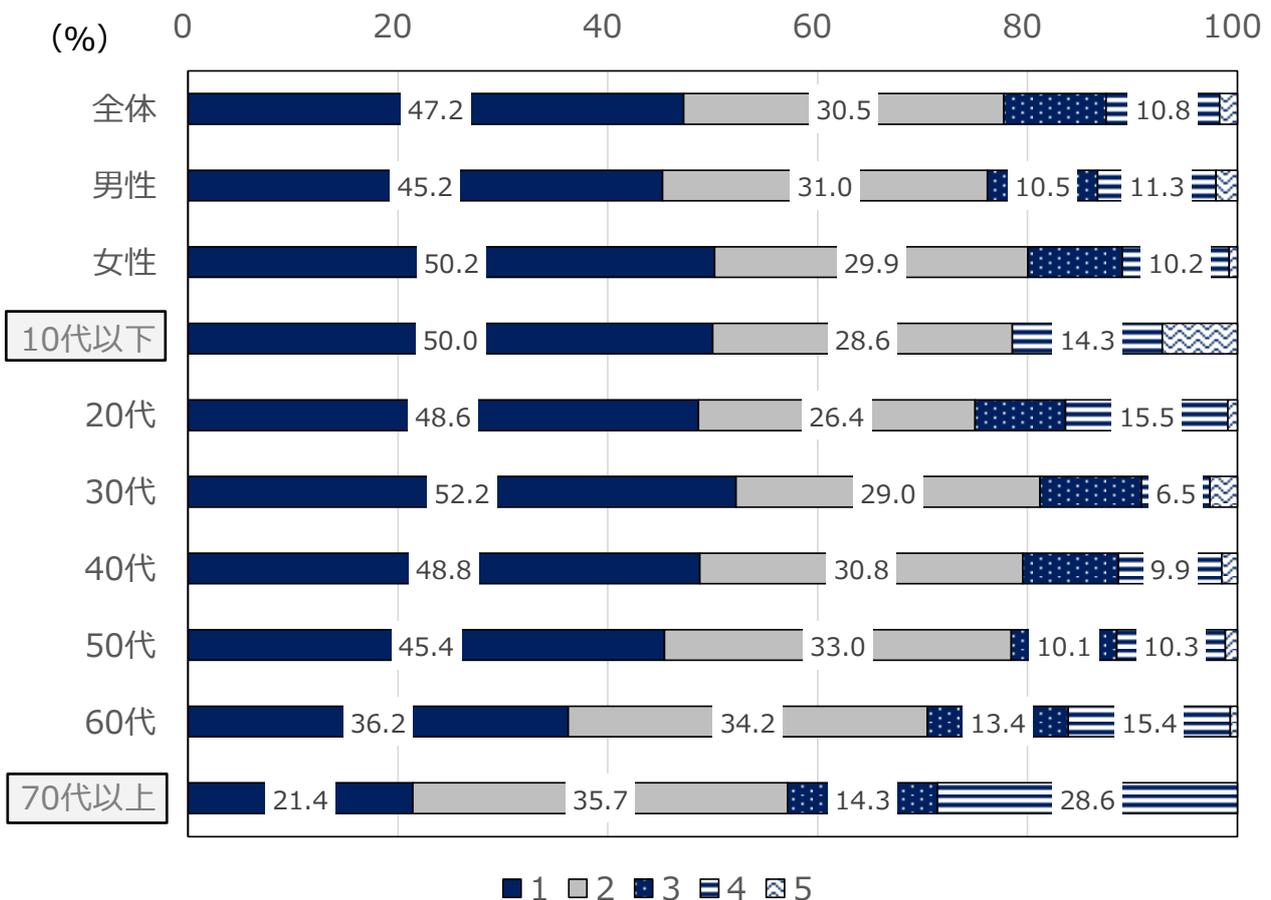
**Q5 特に子どもたちが幼少のころから文化芸術に親しめるようにするためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。【n=1,550】**

幼少のころから文化芸術に親しむための取り組みについては、全体で「学校における文化芸術体験をより充実させる。」が47.2%で最も高く、次いで「子どもを対象とした文化芸術体験ができる学校外のイベント、講座を充実させる。」が30.5%となっている。

性別・年代別を問わず、「学校における文化芸術体験をより充実させる。」の割合は最も大きくなっているが、年代が上がるにつれて割合も下がる傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 学校における文化芸術体験をより充実させる。
- 2 子どもを対象とした文化芸術体験ができる学校外のイベント、講座を充実させる。
- 3 子どもにとって文化芸術体験が重要であることを、保護者が理解する環境（講座等）を充実させる。
- 4 地域が主体となって子どもを対象とした文化芸術体験を充実させる。
- 5 その他



### ③ 地域の伝統行事

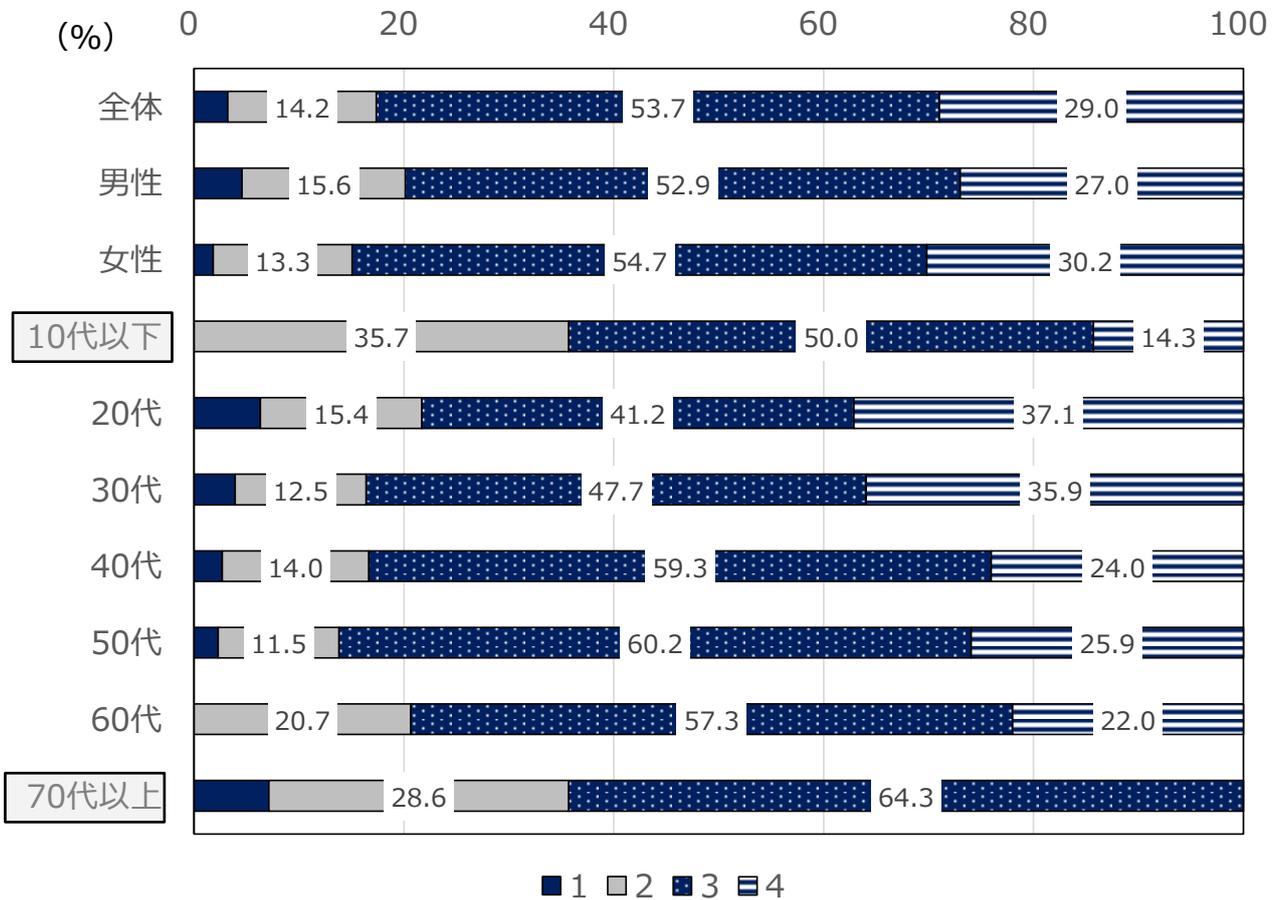
**Q 1 あなたが暮らしの中で「郷土の歴史や文化」にふれる機会はどのくらいありますか。【n=1,554】**

「郷土の歴史や文化」にふれる機会については、全体で「どちらかといえば少ない。」が 53.7%で最も高く、次いで「全くない。」が 29.0%、「どちらかといえば多い。」が 14.2%となっている。

性別・年代別を問わず「どちらかといえば少ない。」と「全くない。」の合計は、8割から9割程度となっている。

**【選択肢】**

- 1 多い。
- 2 どちらかといえば多い。
- 3 どちらかといえば少ない。
- 4 全くない。



**Q2 Q1で3、4と答えた方に質問します。あなたは今後「郷土の歴史や文化」にふれる機会を増やしたいと思いますか。【n=1,277】**

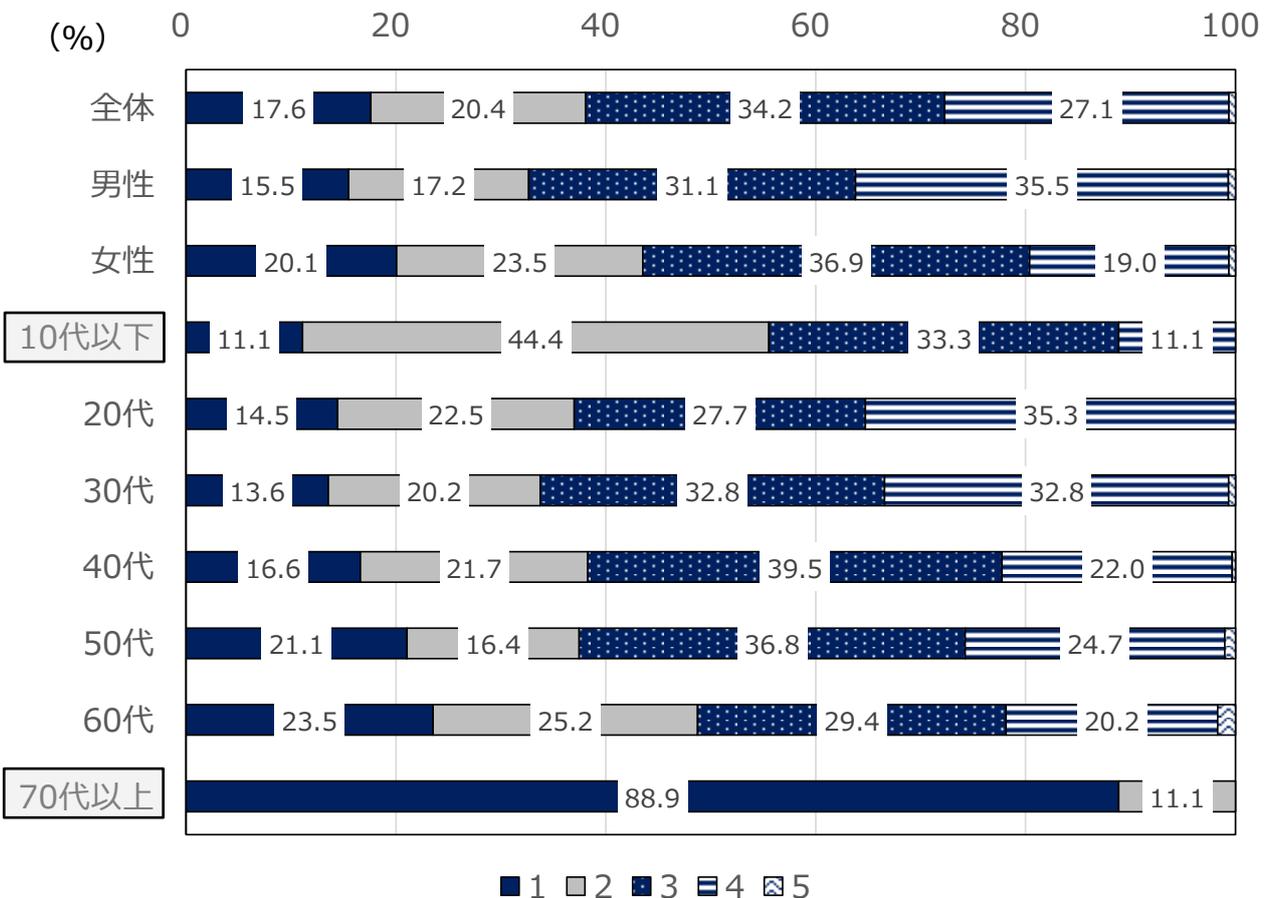
「郷土の歴史や文化」にふれる機会については、全体で「増やしたいが増やすための余裕がない。」が34.2%で最も高く、次いで「増やしたいと思わない。」が27.1%、「増やしたいが増やす方法が分からない。」が20.4%となっている。

性別では、「増やしたいと思わない。」が男性で35.5%である一方、女性で19.0%と低くなっている。

年代別では、「増やしたいと思わない。」は年代が下がるにつれて割合も上がる傾向にあり、「できれば増やしたい。」は下がる傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 できれば増やしたい。
- 2 増やしたいが増やす方法が分からない。
- 3 増やしたいが増やすための余裕がない。
- 4 増やしたいと思わない。
- 5 その他



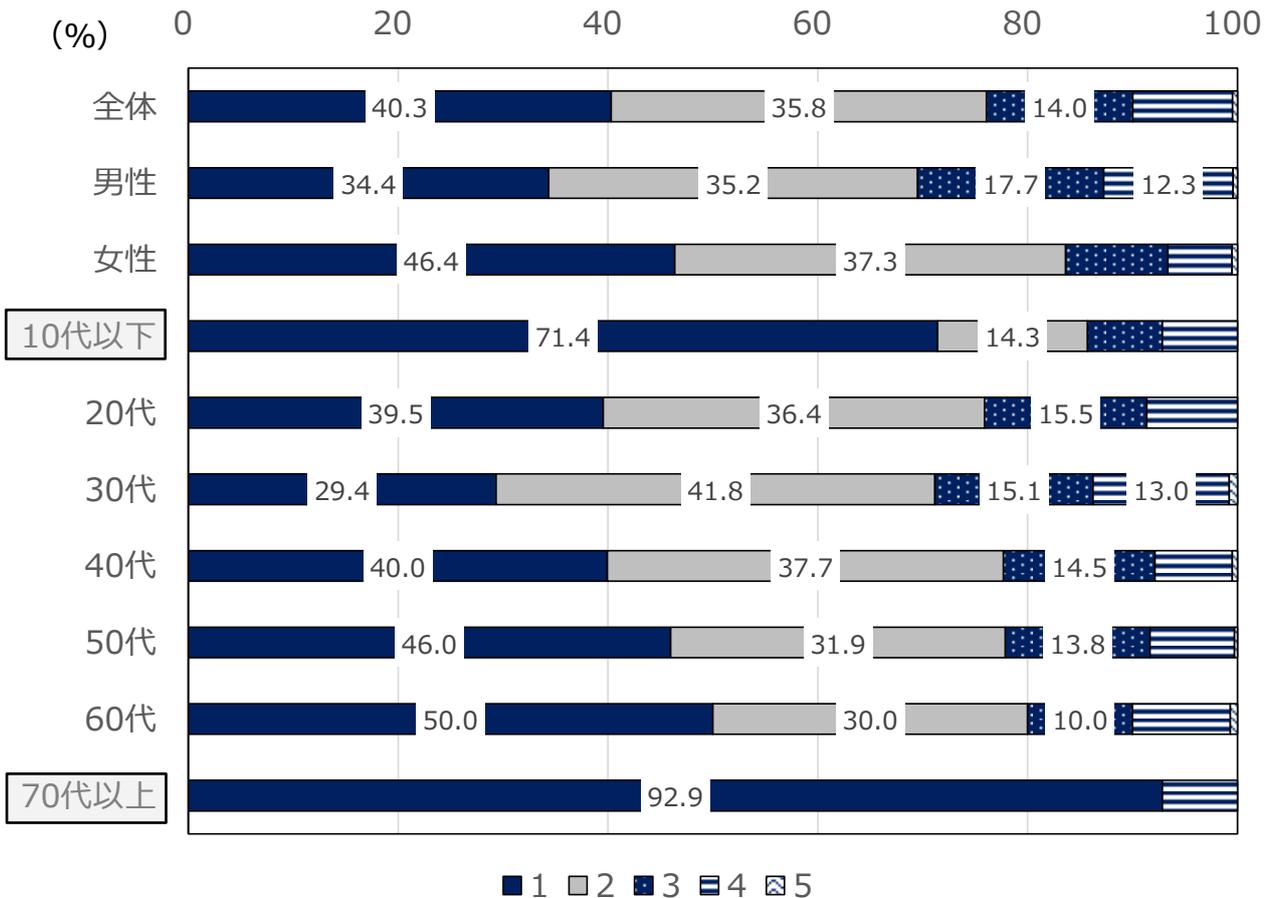
**Q3 30年後に小山市では郷土の歴史や文化はどのように継承されているべきだと思いますか。【n=1,555】**

郷土の歴史や文化の継承については、全体で「地域の内外を問わず歴史や文化を守るための担い手が育成され、各地域固有の歴史や文化が確実に継承されている。」が40.3%で最も高く、次いで「担い手がなくなった地域では、地域固有の歴史や文化が記録として残されている。」が35.8%となっている。

性別・年代別では、バラつきはあるものの上記項目がそれぞれ3割から5割程度の回答となっている

**【選択肢】**

- 1 地域の内外を問わず歴史や文化を守るための担い手が育成され、各地域固有の歴史や文化が確実に継承されている。
- 2 担い手がなくなった地域では、地域固有の歴史や文化が記録として残されている。
- 3 歴史や文化をすべて守ろうとすることは負担も大きいので、守り切れない郷土の歴史や文化がある程度失われても仕方がない。
- 4 市民にとって必要な歴史や文化であれば特に何もしなくても残るはずだから、積極的に残すための方策は必要ない。
- 5 その他



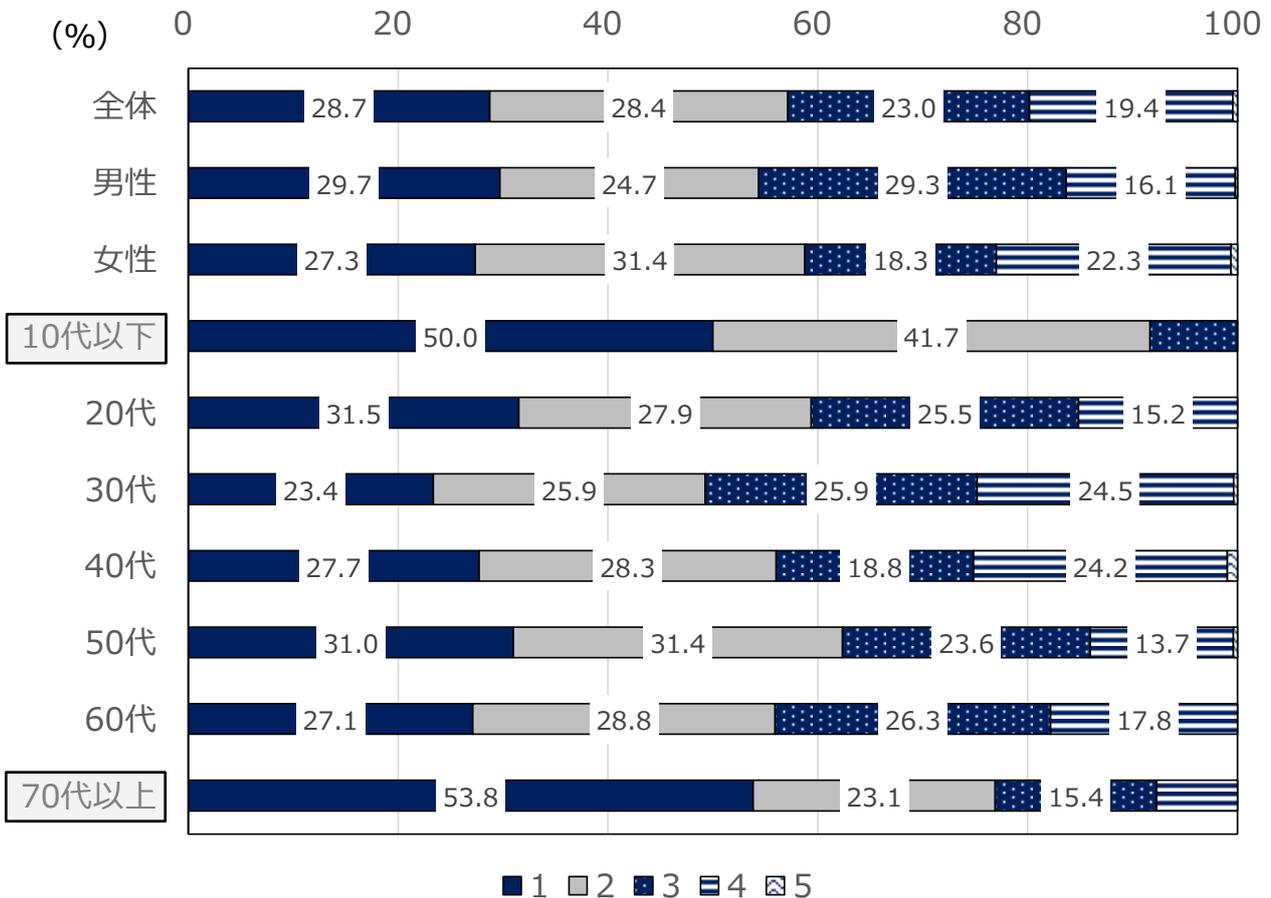
**Q4 Q3で1、2と答えた方に質問します。目指す姿を実現するために今後どのような取り組みが必要だと思いますか。【n=1,176】**

郷土の歴史や文化の継承で目指す姿を実現する取り組みについては、全体で「地域の伝統行事等について、広く市内外から人を呼び込み、後継者(担い手)の育成を行う。」が28.7%で最も高く、次いで「地域の伝統行事等について、気軽に鑑賞できる機会を増やす。(ツアーの実施など)」が28.4%、「地域の伝統行事等についての記録・保存を行う。」が23.0%となっている。

性別・年代別では、バラつきはあるものの上記項目がそれぞれ2割から3割程度の回答となっている。

**【選択肢】**

- 1 地域の伝統行事等について、広く市内外から人を呼び込み、後継者(担い手)の育成を行う。
- 2 地域の伝統行事等について、気軽に鑑賞できる機会を増やす。(ツアーの実施など)
- 3 地域の伝統行事等についての記録・保存を行う。
- 4 地域の伝統行事等について、学校教育で取り上げる。
- 5 その他



#### ④ 文化財・史跡

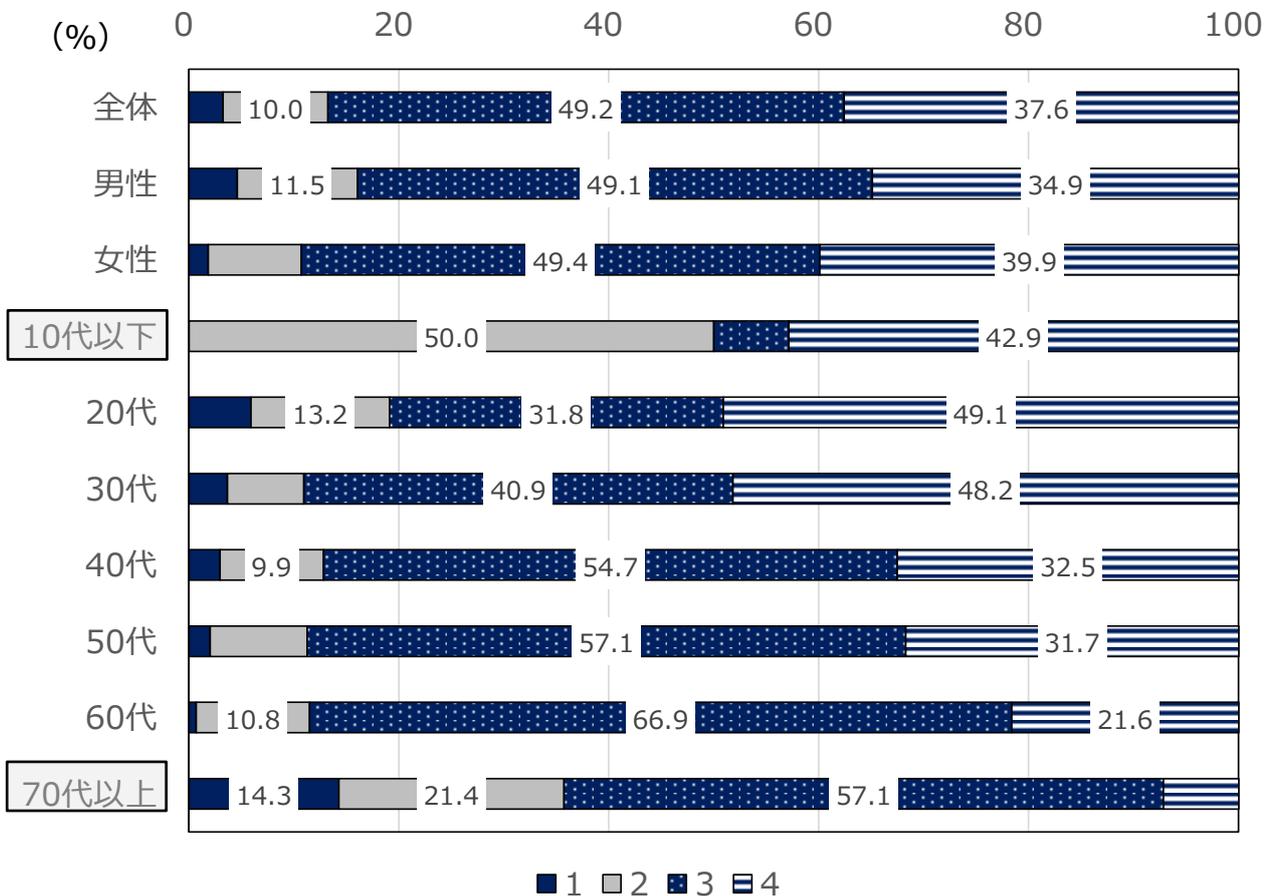
**Q 1 あなたは、日常生活を送る中で文化財にふれる機会はどのくらいありますか。【n=1,549】**

文化財にふれる機会については、全体で「どちらかといえば少ない。」が 49.2%で最も高く、次いで「全くない。」が 37.6%、「どちらかといえば多い。」が 10.0%となっている。

性別・年代別を問わず「どちらかといえば少ない。」と「全くない。」の合計は、8割から9割程度となっている。

**【選択肢】**

- 1 多い。
- 2 どちらかといえば多い。
- 3 どちらかといえば少ない。
- 4 全くない。



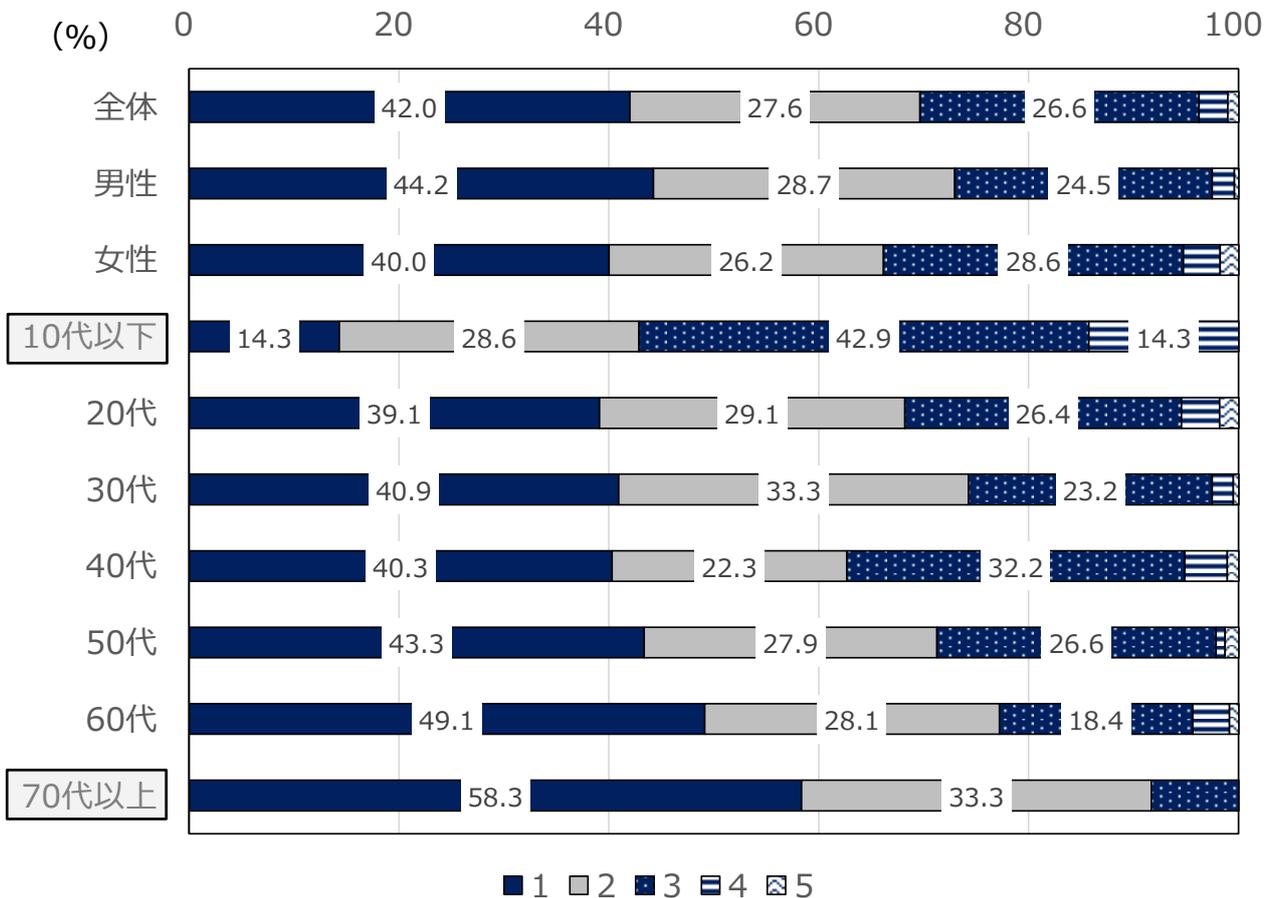
**Q2 Q1で1、2、3と答えた方に質問します。あなたが日常生活を送る上でふれたことがある文化財はどのようなものですか。【n=955】**

ふれたことがある文化財については、全体で「史跡（城跡や古墳などの歴史的な場所）や天然記念物（名木など）」が42.0%で最も高く、次いで「歴史的な建造物（寺社建築や古民家など）」が27.6%、「祭礼などの伝統的な行事」が26.6%となっている。

性別・年代別を問わず「史跡（城跡や古墳などの歴史的な場所）や天然記念物（名木など）」の割合が最も大きくなっており、年代が上がるにつれて割合も大きくなる傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 史跡（城跡や古墳などの歴史的な場所）や天然記念物（名木など）
- 2 歴史的な建造物（寺社建築や古民家など）
- 3 祭礼などの伝統的な行事
- 4 古文書・古美術品・考古資料など
- 5 その他



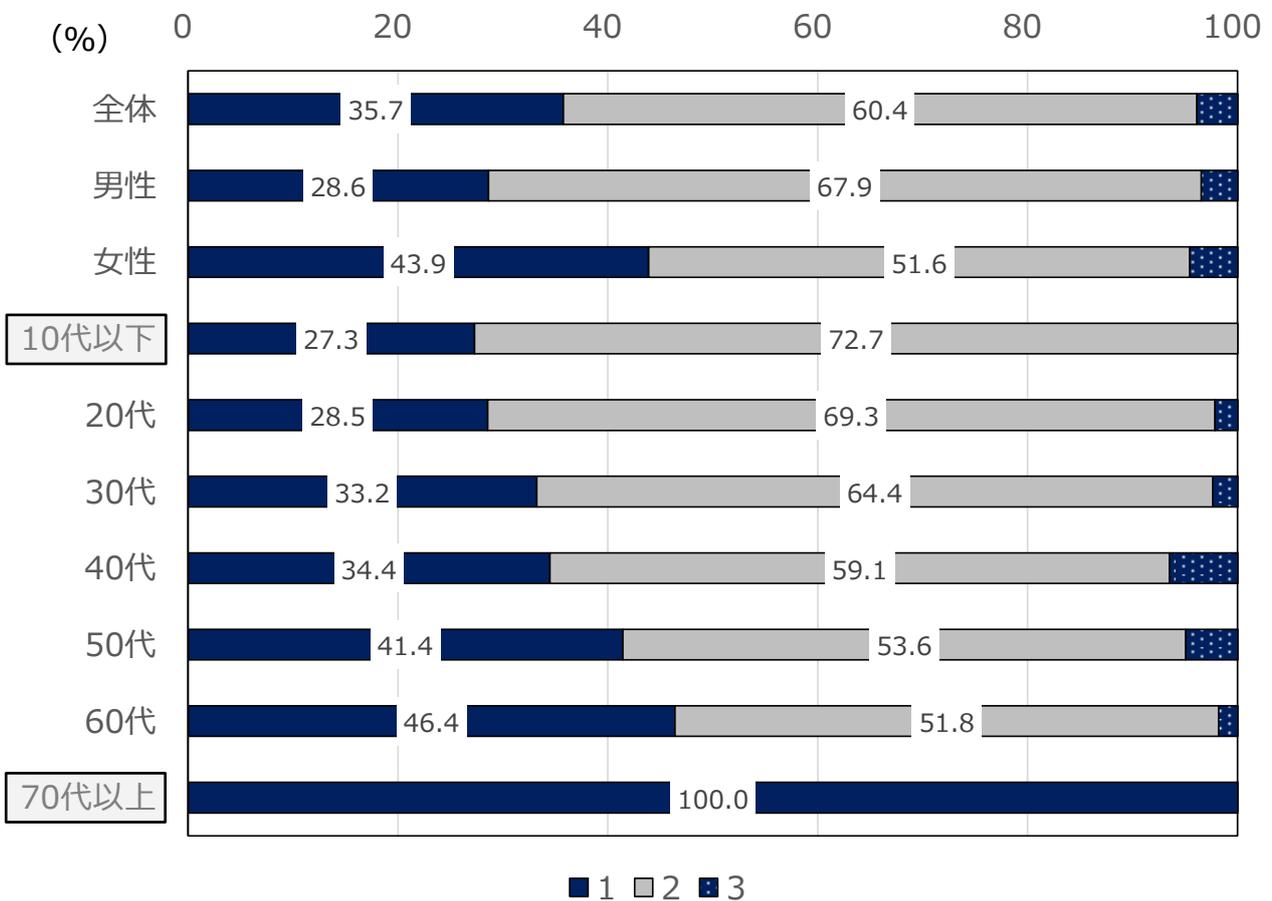
**Q3 Q1で3、4と答えた方に質問します。あなたは今後、日常生活を送る上で文化財にふれる機会を増やしたいと思いますか。【n=1,298】**

文化財にふれる機会を増やしたいかについては、全体で「増やしたいと思わない。」が60.4%で最も高く、次いで「増やしたいと思う。」が35.7%となっている。

性別・年代別を問わず「増やしたいと思わない。」が「増やしたいと思う。」の割合を上回っており、性別では男性に比べて女性、年代別では年代が上がるにつれて「増やしたいと思う。」の割合が大きくなっている。

**【選択肢】**

- 1 増やしたいと思う。
- 2 増やしたいと思わない。
- 3 その他



**Q4 Q1で1、2、Q3で1と答えた方に質問します。あなたは今後、日常生活を送る上でどのような文化財にふれたいと思いますか。【n=879】**

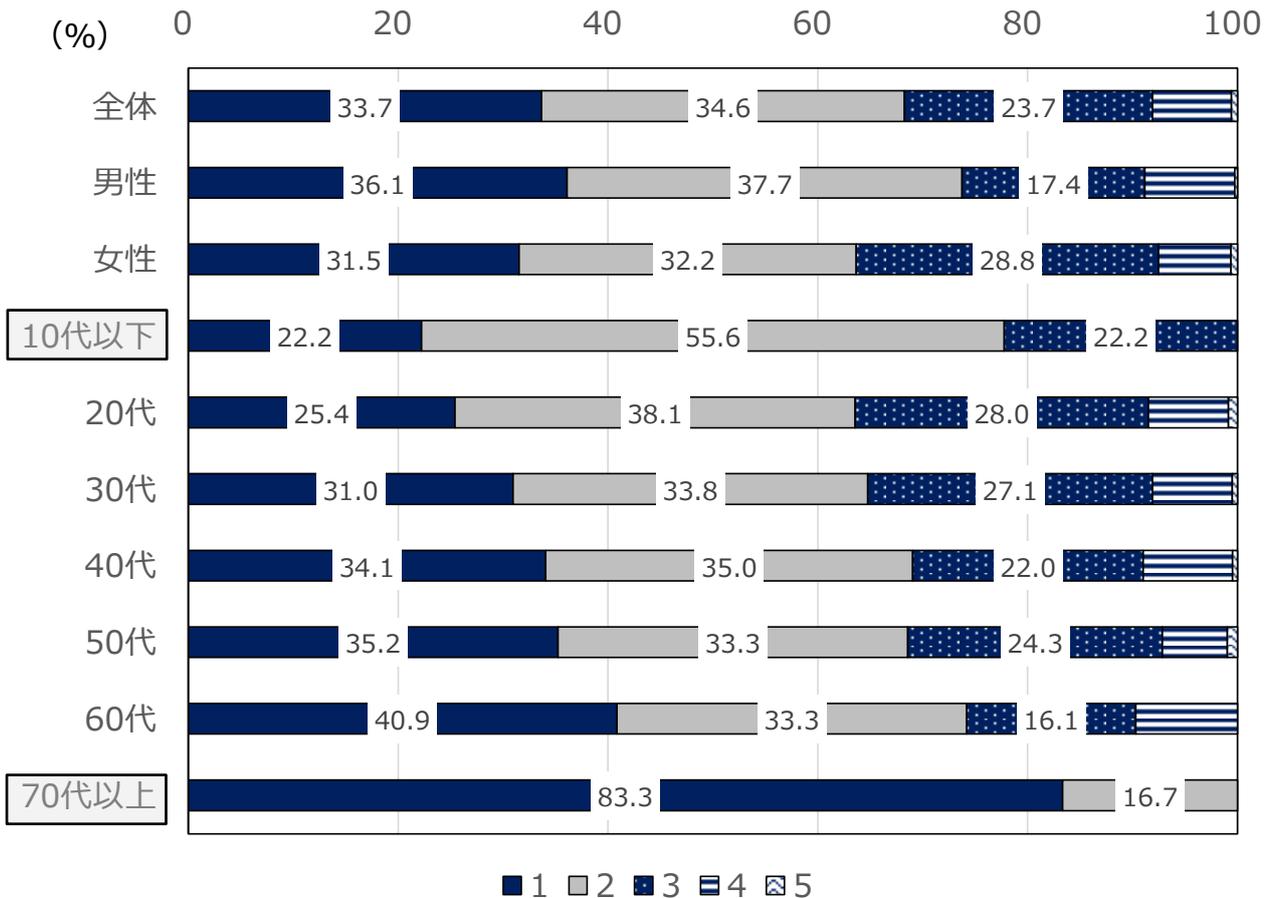
どのような文化財に触れたいかについては、全体で「歴史的な建造物（寺社建築や古民家など）」が34.6%で最も高く、次いで「史跡（城跡や古墳などの歴史的な場所）や天然記念物（名木など）」が33.7%、「祭礼などの伝統的な行事」が33.7%となっている。

性別では、「祭礼などの伝統的な行事」が男性で17.4%である一方、女性で28.8%と高くなっている。

年代別では、「史跡（城跡や古墳などの歴史的な場所）や天然記念物（名木など）」が3割台となっており、「史跡（城跡や古墳などの歴史的な場所）や天然記念物（名木など）」は年代が上がるにつれて割合が大きくなっている。

**【選択肢】**

- 1 史跡（城跡や古墳などの歴史的な場所）や天然記念物（名木など）
- 2 歴史的な建造物（寺社建築や古民家など）
- 3 祭礼などの伝統的な行事
- 4 古文書・古美術品・考古資料など
- 5 その他



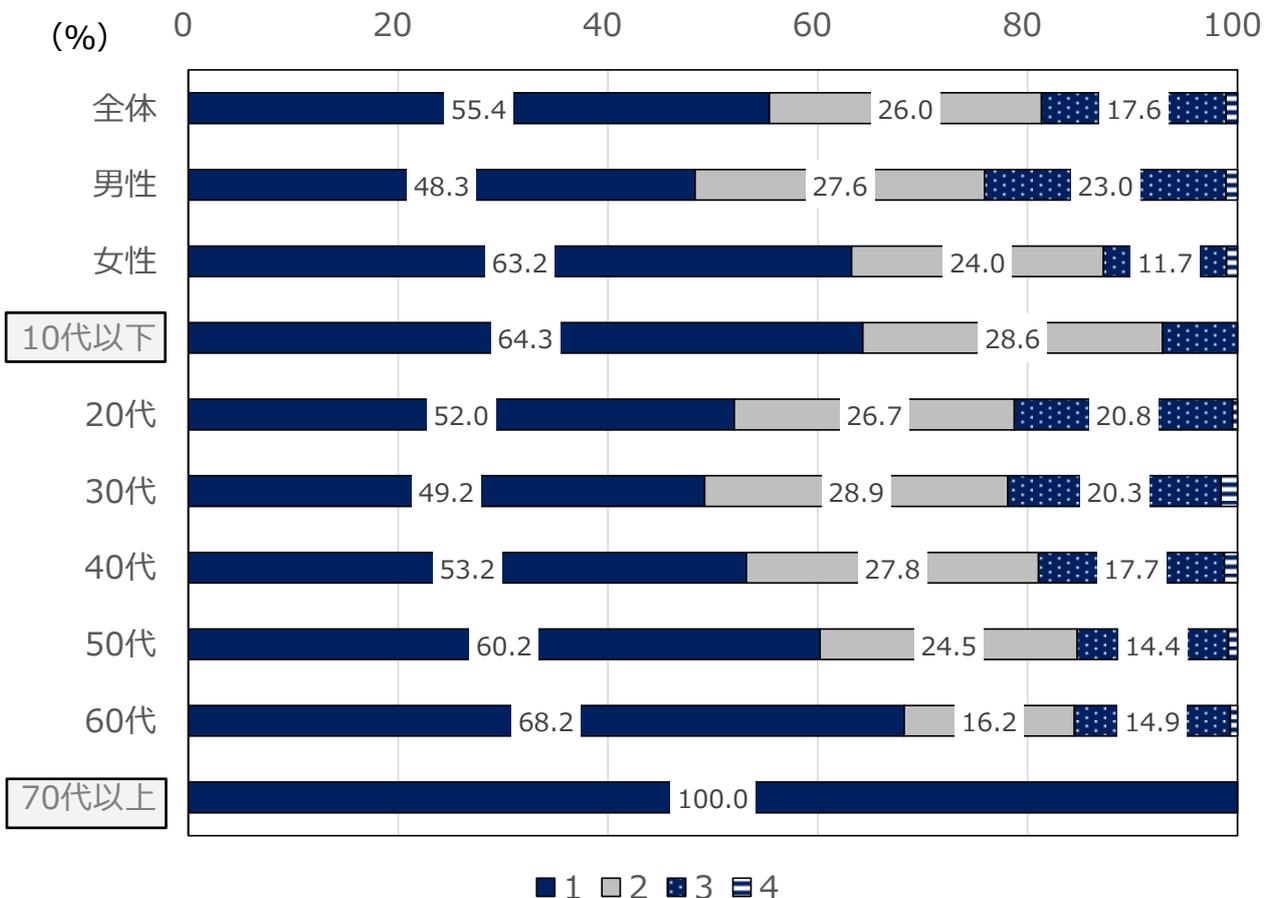
**Q5 30年後の小山市における文化財行政のあり方についてどのように考えますか。【n=1549】**

文化財行政のあり方については、全体で「市民が日常生活を送る上でも文化財に親しみ、文化財が身近に感じられるよう文化財の保存に努めるとともに、活用の機会を増やしていくべき。」が55.4%で最も高く、次いで「益々科学技術が進歩する中で、過去の遺物である文化財が日常生活を送る上で疎遠になるのはやむを得ないので、保存、活用は文化財として重要なものに限定していかざるを得ない。」が26.0%となっている。

性別・年代別を問わず「市民が日常生活を送る上でも文化財に親しみ、文化財が身近に感じられるよう文化財の保存に努めるとともに、活用の機会を増やしていくべき。」が最も割合の大きい項目となっているが、性別では男性に比べて女性、年代別では年代が上がるにつれて割合が大きくなっている。

**【選択肢】**

- 1 市民が日常生活を送る上でも文化財に親しみ、文化財が身近に感じられるよう文化財の保存に努めるとともに、活用の機会を増やしていくべき。
- 2 益々科学技術が進歩する中で、過去の遺物である文化財が日常生活を送る上で疎遠になるのはやむを得ないので、保存、活用は文化財として重要なものに限定していかざるを得ない。
- 3 市民に必要なとされる文化財が残るべきであるから、保存活用も必要性によって優劣をつけるのはやむを得ない。
- 4 その他



## ⑤ 結城紬の伝統技術の継承

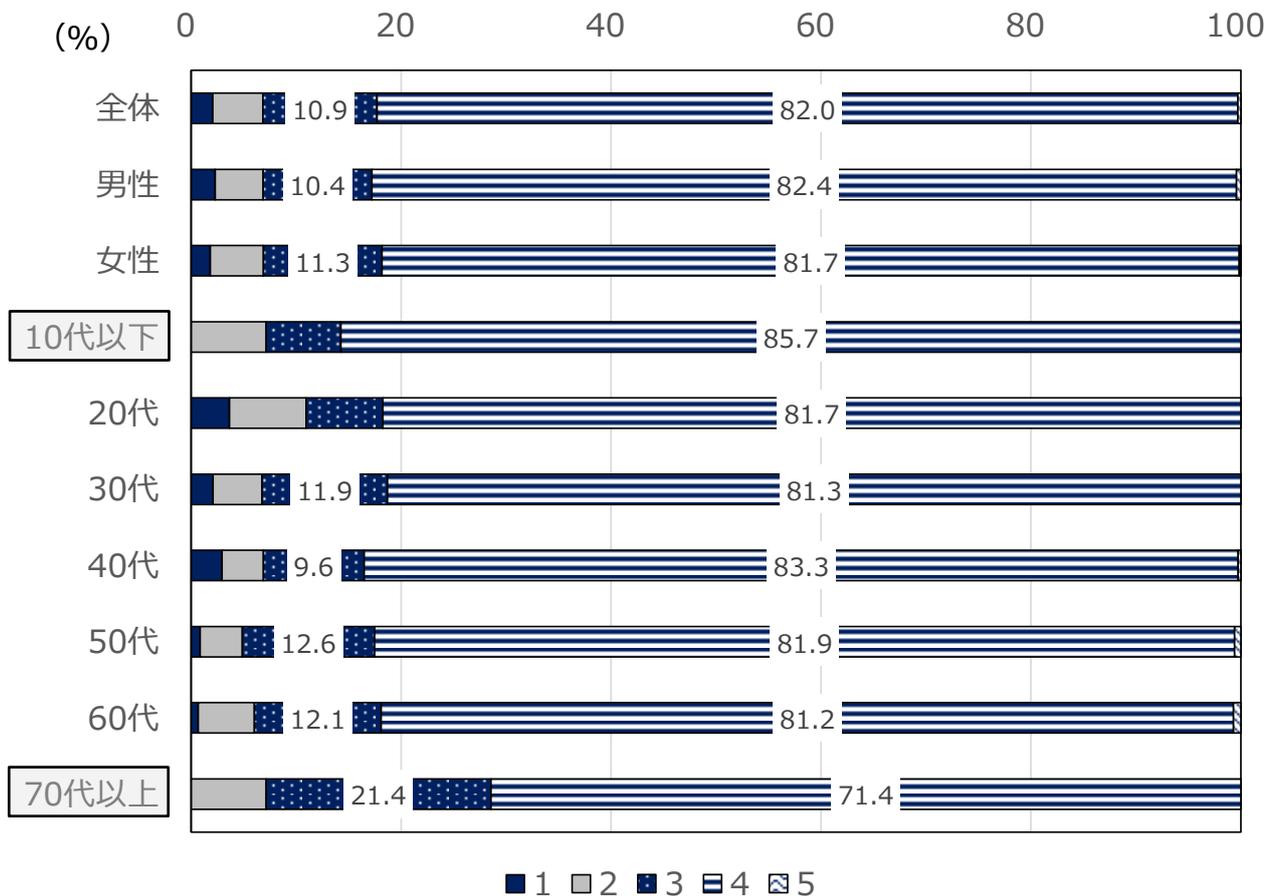
Q1 あなたは日常生活の中で「結城紬」の着物を着たり、小物を使ったりするなど「結城紬」に関わる機会が多いですか。【n=1,552】

「結城紬」に関わる機会については、全体で「関わる機会ほとんどない。」が82.0%で最も高く、次いで「どちらかといえば関わる機会少ない。」が10.9%となっている。

性別・年代別を問わず「関わる機会ほとんどない。」は8割を超えており、「関わる機会ほとんどない。」との合計は9割程度となっている。

### 【選択肢】

- 1 関わる機会が多い。
- 2 どちらかといえば関わる機会が多い。
- 3 どちらかといえば関わる機会少ない。
- 4 関わる機会ほとんどない。
- 5 その他



**Q2 Q1で3、4に答えた方に質問します。あなたは今後結城紬に関わりたいと思いますか。【n=1,433】**

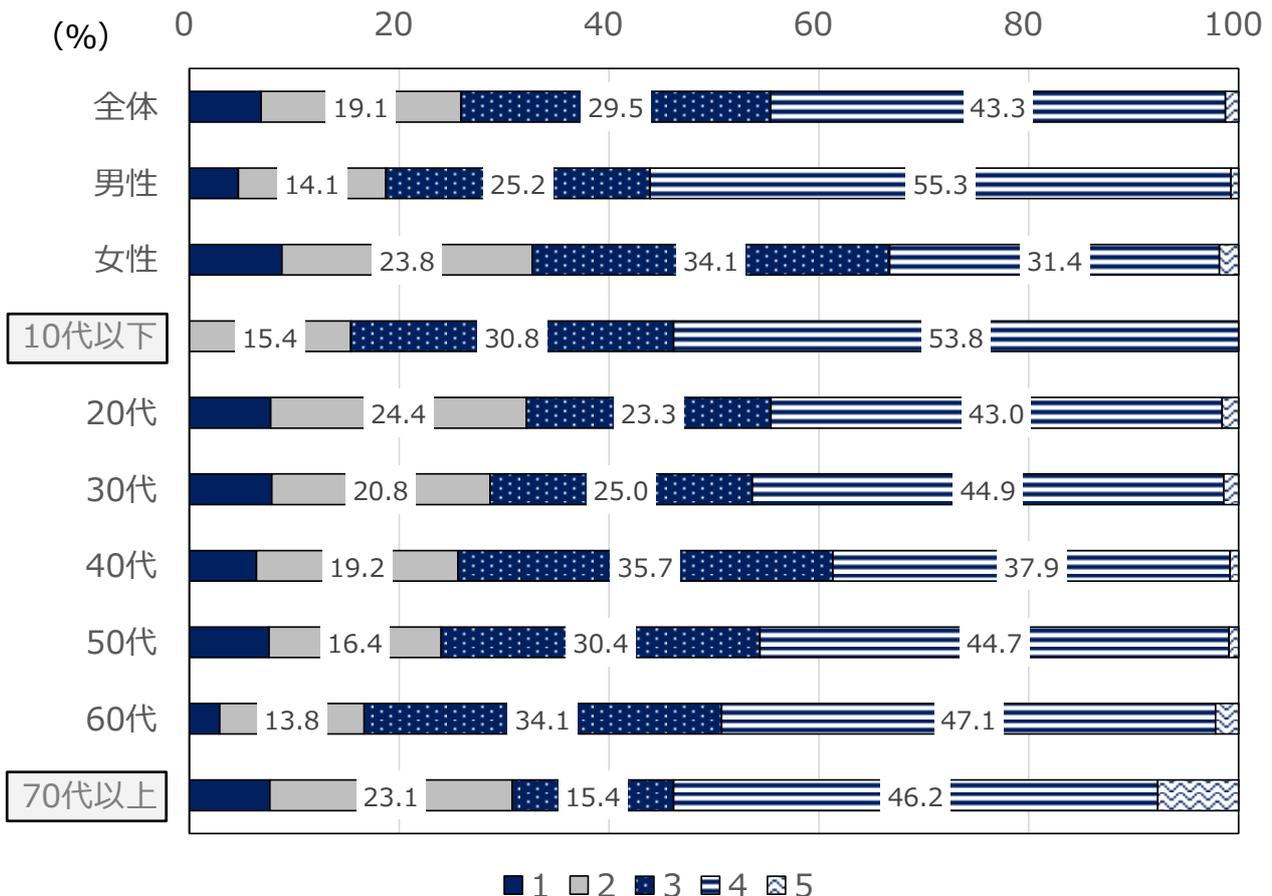
今後結城紬に関わりたいかについては、全体で「関わりたいと思わない。」が43.3%で最も高く、次いで「関わりたいが経済的に難しい。」が29.5%、「関わりたいが関わり方が分からない。」が19.1%となっている。

性別では、「関わりたいと思わない。」は男性に比べて女性の割合が小さくなっており、反対に「関わりたいが経済的に難しい。」及び「関わりたいが関わり方が分からない。」が多くなっている。

年代別では、各年代で「関わりたいと思わない。」が4割弱から5割弱となっており、最も割合の大きい項目となっている。

**【選択肢】**

- 1 できれば関わりたい。
- 2 関わりたいが関わり方が分からない。
- 3 関わりたいが経済的に難しい。
- 4 関わりたいと思わない。
- 5 その他



**Q3 あなたが結城紬に関わるためにはどのような施策が必要ですか。【n=1,541】**

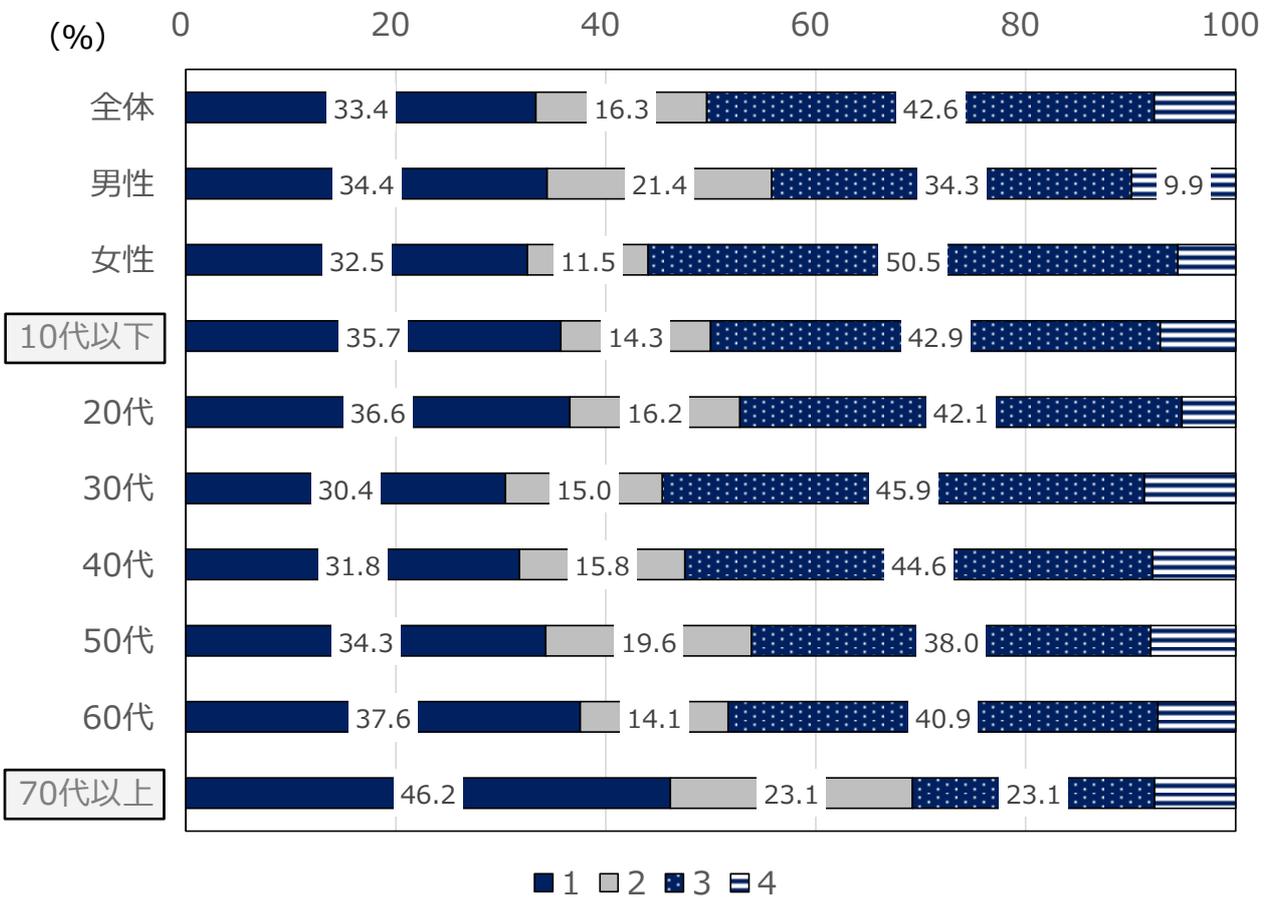
結城紬に関わるためには必要な施策については、全体で「結城紬の試用制度やレンタル制度」が42.6%で最も高く、次いで「市民が結城紬に関する知識を習得できるような広報」が33.4%、「結城紬の購入に関する経済的支援」が16.3%となっている。

性別では、「結城紬の試用制度やレンタル制度」が男性で34.3%である一方、女性で50.5%と高くなっている。

年代別では、全体と同様「結城紬の試用制度やレンタル制度」が最も高くなっている。

**【選択肢】**

- 1 市民が結城紬に関する知識を習得できるような広報
- 2 結城紬の購入に関する経済的支援
- 3 結城紬の試用制度やレンタル制度
- 4 その他



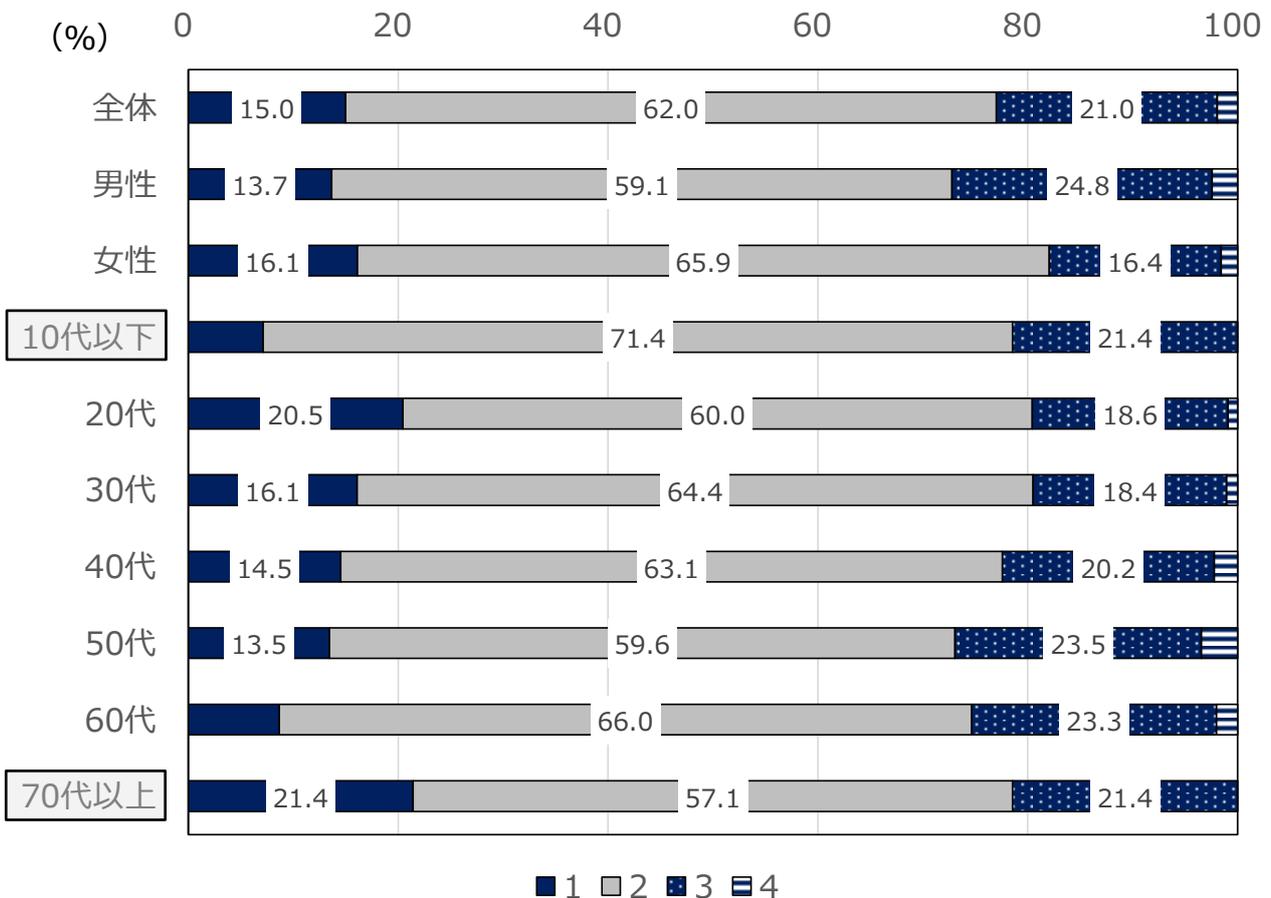
**Q 4 30年後の小山市において結城紬はどのような状態になっているのが望ましいと思いますか。【n=1,554】**

30年後の結城紬の状態については、全体で「生産量は減っても、確実に伝統技術が継承されている。」が62.0%で最も高く、次いで「着物離れが進んで結城紬がほとんど生産されなくなって、伝統技術の継承が困難になってしまっている。」が21.0%、「結城紬を着る人が増え、生産量、販売量ともに増えている。」が15.0%となっている。

性別・年代別を問わず「生産量は減っても、確実に伝統技術が継承されている。」が6割程度で最も割合の大きい項目となっている。

**【選択肢】**

- 1 結城紬を着る人が増え、生産量、販売量ともに増えている。
- 2 生産量は減っても、確実に伝統技術が継承されている。
- 3 着物離れが進んで結城紬がほとんど生産されなくなって、伝統技術の継承が困難になってしまっている。
- 4 その他



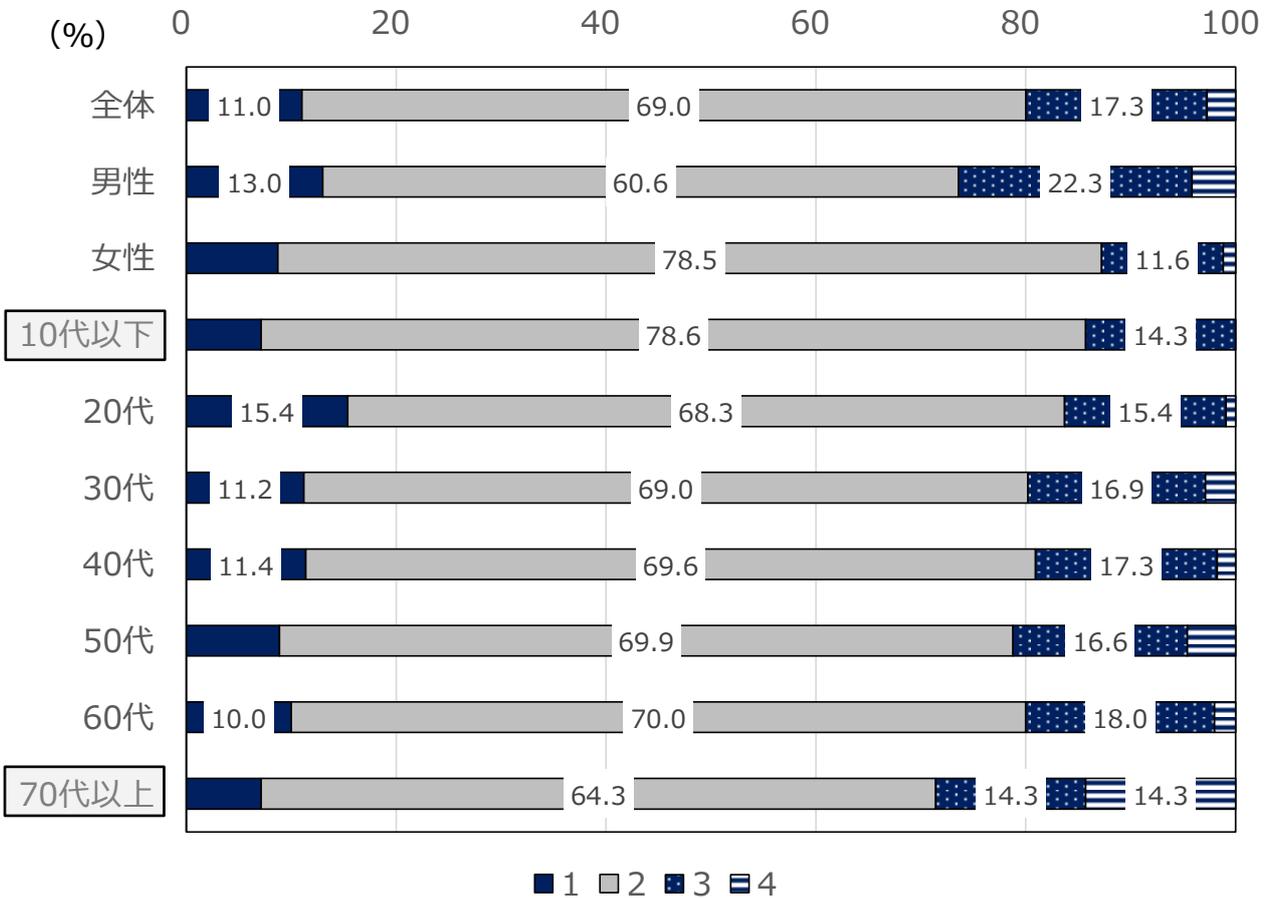
**Q5 今後小山市としてどのような取り組みを優先すべきと思いますか。【n=1,552】**

どのような取り組みを優先すべきかについては、全体で「伝統技術として残していくための取り組みを優先すべきである。」が69.0%で最も高く、次いで「伝統技術を記録する取り組みを優先すべきである。」が17.3%、「生産量・販売量を増やす取り組みを優先すべきである。」が11.0%となっている。

性別・年代別を問わず「生産量は減っても、確実に伝統技術が継承されている。」が6割から7割で最も大きくなっているが、女性は8割弱となっている。

**【選択肢】**

- 1 生産量・販売量を増やす取り組みを優先すべきである。
- 2 伝統技術として残していくための取り組みを優先すべきである。
- 3 伝統技術を記録する取り組みを優先すべきである。
- 4 その他



## ⑥ スポーツ振興

### Q1 あなたはどのくらいの頻度で定期的に運動・スポーツを行っていますか。【n=1,554】

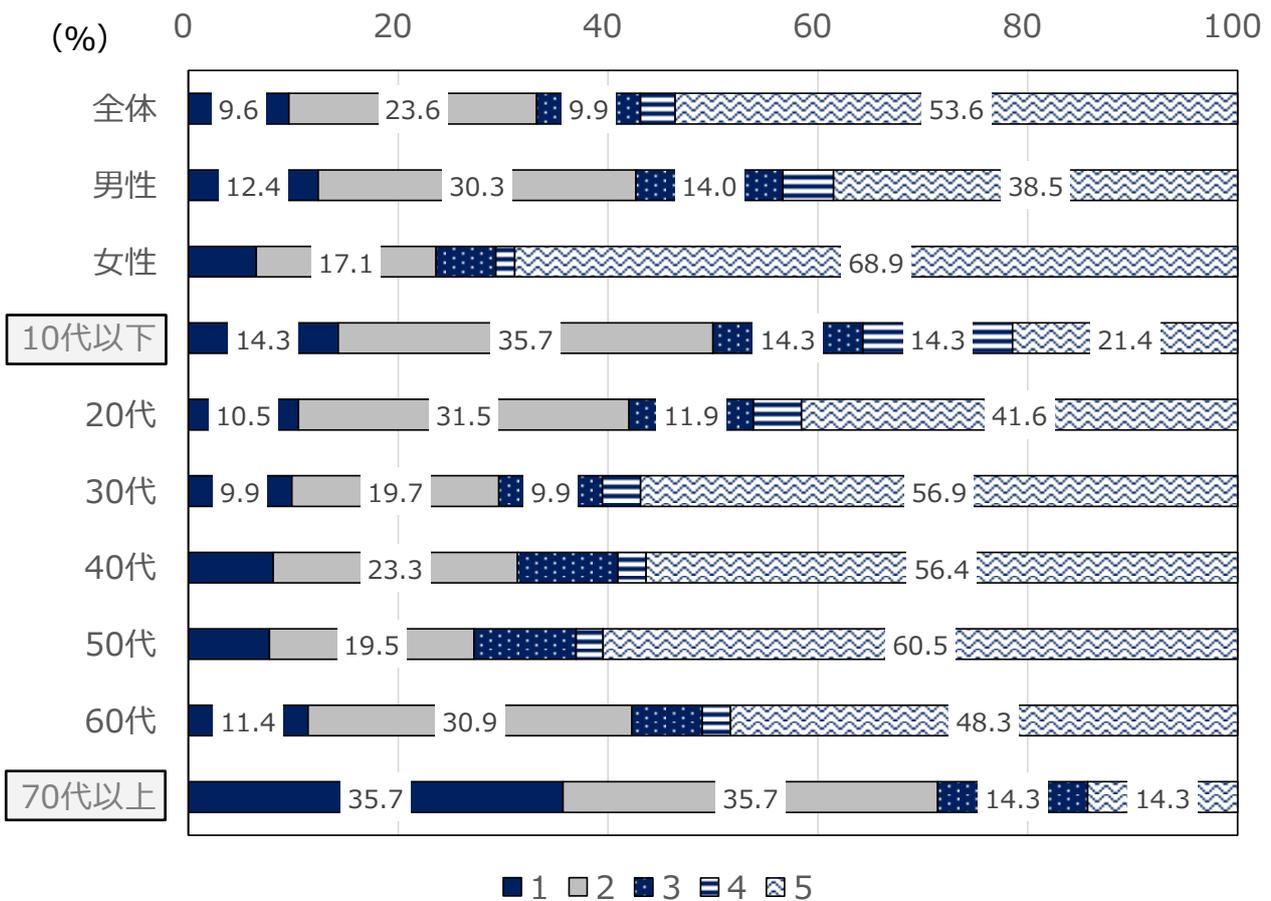
運動・スポーツの頻度については、全体で「定期的に行っていない」が53.6%で最も高く、次いで「毎週行っている。」が23.6%、「毎月行っている。」が9.9%となっている。

性別では、「定期的に行っていない」が男性で38.5%である一方、女性で68.9%と極めて高くなっている。

年代別では、30～50代で「定期的に行っていない」が6割程度となっているが、20代で41.6%、60代で48.3%となっている。

#### 【選択肢】

- 1 毎日行っている。
- 2 毎週行っている。
- 3 毎月行っている。
- 4 毎シーズン行っている。
- 5 定期的に行っていない。

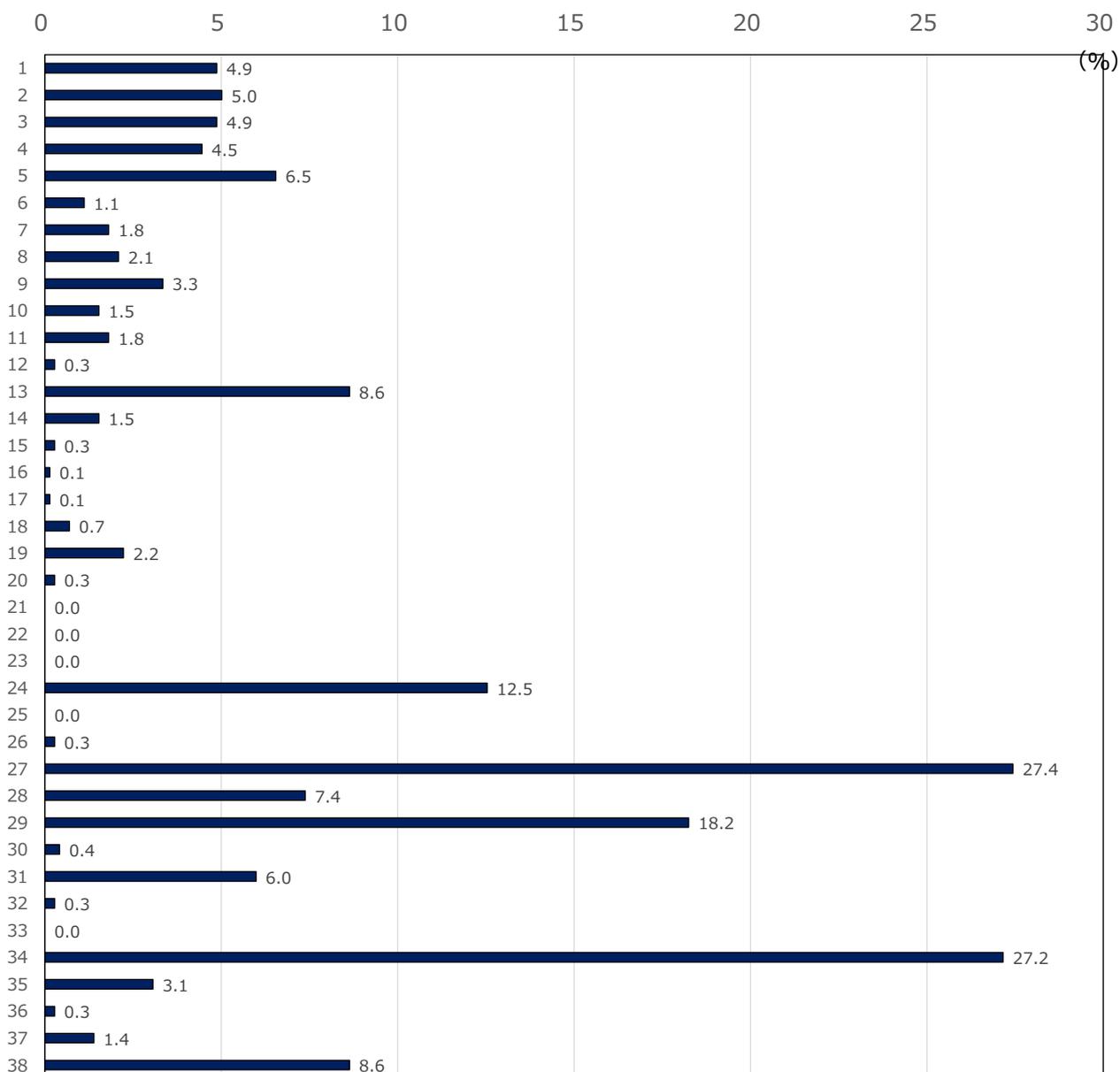


**Q2 Q1で1、2、3、4と答えた方に質問します。あなたはどのような運動・スポーツ（種目）を行っていますか。（3つまで選択可）【n=718】**

どのような運動・スポーツ（種目）を行っているかについては、全体で「ウォーキング」が27.4%で最も高く、次いで「筋力トレーニング」が27.2%、「ジョギング、ランニング」が18.2%となっている。

**【選択肢】**

- |                |               |                                |                  |
|----------------|---------------|--------------------------------|------------------|
| 1 陸上競技         | 11 ウェイトリフティング | 22 レスリング                       | 31 スキー、スノーボード    |
| 2 水泳           | 12 ハンドボール     | 23 ホッケー                        | 32 クライミング、ボルダリング |
| 3 サッカー、フットサル   | 13 自転車        | 24 ゴルフ                         | 33 障がい者スポーツ      |
| 4 硬式テニス、ソフトテニス | 14 卓球         | 25 フェンシング                      | 34 筋力トレーニング      |
| 5 野球           | 15 空手道        | 26 ラグビー                        | 35 ダンス、踊り        |
| 6 ボクシング        | 16 相撲         | 27 ウォーキング                      | 36 ニュースポーツ       |
| 7 バレーボール       | 17 柔道         | 28 登山、ハイキング                    | 37 マリンスポーツ       |
| 8 体操           | 18 ソフトボール     | 29 ジョギング、ランニング                 | 38 その他           |
| 9 バスケットボール     | 19 バドミントン     | 30 グラウンドゴルフ、ゲートボール、ターゲットボードゴルフ |                  |
| 10 剣道          | 20 弓道         |                                |                  |
|                | 21 射撃         |                                |                  |



**Q3 Q1で1、2、3、4と答えた方に質問します。あなたが運動・スポーツを継続しているのはどのような理由からですか。【n=704】**

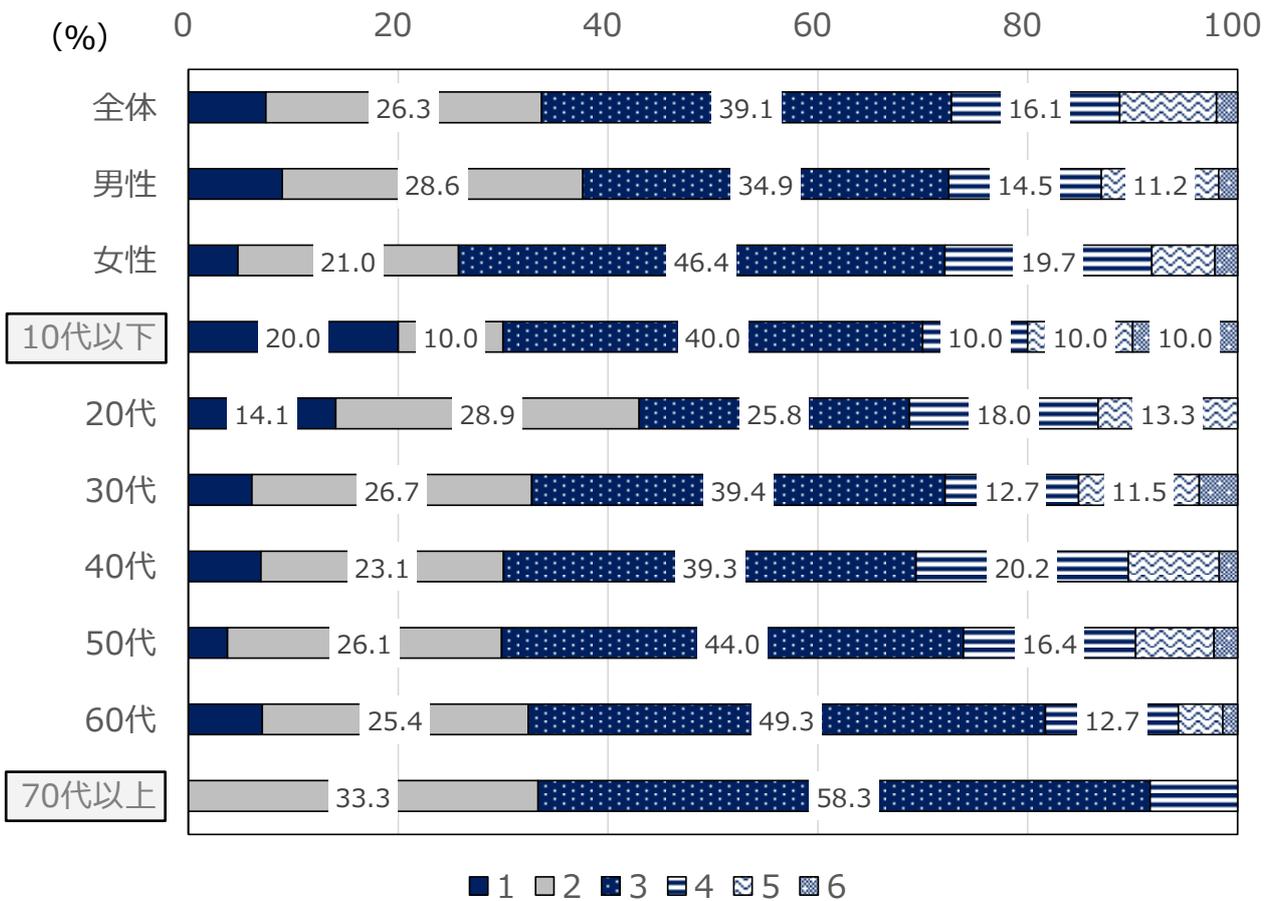
運動・スポーツを継続している理由については、全体で「運動不足による肥満や生活習慣病を予防したい。」が39.1%で最も高く、次いで「体力・筋力を維持強化を図りたい。」が26.3%、「運動の継続により心身の安定を図りたい。」が16.1%となっている。

性別では、「運動不足による肥満や生活習慣病を予防したい。」が男性で34.9%である一方、女性で46.4%と高くなっている。

年代別では、「運動不足による肥満や生活習慣病を予防したい。」が20代を除いて最も割合の大きい項目であり、年代が上がるにつれて大きくなる傾向にある。

**【選択肢】**

- 1 競技力を向上させたい。
- 2 体力・筋力を維持強化を図りたい。
- 3 運動不足による肥満や生活習慣病を予防したい。
- 4 運動の継続により心身の安定を図りたい。
- 5 仲間との交流を楽しみたい。
- 6 その他



**Q4 Q1で5と答えた方に質問します。あなたが週に1日以上運動・スポーツを行っていないのはどのような理由からですか。【n=830】**

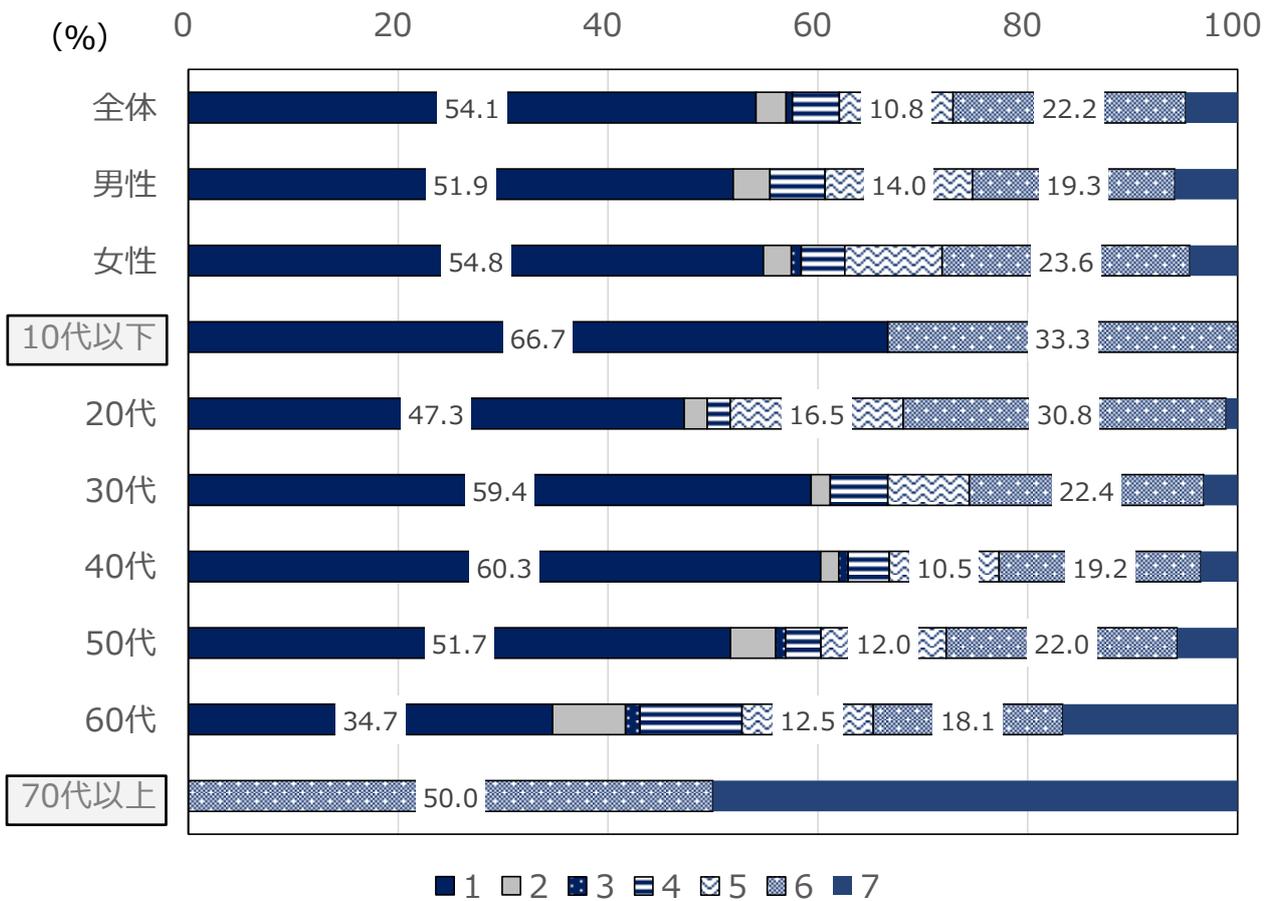
週に1日以上運動・スポーツを行っていない理由については、全体で「時間的余裕がない。」が54.1%で最も高く、次いで「運動・スポーツに興味・関心がない。」が22.2%、「やりたい運動・スポーツ（種目）がない。」が10.8%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

年代別では「時間的余裕がない。」が最も割合の大きい項目であるものの、30～40代で6割、20・50代で5割、60代で3割と年代でバラつきがある。

**【選択肢】**

- 1 時間的余裕がない。
- 2 やりたい運動・スポーツを行う施設がない。
- 3 やりたい運動・スポーツを指導する人がいない。
- 4 やりたい運動・スポーツを行うための仲間がいない。
- 5 やりたい運動・スポーツ（種目）がない。
- 6 運動・スポーツに興味・関心がない。
- 7 その他



**Q5** Q4で1、2、3、4と答えた方に質問します。あなたが行いたい運動・スポーツ（種目）は何ですか。

自由記述のため集計なし

**Q6 30年後の小山市において、すべての市民が週に1日以上運動・スポーツを行えるようにするためには、どのような取り組みが必要ですか。【n=1,550】**

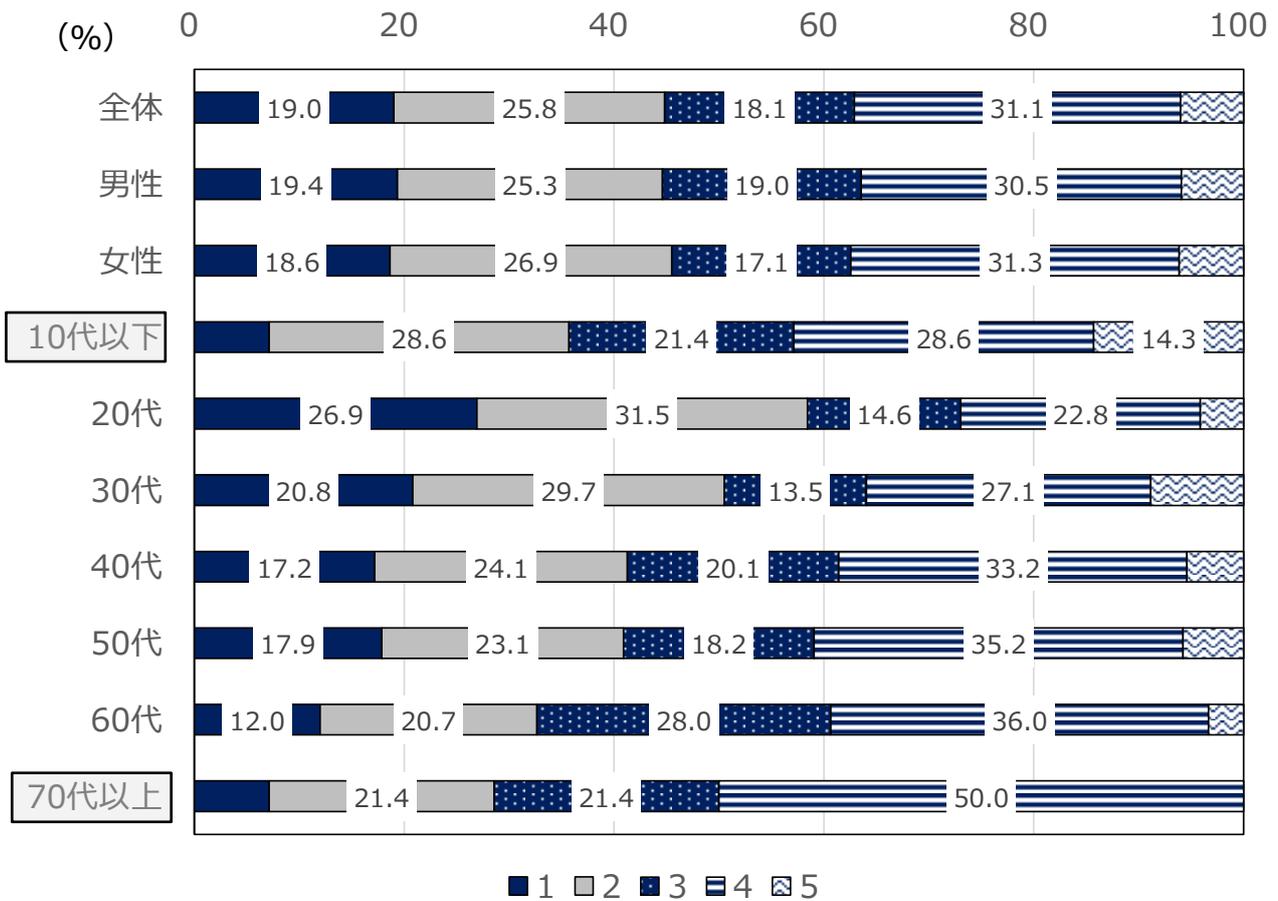
週に1日以上運動・スポーツを行えるようにするための取り組みについては、全体で「安心・安全に配慮したインフラ整備（歩道や街路灯など）」が31.1%で最も高く、次いで「全天候型の多種多様な競技に対応可能な施設の整備。」が25.8%、「施設利用時間の延長（24時間運用等）」が19.0%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

年代別では、20～30代で「全天候型の多種多様な競技に対応可能な施設の整備。」、40～60代で「安心・安全に配慮したインフラ整備（歩道や街路灯など）」がそれぞれ最も割合の大きい項目となっている。

**【選択肢】**

- 1 施設利用時間の延長（24時間運用等）。
- 2 全天候型の多種多様な競技に対応可能な施設の整備。
- 3 多様な主体によるスポーツ交流機会の創出と情報発信。
- 4 安心・安全に配慮したインフラ整備（歩道や街路灯など）。
- 5 その他



## ⑦ レジャー・娯楽

### Q1 あなたは小山市内においてレジャー・娯楽に接する機会がありますか。【n=1,553】

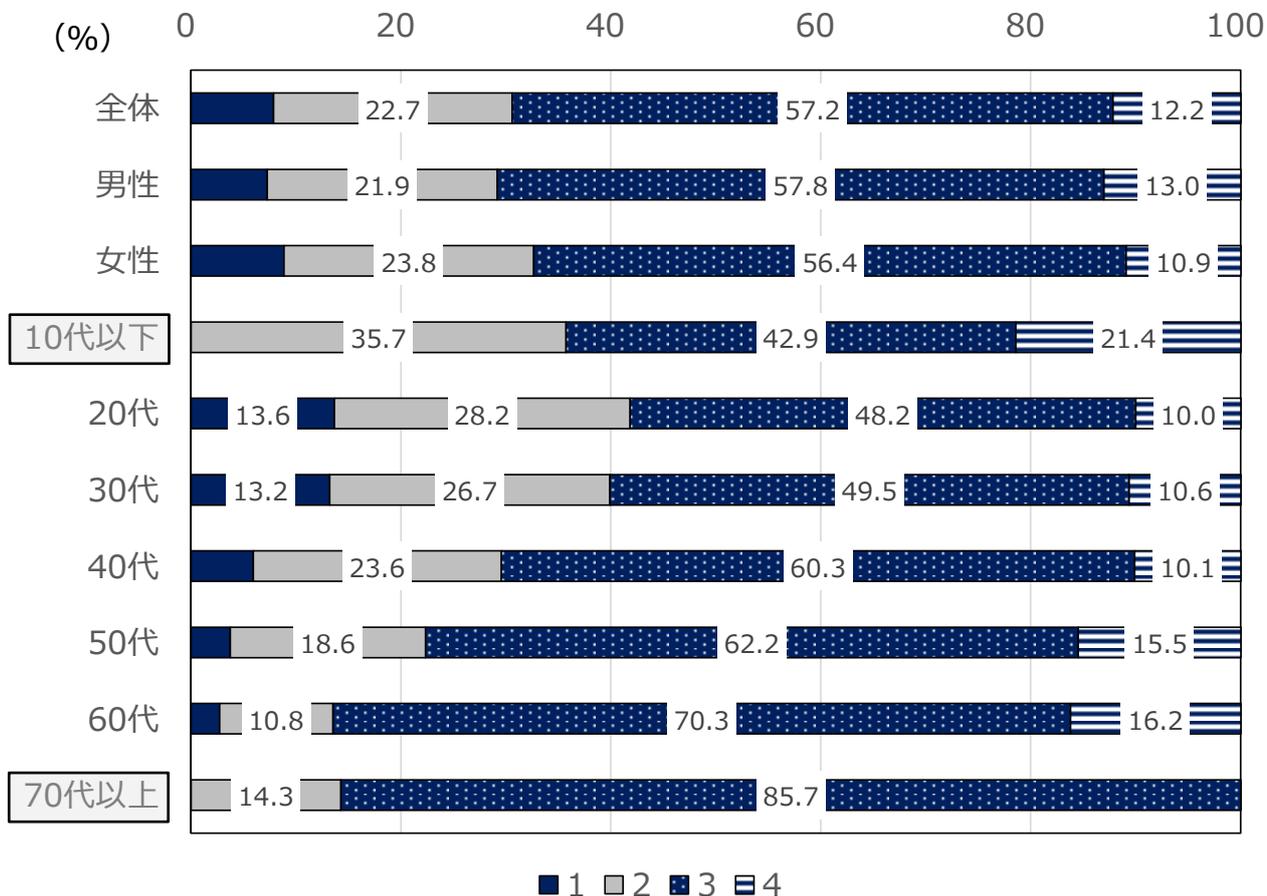
レジャー・娯楽に接する機会については、全体で「どちらかといえば少ない。」が57.2%で最も高く、次いで「どちらかといえば多い。」が22.7%、「全くない。」が12.2%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

年代別では、「どちらかといえば少ない。」が5割から7割となっており、年代が上がるにつれて大きくなっている。

#### 【選択肢】

- 1 多くある。
- 2 どちらかといえば多い。
- 3 どちらかといえば少ない。
- 4 全くない。

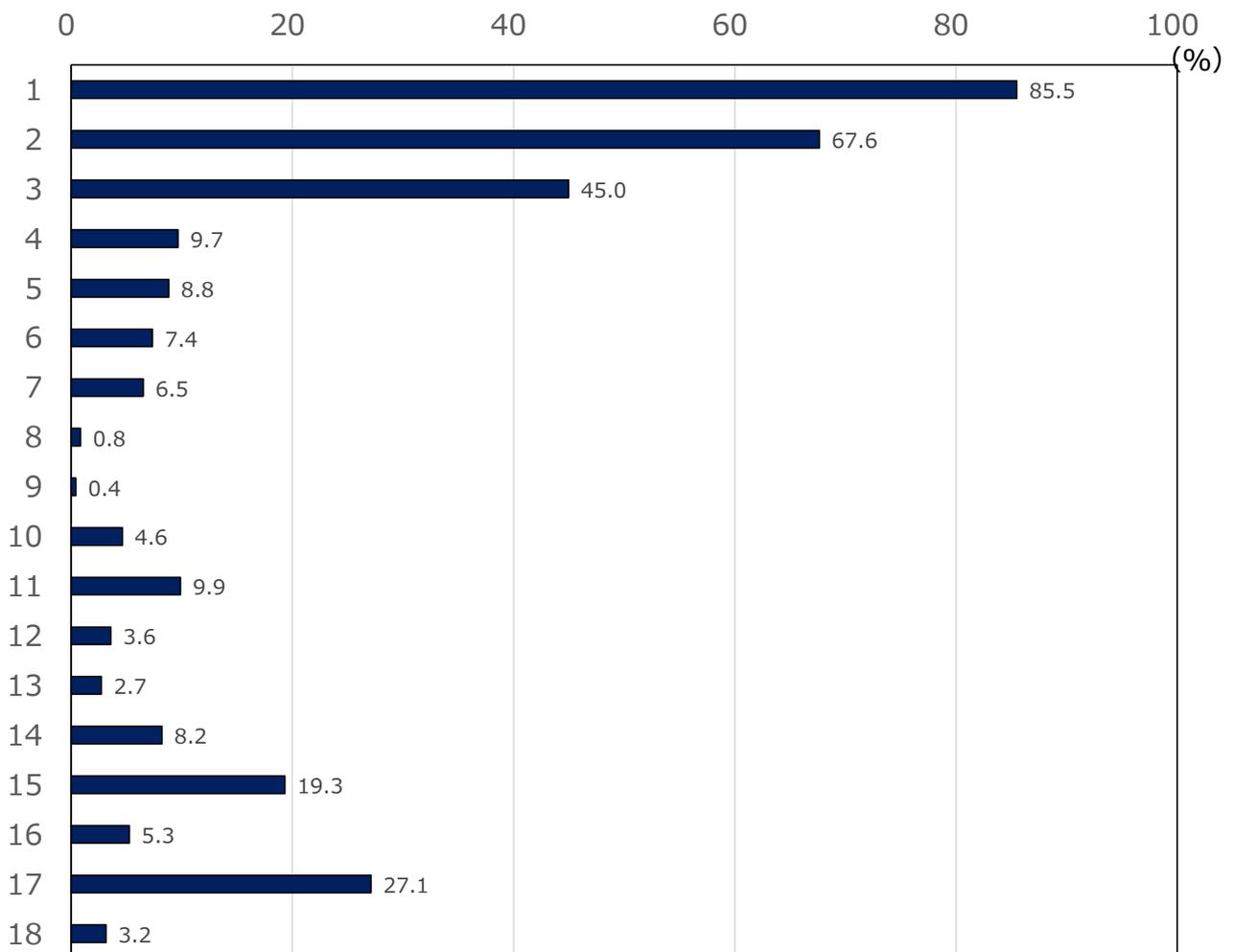


**Q2 Q1で1、2と答えた方に質問します。あなたはどのようなレジャー・娯楽に接していますか。  
(複数選択可)【n=476】**

どのようなレジャー・娯楽に接しているかについては、全体で「買物・ショッピング」が85.5%で最も高く、次いで「グルメ・スイーツ飲食」が67.6%、「映画鑑賞」が45.0%となっている。

**【選択肢】**

- |                  |                |                      |
|------------------|----------------|----------------------|
| 1 買物・ショッピング      | 7 ボーリング        | 13 囲碁・将棋・トランプ・ボードゲーム |
| 2 グルメ・スイーツ飲食     | 8 ダンス          | 14 コンピューター・電子機器ゲーム   |
| 3 映画鑑賞           | 9 スケートボード      | 15 カラオケ              |
| 4 音楽・芝居・寄席等の芸術鑑賞 | 10 魚釣り         | 16 園芸・農業体験           |
| 5 スポーツ観戦         | 11 キャンプ・バーベキュー | 17 温泉入浴              |
| 6 ゴルフ            | 12 ドッグラン       | 18 その他               |

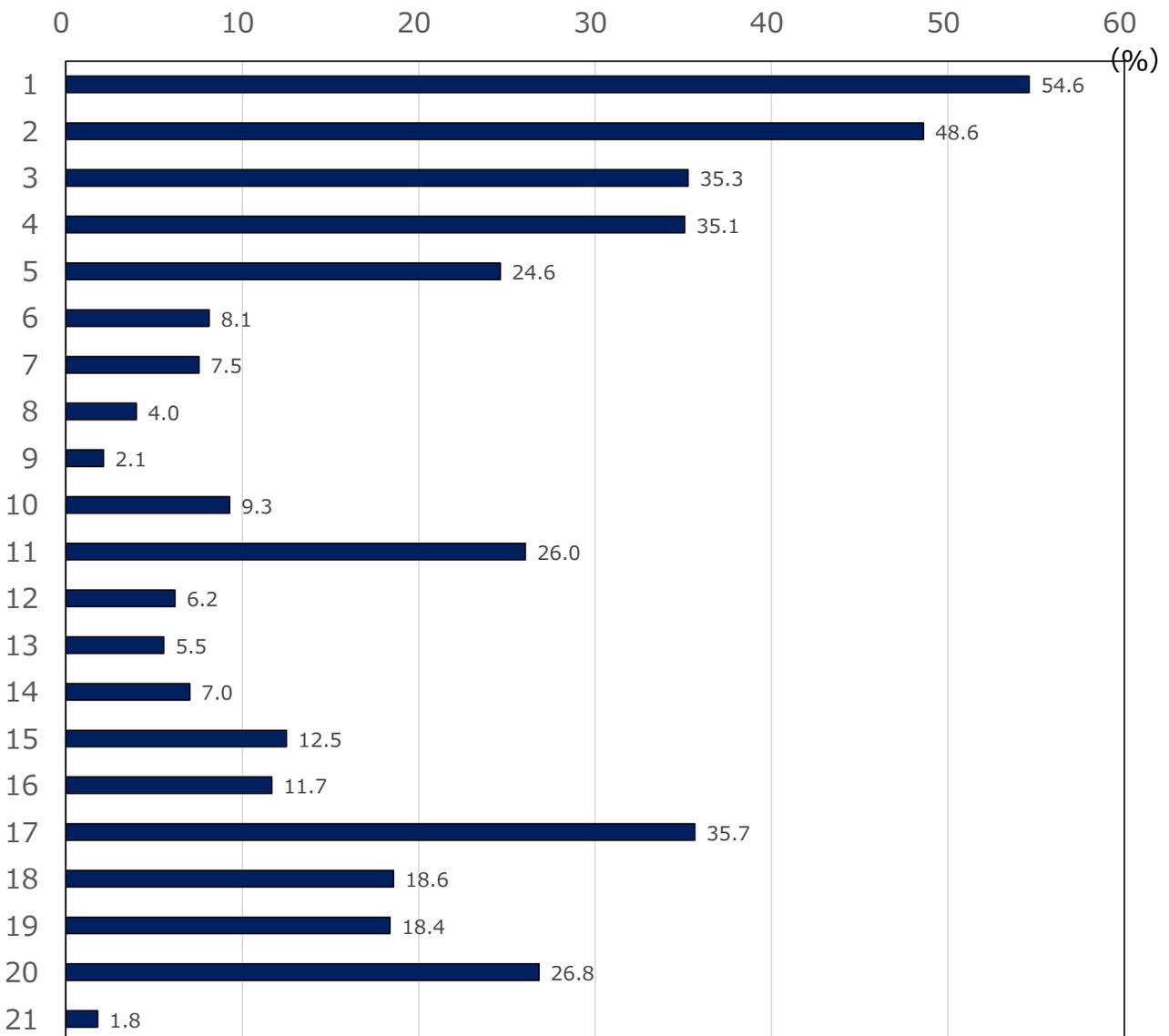


**Q3 あなたは今後どのようなレジャー・娯楽に接したいですか。(複数選択可)【n=1,551】**

どのようなレジャー・娯楽に接したいかについては、全体で「買物・ショッピング」が54.6%で最も高く、次いで「グルメ・スイーツ飲食」が48.6%、「温泉入浴」が35.7%となっている。

**【選択肢】**

- |                  |                      |            |
|------------------|----------------------|------------|
| 1 買物・ショッピング      | 8 ダンス                | 15 カラオケ    |
| 2 グルメ・スイーツ飲食     | 9 スケートボード            | 16 園芸・農業体験 |
| 3 映画鑑賞           | 10 魚釣り               | 17 温泉入浴    |
| 4 音楽・芝居・寄席等の芸術鑑賞 | 11 キャンプ・バーベキュー       | 18 レジャープール |
| 5 スポーツ観戦         | 12 ドッグラン             | 19 アスレチック  |
| 6 ゴルフ            | 13 囲碁・将棋・トランプ・ボードゲーム | 20 テーマパーク  |
| 7 ボーリング          | 14 コンピューター・電子機器ゲーム   | 21 その他     |



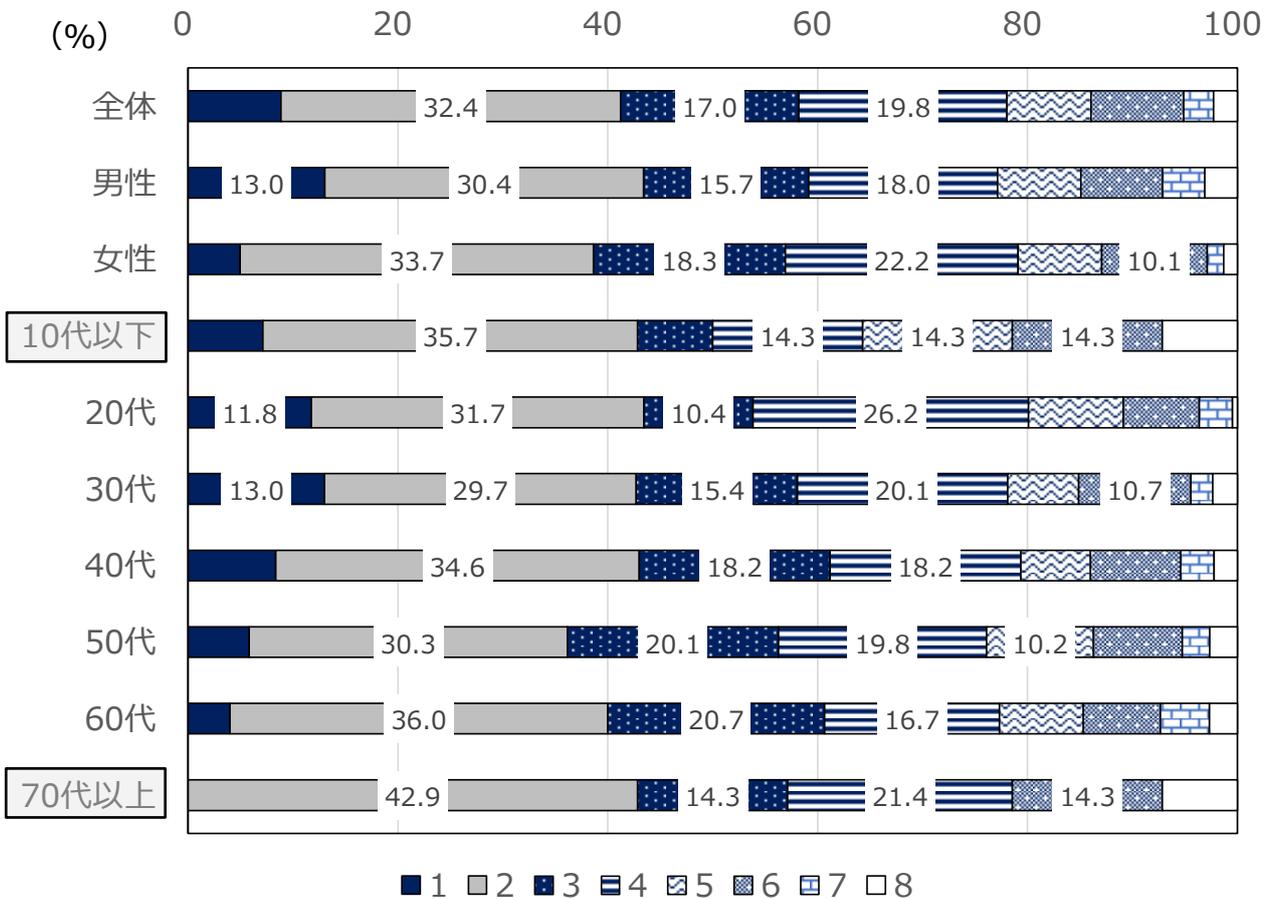
**Q 4 30年後の小山市において、すべての市民がレジャー・娯楽に接することができるようにするためにはどのような取り組みが必要ですか。【n=1,548】**

すべての市民がレジャー・娯楽に接するための取り組みについては、全体で「料金が安くて気軽に利用できる施設・誘致を整備する。」が32.4%で最も高く、次いで「様々なレジャー・娯楽を楽しめる複合的な施設を整備・誘致する。」が19.8%、「小山市の自然や特色を活用した施設を整備・誘致する。」が17.0%となっている。

性別・年代別を問わず「料金が安くて気軽に利用できる施設・誘致を整備する。」が3割前後で最も割合の大きい項目となっている。

**【選択肢】**

- 1 料金が高くても設備や内容が充実した施設を整備・誘致する。
- 2 料金が安くて気軽に利用できる施設・誘致を整備する。
- 3 小山市の自然や特色を活用した施設を整備・誘致する。
- 4 様々なレジャー・娯楽を楽しめる複合的な施設を整備・誘致する。
- 5 施設まで移動できる交通網を充実する。
- 6 料金割引やポイント付与等の市民への支援・サービスを行う。
- 7 市内レジャー・娯楽産業への支援を行う。
- 8 その他



## (4) 福祉・医療・健康・介護

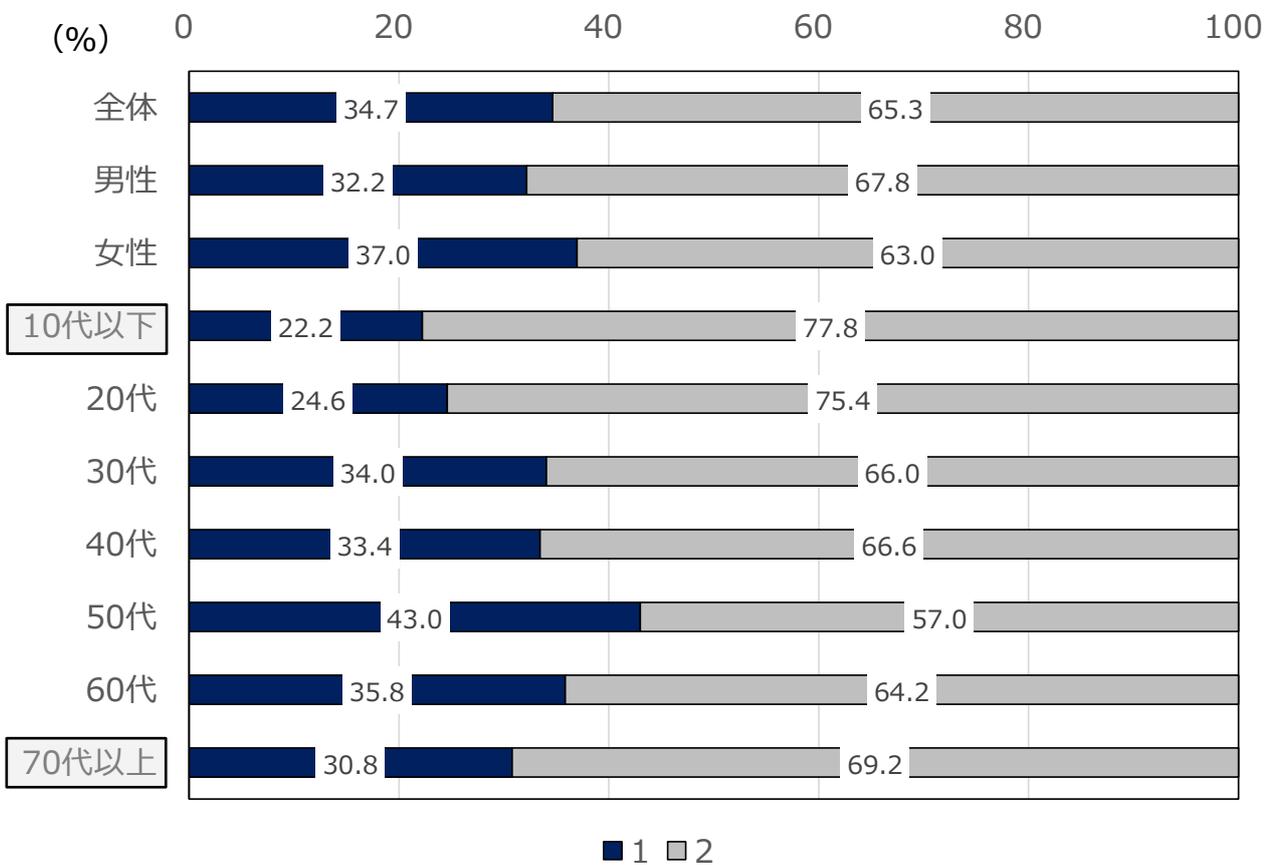
### ① 障がい者との共生

Q 1 あなた自身や周囲の方で、障がいのある方はいらっしゃいますか。【n=1,290】

自身や周囲の障がい者について、全体で「はい。」が34.7%、「いいえ。」が65.3%となっている。性別・年代別を問わず「いいえ。」が6割から8割となっているが、50代のみが57.0%とやや低くなっている。

【選択肢】

- 1 はい。
- 2 いいえ。



**Q2 Q1で1と答えた方に質問します。あなたや周囲の方で障がいのある方は、障がい福祉に関する支援を受けたことがありますか。【n=446】**

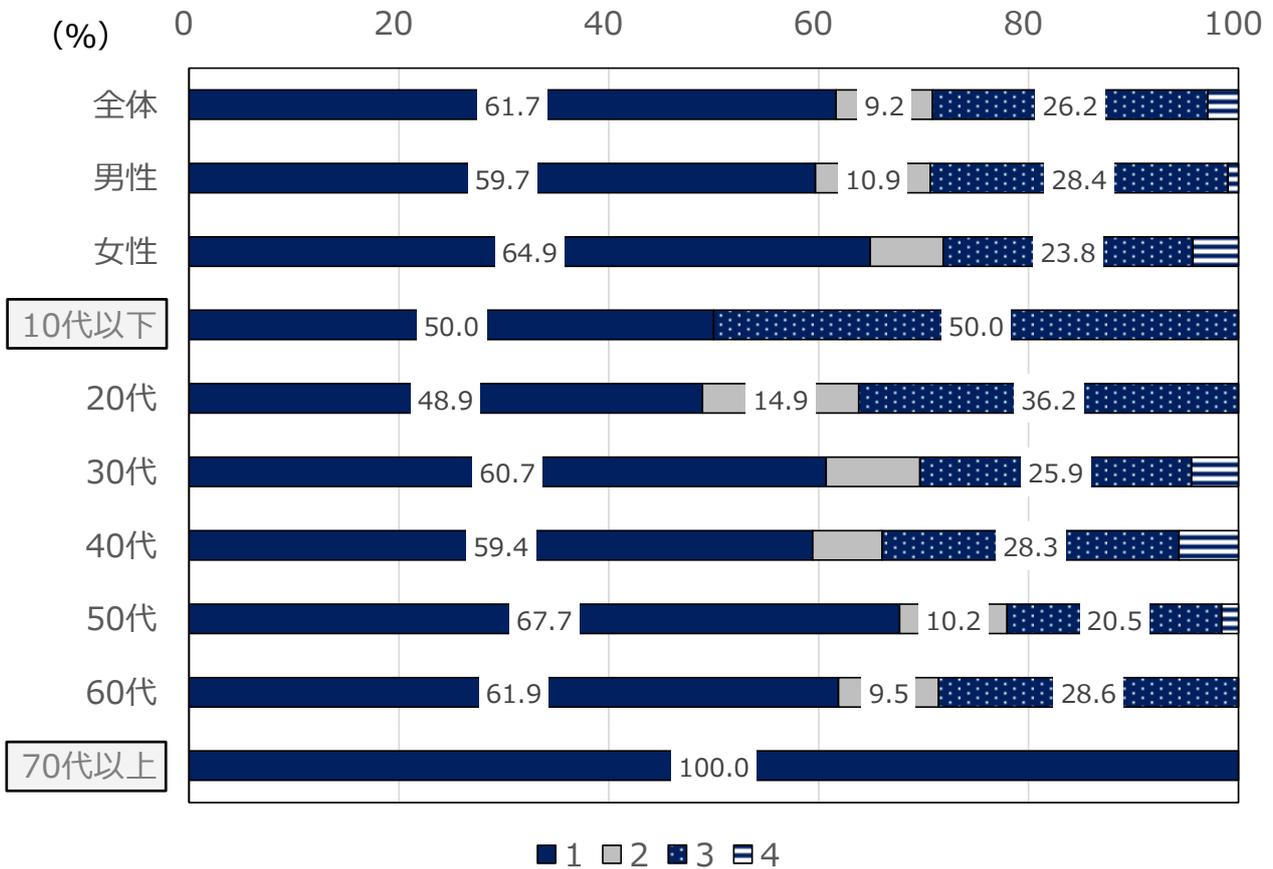
障がい福祉に関する支援については、全体で「栃木県や小山市あるいは民間団体の支援を受けている。」が61.7%で最も高く、次いで「わからない。」が26.2%、「いずれの支援も受けていない。」が9.2%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

年代別では、「栃木県や小山市あるいは民間団体の支援を受けている。」で20代が他の年代に比べやや小さい割合となっているものの、各年代で5割から7割となっている。

**【選択肢】**

- 1 栃木県や小山市あるいは民間団体の支援を受けている。
- 2 いずれの支援も受けていない。
- 3 わからない。
- 4 その他

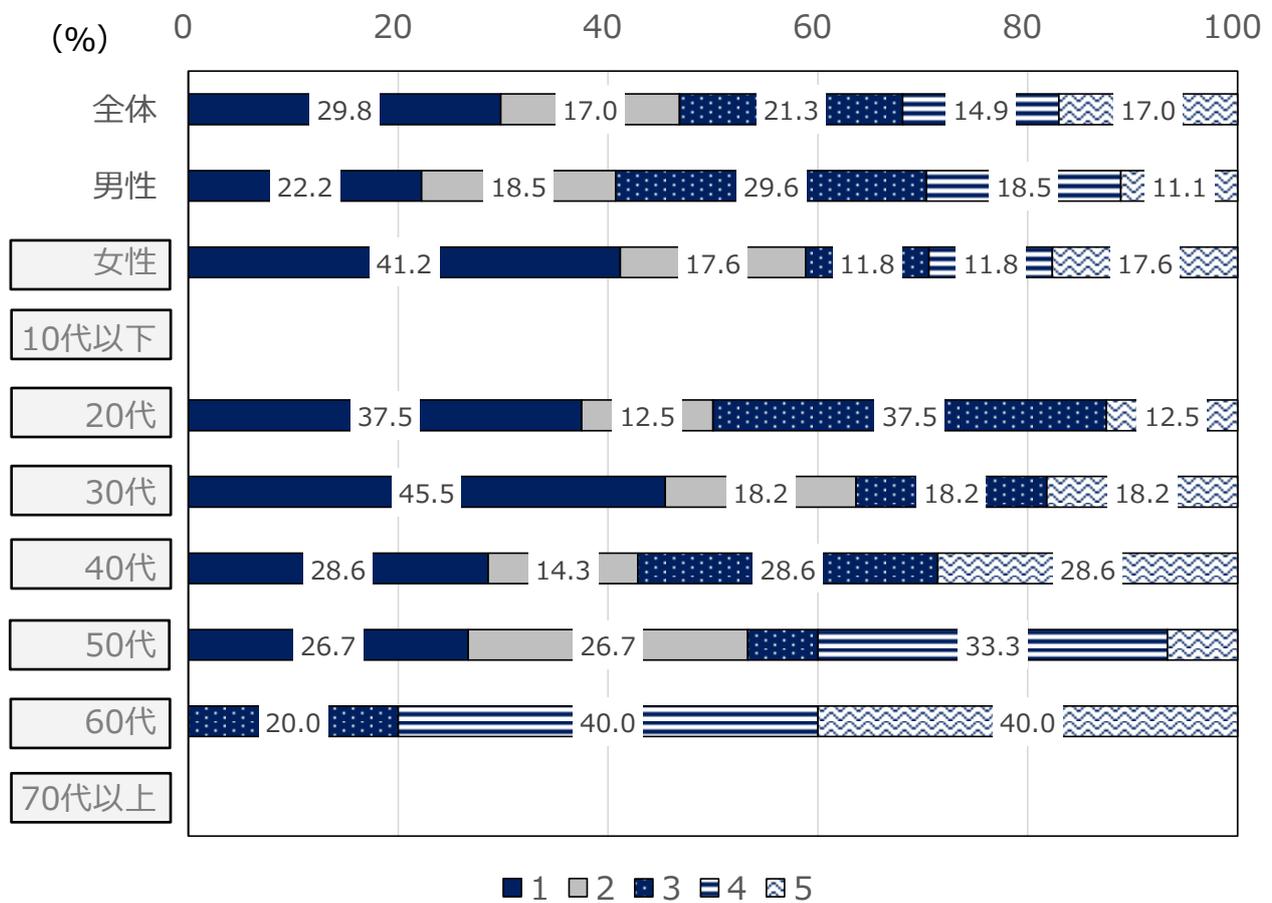


**Q3 Q2で2と答えた方に質問します。支援を受けていない理由は分かりますか。【n=47】**

支援を受けていない理由については、回答数が少ないものの全体で「支援を受けたいが適切な支援がない。」が29.8%で最も高く、次いで「支援があるのを知っているが受けたがらない。」が21.3%、「支援があるの知らない。」及び「その他」が17.0%となっている。

**【選択肢】**

- 1 支援を受けたいが適切な支援がない。
- 2 支援があるの知らない。
- 3 支援があるのを知っているが受けたがらない。
- 4 理由はわからない。
- 5 その他



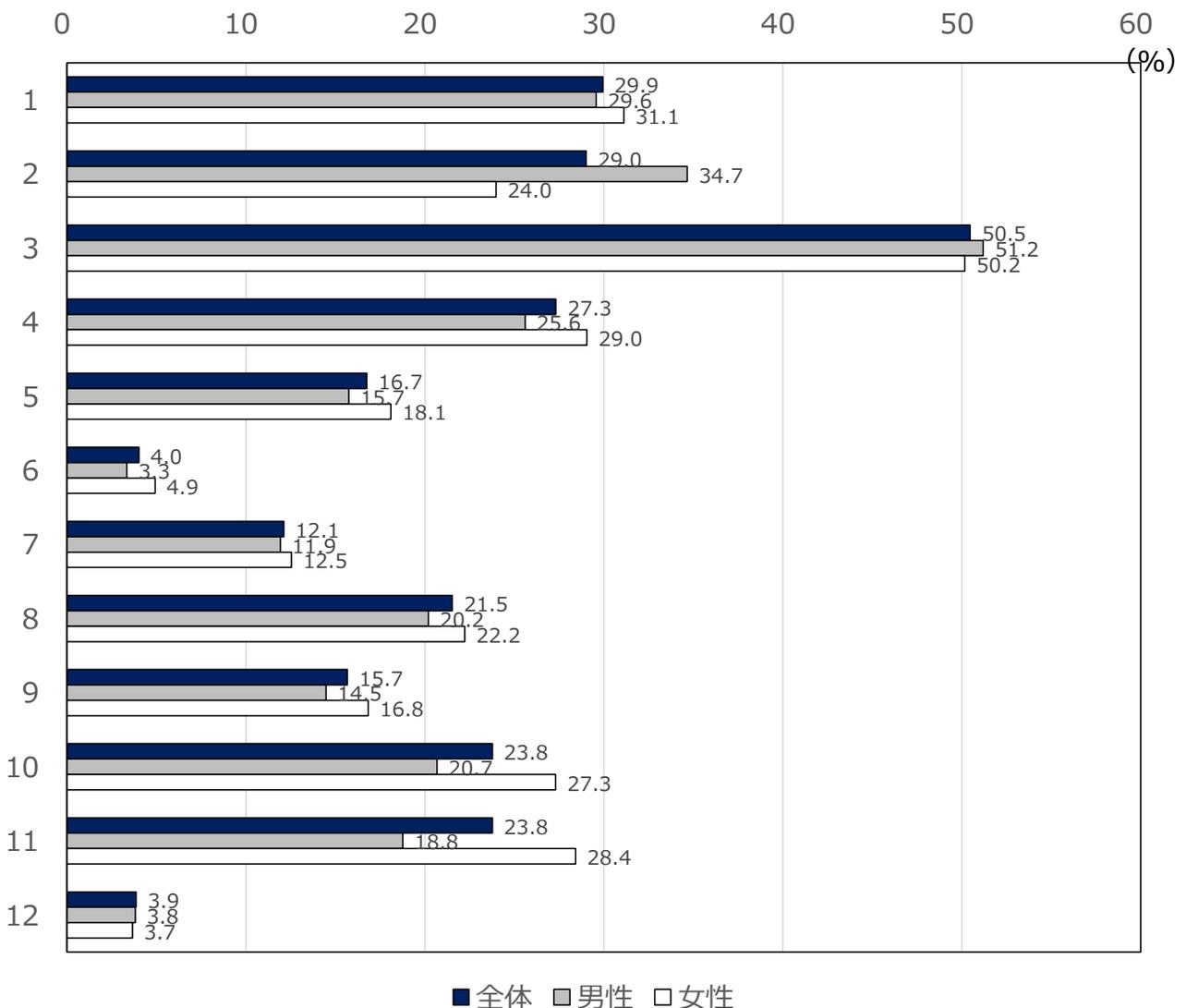
**Q4 30年後の小山市において、すべての障がいのある方が地域で自立し、いきいきと生活できるようになるにはどのような支援が必要になると考えられますか。(3つまで選択可)【n=1,296】**

障がいのある方が地域で自立し、いきいきと生活するための支援については、全体で「医療や介護の費用に対する支援」が50.5%で最も高く、次いで「補装具や日常生活用具の購入等に対する支援」が29.9%、「交通機関利用費用に対する支援」が29.0%となっている。

性別では、「交通機関利用費用に対する支援」は男性の割合が大きく、「地域での見守りや支援に関する体制づくり」は女性の割合が大きくなっている。

**【選択肢】**

- |                        |                         |
|------------------------|-------------------------|
| 1 補装具や日常生活用具の購入等に対する支援 | 7 案内標識・音声や誘導ブロック等の設置・整備 |
| 2 交通機関利用費用に対する支援       | 8 段差のない広い歩道等の整備         |
| 3 医療や介護の費用に対する支援       | 9 車椅子対応の駐車場やトイレの整備      |
| 4 各種手当金の充実             | 10 買い物や通院に対する人的な支援      |
| 5 自宅の改修費用に関する支援        | 11 地域での見守りや支援に関する体制づくり  |
| 6 手話通訳者の充実             | 12 その他                  |



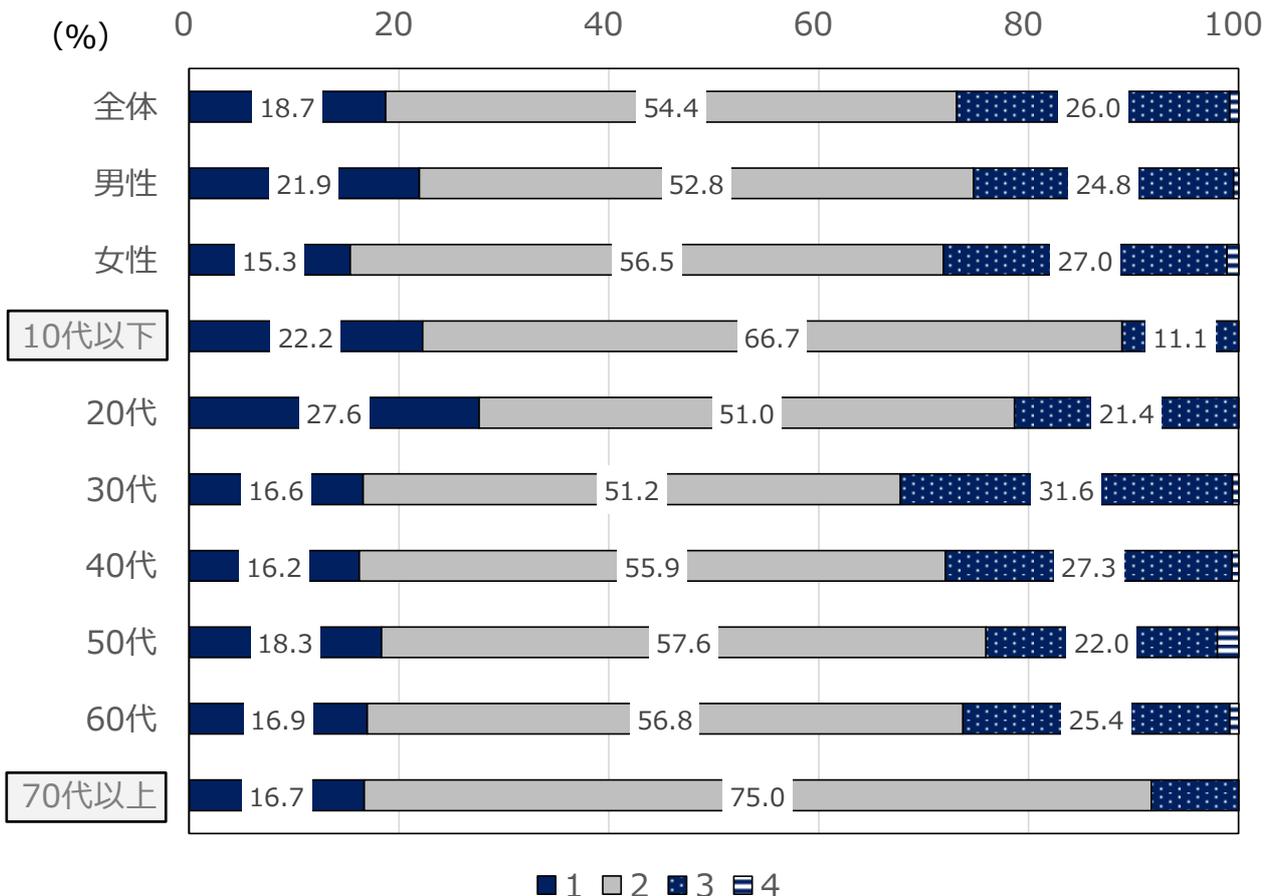
**Q5 小山市の今後の障がい者支援について、どのような方向性を目指すべきと考えますか。【n = 1,288】**

障がい者支援の方向性については、全体で「障がいのある方へのニーズに合わせた支援を積極的に行い、障がいの有無に関わらず互いを認め合い共生することを目指すべきである。」が54.4%で最も高く、次いで「障がいのある方への教育環境の整備や、能力に応じた働き方を提供し、自ら自立できることを目指すべきである。」が26.0%となっている。

性別・年代別を問わず同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 障がいのある方にとってあらゆるサービスが利用可能な、社会的な参加や活動に制約がないことを目指すべきである。
- 2 障がいのある方へのニーズに合わせた支援を積極的に行い、障がいの有無に関わらず互いを認め合い共生することを目指すべきである。
- 3 障がいのある方への教育環境の整備や、能力に応じた働き方を提供し、自ら自立できることを目指すべきである。
- 4 その他



## ② 生活困窮者の支援

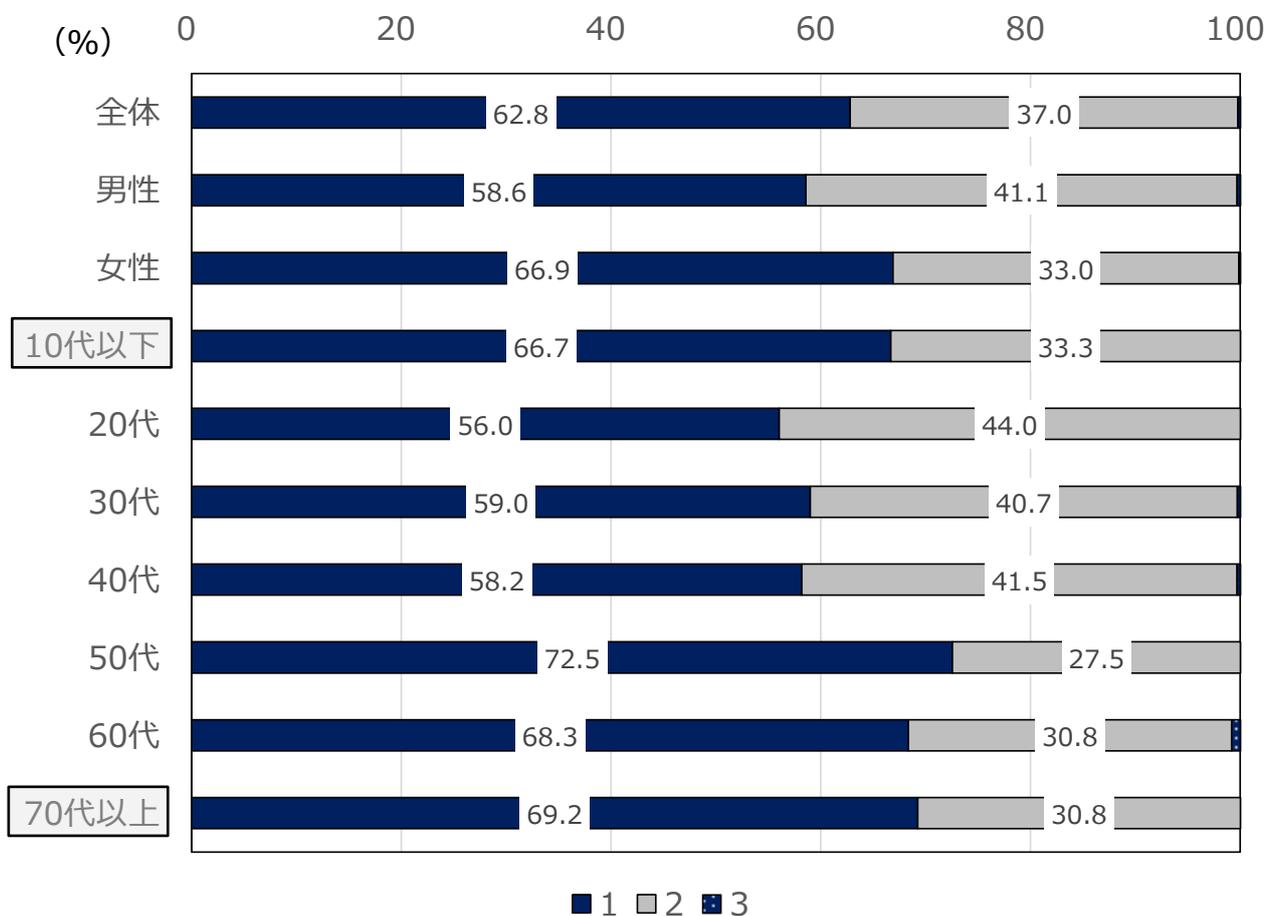
**Q 1 あなたは、子どもの貧困が1980年代から増加傾向にあることを知っていますか。【n=1,295】**

子どもの貧困が増加傾向であることについては、全体で「知っている。」が62.8%であり、「知らない。」が37.0%となっている。

性別では、「知っている。」が男性に比べて女性が高くなっており、年代別では20～40代に比べて50～60代が高くなっている。

### 【選択肢】

- 1 知っている。
- 2 知らない。
- 3 その他



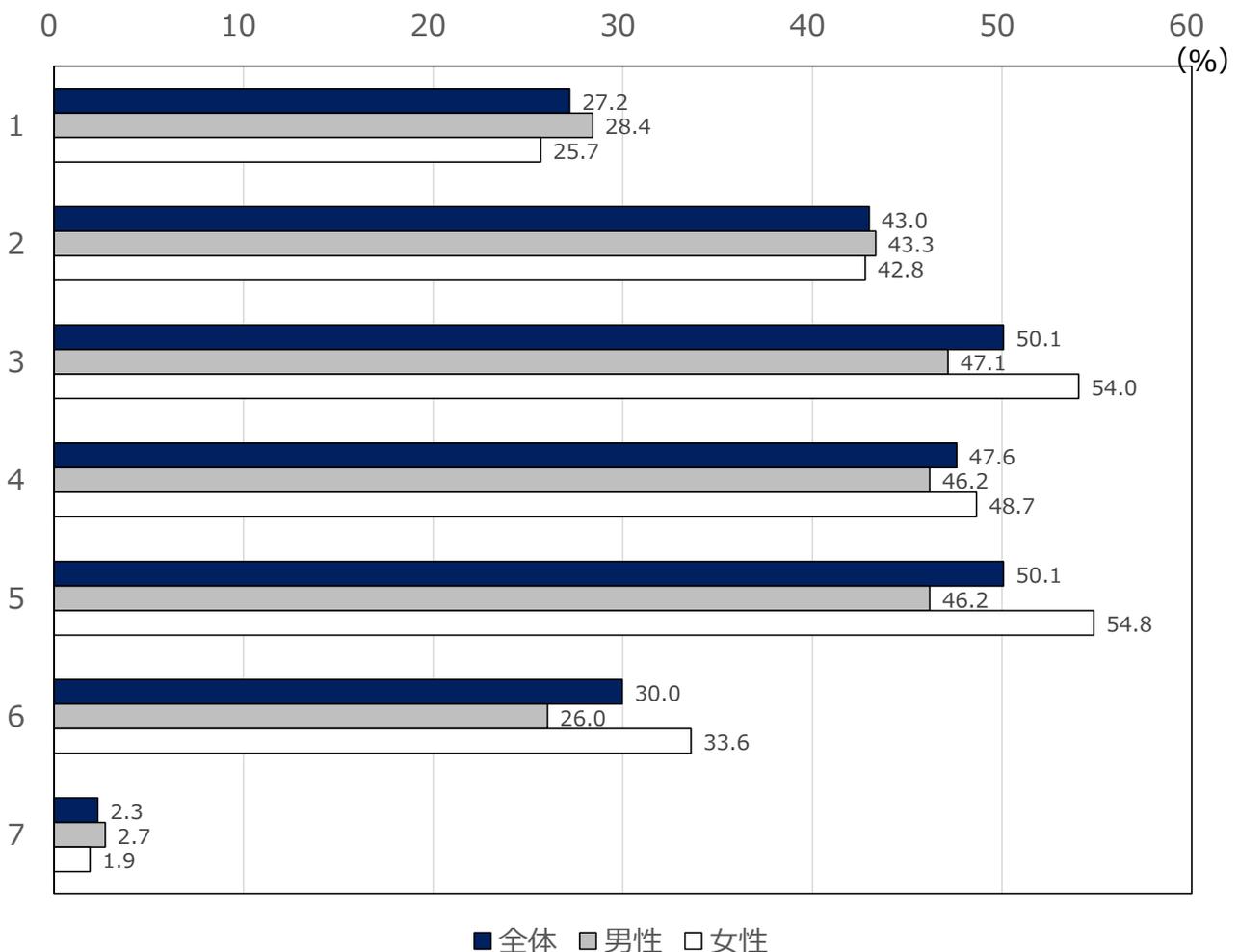
**Q2 あなたは、子どもの貧困を無くすためにはどのような施策が必要と考えますか。(3つまで選択可)【n=1,298】**

子どもの貧困を無くす施策については、全体で「教育支援の充実（学習支援事業、ひとり親家庭の高校生通学費助成事業等）」及び「経済的支援の充実（幼児教育・保育の無償化、こども医療費助成制度等）」が 50.1%で最も高く、次いで「就労支援の充実（生活困窮者やひとり親家庭、子どもの就労支援等）」が 47.6%となっている。

男女ともに同様の傾向であり、4項目で4割以上、その他を除く残りの2項目も3割前後の回答割合となっている。

**【選択肢】**

- 1 早期発見のための取り組みの強化（こんにちは赤ちゃん事業（訪問）等）
- 2 生活支援の充実（「フードバンク」と連携した食料支援、要支援児童生活応援事業等）
- 3 教育支援の充実（学習支援事業、ひとり親家庭の高校生通学費助成事業等）
- 4 就労支援の充実（生活困窮者やひとり親家庭、子どもの就労支援等）
- 5 経済的支援の充実（幼児教育・保育の無償化、こども医療費助成制度等）
- 6 相談・支援・連携体制の整備の強化（子ども家庭総合支援拠点整備運営事業等）
- 7 その他



**Q3 あなたは、生活に困窮する方を無くすためにはどのような施策が必要と考えますか。【n=1,291】**

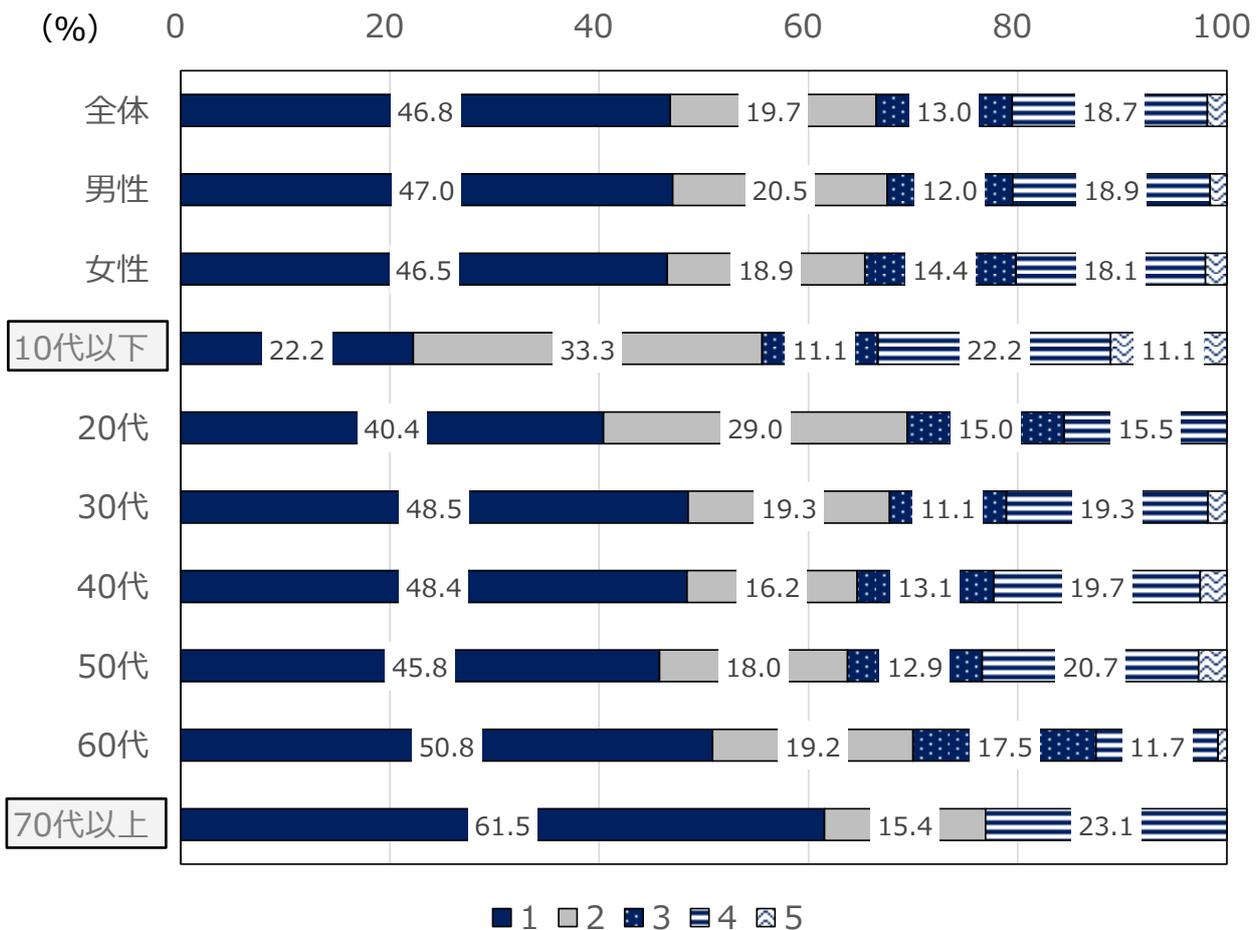
生活に困窮する方への施策については、全体で「就労支援（職業相談や就労のための訓練、就労後の支援等）」が46.8%で最も高く、次いで「金銭に関わる支援（家計相談、生活再建のための貸付等）」が19.7%、「教育支援（学習や進学への支援）」が18.7%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

年代別では、「就労支援（職業相談や就労のための訓練、就労後の支援等）」が各年代で4割を超え最も割合の大きい項目となっているが、20代では「金銭に関わる支援（家計相談、生活再建のための貸付等）」も29.0%と高くなっている。

**【選択肢】**

- 1 就労支援（職業相談や就労のための訓練、就労後の支援等）
- 2 金銭に関わる支援（家計相談、生活再建のための貸付等）
- 3 居住にかかわる支援（住居の一時的な提供、家賃の補助等）
- 4 教育支援（学習や進学への支援）
- 5 その他



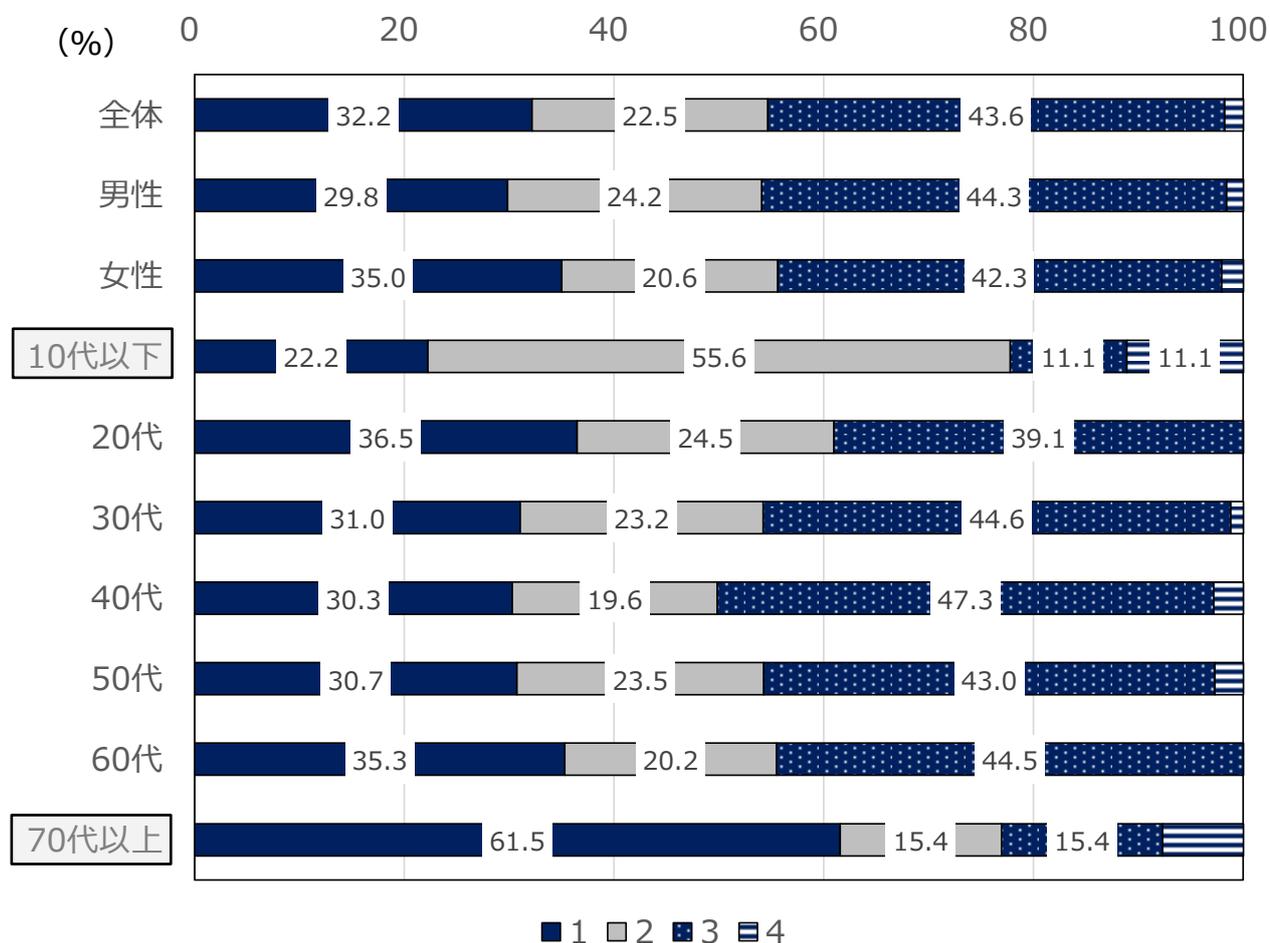
**Q 4 30年後小山市において、生活に困窮する方も子どもの貧困もなくなっていることが理想ですが、完全になくなっていない場合にはどのような支援がなされるべきですか。【n=1,290】**

生活に困窮する方や子どもの貧困への支援については、全体で「生活に困窮する方が、自分の力で自立できる（自助）周辺環境の整備を行う。」が43.6%で最も高く、次いで「生活に困窮する方への支援を行政が積極的に行う。（公助）」が32.2%、「生活に困窮する方への支援を、市民・地域が共に行う。（共助）」が22.5%となっている。

性別・年代別においても同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 生活に困窮する方への支援を行政が積極的に行う。（公助）
- 2 生活に困窮する方への支援を、市民・地域が共に行う。（共助）
- 3 生活に困窮する方が、自分の力で自立できる（自助）周辺環境の整備を行う。
- 4 その他



### ③ ひきこもり相談支援

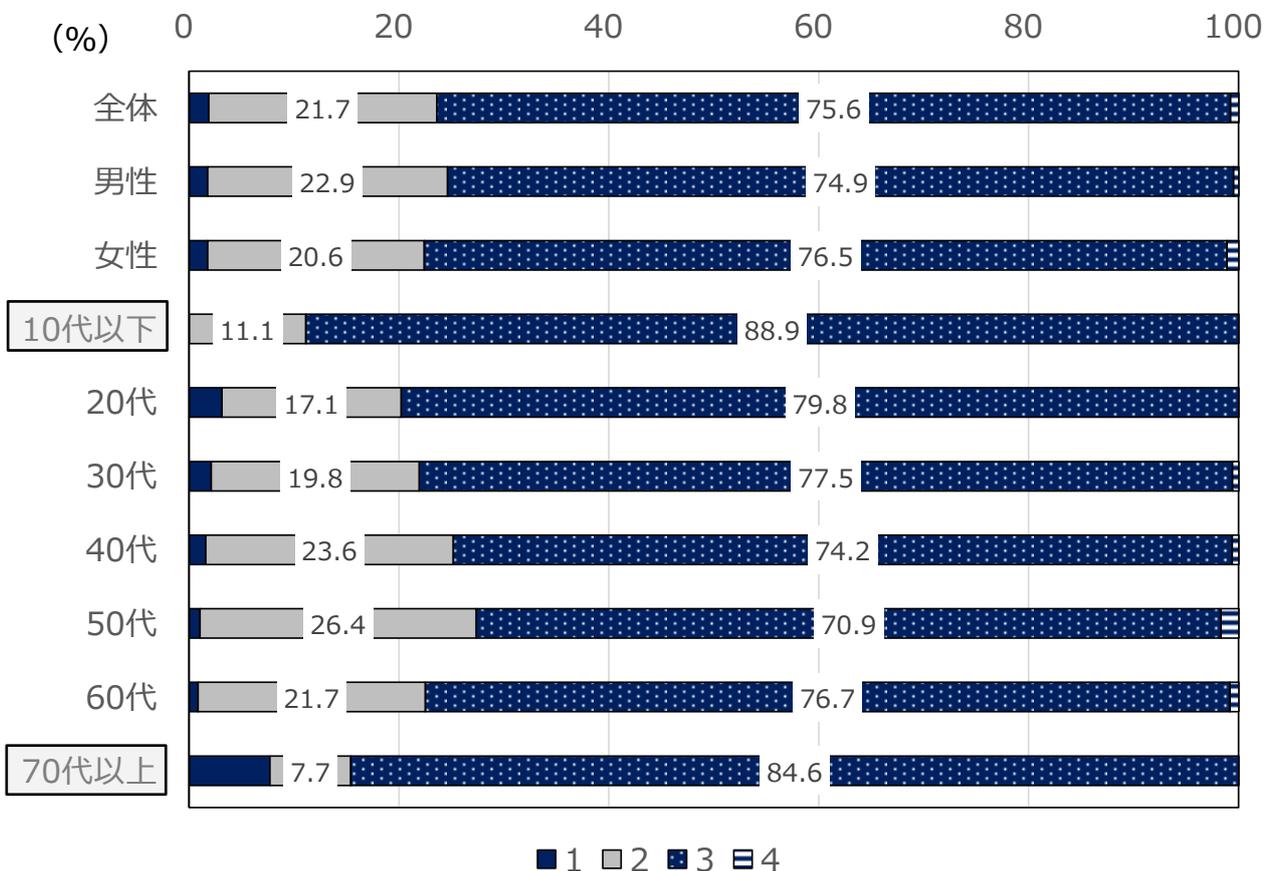
**Q1 あなた自身がひきこもりの状態にあったり、ひきこもりの状態にある人と関わりを持ったことがありますか。【n=1,297】**

ひきこもりの状態については、全体で「どちらでもない。」が75.6%で最も高く、次いで「ひきこもりの状態にはないが、ひきこもりの状態にある人と関わりを持ったことがある。」が21.7%となっている。

性別・年代別においても同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 ひきこもりの状態にある。
- 2 ひきこもりの状態にはないが、ひきこもりの状態にある人と関わりを持ったことがある。
- 3 どちらでもない。
- 4 その他



**Q2 Q1で1、2と答えた方に質問します。あなた自身あるいはあなたが関わりを持ったひきこもりの状態にある人は、いずれかの支援を受けていましたか。【n=305】**

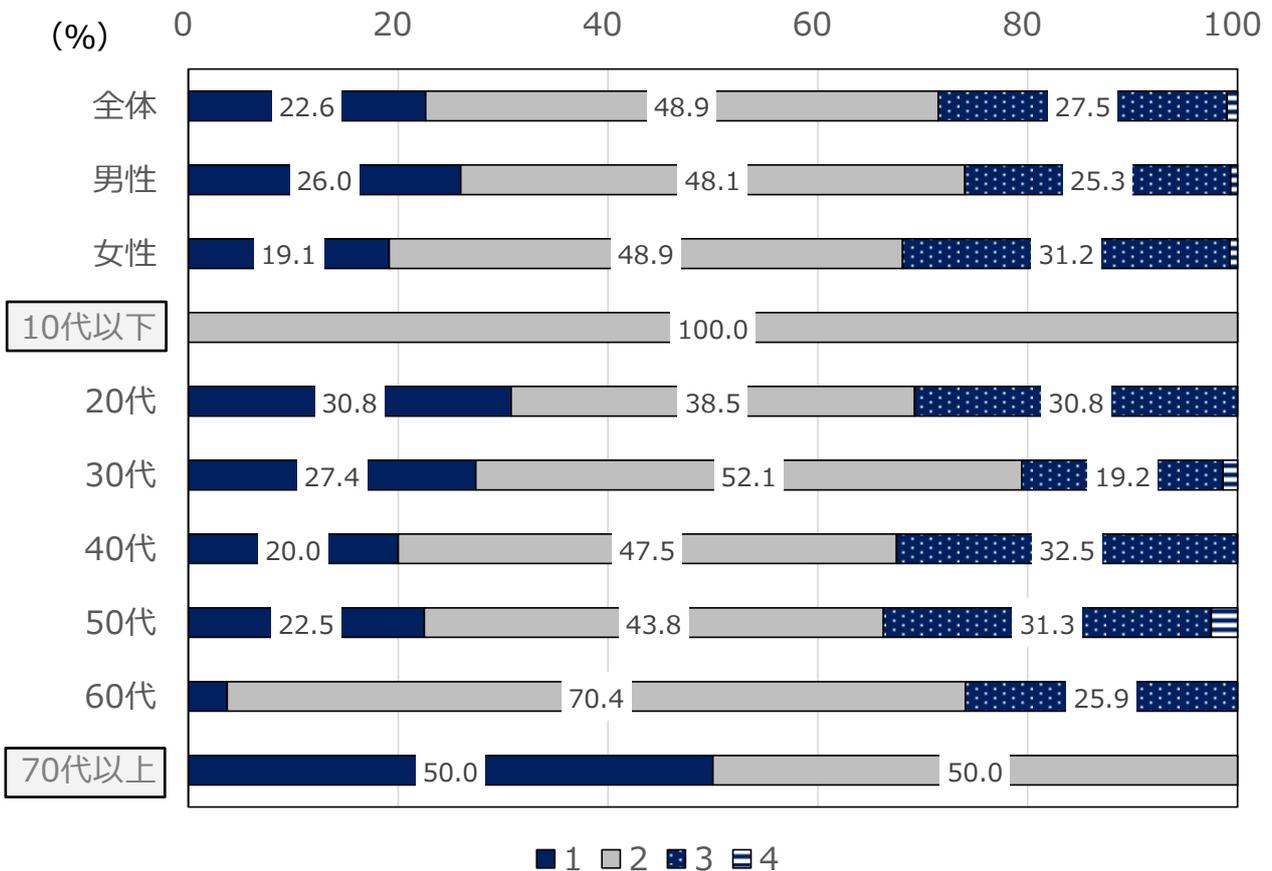
ひきこもりへの支援については、全体で「いずれの支援も受けていない。」が48.9%で最も高く、次いで「わからない。」が27.5%、「栃木県や小山市あるいは民間団体の支援を受けている。」が22.6%となっている。

性別では、「いずれの支援も受けていない。」が男女とも5割程度となっているが、「栃木県や小山市あるいは民間団体の支援を受けている。」が女性に比べて男性がやや高くなっている

年代別では、「いずれの支援も受けていない。」が60代を除き4割から5割程度、60代では7割となっている。

**【選択肢】**

- 1 栃木県や小山市あるいは民間団体の支援を受けている。
- 2 いずれの支援も受けていない。
- 3 わからない。
- 4 その他



**Q3 Q2で2と答えた方に質問します。支援を受けていない理由は分かりますか。【n=156】**

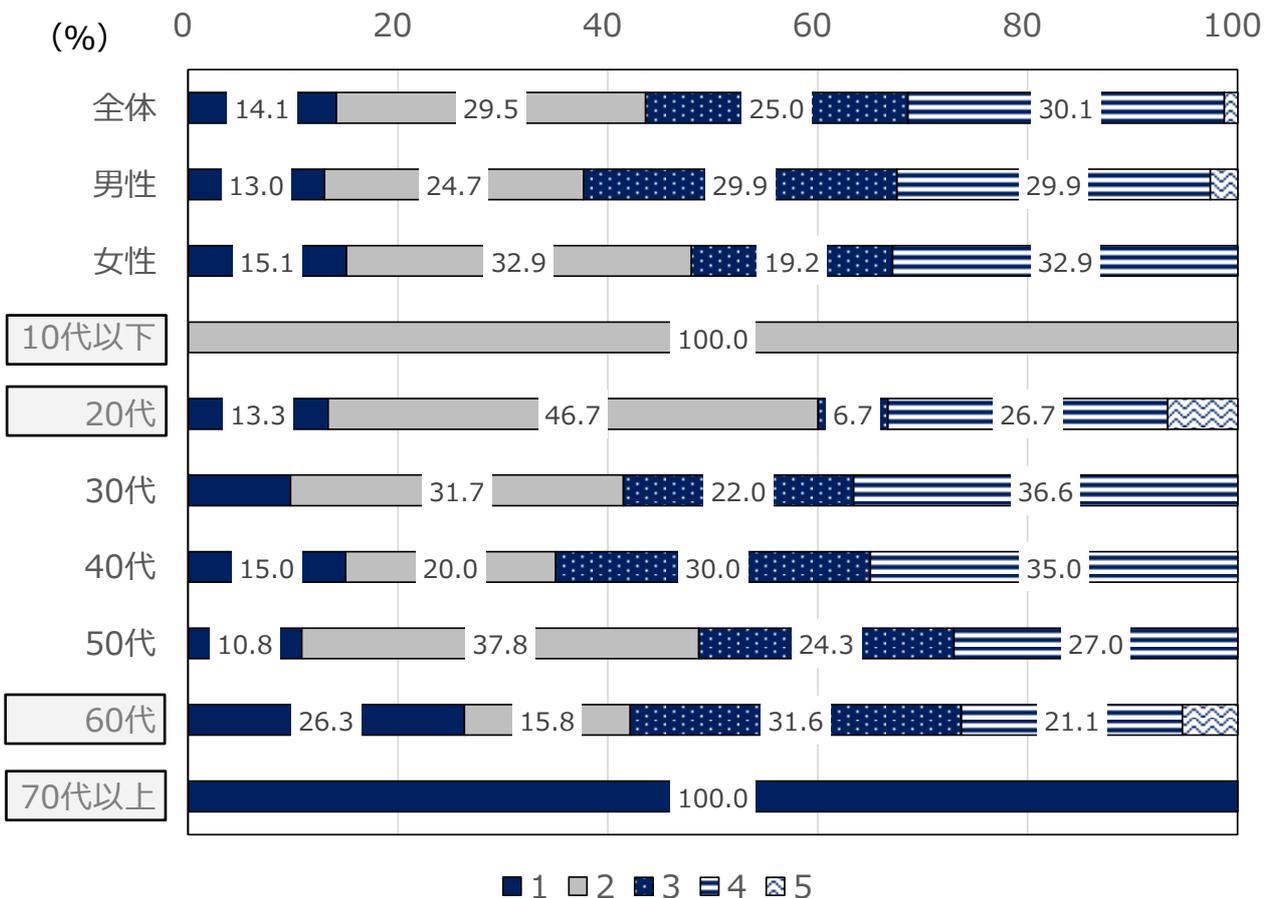
支援を受けていない理由については、全体で「理由はわからない。」が30.1%で最も高く、次いで「支援があるのを知らない。」が29.5%、「支援があるのを知っているが受けがらない。」が25.0%となっている。

性別では、「支援があるのを知らない。」が男性に比べて女性で高く、「支援があるのを知っているが受けがらない。」が女性に比べて男性で高くなっている。

年代別では、「理由はわからない。」が20～30代で最も割合が大きく、50代では「支援があるのを知らない。」となっている。

**【選択肢】**

- 1 支援を受けたいが適当な支援がない。
- 2 支援があるのを知らない。
- 3 支援があるのを知っているが受けがらない。
- 4 理由はわからない。
- 5 その他



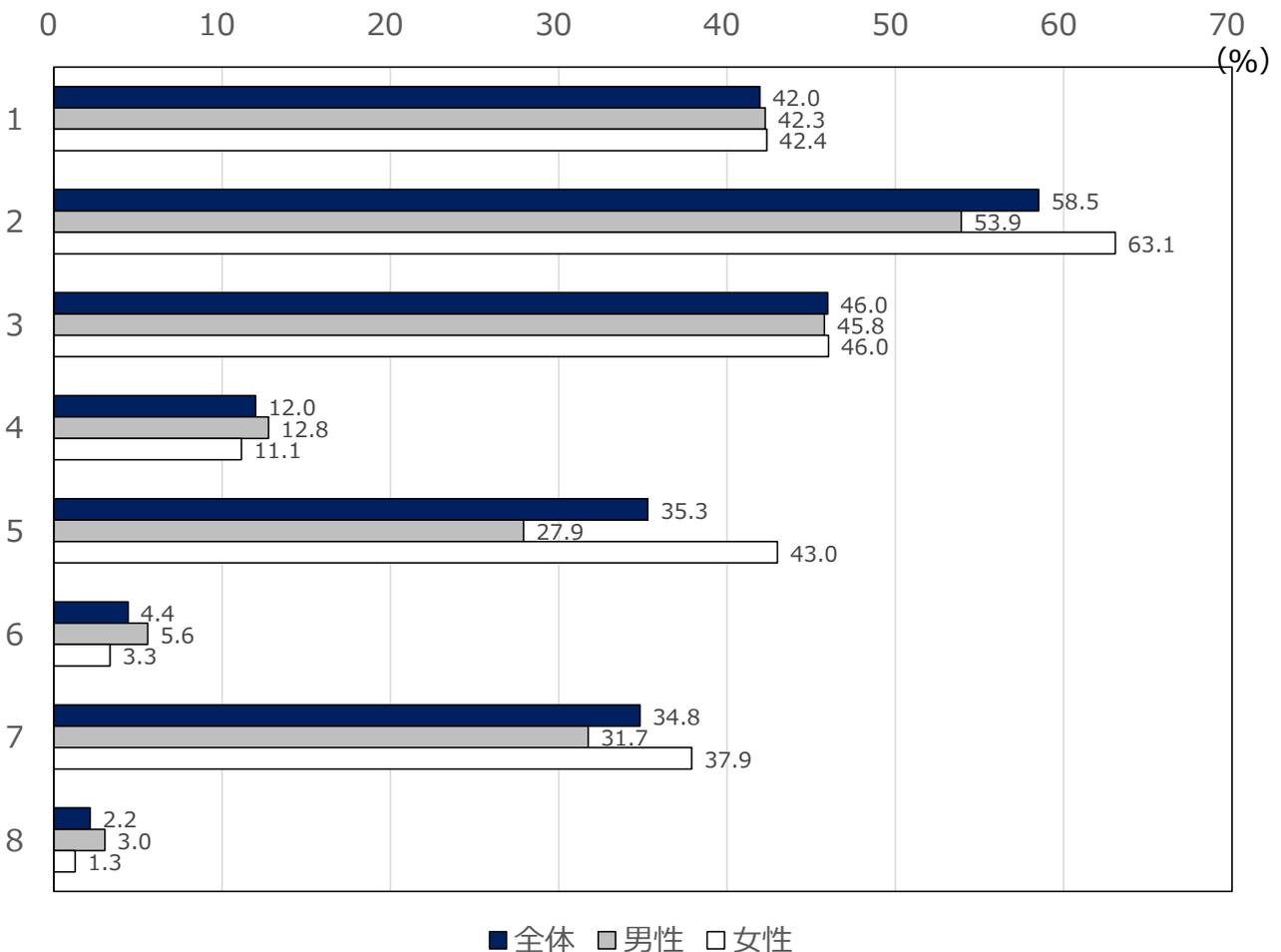
**Q 4 30 年後にひきこもりの状態にある人や家族のすべてが支援を受けられるようにするためには、ひきこもり相談支援としてどのような支援が重要だと考えますか。(3 つまで選択可)【n=1,292】**

ひきこもり相談支援として重要な支援については、全体で「専門的な医療支援やカウンセリング支援」が 58.5%で最も高く、次いで「就労支援など社会との接点を持つ機会の提供」が 46.0%、「相談窓口やフリースペースなど当事者に寄り添った相談支援」が 42.0%となっている。

性別では、「専門的な医療支援やカウンセリング支援」及び「家族サロンなどの家族に寄り添った相談支援」は男性に比べて女性の割合が大きくなっている。

**【選択肢】**

- 1 相談窓口やフリースペースなど当事者に寄り添った相談支援
- 2 専門的な医療支援やカウンセリング支援
- 3 就労支援など社会との接点を持つ機会の提供
- 4 当事者の生活を支える金銭的な支援
- 5 家族サロンなどの家族に寄り添った相談支援
- 6 地域社会への講演会や研修の開催
- 7 支援を受けることを促す継続的働きかけ
- 8 その他



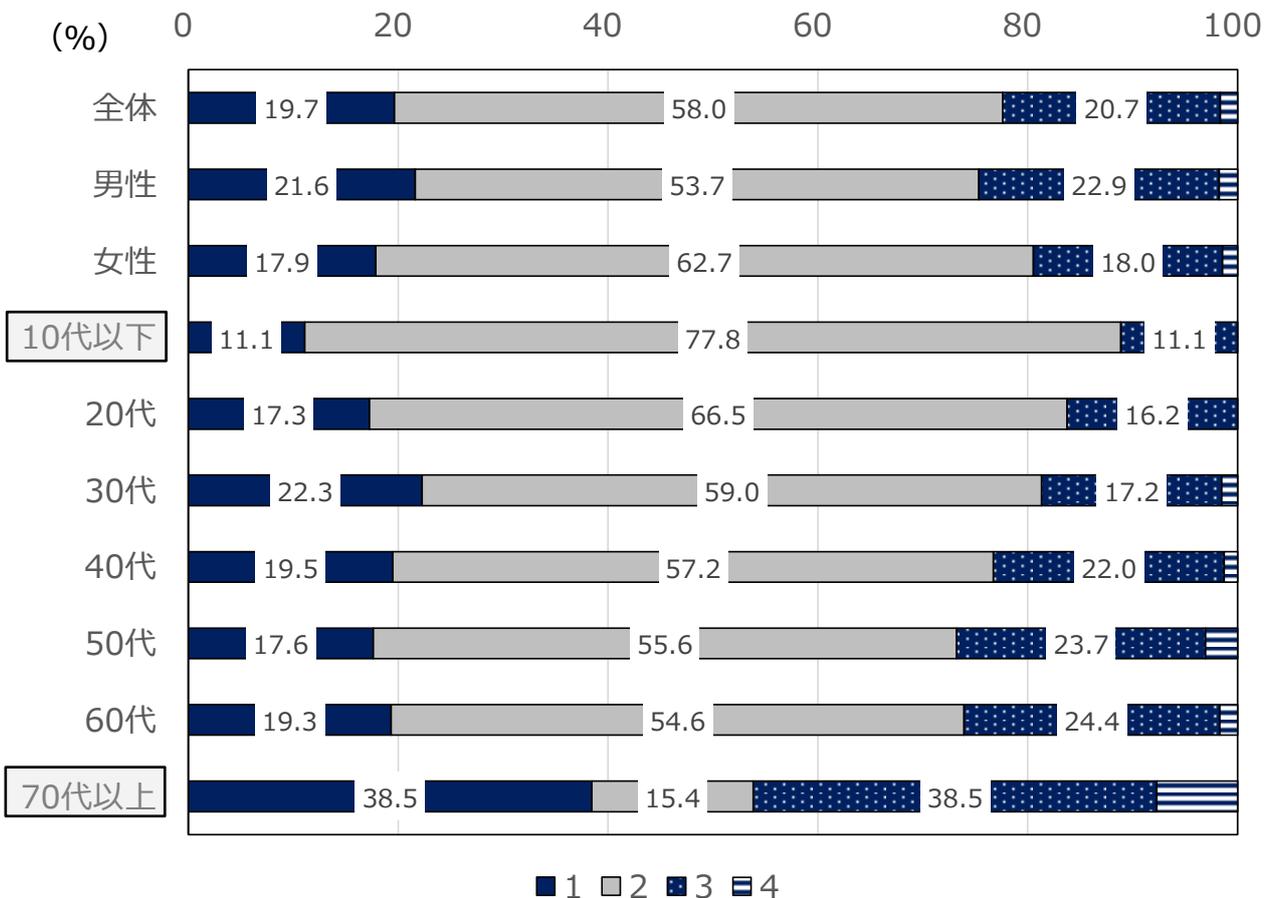
**Q5 小山市の今後のひきこもり相談支援について、どのような方向性を目指すべきと考えますか。【n=1,292】**

ひきこもり支援の方向性については、全体で「本人の意思を尊重し、その人らしく自立した生活を送れるような社会を目指すべきである。」が58.0%で最も高く、次いで「ひきこもり相談窓口の充実や相談員の育成・確保など行政支援が充実した社会を目指すべきである。」が20.7%、「ひきこもりは社会全体の問題であるため、地域で支え合う共生社会を目指すべきである。」が19.7%となっている。

性別・年代別を問わず「本人の意思を尊重し、その人らしく自立した生活を送れるような社会を目指すべきである。」が最も割合の大きい項目となっているが、5割から7割弱となっている。

**【選択肢】**

- 1 ひきこもりは社会全体の問題であるため、地域で支え合う共生社会を目指すべきである。
- 2 本人の意思を尊重し、その人らしく自立した生活を送れるような社会を目指すべきである。
- 3 ひきこもり相談窓口の充実や相談員の育成・確保など行政支援が充実した社会を目指すべきである。
- 4 その他



#### ④ 地域医療体制

**Q1 かかりつけ医（医科・歯科・薬局）を持つメリットとして、スムーズな受診、病気の早期発見、専門医の紹介、健康の管理などが挙げられます。あなた自身、かかりつけ医をお持ちですか。【n=1,293】**

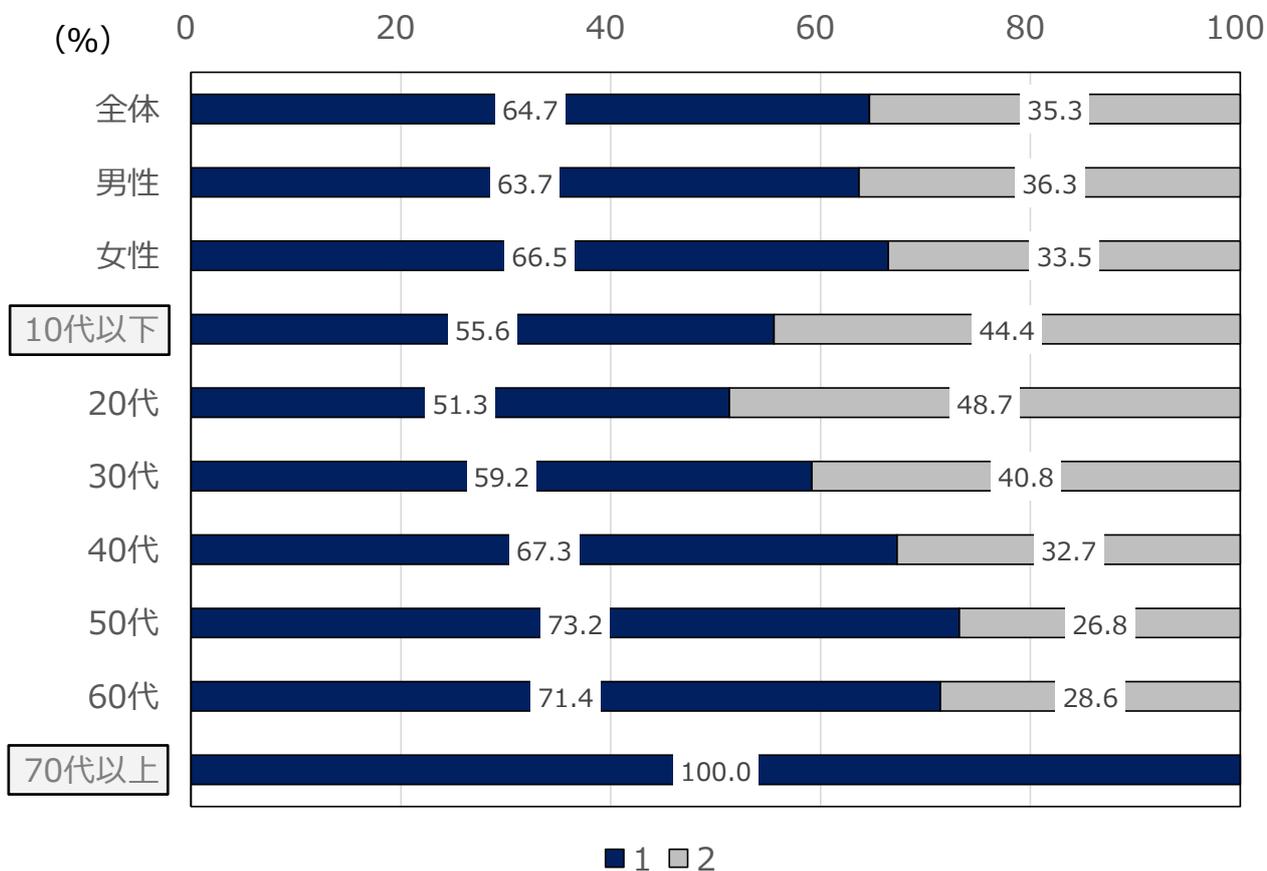
かかりつけ医を持っているかについては、「持っている。」が64.7%、「持っていない。」が35.3%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

年代別では、「持っている。」が5割から7割となっており、割合は年代が上がるにつれて大きくなる傾向にある。

##### 【選択肢】

- 1 持っている。
- 2 持っていない。

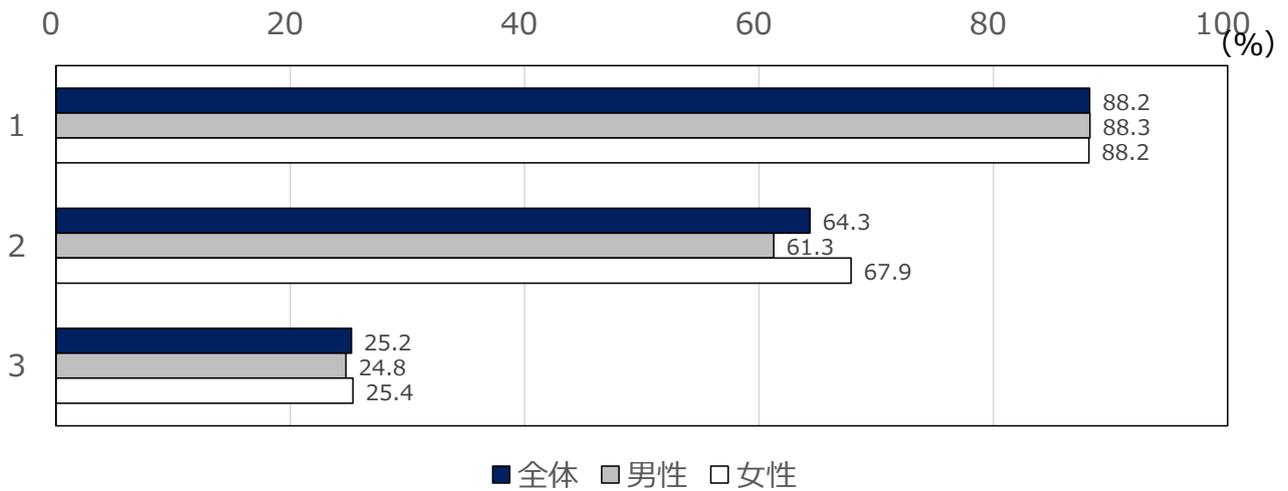


**Q2 お持ちのかかりつけ医について、当てはまるものをお選びください。(複数選択可)【n=833】**

お持ちのかかりつけ医については、全体で「医科について持っている。」が88.2%で最も高く、次いで「歯科について持っている。」が64.3%、「薬局について持っている。」が25.2%となっている。男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 医科について持っている。
- 2 歯科について持っている。
- 3 薬局について持っている。



**Q3 医療機関の機能分担と相互連携を推進するため、初期診療はクリニックや診療所等のかかりつけ医で行い、高度・専門医療は一定規模以上の病院が行う「初診・再診時選定療養制度」が定められています。あなたは、(ア) 高度・専門医療機関にかかる際、かかりつけ医からの紹介状が必要であり、(イ) 紹介状がない場合「選定療養費」(初診時 7,000 円以上、再診時 3,000 円以上)を支払う必要があることを知っていますか。【n=1,293】**

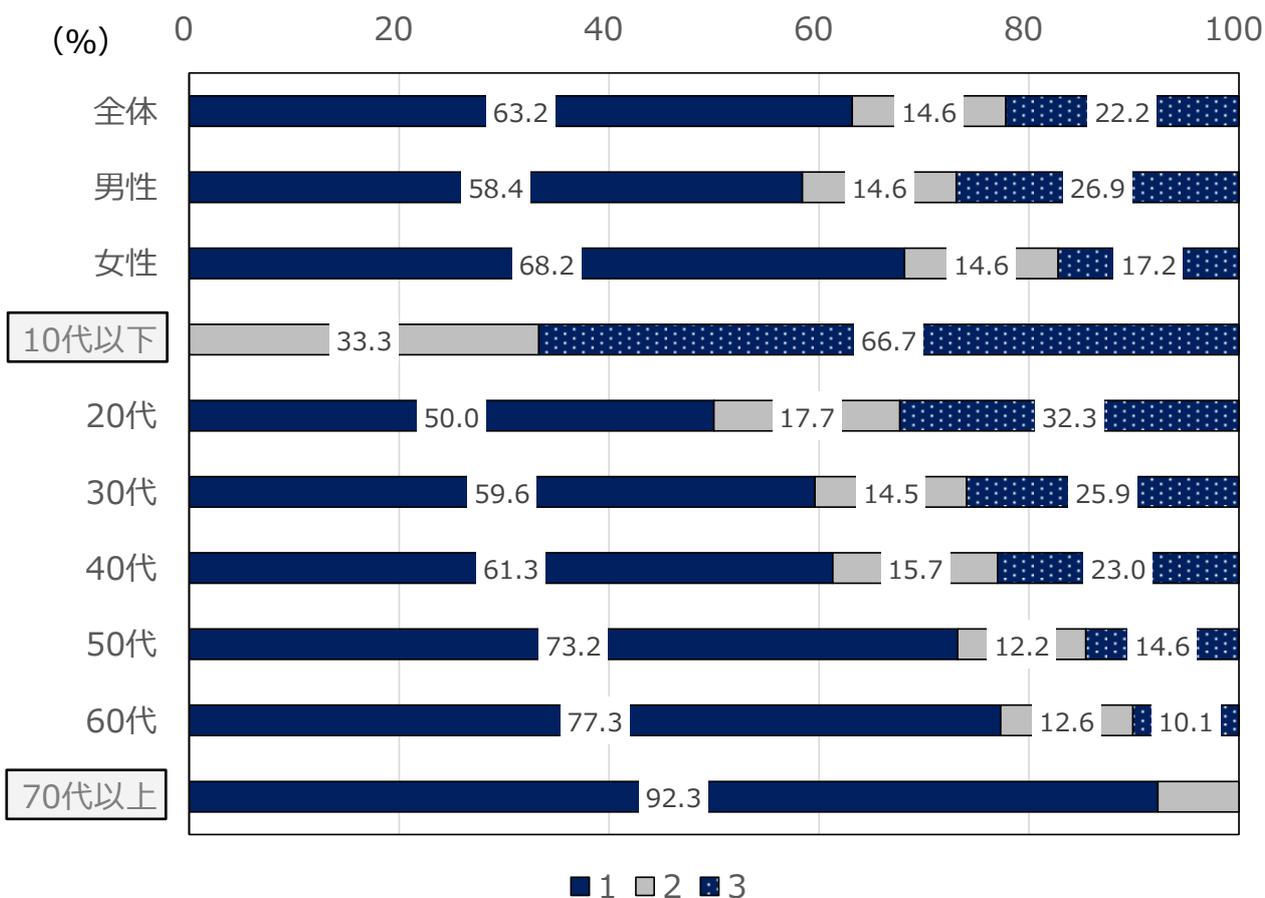
医療機関の機能分担と相互連携を推進については、全体で「(ア) も (イ) も知っている。」が 63.2%で最も高く、次いで「(ア) も (イ) も知らない。」が 22.2%、「(ア) は知っているが (イ) は知らない。」が 14.6%となっている。

性別では、「(ア) も (イ) も知っている。」が男性で 58.4%である一方、女性で 68.2%と高くなっている。

年代別では、「(ア) も (イ) も知っている。」が 5 割から 8 割となっており、割合は年代が上がるにつれて大きくなっている。

**【選択肢】**

- 1 (ア) も (イ) も知っている。
- 2 (ア) は知っているが (イ) は知らない。
- 3 (ア) も (イ) も知らない。



**Q 4 30年後の望ましい医療体制、受診体制は今後どうあるべきと思いますか。【n=1,288】**

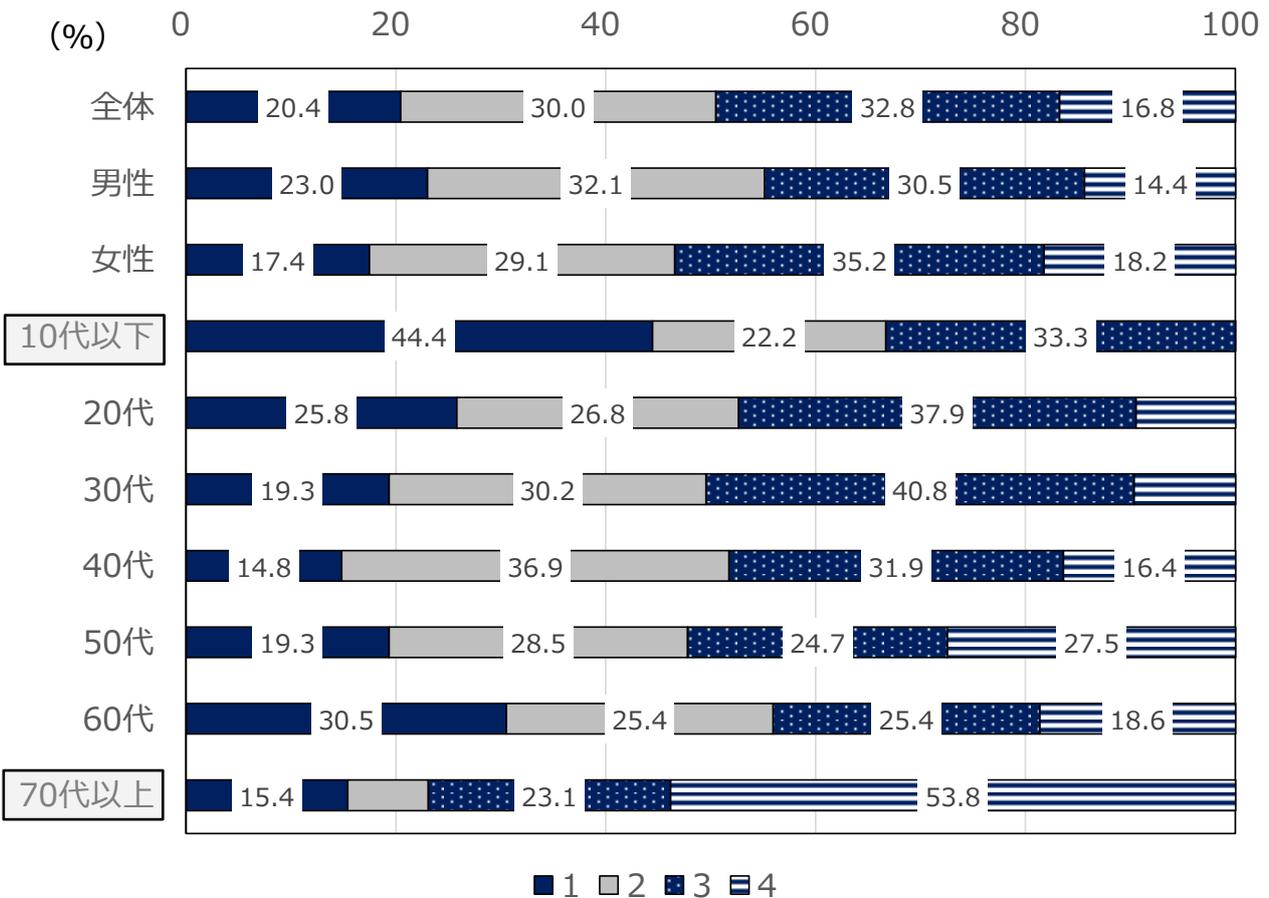
医療体制、受診体制が今後どうあるべきかについては、全体で「365日・24時間受診できる医療機関やオンライン診療ができる医療機関がある体制。」が32.8%で最も高く、次いで「かかりつけ医と高度医療機関等がICTを活用し、効果的に診療情報が共有できる体制。」が30.0%、「すべての市民がかかりつけ医を持ち、気軽に健康の相談ができる体制。」が20.4%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

年代別では、「365日・24時間受診できる医療機関やオンライン診療ができる医療機関がある体制。」が20～30代で最も割合が大きく、40～50代では「かかりつけ医と高度医療機関等がICTを活用し、効果的に診療情報が共有できる体制。」、60代では「すべての市民がかかりつけ医を持ち、気軽に健康の相談ができる体制。」となっている。

**【選択肢】**

- 1 すべての市民がかかりつけ医を持ち、気軽に健康の相談ができる体制。
- 2 かかりつけ医と高度医療機関等がICTを活用し、効果的に診療情報が共有できる体制。
- 3 365日・24時間受診できる医療機関やオンライン診療ができる医療機関がある体制。
- 4 在宅医療と介護が一体的に提供され、在宅療養者が安心して地域で暮らせる体制。



## ⑤ 健康づくり

### Q1 あなたはご自身が「健康」であると思いますか？【n=1,294】

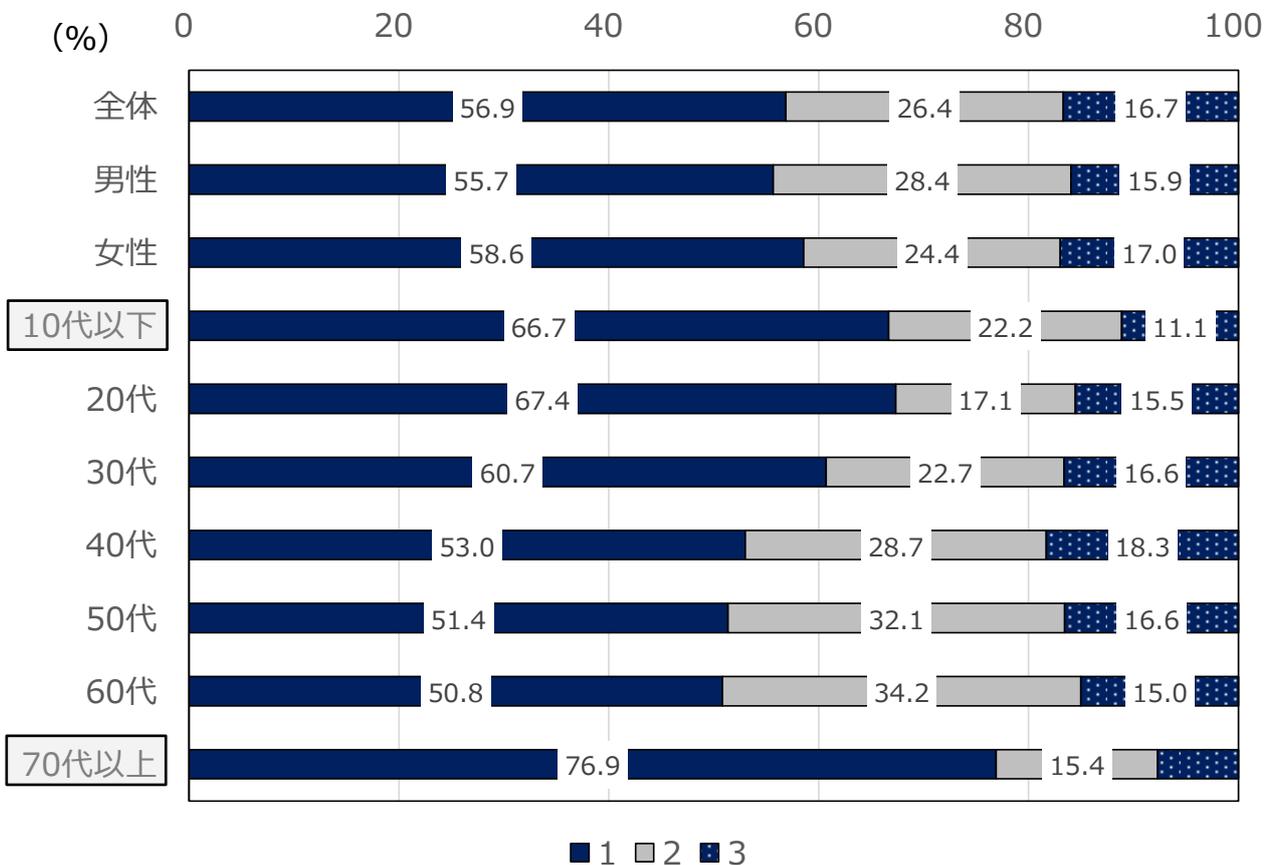
自身が「健康」であると思うかについては、全体で「はい。」が56.9%で最も高く、次いで「いいえ。」が26.4%、「わからない。」が16.7%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

年代別では、「はい。」が5割から7割超となっており、割合は年代が上がるにつれて小さくなっている。

#### 【選択肢】

- 1 はい。
- 2 いいえ。
- 3 わからない。



**Q2 あなたが理想とする健康寿命を教えてください。【n=1,295】**

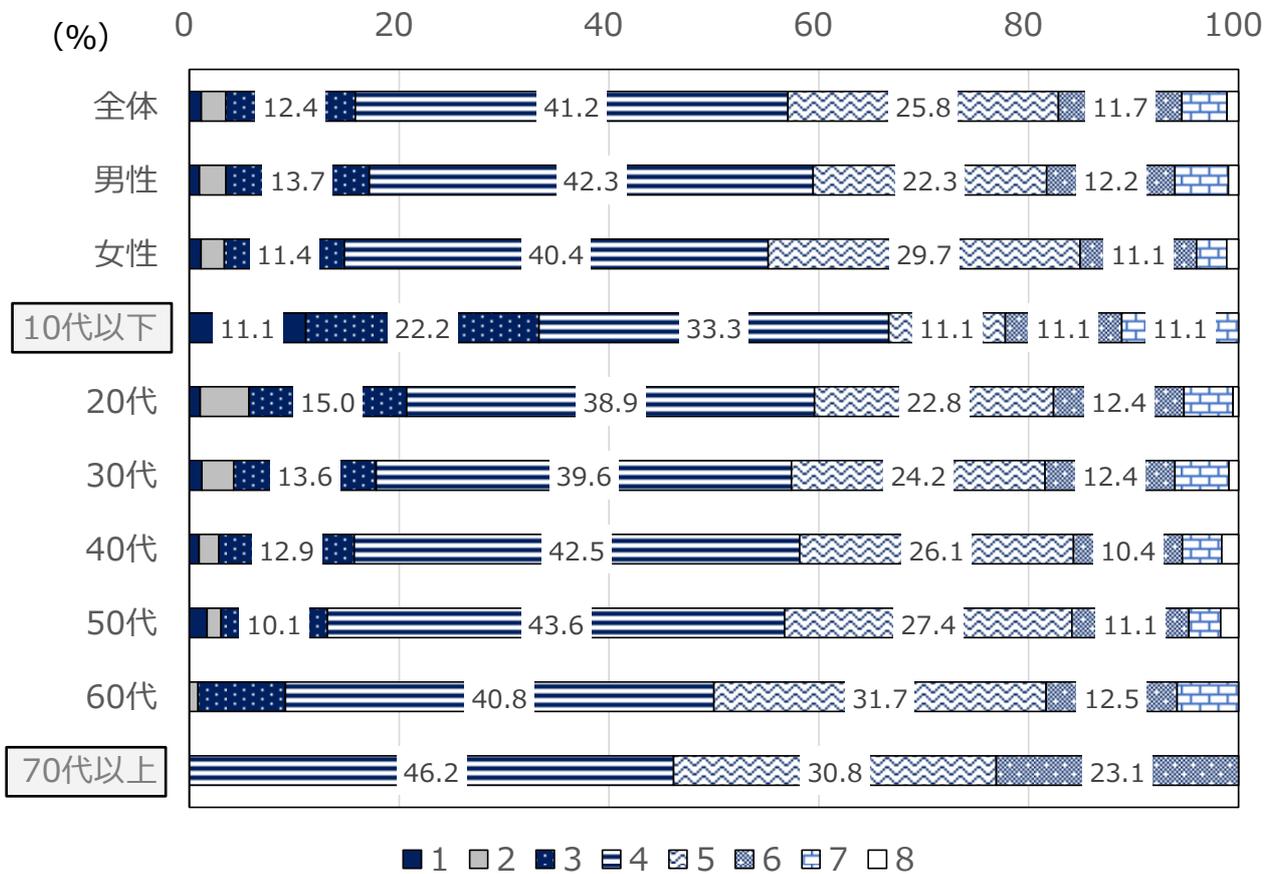
理想とする健康寿命については、全体で「～80歳」が41.2%で最も高く、次いで「～90歳」が25.8%、「～70歳」が12.4%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

年代別では、全体同様「～80歳」が4割となっているが、「～90歳」の割合は年代が上がるにつれて大きくなる傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 ～50歳
- 2 ～60歳
- 3 ～70歳
- 4 ～80歳
- 5 ～90歳
- 6 ～100歳
- 7 100歳超
- 8 その他



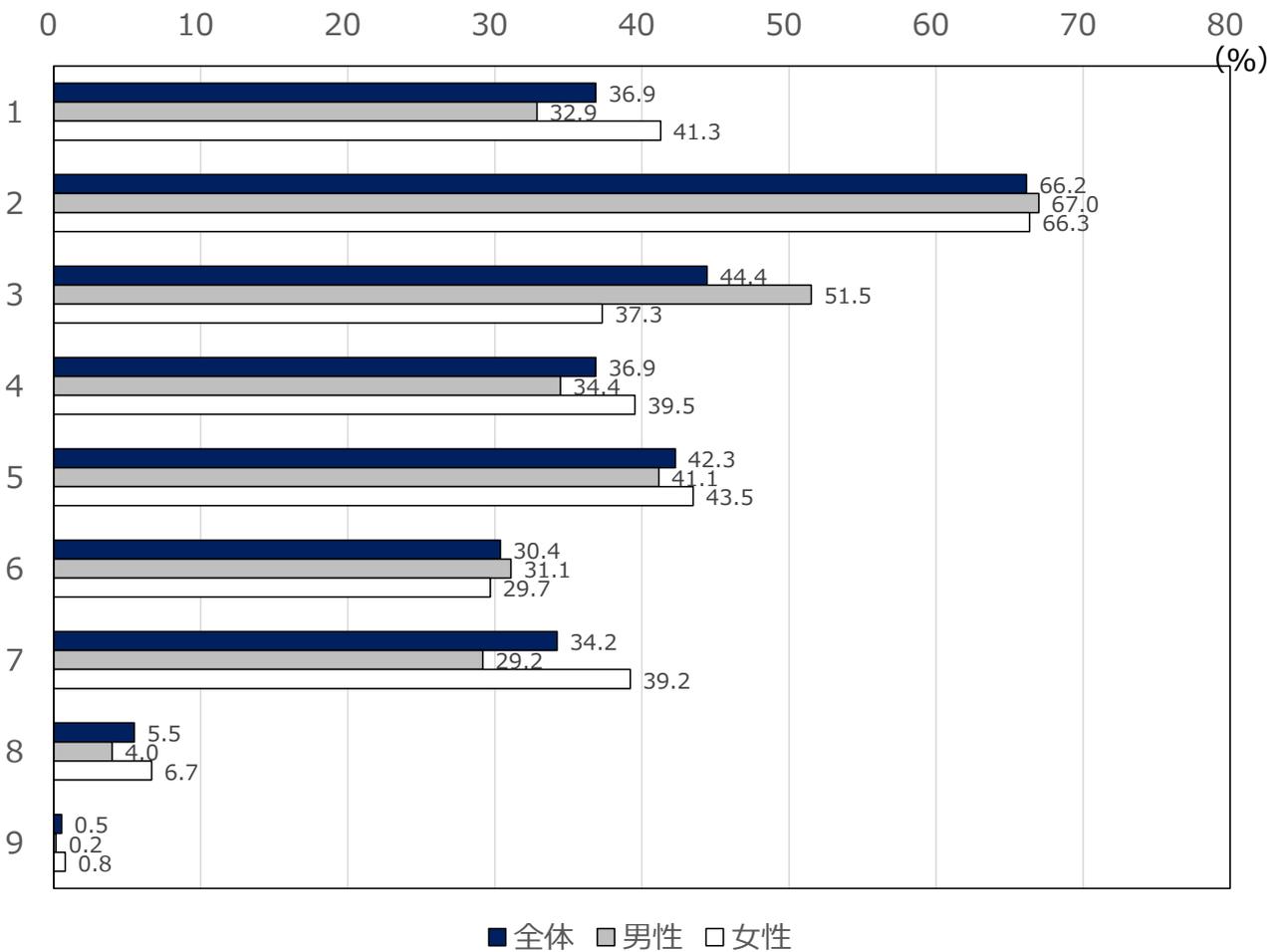
**Q3 健康のためにあなた自身でできることとして、既実践していることや興味があることを教えてください。(複数選択可)【n=1,294】**

健康のために自身でできることについては、全体で「健康診断や人間ドックの受診による健康状態の把握」が66.2%で最も高く、次いで「運動習慣による生活習慣病予防」が44.4%、「規則正しい生活」が42.3%となっている。

性別では、「心の健康とストレス管理」や「予防接種による感染症予防」が男性に比べて女性で高く、「運動習慣による生活習慣病予防」が女性に比べて男性で高くなっている。また、「特に行っていることはない」と「その他」を除いた項目は最低でも3割程度の回答割合となっている。

**【選択肢】**

- |                           |                |
|---------------------------|----------------|
| 1 予防接種による感染症予防            | 5 規則正しい生活      |
| 2 健康診断や人間ドックの受診による健康状態の把握 | 6 禁煙           |
| 3 運動習慣による生活習慣病予防          | 7 心の健康とストレス管理  |
| 4 適切な食事による栄養管理            | 8 特に行っていることはない |
|                           | 9 その他          |



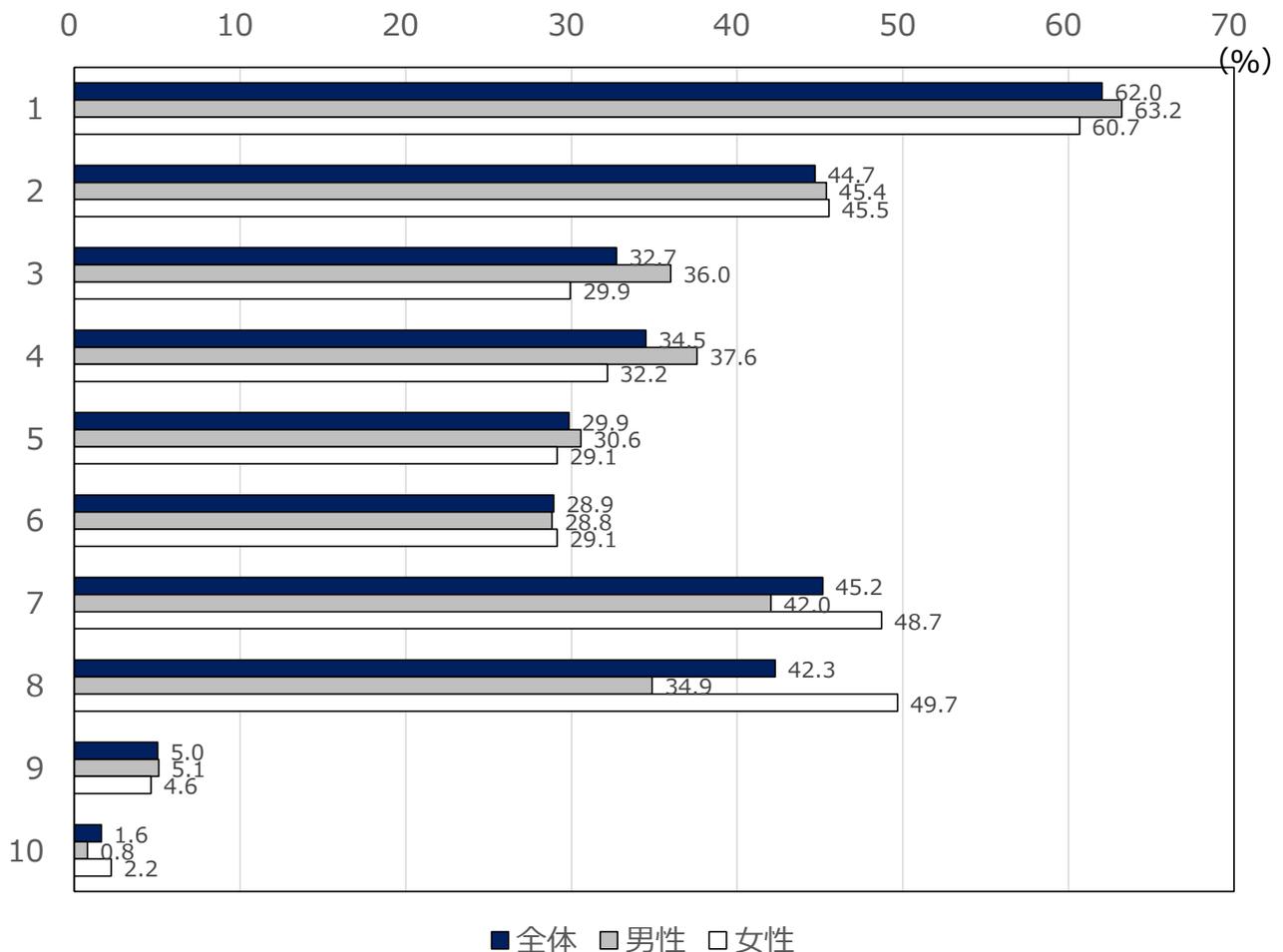
**Q 4 あなた自身の健康に関して不安に思うことがあったら教えてください。(複数選択可)【n = 1,293】**

自身の健康に関する不安については、全体で「体力の衰え」が62.0%で最も高く、次いで「認知症に関すること」が45.2%、「がんになること」が44.7%となっている。

性別では、「ストレス等こころの健康に関すること」は男性に比べて女性の割合が大きくなっているが、「特に心配していない」と「その他」を除いた項目は最低でも3割程度の回答割合となっている。

**【選択肢】**

- |                        |                     |
|------------------------|---------------------|
| 1 体力の衰え                | 6 虫歯や歯周病等歯に関すること    |
| 2 がんになること              | 7 認知症に関すること         |
| 3 心筋梗塞や心不全等心臓の病気に関すること | 8 ストレス等こころの健康に関すること |
| 4 脳卒中や脳梗塞等脳の病気に関すること   | 9 特に心配していない         |
| 5 腰や膝等の病気に関すること        | 10 その他              |



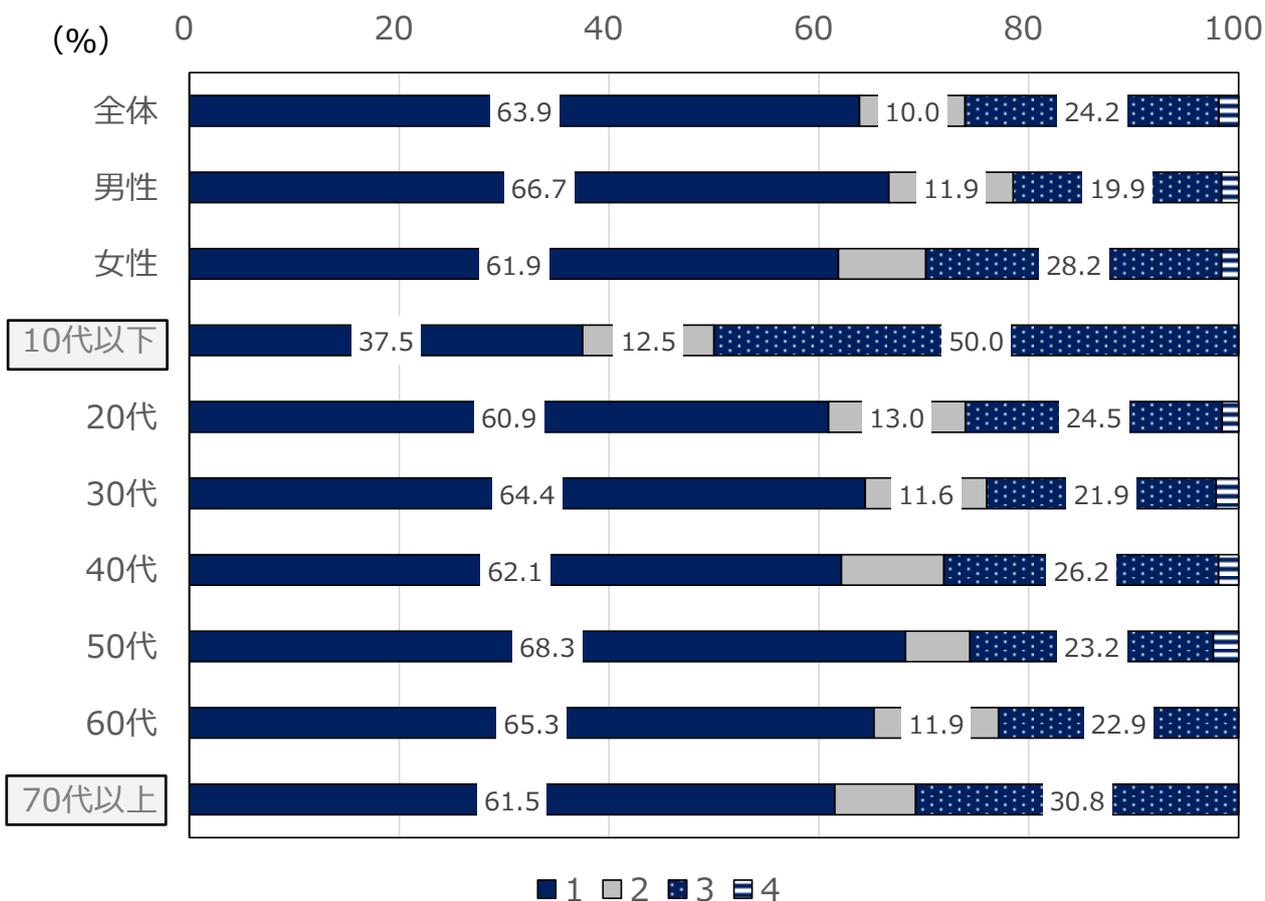
**Q5 30年後の小山市において、健康寿命が平均寿命にさらに近づき、市民一人ひとりが健康で過ごせるまちであるために、どのような施策を優先すべきだと思いますか。【n=1,285】**

市民一人ひとりが健康で過ごせるまちであるために優先する施策については、全体で「市民が自らの意思で健康維持ができるような支援・啓発を充実させるべき。」が63.9%で最も高く、次いで「地域の中で健康づくりをする風潮ができるよう、コミュニティの形成や地域の事業所との連携強化を進めていくべき。」が24.2%、「行政が積極的に市民の健康管理を行うべき。」が10.0%となっている。

性別・年代別を問わず「市民が自らの意思で健康維持ができるような支援・啓発を充実させるべき。」が6割から7割となっている。

**【選択肢】**

- 1 市民が自らの意思で健康維持ができるような支援・啓発を充実させるべき。
- 2 行政が積極的に市民の健康管理を行うべき。
- 3 地域の中で健康づくりをする風潮ができるよう、コミュニティの形成や地域の事業所との連携強化を進めていくべき。
- 4 その他



## ⑥ 高齢化対策

**Q 1 あなたやご家族について、小山市の「高齢化対策事業」を利用されたことはありますか？【n = 1,289】**

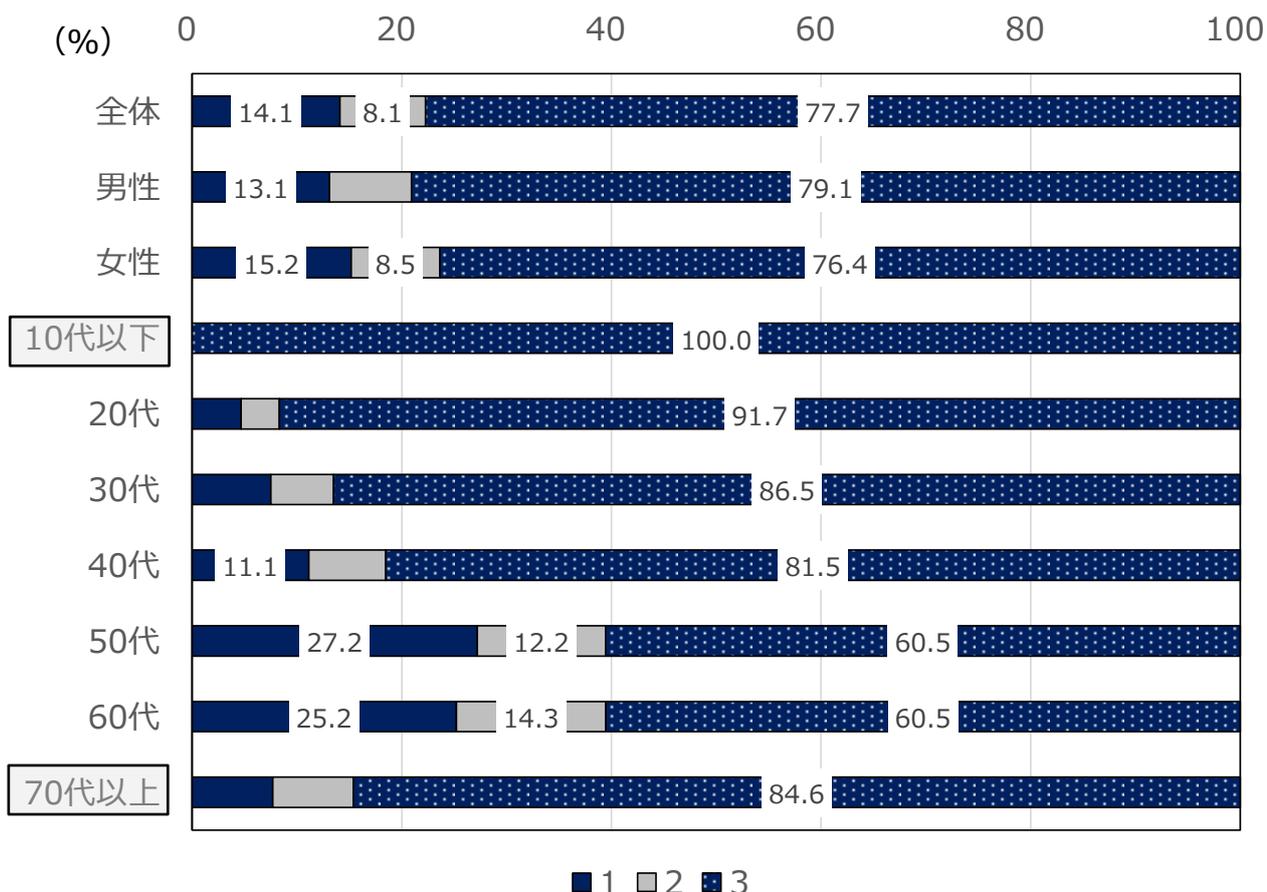
「高齢化対策事業」の利用については、全体で「利用を考えたことはない。」が 77.7%で最も高く、次いで「利用したことがある。」が 14.1%、「利用を検討したことはあるが、実際に利用をしたことはない。」が 8.1%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

年代別では、「利用を考えたことはない。」が 6割から 9割となっており、割合は年代が上がるにつれて小さくなっている。

### 【選択肢】

- 1 利用したことがある。
- 2 利用を検討したことはあるが、実際に利用をしたことはない。
- 3 利用を考えたことはない。

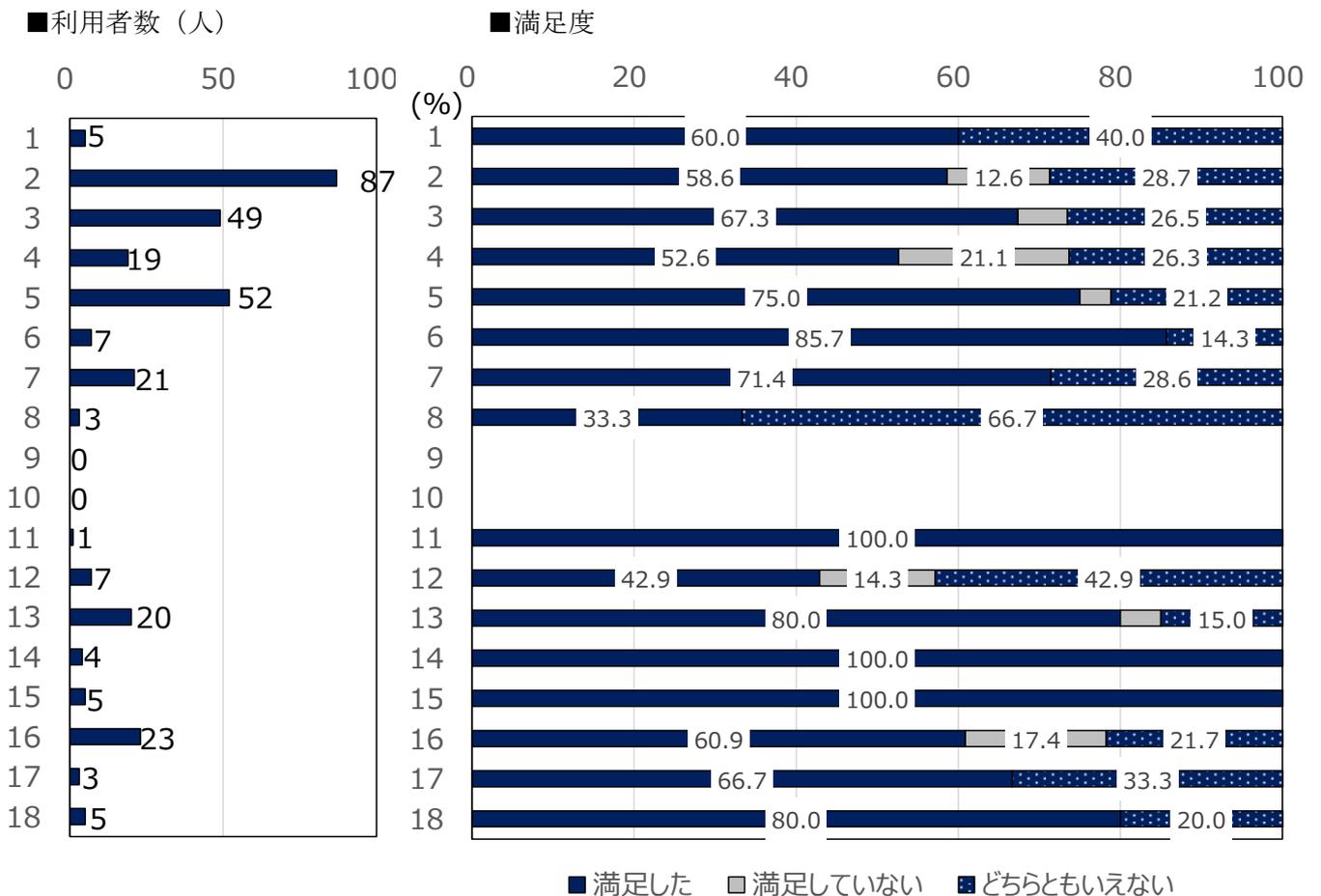


**Q2 Q1で1とお答えした方にお伺いします。どのような事業を利用されましたか。また、その結果満足されましたか？（利用回数の多い3つまで）**

利用した事業については、利用者数で「介護保険制度」が 87 人で最も高く、次いで「福祉用具貸与や購入費用の助成」が 52 人、「介護保険施設やサービス事業者の利用や費用助成」が 49 人となっている。

**【選択肢】**

- |                          |                      |
|--------------------------|----------------------|
| 1 生きがい活動                 | 10 成年後見制度            |
| 2 介護保険制度                 | 11 在宅療養支援            |
| 3 介護保険施設やサービス事業者の利用や費用助成 | 12 シルバー大学校           |
| 4 介護タクシー                 | 13 シルバー人材センター        |
| 5 福祉用具貸与や購入費用の助成         | 14 ふれあい健康センター        |
| 6 日常生活用具の給付・貸与           | 15 はり・灸・あん摩マッサージ指圧助成 |
| 7 住宅改修費の助成               | 16 敬老会・敬老祝金          |
| 8 認知症予防・支援事業             | 17 思桜会・老人クラブ         |
| 9 高齢者虐待防止事業              | 18 老人性白内障・特殊眼鏡等購入費助成 |



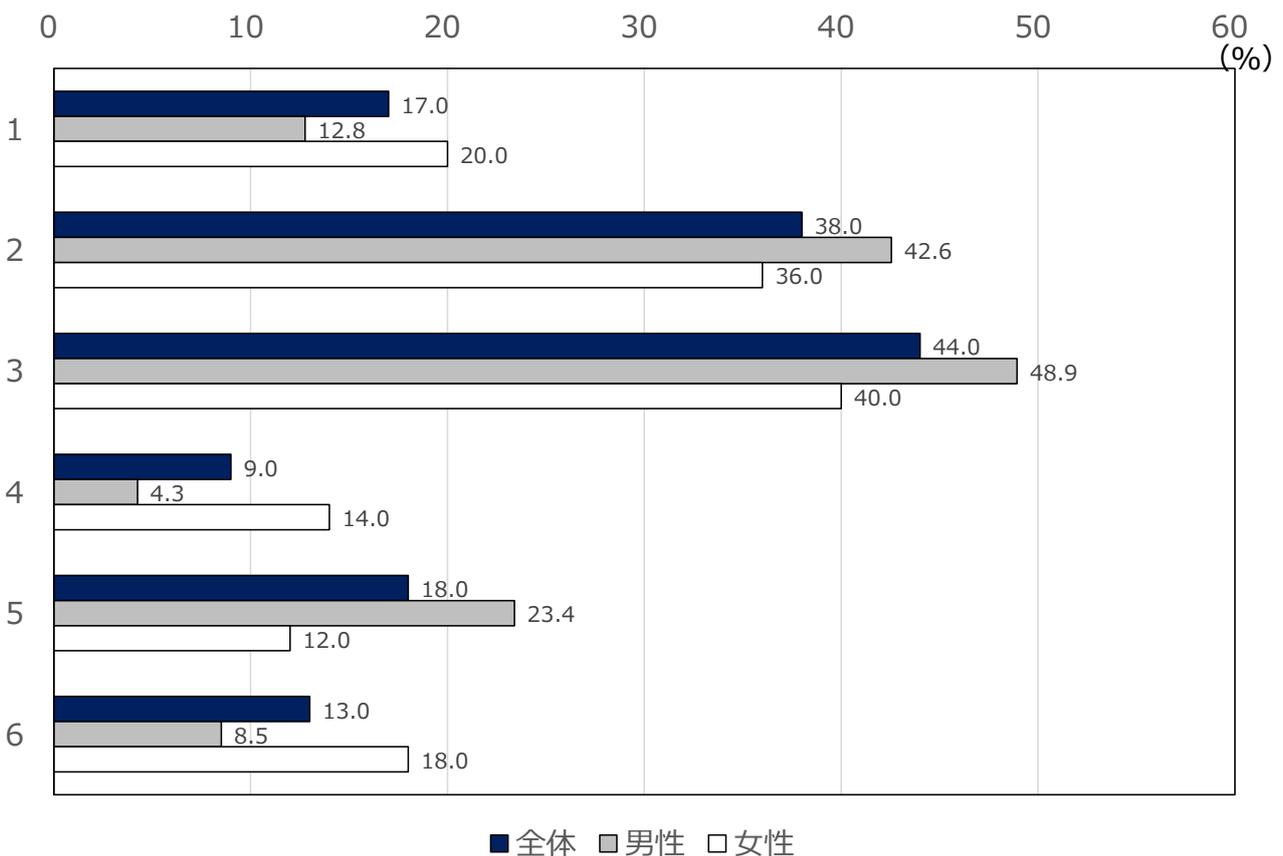
**Q3 Q1で2とお答えした方にお伺いします。利用に至らなかった理由を差し支えない範囲で教えてください。(複数選択可)【n=100】**

利用に至らなかった理由については、全体で「そもそもどのような事業があるか知らない。」が44.0%で最も高く、次いで「制度が複雑で利用方法がわからない。」が38.0%、「求めている内容に合う事業がなかった。」が18.0%となっている。

性別では、「周囲の目が気になる。」及び「その他」が男性に比べて女性で高く、「求めている内容に合う事業がなかった。」が女性に比べて男性で高くなっている。

**【選択肢】**

- 1 金銭的な事由。
- 2 制度が複雑で利用方法がわからない。
- 3 そもそもどのような事業があるか知らない。
- 4 周囲の目が気になる。
- 5 求めている内容に合う事業がなかった。
- 6 その他



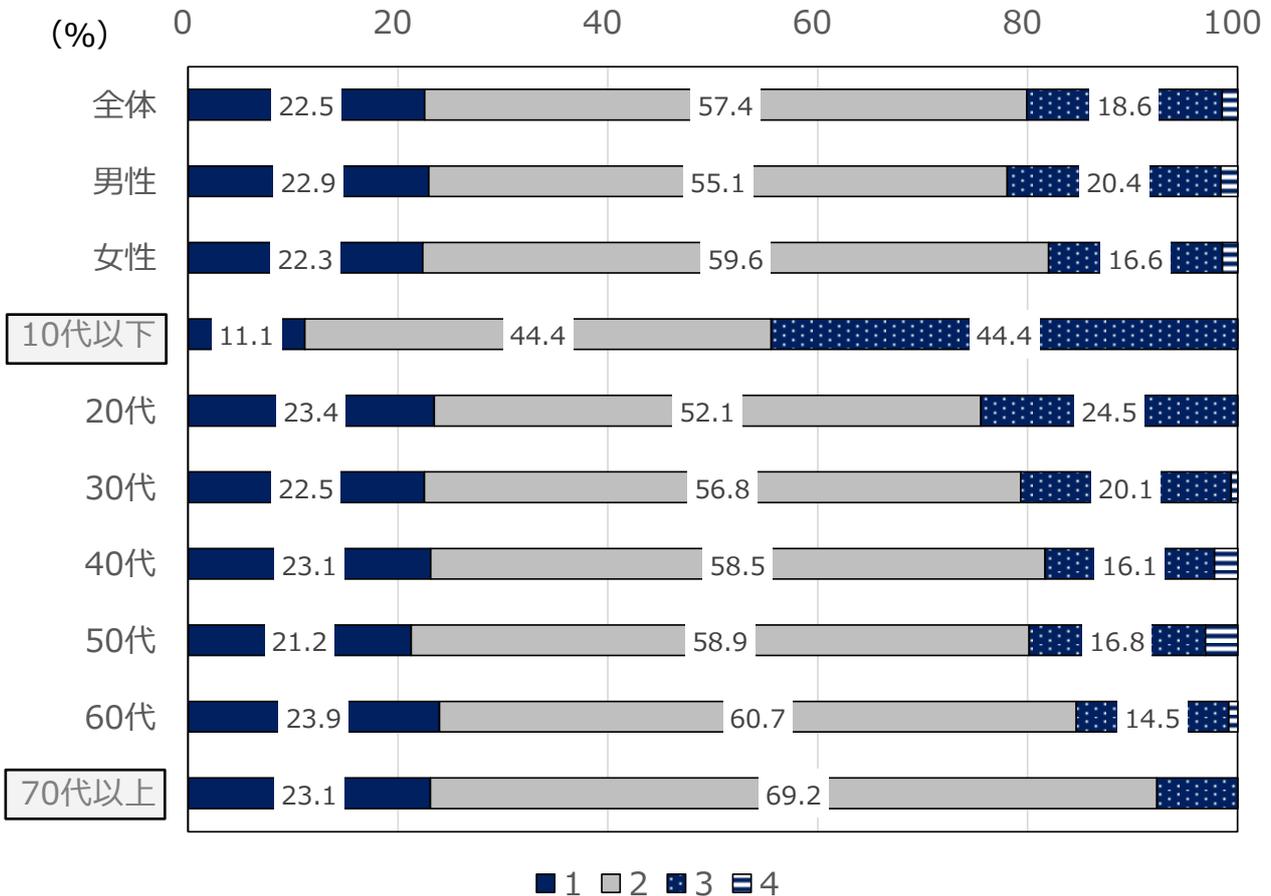
**Q 4 30年後の小山市において、高齢者が生きがいをもって健康で安心した生活を送ることができるようにするためには、どのような施策を優先すべきだと思いますか。【n=1,283】**

高齢者の生活のために優先すべき施策については、全体で「家族や周囲の人が負担なく支えていけるような支援の整備を進めるべき。」が57.4%で最も高く、次いで「高齢者本人への積極的な支援や、サポートする制度・人材の充実に力を入れるべき。」が22.5%、「地域で支え合って暮らせるような地域コミュニティの形成・維持を目指すべき。」が18.6%となっている。

性別・年代別を問わず「家族や周囲の人が負担なく支えていけるような支援の整備を進めるべき。」が5割から6割で最も割合の大きい項目となっている。

**【選択肢】**

- 1 高齢者本人への積極的な支援や、サポートする制度・人材の充実に力を入れるべき。
- 2 家族や周囲の人が負担なく支えていけるような支援の整備を進めるべき。
- 3 地域で支え合って暮らせるような地域コミュニティの形成・維持を目指すべき。
- 4 その他



## (5)教育・子育て

### ① 地域による子育て

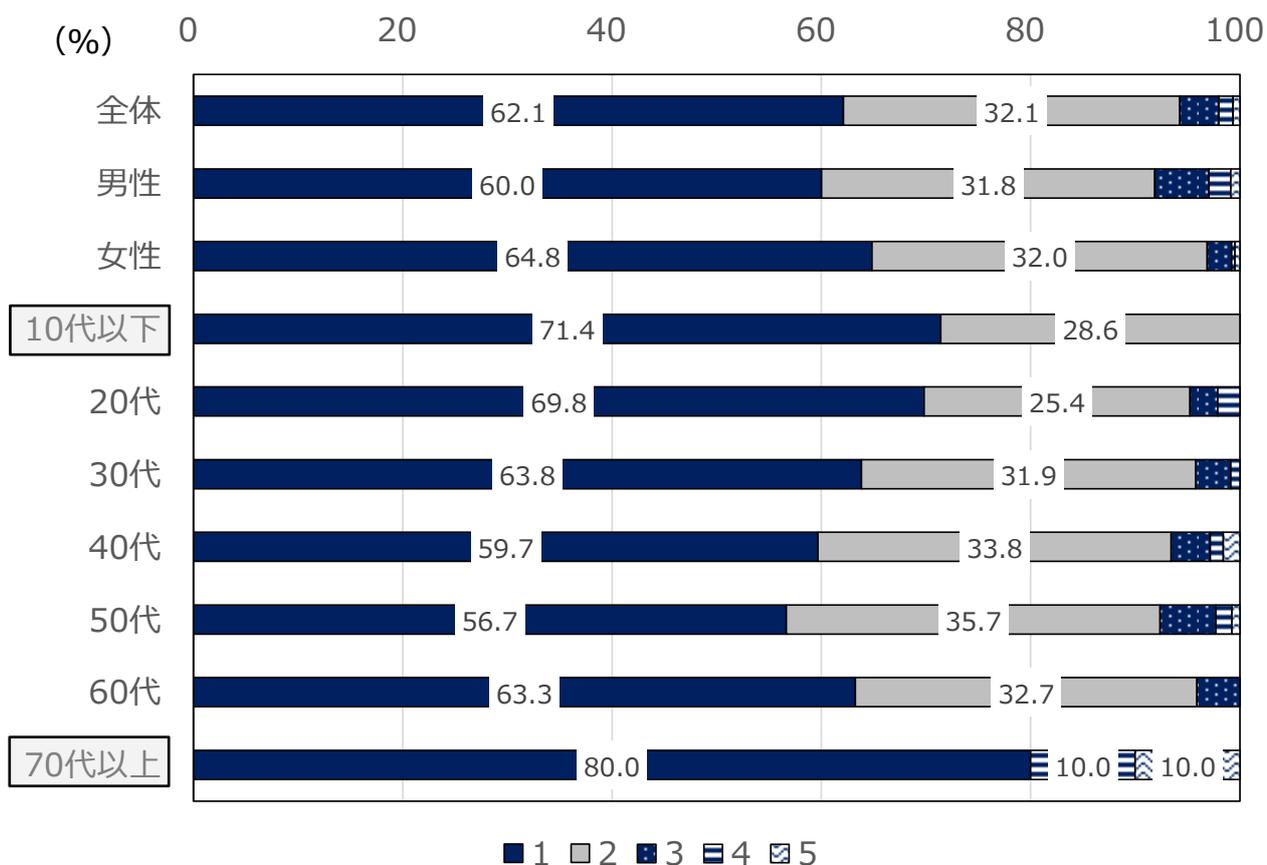
**Q1 「子どもを地域全体で守り、育てる」という考え方について、どのように考えますか。【n=1,254】**

「子どもを地域全体で守り、育てる」という考え方について、全体で「重要だと思う。」が62.1%で最も高く、「どちらかといえば重要だと思う。」を加えると94.2%となっている。

年代・性別を問わず「重要だと思う。」及び「どちらかといえば重要だと思う。」の合計は9割以上となっている。

#### 【選択肢】

- 1 重要だと思う。
- 2 どちらかといえば重要だと思う。
- 3 どちらかといえば重要だと思わない。
- 4 重要だと思わない。
- 5 その他



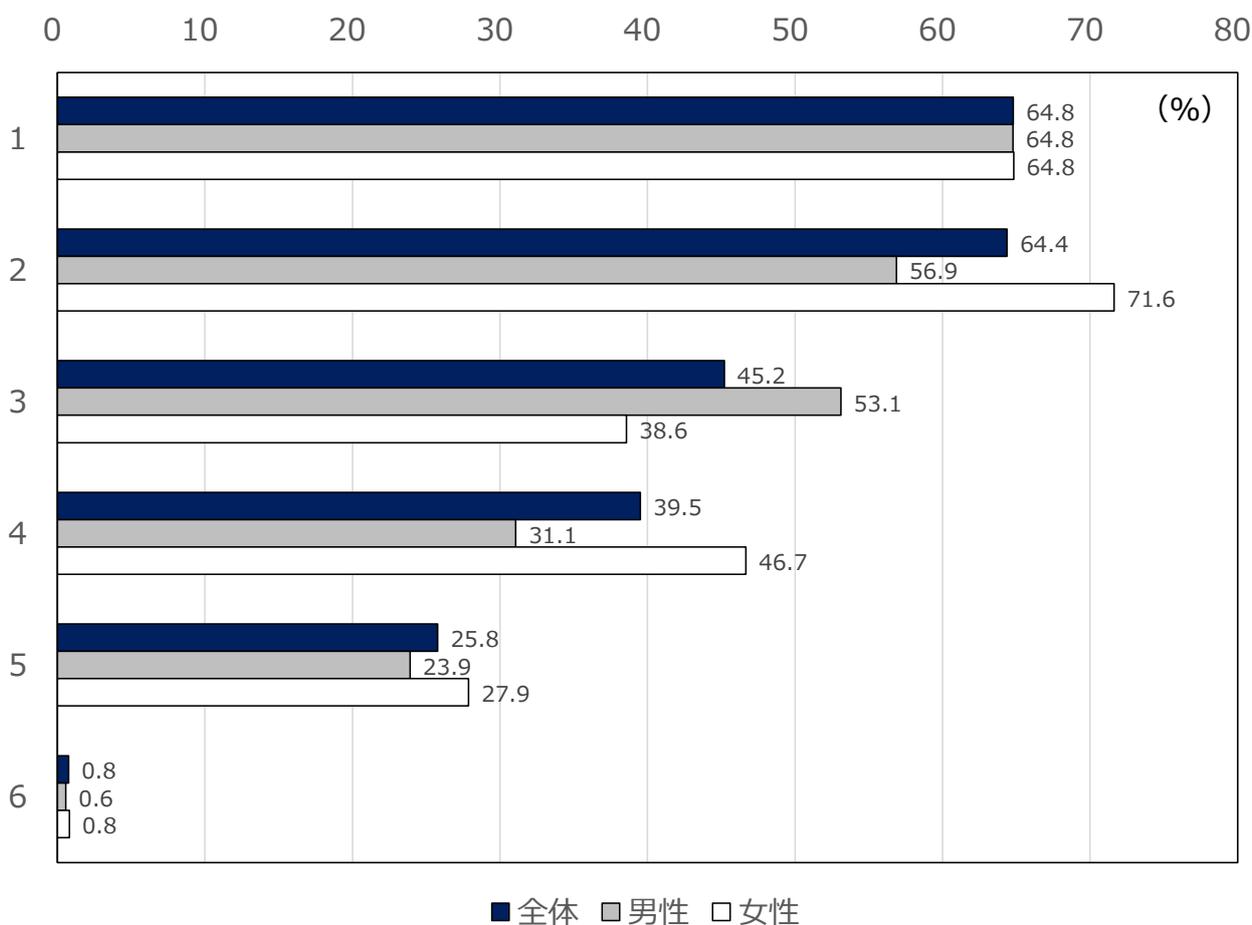
**Q2 Q1で1、2と回答した方に質問します。そのように回答したのは、どのような理由からですか。(複数選択可)【n=1,179】**

「子どもを地域全体で守り、育てる」という考え方について重要だと思う理由については、全体で「子どもが地域の人と携わることで、社会性を身に付けるうえで必要と思うから。」が64.8%で最も高く、次いで「子どもに地域の目が届くことで安全・安心だから。」が64.4%となっている。

また、男性・女性ともに両項目で過半数を超えている。

**【選択肢】**

- 1 子どもが地域の人と携わることで、社会性を身に付けるうえで必要と思うから。
- 2 子どもに地域の目が届くことで安全・安心だから。
- 3 子どもは、将来の地域社会を支える人材であると思うから。
- 4 共働き世帯等にとっては、地域の手助けが必要と思うから。
- 5 子どもと関わることで地域の方の生きがいくりになる。
- 6 その他

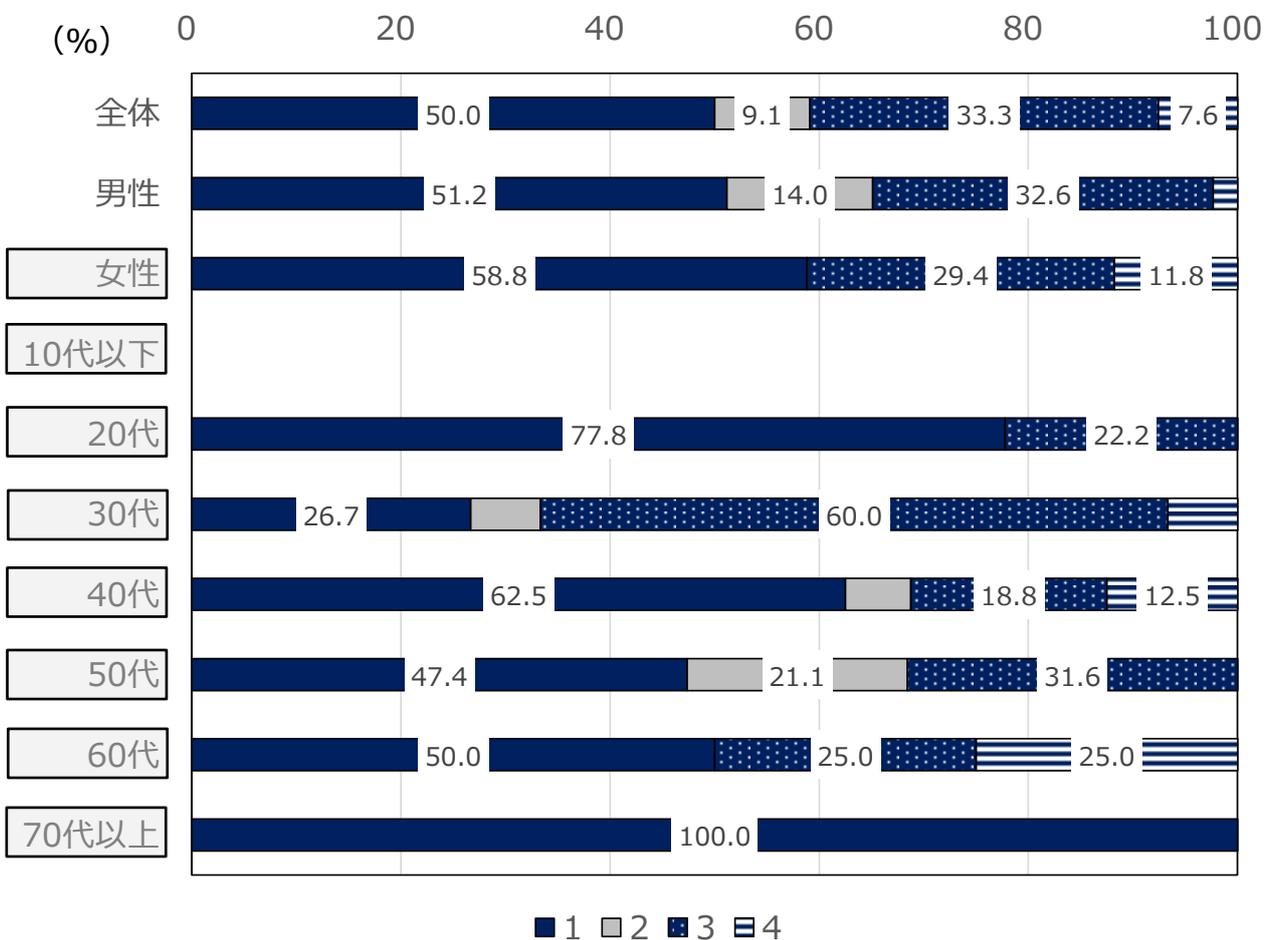


**Q3 Q1で3、4と回答した方に質問します。そのように回答したのは、どのような理由からですか。【n=66】**

「子どもを地域全体で守り、育てる」という考え方について重要だと思わない理由については、回答数が少ないものの、全体で「養育者や親族以外の人々が、責任をもって子育てすることは難しい。」が50.0%で最も高くなっている。

**【選択肢】**

- 1 養育者や親族以外の人々が、責任をもって子育てすることは難しい。
- 2 養育者や親族以外の人々が、子育てに関するのは子どもにとって精神的な負担が大きい。
- 3 地域住民にとって、他人の子どもの子育てまで関わることは負担が大きく、養育者や親族だけでも十分な子育てができないのであれば行政が対応すべきである。
- 4 その他



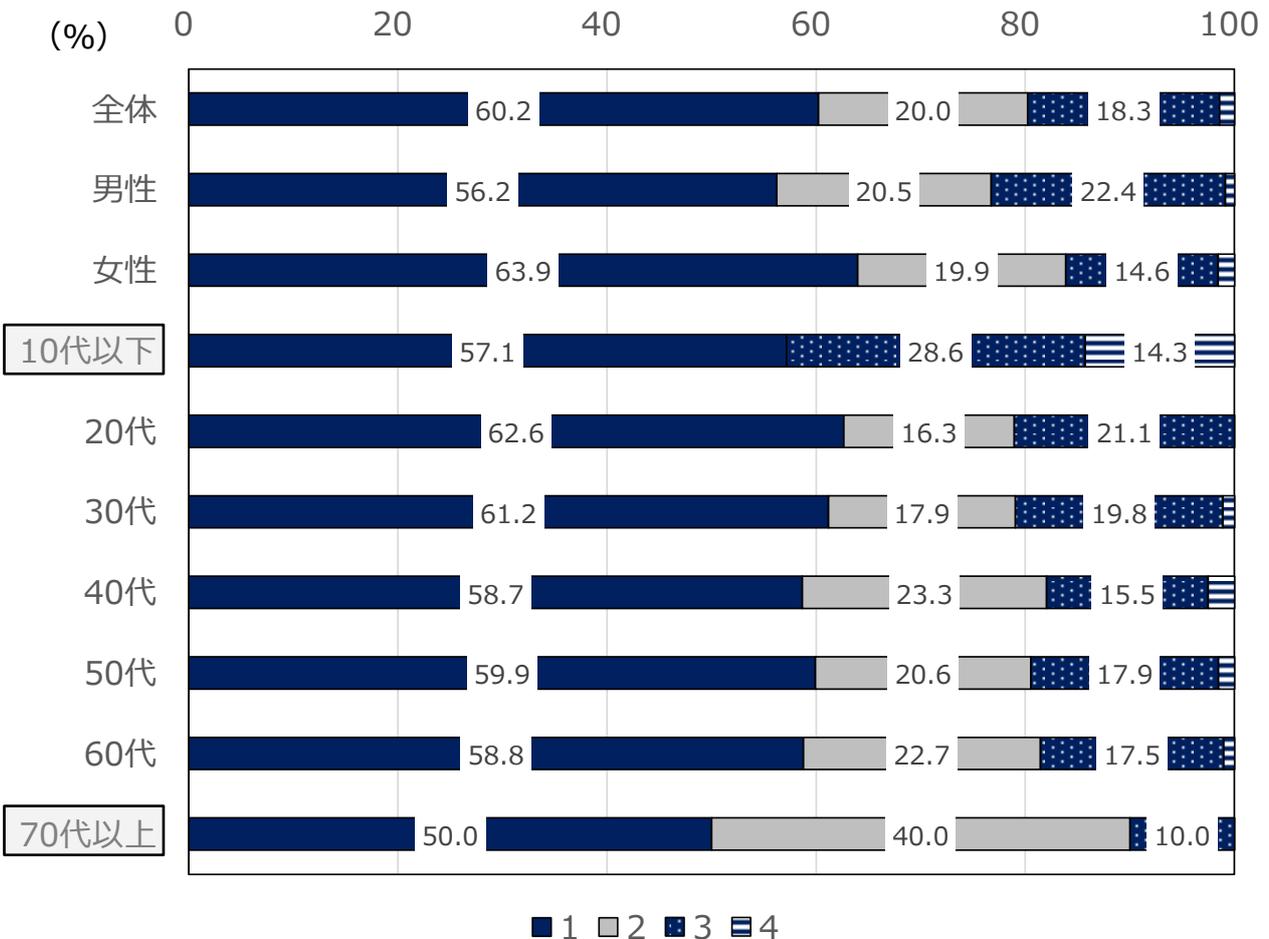
**Q 4 30年後における子育てのあるべき姿をどのように考えますか。【n=1,254】**

30年後における子育てのあるべき姿については、全体で「地域に頼らず子育てしたい養育者と、地域に頼って子育てしたい養育者のいずれもが、その希望にかなった子育てができるようにする。」が60.2%で最も高く、「養育者の希望に関らず、できるだけ地域全体で子育てを支えられるようにする。」と「養育者や親族だけでも子育てができるような時間や収入が確保できるようにする。」が2割前後となっている。

性別・年代別においても同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 地域に頼らず子育てしたい養育者と、地域に頼って子育てしたい養育者のいずれもが、その希望にかなった子育てができるようにする。
- 2 養育者の希望に関らず、できるだけ地域全体で子育てを支えられるようにする。
- 3 養育者や親族だけでも子育てができるような時間や収入が確保できるようにする。
- 4 その他



## ② 健幸（健やかで幸せ）な家庭生活

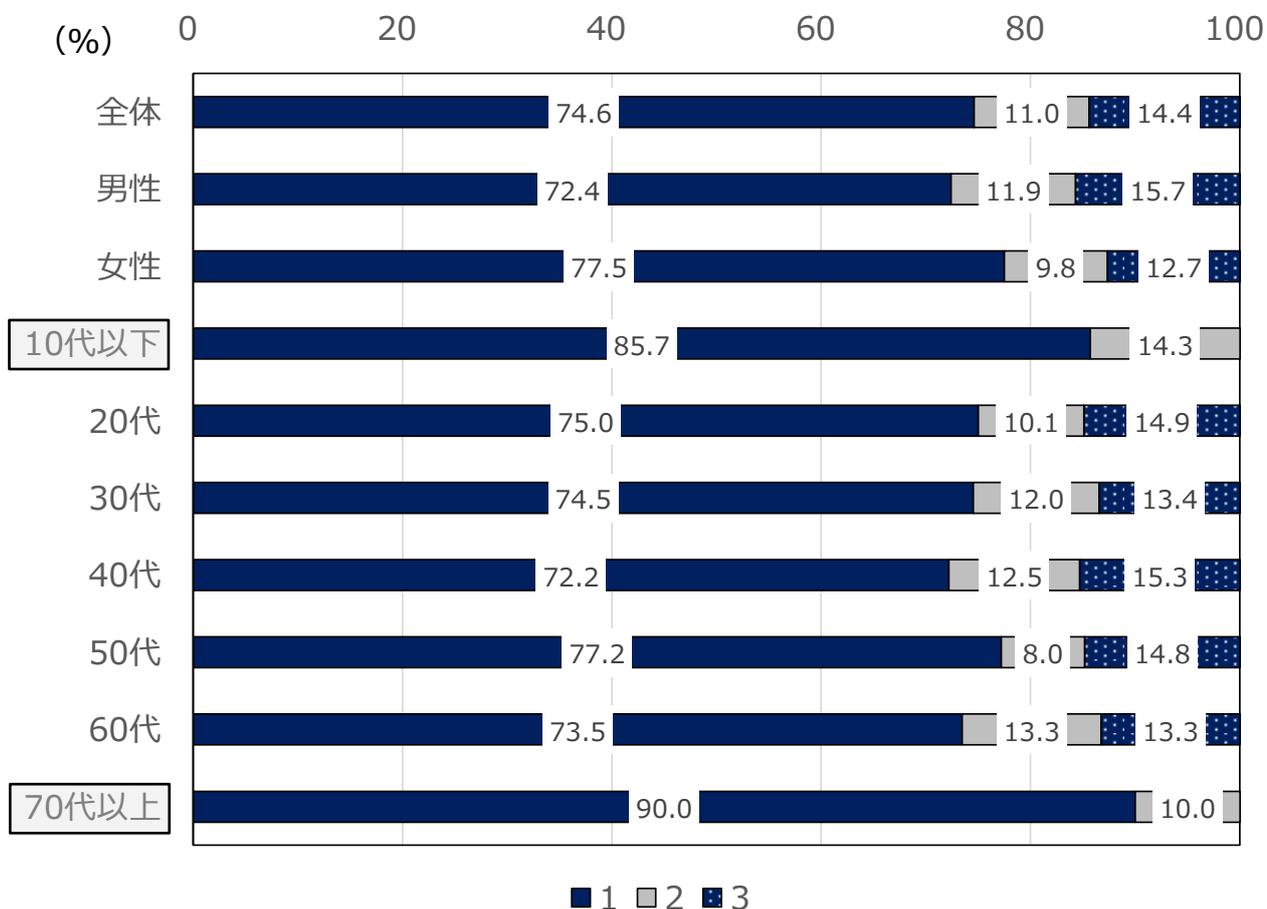
### Q 1 あなたは健幸（健やかで幸せな）な家庭生活を送れていますか。【n=1,256】

健幸な家庭生活を送れているかについては、全体で「どちらかと言えばそう思う。」が74.6%で最も高くなっている。

性別・年代別においても同様の傾向となっている。

#### 【選択肢】

- 1 どちらかと言えばそう思う。
- 2 どちらかと言えばそうは思わない。
- 3 わからない、どちらともいえない。

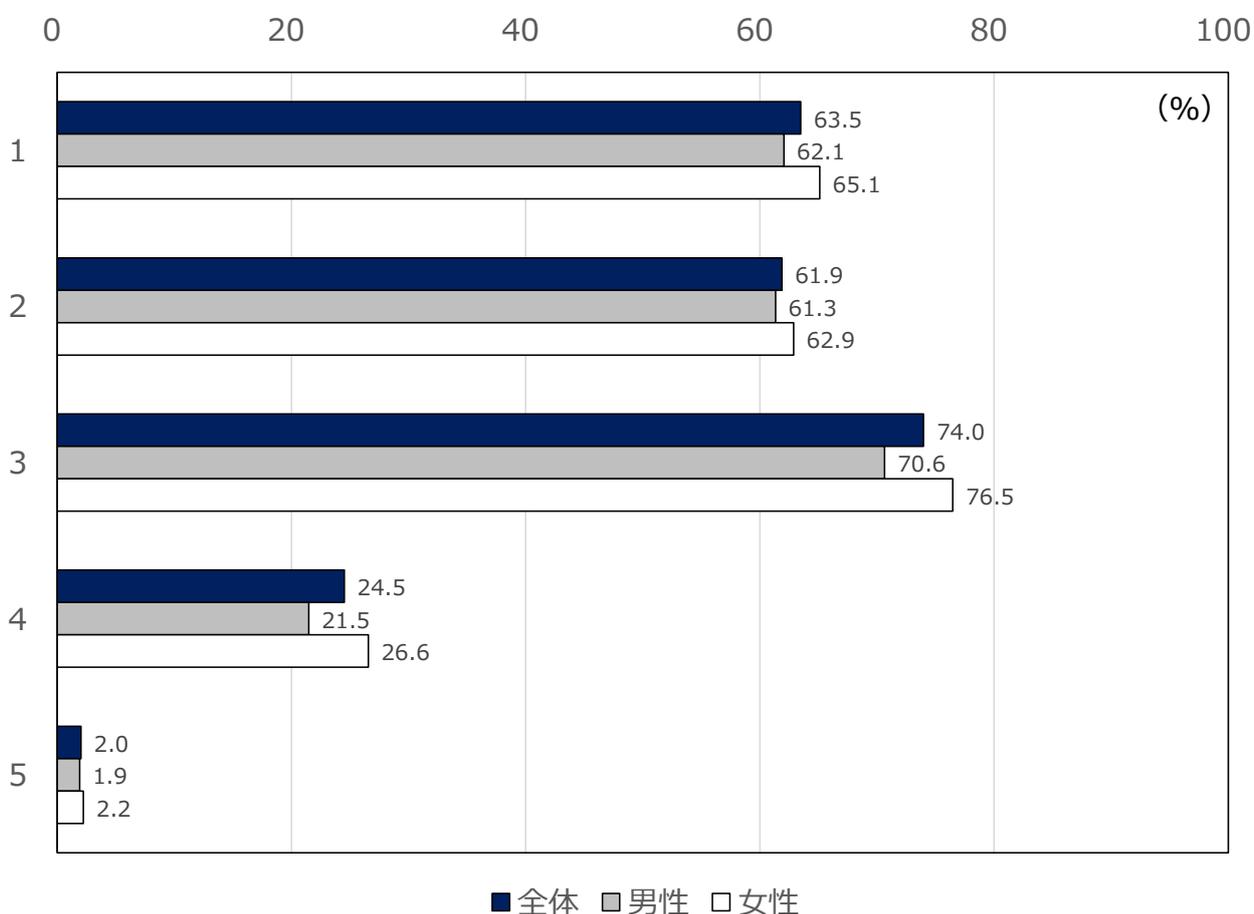


**Q2 Q1で1と答えた方に質問します。健幸（健やかで幸せ）な家庭生活を送る中で一番重要だと思うものは何ですか。（複数選択可）【n=934】**

健幸な家庭生活を送る中で一番重要だと思うものについては、全体で「経済的な安定」が74.0%で最も高く、次いで「一緒に過ごす時間」が63.5%、「円滑なコミュニケーション」が61.9%となっている。男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 一緒に過ごす時間
- 2 円滑なコミュニケーション
- 3 経済的な安定
- 4 公平な役割分担
- 5 その他



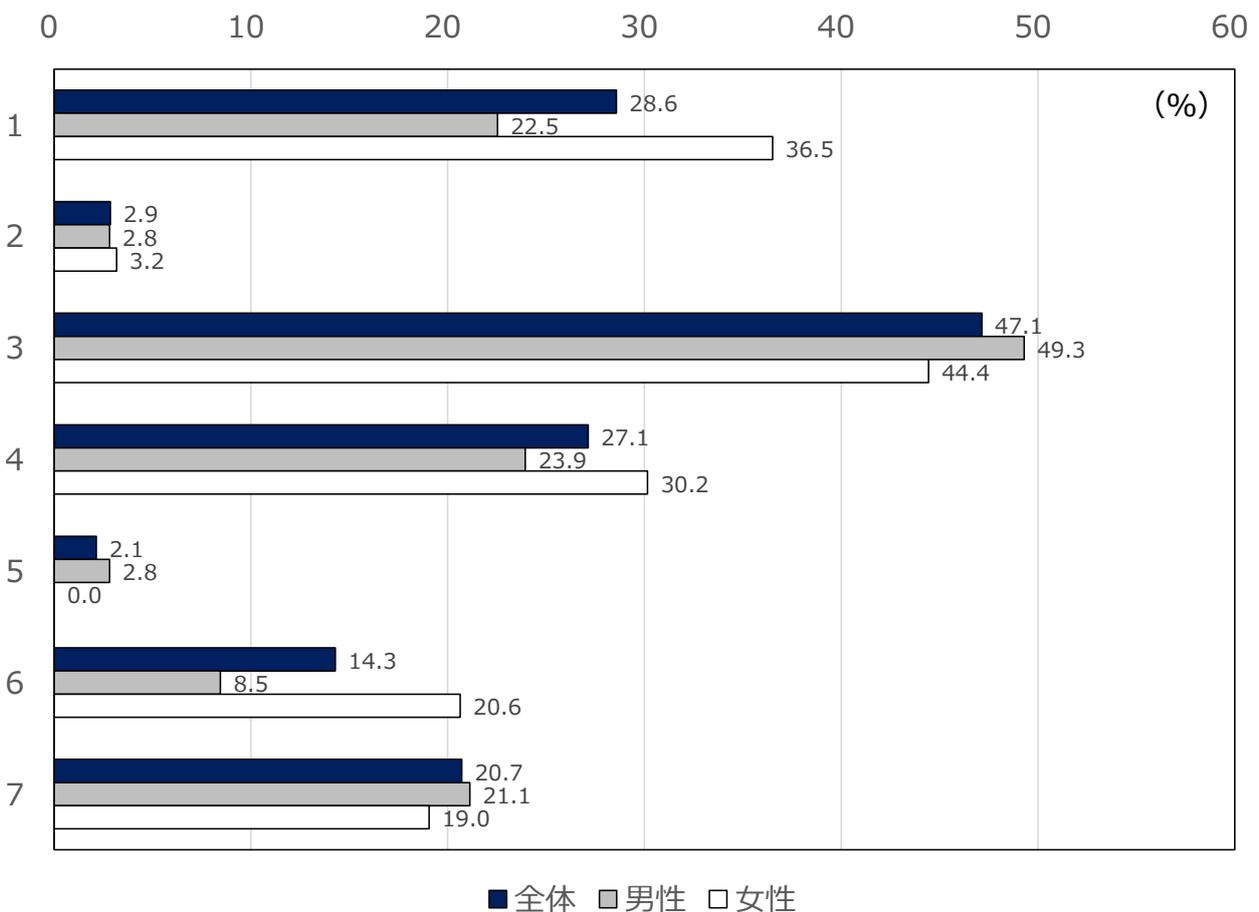
**Q3 Q1で2と答えた方に質問します。あなたの健幸（健やかで幸せ） 健全な家庭生活を送っていない理由を教えてください。（複数選択可）【n=140】**

健幸な家庭生活を送っていない理由については、全体で「経済的な困窮」が47.1%で最も高く、次いで「家庭不和」が28.6%、「コミュニケーションの不足」が27.1%となっている。

性別では、「家庭不和」及び「不公平な役割分担」は男性に比べて女性の割合が大きくなっている。

**【選択肢】**

- 1 家庭不和
- 2 虐待や家庭内暴力（DV）
- 3 経済的な困窮
- 4 コミュニケーションの不足
- 5 依存症（アルコール、ギャンブル等）
- 6 不公平な役割分担
- 7 その他



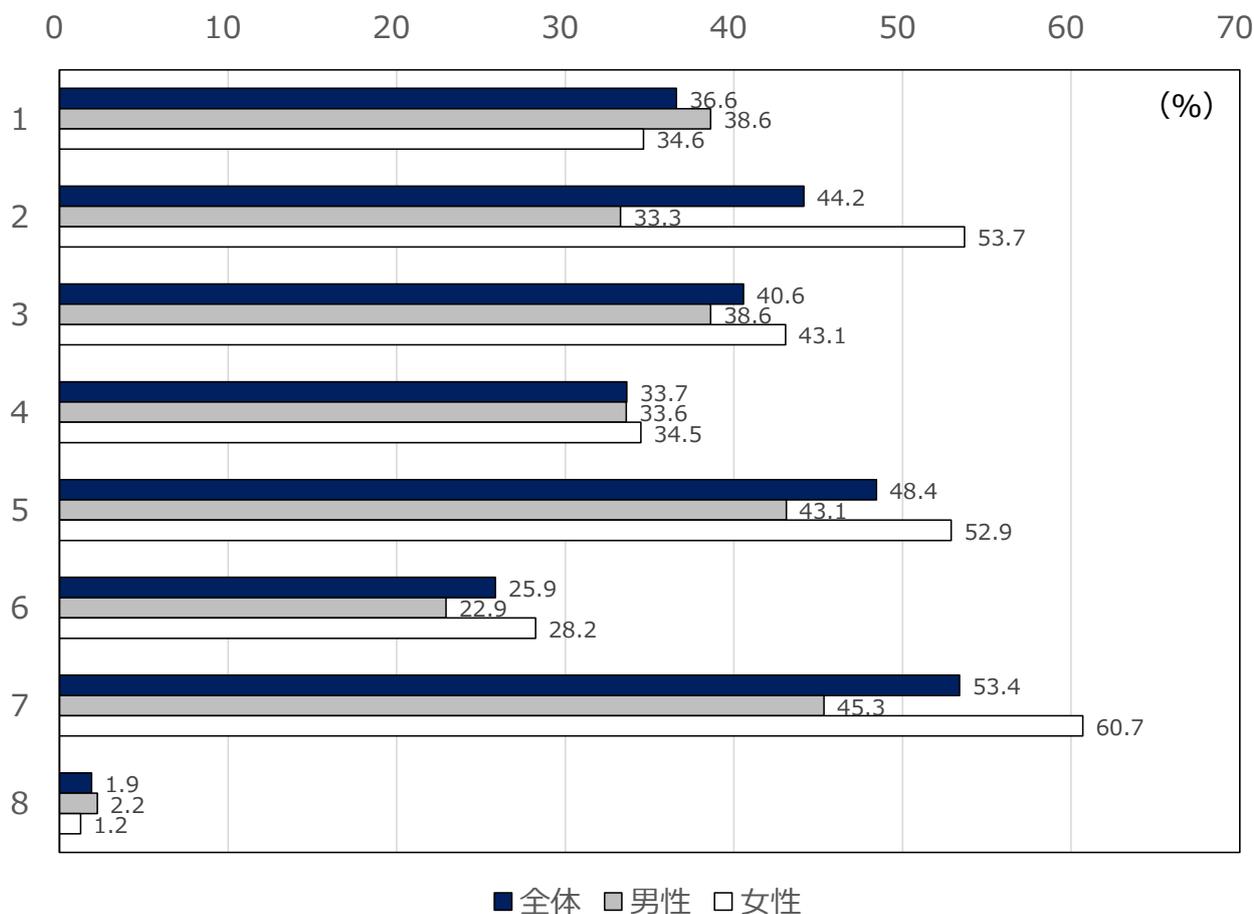
**Q 4 30年後、すべての市民がそれぞれの環境下で最も健幸（健やかで幸せ）な家庭生活を送る為に、行政にどのようなことを望みますか。（複数選択可）【n=1,257】**

30年後、すべての市民が健幸な家庭生活を送る為に行政に望むことについては、全体で「介護等、家族への負担を減らすための対策」が53.4%で最も高く、次いで「経済的な支援」が48.4%、「男女問わず家庭や職場へ平等に参画できる環境づくり」が44.2%となっている。

性別では、「男女問わず家庭や職場へ平等に参画できる環境づくり」及び「介護等、家族への負担を減らすための対策」は男性に比べて女性の割合が大きくなっている。

**【選択肢】**

- 1 希望する家庭を持つことができる環境
- 2 男女問わず家庭や職場へ平等に参画できる環境づくり
- 3 子どもの教育
- 4 家族でともに過ごすための場所や機会の充実
- 5 経済的な支援
- 6 虐待や依存症などへの問題への対策
- 7 介護等、家族への負担を減らすための対策
- 8 その他



### ③ 青少年育成

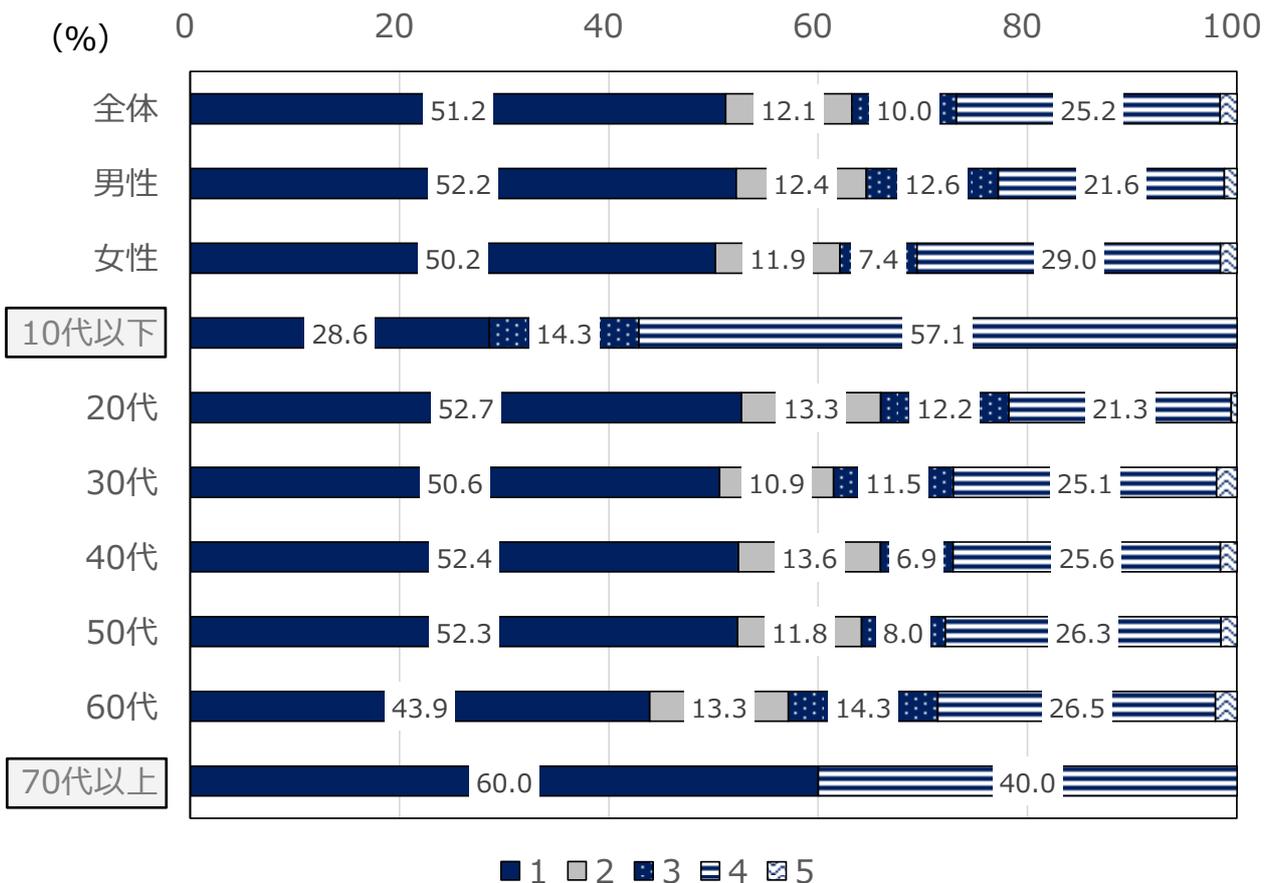
Q 1 トラブルや犯罪に巻き込まれる青少年について、どのような対応をすべきと思いますか。【n = 1,253】

トラブルや犯罪に巻き込まれる青少年への対応については、全体で「契約の重要性や犯罪刑罰などの法教育・啓発が必要である。」が 51.2%で最も高く、次いで「抱えている問題や悩みを相談できる体制を整えることが必要である。」が 25.2%となっている。

性別・年代別においても同様の傾向となっている。

#### 【選択肢】

- 1 契約の重要性や犯罪刑罰などの法教育・啓発が必要である。
- 2 民法改正や、青少年を守る新たな法律が必要である。
- 3 本人の自覚と責任に任せるべきである。
- 4 抱えている問題や悩みを相談できる体制を整えることが必要である。
- 5 わからない。



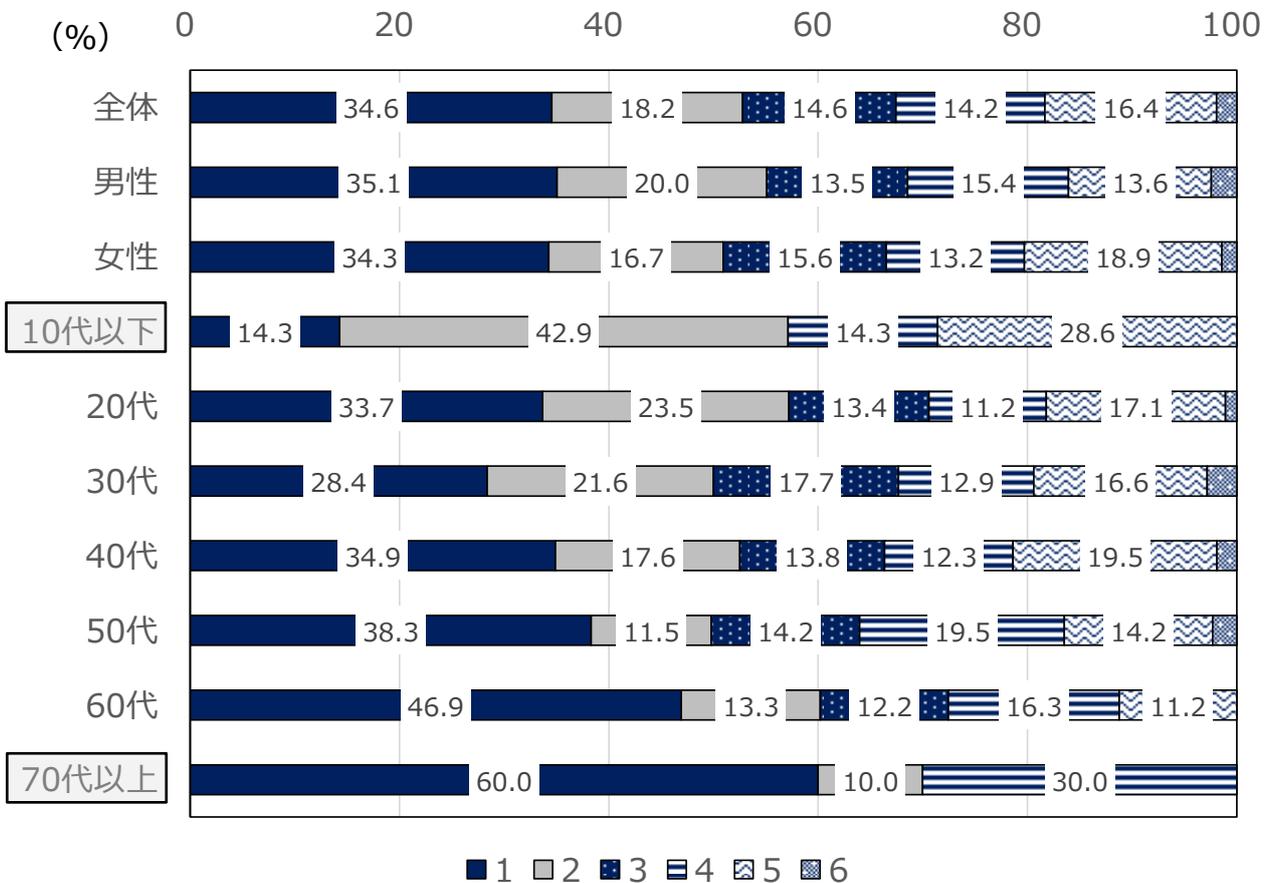
**Q2 社会の一員として積極的に活動しようとする青少年について、青少年が社会的活動に参加することを促すために必要な取り組みはどれですか？【n=1,250】**

青少年が社会的活動に参加することを促すために必要な取り組みについては、全体で「地域との交流を目的とした青少年向けのイベントの開催や、青少年が地域と交流できる場所を設ける。」が34.6%で最も高く、その他を除く残りの4項目が15%前後の回答となっている。

男女ともに同様の傾向となっているが、年代別では年代が上がるにつれて「地域との交流を目的とした青少年向けのイベントの開催や、青少年が地域と交流できる場所を設ける。」の割合が上がり、「青少年同士がスポーツや音楽を通して交流するイベントを実施する。」は下がる傾向にある。

**【選択肢】**

- 1 地域との交流を目的とした青少年向けのイベントの開催や、青少年が地域と交流できる場所を設ける。
- 2 青少年同士がスポーツや音楽を通して交流するイベントを実施する。
- 3 青少年の声を政策に取り入れることを目的とした意見交換会を開催する。
- 4 青少年が参加できる社会貢献事業や団体に関する情報を発信する。
- 5 青少年向けの企業体験プログラムを実施する。
- 6 その他



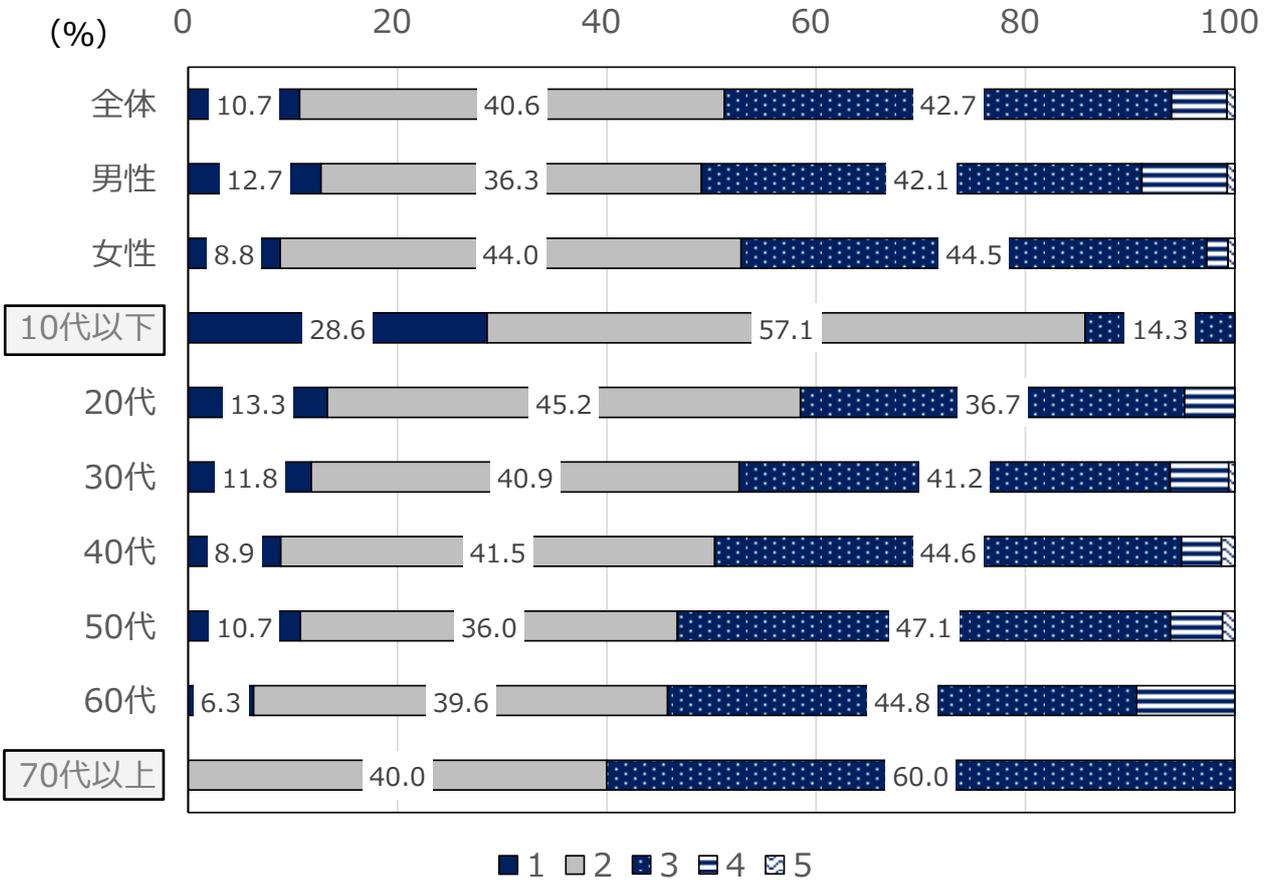
**Q3 30年後の青少年育成に関する理想はどれですか。【n=1,247】**

30年後の青少年育成に関する理想については、全体で「青少年が社会の一員として活動することで、自らの可能性を広げられるよう支援する。」が42.7%、「行政のみならず、家庭、学校および地域が連携して成長を見守る。」が40.6%と同程度となっている。

性別・年代別においても同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 青少年を守るため、市役所、警察等の行政が主体となって規制を厳しく行う。
- 2 行政のみならず、家庭、学校および地域が連携して成長を見守る。
- 3 青少年が社会の一員として活動することで、自らの可能性を広げられるよう支援する。
- 4 特に関与せず、本人の自由を基本とする。
- 5 その他

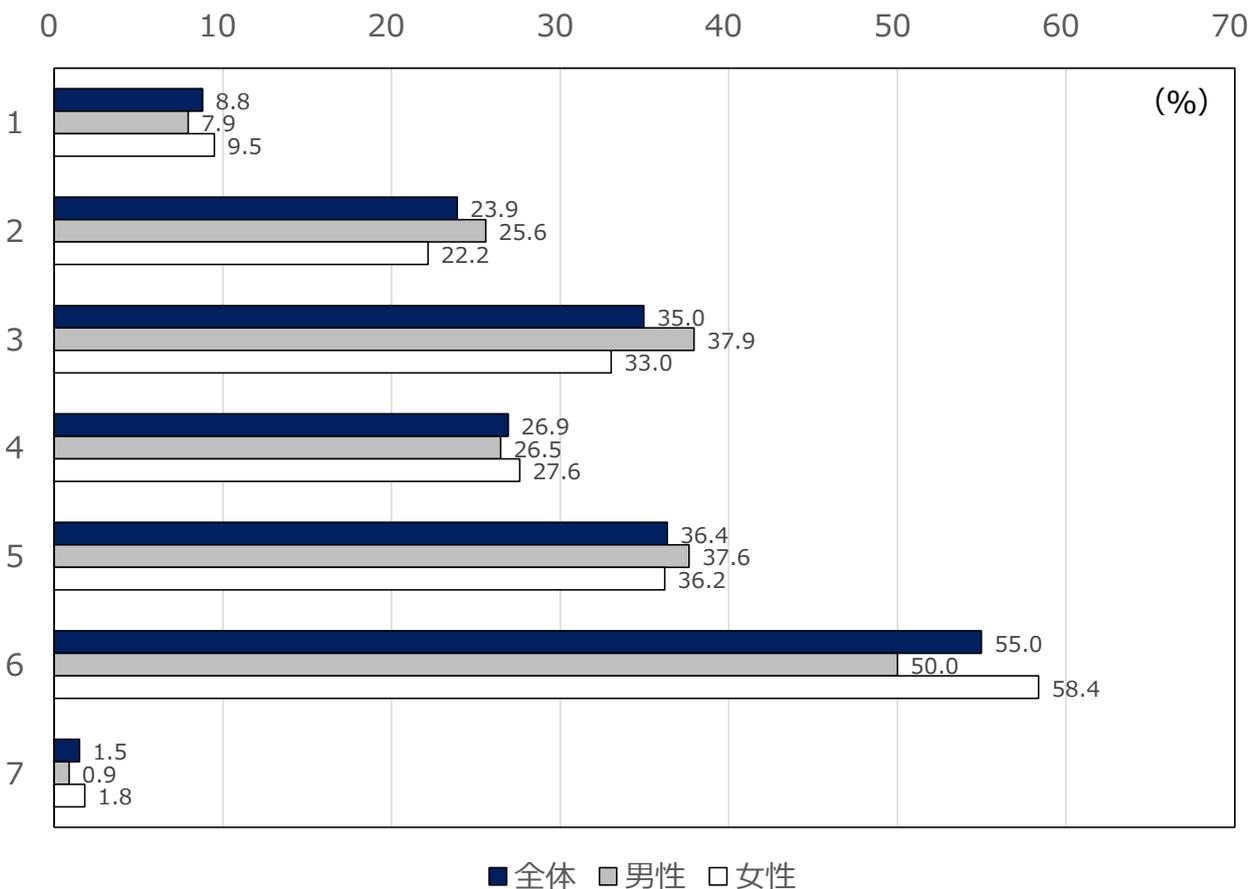


**Q4 今後どのような取り組みが望ましいと思いますか。(複数選択可)【n=795】**

今後どのような取り組みが望ましいと思うかについては、全体で「青少年が社会の一員として自ら考え、行動に移せるようなきっかけとなるイベント等を実施する。」が55.0%で最も高く、次いで「青少年のスポーツやボランティア活動を支援する。」が36.4%、「青少年を見守る地域の活動を支援する。」が35.0%となっている。

**【選択肢】**

- 1 青少年の行動に規制や一定の制限を設ける。
- 2 悪徳事業者等から青少年を守るための規制を強化する。
- 3 青少年を見守る地域の活動を支援する。
- 4 市役所や警察が青少年に積極的に関与する仕組みをつくる。
- 5 青少年のスポーツやボランティア活動を支援する。
- 6 青少年が社会の一員として自ら考え、行動に移せるようなきっかけとなるイベント等を実施する。
- 7 その他



#### ④ 子どもの学習権の保証

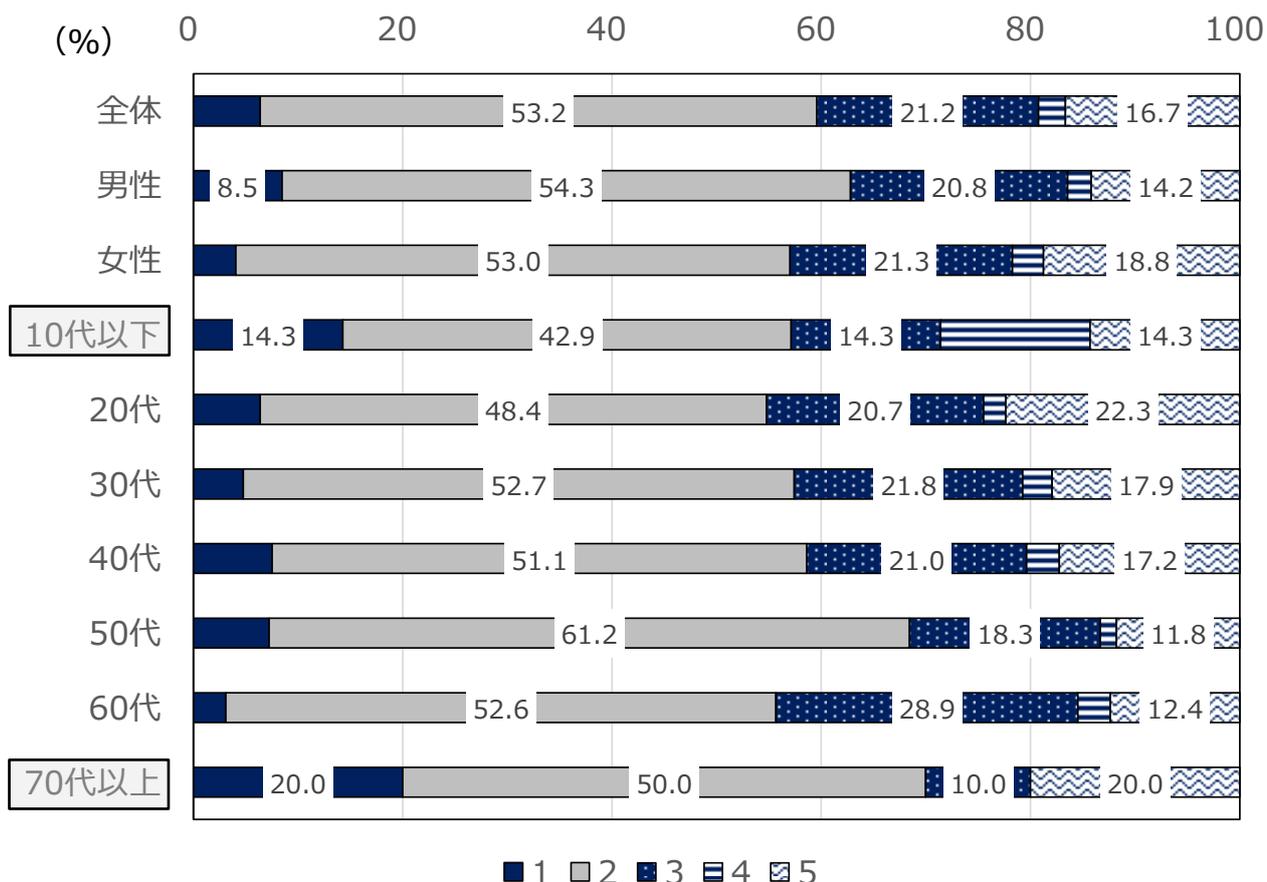
##### Q 1 あなたは現在、子どもが学習する環境は整っていると感じますか。【n=1,254】

子どもが学習する環境は整っていると感じているかについては、全体で「どちらかといえば整っている。」が53.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば整っていない。」が21.2%となっている。

全ての性別・年代において、「非常に整っている。」及び「どちらかといえば整っている。」は過半数を超えている。

##### 【選択肢】

- 1 非常に整っている。
- 2 どちらかといえば整っている。
- 3 どちらかといえば整っていない。
- 4 全く整っていない。
- 5 わからない。

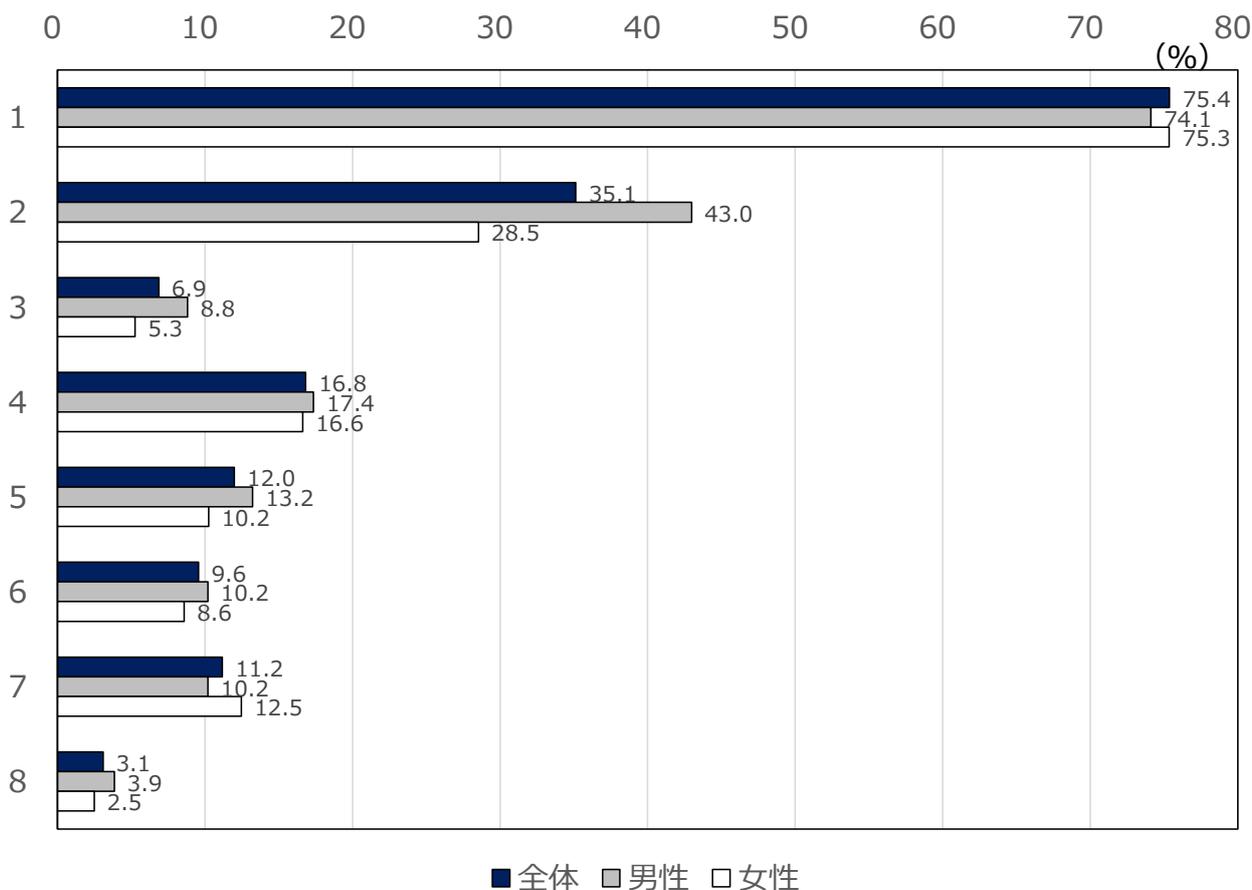


**Q2 Q1で1、2と答えた方に質問します。環境が整っていると感じる理由は何ですか？(複数選択可)【n=743】**

子どもの学習する環境が整っていると感じる理由については、全体で「学校教育が充実しているから。」が75.4%で最も高く、次いで「進学塾が充実しているから。」が35.1%となっている。

**【選択肢】**

- 1 学校教育が充実しているから。
- 2 進学塾が充実しているから。
- 3 美術館・博物館・資料館が充実しているから。
- 4 子ども向けの多様な生涯学習講座（スポーツ、文化など）が充実しているから。
- 5 不登校の子どもへの支援（小山市教育支援センターアルカディアなど）が充実しているから。
- 6 家庭環境により進学が難しい子どもへの支援（各地区公民館などでの「学びの教室」の開催など）が充実しているから。
- 7 外国籍の子どもへの支援（小山市外国人児童生徒適応指導教室かけはしなど）が充実しているから。
- 8 その他

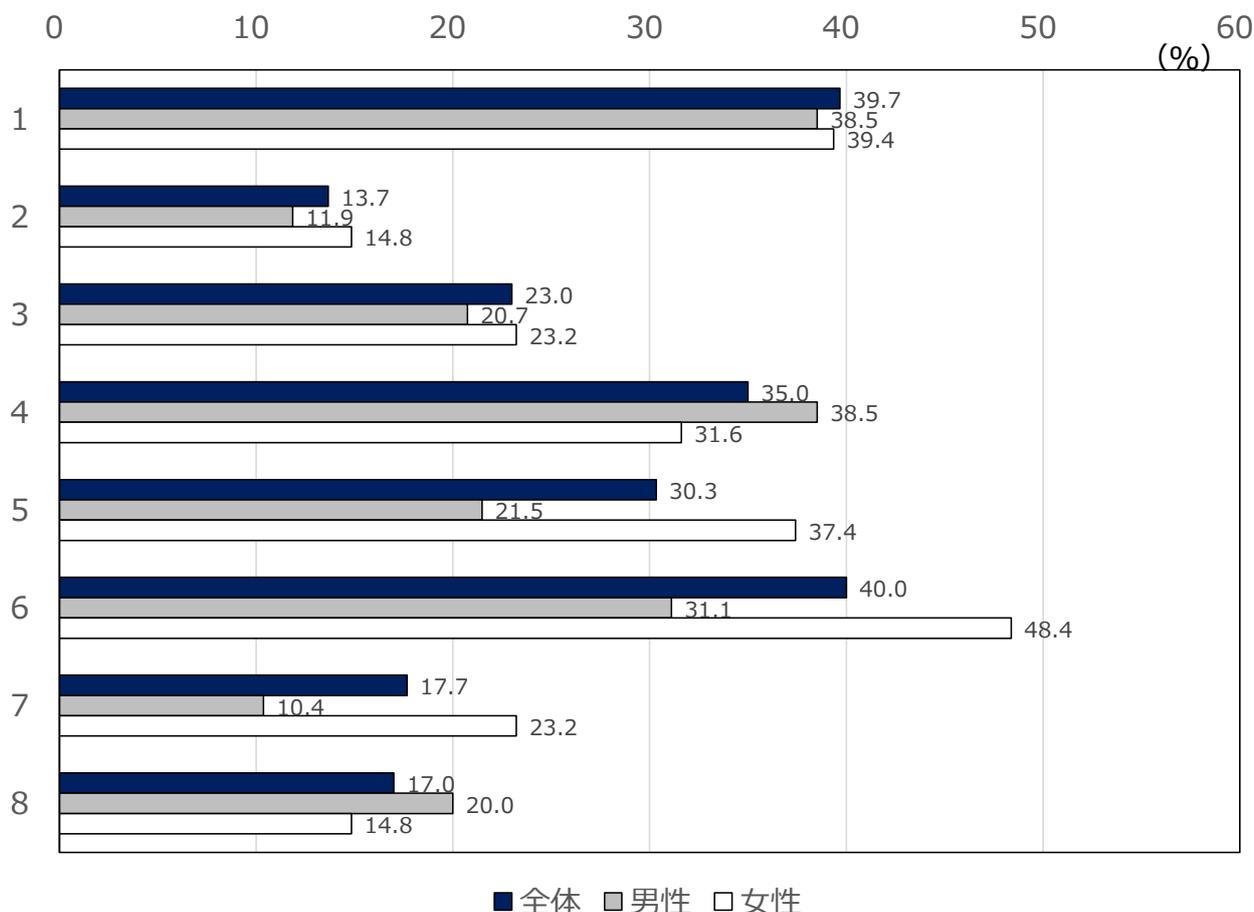


**Q3 Q1で3、4と答えた方に質問します。環境が整っていないと感じる理由は何ですか？(複数選択可)【n=300】**

子どもの学習する環境が整っていないと感じる理由については、全体で「家庭環境により進学が難しい子どもへの支援（各地区公民館などでの「学びの教室」の開催など）が不足しているから。」が最も高く 40.0%、次いで「学校教育が不足しているから。」が 39.7%、「子ども向けの多様な生涯学習講座（スポーツ、文化など）が不足しているから。」が 35.0%となっている。

**【選択肢】**

- 1 学校教育が不足しているから。
- 2 進学塾が不足しているから。
- 3 美術館・博物館・資料館が不足しているから。
- 4 子ども向けの多様な生涯学習講座（スポーツ、文化など）が不足しているから。
- 5 不登校の子どもへの支援（小山市教育支援センターアルカディアなど）が不足しているから。
- 6 家庭環境により進学が難しい子どもへの支援（各地区公民館などでの「学びの教室」の開催など）が不足しているから。
- 7 外国籍の子どもへの支援（小山市外国人児童生徒適応指導教室かけはしなど）が不足しているから。
- 8 その他



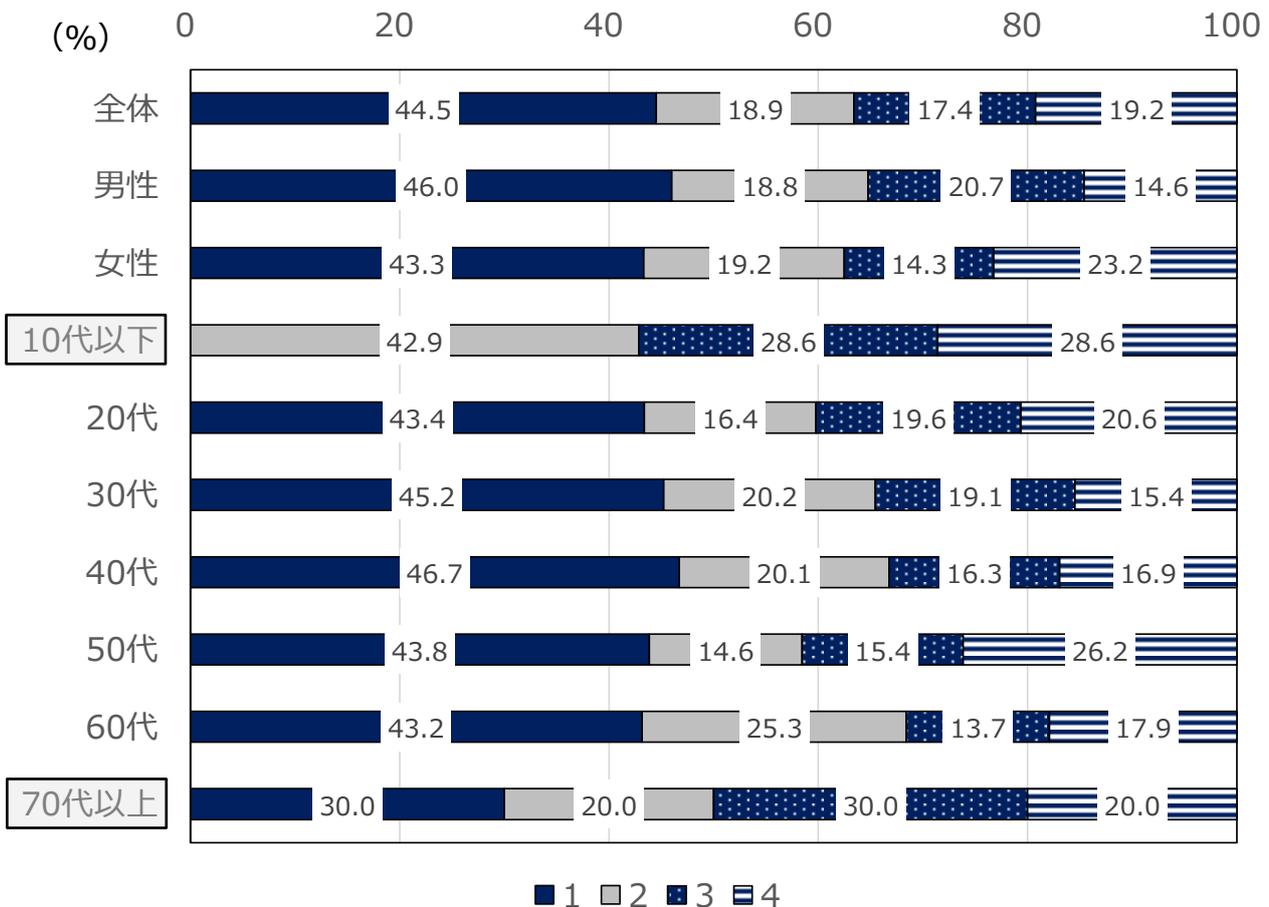
**Q 4 30年後に子どもが必要な学習を必要なだけ受けられる環境となっているために、何が求められると思いますか。【n=1,249】**

30年後に子どもが必要な学習を必要なだけ受けられる環境となっているために求められていることについては、全体で「保護者の所得に関係なく子どもが平等に学習の機会を得られるようにする。」が44.5%で最も高く、これ以外の3項目が2割程度となっている。

性別・年代別においては、最も高い項目は同じであるが、2番目の項目がまちまちとなっている。

**【選択肢】**

- 1 保護者の所得に関係なく子どもが平等に学習の機会を得られるようにする。
- 2 小中学校において、子どもの多様性に応じた教育方法を構築する。
- 3 自由に参加できる多様な学びの場（自然学習、社会教育、体験学習など）を提供する。
- 4 問題を抱える様々な子ども（いじめ、不登校、ヤングケアラー（家事や家族の介護、兄弟の育児で十分に学習できない子ども）、言葉の壁などで悩む外国籍の子ども）が、安心して教育を受けられる環境を整備する。



## ⑤ 子どもの権利の尊重

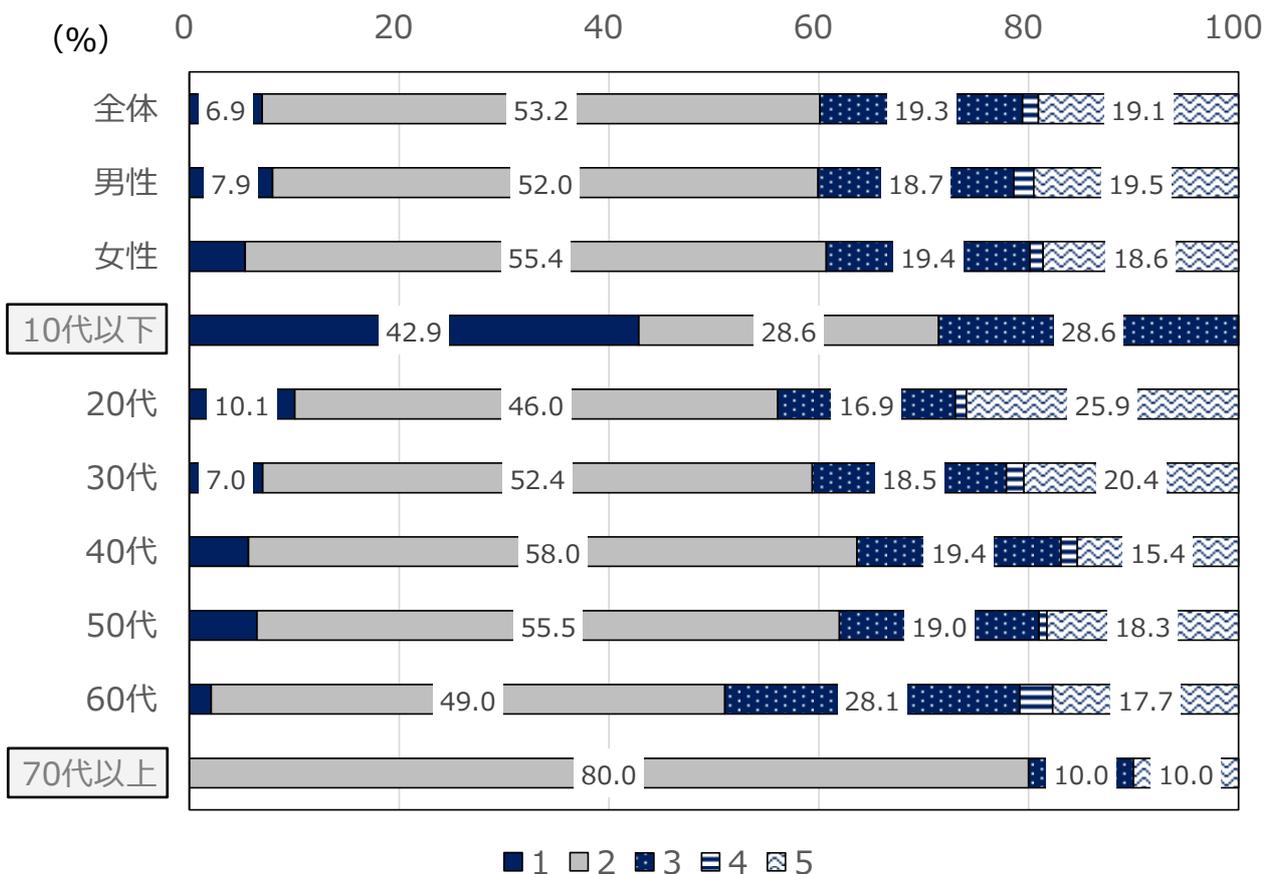
Q 1 あなたの周りでは、子どもの権利が尊重され、子どもの権利が守られていると思いますか。【n=1,254】

子どもの権利が尊重され、子どもの権利が守られているかについては、全体で「どちらかといえばそう思う。」が53.2%で最も高く、次いで「どちらかといえばそうは思わない。」が19.3%、「わからない。」が19.1%となっている。

性別・年代別を問わず「非常にそう思う。」と「どちらかといえばそう思う。」の合計は過半数を超えている。

### 【選択肢】

- 1 非常にそう思う。
- 2 どちらかといえばそう思う。
- 3 どちらかといえばそうは思わない。
- 4 全くそうは思わない。
- 5 わからない。



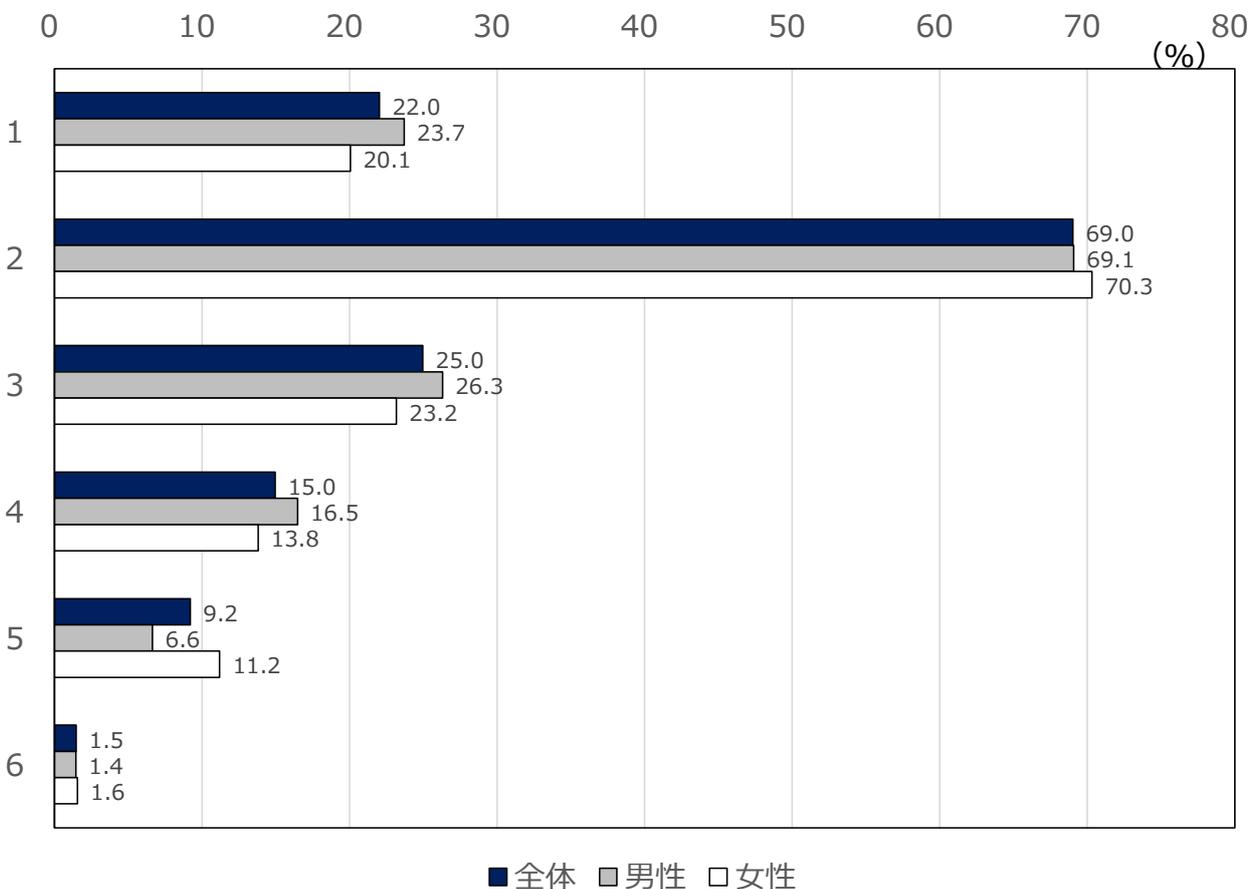
**Q2 Q1で1、2と答えた方に質問します。子どもの権利が尊重され、子どもの権利が守られていると思う理由は何ですか？(複数選択可)【n=749】**

子どもの権利が尊重され、子どもの権利が守られていると思う理由について、全体で「子どもの心身の健康が脅かされることなく、安心して成長できる環境（医療、教育、生活などへの支援の充実など）が整備されているから。」が69.0%で最も高くなっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 子どもが生まれ育ってゆくための施策が、子どもの幸せを一番に考えて決定されているから。
- 2 子ども的心身の健康が脅かされることなく、安心して成長できる環境（医療、教育、生活などへの支援の充実など）が整備されているから。
- 3 様々な背景や特性を持つ子ども（人種、国籍、障がい、経済状況など）が、差別されることなく、平等に公共サービスを受けることができているから。
- 4 子どもたちが自分のことについて自由に意見を言うことができ（例えば学校の校則に生徒の意見を取り入れるなど）、大人がその意見を一方的に否定せず、対話を重ねながら取り入れていく土壌が世の中に形成されていると感じるから。
- 5 子どもが抱えている悩みや困りごとを、気兼ねなく相談できる窓口などが設置され、問題の解決への手助けとなる支援が充実しているから。
- 6 その他



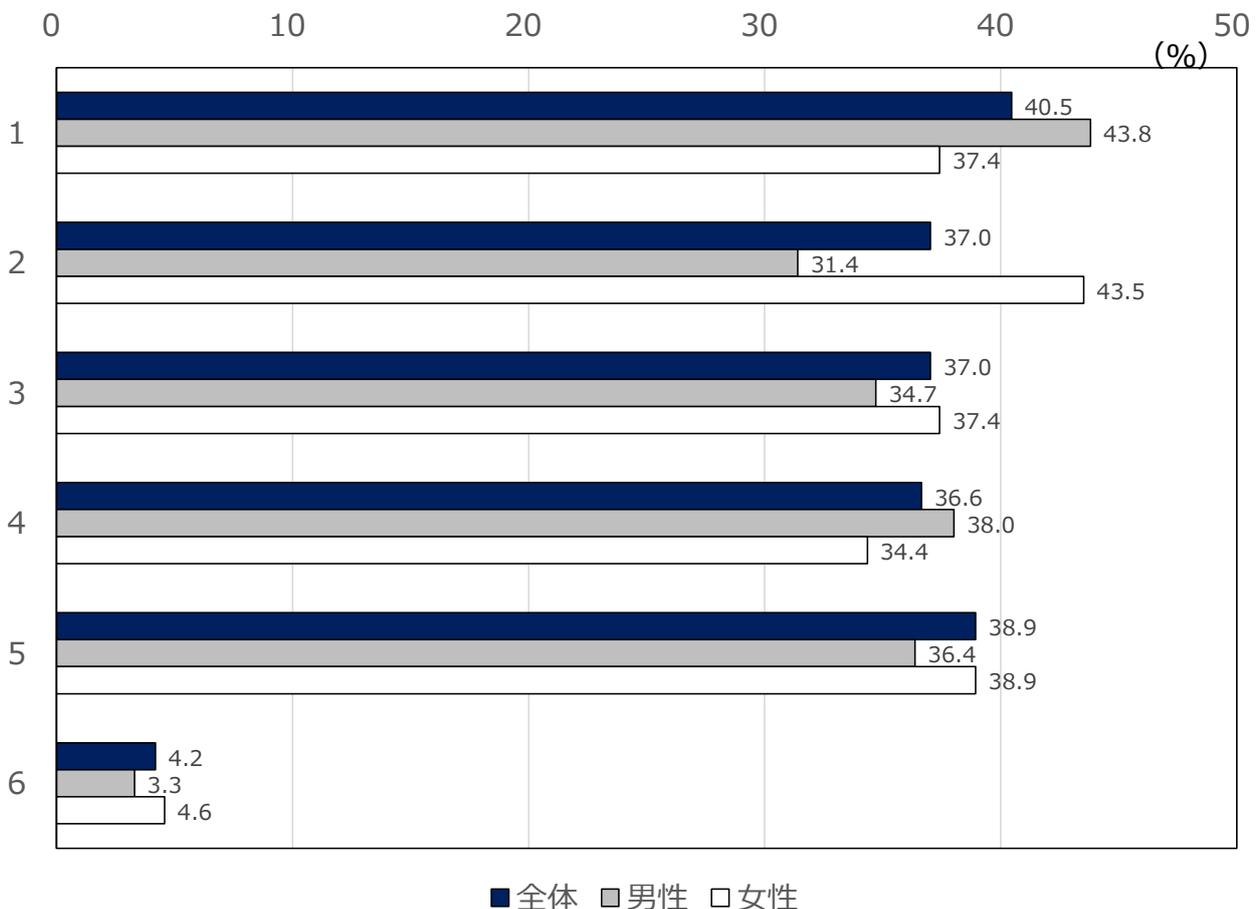
**Q3 Q1で3、4と答えた方に質問します。子どもの権利が尊重され、子どもの権利が守られていないと思う理由は何ですか？(複数選択可)【n=262】**

子どもの権利が尊重され、子どもの権利が守られていないと思う理由については、全体で「子どもが生まれ育ってゆくための施策が、子どもの幸せを一番に考えて決定されていないから。」が40.5%で最も高くなっているが、これ以外の全ての項目(その他を除く)で4割近くとなっている。

男女ともに、その他を除く全ての項目で3割を超えている。

**【選択肢】**

- 1 子どもが生まれ育ってゆくための施策が、子どもの幸せを一番に考えて決定されていないから。
- 2 子どもの心身の健康が脅かされ、安心して成長できる環境(医療、教育、生活などへの支援の充実など)が十分に整備されていないから。
- 3 様々な背景や特性を持つ子ども(人種、国籍、障がい、経済状況など)に平等に公共サービスが行きわたっていないから。
- 4 子どもたちの意見が大人に一方向的に否定され、子どもたちの自主性が認められていない世の中であると感じているから。
- 5 子どもが抱えている悩みや困りごとを、気兼ねなく相談できる窓口などが不十分で、問題の解決の手助けとなる支援にたどり着けないから。
- 6 その他



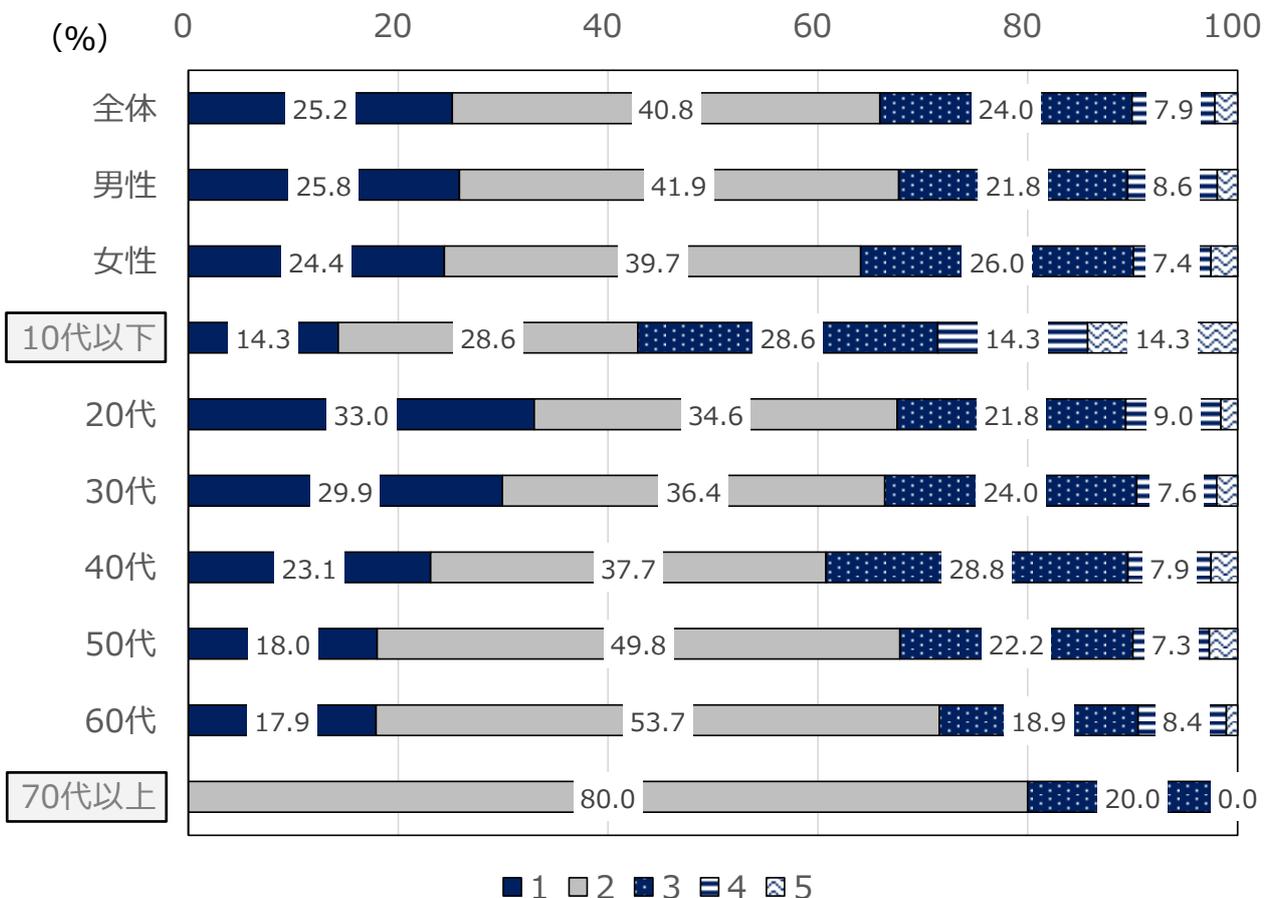
**Q 4 30年後に子どもの権利が尊重された社会となっているためには、何が最も求められると思いますか。【n=1,244】**

30年後に子どもの権利が尊重された社会となっているために求められているものについて、全体では「子どもが抱えている悩み（虐待、ヤングケアラー、貧困など）を一人で抱え込まずに打ち明けることができ、問題の解決へと共に歩んでいける機関を充実させる。」が40.8%で最も高くなっている。

この項目は性別・年代別を問わず最も高い項目となっており、年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向にある。

**【選択肢】**

- 1 子どもに対する様々な金銭的支援（進学、生活、スポーツ・文化活動などへの支援）を充実させる。
- 2 子どもが抱えている悩み（虐待、ヤングケアラー、貧困など）を一人で抱え込まずに打ち明けることができ、問題の解決へと共に歩んでいける機関を充実させる。
- 3 差別はいけないと強調して教えるだけではなく、多様性を認め合うことで、どんなことが実現できるのかを子どもに伝える教育を充実させる。
- 4 施策に子どもの意見を取り入れるなど、積極的に行政側で子どもの意見を尊重していく。
- 5 その他



## ⑥ 少子化対策・子育て支援

### Q1 あなたは、少子化の最も大きな原因は何だと思いますか。【n=1,253】

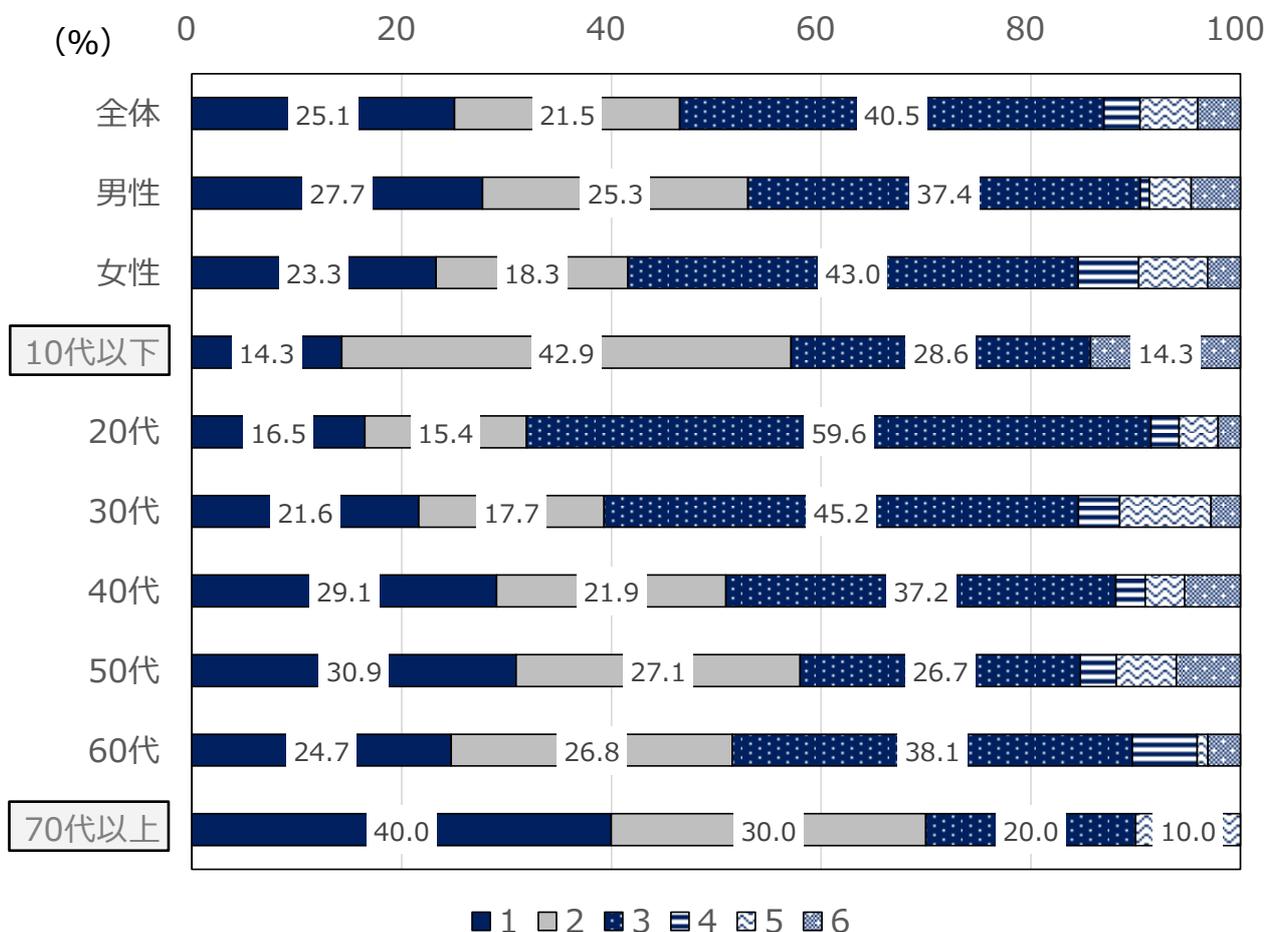
少子化の最も大きな原因について、全体で「出産・子育てに対する経済的負担の大きさ」が40.5%で最も高く、次いで「未婚化や晩婚化の進展」が25.1%、「若者の結婚や出産に関する意識の変化」が21.5%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

年代別では、「出産・子育てに対する経済的負担の大きさ」が年代が上がるにつれての割合が小さくなり、「未婚化や晩婚化の進展」や「若者の結婚や出産に関する意識の変化」の割合が大きくなる傾向にある。

#### 【選択肢】

- 1 未婚化や晩婚化の進展
- 2 若者の結婚や出産に関する意識の変化
- 3 出産・子育てに対する経済的負担の大きさ
- 4 育児や家事に対する男女間の不平等
- 5 社会（地域・職場を含む）の理解・支援不足
- 6 その他



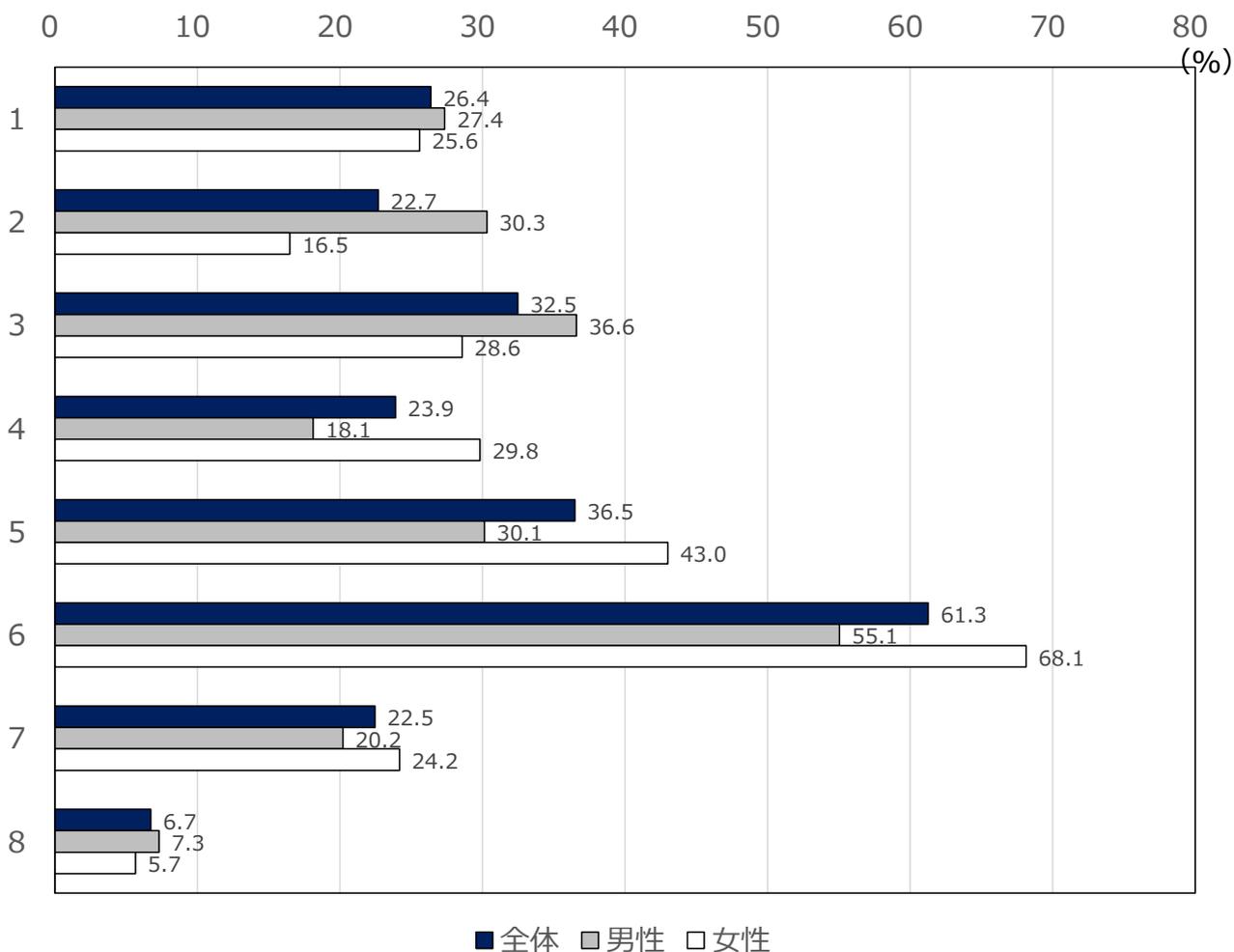
**Q2 あなたが考える、少子化対策を実施する上で、重要だと思う取り組みを選択してください。(3つまで)【n=1,247】**

少子化対策を実施する上で、重要だと思う取り組みについては、「子育て家庭への支援の充実（保育園等の充実、教育費の負担軽減等）」が61.3%で最も高く、次いで「妊娠・出産の支援体制の確保」が36.5%、「結婚の経済的負担の支援」が32.5%となっている。

性別では、「出会いの機会の創出」で男性が高く、「子育て家庭への支援の充実（保育園等の充実、教育費の負担軽減等）」で女性が高くなっている。

**【選択肢】**

- 1 若者の就労支援
- 2 出会いの機会の創出
- 3 結婚の経済的負担の支援
- 4 不妊治療への経済的支援
- 5 妊娠・出産の支援体制の確保
- 6 子育て家庭への支援の充実（保育園等の充実、教育費の負担軽減等）
- 7 子どもへの支援の充実(子ども居場所づくり、子ども貧困対策等)
- 8 その他



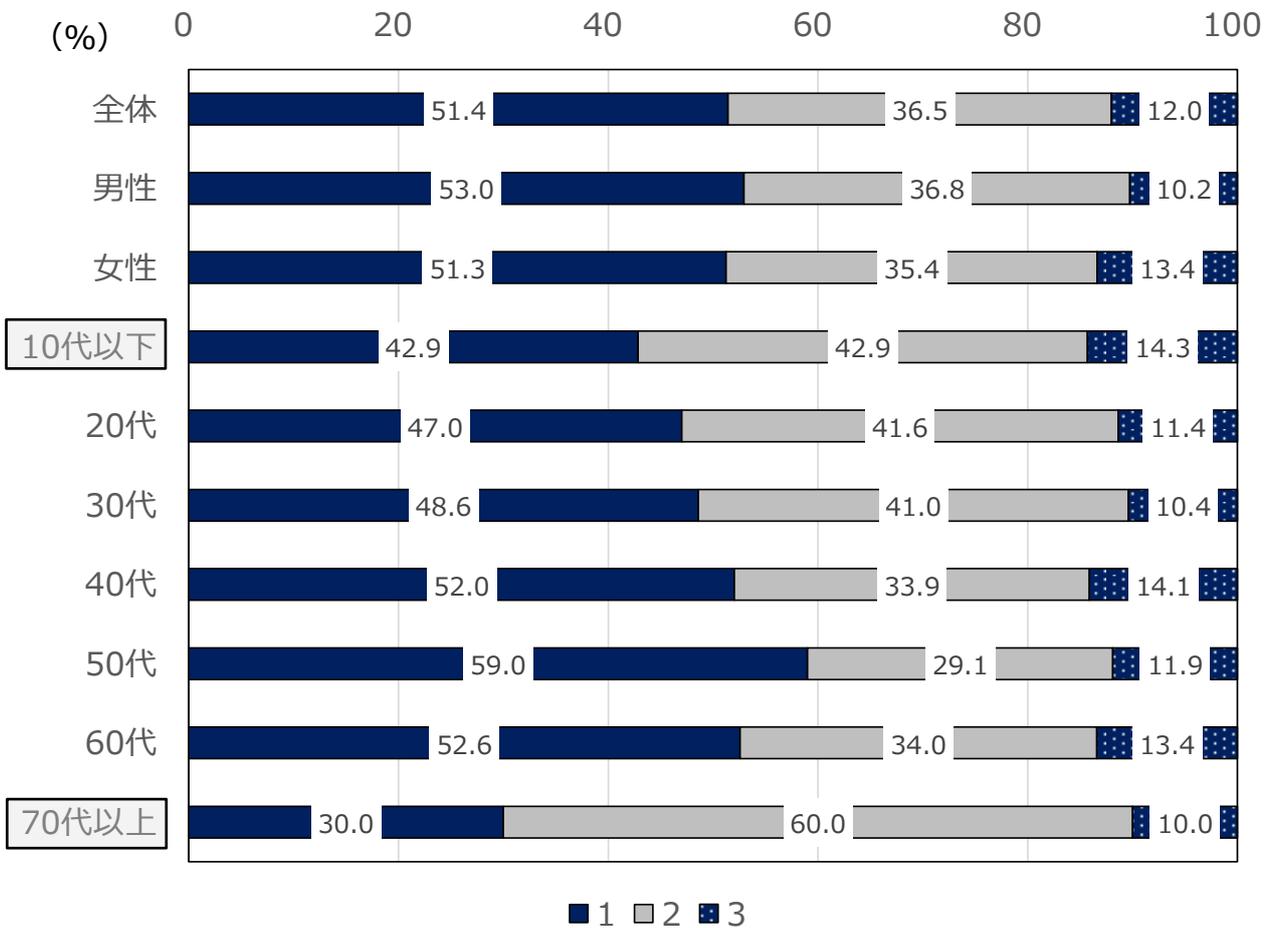
**Q3 あなたは小山市が子育てしやすいまちだと感じますか。【n=1,248】**

小山市が子育てしやすいまちだと感じるかについて、全体では「感じる。」が 51.4%、「感じない。」が 36.5%となっている。

性別・年代別においても「感じる。」が「感じない。」を上回っている。

**【選択肢】**

- 1 感じる。
- 2 感じない。
- 3 その他



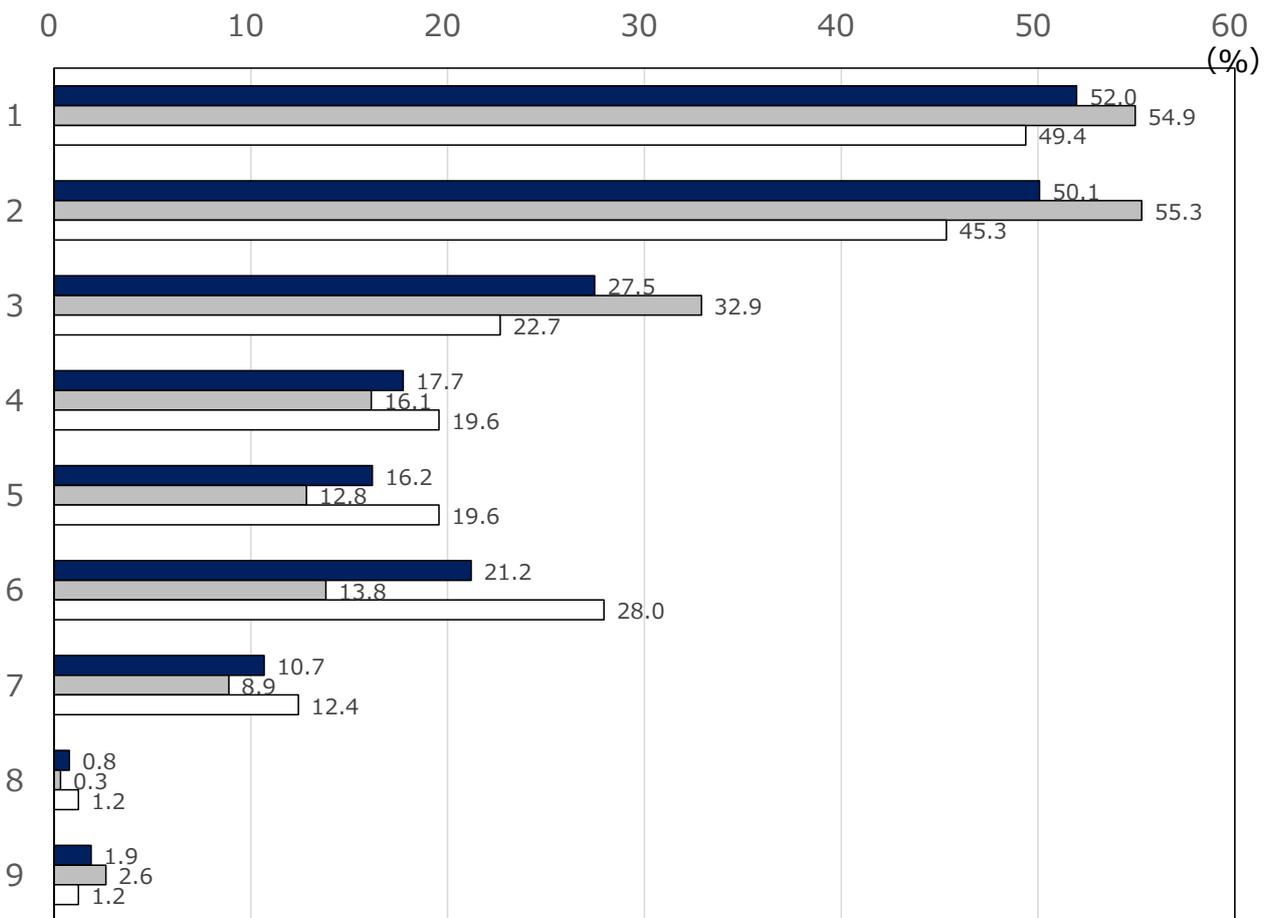
**Q4 Q3で1と答えた方に質問します。そう感じる理由は何ですか。(3つまで)【n=637】**

小山市が子育てしやすいまちだと感じる理由について、全体では「安心して遊べる公園や施設がある。」が52.0%で最も高く、次いで「住まいの近くに医療機関がある。」が50.1%、「学校や習い事、部活動など教育施設・環境が充実している。」が27.5%となっている。

男女ともに同様の傾向となっているが、「子育て世代が多い。」については男性に比べて女性の割合が大きい。

**【選択肢】**

- 1 安心して遊べる公園や施設がある。
- 2 住まいの近くに医療機関がある。
- 3 学校や習い事、部活動など教育施設・環境が充実している。
- 4 犯罪や交通事故が少ないなど治安が良い。
- 5 行政の子育て支援が充実している。
- 6 子育て世代が多い。
- 7 待機児童が少ない。
- 8 家事代行や育児ヘルパーなどの派遣サービス・ボランティアが充実している。
- 9 その他



■ 全体 □ 男性 □ 女性

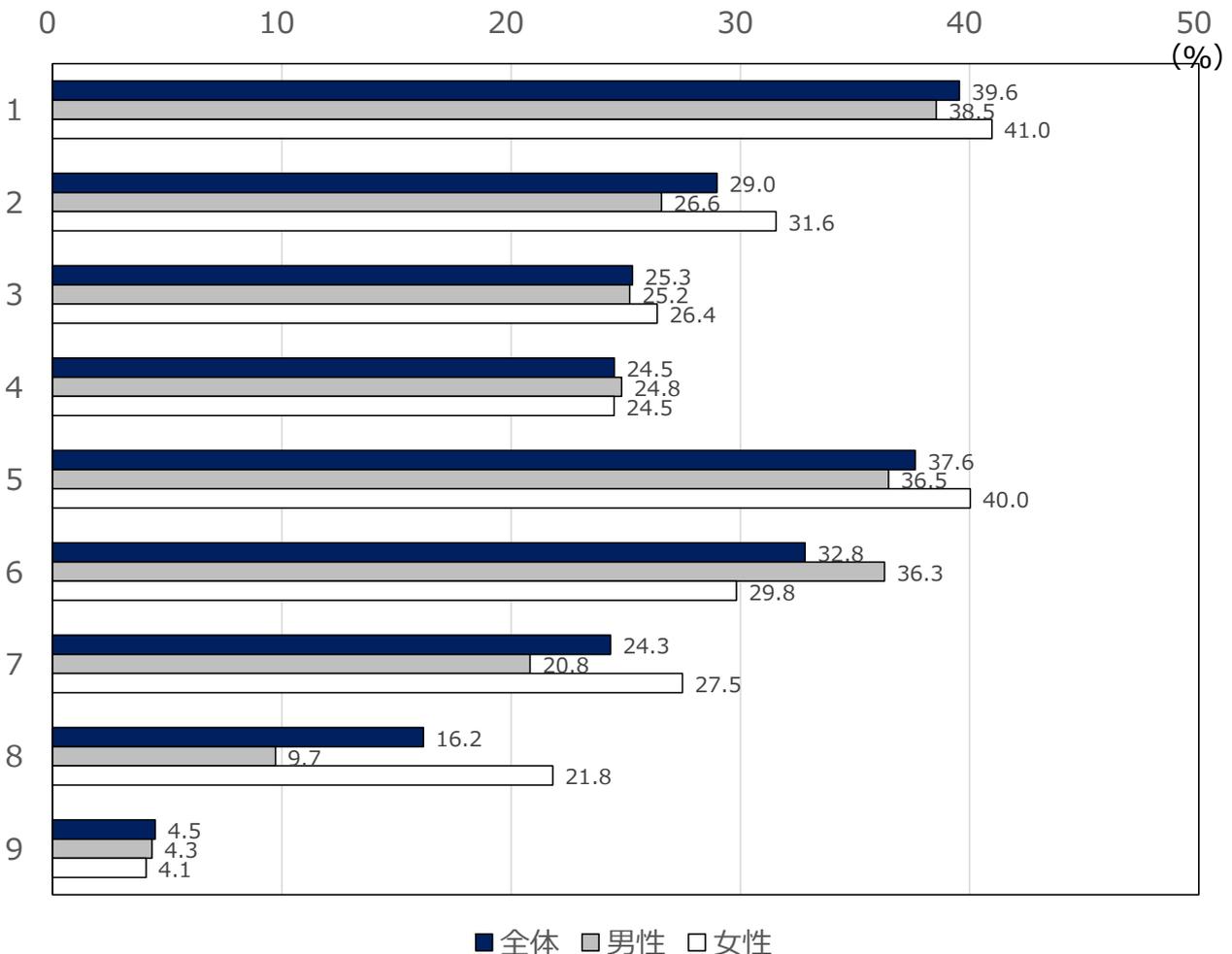
**Q5 30年後小山市をより子育てしやすいまちにするにはどのような取り組みが必要だと思いますか。  
(3つまで)【n=1,249】**

30年後小山市をより子育てしやすいまちにするために必要な取り組みについては、全体で「安心して遊べる公園や公共施設を増やす。」が39.6%で最も高く、次いで「行政の子育て支援を充実させる。」が37.6%、「子育て世代を増やすための取り組みを行う。」が32.8%となっている。

性別では、「家事代行や育児ヘルパーなどのサービス・ボランティアを充実させる。」が男性で9.7%である一方、女性で21.8%と高くなっている。

**【選択肢】**

- 1 安心して遊べる公園や公共施設を増やす。
- 2 医療機関の数を増やして医療を充実させる。
- 3 学校や習い事など教育施設・環境を充実させる。
- 4 地域ぐるみ・行政主導でまちの治安をより良くする。
- 5 行政の子育て支援を充実させる。
- 6 子育て世代を増やすための取り組みを行う。
- 7 待機児童を減らす・なくす。
- 8 家事代行や育児ヘルパーなどのサービス・ボランティアを充実させる。
- 9 その他



## (6) 農業・自然

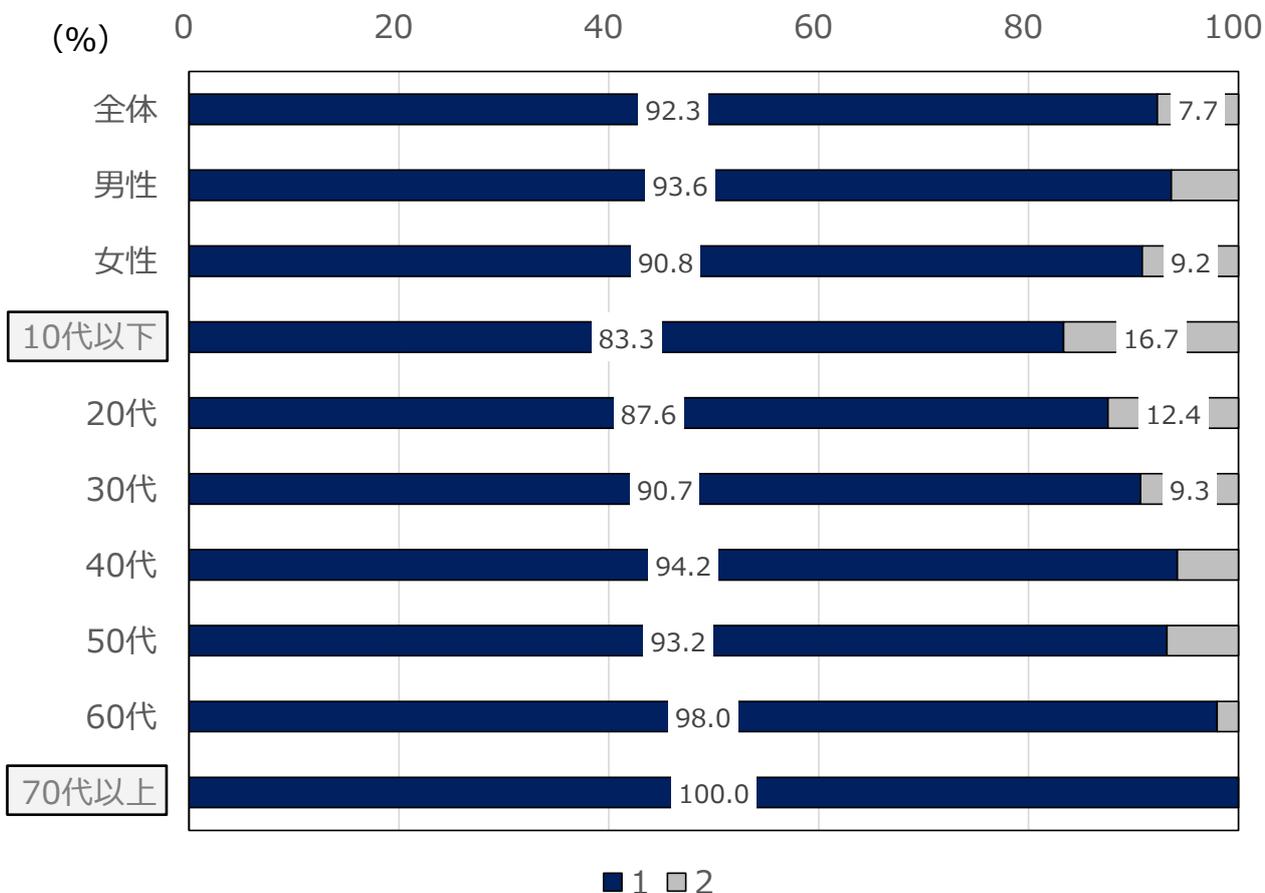
### ① 農業

Q 1 あなたは農業の担い手が不足していることを知っていましたか。【n=1,072】

農業の担い手不足については、「知っていた。」が92.3%、「知らなかった。」が7.7%となっている。性別・年代別を問わず「知っていた。」が9割から10割近くとなっている。

【選択肢】

- 1 知っていた。
- 2 知らなかった。



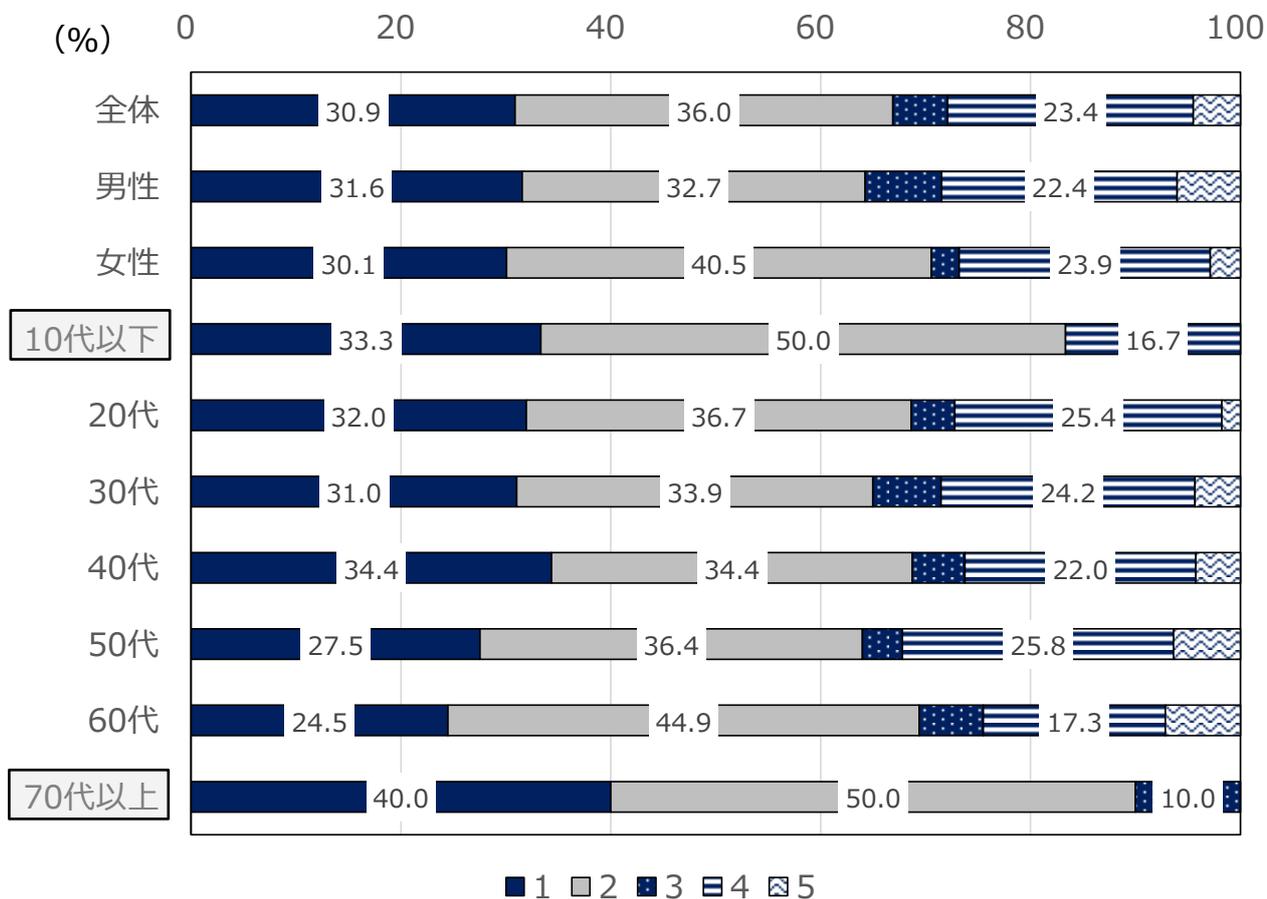
**Q2 農業や担い手の現状を知り、関心を持ってもらうためにどのような取り組みが必要だと考えますか。【n=1,072】**

農業や担い手に関心を持ってもらうための取り組みについては、全体で「担い手が主催する農業体験イベントへの参加」が36.0%で最も高く、次いで「小・中学校による農村部に出向いた「農」についての学習」が30.9%、「動画配信やSNSによる情報発信」が23.4%となっている。

性別・年代別を問わず「担い手が主催する農業体験イベントへの参加」が3割から4割超で最も割合の大きい項目となっている。

**【選択肢】**

- 1 小・中学校による農村部に出向いた「農」についての学習
- 2 担い手が主催する農業体験イベントへの参加
- 3 担い手や農業関連の有識者による講演会
- 4 動画配信やSNSによる情報発信
- 5 その他



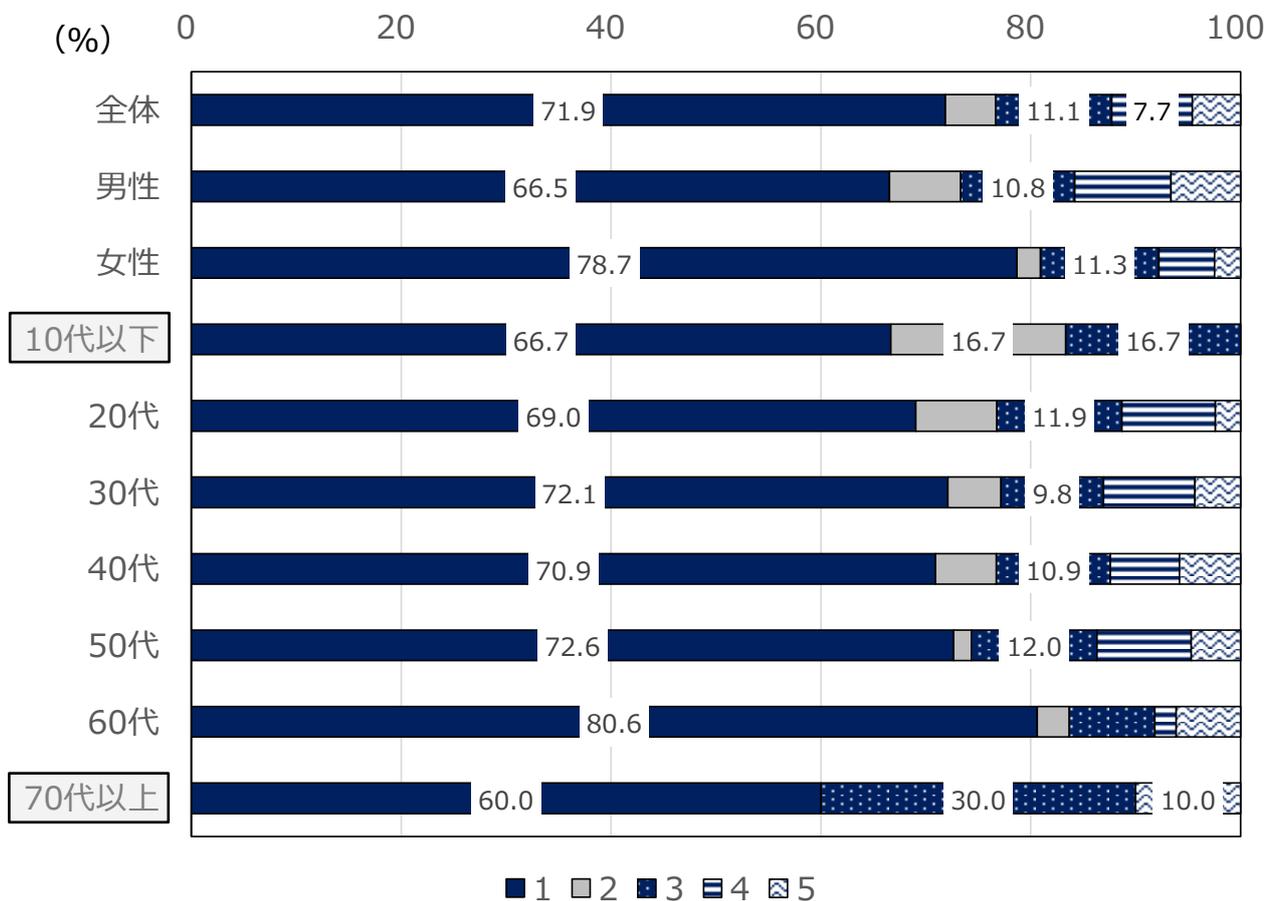
**Q3 農業の担い手が不足すると耕作放棄地の拡大など、農地が適切に利用されなくなることが心配されています。あなたが担い手へ支援できることはありますか。【n=1,067】**

担い手へ支援できることについては、全体で「担い手の作った農作物を積極的に購入したい。」が71.9%で最も高く、次いで「ボランティアで耕作以外の作業の手伝い（農道や耕作放棄地の草刈り、情報発信等）をしたい。」が11.1%、「自身も担い手となり農業を行いたい。」が7.7%となっている。

性別・年代別を問わず「担い手の作った農作物を積極的に購入したい。」が7割弱から8割で最も割合の大きい項目となっている。

**【選択肢】**

- 1 担い手の作った農作物を積極的に購入したい。
- 2 資金的な支援をしたい。
- 3 ボランティアで耕作以外の作業の手伝い（農道や耕作放棄地の草刈り、情報発信等）をしたい。
- 4 自身も担い手となり農業を行いたい。
- 5 その他



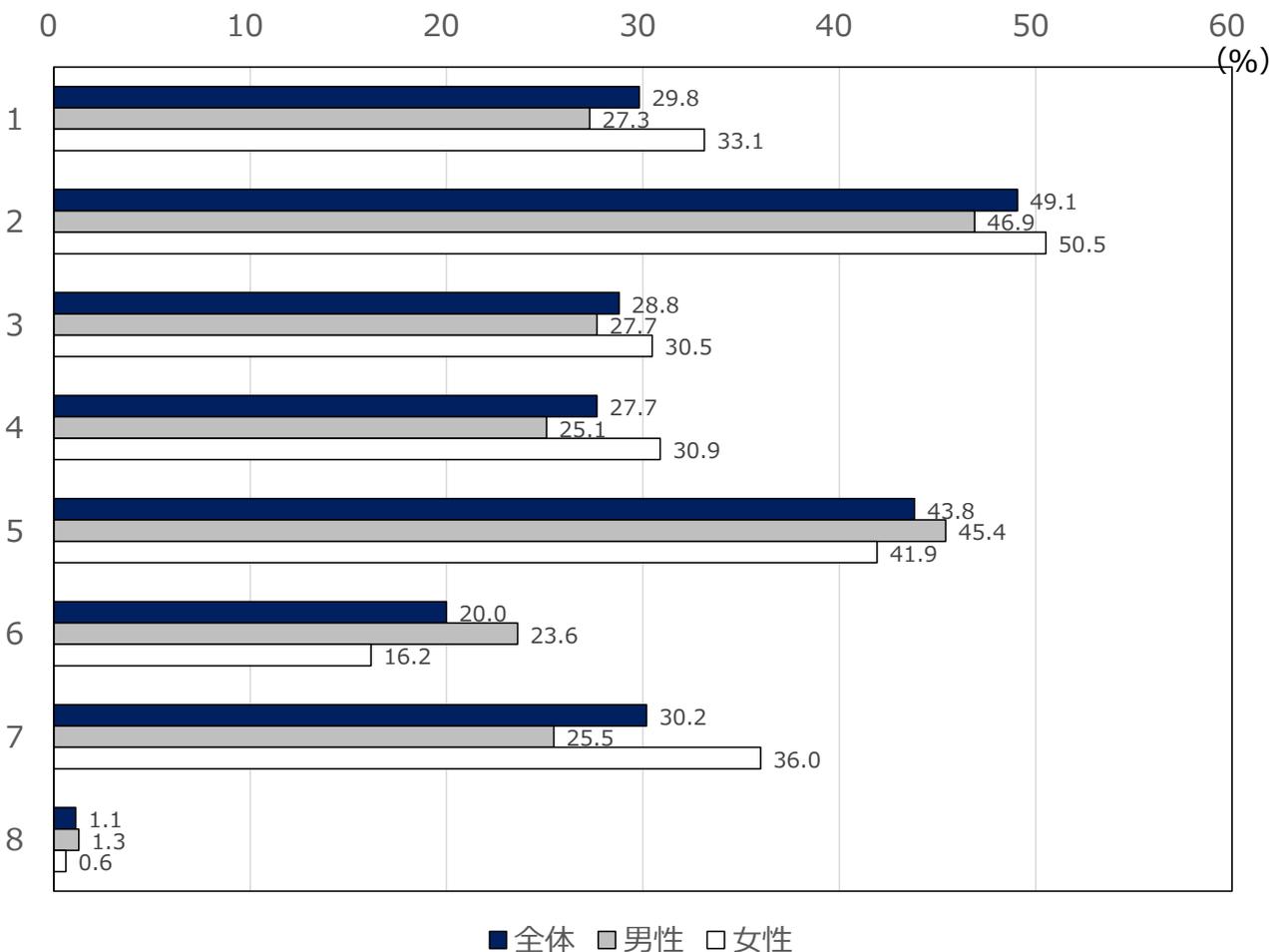
**Q 4 30年後の小山市においてどのような者が農業の担い手となっているのが望ましいと思いますか。  
(3つまで選択可)【n=1,070】**

望ましい農業の担い手については、全体で「新規で農業に取り組む個人」が49.1%で最も高く、次いで「地域の法人による経営」が43.8%、「農業以外にも職業を持つ、準担い手といえるような個人」が30.2%となっている。

男女ともに同様の傾向となっているが、「農業以外にも職業を持つ、準担い手といえるような個人」については男性の割合が大きい。

**【選択肢】**

- 1 農村部で代々農業を行っている個人
- 2 新規で農業に取り組む個人
- 3 同一地域に住む複数の農家による共同体
- 4 複数地区にまたがる複数の農家による共同体
- 5 地域の法人による経営
- 6 全国的な法人による経営
- 7 農業以外にも職業を持つ、準担い手といえるような個人
- 8 その他



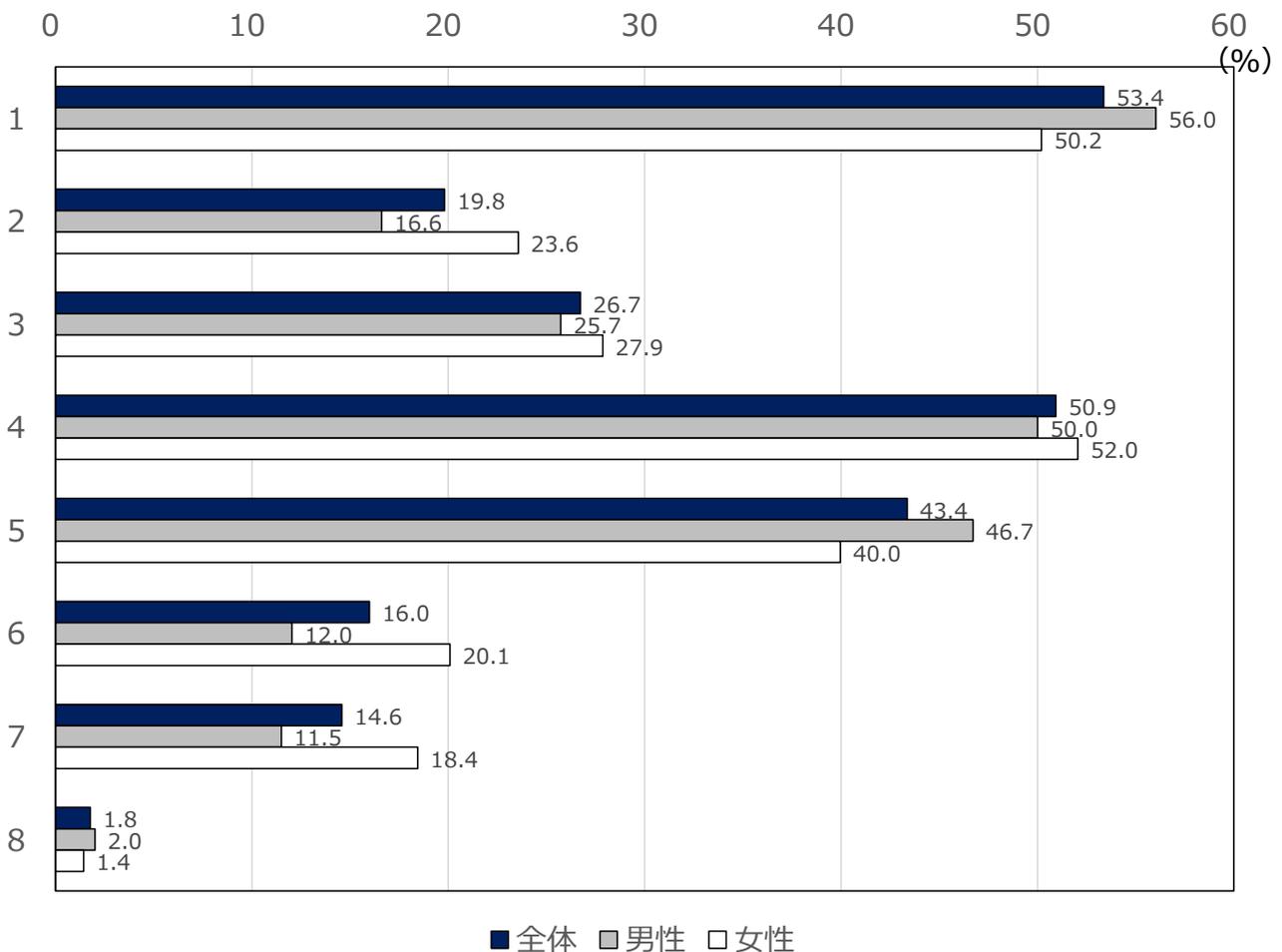
**Q5 30年後の小山市において、Q4で選んだ担い手による農業はどのような状態になっているのが望ましいと思いますか。（3つまで選択可）【n=1,070】**

望ましい農業の状態については、全体で「農地の貸し借りが積極的に行われ、まとまった農地が耕作できるようになっている。」が53.4%で最も高く、次いで「賃金体系、週休制、福利厚生等が充実し、雇用が創出されている。」が50.9%、「営農の機械化や自動化が進み、省人化された効率的な農業が営まれている。」が43.4%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 農地の貸し借りが積極的に行われ、まとまった農地が耕作できるようになっている。
- 2 耕作以外の作業の手伝い（農道や耕作放棄地の草刈り等）に、小山市全体域の住民で取り組んでいる。
- 3 農村部を活性化させる、都市部住民との交流が盛んに行われている。
- 4 賃金体系、週休制、福利厚生等が充実し、雇用が創出されている。
- 5 営農の機械化や自動化が進み、省人化された効率的な農業が営まれている。
- 6 農薬や化学肥料を極力使わず、生物・植物の住まう環境に負荷をかけない農業が主流となっている。
- 7 市民農園のような感覚で小規模かつ短期間な営農が行えるシステムが構築されている。
- 8 その他



## ② 市街地内の農地

### Q 1 あなたは市街地内にある農地について、どのように感じていますか。【n=1,073】

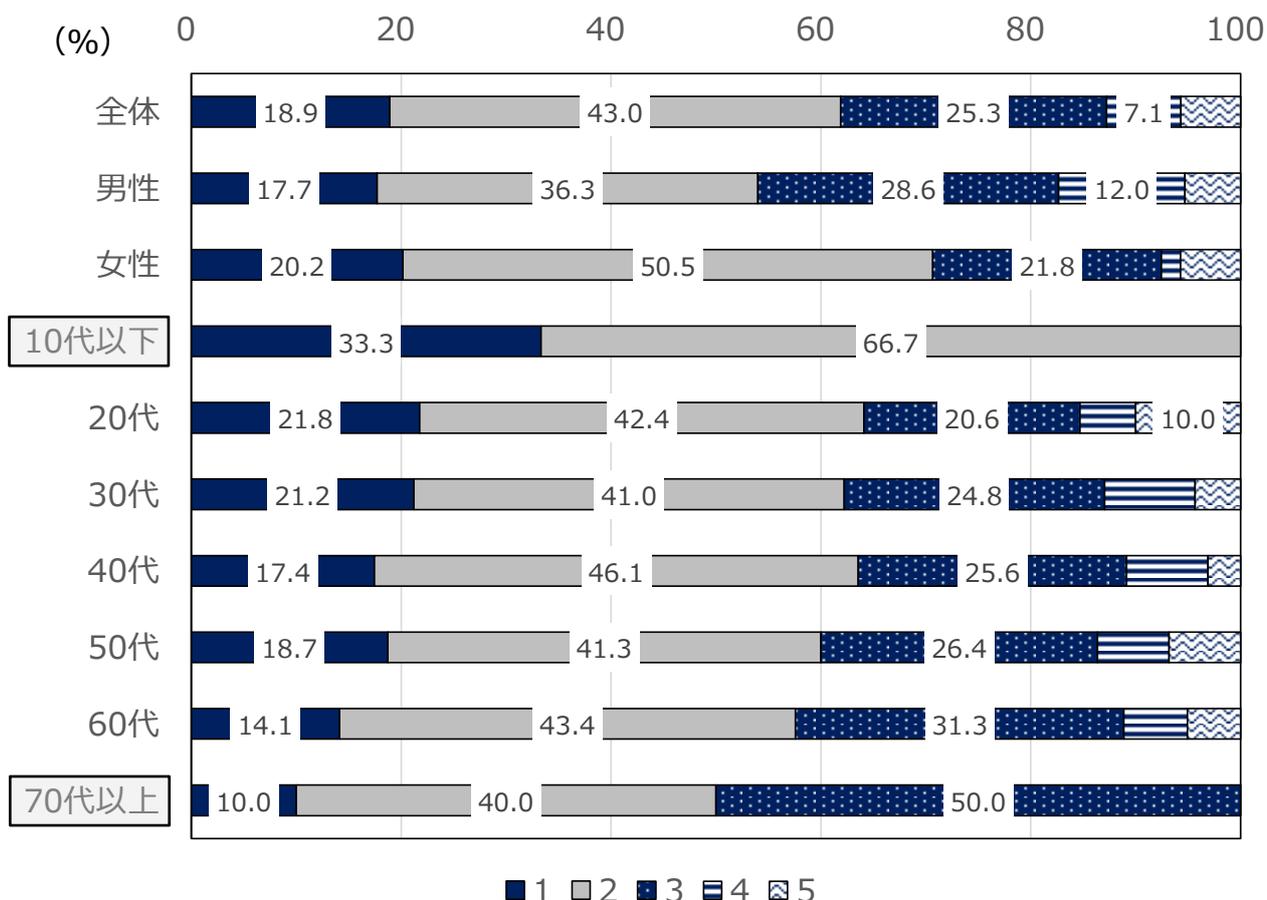
市街地にある農地については、全体で「どちらかというと重要で、できるだけ保全すべき。」が43.0%で最も高く、次いで「どちらかというと重要ではなく、多少農地が宅地化するのはやむを得ない。」が25.3%、「大変重要で保全すべき。」が18.9%となっている。

性別では、「どちらかというと重要で、できるだけ保全すべき。」男性で36.3%である一方、女性で50.5%と高くなっている。

年代別では、「どちらかというと重要で、できるだけ保全すべき。」が4割から5割弱となっている。

#### 【選択肢】

- 1 大変重要で保全すべき。
- 2 どちらかというと重要で、できるだけ保全すべき。
- 3 どちらかというと重要ではなく、多少農地が宅地化するのはやむを得ない。
- 4 重要でないので、積極的に宅地化を推進するべき。
- 5 わからない。



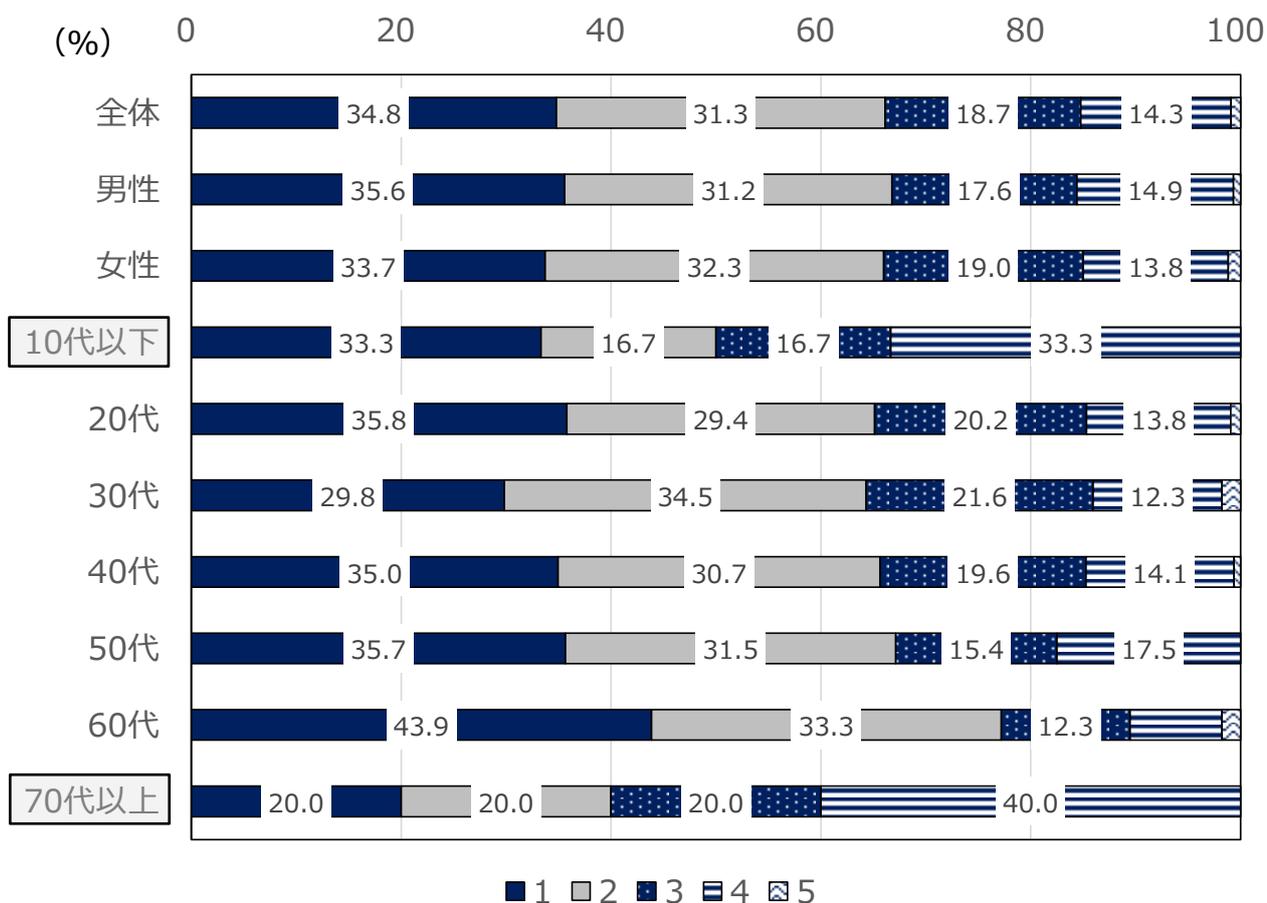
**Q2 Q1で1、2と答えた方に質問します。市街地内の農地を保全する意義について、最もあなたの考えに近いものはどれですか。【n=664】**

市街地内の農地を保全する意義については、全体で「洪水や土砂崩れ防止、生きものの生息地としての機能がある。」が34.8%で最も高く、次いで「住宅地のすぐそばに農地があることで、日常的に「食」の重要性を感じることができる。」が31.3%、「農業が身近で営まれていることは、子どもの教育に役立つ。」が18.7%となっている。

男女ともに同様の傾向となっているが、60代では「洪水や土砂崩れ防止、生きものの生息地としての機能がある。」の割合がやや大きくなっている。

**【選択肢】**

- 1 洪水や土砂崩れ防止、生きものの生息地としての機能がある。
- 2 住宅地のすぐそばに農地があることで、日常的に「食」の重要性を感じることができる。
- 3 農業が身近で営まれていることは、子どもの教育に役立つ。
- 4 公園や人工的な緑地だけでなく、農地があることによって住宅地に潤い生まれる。
- 5 その他



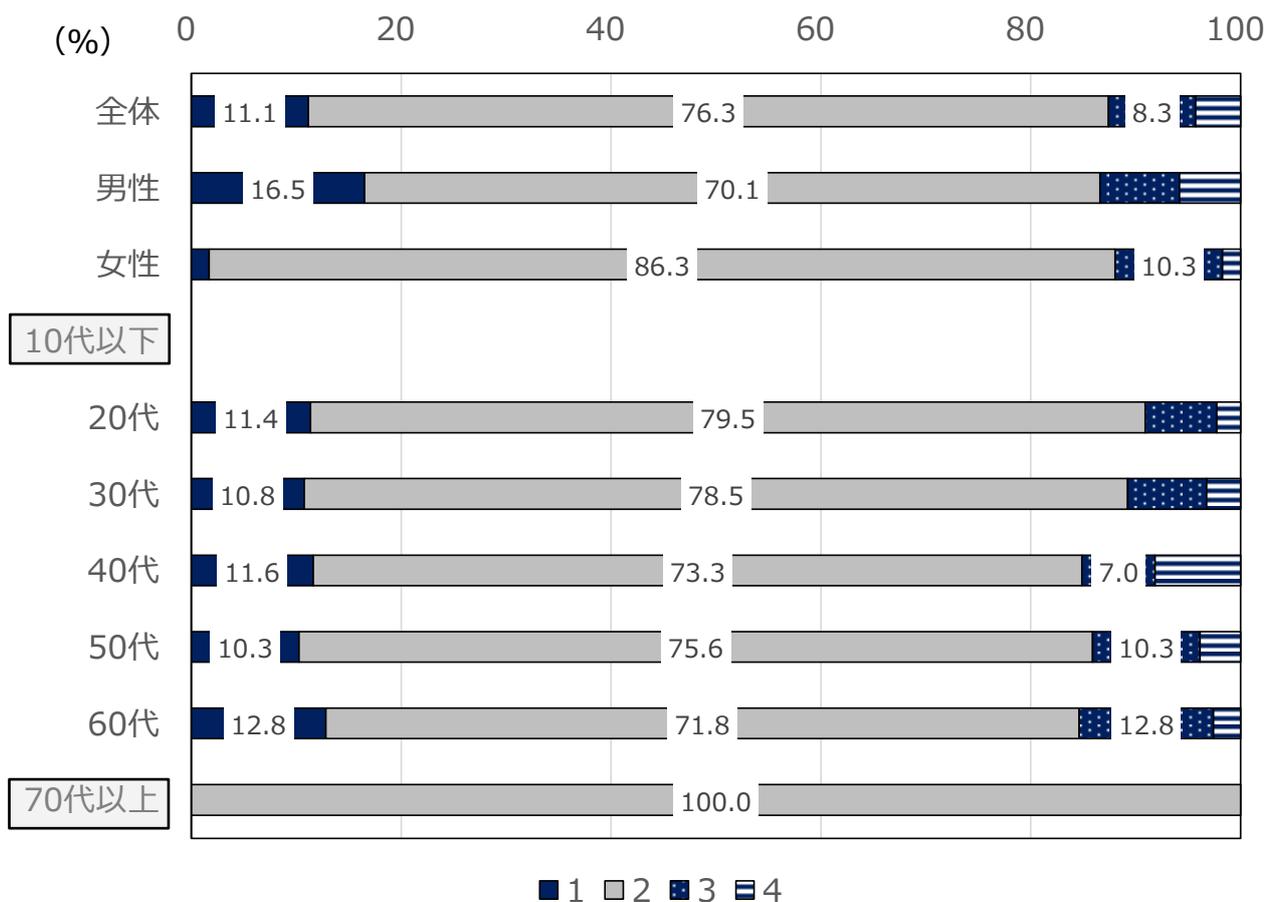
**Q3 Q1で3、4と答えた方に質問します。市街地内にある農地を宅地化した場合に、市街地内の洪水や土砂崩れなどの災害を防いだり、生きものの生息地を確保することについてどのように対応すべきだと思いますか。【n=350】**

災害を防いだり、生きものの生息地を確保する対応については、全体で「洪水や土砂崩れを防ぐための人工的な施設や、生きものの生息地を確保するための公園や緑地を整備する。」が76.3%で最も高く、次いで「特に対応する必要はない。」が11.1%、「わからない。」が8.3%となっている。

性別・年代別を問わず「洪水や土砂崩れを防ぐための人工的な施設や、生きものの生息地を確保するための公園や緑地を整備する。」が7割以上で最も割合の大きい項目となっており、女性の割合が特に大きくなっている。

**【選択肢】**

- 1 特に対応する必要はない。
- 2 洪水や土砂崩れを防ぐための人工的な施設や、生きものの生息地を確保するための公園や緑地を整備する。
- 3 わからない。
- 4 その他



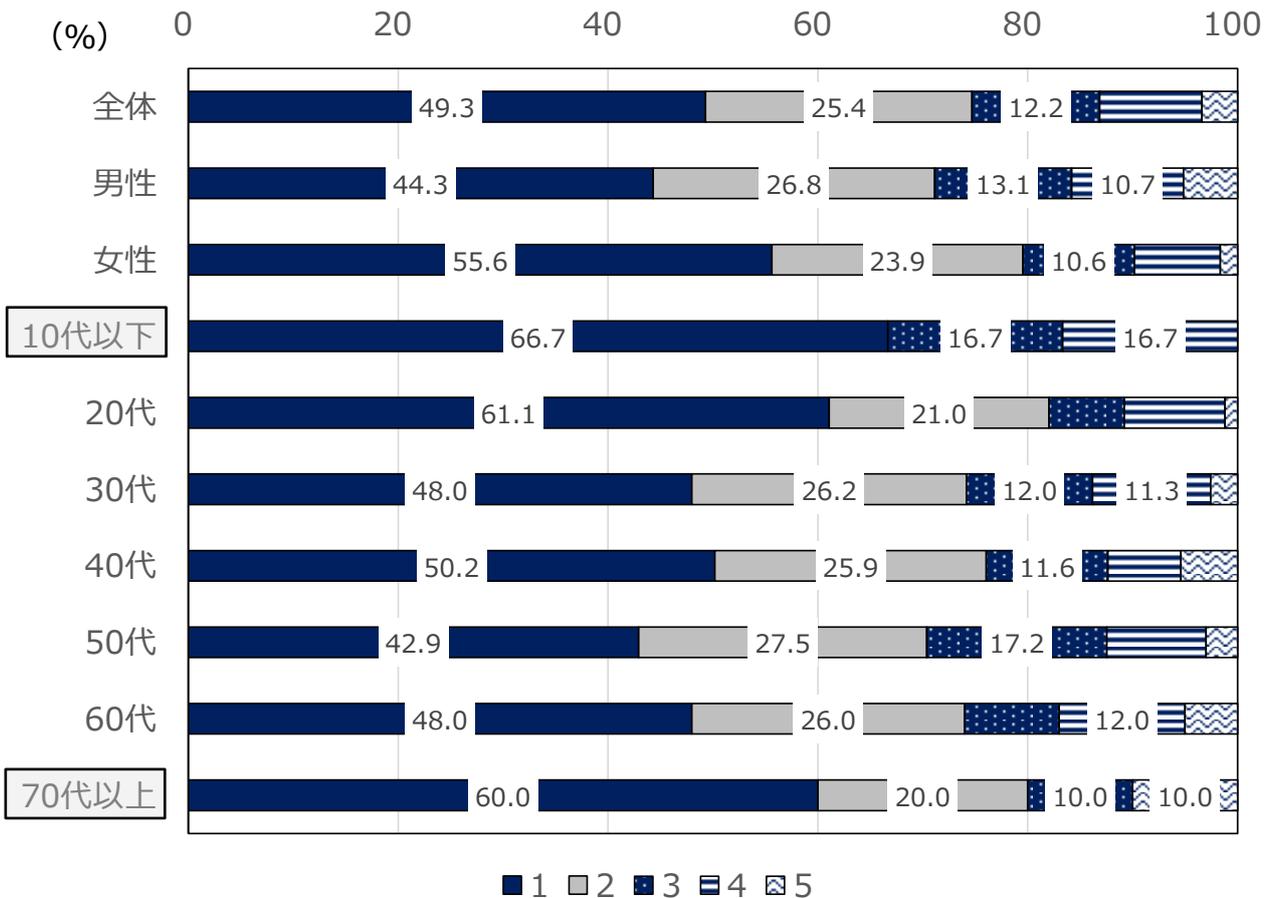
**Q 4 30年後の小山市において、市街地内にある農地ができるだけ保全されているためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。【n=1,067】**

市街地内にある農地を保全する取り組みについては、全体で「農業が持続できるような農業者への支援や育成ができる仕組みづくり」が49.3%で最も高く、次いで「都市部の住民が利用できる貸し農園や体験農園の整備」が25.4%、「土壌流出などの周辺の地域への悪影響が発生しないためのルールづくり」が12.2%となっている。

性別・年代別を問わず「農業が持続できるような農業者への支援や育成ができる仕組みづくり」が4割から6割で最も割合の大きい項目となっており、性別では男性に比べて女性、年代別では20代が大きくなっている。

**【選択肢】**

- 1 農業が持続できるような農業者への支援や育成ができる仕組みづくり
- 2 都市部の住民が利用できる貸し農園や体験農園の整備
- 3 土壌流出などの周辺の地域への悪影響が発生しないためのルールづくり
- 4 市街地における農業や農地の存在が重要であることの周知や啓発
- 5 その他



### ③ 自然

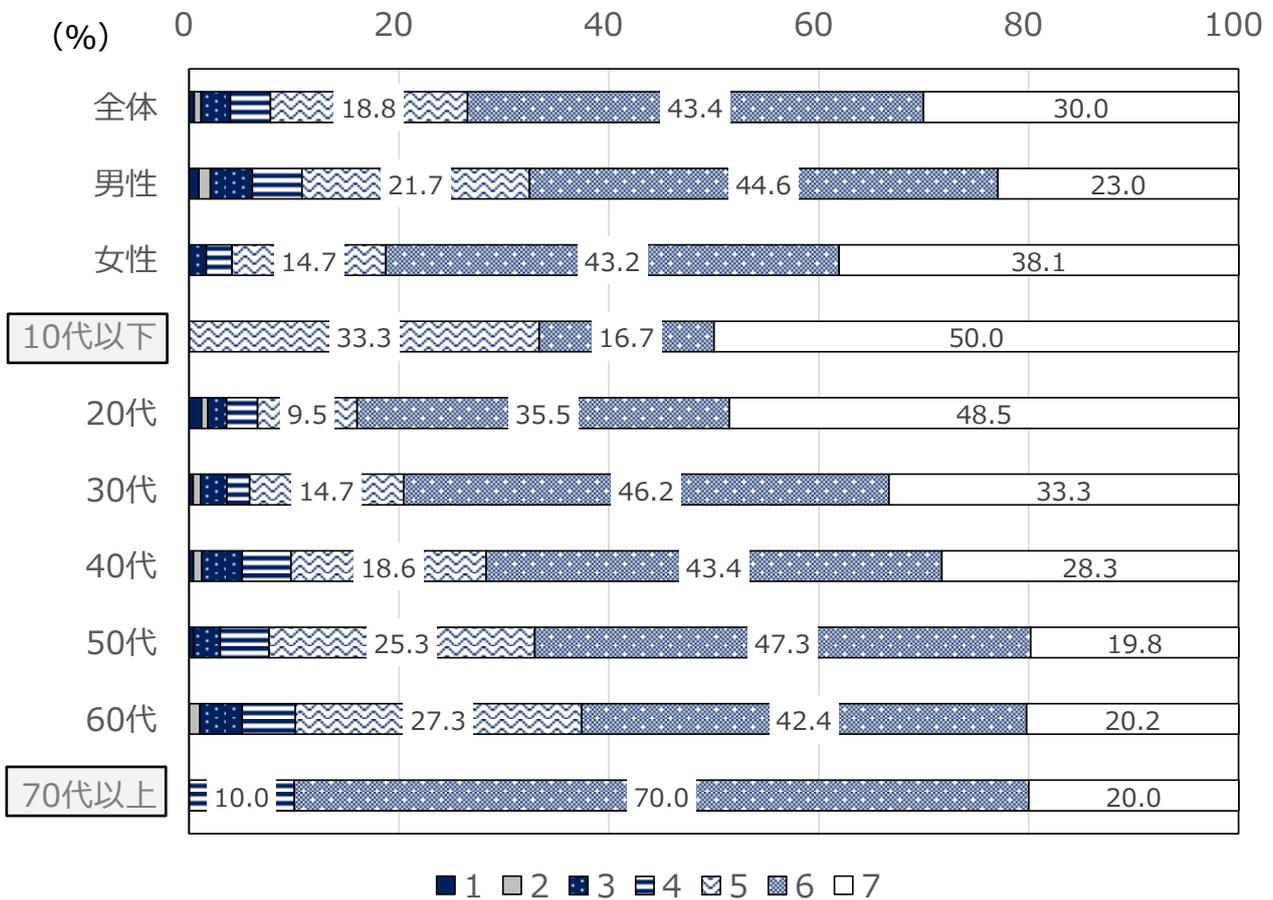
#### Q 1 あなたは渡良瀬遊水地をどのくらい利用していますか。【n=1,075】

渡良瀬遊水地の利用については、全体で「年に1回未満」が43.4%で最も高く、次いで「全く行ったことがない」が30.0%、「年に1～5回程度」が18.8%となっている。

性別・年代別を問わず「年に1回未満」が4割前後となっているが、「全く行ったことがない」は男性より女性の割合が大きく、年代が下がるにつれて割合も小さくなる傾向にある。

#### 【選択肢】

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 1 ほぼ毎日      | 5 年に1～5回程度   |
| 2 週に1～3回程度  | 6 年に1回未満     |
| 3 月に1～3回程度  | 7 全く行ったことがない |
| 4 年に6～10回程度 |              |



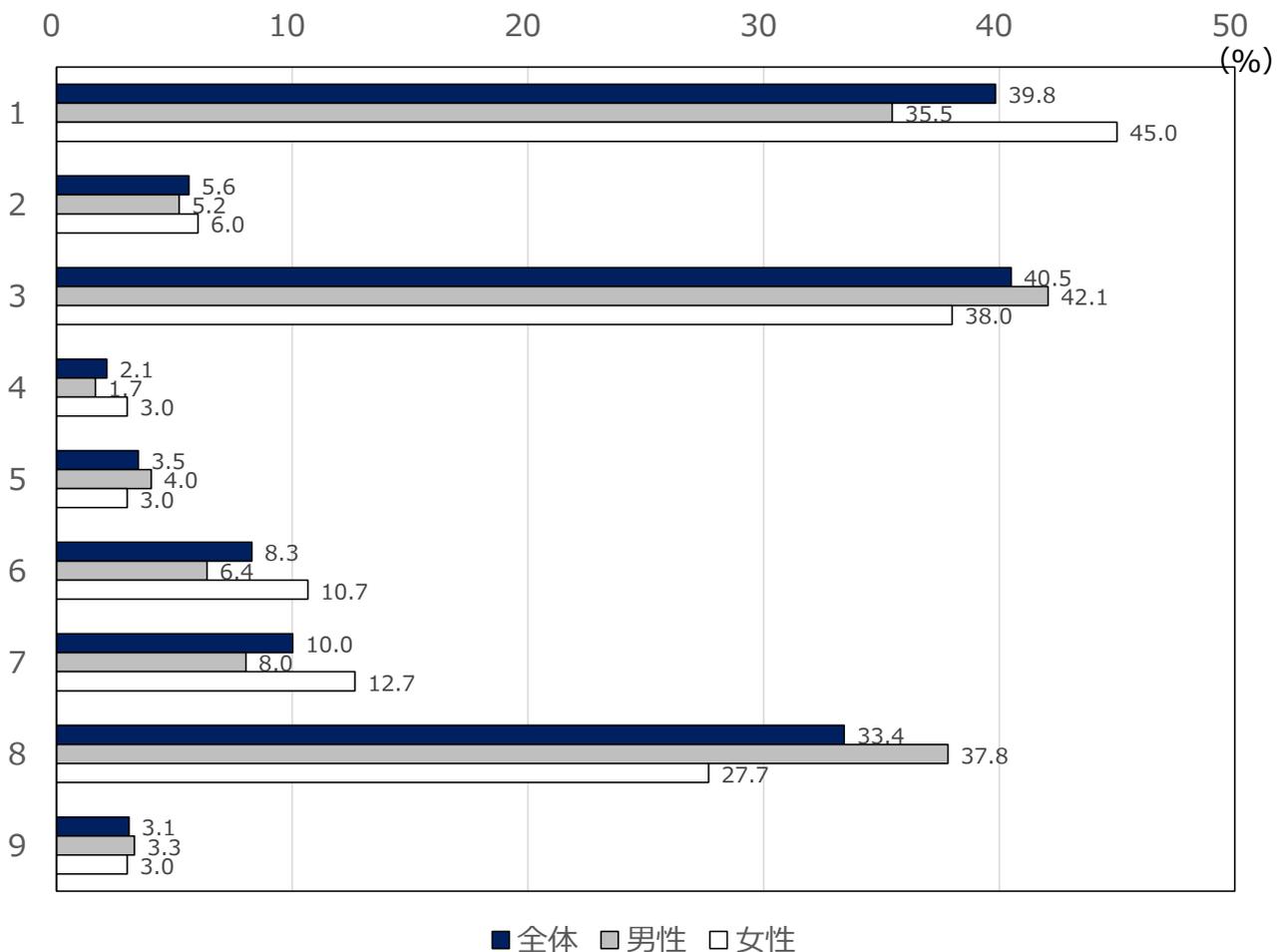
**Q2 Q1で1～6と答えた方に質問します。どのような目的で行きましたか。(複数選択可)【n=748】**

渡良瀬遊水地を利用する目的については、全体で「散策、ウォーキング、ランニング、サイクリングなどの運動」が40.5%で最も高く、次いで「動植物の観察、眺望など、自然に触れる」が39.8%、「清掃活動、ヨシ焼き、外来種除去作戦などの保全活動」が33.4%となっている。

男女ともに、3割からそれ以上の割合となっている項目は上記同様となっており、それ以外の項目との差が大きい。

**【選択肢】**

- 1 動植物の観察、眺望など、自然に触れる
- 2 史跡、歴史、文化に触れる
- 3 散策、ウォーキング、ランニング、サイクリングなどの運動
- 4 野球、サッカー、テニス、ゴルフなどのスポーツ施設の利用
- 5 カヌー、ボート、釣りなどの水辺のアクティビティ
- 6 広場や遊具で遊ぶ、ピクニック、バーベキューなど公園的な利用
- 7 お祭り、花火大会、熱気球体験などのイベント
- 8 清掃活動、ヨシ焼き、外来種除去作戦などの保全活動
- 9 その他



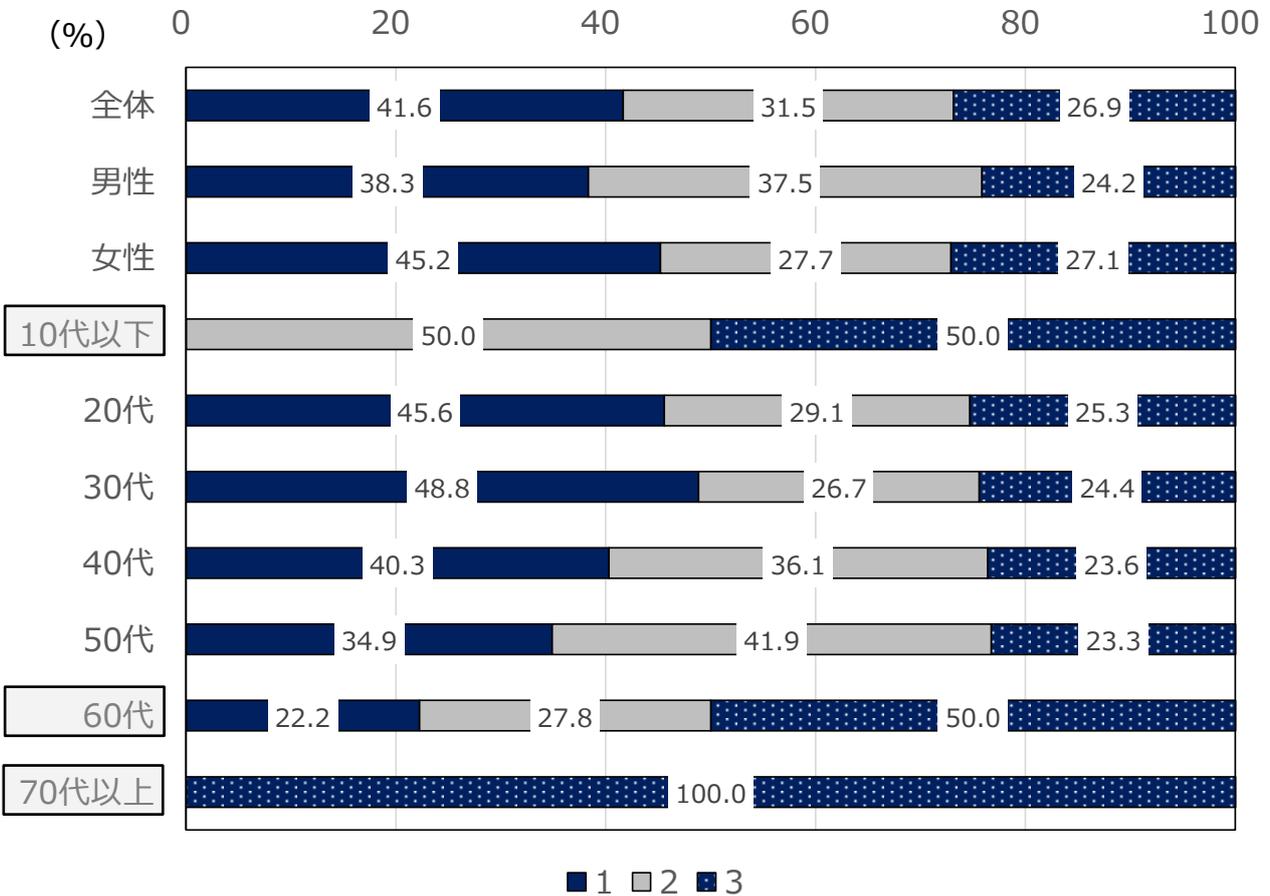
**Q3 Q1で7と答えた方に質問します。その主な理由はなんですか。【n=305】**

渡良瀬遊水地に行ったことがない理由については、全体で「渡良瀬遊水地のことをあまり知らない。」が41.6%で最も高く、次いで「参加したい・利用したいと思う施設、アクティビティ、イベントがない。」が31.5%、「移動手段がない、距離が遠いなどアクセスが不便。」が26.9%となっている。

性別・年代別を問わず「その他」を除く3項目の割合が2割以上となっており、一定のバラつきが見られる。

**【選択肢】**

- 1 渡良瀬遊水地のことをあまり知らない。
- 2 参加したい・利用したいと思う施設、アクティビティ、イベントがない。
- 3 移動手段がない、距離が遠いなどアクセスが不便。
- 4 その他



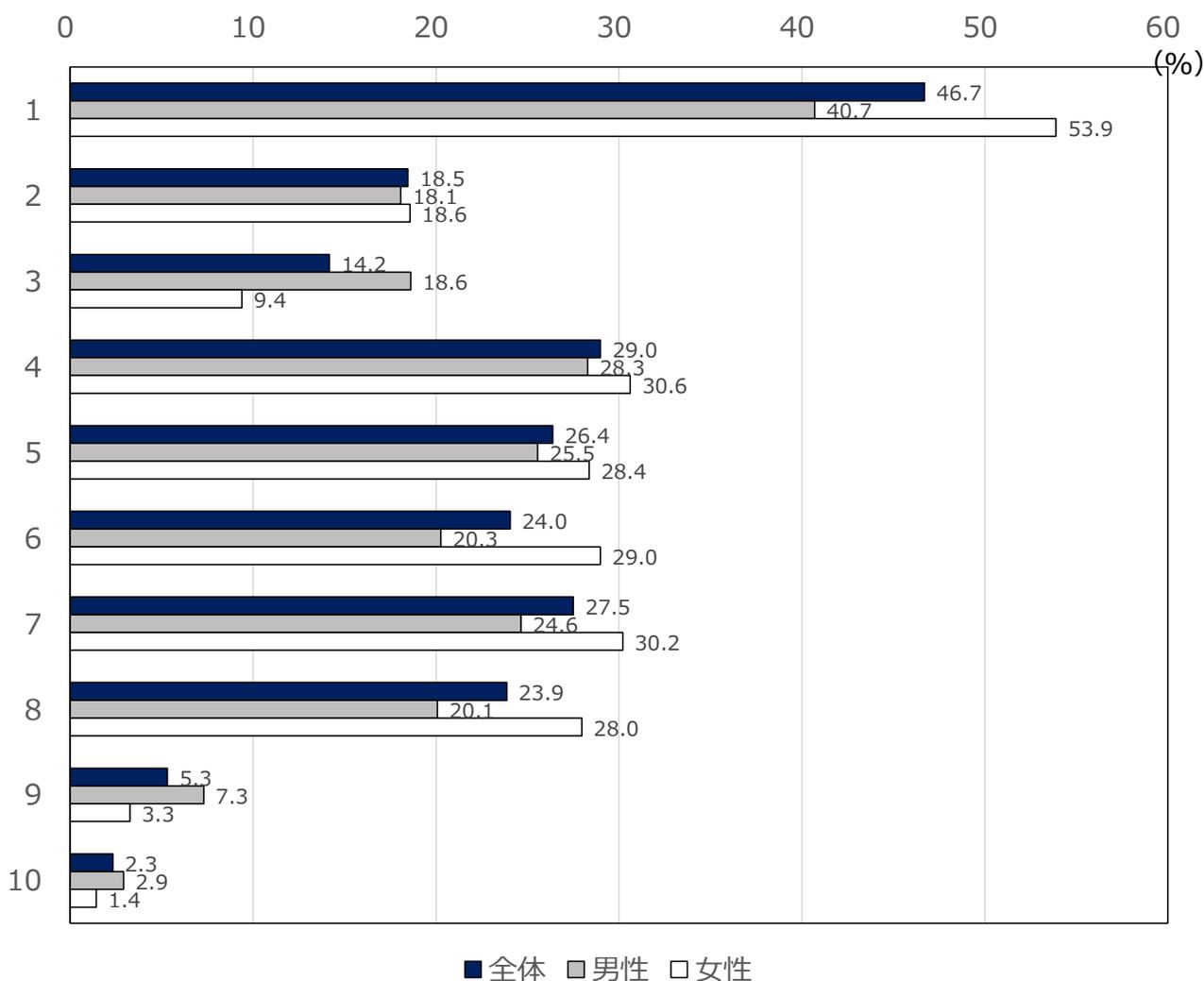
**Q 4 30年後のさらなる動植物の保全や湿地の利用促進に向けて、市はどのような取り組みを強化すべきだと思いますか。(3つまで選択可)【n=1,073】**

動植物の保全や湿地の利用促進に向けた取り組みについては、全体で「渡良瀬遊水地の魅力や情報を SNS などで発信」が 46.7%で最も高く、次いで「水辺のアクティビティの拡充」が 29.0%、「自然や歴史の保全活動の強化」が 27.5%となっている。

性別では、「渡良瀬遊水地の魅力や情報を SNS などで発信」が男性に比べて女性で高く、「スポーツに関する施設や環境の拡充」が女性に比べて男性で高くなっている。

**【選択肢】**

- |                            |                 |
|----------------------------|-----------------|
| 1 渡良瀬遊水地の魅力や情報を SNS などで発信  | 6 イベントの拡充       |
| 2 自然、歴史に関する施設の拡充           | 7 自然や歴史の保全活動の強化 |
| 3 スポーツに関する施設や環境の拡充         | 8 移動手段、アクセスの改善  |
| 4 水辺のアクティビティの拡充            | 9 わからない         |
| 5 広場や遊具、バーベキュー施設などの公園機能の拡充 | 10 その他          |



#### ④ 平地林の保全、再生、創出、維持管理

##### Q 1 あなたは平地林（林、山林）の中に入ったことがありますか。【n=1,067】

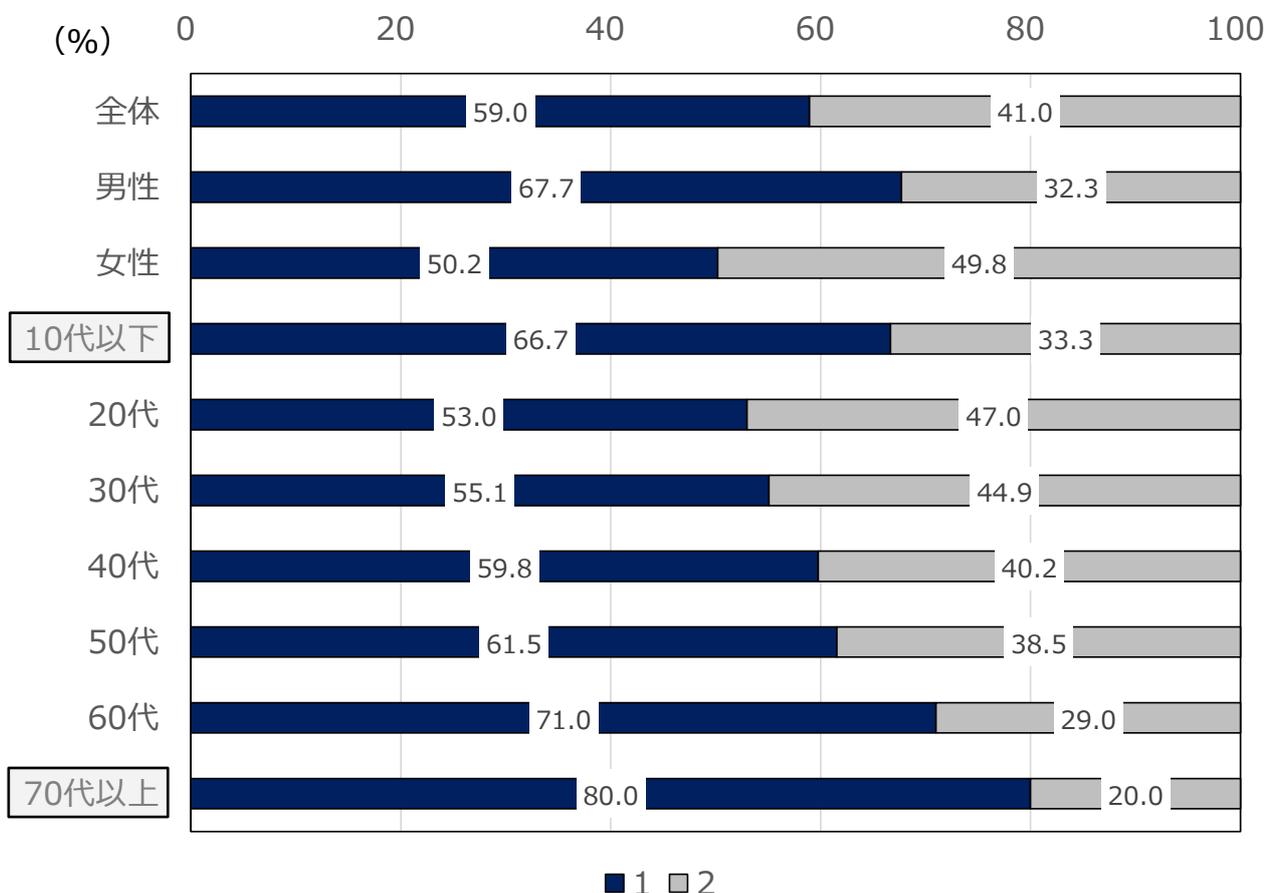
平地林（林、山林）の中に入った経験については、全体で「入ったことがある。」が 59.0%、次いで「入ったことはない。」が 41.0%となっている。

性別では、「入ったことがある。」が男性で 67.7%である一方、女性で 50.2%と低くなっている。

年代別では、「入ったことがある。」が 5割から 7割となっており、割合は年代が上がるにつれて大きくなっている。

##### 【選択肢】

- 1 入ったことがある。
- 2 入ったことはない。



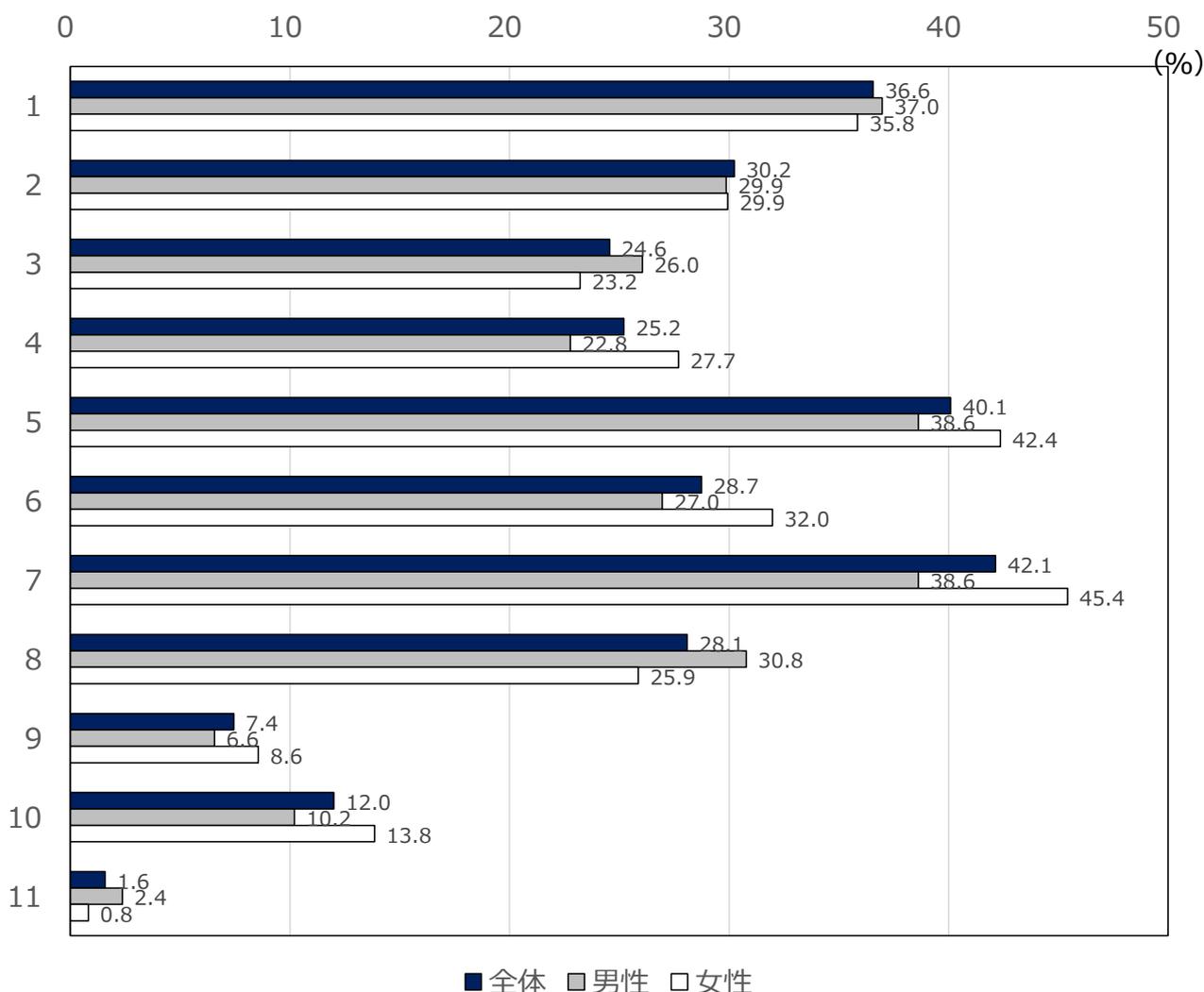
**Q2 採算性の低さや担い手不足により、ごみの不法投棄や手入れ不足の平地林が増えています。平地林の保全を継続するためには、利活用によりその価値を高めることが重要です。平地林の利活用として、今までに利用したことがある、これから利用したいと思うものはどれですか。(複数選択可)【n=1,075】**

平地林の利活用については、全体で「休息、散策、運動などの心身のリフレッシュ」が42.1%で最も高く、次いで「昆虫採取、動植物などの自然観察や教育・学習」が40.1%、「日よけ、防風、水源確保としての活用」が36.6%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- |                         |  |
|-------------------------|--|
| 1 日よけ、防風、水源確保としての活用     | 6 平地林を活かしたアクティビティなどの体験<br>(フォレストアドベンチャーなど) |
| 2 土砂の流出防止、土砂崩れ防止としての活用  | 7 休息、散策、運動などの心身のリフレッシュ                     |
| 3 木材、薪、腐葉土や肥料などの生産・利用   | 8 バーベキュー、キャンプ                              |
| 4 山菜やきのこなどの食料の生産・採取     | 9 音楽、絵画などの芸術活動                             |
| 5 昆虫採取、動植物などの自然観察や教育・学習 | 10 お祭り、清掃活動などのイベント                         |
|                         | 11 その他                                     |



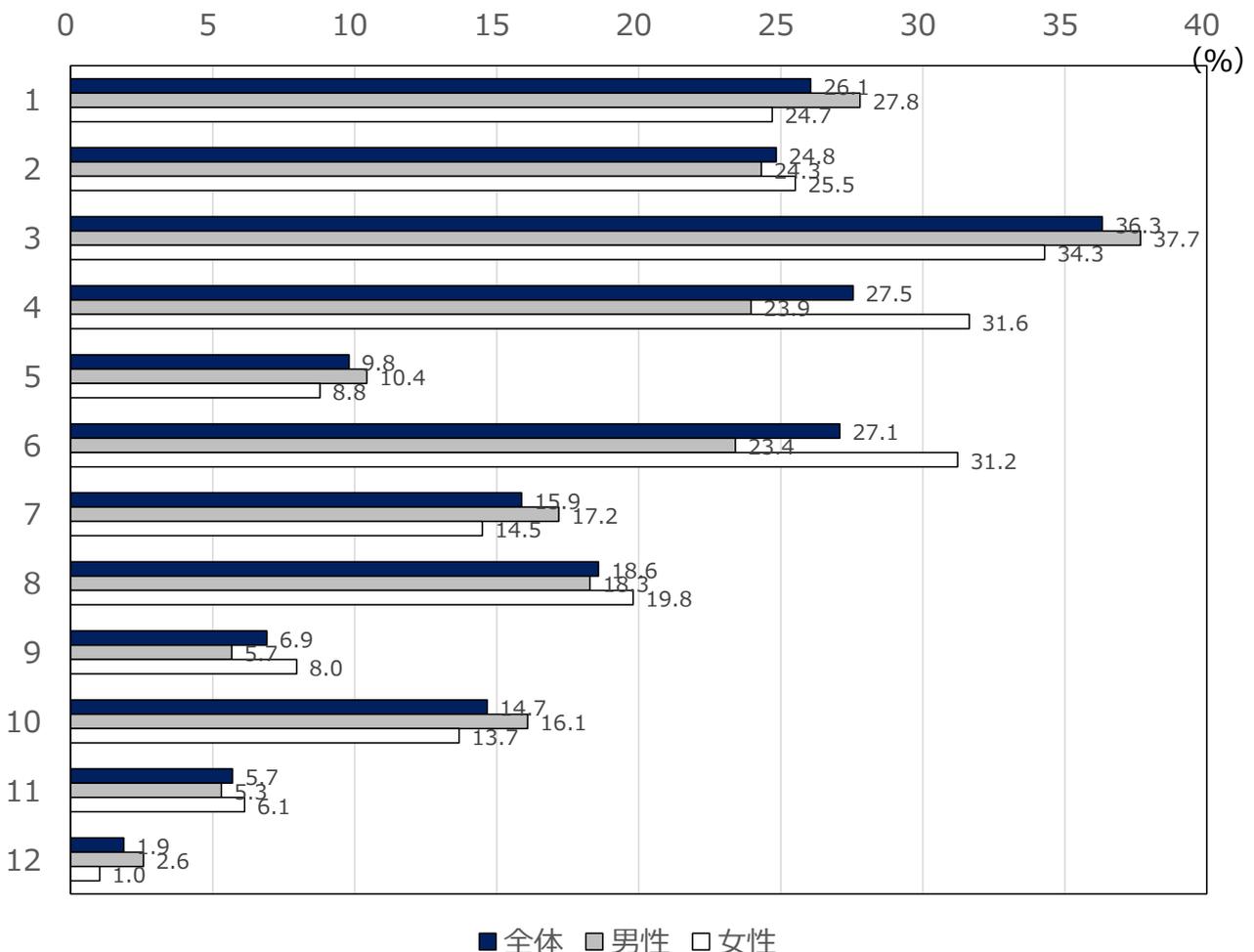
**Q3 30年後も今ある平地林を保全し、増やしていくためには、地域が一体となって取り組むことが重要です。Q2で示した利活用などを推進するにあたり、市はどのような取り組みを行うべきだと思いますか。(3つまで選択可)【n=1,071】**

平地林の利活用を推進するために必要な取り組みについては、全体で「選択肢3」が36.3%で最も高く、次いで「選択肢4」が27.5%、「選択肢6」が27.1%となっている。

性別では、「選択肢4」及び「選択肢6」は男性に比べて女性の割合が大きくなっている。

**【選択肢】**

- 1 民有地も含めた平地林と動植物の現状を定期的にモニタリングし、計画策定や対策に活かす。
- 2 平地林の所有者（管理者）、市民、行政、民間事業者が共に考えていくワークショップなどを開催する。
- 3 良好な自然環境となる平地林を保全地区として指定したり、認定することで、平地林の継続性を担保する。
- 4 ごみの減量化、食品ロスの削減、資源の利活用の推進、不法投棄の防止などの対策を強化する。
- 5 平地林の減少の抑制と創出を図るために、開発や新たな施設整備に対し、地域特性に応じて条例等で制限を設ける。
- 6 市街地中心部にも公園や平地林を整備し、まちなかにも自然の豊かさを取り入れ、親しみを感じてもらう。
- 7 平地林を地域資源と捉え、市・平地林の所有者・地域住民をつなぎ、三者協定などにより地域全体で利活用や管理を行えるよう支援する。
- 8 所有者と利活用したい第三者（民間企業など）とのマッチングを支援する。
- 9 生物多様性の保全と利活用のバランスを保つため、平地林の利活用ガイドラインやわかりやすいチェックリストを策定する。
- 10 平地林の税優遇・軽減措置、保全に伴う費用の補助、技術支援や人材支援を行い、所有者の負担軽減を図る。
- 11 国が認証する「J-クレジット制度」等を推進し、適正な森林管理によるCO2等の吸収量を「クレジット」として扱い、平地林の新たな価値を見出す。
- 12 その他



## ⑤ 生物多様性の保全、ネイチャーポジティブ

**Q1 生物多様性について、身の回りの生態系（河川、田畑、平地林に住む生き物）が変化していると感じますか。【n=1,067】**

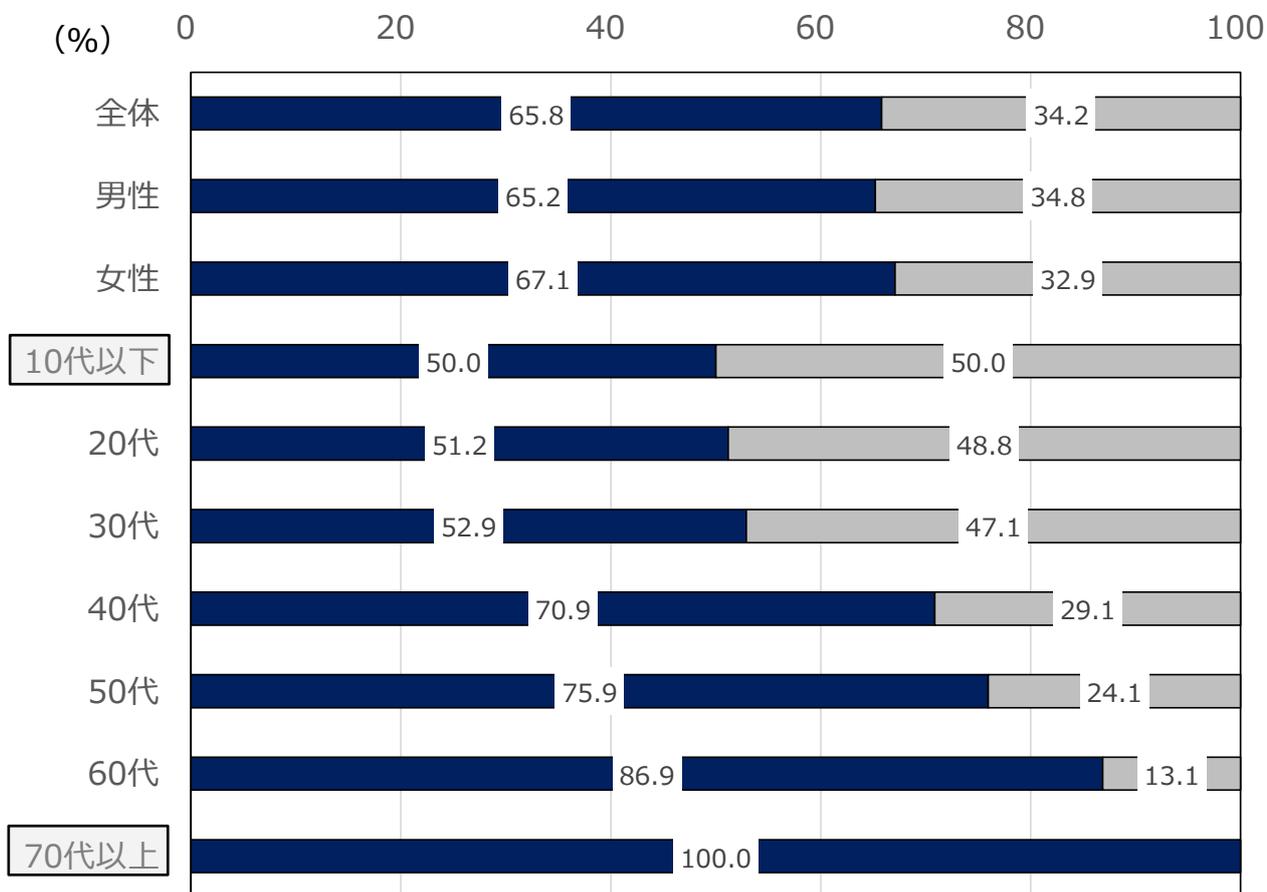
身の回りの生態系（河川、田畑、平地林に住む生き物）が変化については、全体で「変化していると感じる。」が65.8%、「特に変化は感じない。」が34.2%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

年代別では、「変化していると感じる。」が20～30代では5割となっているが、年代が上がるにつれて割合も大きくなっており、60代では9割弱となっている。

### 【選択肢】

- 1 変化していると感じる。
- 2 特に変化は感じない。



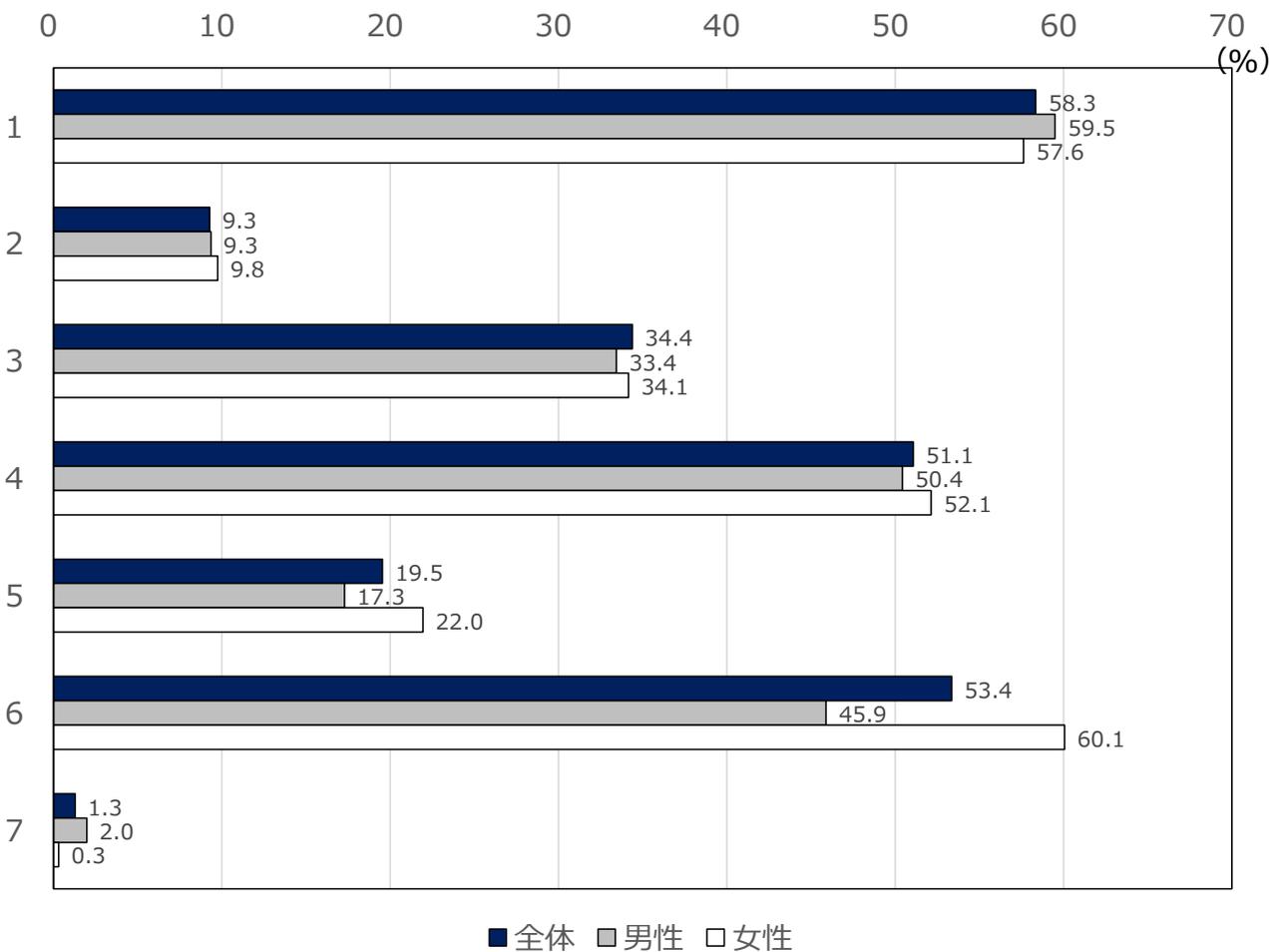
**Q2 Q1で1と回答した方に質問します。その変化の原因は何だと思えますか。(主な原因だと思うもの3つまで選択可)【n=701】**

身の回りの生態系の変化の原因については、全体で「平地林の伐採、河川改修、農地改良事業などの開発」が58.3%で最も高く、次いで「地球温暖化に伴う気候変動」が53.4%、「外来種の持ち込みや増加」が51.1%となっている。

性別では、「地球温暖化に伴う気候変動」が男性で45.9%である一方、女性で60.1%と高くなっている。

**【選択肢】**

- 1 平地林の伐採、河川改修、農地改良事業などの開発
- 2 動植物の乱獲
- 3 耕作放棄地の増加や、平地林などの手入れ不足による生息地の環境変化
- 4 外来種の持ち込みや増加
- 5 殺虫剤、除草剤、農薬などの化学物質の使用
- 6 地球温暖化に伴う気候変動
- 7 その他



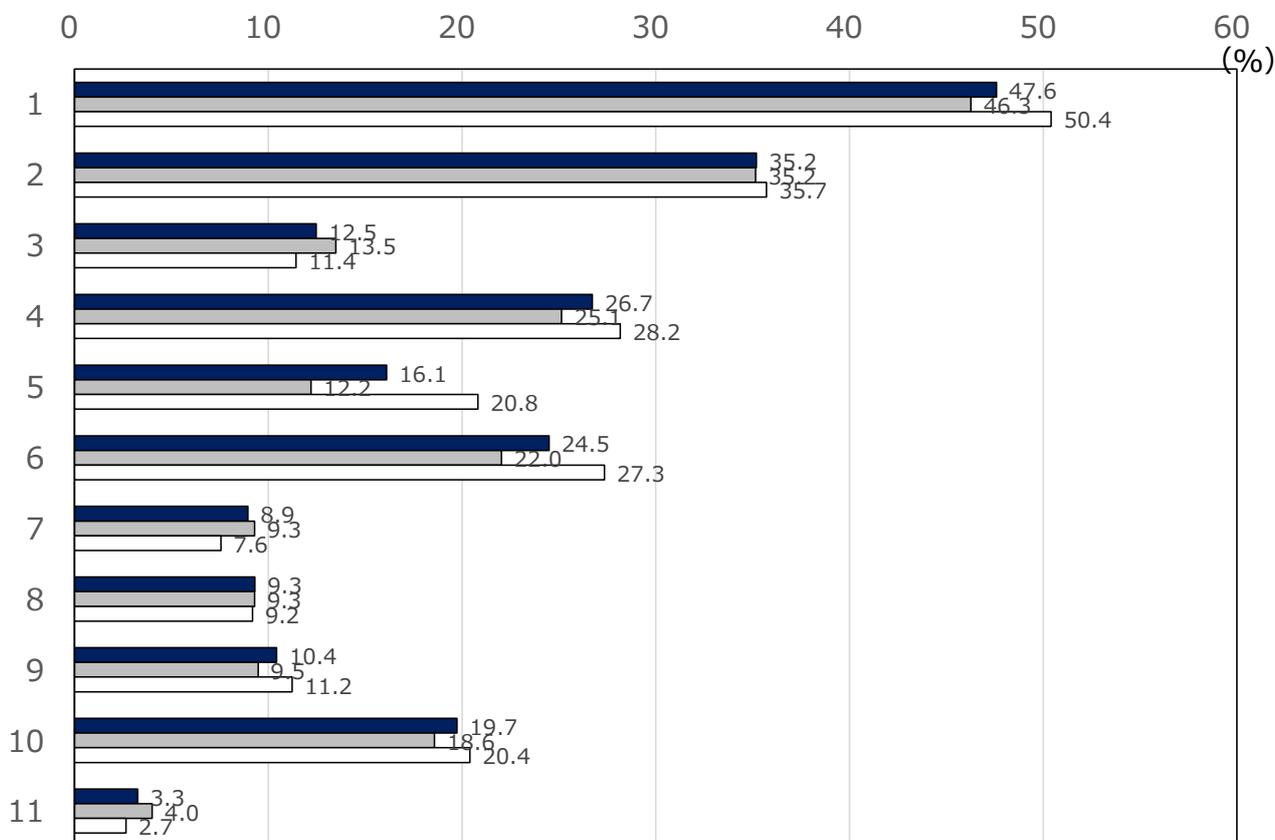
**Q3 近年、地球温暖化に伴う気候変動や様々な要因により、全国的に野生動物による人的被害、農作物や家畜の被害の増加が問題となっています。（市内の野生動物捕獲頭数：2015年・イノシシ2頭、シカ0頭 → 2022年・イノシシ176頭、シカ5頭）30年後、野生動物と私たち人間が共生していくうえで、市はどのような取り組みを強化すべきだと思いますか。（重要だと思うもの3つまで選択可）【n=1,074】**

野生動物と人間が共生していく取り組みについては、全体で「選択肢1」が47.6%で最も高く、次いで「選択肢2」が35.2%、「選択肢4」が26.7%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 動植物の生息情報、野生動物の捕獲数や農作物への被害をモニタリングし、計画策定や対策に活かす。
- 2 野生動物と人間の生活圏を分ける柵の設置、緩衝帯を整備するための草刈り機の貸出しなどの補助、技術支援や人材支援をする。
- 3 地元農産物や生物多様性に配慮した商品の消費拡大に向けたPR、ブランド化や新商品開発などを支援する。
- 4 子どもが日常的に自然触れ、体験し学ぶことができる環境を学校や地域と連携して整備する。
- 5 学校給食へ地元農産物や無農薬、低農薬、有機栽培による環境にやさしいオーガニック食材をできる限り取り入れるなど、食育を推進する。
- 6 ごみの減量化、食品ロスの削減、資源の利活用の推進、不法投棄の防止などの対策を強化する。
- 7 生物多様性の推進に関するガイドラインやわかりやすいチェックリストを策定し、企業や市民へ普及啓発を図り、効果を測定する。
- 8 自然を活かしたワーケーションやサテライトオフィスなどを推進し、都市と小山市の自然環境の繋がりを生み、利活用に繋げる。
- 9 生物多様性に関する取り組みに興味を持つ市民、団体、企業のマッチングを支援する。
- 10 国、県、近隣自治体、企業、大学などと広域的に連携し、生物多様性に関連する課題を総合的に取り組む。
- 11 その他



■全体 □男性 □女性

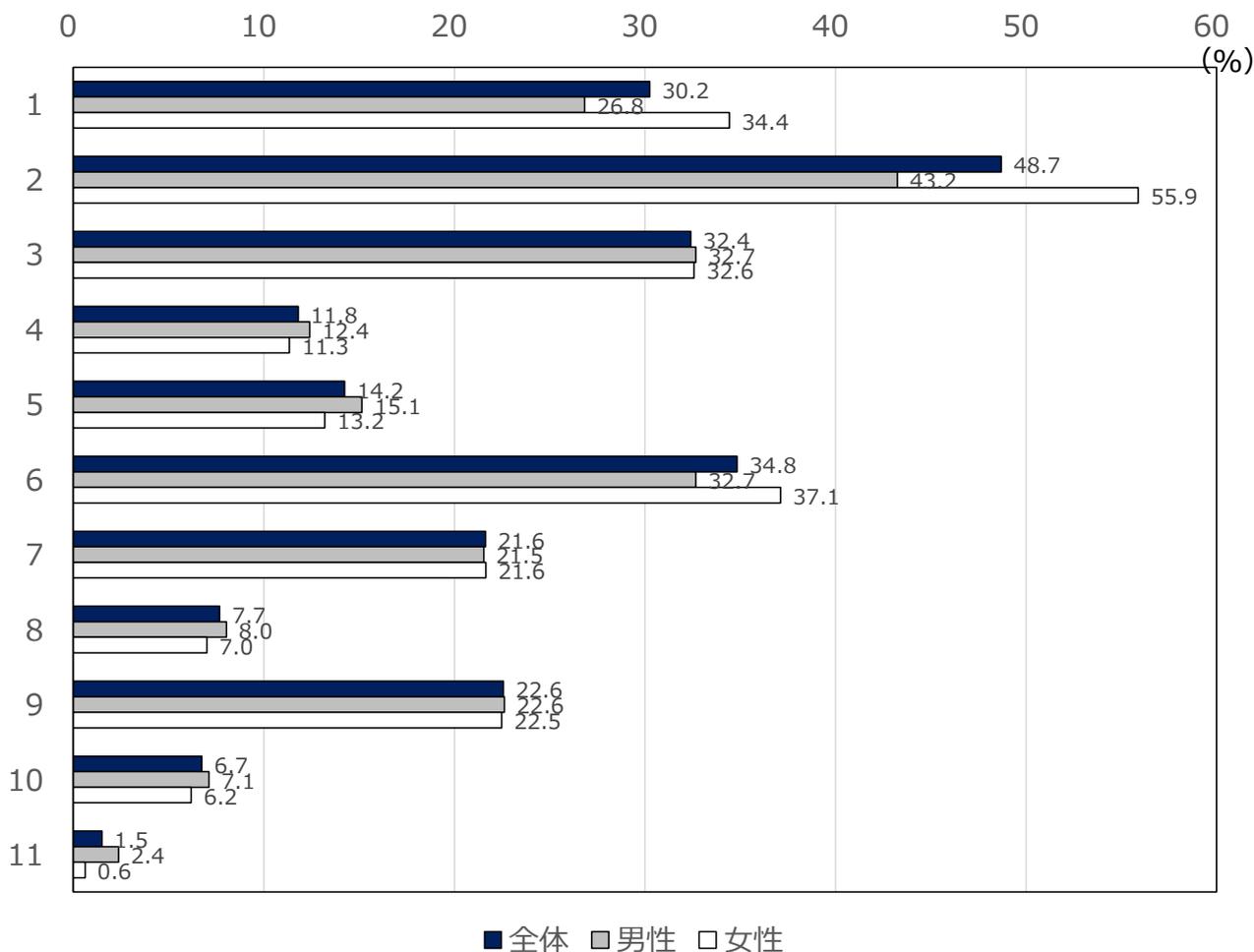
**Q4 ネイチャーポジティブとは「2030年までに生物多様性の損失を食い止め、反転させ、回復軌道に乗せる」という新たな国際目標です。このネイチャーポジティブを実現し、30年後に自然と共生する小山市にするために、私たち市民一人ひとりの生活における取り組みとして、重要だと思うものはどれですか。（3つまで選択可）【n=1,068】**

自然と共生する小山市とする取り組みについては、全体で「選択肢2」が48.7%で最も高く、次いで「選択肢6」が34.8%、「選択肢3」が32.4%となっている。

性別では、「選択肢2」が男性で43.2%である一方、女性で55.9%と高くなっている。

**【選択肢】**

- 1 無農薬、低農薬、有機栽培による環境にやさしいオーガニックな農産物の購入、ごみの排出量が少ない商品の購入を心掛ける。
- 2 地産地消や地域循環型の消費活動を心掛ける。
- 3 住宅や自動車をはじめ、身の回りのものは省エネルギーや再生エネルギーなど環境に配慮したものを利用するよう心掛ける。
- 4 住宅の庭やベランダなど身近な場所で緑を取り入れて保全する。
- 5 緑化にあたっては外来種の使用を避け、近隣地域のものや在来種を使用する。
- 6 ペットや観葉植物は自らの責任において最後まできちんと飼育・管理し、絶対に野放しはしない。
- 7 野生動物にむやみに餌を与えない。
- 8 野生動物の交通事故、野生動物による農作物被害、外来種を発見した際には関係機関へ連絡する。
- 9 渡良瀬遊水地や平地林などの自然環境を利活用し、適切な保全に繋げる。
- 10 市民活動として自然環境の保全管理活動や動植物の定期的なモニタリングに参加・協力する。
- 11 その他



## (7) 商工業

### ① 自分らしい働き方

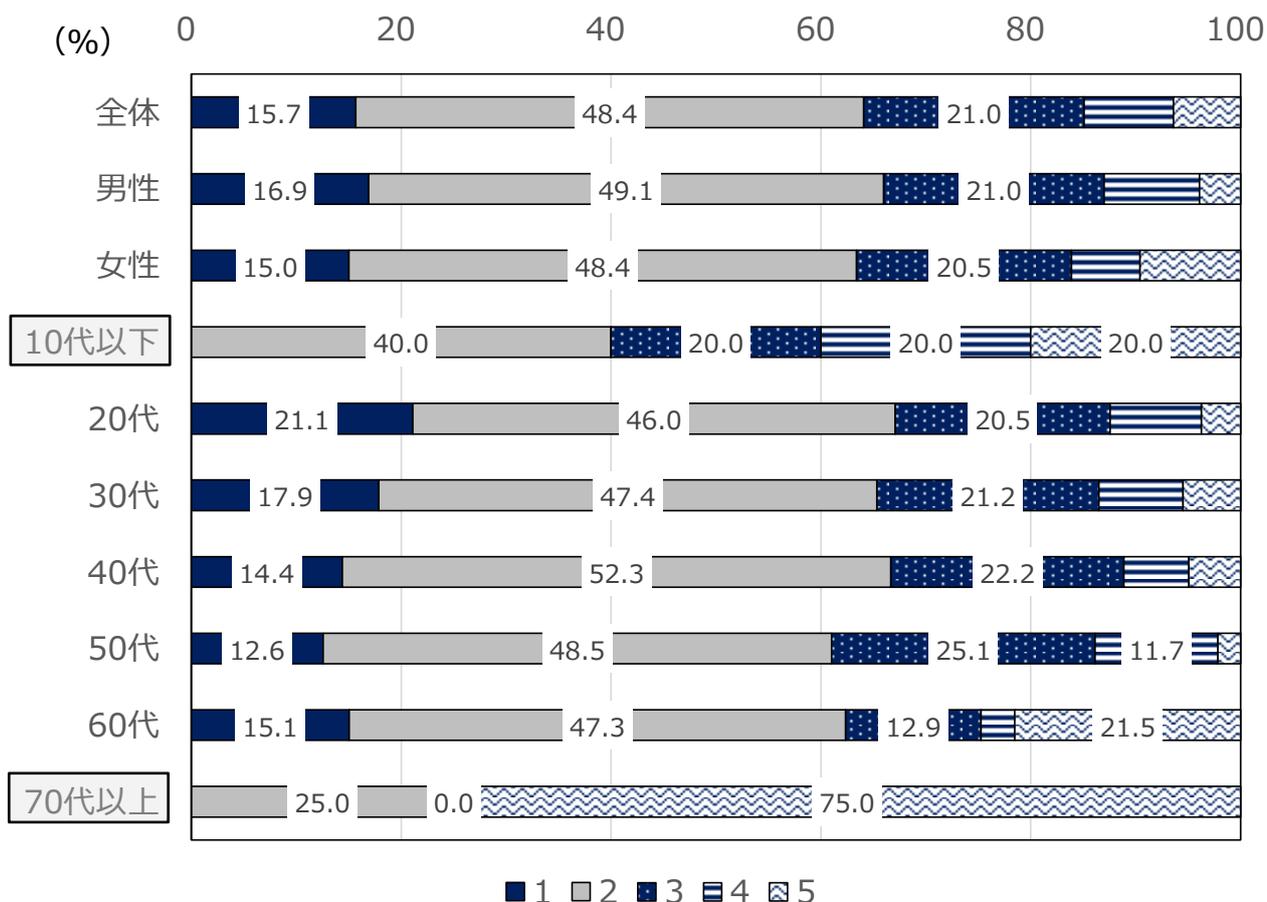
Q 1 あなたは現在、自分らしく働くことができていると思いますか。【n=1,033】

自分らしく働くことができているかについては、全体で「どちらかと言えばそう思う。」が48.4%で最も高く、次いで「どちらかと言えば思わない。」が21.0%、「そう思う。」が15.7%となっている。

性別・年代別を問わず「どちらかと言えばそう思う。」が5割前後となっており、「そう思う。」を加えた割合は6割を超えている。

#### 【選択肢】

- 1 そう思う。
- 2 どちらかと言えばそう思う。
- 3 どちらかと言えば思わない。
- 4 思わない。
- 5 働いていない。



**Q2 Q1で1、2と答えた方に質問します。そう思える理由は何ですか。【n=659】**

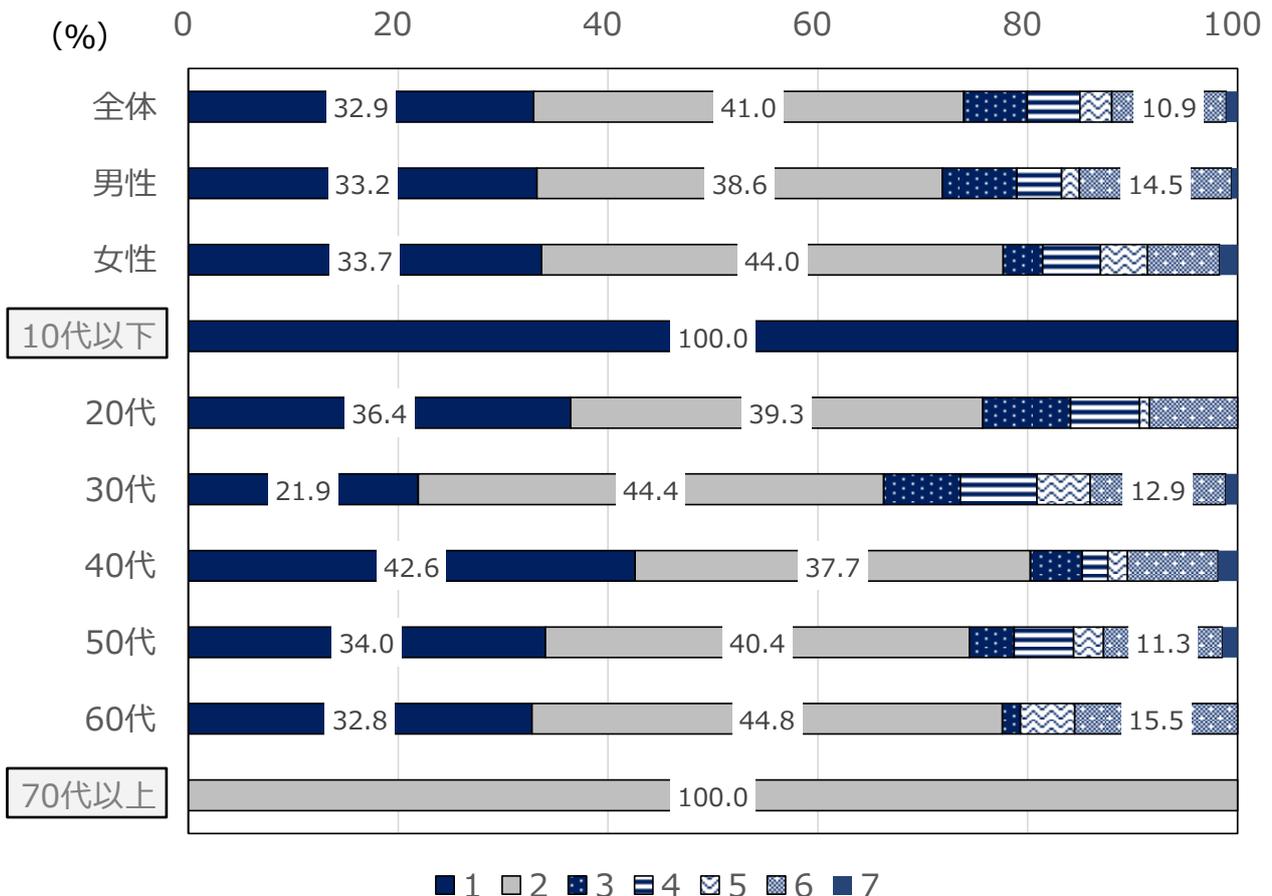
自分らしく働くことができている理由については、全体で「ワークライフバランスが取れているから。」が41.0%で最も高く、次いで「自分の能力やスキルを活かせるから。」が32.9%、「社会貢献や人の役に立っていることを実感できるから。」が10.9%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

年代別では、全体と同様「ワークライフバランスが取れているから。」が4割前後となっているが、40代のみが「自分の能力やスキルを活かせるから。」の割合が最も大きくなっている。

**【選択肢】**

- 1 自分の能力やスキルを活かせるから。
- 2 ワークライフバランスが取れているから。
- 3 自分が成長できる環境が整っているから。
- 4 コミュニケーションや意見交換が活発に行える環境だから。
- 5 テレワークや時短勤務など勤務形態を自由に選択できるから。
- 6 社会貢献や人の役に立っていることを実感できるから。
- 7 その他



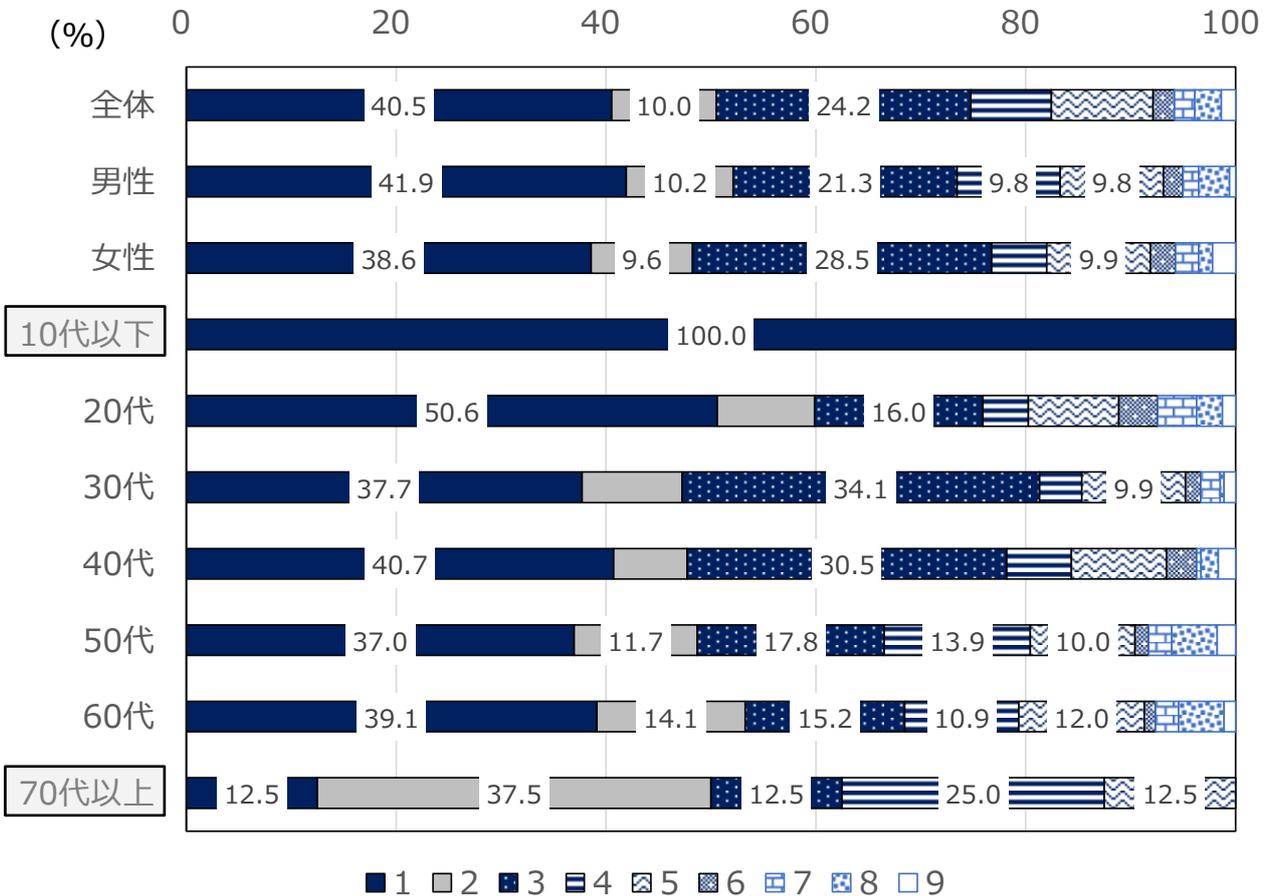
**Q3 あなたの理想の働き方を教えてください。【n=1,031】**

理想の働き方については、全体で「プライベートや趣味の時間を大切にできる働き方。」が40.5%で最も高く、次いで「家族との時間を大切にできる働き方。」が24.2%、「自己成長ができる働き方。」が10.0%となっている。

性別・年代別を問わず「プライベートや趣味の時間を大切にできる働き方。」が最も割合の大きい項目となっており、20代で5割、それ以外の性別・年代別で4割前後となっている。

**【選択肢】**

- |                           |                   |
|---------------------------|-------------------|
| 1 プライベートや趣味の時間を大切にできる働き方。 | 5 経済的に豊かになれる働き方。  |
| 2 自己成長ができる働き方。            | 6 スキルアップができる働き方。  |
| 3 家族との時間を大切にできる働き方。       | 7 新しいことに挑戦できる働き方。 |
| 4 社会貢献や人のために役立つ働き方。       | 8 特に考えたことがない。     |
|                           | 9 その他             |



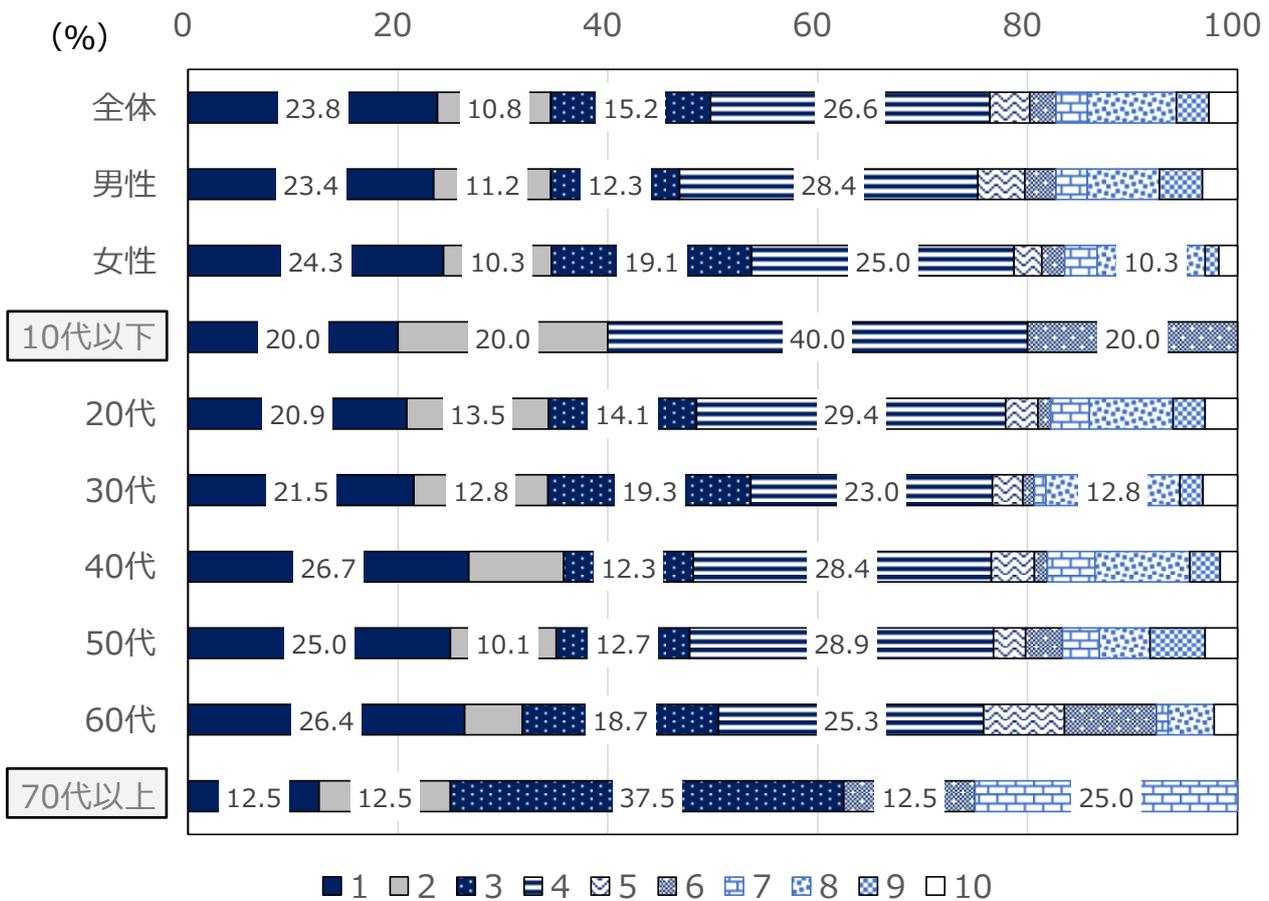
**Q4 30年後多くの市民が自分らしい働き方を実現しているために、行政や企業に期待する取り組みを教えてください。【n=1,030】**

自分らしい働き方を実現するための行政や企業の取り組みについては、全体で「ワークライフバランスをサポートする休暇制度の拡充」が26.6%で最も高く、次いで「フレキシブルな労働時間制度の導入」が23.8%、「育児や介護休業等の充実した制度整備」が15.2%となっている。

性別・年代別を問わず「ワークライフバランスをサポートする休暇制度の拡充」の割合が2割から3割となっており、60代を除き最も大きい項目となっている。「フレキシブルな労働時間制度の導入」についても2割強となっている。

**【選択肢】**

- |                            |                        |
|----------------------------|------------------------|
| 1 フレキシブルな労働時間制度の導入         | 6 職業訓練の支援や就業支援プログラムの充実 |
| 2 テレワークやリモートワークの推進         | 7 働き方相談やキャリアカウンセリングの提供 |
| 3 育児や介護休業等の充実した制度整備        | 8 子育て支援施設の整備と拡充        |
| 4 ワークライフバランスをサポートする休暇制度の拡充 | 9 起業支援や創業ノウハウの提供       |
| 5 キャリア開発のための教育・研修プログラムの提供  | 10 その他                 |



## ② バランスのとれた労働と余暇 ワーク・ライフ・バランス

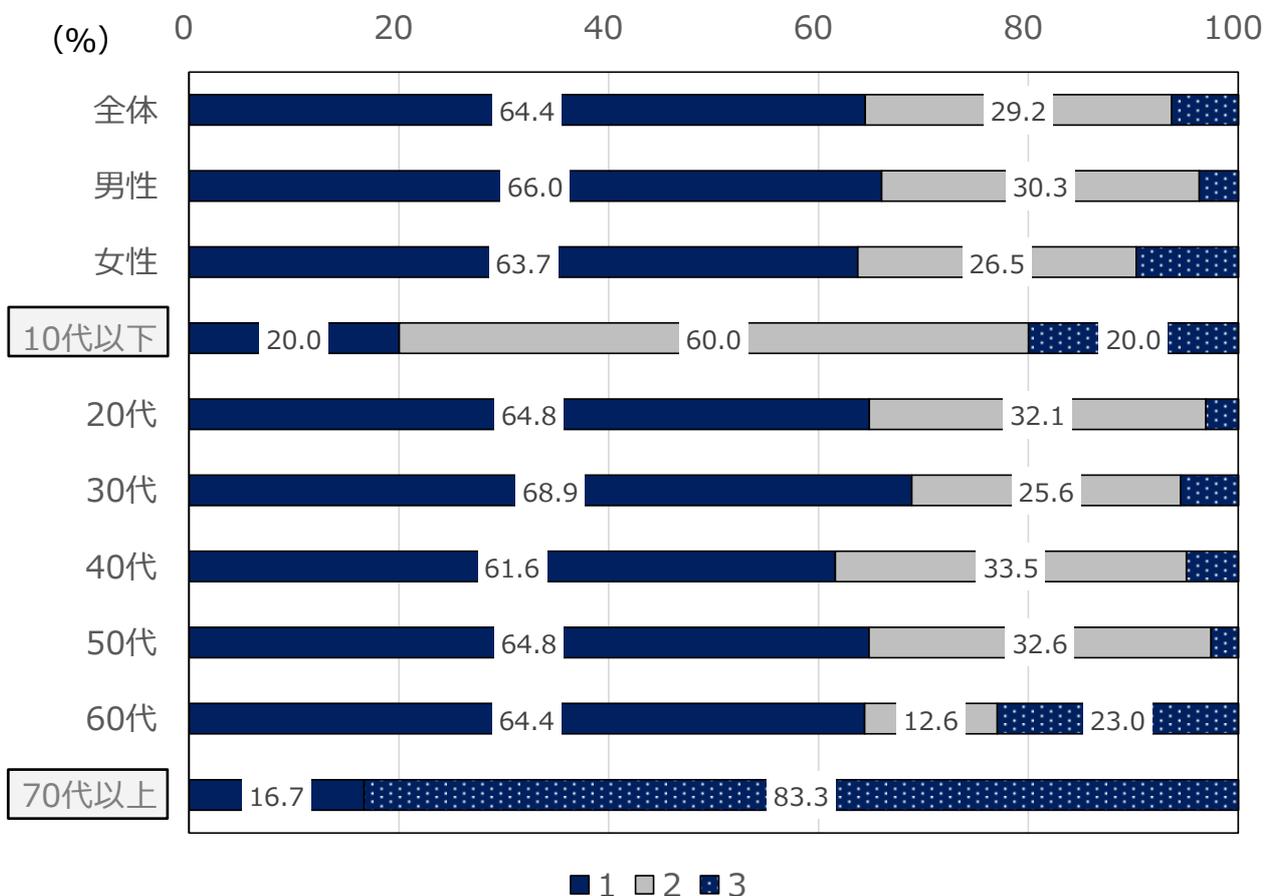
Q1 現在、仕事に就いている方に質問します。あなたは仕事と生活をバランスよく両立できていると思いますか。【n=1,023】

仕事と生活をバランスよく両立できているかについては、全体で「どちらかと言えばできていると思う。」が64.4%で最も高く、次いで「どちらかと言えばできていないと思う。」が29.2%となっている。

性別・年代別を問わず「どちらかと言えばできていると思う。」が6割台となっている。

### 【選択肢】

- 1 どちらかと言えばできていると思う。
- 2 どちらかと言えばできていないと思う。
- 3 仕事をしていないのでわからない。



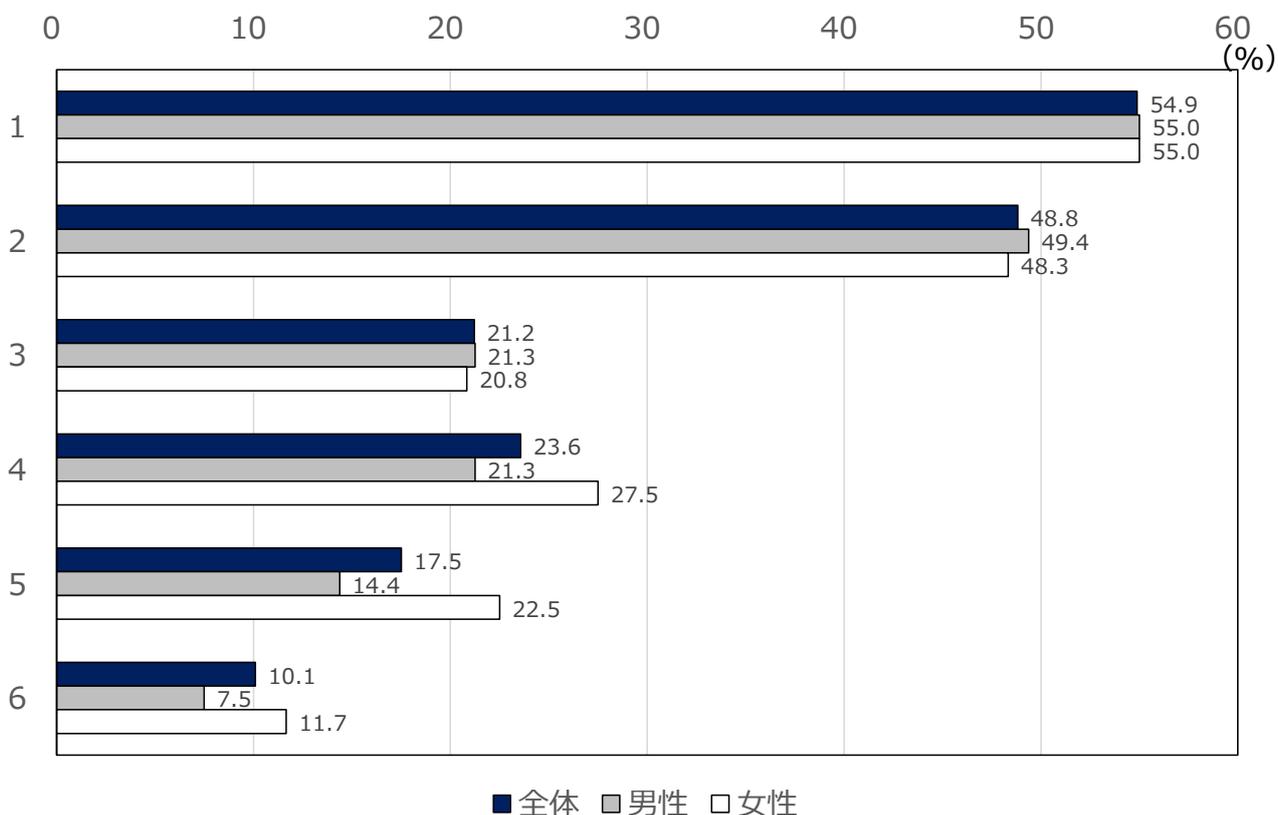
**Q2 Q1で2と答えた方に質問します。その理由としてどのようなことが挙げられますか。(複数選択可)【n=297】**

仕事と生活をバランスよく両立できていない理由については、全体で「長時間労働が定着している。」が54.9%で最も高く、次いで「柔軟な働き方ができない環境にある。」が48.8%、「リモートワークが整っていない。」が23.6%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 長時間労働が定着している。
- 2 柔軟な働き方ができない環境にある。
- 3 フレックスタイムの導入が遅れている。
- 4 リモートワークが整っていない。
- 5 休暇制度が充実していない。
- 6 その他



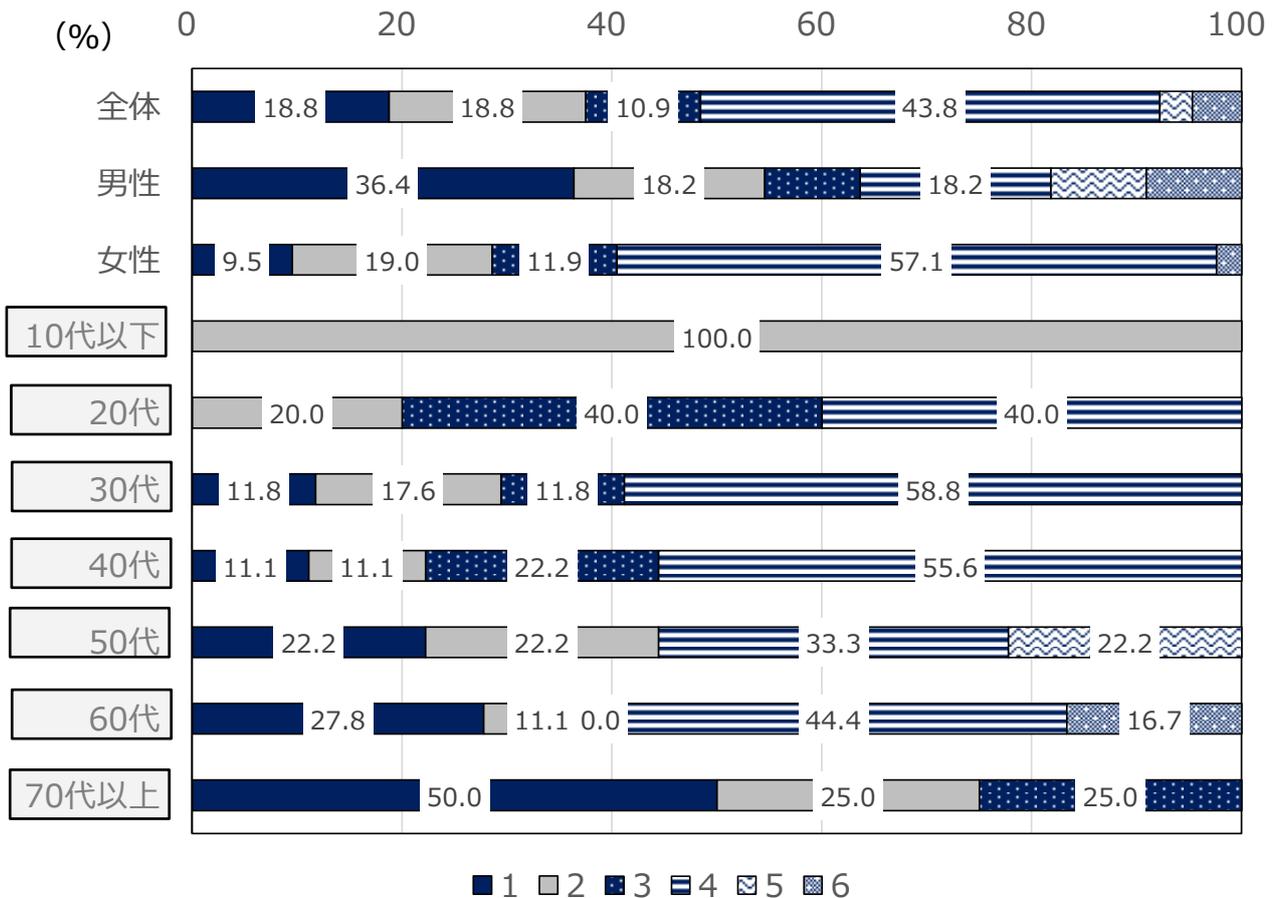
**Q3 これから仕事に就く予定の方に質問します。あなたが就業先を選ぶ際にワーク・ライフ・バランスを考えた時、最も重視することはなんですか。【n=64】**

ワーク・ライフ・バランスを考えた時に重視する項目については、回答数が少ないものの全体で「休みが取りやすい職場」が43.8%で最も高く、次いで「仕事に見合った給料」及び「福利厚生の実充実」が18.8%となっている。

性別では、「仕事に見合った給料」が男性で36.4%である一方、女性で9.5%と低くなっている。また、「休みが取りやすい職場」が男性で18.2%である一方、女性で57.1%と高くなっている。

**【選択肢】**

- 1 仕事に見合った給料
- 2 福利厚生の実充実
- 3 適切な仕事量
- 4 休みが取りやすい職場
- 5 離職率が低い職場
- 6 その他



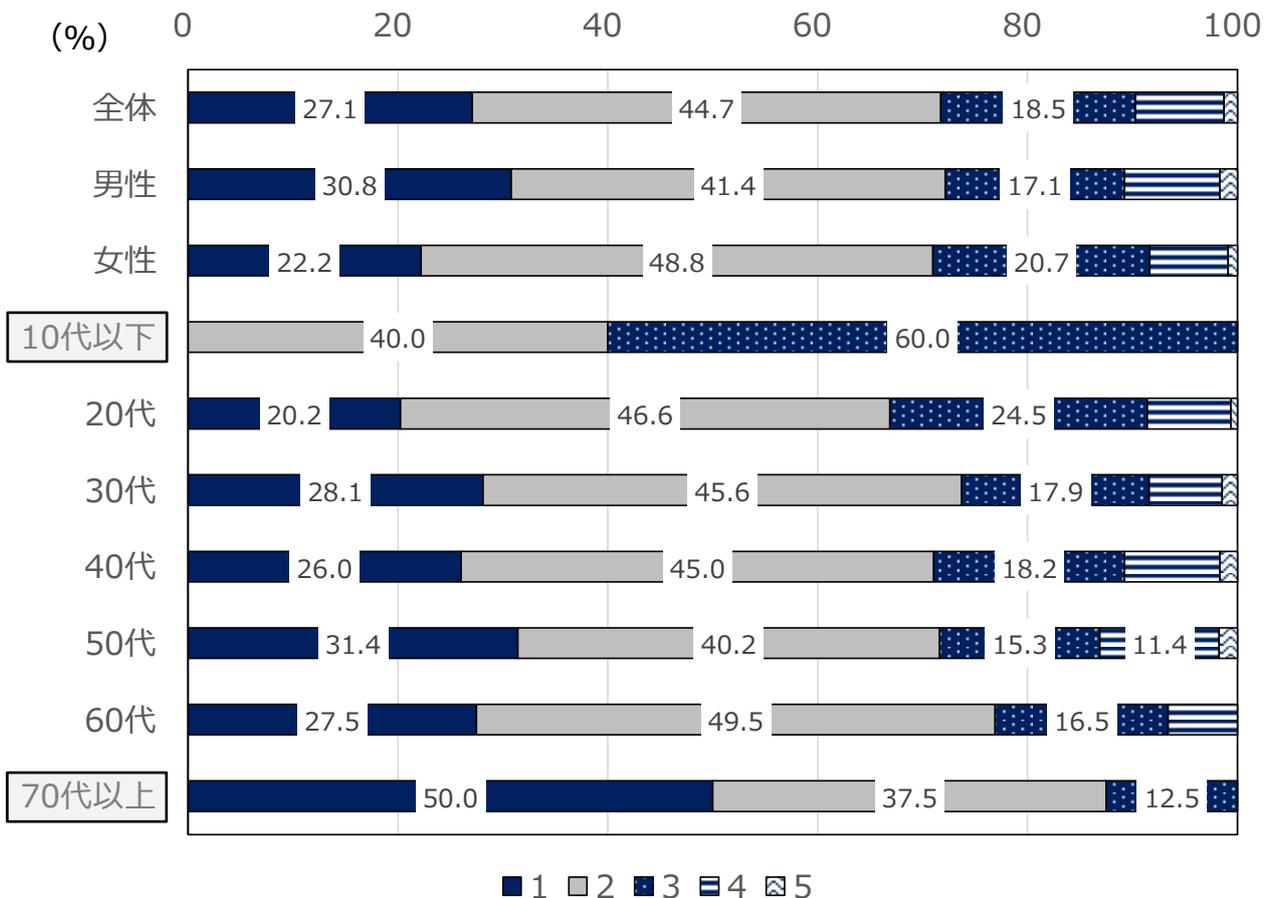
**Q 4 30年後の小山市において、誰もが健康で豊かな生活ができるよう、ワーク・ライフ・バランスを実現しているために、市全体として最も重要な取り組みは何だと思えますか。【n=1,030】**

ワーク・ライフ・バランス実現に市全体として最も重要な取り組みについては、全体で「人それぞれが望む働き方を実現できる職場づくり。」が44.7%で最も高く、次いで「社会全体でワーク・ライフ・バランスについて理解を深めること。」が27.1%、「ワークライフバランスに必要な制度の見直し。」が18.5%となっている。

性別・年代別においても同様の傾向となっており、「人それぞれが望む働き方を実現できる職場づくり。」が4割から5割となっている。

**【選択肢】**

- 1 社会全体でワーク・ライフ・バランスについて理解を深めること。
- 2 人それぞれが望む働き方を実現できる職場づくり。
- 3 ワークライフバランスに必要な制度の見直し。
- 4 ワークライフバランスを考える意識を高めること。
- 5 その他



### ③ 起業支援

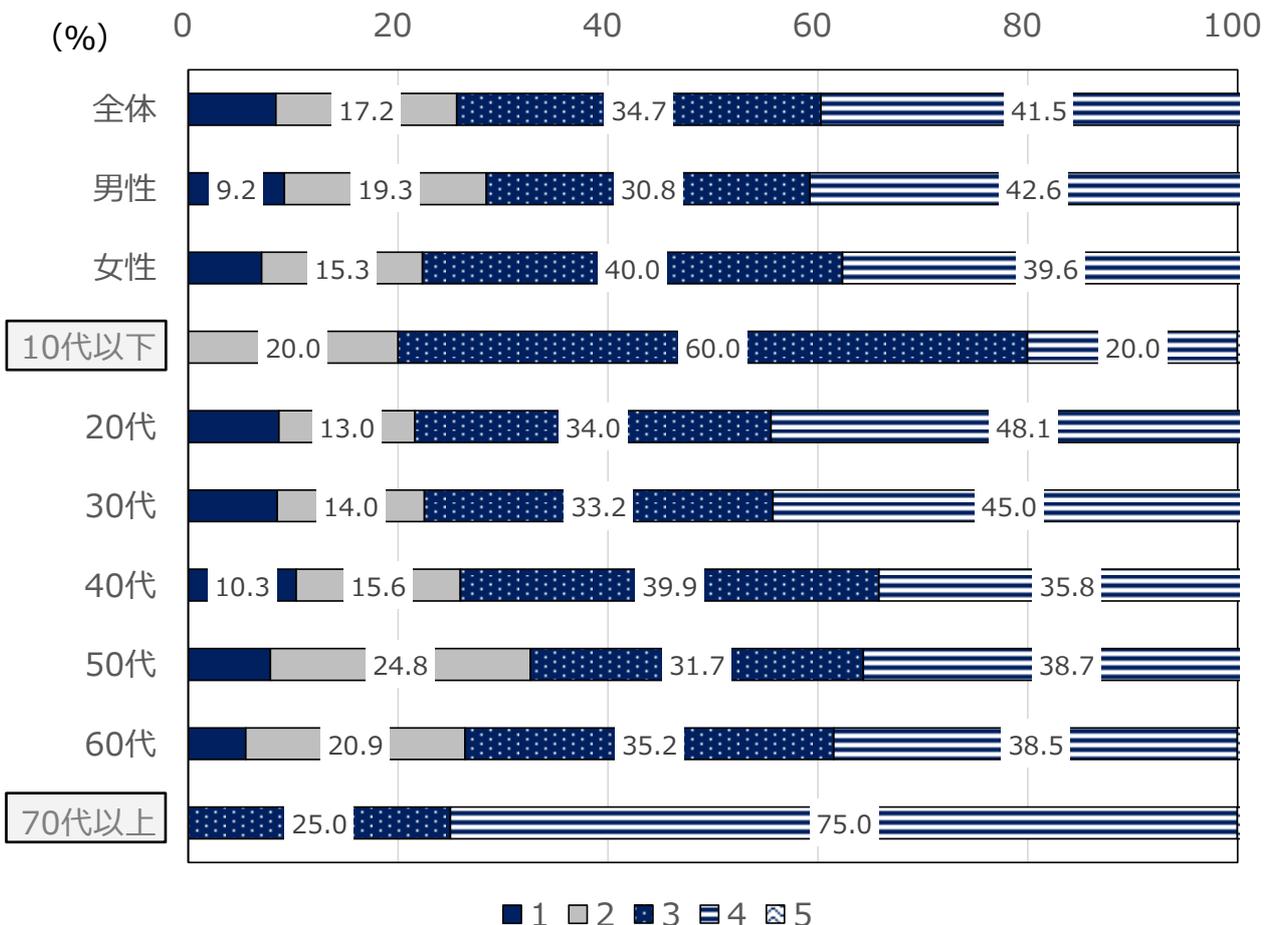
**Q1 あなたは地域振興（魅力を高める）に取り組む事業者を知っている、または利用したことがありますか。（複数選択可）【n=1,028】**

地域振興に取り組む事業者については、全体で「知らないし、利用する予定もない。」が41.5%で最も高く、次いで「知らないが、利用したい。」が34.7%、「知っているが、利用したことはない。」が17.2%となっている。

性別・年代別においても同様の傾向となっており、「知らないし、利用する予定もない。」が4割弱から5割、「知らないが、利用したい。」が3割から4割となっている。

#### 【選択肢】

- 1 知っているし、利用している。
- 2 知っているが、利用したことはない。
- 3 知らないが、利用したい。
- 4 知らないし、利用する予定もない。



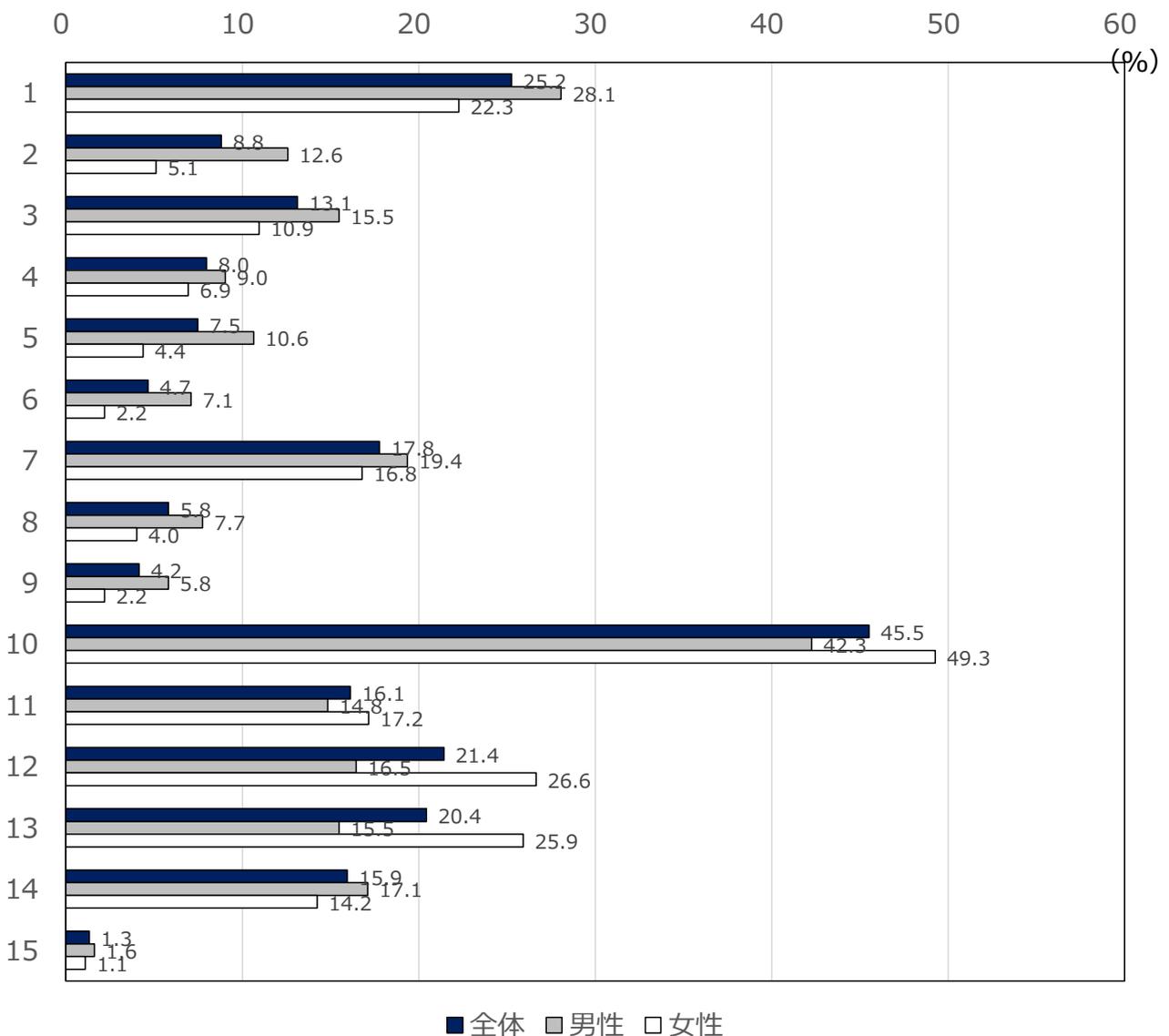
**Q2 Q1で1～3と選択した方に質問します。それはどのような分野の事業ですか。(複数選択可)**  
**【n=602】**

地域振興への取り組みを知っている企業や、利用したことが企業の分野については、全体で「飲食業」が45.5%で最も高く、次いで「農林水産業」が25.2%、「医療・福祉」が21.4%となっている。

性別では、「医療・福祉」及び「教育、学習支援業」で女性の割合が大きくなっている。

**【選択肢】**

- |                 |           |             |
|-----------------|-----------|-------------|
| 1 農林水産業         | 6 運輸業、郵便業 | 11 宿泊業      |
| 2 建設業           | 7 卸売業、小売業 | 12 医療・福祉    |
| 3 製造業           | 8 金融業、保険業 | 13 教育、学習支援業 |
| 4 電気・ガス・熱供給・水道業 | 9 不動産業    | 14 その他サービス業 |
| 5 情報通信業         | 10 飲食業    | 15 その他      |



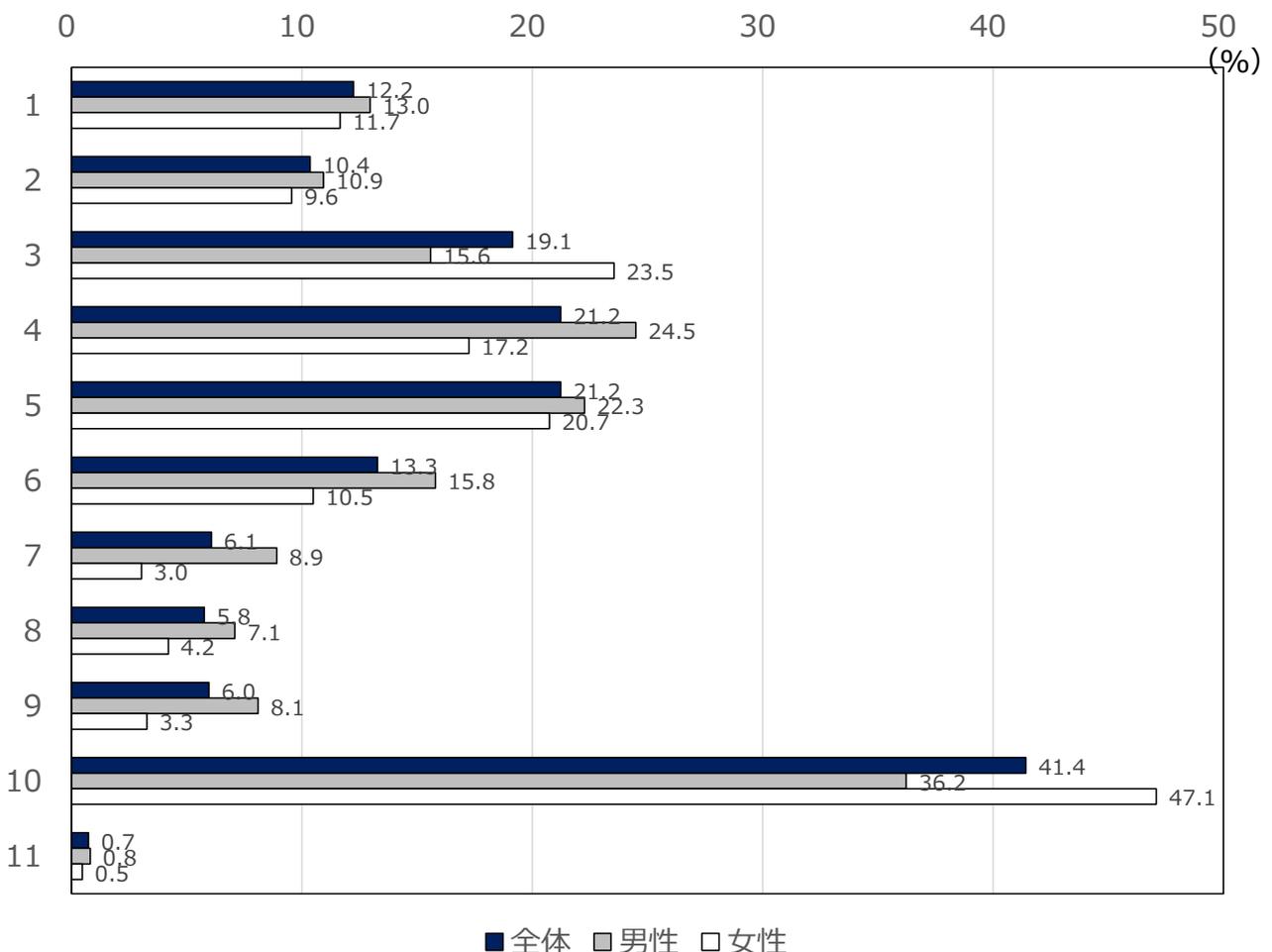
**Q3 Q2で選択した分野の事業では、どのような地域振興に取り組んでいますか。(複数選択可)【n=956】**

地域振興への取り組みの内容については、全体で「知らない」が41.4%で最も高く、次いで「商業振興（商店街・中心市街地の活性化、地場産業、観光資源、伝統工芸の活性化など）」及び「地域活性化（地域の祭り・伝統行事・地域イベントの開催など）」が21.2%となっている。

性別では、「知らない」で女性の割合が大きくなっている。

**【選択肢】**

- 1 高齢者・障がい者の支援（移動スーパー、見守りサービス・就職あっせんなど）
- 2 地域のヘルスケア（健康増進・介護予防・疾病予防・生活支援など）
- 3 子育て・教育の支援（学童、こども食堂など）
- 4 商業振興（商店街・中心市街地の活性化、地場産業、観光資源、伝統工芸の活性化など）
- 5 地域活性化（地域の祭り・伝統行事・地域イベントの開催など）
- 6 まちづくり（空き家・空き地の解消、街の景観保全など）
- 7 環境保全（再生エネルギー発電、廃棄物対策など）
- 8 防災・防犯・交通安全対策（防災情報配信サービス、自転車安全教育など）
- 9 雇用創出（働く場所の活性化）
- 10 知らない
- 11 その他



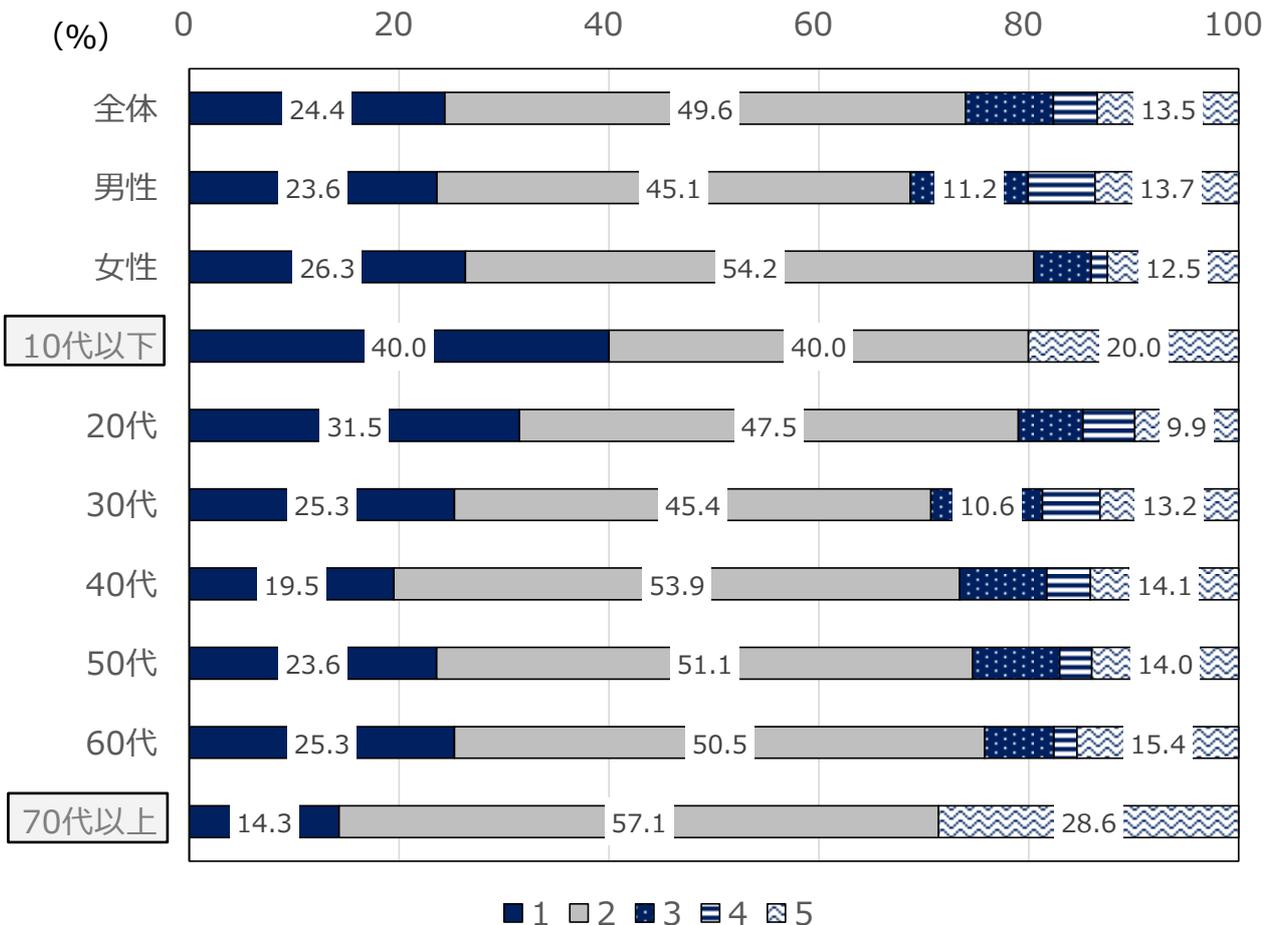
**Q 4 2023 年版小規模企業白書によると、地域振興に取り組む事業単体での収支状況が黒字または均等である小規模事業者は全体の約6割であり、残り4割は赤字となっています。このような地域振興に取り組む小規模事業者への支援についてどう思いますか。【n=1,026】**

地域振興に取り組む小規模事業者への支援については、全体で「どちらかといえば支援すべき。」が49.6%で最も高く、次いで「支援すべき。」が24.4%、「わからない。」が13.5%となっている。

男女ともに同様の傾向となっており、「どちらかといえば支援すべき。」は5割前後、「支援すべき。」を加えた割合は7割から8割となっている。

**【選択肢】**

- 1 支援すべき。
- 2 どちらかといえば支援すべき。
- 3 どちらかといえば支援すべきではない。
- 4 支援すべきではない。
- 5 わからない。



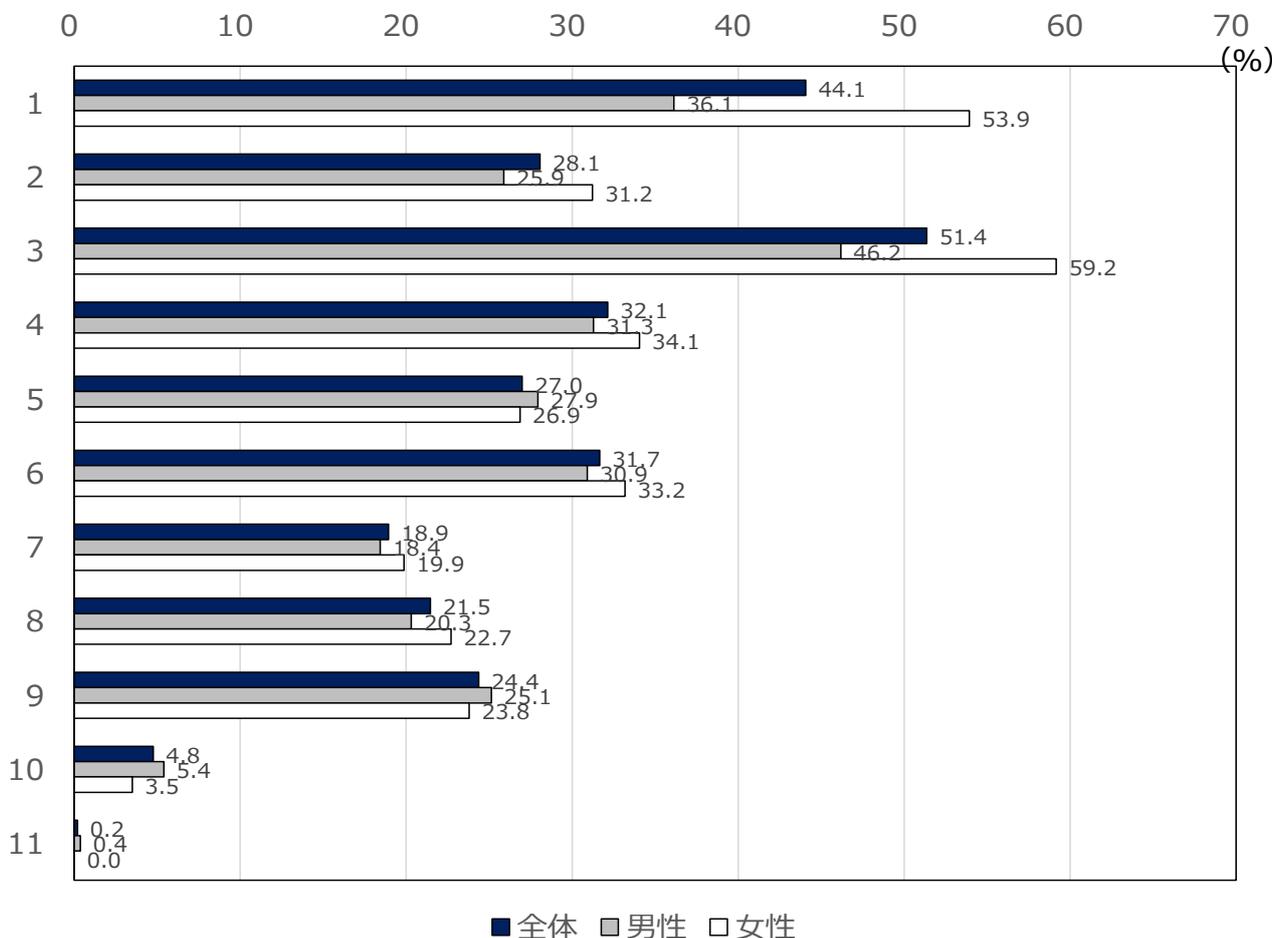
**Q5 30年後の小山市を見据えて、どのような地域振興の分野に取り組む事業者への支援を期待しますか。(複数選択可)【n=1,030】**

事業者への支援に期待する地域振興の分野については、全体で「子育て・教育の支援」が51.4%で最も高く、次いで「高齢者・障がい者の支援」が44.1%、「商業振興」が32.1%となっている。

性別では、「高齢者・障がい者の支援」及び「子育て・教育の支援」で女性の割合が大きくなっている。

**【選択肢】**

- 1 高齢者・障がい者の支援（移動スーパー、見守りサービス・就職あっせんなど）
- 2 地域のヘルスケア（健康増進・介護予防・疾病予防・生活支援など）
- 3 子育て・教育の支援（学童、こども食堂など）
- 4 商業振興（商店街・中心市街地の活性化、地場産業、観光資源、伝統工芸の活性化など）
- 5 地域活性化（地域の祭り・伝統行事・地域イベントの開催など）
- 6 まちづくり（空き家・空き地の解消、街の景観保全など）
- 7 環境保全（再生エネルギー発電、廃棄物対策など）
- 8 防災・防犯・交通安全対策（防災情報配信サービス、自転車安全教育など）
- 9 雇用創出（働く場所の活性化）
- 10 知らない
- 11 その他



## (8)コミュニティ・多文化共生

### ① 地域コミュニティ

**Q 1 あなたは、今自治会以外の地域コミュニティ活動に関わり(イベント参加も含む)がありますか。**  
【n=1,024】

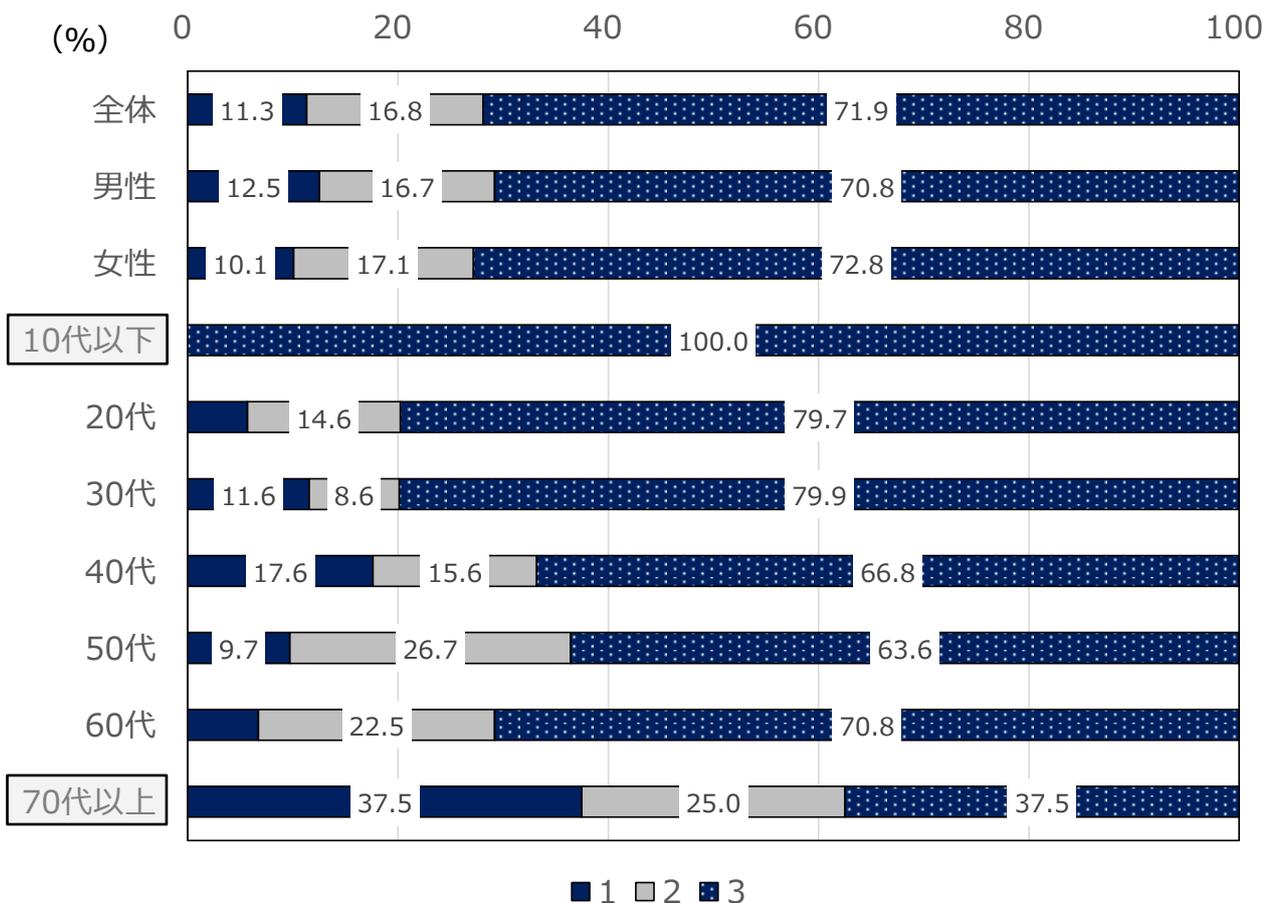
地域コミュニティ活動への関わりについては、全体で「関わったことがない。」が71.9%で最も高く、次いで「以前、関わったことがある。」が16.8%、「現在、関わっている。」が11.3%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

年代別では、「関わったことがない。」が40～60代に比べて20～30代の割合がやや大きくなっているが、各年代で6割から8割となっている。

#### 【選択肢】

- 1 現在、関わっている。
- 2 以前、関わったことがある。
- 3 関わったことがない。



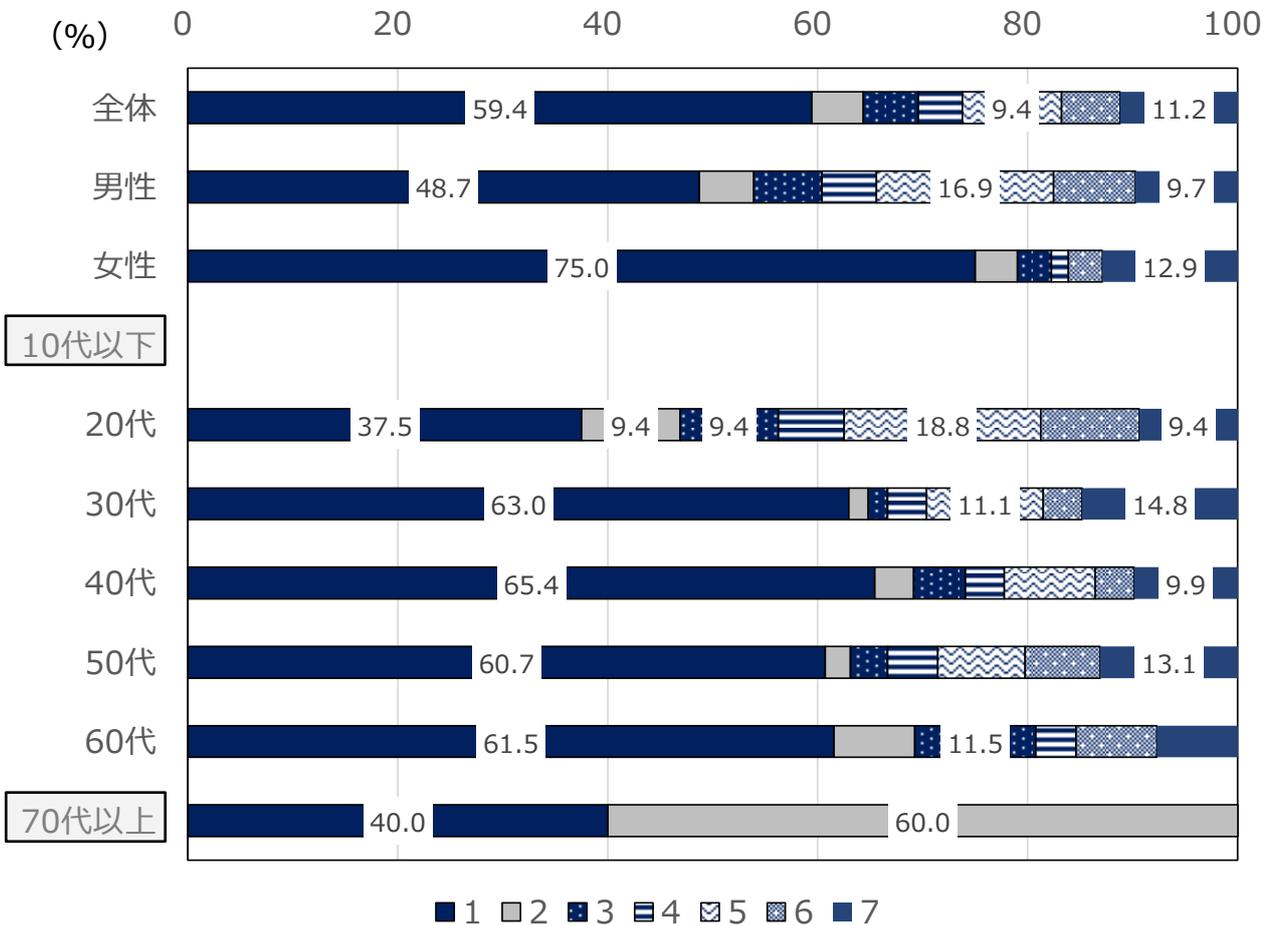
**Q2 Q1で1、2と回答した方に質問します。それはどのような活動ですか。【n=286】**

関わった地域コミュニティ活動については、全体で「育成会」が59.4%で最も高く、次いで「その他」が11.2%、「消防団」が9.4%となっている。

性別・年代別を問わず「育成会」が最も割合の大きい項目となっているが、性別では男性に比べて女性の割合が大きく、年代別では6割となっている。

**【選択肢】**

- 1 育成会
- 2 老人クラブ
- 3 安全協会
- 4 自主防災会
- 5 消防団
- 6 スポーツ振興協議会
- 7 その他



**Q3 Q1で1と答えた方に質問します。あなたが、地域コミュニティに関わったきっかけを教えてください。【n=119】**

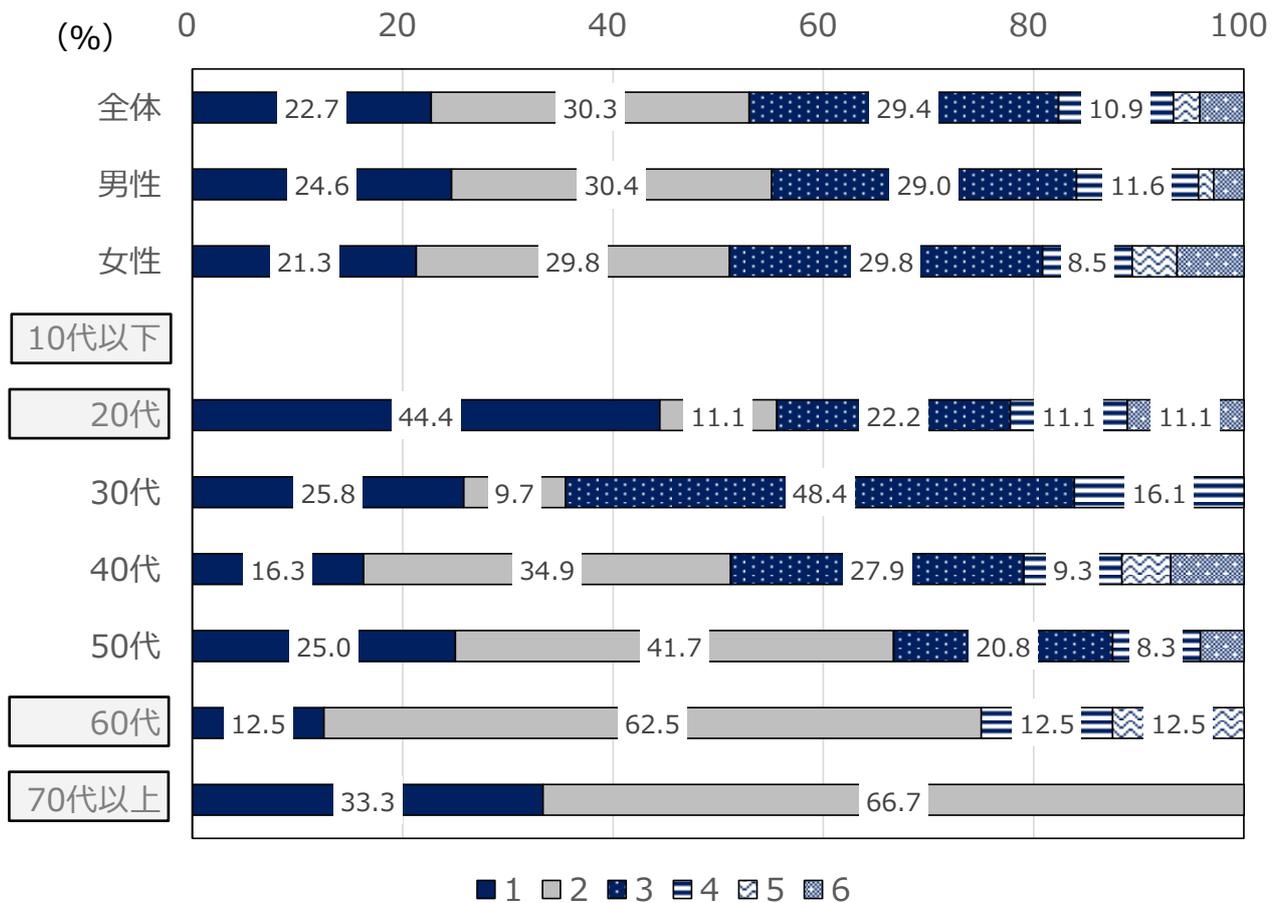
地域コミュニティに関わったきっかけについては、全体で「ボランティアと考え地域貢献の一環で関わっている。」が30.3%で最も高く、次いで「当番制（じゃんけん、くじ等で決まり）で関わっている。」が29.4%、「もともと興味があり自ら積極的に関わっている。」が22.7%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

年代別で最も高い項目は、「当番制（じゃんけん、くじ等で決まり）で関わっている。」が30代で48.4%となっている一方、40～50代では「ボランティアと考え地域貢献の一環で関わっている。」となっている。

**【選択肢】**

- 1 もともと興味があり自ら積極的に関わっている。
- 2 ボランティアと考え地域貢献の一環で関わっている。
- 3 当番制（じゃんけん、くじ等で決まり）で関わっている。
- 4 イベント等参加のみであるが関わっている。
- 5 自分の居住地域以外の地域のイベントに関わっている。
- 6 その他



**Q 4 30年後の自治会以外の地域コミュニティ活動について、どうあるべきと考えますか。【n=1,029】**

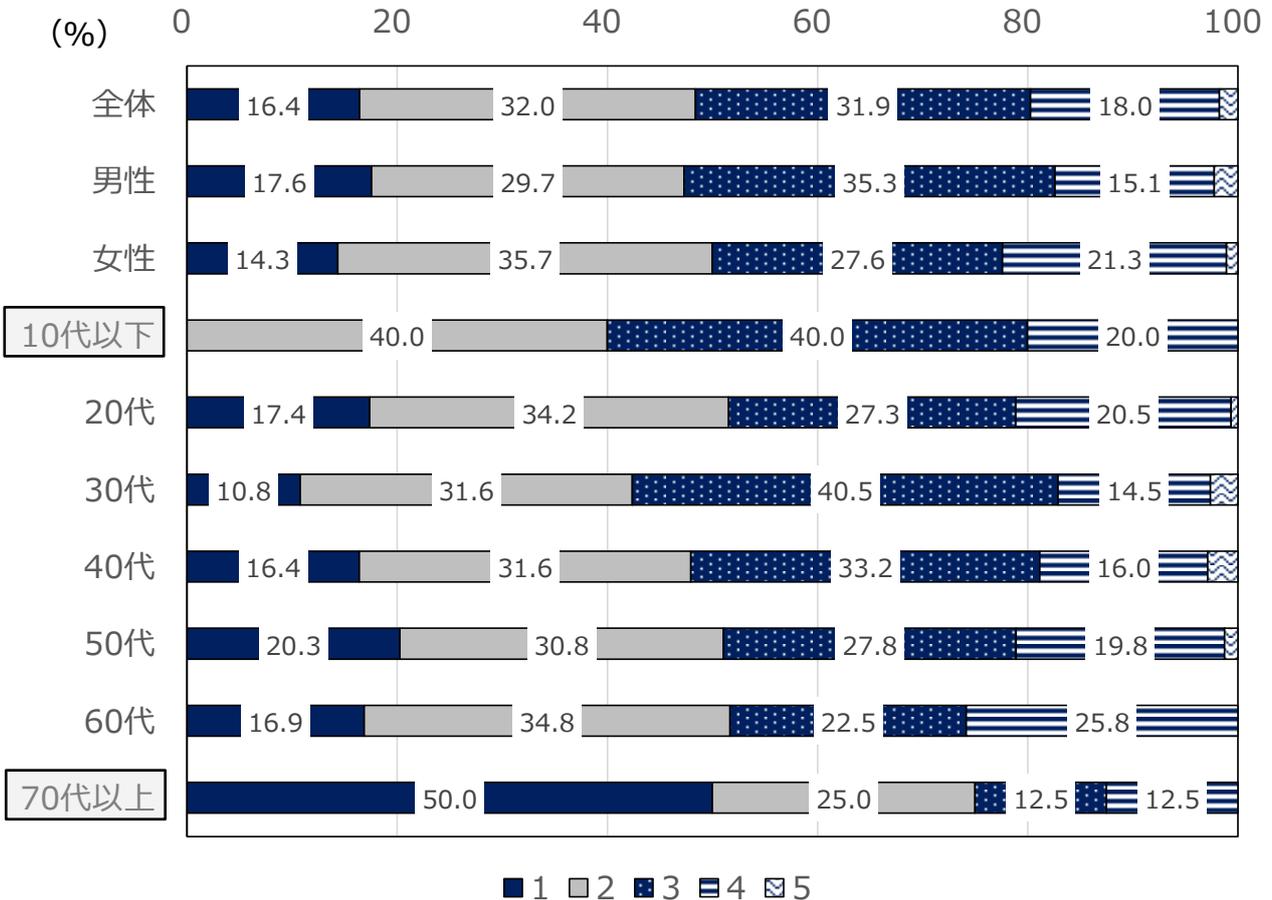
地域コミュニティ活動の在り方については、全体で「必要だが負担が大きいため、現状を維持するべき。」が32.0%で最も高く、次いで「必要がないものから、廃止するべき。」が31.9%、「わからない」が18.0%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

年代別では、「必要だが負担が大きいため、現状を維持するべき。」が20代及び50～60代で最も割合が大きく、30～40代では「必要がないものから、廃止するべき。」となっている。

**【選択肢】**

- 1 今後ますます必要になっていくので、拡大するべき。
- 2 必要だが負担が大きいため、現状を維持するべき。
- 3 必要がないものから、廃止するべき。
- 4 わからない
- 5 その他



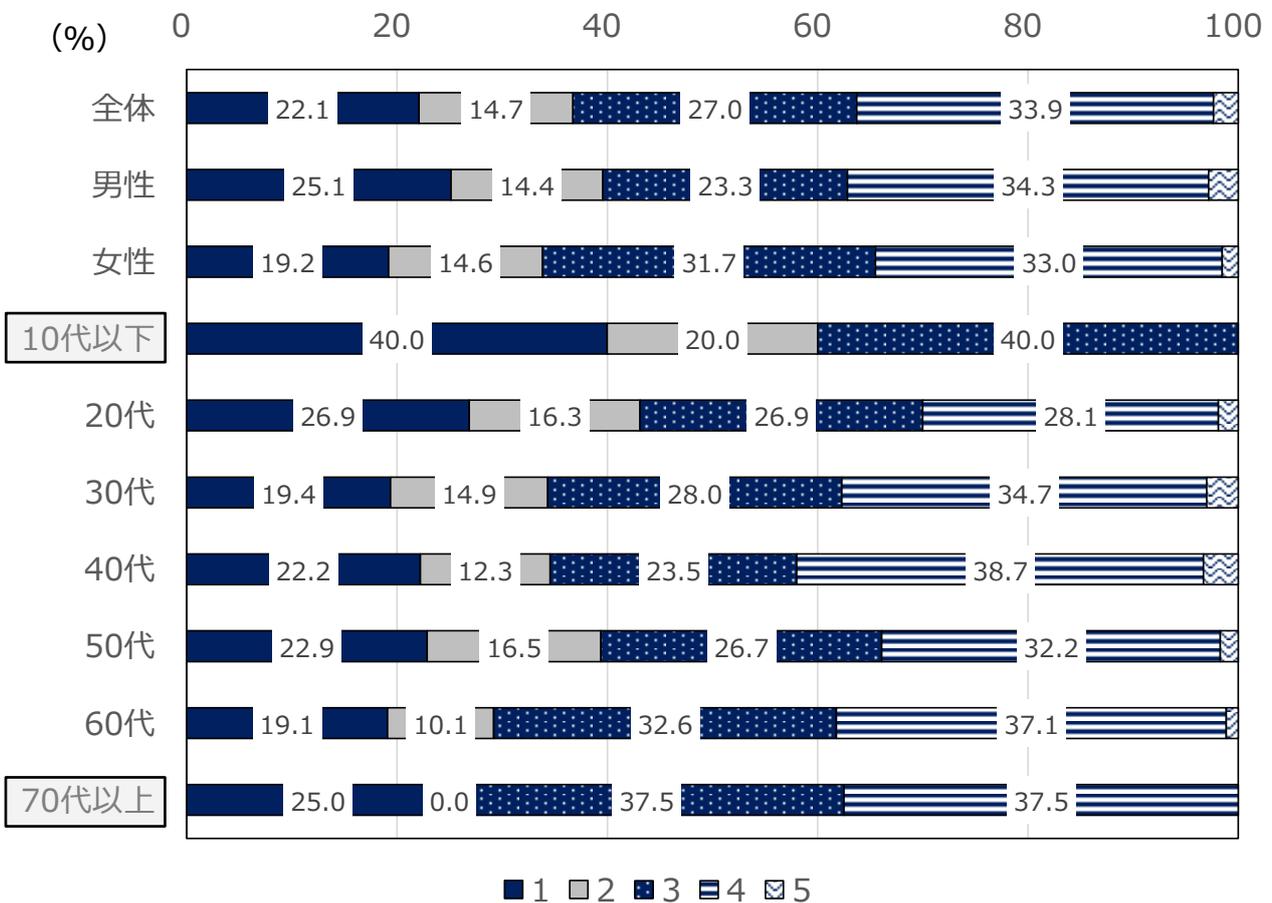
**Q5 30年後に自治会以外の地域コミュニティ活動が活発に行われるために、行政はどのような支援をすべきと考えますか。【n=1,023】**

地域コミュニティ活動が活発に行われるための支援については、全体で「課題解決の連携」が33.9%で最も高く、次いで「活動の周知・PR」が27.0%、「財政支援」が22.1%となっている。

性別・年代別を問わず「課題解決の連携」が最も割合の大きい項目となっている。

**【選択肢】**

- 1 財政支援
- 2 人材の派遣
- 3 活動の周知・PR
- 4 課題解決の連携
- 5 その他



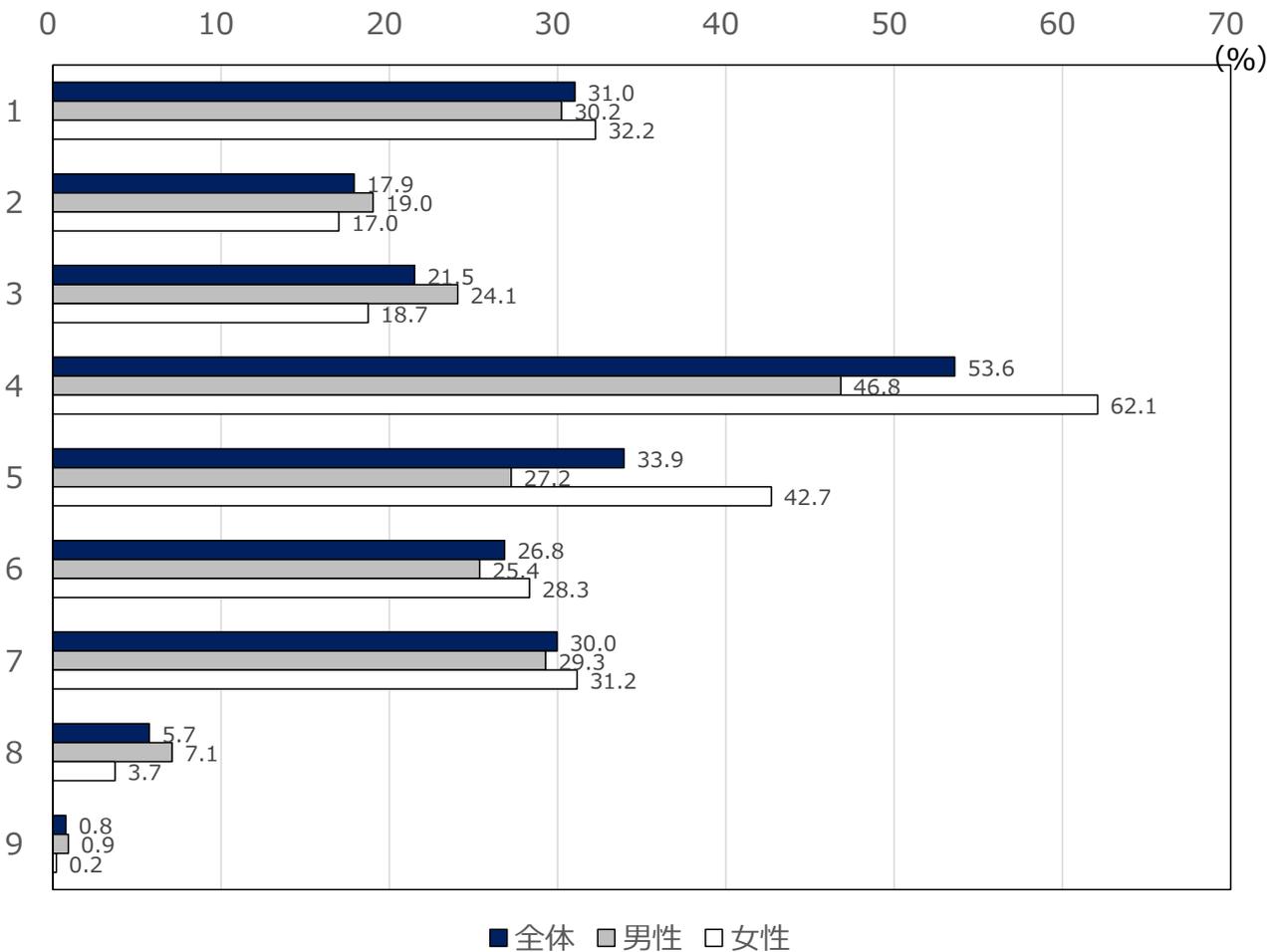
**Q6 地域コミュニティとして今後どのようなテーマ(取り組み)を取り上げていくべきだと思いますか。(3つまで選択可)【n=1,028】**

地域コミュニティとして取り上げていくテーマについては、全体で「子どもが安全・安心で過ごすことのできる地域での居場所づくり」が53.6%で最も高く、次いで「高齢者が生き生きと活動できる地域での居場所づくり」が33.9%、「コミュニティ活動の周知・理解促進」が31.0%となっている。

性別では、「子どもが安全・安心で過ごすことのできる地域での居場所づくり」及び「高齢者が生き生きと活動できる地域での居場所づくり」は男性に比べて女性の割合が大きくなっている。

**【選択肢】**

- |                                 |                            |
|---------------------------------|----------------------------|
| 1 コミュニティ活動の周知・理解促進              | 5 高齢者が生き生きと活動できる地域での居場所づくり |
| 2 住民間の交流機会の確保やあいさつ運動の展開         | 6 地域の防災力を高めるための活動          |
| 3 地域を美しく保全していくための活動             | 7 防犯・交通安全のための活動            |
| 4 子どもが安全・安心で過ごすことのできる地域での居場所づくり | 8 特にない                     |
|                                 | 9 その他                      |



## ② 自治会機能の十分な発揮

### Q1 あなたは自治会に加入していますか。【n=1,027】

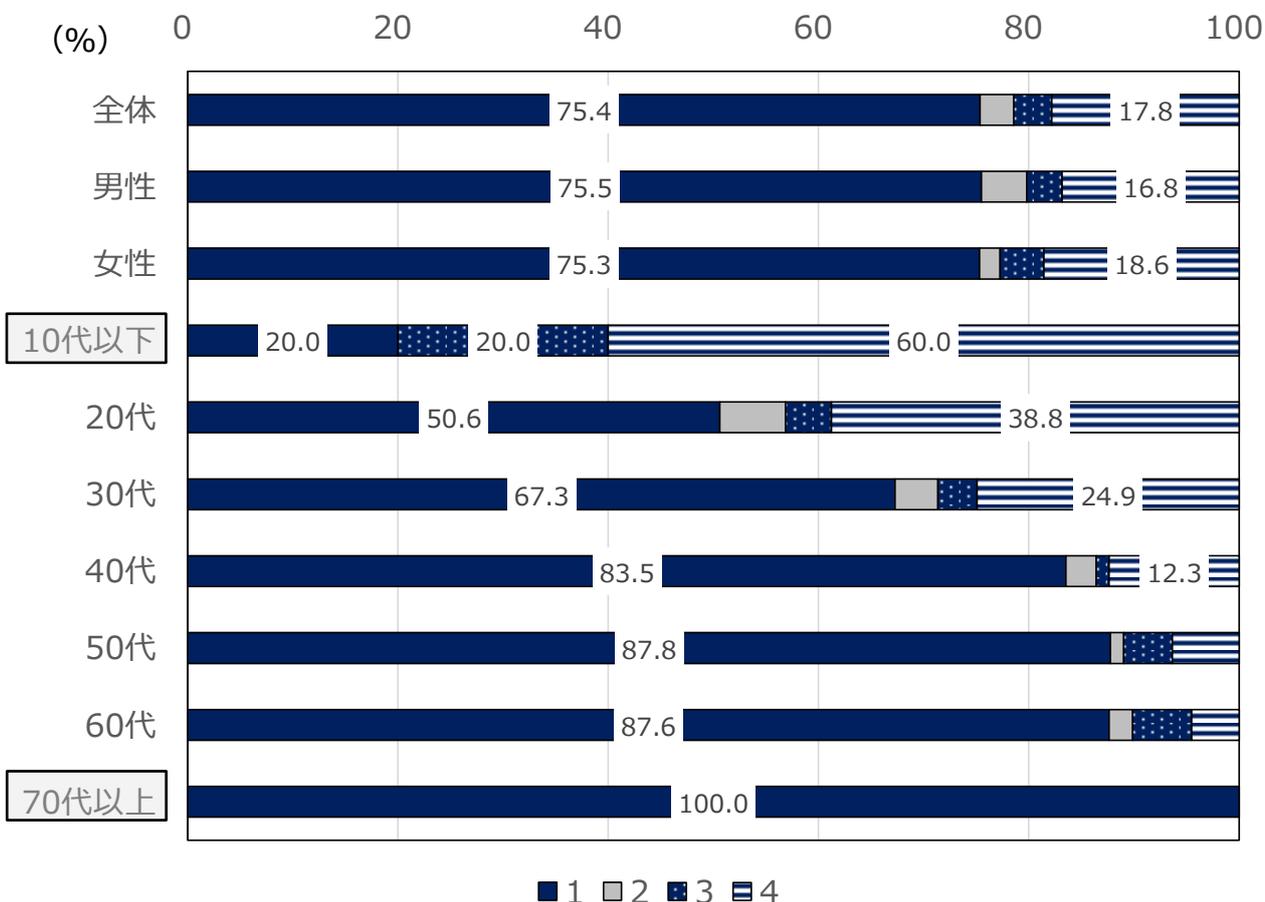
自治会への加入については、全体で「現在加入している。」が75.4%で最も高く、次いで「加入したことがない。」が17.8%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

年代別では、全体と同様「現在加入している。」の割合が最も大きく、年代が上がるにつれて大きくなっている。

#### 【選択肢】

- 1 現在加入している。
- 2 今後加入する予定である。
- 3 これまで加入していたが脱退した。
- 4 加入したことがない。



**Q2 Q1で1、2と回答した方に質問します。自治会でどのような活動をしていますか（する予定ですか）。【n=804】**

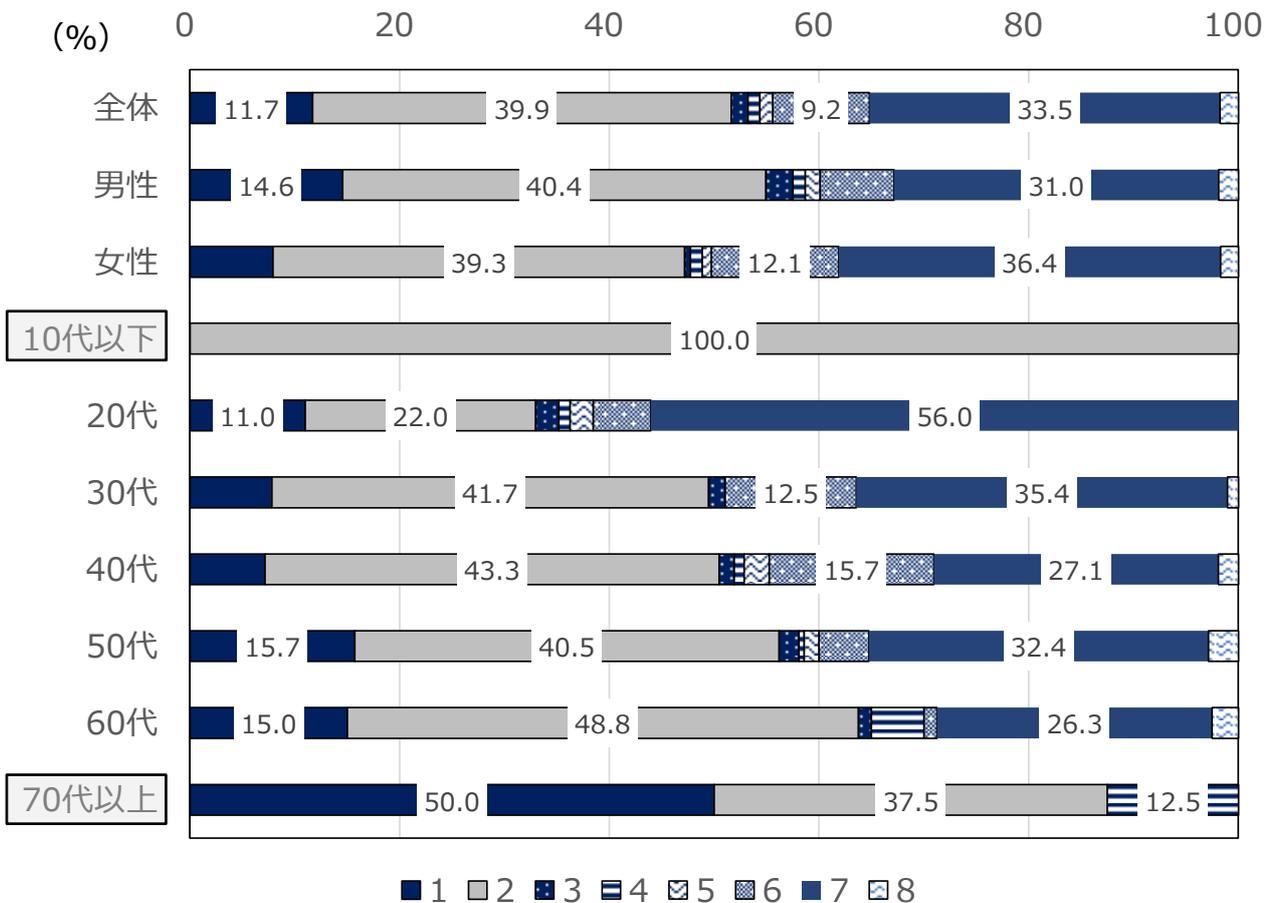
自治会での活動内容については、全体で「ごみ収集所の管理（清掃当番等）」が39.9%で最も高く、次いで「自治会費を納めているだけで何の活動もしていない（する予定はない）」が33.5%、「自治会の役員として活動」が11.7%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

年代別では、「ごみ収集所の管理（清掃当番等）」が20代で22.0%である一方、30～60代で4割から5割となっており、「自治会費を納めているだけで何の活動もしていない（する予定はない）」が20代では56.0%である、30～60代で3割前後となっている。

**【選択肢】**

- |                   |                                     |
|-------------------|-------------------------------------|
| 1 自治会の役員として活動     | 5 子どもの見守り活動                         |
| 2 ごみ収集所の管理（清掃当番等） | 6 育成会活動                             |
| 3 防犯パトロール活動       | 7 自治会費を納めているだけで何の活動もしていない（する予定はない）。 |
| 4 お年寄りの見守り活動      | 8 その他                               |



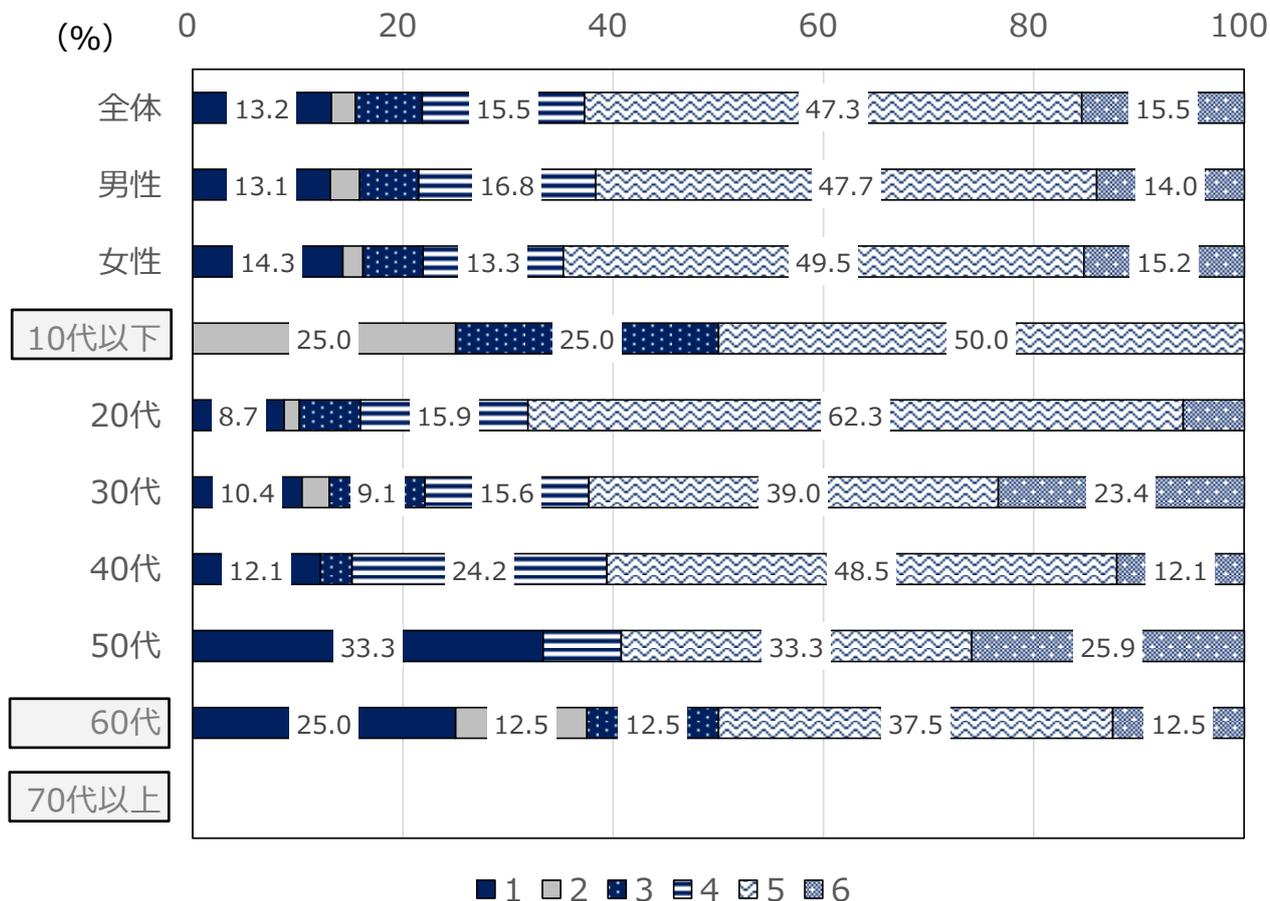
**Q3 Q1で3、4と回答した方に質問します。自治会に加入しない（脱退した）理由を教えてください。【n=220】**

自治会に加入しない理由については、全体で「自治会に入らなくても困らない。」が47.3%で最も高く、次いで「地域の付き合いが面倒である。」及び「その他」が15.5%となっている。

性別・年代別を問わず「自治会に入らなくても困らない。」が最も割合の大きい項目であり、特に20代が顕著となっている。

**【選択肢】**

- 1 自治会の役員になるのが負担である。
- 2 ごみ収集所の管理（清掃当番等）が負担である。
- 3 自治会費の支払いが負担である。
- 4 地域の付き合いが面倒である。
- 5 自治会に入らなくても困らない。
- 6 その他



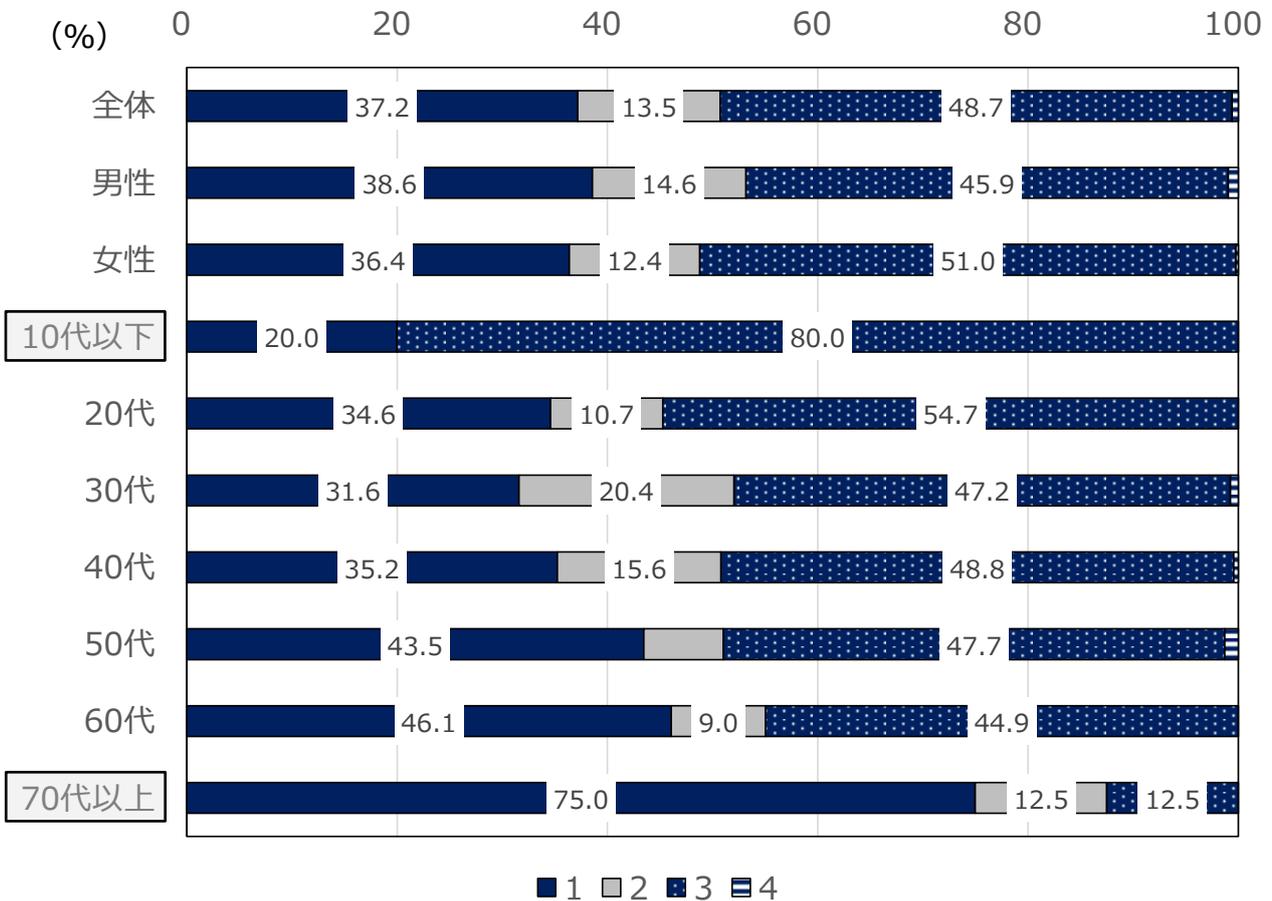
**Q 4 最近は、自治会が行ってきた活動の一部を業者に委託する動きが一部の自治体であります。30年後も自治会の存在は必要と思いますか。【n=1,027】**

自治会の存在の必要性については、全体で「どちらともいえない。」が48.7%で最も高く、次いで「必要と思う。」が37.2%、「必要とは思わない。」が13.5%となっている。

性別・年代別を問わず「どちらともいえない。」が4割以上、「必要と思う。」が3割以上と一定の回答を集めている。

**【選択肢】**

- 1 必要と思う。
- 2 必要とは思わない。
- 3 どちらともいえない。
- 4 その他

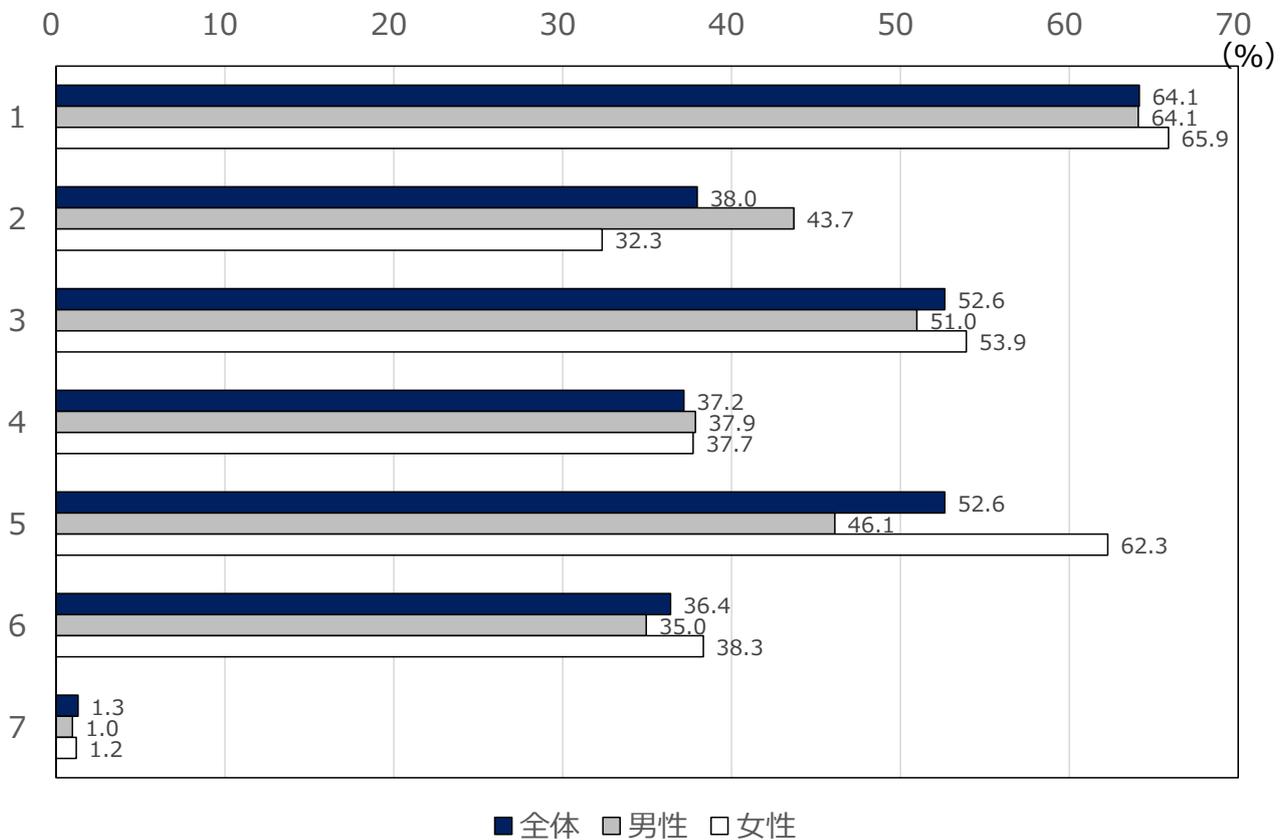


**Q5 Q4で1と回答した方に質問します。30年後にも自治会が必要と思う理由を教えてください。(複数選択可)【n=382】**

自治会が必要と思う利用については、全体で「良好な近所付き合い」が64.1%で最も高く、次いで「ゴミステーションの管理」及び「子どもや高齢者の見守り・居場所づくり」が52.6%となっている。  
年代別においても「その他」を除く全ての項目で3割以上の回答を集めている。

**【選択肢】**

- 1 良好な近所付き合い
- 2 地域の環境美化
- 3 ゴミステーションの管理
- 4 地域防災活動
- 5 子どもや高齢者の見守り・居場所づくり
- 6 地域防犯活動
- 7 その他



Q 6 Q 4 で 2 と回答した方に質問します。30 年後にも自治会が必要とは思わない理由を教えてください。

自由記述のため集計なし

**Q7 30年後も自治会を存続させようとした場合、今後市はどのような支援を行うべきと思いますか。**

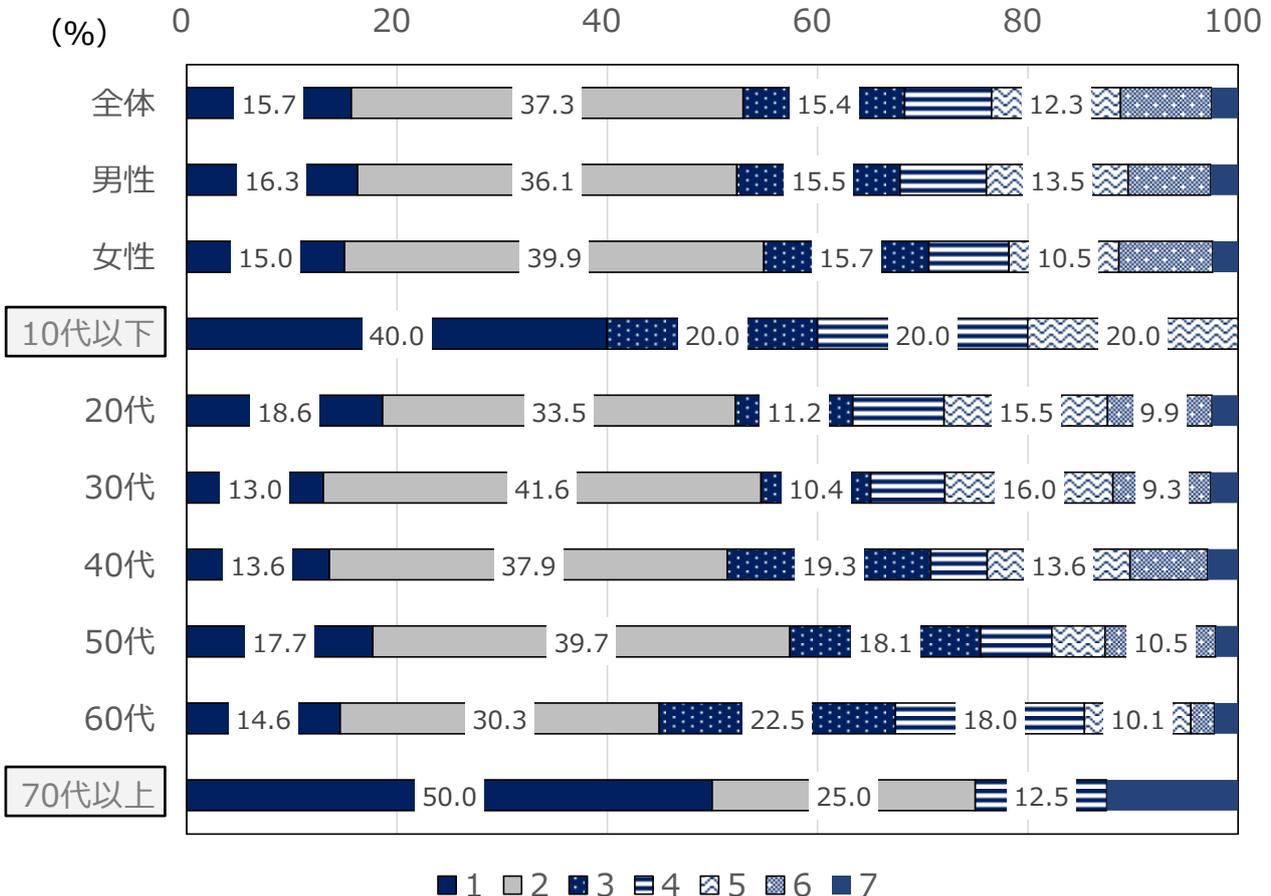
【n=1,028】

自治会存続のための支援については、全体で「住民の回覧板を回す手間や、役員の自治会費等の集金の負担を減らすため、積極的に電子回覧板の導入や、集金の電子化を行うための支援を行う。」が37.3%と最も高く、次いで「市のホームページや動画などで各自治会の活動を紹介し、地域の自治会が身近に感じられるよう、広報活動に努める。」が15.7%となっている。

性別・年代別においても同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 市のホームページや動画などで各自治会の活動を紹介し、地域の自治会が身近に感じられるよう、広報活動に努める。
- 2 住民の回覧板を回す手間や、役員の自治会費等の集金の負担を減らすため、積極的に電子回覧板の導入や、集金の電子化を行うための支援を行う。
- 3 自治会を通して配布していた市の広報誌を、事業者による各戸ポスティングに変更することで、自治会の負担を減らす。
- 4 電子化等の合理化は住民同士のつながりが希薄になる恐れがあるため、従来の回覧板や親睦事業も併せて実施していくべきであり、そのための支援を強化する。
- 5 自治会活動は特に必要ない。
- 6 わからない。
- 7 その他



### ③ 市民活動

#### Q 1 あなたは市民活動に参加した、または、参加してみたいと思ったことがありますか。【n=1,020】

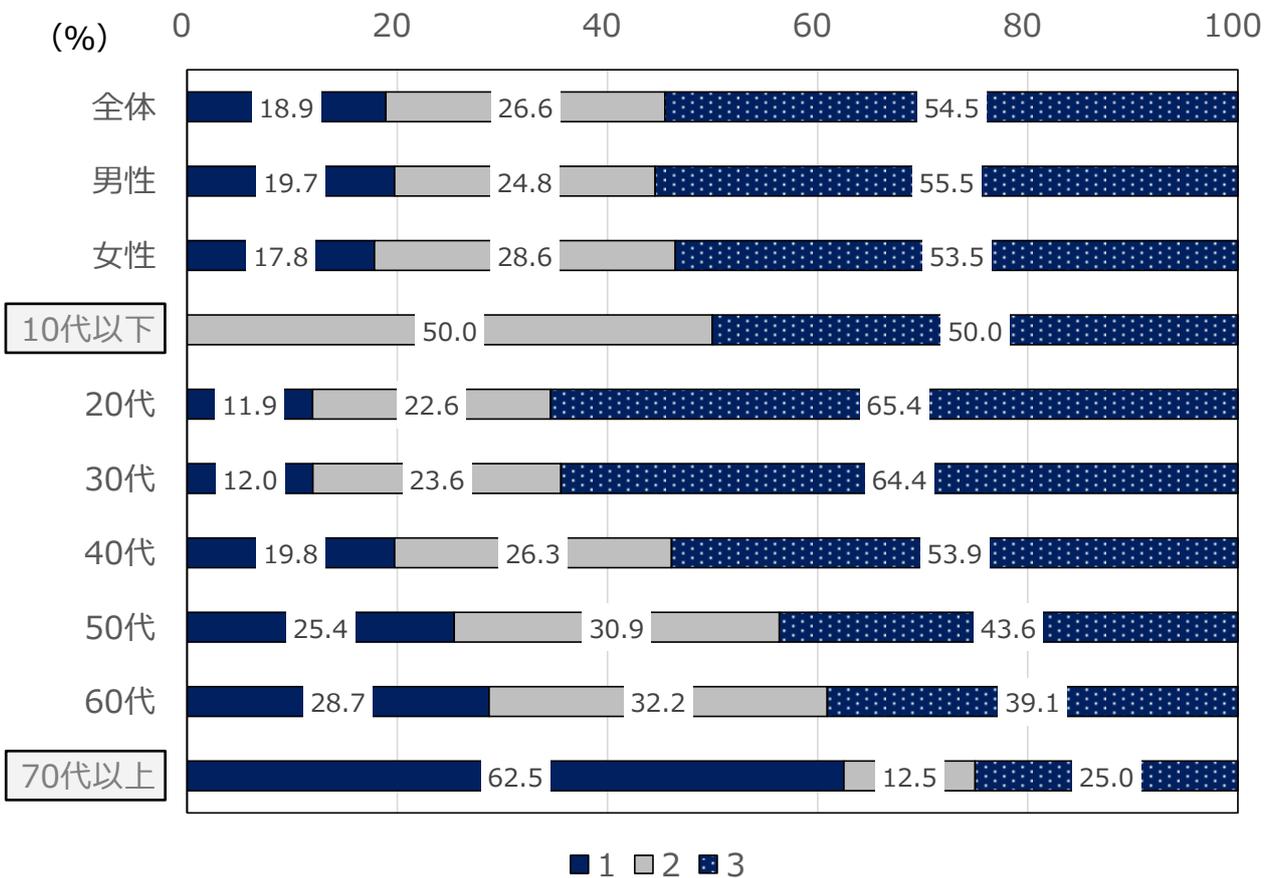
市民活動への参加については、全体で「参加したことはなく、参加してみたいと思ったこともない。」が54.5%で最も高く、次いで「参加したことはないが、参加してみたいと思ったことがある。」が26.6%、「参加したことがある。」が18.9%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

年代別では、全体と同様「参加したことはなく、参加してみたいと思ったこともない。」が最も割合の大きい項目となっているが、年代が上がるにつれて小さくなる傾向にある。

#### 【選択肢】

- 1 参加したことがある。
- 2 参加したことはないが、参加してみたいと思ったことがある。
- 3 参加したことはなく、参加してみたいと思ったこともない。



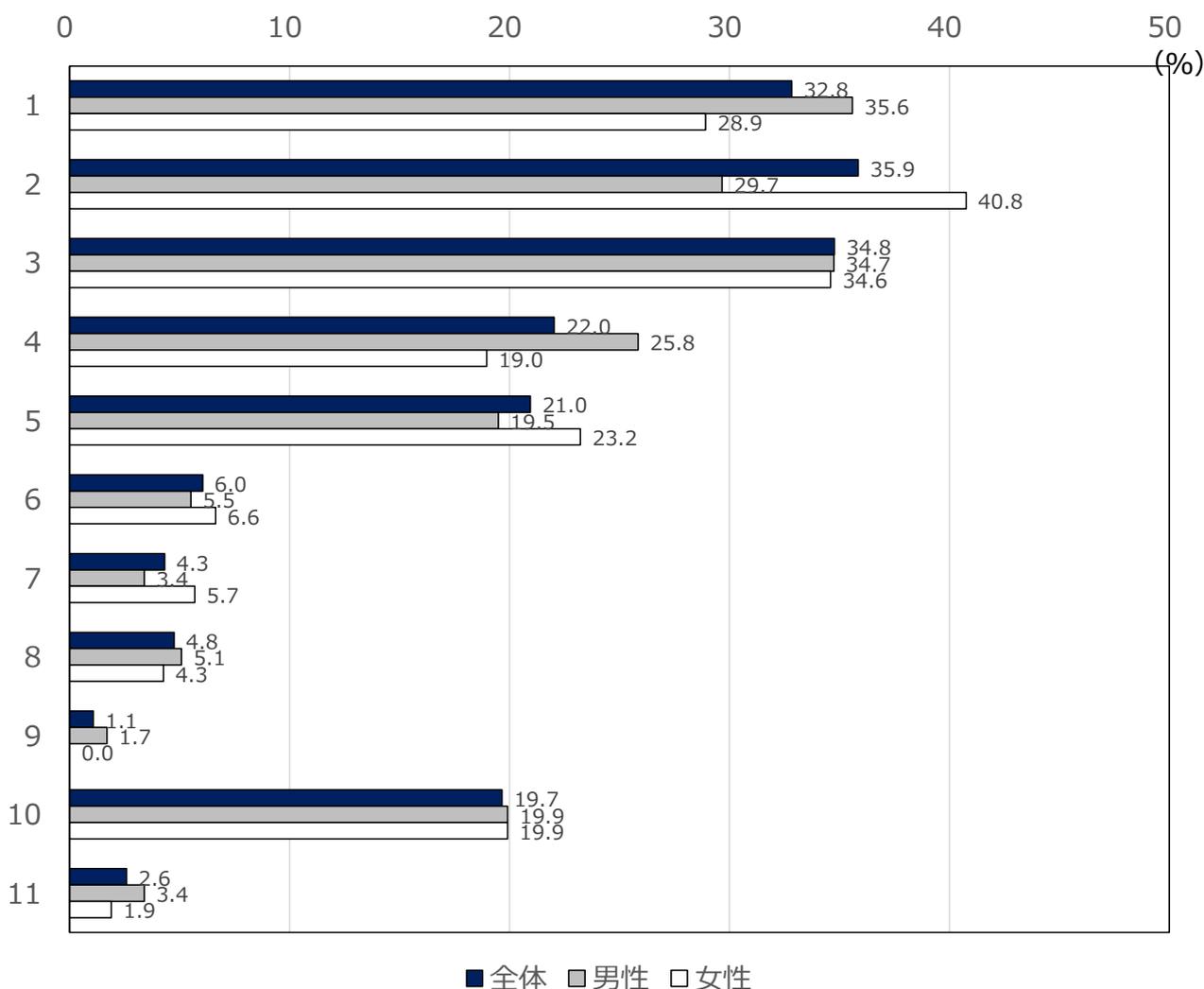
**Q2 Q1で1、2と答えた方に質問します。あなたが参加した理由、参加してみたいと思った理由は何ですか。(3つまで選択可)【n=463】**

市民活動への参加の理由については、全体で「困っている人を支援したいという気持ち。」が35.9%で最も高く、次いで「地域や仲間等と繋がっていたいから。」が34.8%、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため。」が32.8%となっている。

性別では、「困っている人を支援したいという気持ち。」は男性に比べて女性の割合が大きくなっている。

**【選択肢】**

- |                          |                                       |
|--------------------------|---------------------------------------|
| 1 自己啓発や自らの成長につながると考えるため。 | 7 ライフスタイル等の変化により時間ができたから。             |
| 2 困っている人を支援したいという気持ち。    | 8 知人や同僚等からの勧め。                        |
| 3 地域や仲間等と繋がっていたいから。      | 9 社会的に評価されるため。                        |
| 4 職業人や住民としての責務を果たすため。    | 10 地域コミュニティの再構築・維持につながり、将来世代のためになるから。 |
| 5 自分や家族が関係している活動への支援。    | 11 その他                                |
| 6 自分が抱えている社会問題の解決に必要なから。 |                                       |



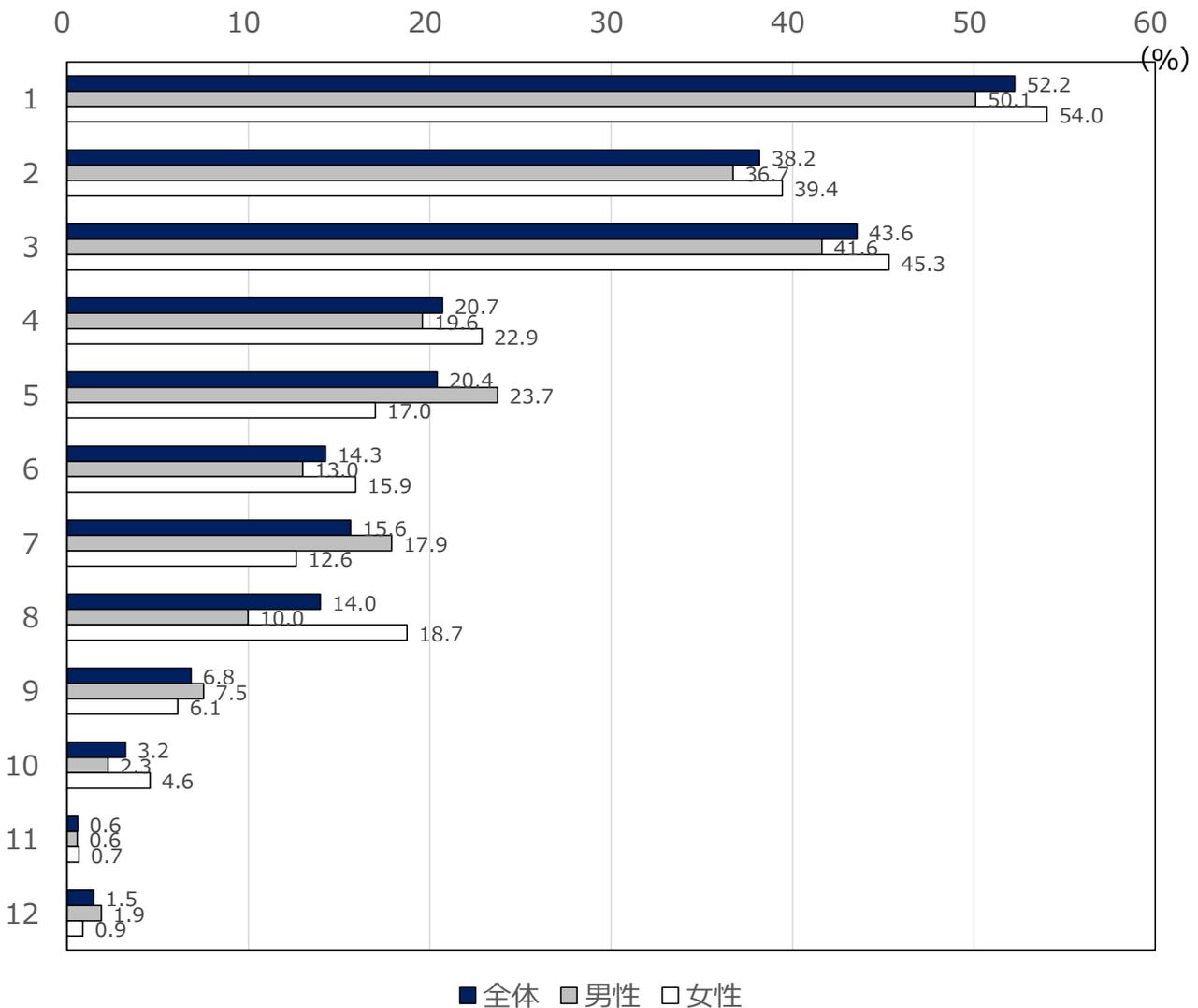
**Q3 あなたは市民活動に参加することの妨げになることは何だと思えますか。(3つまで選択可)【n=1,024】**

市民活動に参加することの妨げになることについては、全体で「時間がない。」が52.2%で最も高く、次いで「自分の生活で精一杯。」が43.6%、「仕事が忙しい。」が38.2%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- |                |                          |
|----------------|--------------------------|
| 1 時間がない。       | 7 興味や関心がない。              |
| 2 仕事が忙しい。      | 8 子育てや介護が忙しい。            |
| 3 自分の生活で精一杯。   | 9 気恥ずかしい。                |
| 4 活動内容が分からない。  | 10 活動の場所が自宅から離れているなど、不便。 |
| 5 趣味や余暇稼働を優先。  | 11 小山市外で既に活動している。        |
| 6 参加の仕方が分からない。 | 12 活動内容への不満。             |



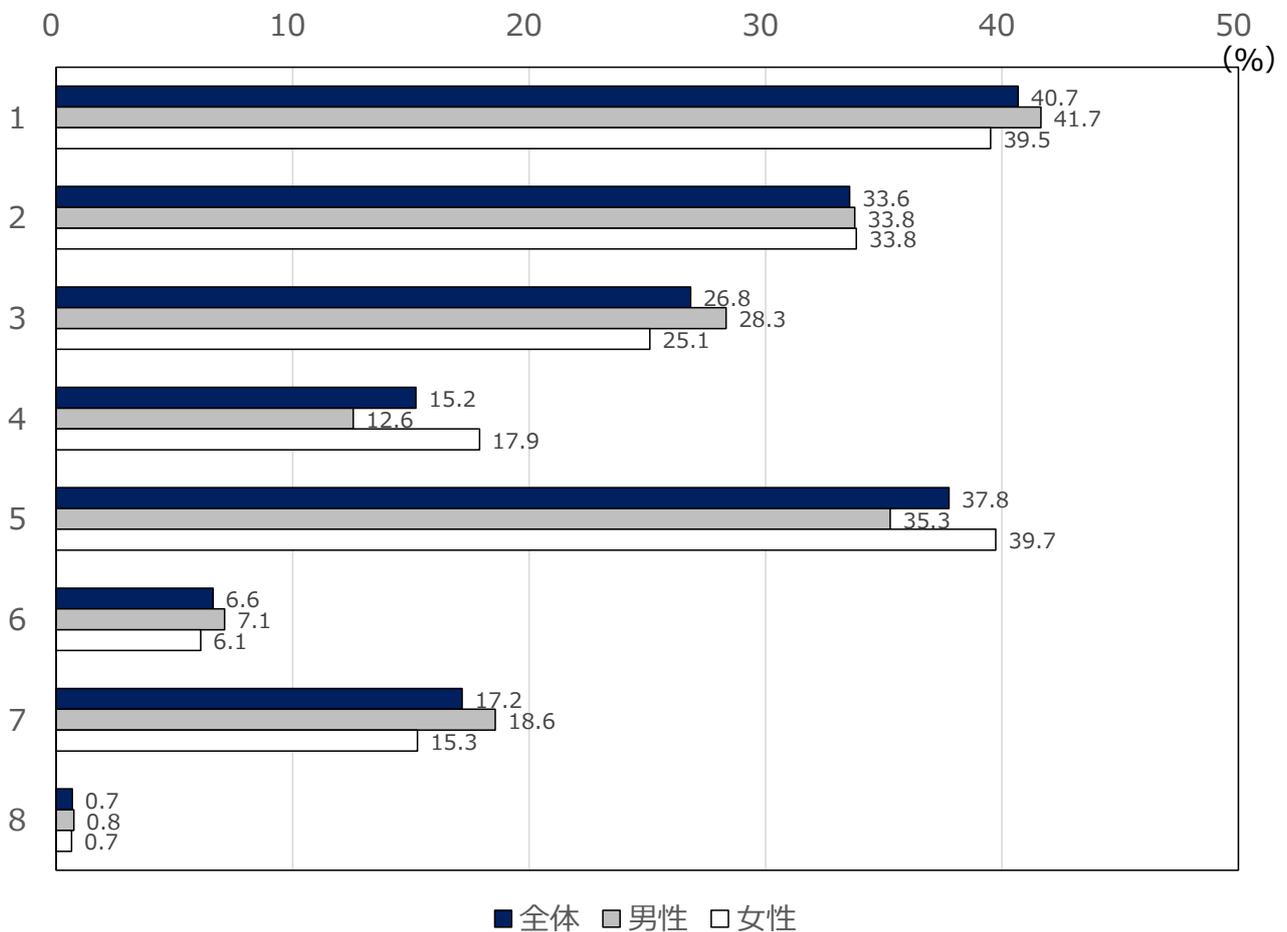
**Q 4 あなたは市民活動にどのような役割を期待しますか。(3つまで選択可)【n=1,025】**

市民活動に期待する役割になることについては、全体で「地域特有の課題の解決」が40.7%で最も高く、次いで「行政では行えない細かなサービス」が37.8%、「地域交流の中心的な役割（地域コミュニティの再構築・維持）」が33.6%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- |                                |                   |
|--------------------------------|-------------------|
| 1 地域特有の課題の解決                   | 5 行政では行えない細かなサービス |
| 2 地域交流の中心的な役割（地域コミュニティの再構築・維持） | 6 行政への積極的な参画      |
| 3 社会的な課題の解決                    | 7 特になし            |
| 4 個人的な困りごとの手助け                 | 8 その他             |



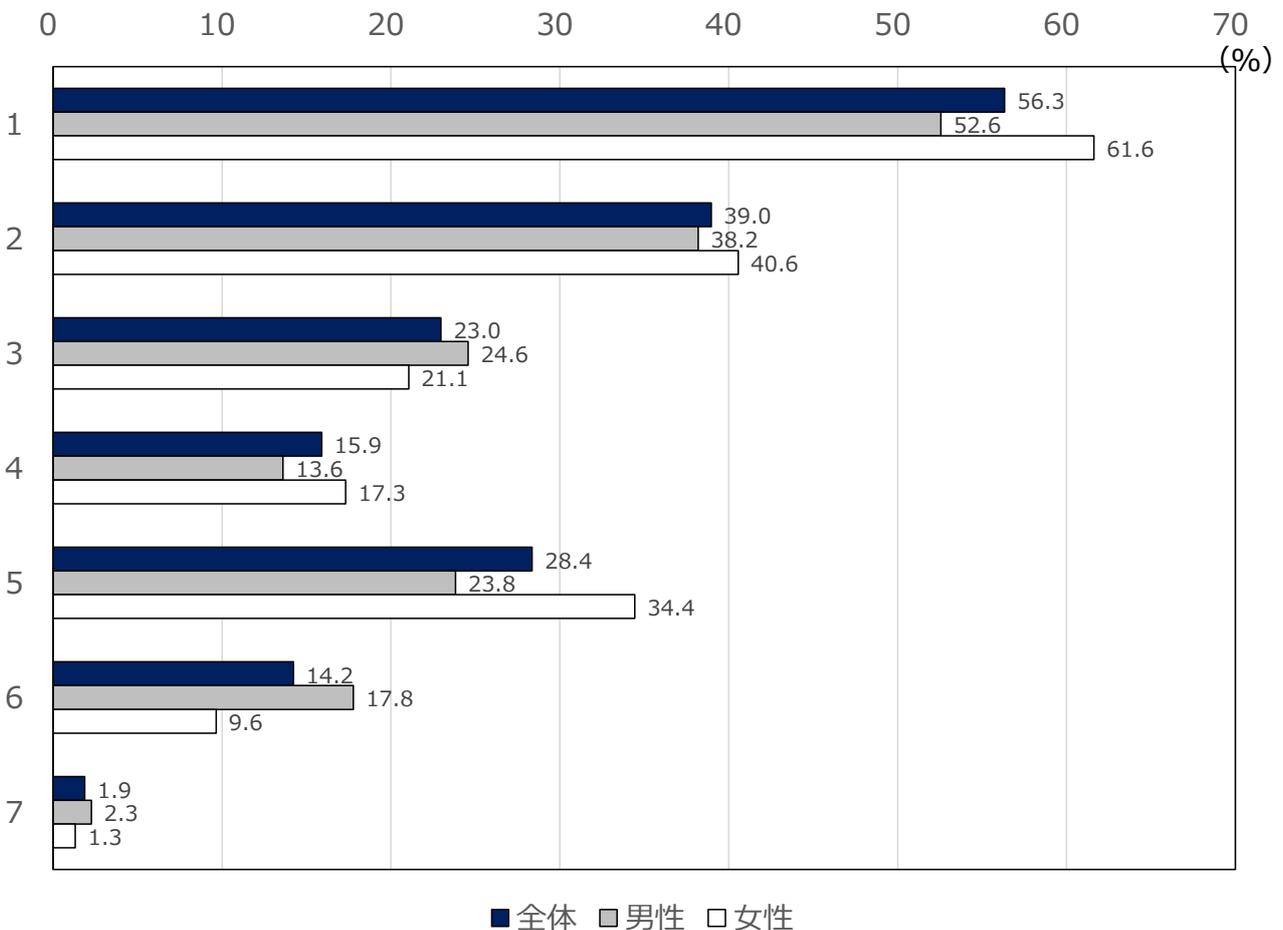
**Q5 あなたは、参加を希望する方が市民活動に参加しやすくなるにはどのようなことが必要だと考えますか。（3つまで選択可）【n=1,019】**

市民活動に参画しやすくなるために必要なことについては、全体で「市民活動に関する情報提供や情報発信の充実」が56.3%で最も高く、次いで「希望者に対する市民活動の紹介制度」が39.0%、「幼少期から市民活動（または類似する活動）に関わることが出来るようなプログラムの提供」が28.4%となっている。

性別では、「幼少期から市民活動（または類似する活動）に関わることが出来るようなプログラムの提供」は男性に比べて女性の割合が大きくなっている。

**【選択肢】**

- 1 市民活動に関する情報提供や情報発信の充実
- 2 希望者に対する市民活動の紹介制度
- 3 知識や実践的スキルを習得できる養成講座や研修会の開催
- 4 活動場所へ移動する手段の確保
- 5 幼少期から市民活動（または類似する活動）に関わることが出来るようなプログラムの提供
- 6 市民活動は個人の自発的な活動なので支援は必要ない
- 7 その他

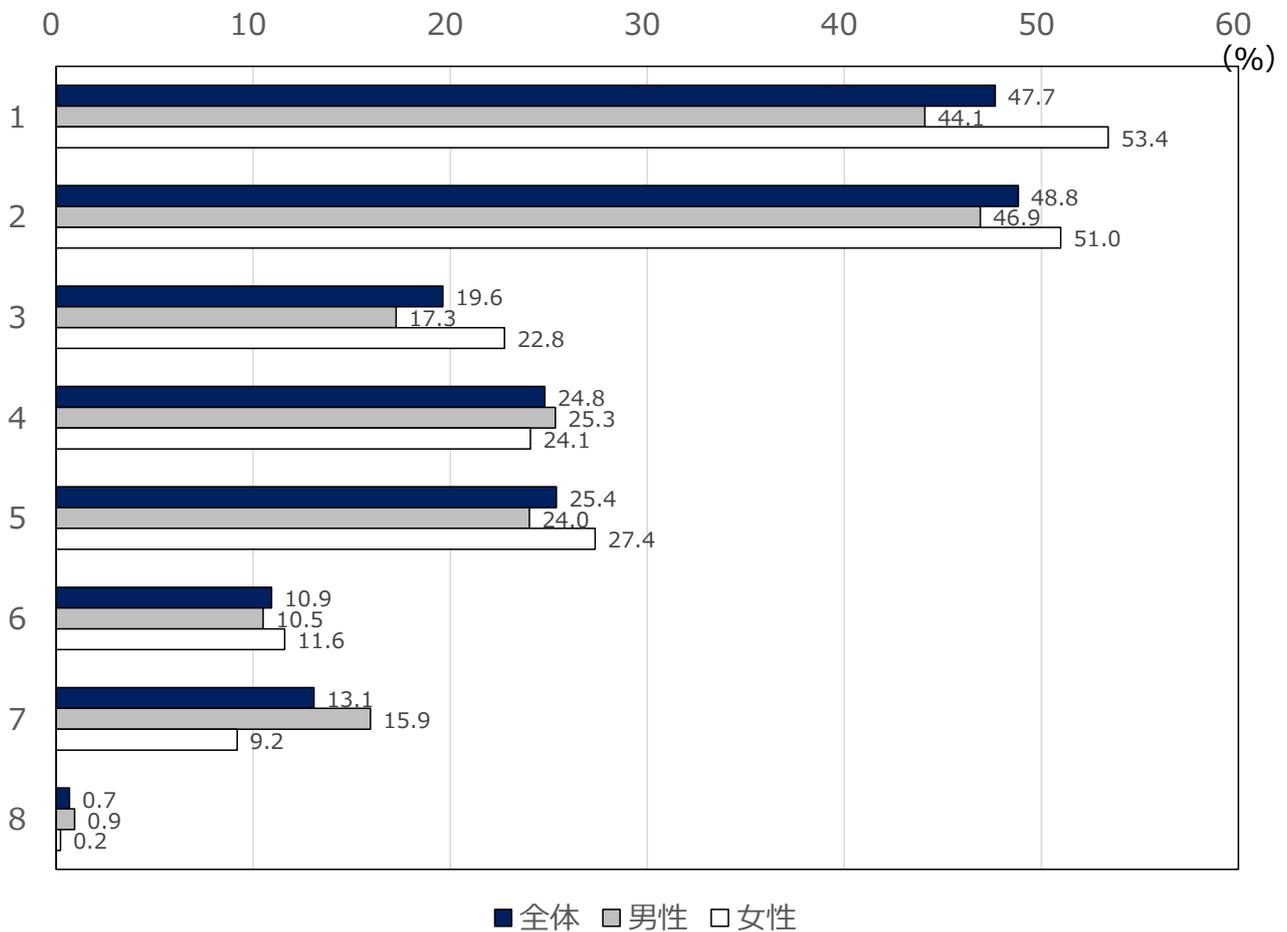


**Q6 あなたは市民活動に対する行政の支援として、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで選択可）【n=1,024】**

市民活動に対する行政の支援については、全体で「情報提供や情報発信の充実」が48.8%で最も高く、次いで「活動場所や設備の提供」が47.7%、「市民活動団体への経済的支援」が25.4%となっている。男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- |                         |                             |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1 活動場所や設備の提供            | 5 市民活動団体への経済的支援             |
| 2 情報提供や情報発信の充実          | 6 事故等に対する保険制度や活動に対する表彰制度の充実 |
| 3 養成講座などの学習機会の充実        | 7 特になし                      |
| 4 市民活動団体へのノウハウやアドバイスの提供 | 8 その他                       |



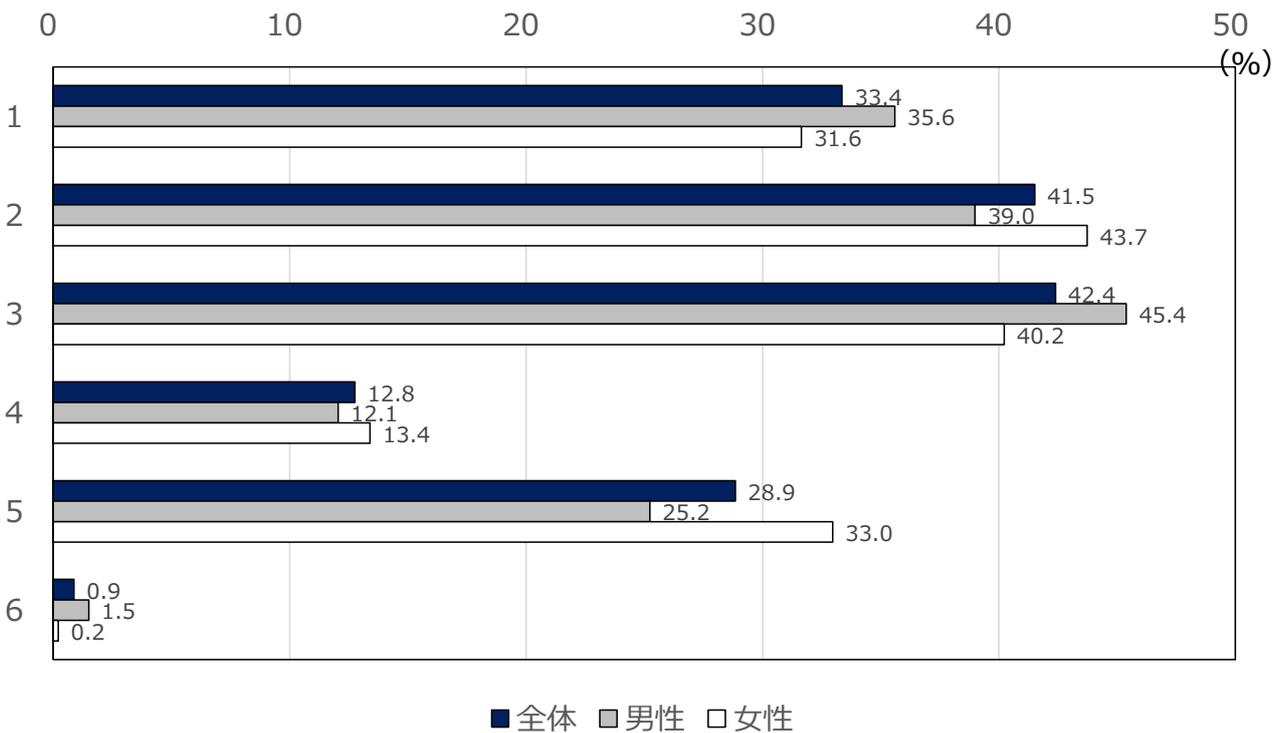
**Q7 あなたは30年後の小山市の市民活動について、どのような姿が望ましいと考えますか。(3つまで選択可)【n=1,019】**

市民活動の望ましい姿については、全体で「市民活動は自主的な活動であるため強制することなく本人のできる範囲で行われている。」が42.4%で最も高く、次いで「市民活動団体が得意な分野で力を十分発揮し、行政と役割分担をして活動に取り組んでいる。」が41.5%、「市民活動団体と行政が課題解決に向けて共通の目標をもって協働している。」が33.4%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 市民活動団体と行政が課題解決に向けて共通の目標をもって協働している。
- 2 市民活動団体が得意な分野で力を十分発揮し、行政と役割分担をして活動に取り組んでいる。
- 3 市民活動は自主的な活動であるため強制することなく本人のできる範囲で行われている。
- 4 市民活動団体の数や種類が大幅に増えて、市民活動に興味関心を持っている誰もが希望する市民活動に参加している。
- 5 誰もが安心して市民活動に参加でき、満足感を得られるような仕組みが整っている。
- 6 その他



#### ④ ボランティア活動

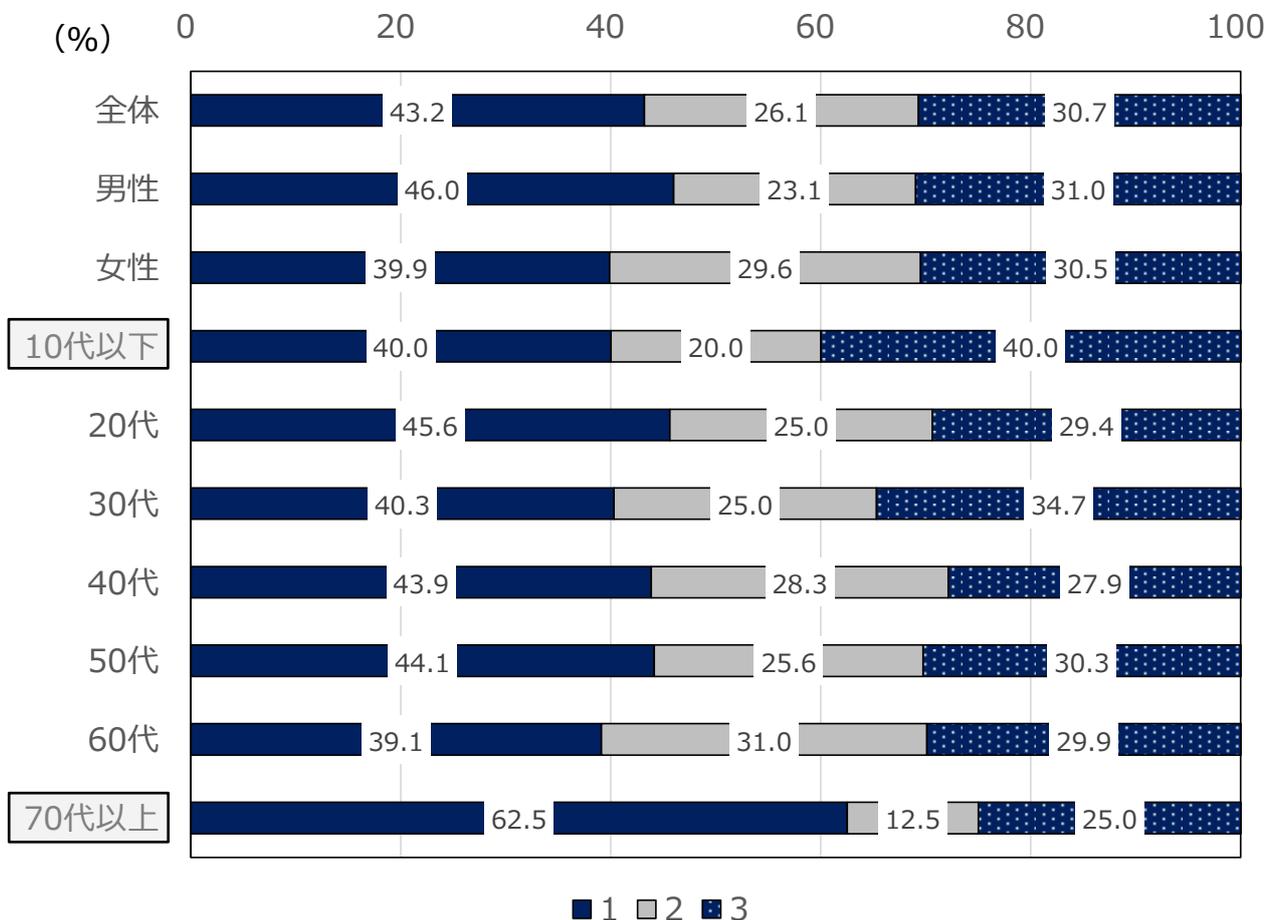
Q 1 あなたはボランティアに参加した、または、参加してみたいと思ったことがありますか。【n = 1,026】

ボランティアへの参加については、全体で「参加したことがある。」が43.2%で最も高く、次いで「参加したことはなく、参加してみたいと思ったこともない。」が30.7%、「参加したことはなく、参加してみたいと思ったことがある。」が26.1%となっている。

性別・年代別においても同様の傾向となっている。

##### 【選択肢】

- 1 参加したことがある。
- 2 参加したことはなく、参加してみたいと思ったことがある。
- 3 参加したことはなく、参加してみたいと思ったこともない。



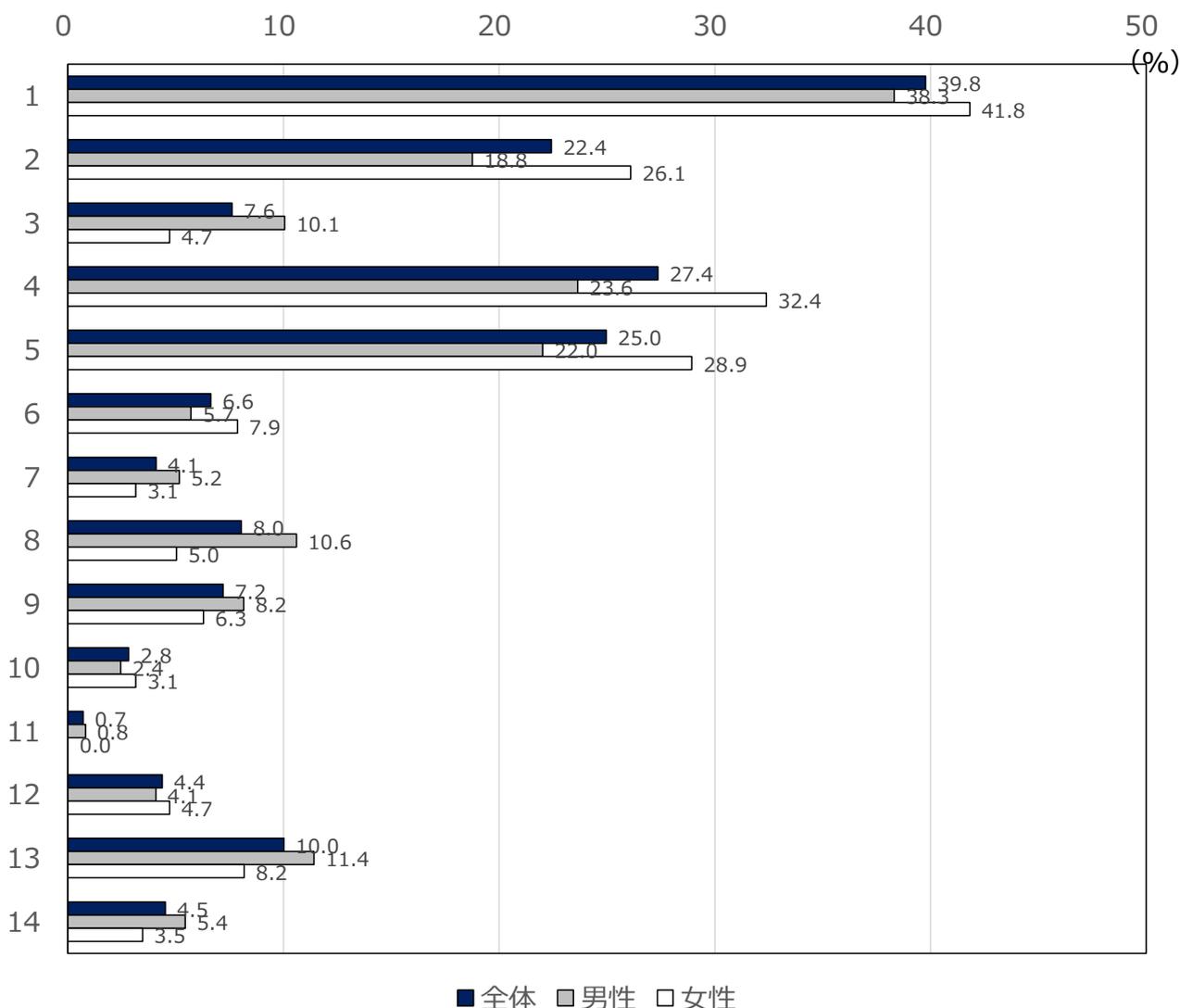
**Q2 Q1で1、2と答えた方に質問します。あなたが参加した理由、参加してみたいと思った理由は何ですか。(3つまで選択可)【n=709】**

ボランティアに参加する理由については、全体で「やりがいや、社会の役に立てている実感を得られるから。」が39.8%で最も高く、次いで「活動を通じて知識や経験、気づきを得られるから。」が27.4%、「様々な立場の人と交流出来るから。」が25.0%となっている。

性別では、「活動を通じて知識や経験、気づきを得られるから。」は男性に比べて女性の割合が大きくなっている。

**【選択肢】**

- |                              |                          |
|------------------------------|--------------------------|
| 1 やりがいや、社会の役に立てている実感を得られるから。 | 6 自分の技術や能力、経験を活動に活かせるから。 |
| 2 興味のある活動だから。                | 7 都合がよい時間帯に活動出来るから。      |
| 3 余暇時間を有意義に過ごせるから。           | 8 周りの人が参加しているから。         |
| 4 活動を通じて知識や経験、気づきを得られるから。    | 9 身近に放っておけない問題や課題があるから。  |
| 5 様々な立場の人と交流出来るから。           | 10 活動の頻度がちょうどいいから。       |



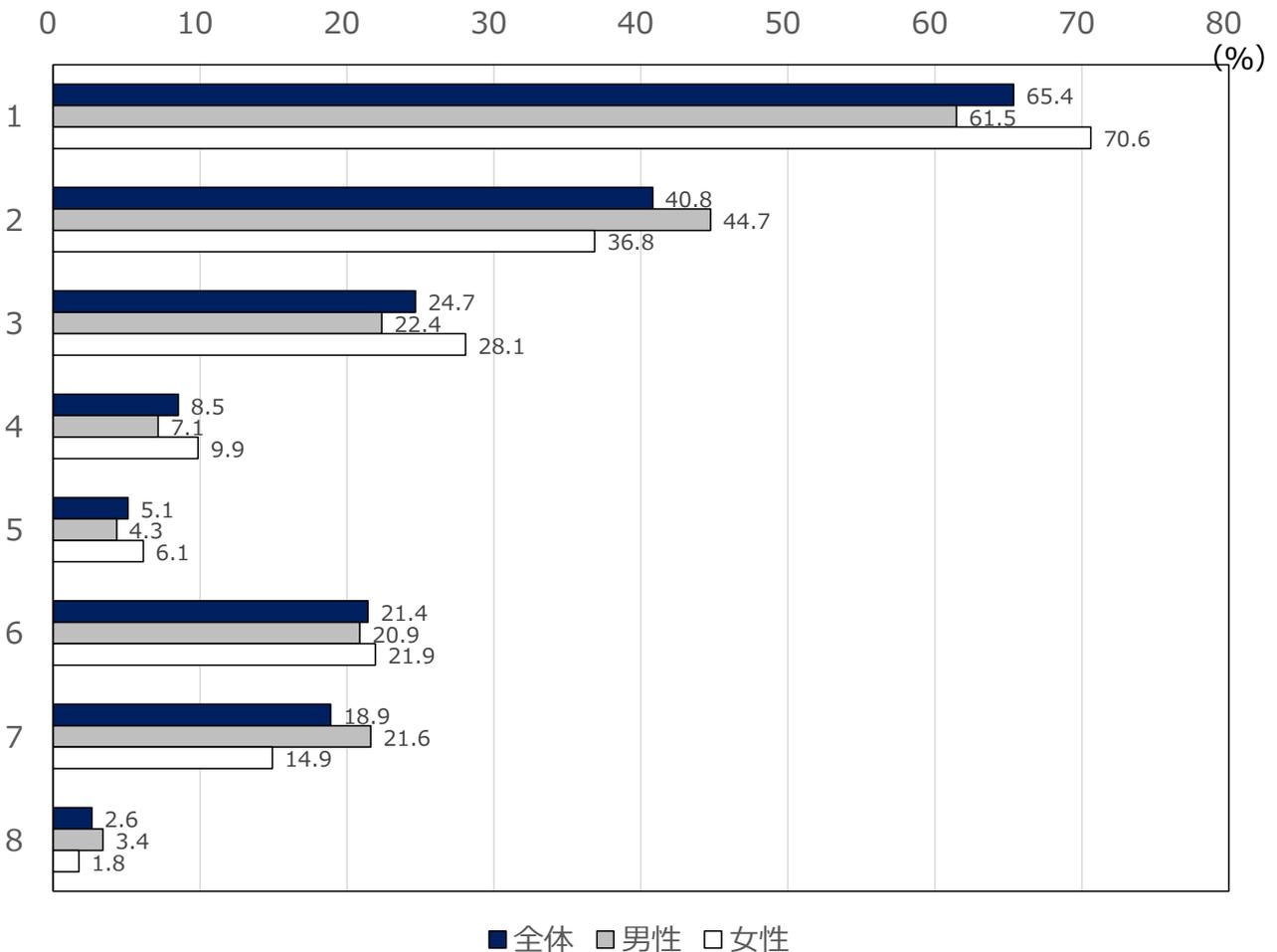
**Q3 あなたはボランティア活動への参加の妨げになることは何だと思いますか。(3つまで選択可)**  
**【n=1,022】**

ボランティア活動への参加の妨げになることについては、全体で「仕事や家庭との両立」が65.4%で最も高く、次いで「趣味など他の予定があり時間の余裕がないこと」が40.8%、「ボランティア活動の募集や参加方法の情報が得られないこと」が24.7%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- |                               |                           |
|-------------------------------|---------------------------|
| 1 仕事や家庭との両立                   | 5 養成講座など知識や技術を習得する機会がないこと |
| 2 趣味など他の予定があり時間の余裕がないこと       | 6 一緒に参加できる仲間がいないこと        |
| 3 ボランティア活動の募集や参加方法の情報が得られないこと | 7 興味のある活動がないこと            |
| 4 活動の場所が通える範囲にないこと            | 8 その他                     |

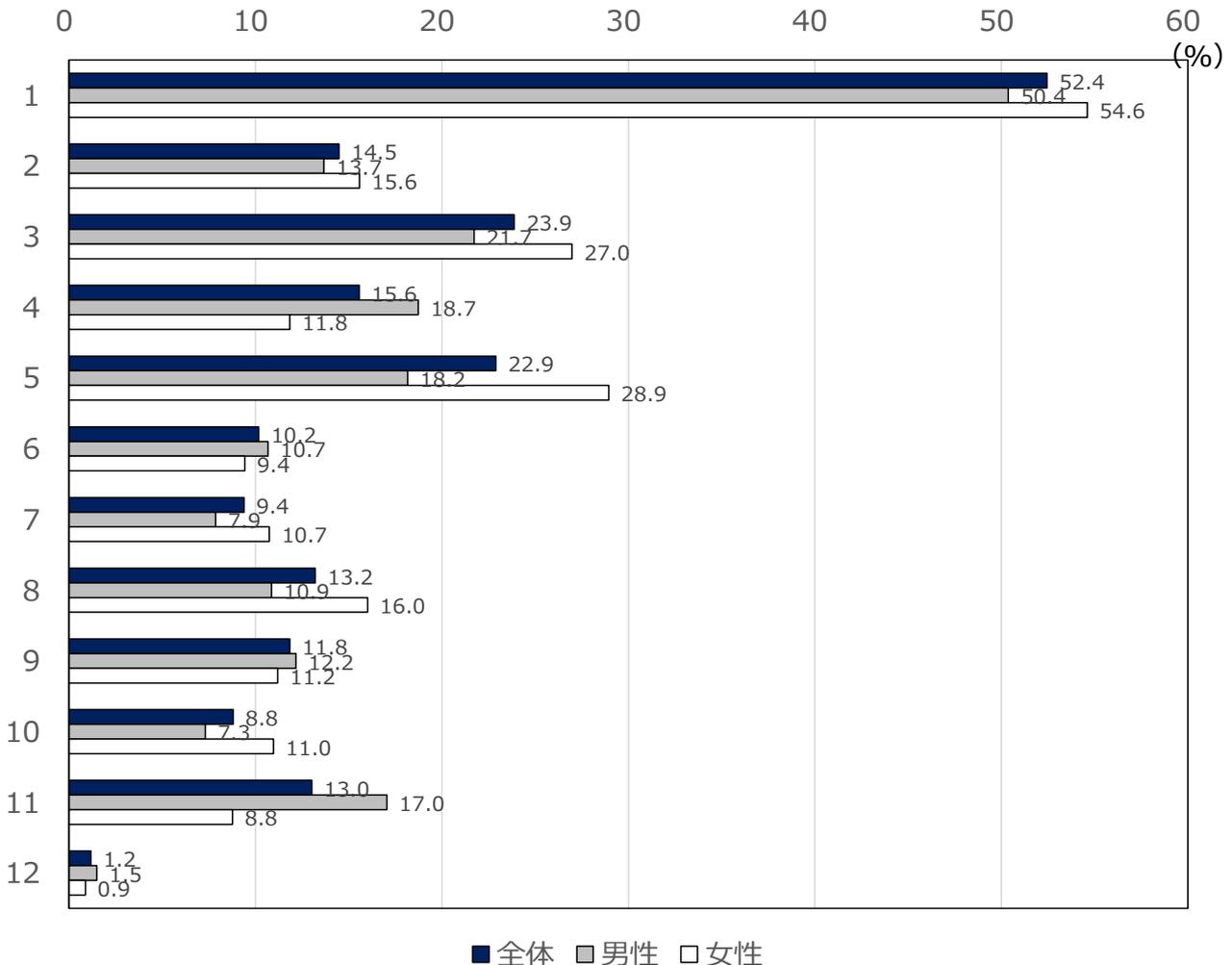


**Q 4 あなたは小山市におけるボランティア活動をより活発なものとするために行政はどのような取り組みをすべきだと考えますか。(3つまで選択可)【n=1,022】**

ボランティア活動をより活発にするための取り組みについては、全体で「ボランティアに関する情報提供の充実」が52.4%で最も高く、次いで「ボランティア希望者の登録・派遣の制度化」が23.9%、「幼少期からボランティア活動（または類似する活動）に関わることができるようなプログラムの提供」が22.9%となっている。

**【選択肢】**

- |   |                                 |
|---|---------------------------------|
| 1 ボランティアに関する情報提供の充実                             | 7 活動場所へ移動する手段の確保                |
| 2 ボランティア養成講座の充実                                 | 8 ボランティア同士が交流・情報交換出来る機会の提供      |
| 3 ボランティア希望者の登録・派遣の制度化                           | 9 ボランティア活動中の事故等に対する保険制度の整備・援助   |
| 4 ボランティア団体への補助金などの支援や表彰制度の充実                    | 10 ボランティア活動参加によるポイント制度と特典の創設    |
| 5 幼少期からボランティア活動（または類似する活動）に関わることができるようなプログラムの提供 | 11 ボランティア活動は個人の自発的な活動なので支援は必要ない |
| 6 市民意識を高める広報啓発や地域研修会の開催                         | 12 その他                          |



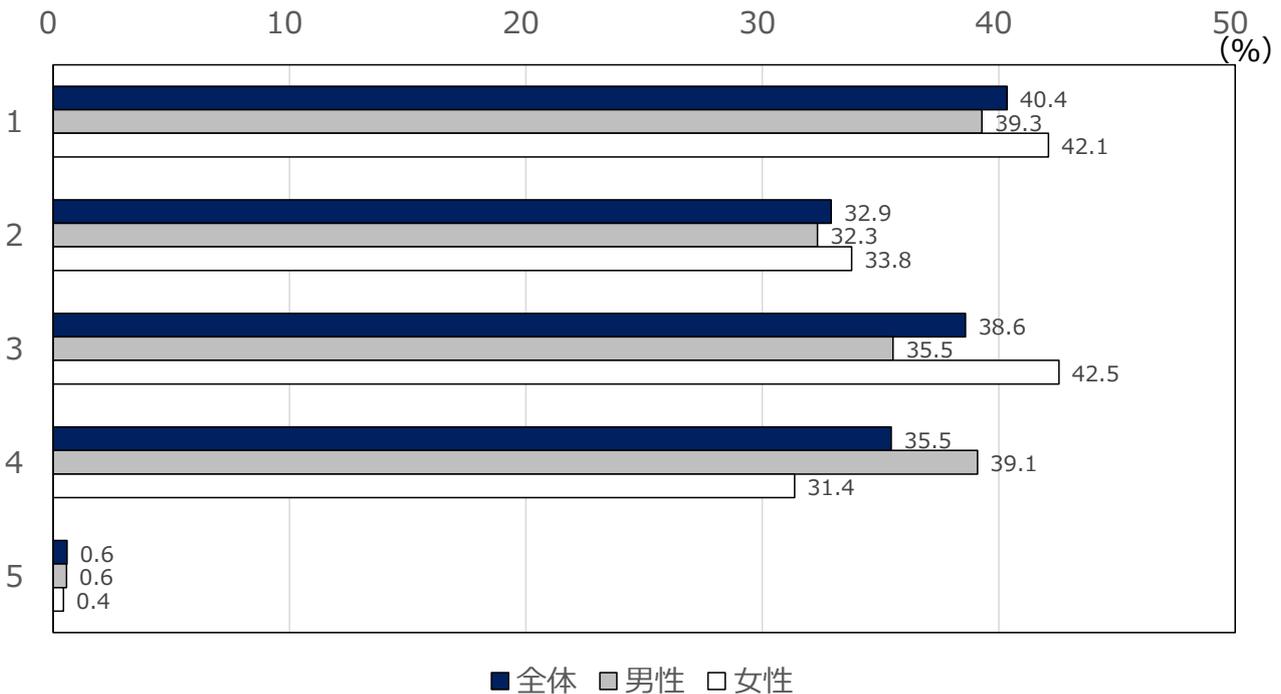
**Q5 あなたは30年後の小山市におけるボランティア活動について、どのような姿が望ましいと考えますか。(3つまで選択可)【n=1,021】**

ボランティア活動の望ましい姿については、全体で「ボランティア活動に関する情報を適切に取得でき、興味関心を持っている誰もが希望するボランティア活動に参加している。」が40.4%で最も高く、次いで「誰もが安心してボランティア活動に参加でき、満足感を得られるような仕組みが整っている。」が38.6%、「ボランティア活動は自主的な活動であるため強制することなく本人のできる範囲で行われている。」が35.5%となっている。

性別では、「その他」を除く全ての項目で3割以上の回答を集めている。

**【選択肢】**

- 1 ボランティア活動に関する情報を適切に取得でき、興味関心を持っている誰もが希望するボランティア活動に参加している。
- 2 ボランティア活動団体と行政が地域社会をよりよくするために共通の目標をもって協働している。
- 3 誰もが安心してボランティア活動に参加でき、満足感を得られるような仕組みが整っている。
- 4 ボランティア活動は自主的な活動であるため強制することなく本人のできる範囲で行われている。
- 5 その他



## ⑤ 男女共同参画

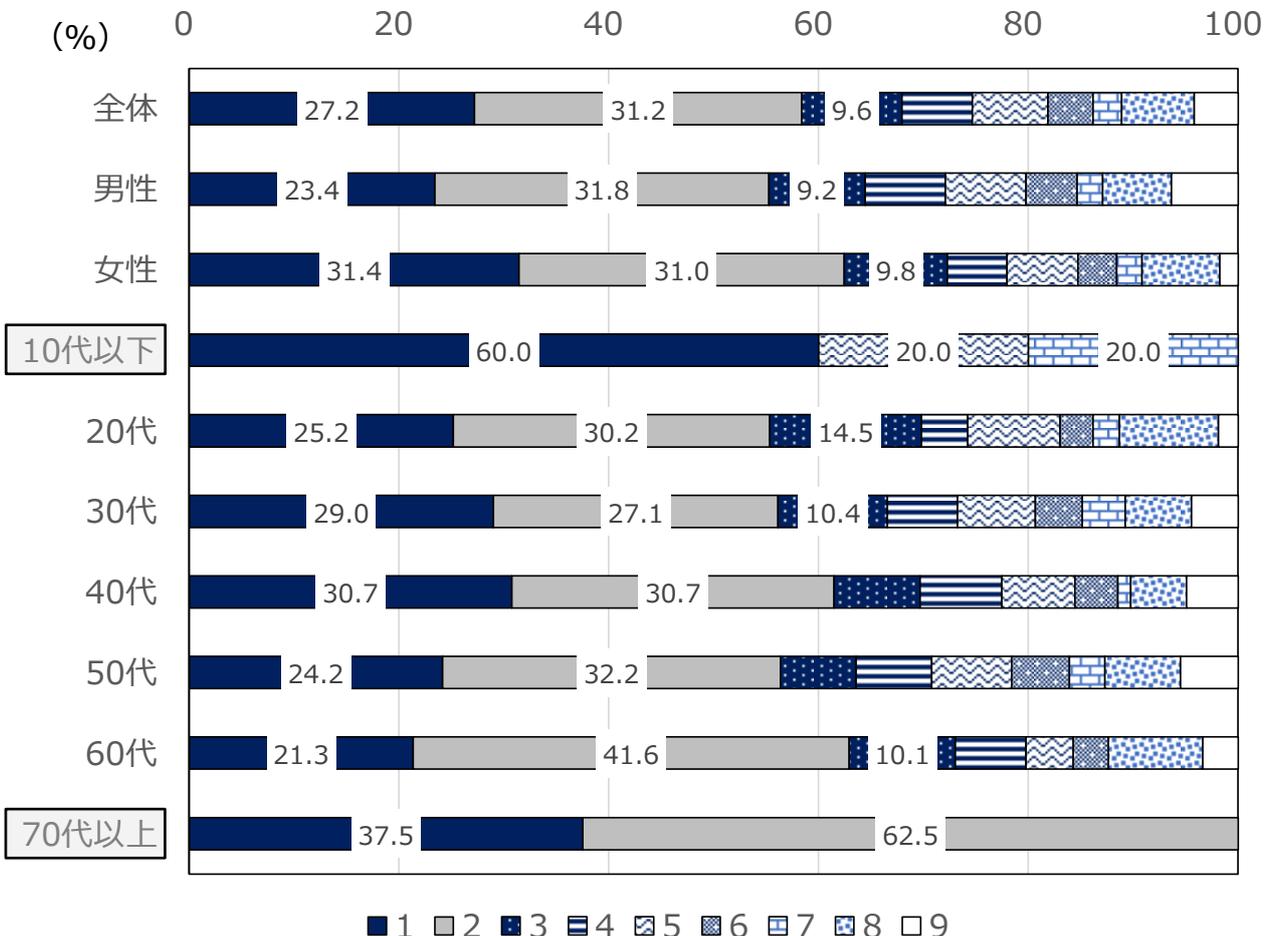
### Q 1 男女共同参画がなかなか進まない原因は、どのようなところにあると思いますか。【n=1,026】

男女共同参画が進まない原因については、全体で「地域や家庭における固定的な性別役割を前提とした社会通念や慣習、しきたりが根強い。」が31.2%で最も高く、次いで「家庭生活（家事・育児・介護等）で男性の参画が十分でない。」が27.2%となっている。

性別・年代別を問わず「地域や家庭における固定的な性別役割を前提とした社会通念や慣習、しきたりが根強い。」が3割から4割、「家庭生活（家事・育児・介護等）で男性の参画が十分でない。」が2割から3割となっている。

#### 【選択肢】

- 1 家庭生活（家事・育児・介護等）で男性の参画が十分でない。
- 2 地域や家庭における固定的な性別役割を前提とした社会通念や慣習、しきたりが根強い。
- 3 男女間の賃金格差の是正が進んでいない。
- 4 男性は基幹業務、女性は補助業務というような性別役割分業の職場が多い。
- 5 社会全体において性差別やハラスメントへの対応が不十分である。
- 6 政策・方針などの意思決定過程への女性の参画が十分でない。
- 7 教育現場においてジェンダー視点における教育が十分に行われていない。
- 8 男女のキャリア選択の自由やチャンスへのアクセスに制約がある。
- 9 その他



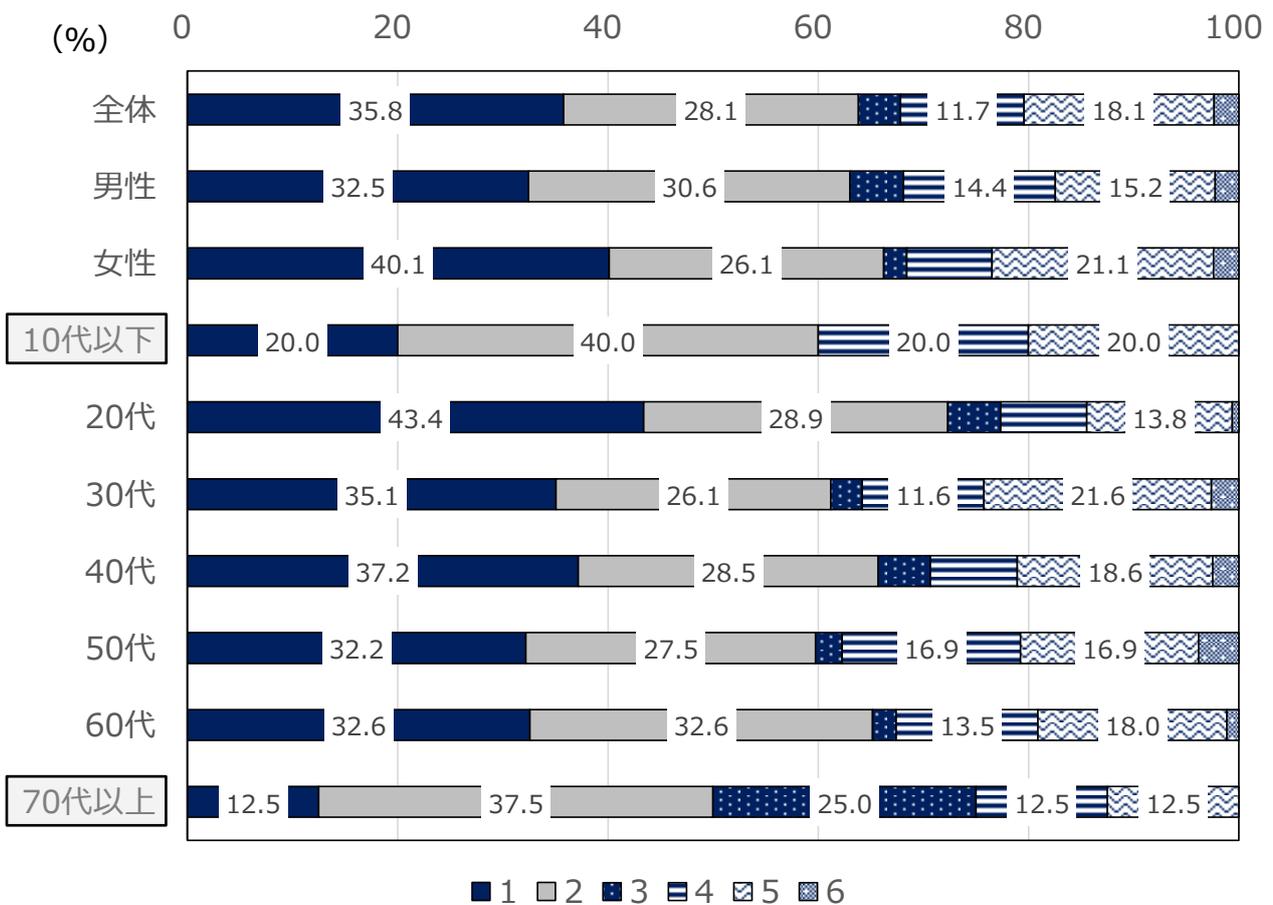
**Q2 あなた自身が思い描く「男女共同参画が実現している社会」に一番近いものを一つ選んでください。【n=1,023】**

思い描く「男女共同参画が実現している社会」については、全体で「家庭において、家事・育児・介護等の負担・責任を男女で平等に分ちあっている社会」が35.8%で最も高く、次いで「女性も男性も働きやすく働きがいがある事業所が増えている社会」が28.1%、「子どもたちが、性別にとらわれず自分のありたい姿を描き、実現に向けて行動できる社会」が18.1%となっている。

性別・年代別では、「家庭において、家事・育児・介護等の負担・責任を男女で平等に分ちあっている社会」が3割から4割、「女性も男性も働きやすく働きがいがある事業所が増えている社会」が2割前後となっている。

**【選択肢】**

- 1 家庭において、家事・育児・介護等の負担・責任を男女で平等に分ちあっている社会
- 2 女性も男性も働きやすく働きがいがある事業所が増えている社会
- 3 男女が共に主体的に地域活動やボランティア活動に参加する社会
- 4 政策・方針決定過程において、男女ともに主体的参加している社会
- 5 子どもたちが、性別にとらわれず自分のありたい姿を描き、実現に向けて行動できる社会
- 6 その他



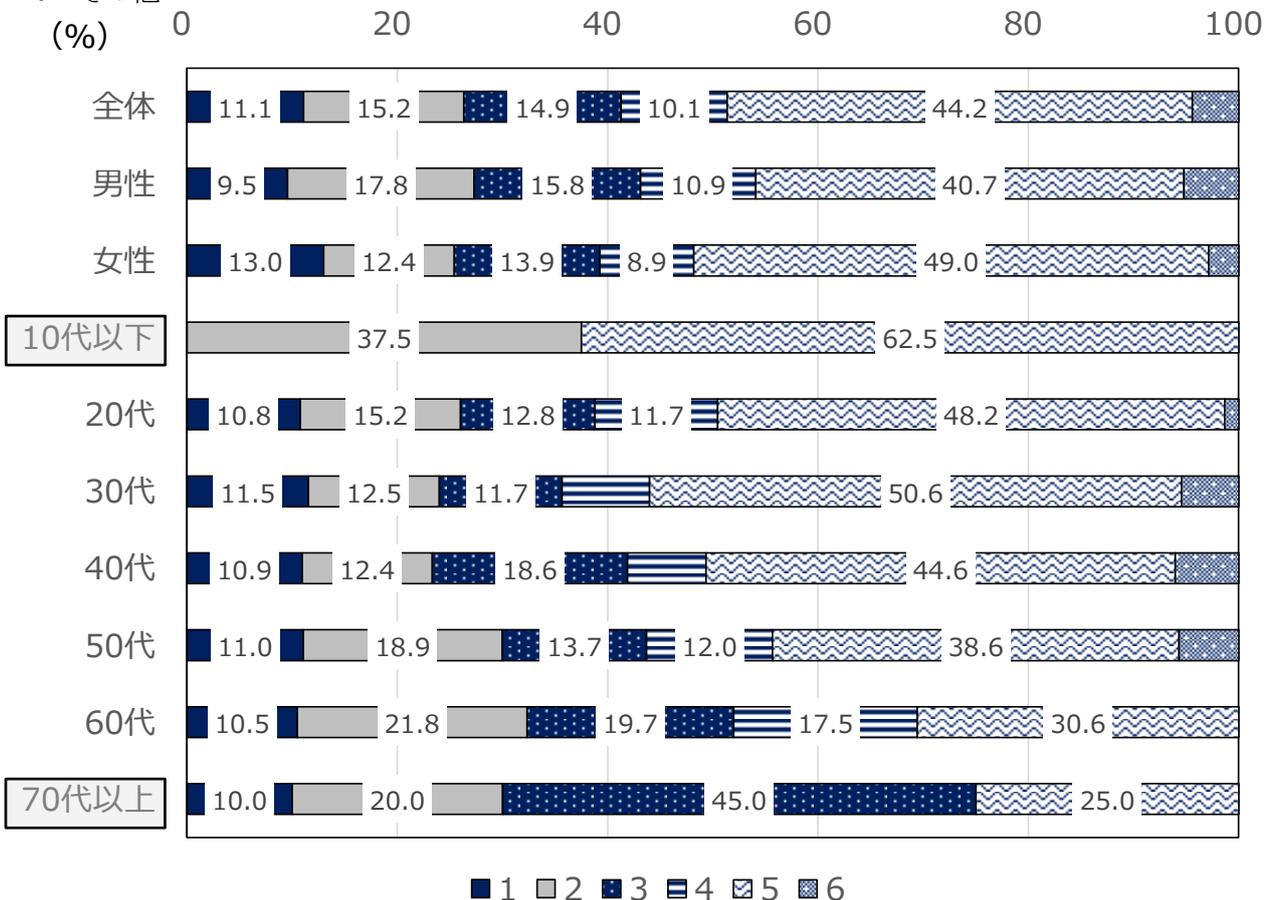
**Q3 あなた自身が理想とする男女共同参画が実現した社会に近づくために、個人・地域・職場などにおいて必要だと思うことは何ですか。【n=1,020】**

男女共同参画が実現した社会に近づくために必要なことについては、全体で「企業において柔軟な働き方の取り組み（テレワーク・フレックスタイム制等）や、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を重視する制度の導入」が44.2%で最も高く、次いで「職場・地域等での「男性は力を持ち強く、女性は控えめで弱く男性に従う方がよい」等のアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）の解消」が15.2%となっている。

性別・年代別を問わず企業において柔軟な働き方の取り組み（テレワーク・フレックスタイム制等）や、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を重視する制度の導入」が最も割合の大きい項目となっているが、年代が上がるにつれて割合が小さくなっている。

**【選択肢】**

- 1 家事・育児・介護における男女間の負担の偏りの解消
- 2 職場・地域等での「男性は力を持ち強く、女性は控えめで弱く男性に従う方がよい」等のアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）の解消
- 3 学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習の充実
- 4 政治や経営の意思決定層に女性を増やしていくため、議員候補者や役員などの一定数を女性と定める制度（クオータ制）の導入
- 5 企業において柔軟な働き方の取り組み（テレワーク・フレックスタイム制等）や、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を重視する制度の導入
- 6 その他



**Q 4 30 年後に男女共同参画社会が実現しているために、行政としてどのような支援が必要だと思いますか。【n=1,021】**

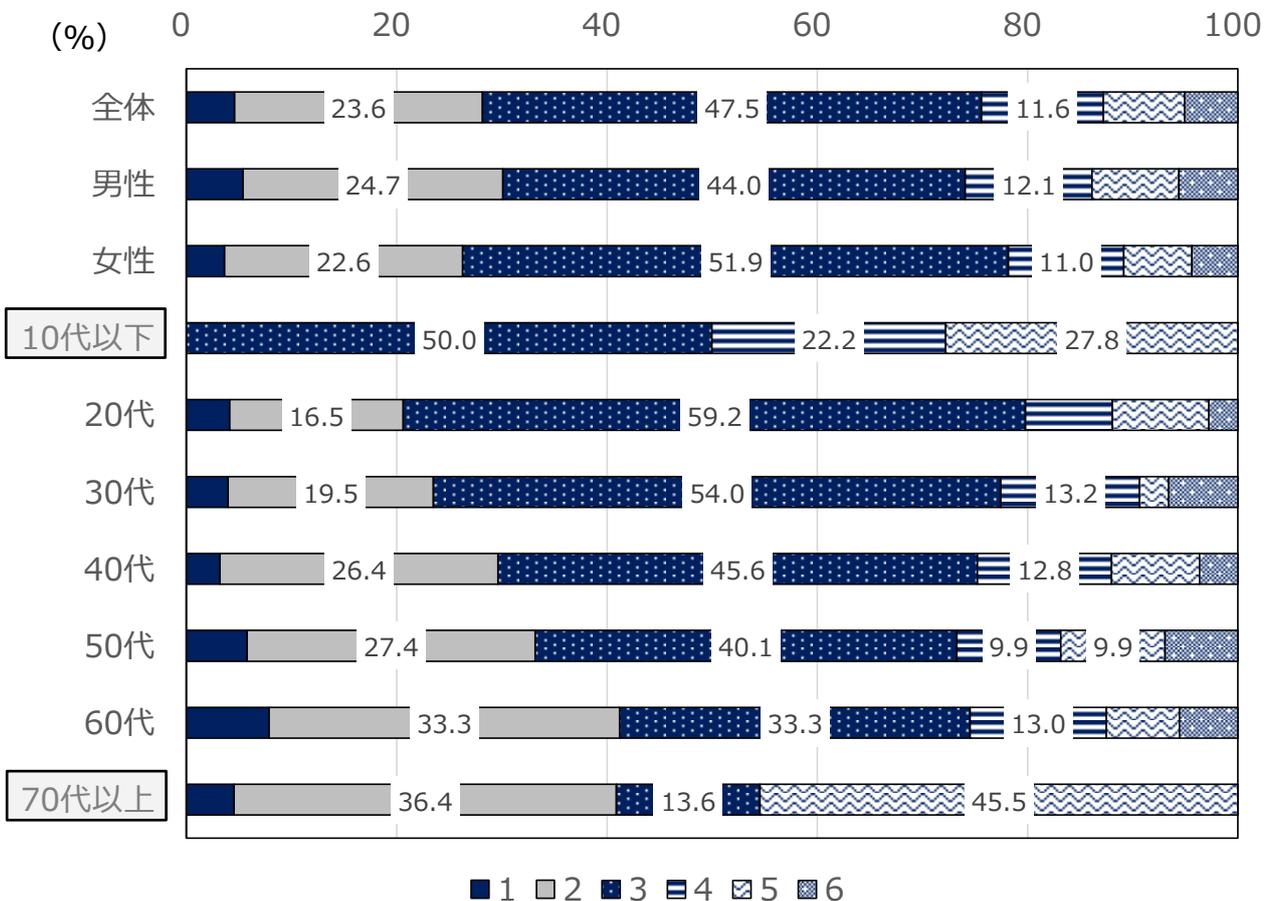
男女共同参画社会を実現するための支援について、全体で「事業所での、柔軟な働き方の取り組み（テレワーク・フレックスタイム制等）、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進」が47.5%で最も高く、次いで「学校教育における、子どもたちへの男女共同参画の意識浸透」が23.6%、「性的・ジェンダーに基づく暴力の根絶」が11.6%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

年代別では、「事業所での、柔軟な働き方の取り組み（テレワーク・フレックスタイム制等）、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進」の割合が最も大きいですが、年代が上がるにつれて小さくなっている。

**【選択肢】**

- 1 男女共同参画を啓発するための講座や研修会の開催
- 2 学校教育における、子どもたちへの男女共同参画の意識浸透
- 3 事業所での、柔軟な働き方の取り組み（テレワーク・フレックスタイム制等）、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進
- 4 性的・ジェンダーに基づく暴力の根絶
- 5 男女共同参画の推進活動を行う団体・協議会等への活動支援
- 6 その他



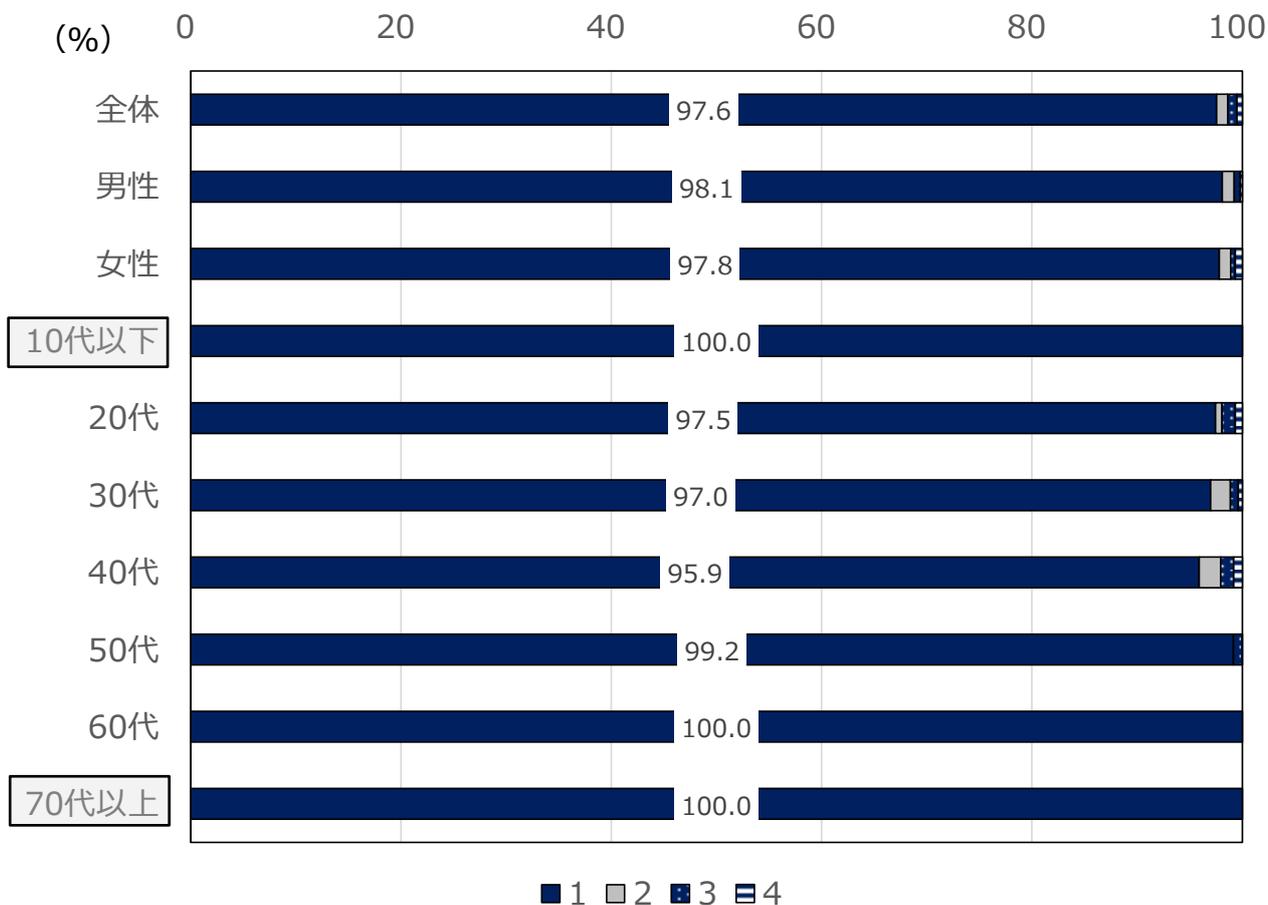
## ⑥ 多文化共生

### Q 1 あなた自身の国籍についてお伺いします。【n=1,027】

国籍については、全体で「日本国籍を持っている（日本人である）」が97.6%で最も高くなっている。性別・年代別においても100%に近い割合となっている。

#### 【選択肢】

- 1 日本国籍を持っている（日本人である）。
- 2 日本以外の国の国籍を持っている（外国人である）。
- 3 答えたくない。
- 4 わからない／上記に当てはまらない。



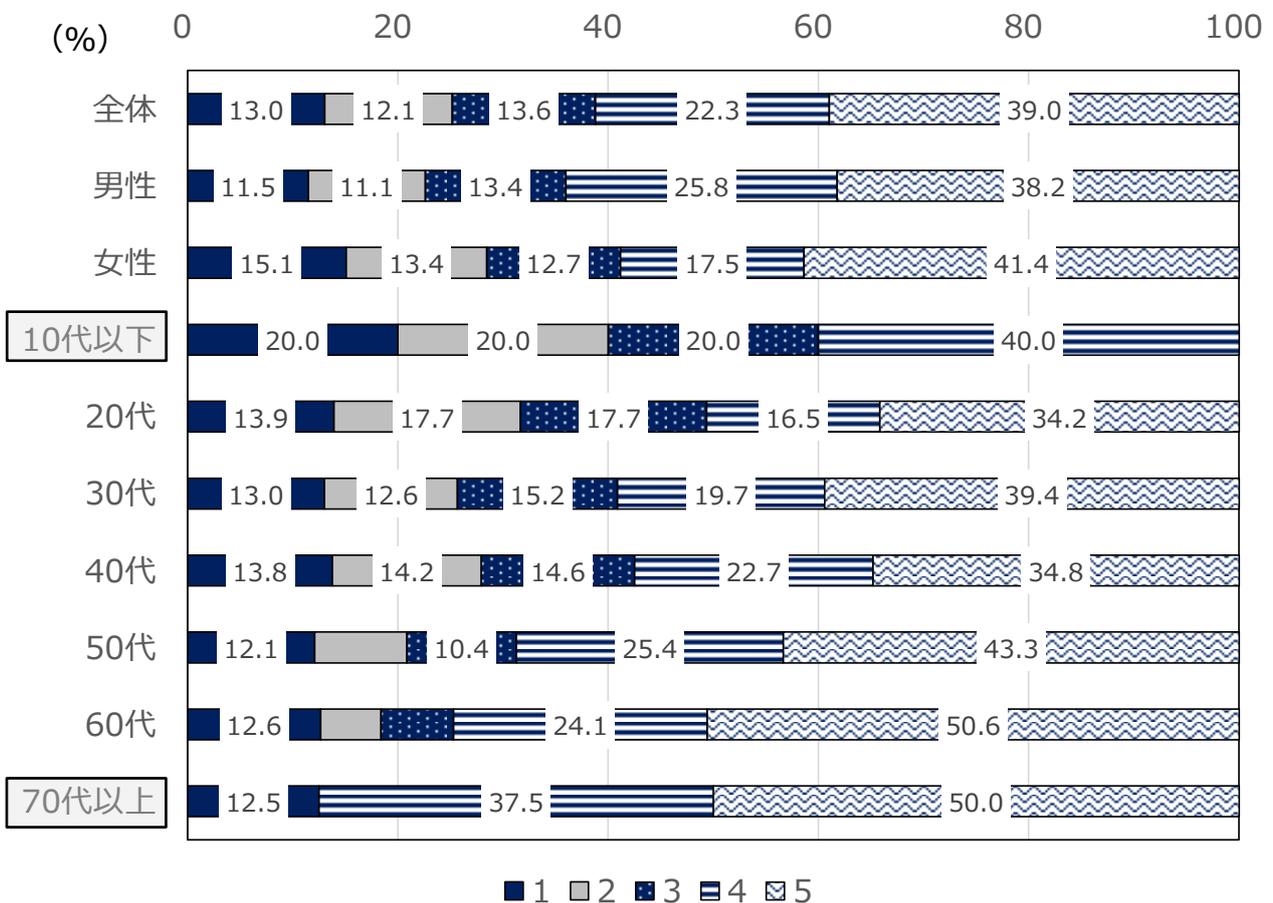
**Q2 現状、外国人／日本人との関わりはどの程度ありますか。（日本人の方は外国人との、外国人の方は日本人との関わりについてお答えください）【n=1,029】**

外国人／日本人との関わりについては、全体で「全く関わらない。」が39.0%で最も高く、次いで「年に何度か関わる。」が22.3%、「月に何度か関わる。」が13.6%となっている。

性別・年代別においても「全く関わらない。」が最も割合の大きい項目となっており、年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向にある。

**【選択肢】**

- 1 ほとんど毎日関わる。
- 2 週に何度か関わる。
- 3 月に何度か関わる。
- 4 年に何度か関わる。
- 5 全く関わらない。



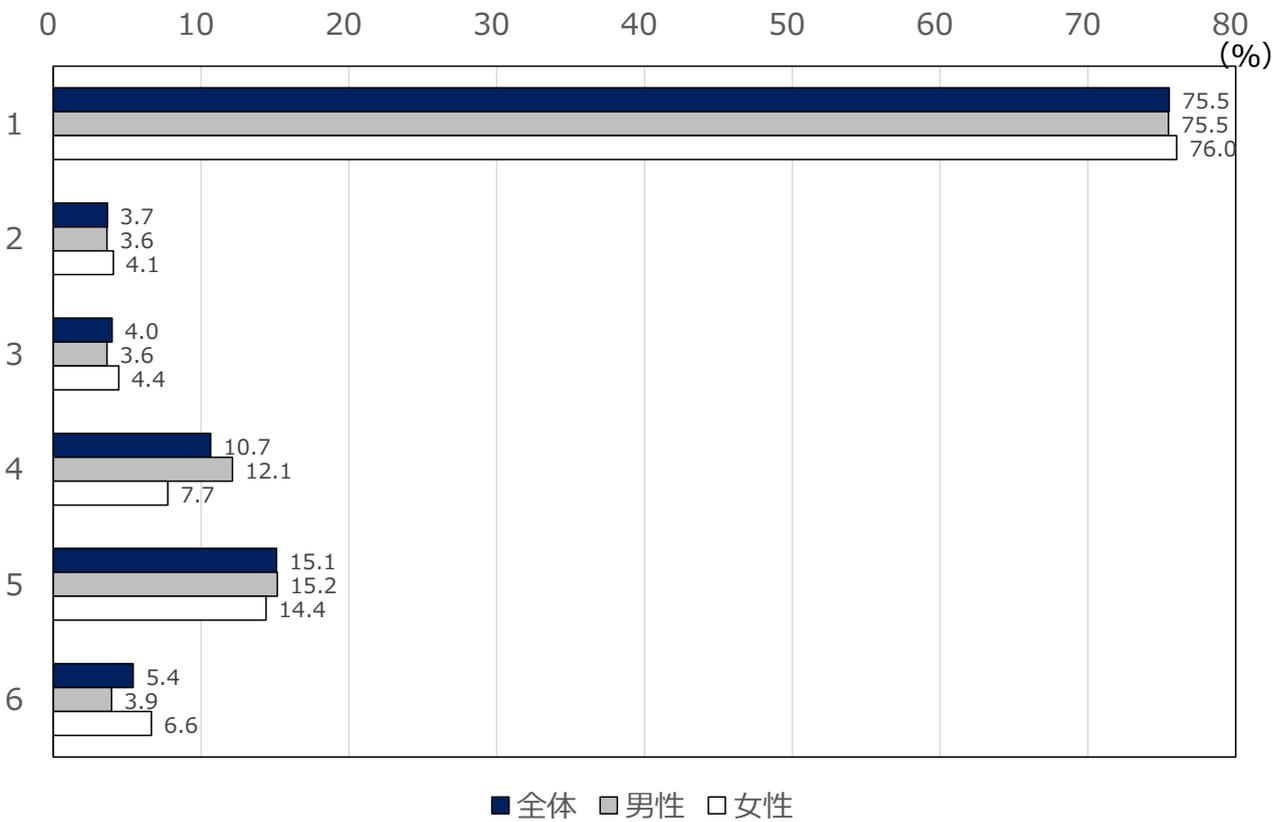
**Q3 Q2で1～4と答えた方に質問します。関わりはどんなところですか。(複数選択可)【n=629】**

外国人／日本人との関わる場所については、全体で「職場／学校」が75.5%で最も高く、次いで「地域コミュニティ／近所付き合い」が15.1%、「趣味のコミュニティ」が10.7%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 職場／学校
- 2 家庭内
- 3 市民活動／ボランティア活動
- 4 趣味のコミュニティ
- 5 地域コミュニティ／近所付き合い
- 6 その他



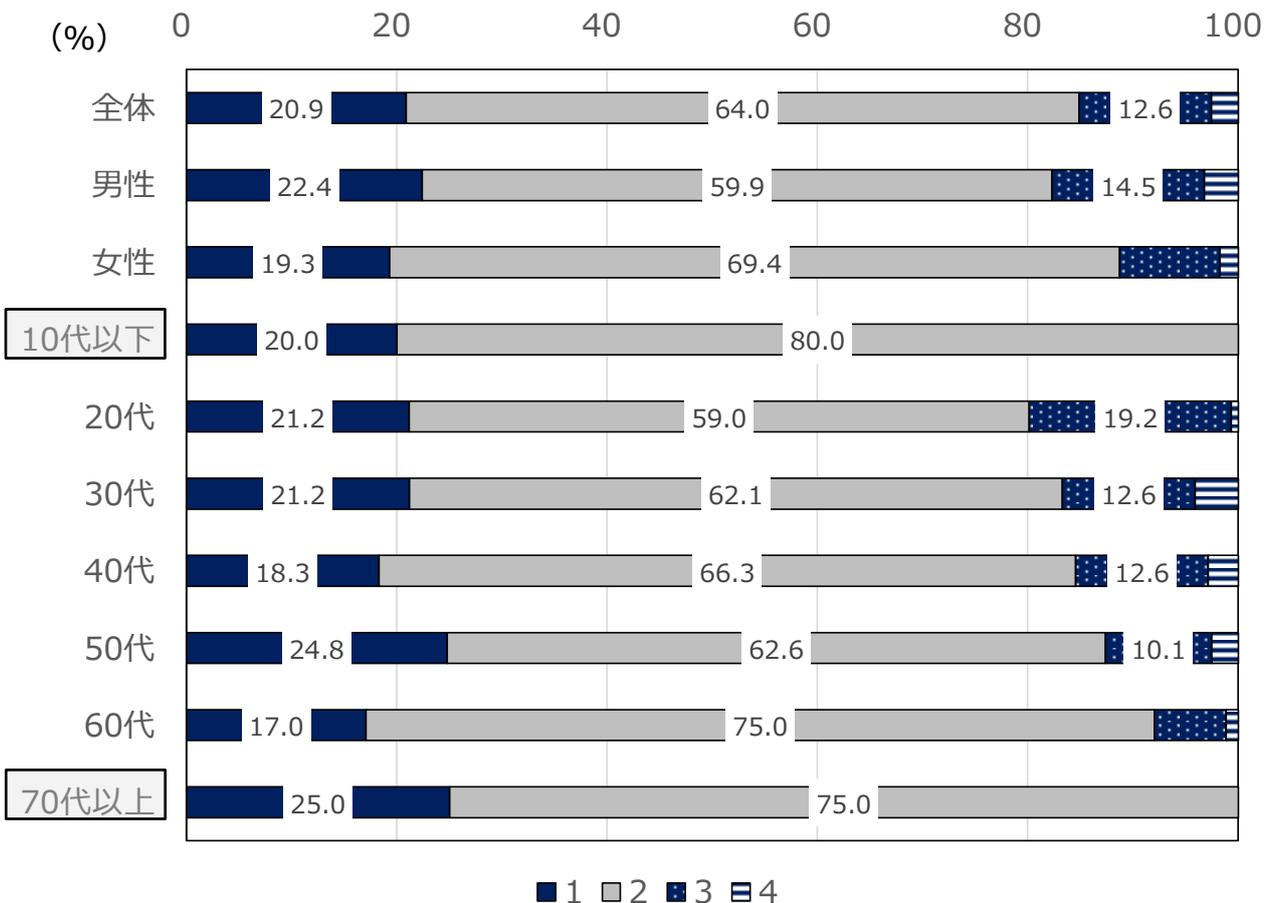
**Q 4 日本人と外国人が暮らすまちとして、あなたが思い描く「30年後の理想の小山市」に最も近いものはどれですか。【n=1,025】**

思い描く日本人と外国人が暮らすまちについては、全体で「日本人、外国人それぞれの違いが尊重され、支え合いながらともに暮らせるまち。」が64.0%で最も高く、次いで「外国人が日本の文化や暮らしにいち早く馴染めるよう、様々な支援が充実しているまち。」が20.9%、「日本人、外国人がそれぞれ別のコミュニティで活発に活動し、必要に応じて交流できるまち。」が12.6%となっている。

性別・年代別を問わず「日本人、外国人それぞれの違いが尊重され、支え合いながらともに暮らせるまち。」が最も割合の大きい項目となっており、性別では男性に比べて女性、年代別では年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向にある。

**【選択肢】**

- 1 外国人が日本の文化や暮らしにいち早く馴染めるよう、様々な支援が充実しているまち。
- 2 日本人、外国人それぞれの違いが尊重され、支え合いながらともに暮らせるまち。
- 3 日本人、外国人がそれぞれ別のコミュニティで活発に活動し、必要に応じて交流できるまち。
- 4 その他



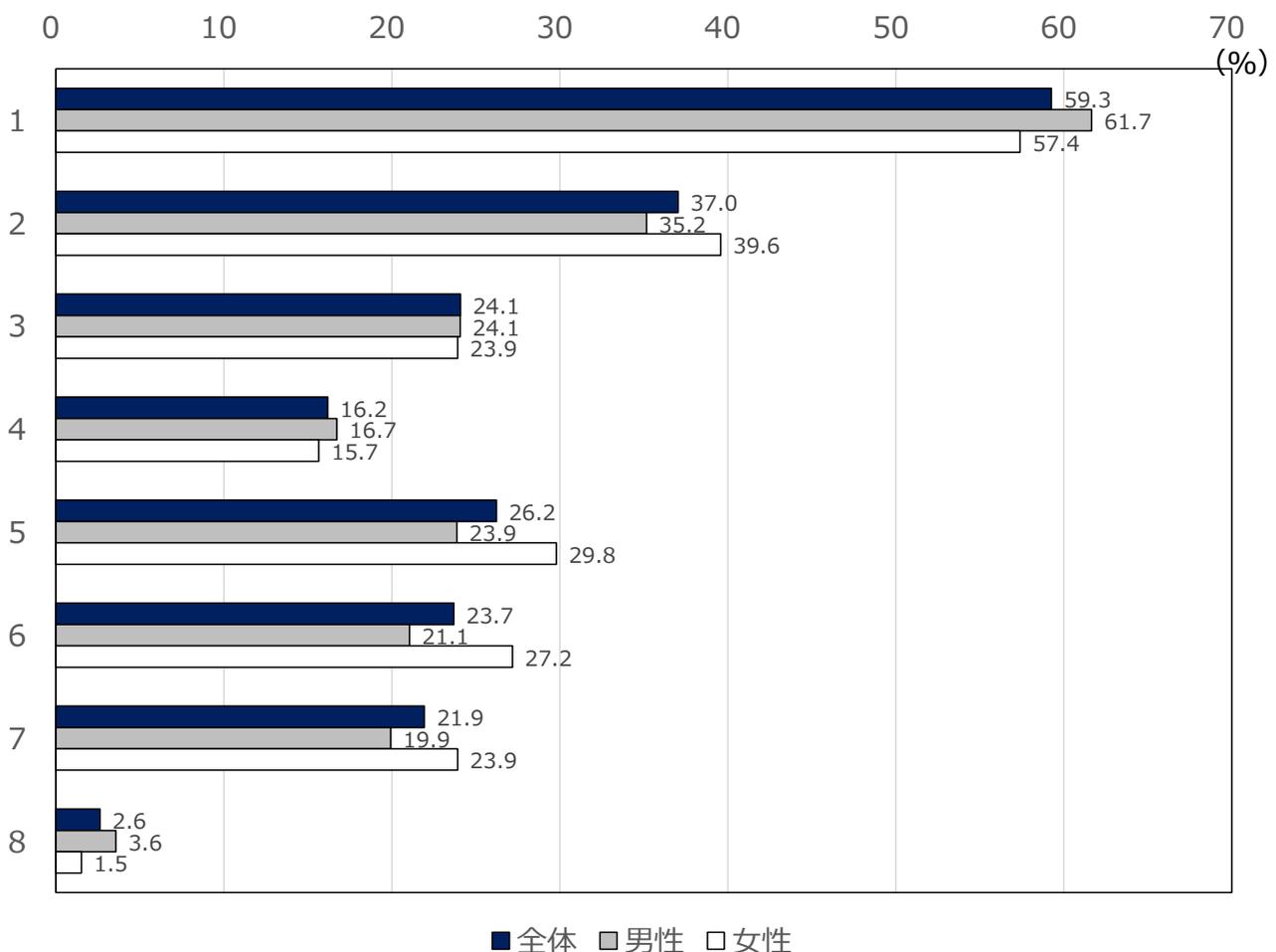
**Q5 理想の姿を実現するために何が重要だと思いますか。(3つまで選択可)【n=1,026】**

日本人と外国人が暮らすまちの理想の姿を実現するために必要なことについては、全体で「外国人住民に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いについて周知する。」が59.3%で最も高く、次いで「日本人住民と外国人住民双方に対し、多文化共生に関する意識啓発を行う。」が37.0%、「外国人住民に対する相談体制や情報提供を充実させる。」が26.2%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 外国人住民に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いについて周知する。
- 2 日本人住民と外国人住民双方に対し、多文化共生に関する意識啓発を行う。
- 3 日本人住民と外国人住民との交流の場をつくる。
- 4 外国人住民が地域活動や市民活動に積極的に参加できるよう、意識啓発や支援を行う。
- 5 外国人住民に対する相談体制や情報提供を充実させる。
- 6 外国人住民の日本語学習を支援するとともに、日本人住民の「やさしい日本語」(外国人にも通じる簡単な日本語)の普及を支援する。
- 7 公共サービスの多言語対応を進める。
- 8 その他



## (9)防犯・防災

### ① 防災

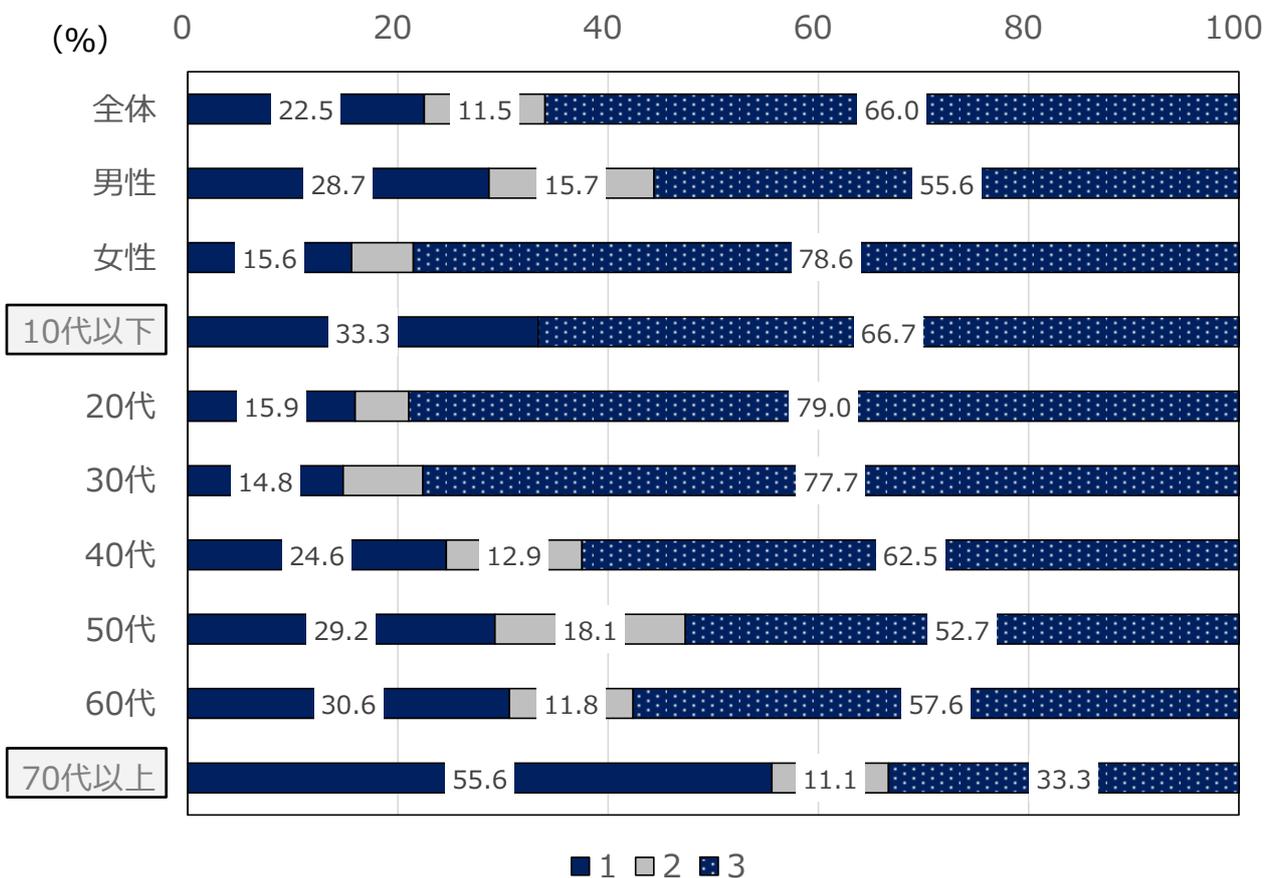
#### Q 1 あなたの地域では、自主防災会はありますか。【n=1,018】

自主防災会については、全体で「自主防災会があるかわからない。」が66.0%で最も高く、次いで「自主防災会がある。」が22.5%、「自主防災会がない。」が11.5%となっている。

性別・年代別を問わず「自主防災会があるかわからない。」が最も割合の大きい項目となっており、性別では男性に比べて女性、年代別では年代が下がるにつれて割合が大きくなる傾向にある。

#### 【選択肢】

- 1 自主防災会がある。
- 2 自主防災会がない。
- 3 自主防災会があるかわからない。



**Q2 Q1で1と答えた方に質問します。あなたは自主防災会に参加していますか。【n=226】**

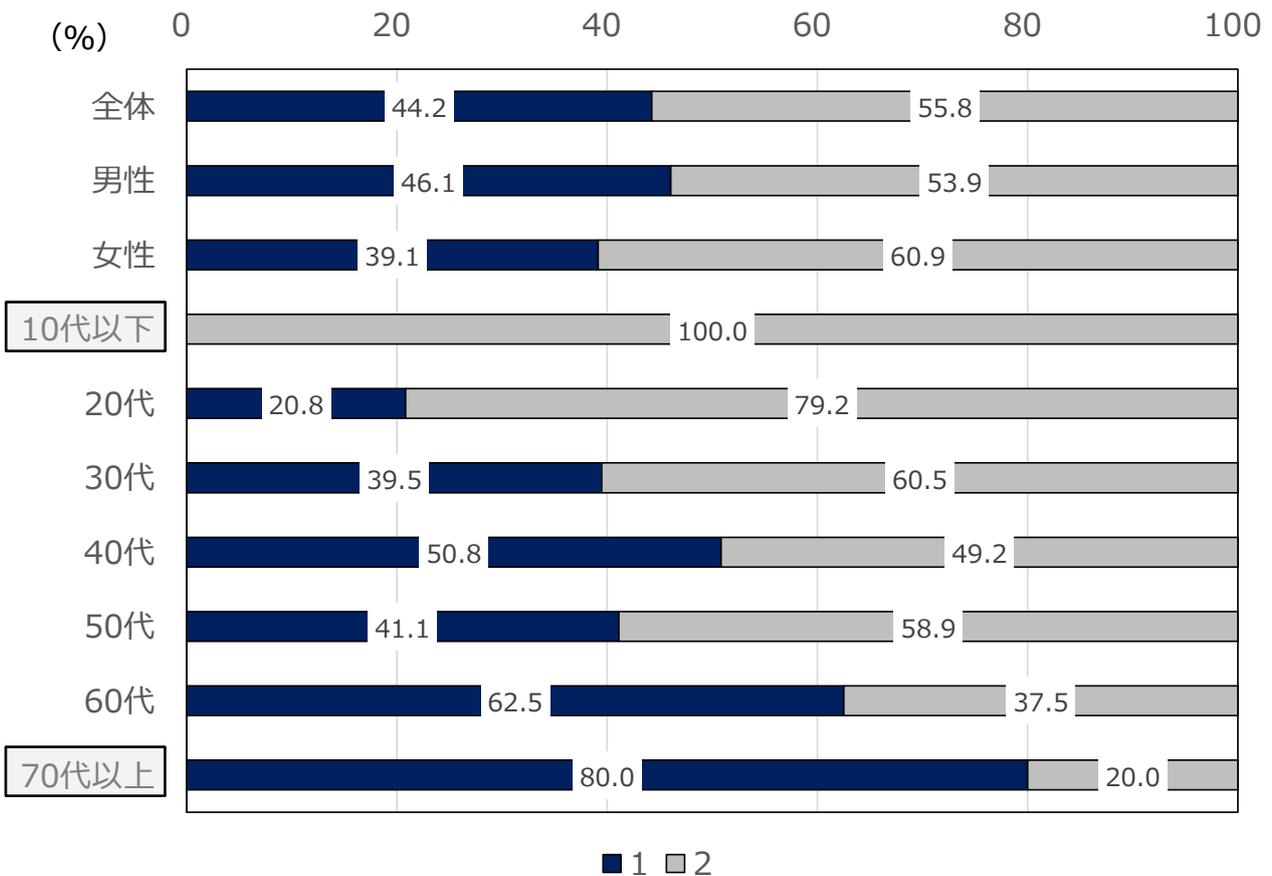
自主防災会への参加については、全体で「参加していない。」が55.8%、「参加している。」が44.2%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

年代別では、「参加していない。」の割合は年代が上がるにつれて小さくなる傾向にある。

**【選択肢】**

- 1 参加している。
- 2 参加していない。



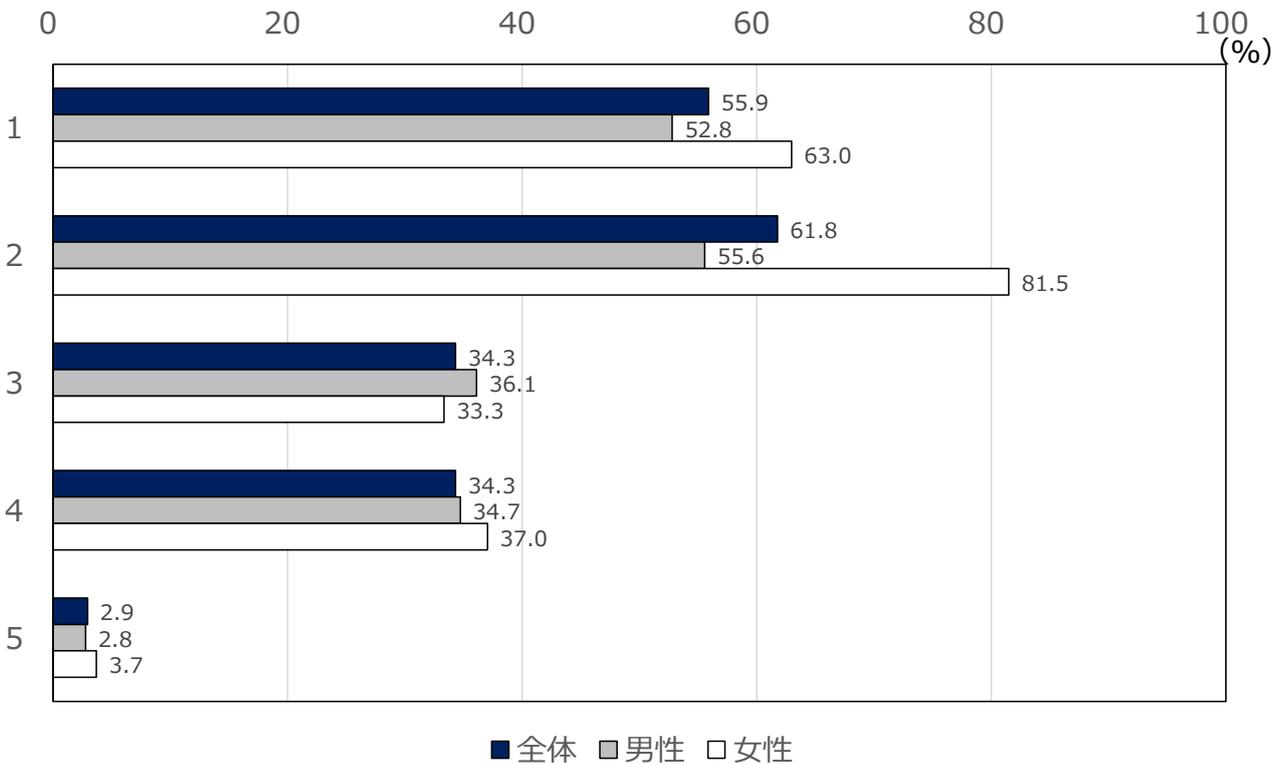
**Q3 Q2で1と答えた方に質問します。あなたが自主防災会に参加している理由を教えてください。  
(複数選択可)【n=102】**

自主防災会に参加している理由については、全体で「災害に備えることは大切だと思うから。」が61.8%で最も高く、次いで「地域の助け合いが大切だと思うから。」が55.9%、「隣近所との交流の一環だと思うから。」及び「自主防災会や自治会などから通知や説明があったから。」が34.3%となっている。

性別では、「災害に備えることは大切だと思うから。」が男性で55.6%である一方、女性で81.5%と高くなっている。

**【選択肢】**

- 1 地域の助け合いが大切だと思うから。
- 2 災害に備えることは大切だと思うから。
- 3 隣近所との交流の一環だと思うから。
- 4 自主防災会や自治会などから通知や説明があったから。
- 5 その他



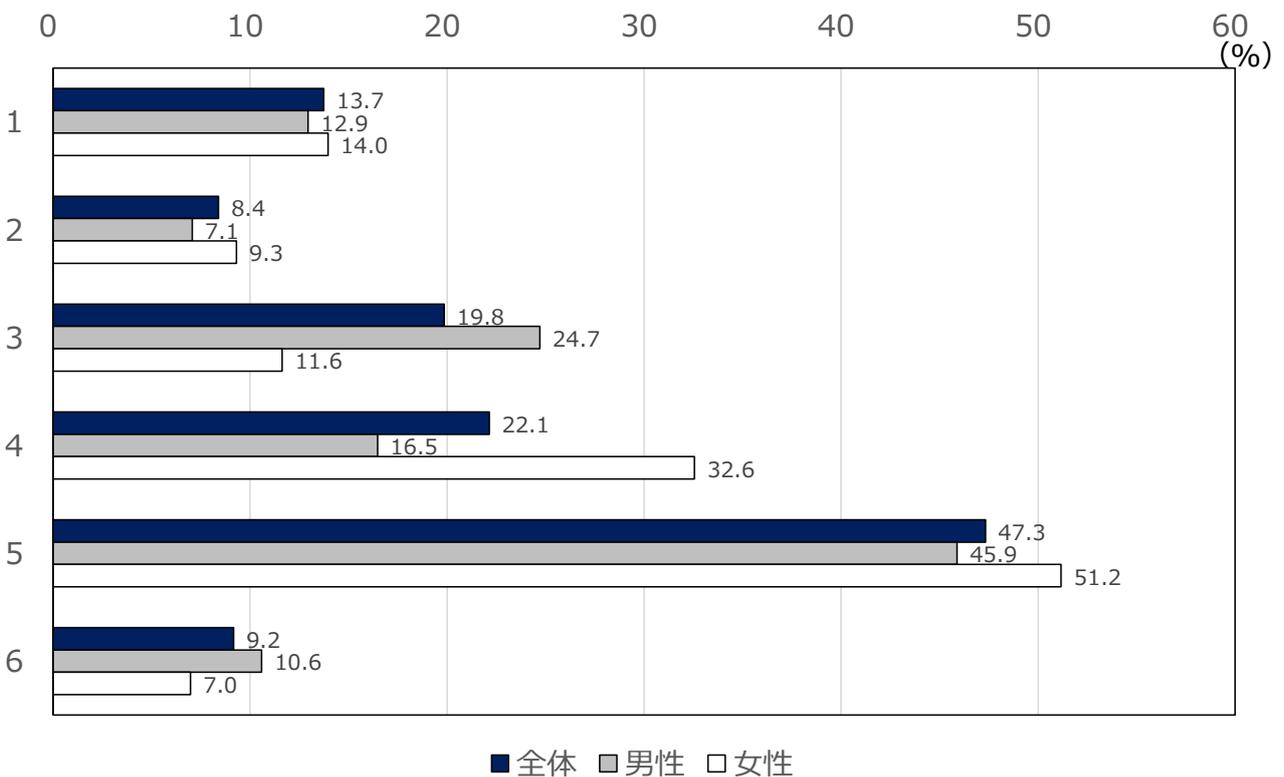
**Q4 Q2で2と答えた方に質問します。あなたが自主防災会に参加していない理由を教えてください。(複数選択可)【n=131】**

自主防災会に参加していない理由については、全体で「仕事や育児などで時間的もしくは精神的な余裕がないから。」が47.3%で最も高く、次いで「活動内容がよく分からないから。」が22.1%、「日頃から隣近所との交流がないから。」が19.8%となっている。

性別では、「活動内容がよく分からないから。」が男性で16.5%である一方、女性で32.6%と高くなっている。

**【選択肢】**

- 1 自分が参加しなくても問題ないと思うから。
- 2 防災についてあまり意識していないから。
- 3 日頃から隣近所との交流がないから。
- 4 活動内容がよく分からないから。
- 5 仕事や育児などで時間的もしくは精神的な余裕がないから。
- 6 その他

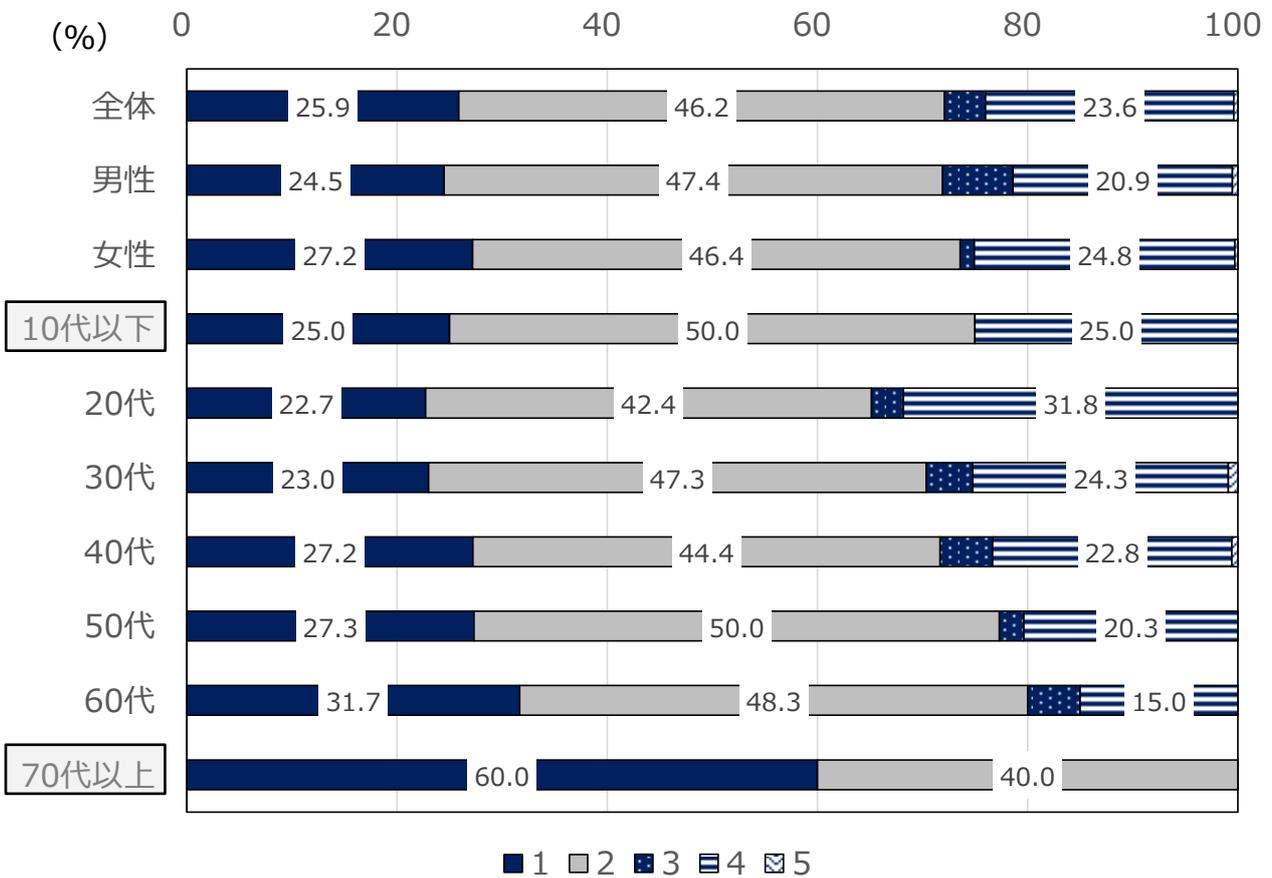


**Q5 Q1で2、3と答えた方に質問します。あなたは自主防災会についてどのように思いますか。【n=792】**

自主防災会への思いについて、全体で「地域で必要性を考えて設立するのがいいと思う。」が46.2%で最も高く、次いで「どの地域にも必要だと思う。」が25.9%、「わからない。」が23.6%となっている。性別・年代別においても同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 どの地域にも必要だと思う。
- 2 地域で必要性を考えて設立するのがいいと思う。
- 3 必要ない。
- 4 わからない。
- 5 その他



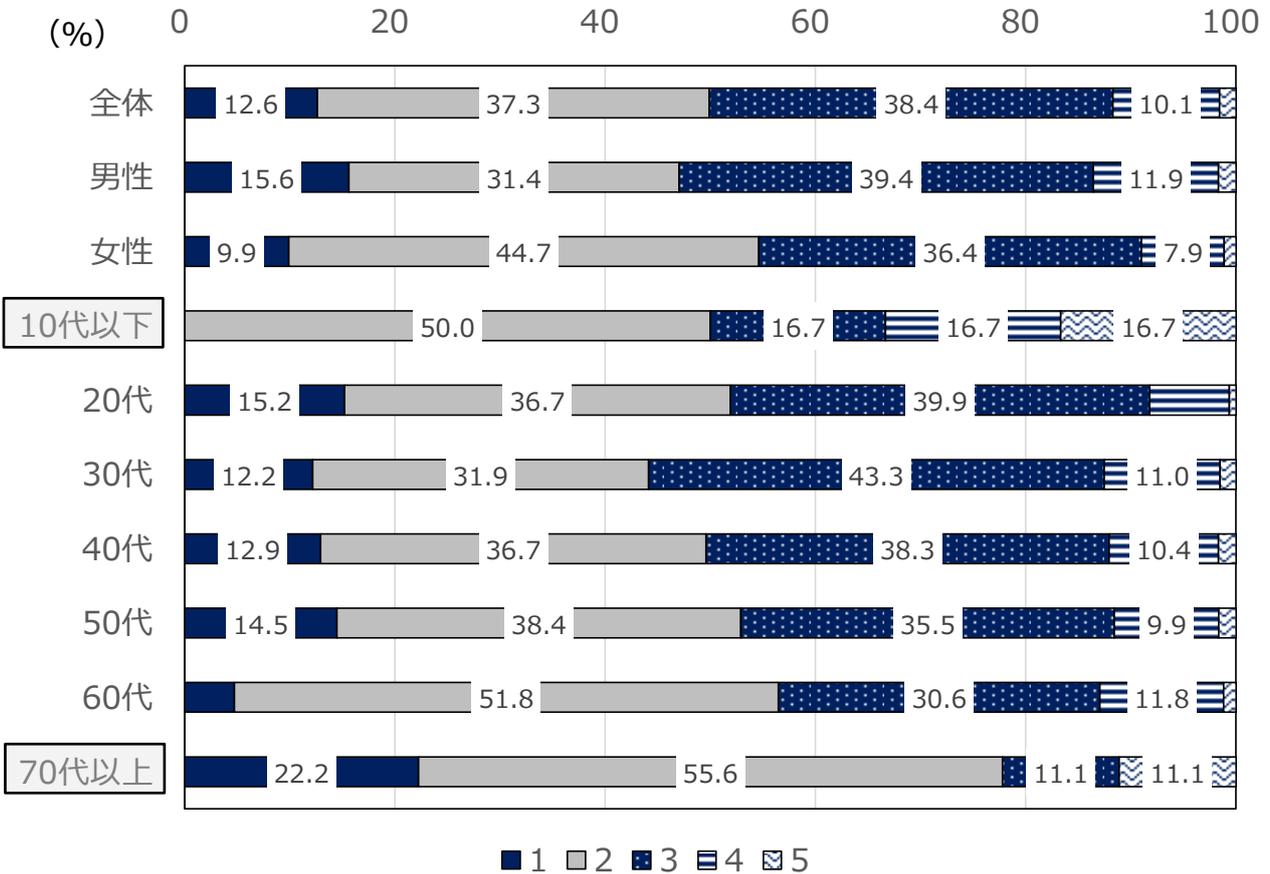
**Q6 あなたは30年後の自主防災会はどのような組織であるべきと思いますか。【n=1,016】**

自主防災会の組織の在り方については、全体で「AIや新たなテクノロジーにより個人の負担や人口減少の影響がなく運営されている組織」が38.4%で最も高く、次いで「地域だけでなく行政と一体で運営されている組織」が37.3%、「現在の体制のまま地域で運営されている組織」が12.6%となっている。

性別では、「地域だけでなく行政と一体で運営されている組織」が男性に比べて女性で高く、年代別では60代で高くなっている。

**【選択肢】**

- 1 現在の体制のまま地域で運営されている組織
- 2 地域だけでなく行政と一体で運営されている組織
- 3 AIや新たなテクノロジーにより個人の負担や人口減少の影響がなく運営されている組織
- 4 当たり前のよう助け合いの意識があることからあえて設立する必要がない組織
- 5 その他



## ② 防犯

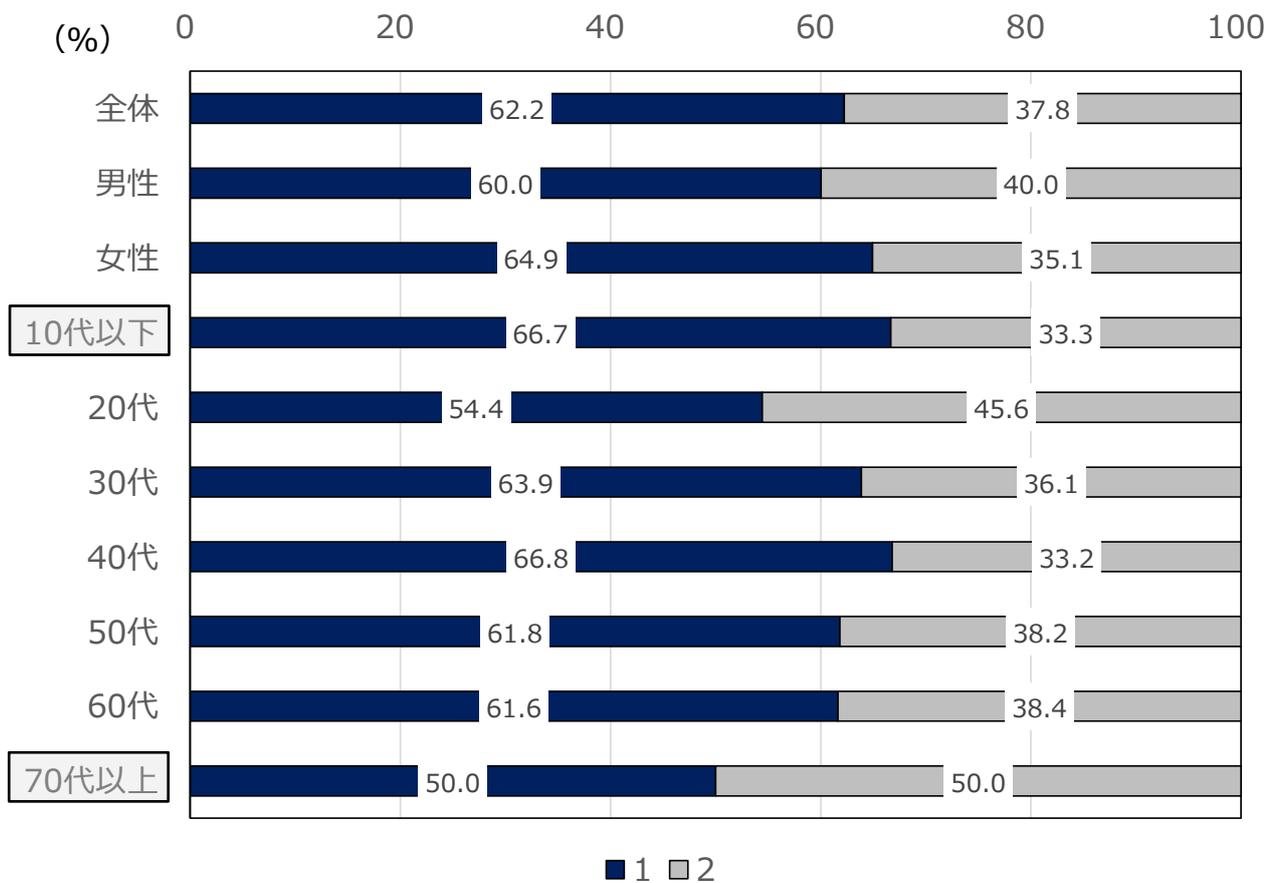
### Q 1 現状、市内で防犯の取り組みが行き届いていないと感じる場所がありますか。【n=1,014】

防犯が行き届いていないと感じる場所の有無については、全体で「ある。」が62.2%、「ない。」が37.8%となっている。

性別・年代別を問わず「ある。」が過半数を超えており、6割前後となっている。

#### 【選択肢】

- 1 ある。
- 2 ない。



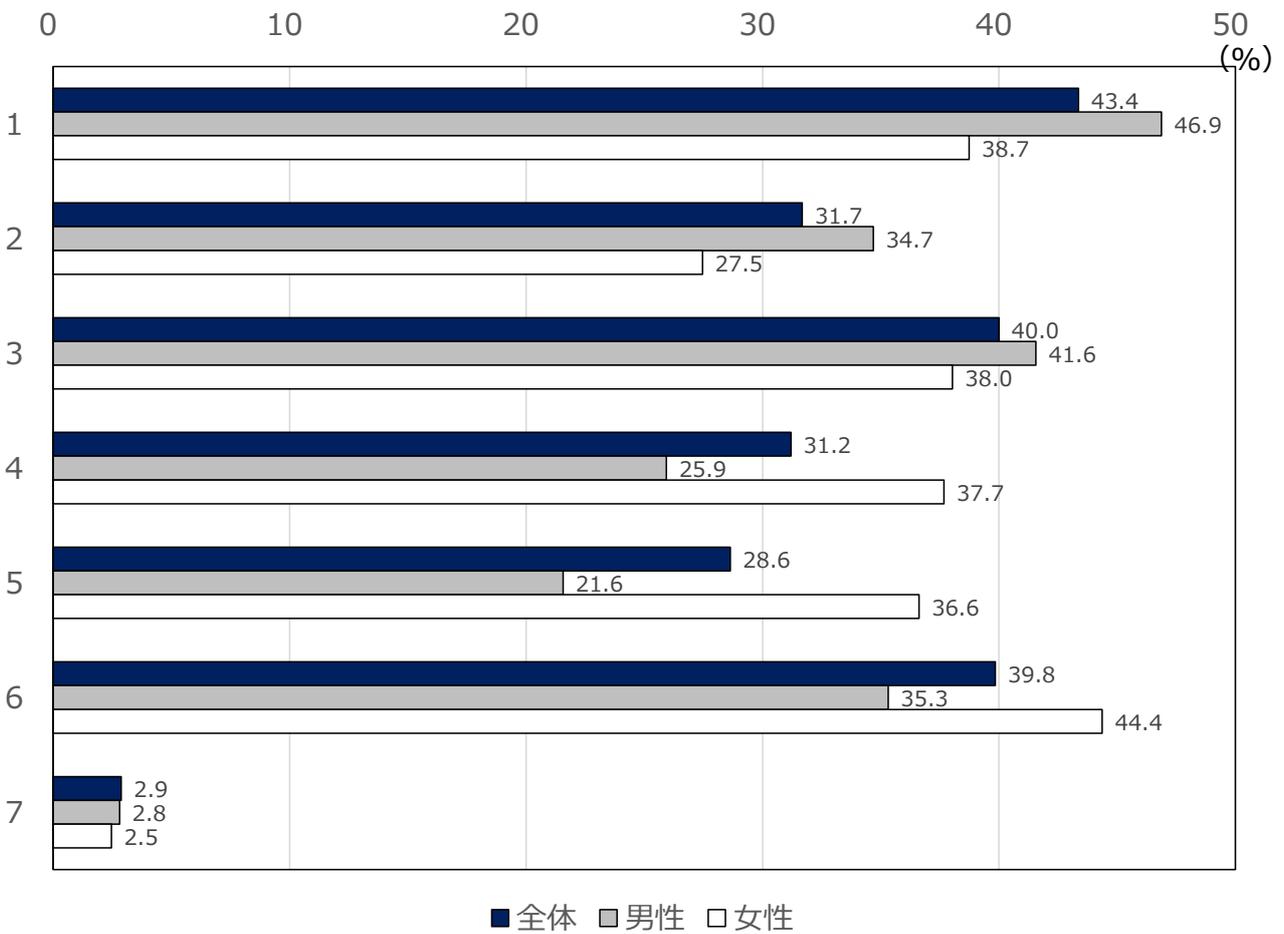
**Q2 Q1で1と回答した方に質問します。それはどこですか。(複数選択可)【n=625】**

防犯が行き届いていないと感じる場所については、全体で「駅周辺」が43.4%で最も高く、次いで「郊外」が40.0%、「住宅地」が39.8%となっている。

性別では、「通学路」及び「公園」は男性に比べて女性の割合が大きくなっている。

**【選択肢】**

- 1 駅周辺
- 2 市街地
- 3 郊外
- 4 通学路
- 5 公園
- 6 住宅地
- 7 その他



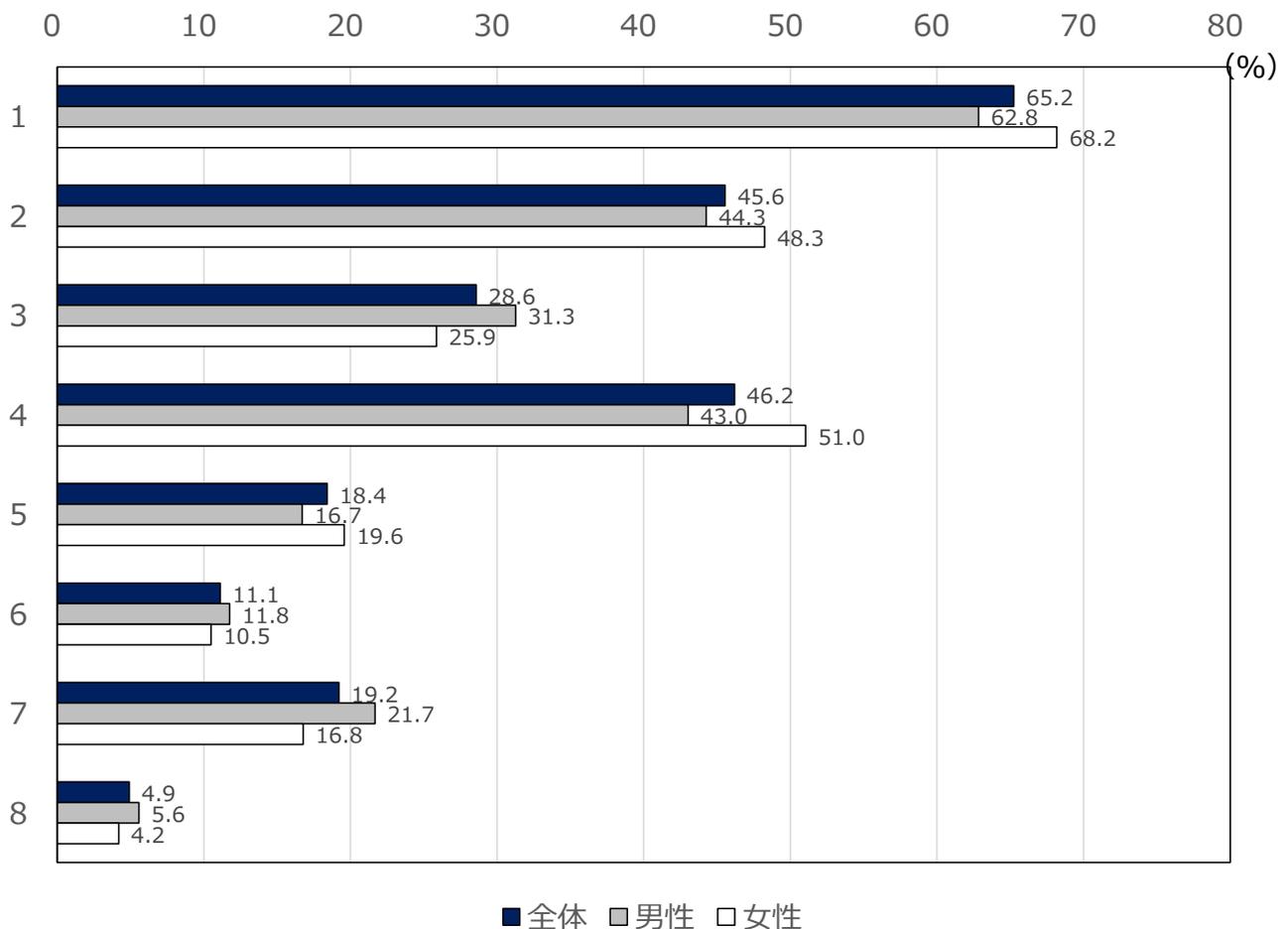
**Q3 Q2で回答した場所について、防犯に関してどのようなことが行き届いていないと思いますか。  
 (複数選択可)【n=630】**

防犯に関して行き届いていないことについては、全体で「明かりが少なく、夕方から夜間にかけて十分な明るさが確保できていない」が65.2%で最も高く、次いで「人通りが少ない場所の防犯対策が十分でない」が46.2%、「人の目の死角となる場所が多い」が45.6%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 明かりが少なく、夕方から夜間にかけて十分な明るさが確保できていない
- 2 人の目の死角となる場所が多い
- 3 落書きやビラ、ゴミの投棄が目立つ
- 4 人通りが少ない場所の防犯対策が十分でない
- 5 不審者や情報の共有や、防犯の意識を啓発する掲示等が十分でない
- 6 周辺住民や店舗、企業等の防犯意識が十分でない
- 7 少年等の溜まり場となっている場所が多い
- 8 その他

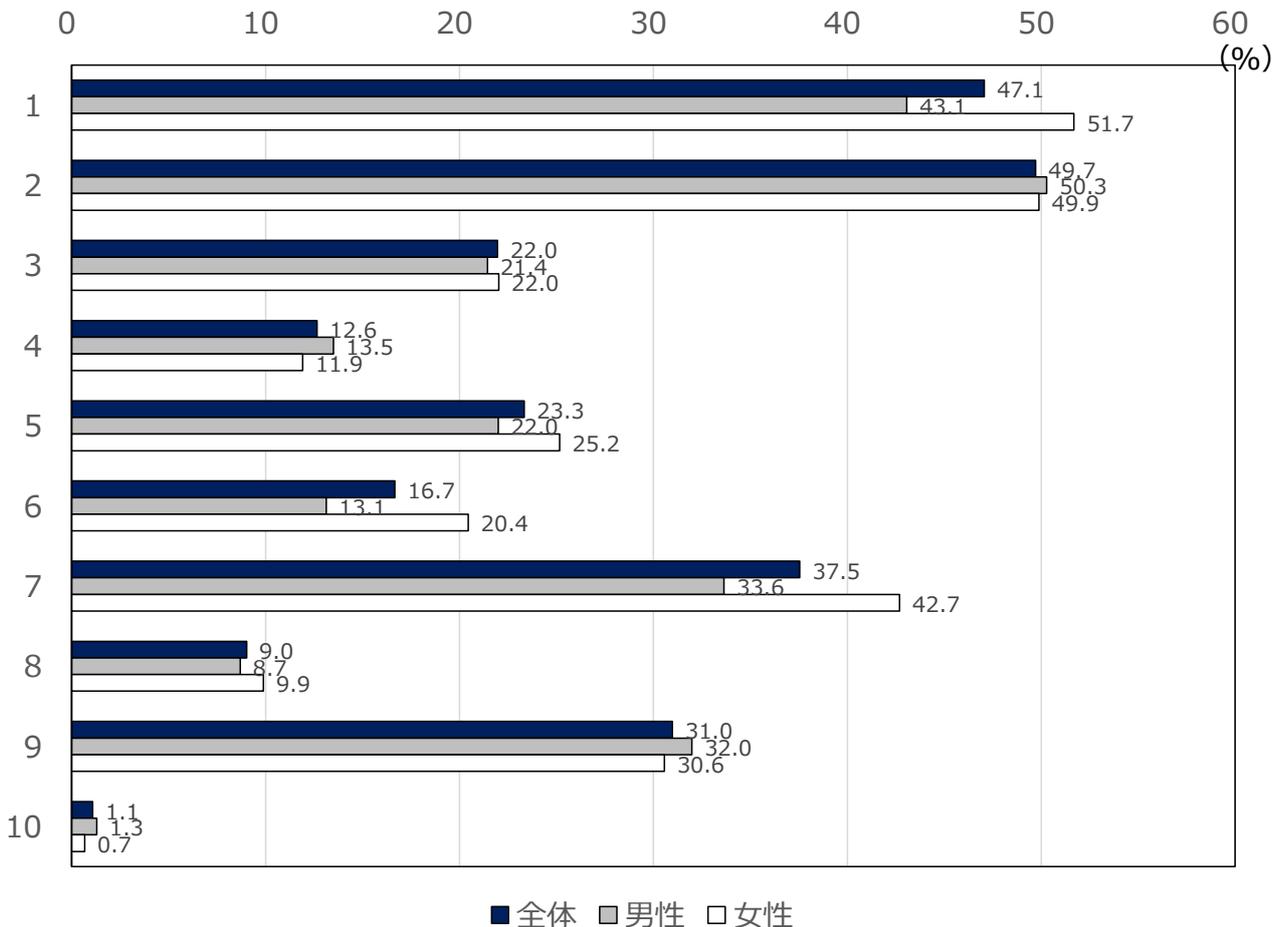


**Q 4 30年後犯罪の無いまちを目指す上で、あなたが行政に期待する防犯の取り組みはどれですか。(特に重要と思うものを3つ選択してください)【n=1,020】**

行政に期待する防犯の取り組みについては、全体で「防犯カメラの設置費用の補助」が49.7%で最も高く、次いで「防犯灯の設置」が47.1%、「防犯を意識した景観・まちづくり」が37.5%となっている。男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- |                         |                                     |
|-------------------------|-------------------------------------|
| 1 防犯灯の設置                | 6 子どもや女性、障がい者、高齢者等の社会的弱者を守る啓発や取り組み  |
| 2 防犯カメラの設置費用の補助         | 7 防犯を意識した景観・まちづくり                   |
| 3 地域のパトロール活動への関与・補助     | 8 青少年に対する自分や他者の生命・財産を尊重するための教育活動の推進 |
| 4 まちの環境浄化活動（ビラ剥がしや清掃など） | 9 警察、地域、企業との連携                      |
| 5 不審者情報の共有              | 10 その他                              |



### ③ 犯罪被害者支援等

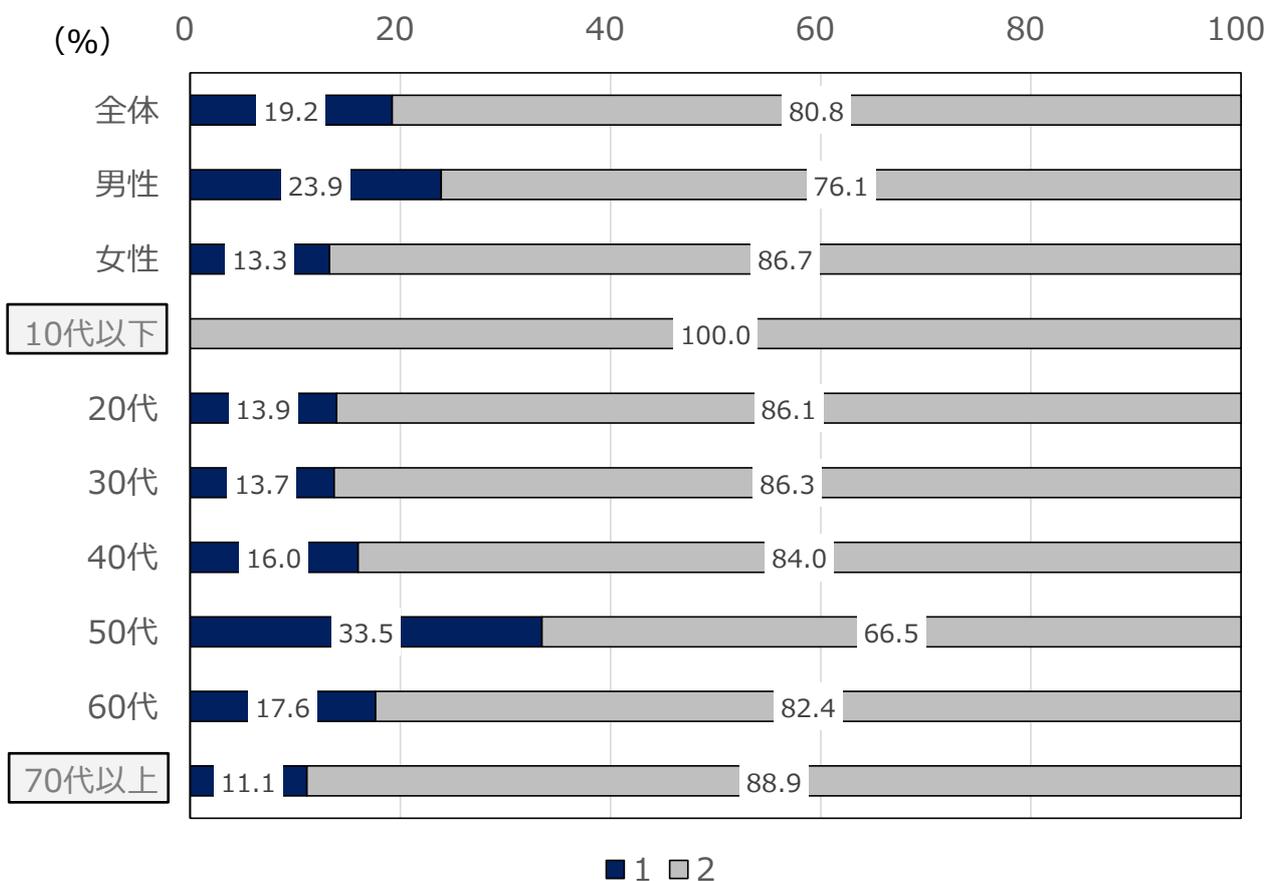
#### Q 1 あなたは「小山市犯罪被害者等支援条例」について知っていますか。【n=1,015】

「小山市犯罪被害者等支援条例」を知っているかについては、全体で「知らない。」が80.8%、「知っている。」が19.2%となっている。

性別・年代別を問わず「知らない。」が半数を大きく超えているが、50代では「知っている。」の項目がやや高い。

#### 【選択肢】

- 1 知っている。
- 2 知らない。



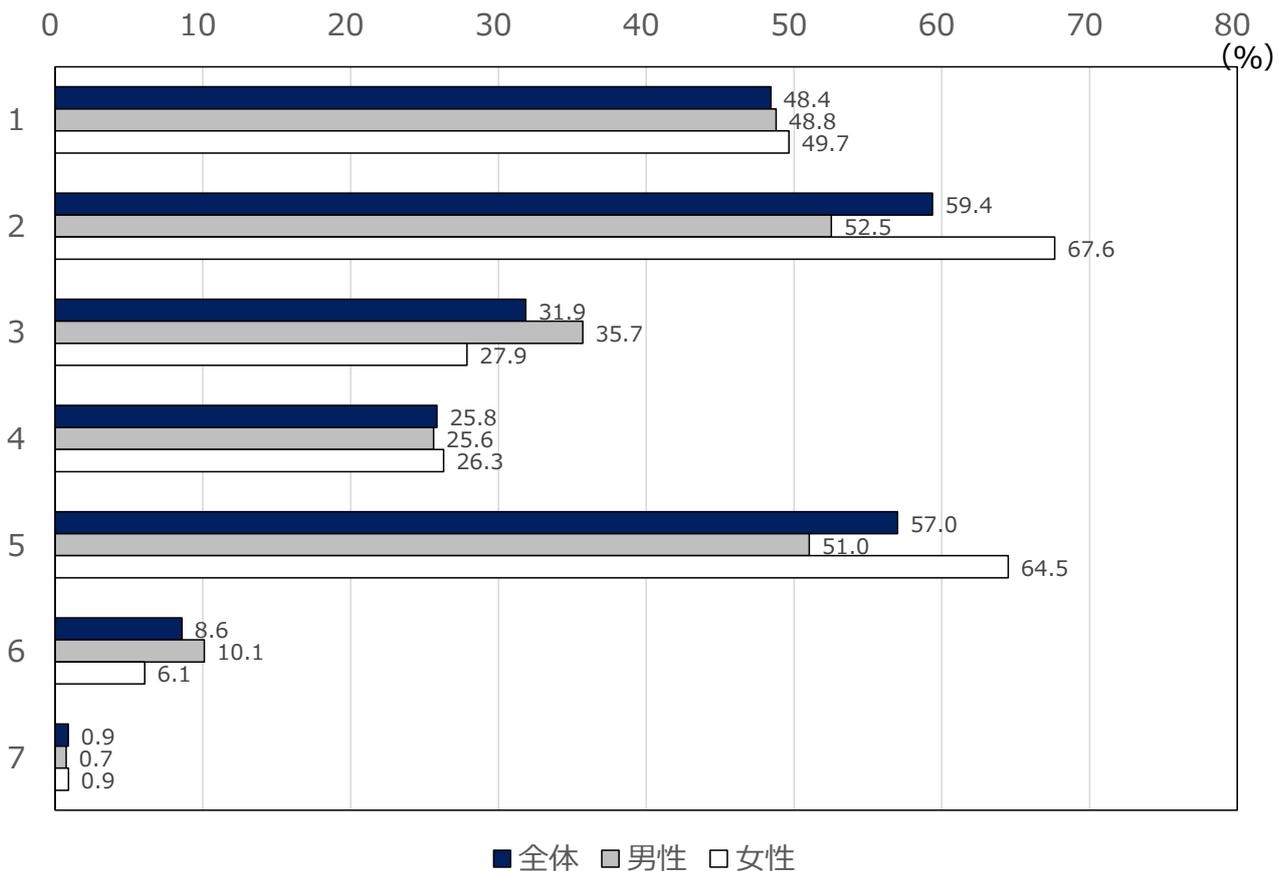
**Q2 犯罪被害者やその家族等においては、犯罪による生命・身体・財産等の直接的被害の他に、周囲の者の理解や配慮に欠ける言動、風評、誹謗中傷、インターネットでの拡散、報道機関による過剰な取材等による精神的苦痛、身体の不調、名誉毀損、私生活の平穩の侵害、経済的な損失等の二次的被害に遭われることがあります。犯罪被害者等に対してもっと行うべきと思う取り組みはありますか。(複数選択可)【n=1,014】**

犯罪被害者等に対して行うべき取り組みについては、全体で「相談・カウンセリング等の心理的支援」が59.4%で最も高く、次いで「個人情報の保護」が57.0%、「治療費や裁判費用および収入減に対する経済的支援」が48.4%となっている。

別では、「相談・カウンセリング等の心理的支援」及び「個人情報の保護」は男性に比べて女性の割合が大きくなっている。

**【選択肢】**

- |                           |               |
|---------------------------|---------------|
| 1 治療費や裁判費用および収入減に対する経済的支援 | 4 事件に関する情報の提供 |
| 2 相談・カウンセリング等の心理的支援       | 5 個人情報の保護     |
| 3 日常生活支援                  | 6 わからない       |
|                           | 7 その他         |



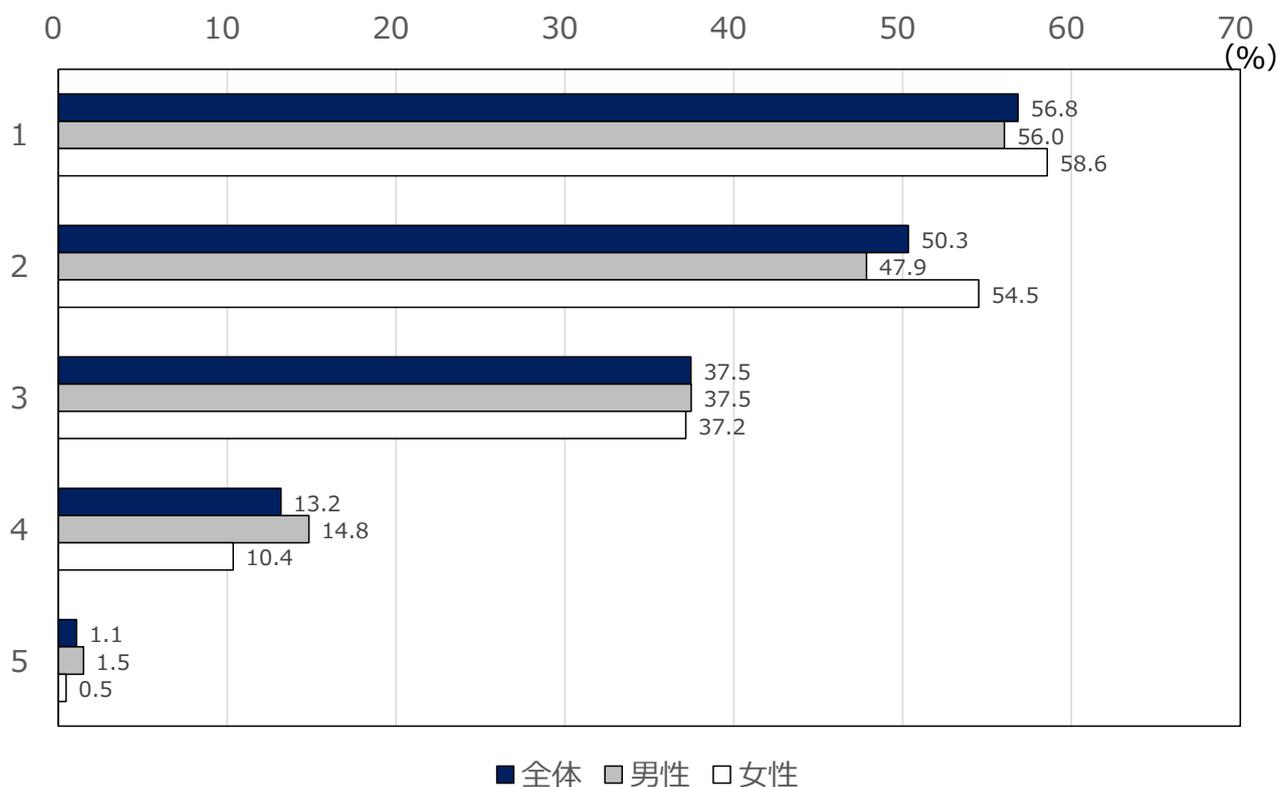
**Q3 犯罪被害者やその家族が適切な支援につながるために、進めるべきと思う取り組みはありますか。（複数選択可）【n=1,017】**

犯罪被害者やその家族への支援のために進めるべき取り組みについては、全体で「相談やカウンセリングの周知促進」が56.8%で最も高く、次いで「オンライン／SNSで相談することができる窓口の整備」が50.3%、「犯罪被害者等が境遇や情報を共有し、支え合うことができるコミュニティの創設」が37.5%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 相談やカウンセリングの周知促進
- 2 オンライン／SNSで相談することができる窓口の整備
- 3 犯罪被害者等が境遇や情報を共有し、支え合うことができるコミュニティの創設
- 4 わからない
- 5 その他



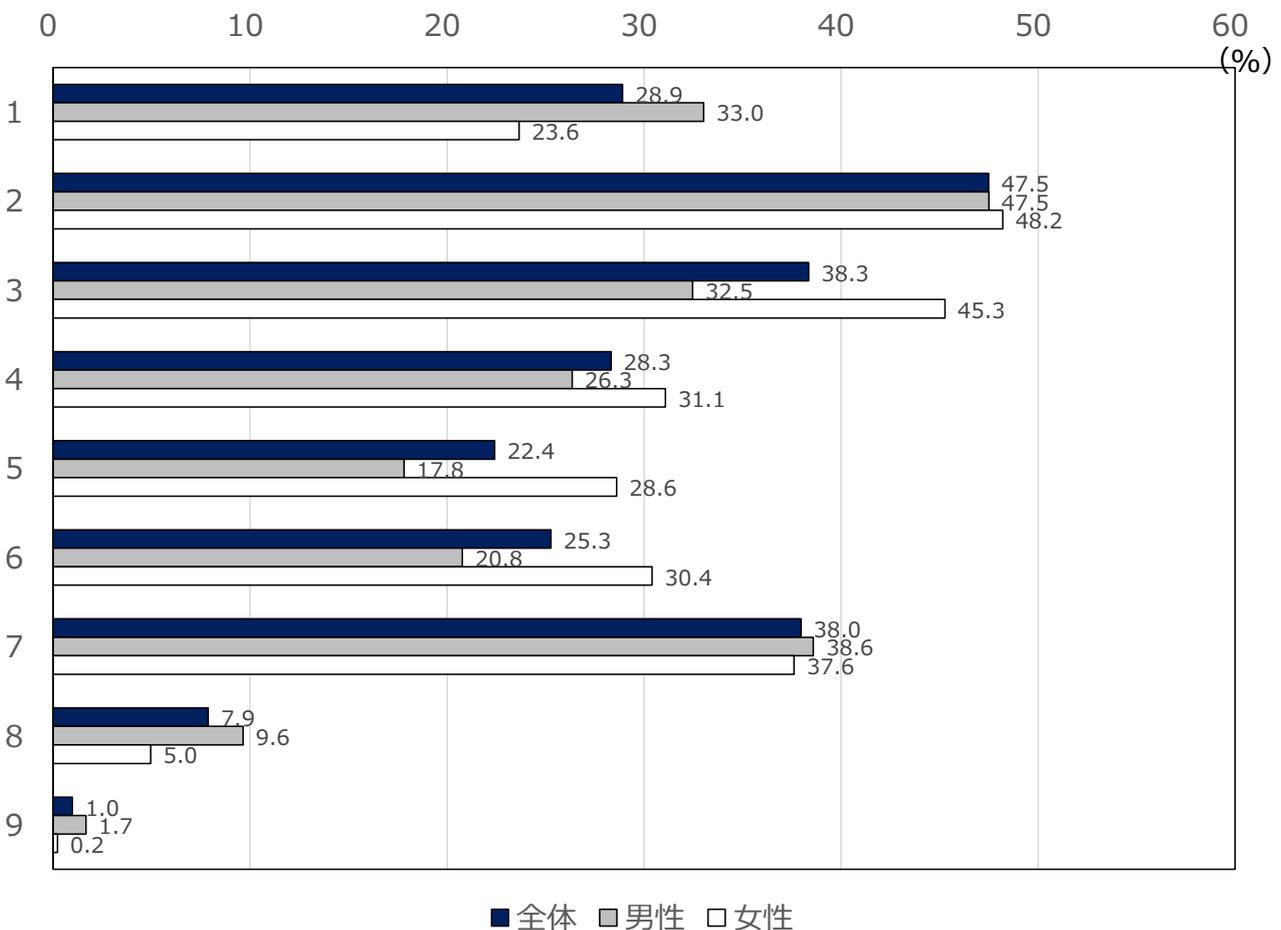
**Q4 今後30年で、現時点では存在しない新たな種類の犯罪が発生する可能性が考えられます。そうした場合を見据え、犯罪被害者やその家族に対する行政の支援は、どのような点を充実させていくべきと考えますか。(特に重要と思うものを3つ選択してください)【n=1,017】**

新たな種類の犯罪の犯罪被害者やその家族に対する行政の支援については、全体で「身体的・精神的被害の治療にかかる経済的負担に対する支援」が47.5%で最も高く、次いで「支援を受けるための手続きの簡素化」が38.3%、「弁護士への相談や裁判を行うための経済的負担に対する支援」が38.0%となっている。

性別では、「財産に対する被害の補填」で男性が高く、「支援を受けるための手続きの簡素化」、「コーディネーター（支援全般を調整・管理する者）等、支援に必要な専門職員の活用」、「二次的被害を防ぐための啓発の強化」で女性が高くなっている。

**【選択肢】**

- |  |                               |
|--|-------------------------------|
| 1 財産に対する被害の補填                            | 6 二次的被害を防ぐための啓発の強化            |
| 2 身体的・精神的被害の治療にかかる経済的負担に対する支援            | 7 弁護士への相談や裁判を行うための経済的負担に対する支援 |
| 3 支援を受けるための手続きの簡素化                       | 8 わからない                       |
| 4 相談やカウンセリングの充実                          | 9 その他                         |
| 5 コーディネーター（支援全般を調整・管理する者）等、支援に必要な専門職員の活用 |                               |



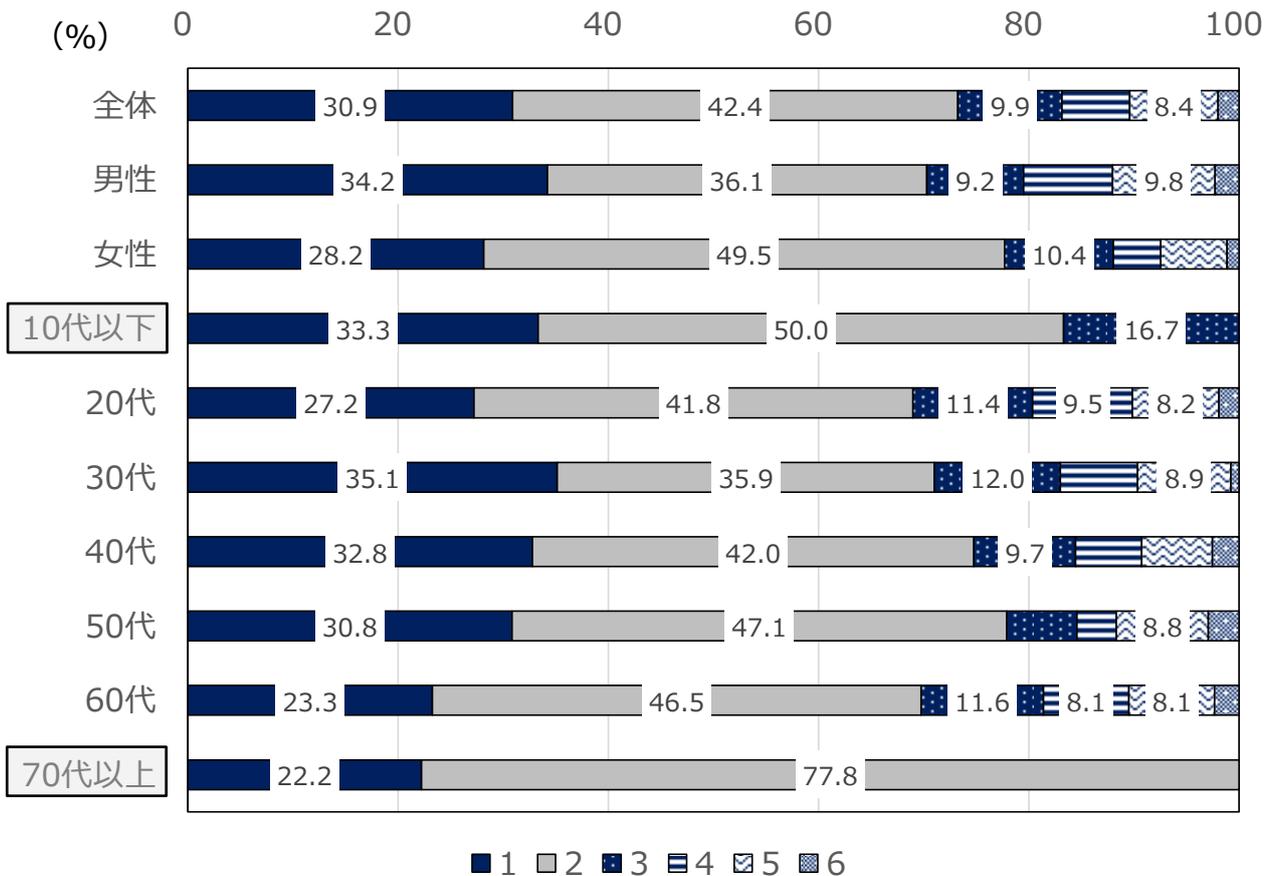
**Q5 犯罪被害者支援の対となるものとして、加害者の社会復帰・再犯防止を目的とした更生支援があげられることがあります。被害者支援及び加害者更生に関して、30年後犯罪の無いまちを目指す上で行政が取るべき方針として、あなたの考えに近いものはどれですか。【n=1,010】**

被害者支援及び加害者更生に関して行政が取るべき方針については、全体で「被害者支援及び加害者更生を両輪とし、バランスを見極めた支援を充実させるべき」が42.4%で最も高く、次いで「加害者更生は最低限とし、犯罪被害者及びその家族への支援をより充実させるべき」が30.9%、「再犯防止のため、加害者の更生に重点的に取り組むべき」が9.9%となっている。

性別・年代別を問わず「被害者支援及び加害者更生を両輪とし、バランスを見極めた支援を充実させるべき」が最も割合の大きい項目となっているが、男性に比べて女性の割合が大きくなっている。

**【選択肢】**

- 1 加害者更生は最低限とし、犯罪被害者及びその家族への支援をより充実させるべき
- 2 被害者支援及び加害者更生を両輪とし、バランスを見極めた支援を充実させるべき
- 3 再犯防止のため、加害者の更生に重点的に取り組むべき
- 4 加害者の更生支援は必要ない
- 5 わからない
- 6 その他



## (10) 公共施設・公共交通

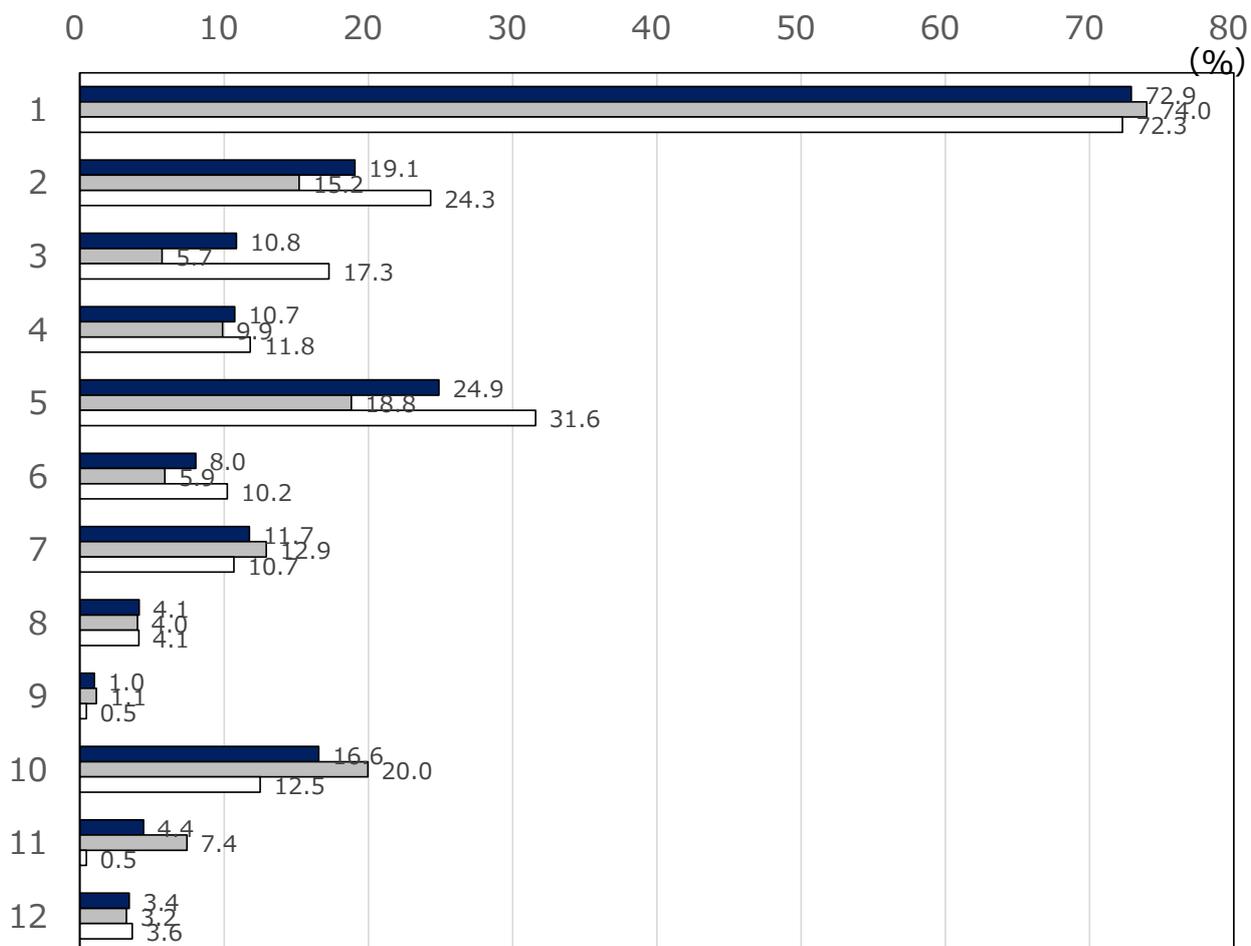
### ① 公共施設

Q 1 よく利用する公共施設（建築物）はどれですか。（複数選択可）【n=996】

よく利用する公共施設については、全体で「市役所、出張所、交流センター」が72.9%で最も高く、次いで「中央図書館、生涯学習センター」が24.9%、「小中学校、義務教育学校、不登校適応指導室」が19.1%となっている。

#### 【選択肢】

- |                                    |   |
|------------------------------------|---|
| 1 市役所、出張所、交流センター                   | 8 旧保健福祉センター、健康医療介護総合支援センター（健康の森 さくら）、ふれあい健康センター、いきいきふれあいセンターなどの福祉施設 |
| 2 小中学校、義務教育学校、不登校適応指導室             | 9 市営住宅  |
| 3 保育所、学童保育館、児童センター                 | 10 公園のトイレ・あずまや  |
| 4 市民会館（文化センター）                     | 11 消防署・分団器具置場   |
| 5 中央図書館、生涯学習センター                   | 12 その他  |
| 6 博物館、美術館、資料館                      |   |
| 7 市立体育館、陸上競技場、野球場、合宿所、弓道場などのスポーツ施設 |   |



■全体 □男性 □女性

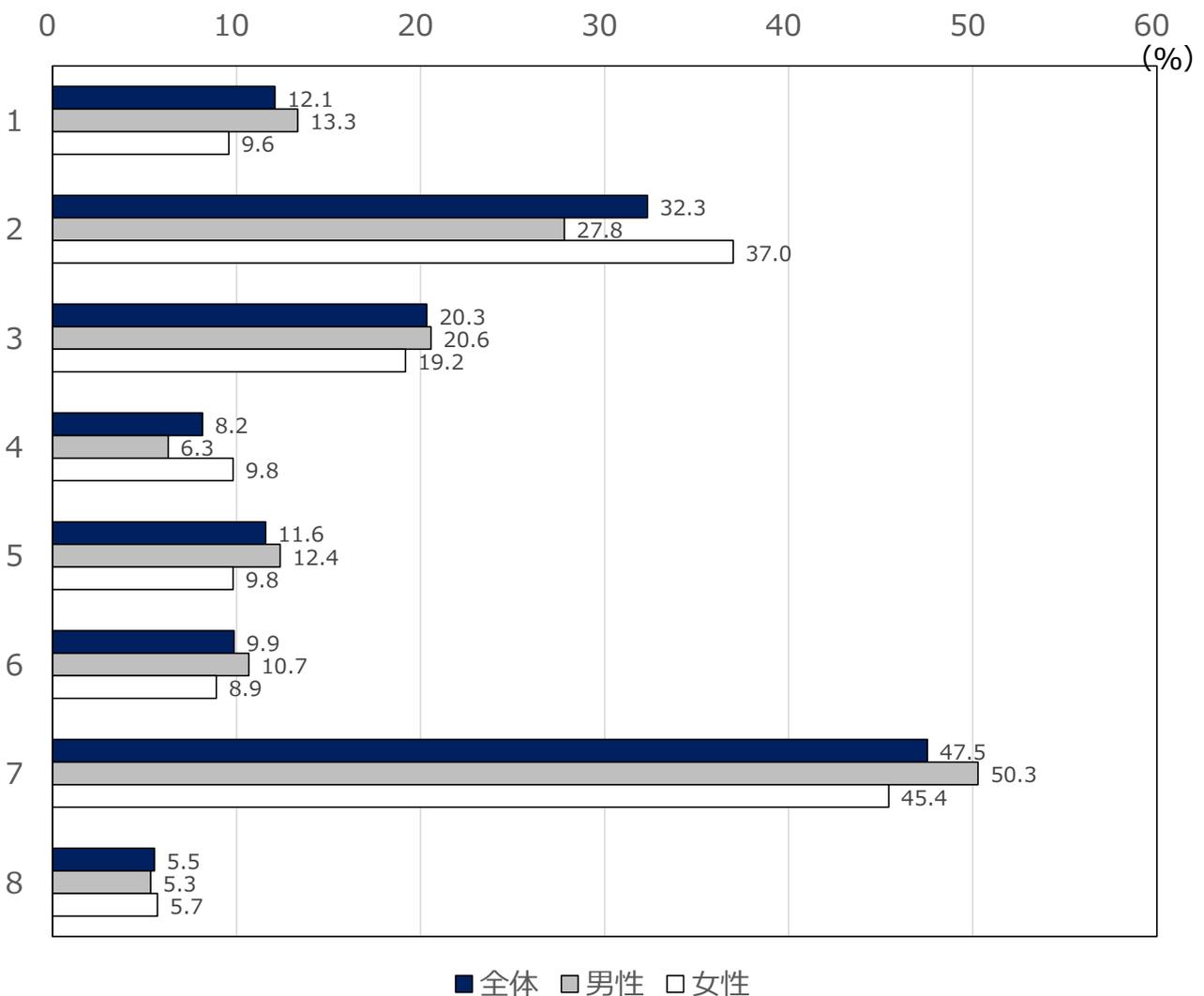
**Q2 Q1で利用している施設について、不満はありますか。(複数選択可)【n=993】**

利用している施設への不満については、全体で「特に不満はない」が47.5%で最も高く、次いで「老朽化が進んでいる、汚い」が32.3%、「器具や設備が古い」が20.3%となっている。

性別では、「老朽化が進んでいる、汚い」が男性で27.8%である一方、女性で37.0%と高くなっている。

**【選択肢】**

- 1 雰囲気が良くない、暗い
- 2 老朽化が進んでいる、汚い
- 3 器具や設備が古い
- 4 バリアフリーとなっていない
- 5 使い勝手が悪い、狭い
- 6 部屋が足りない、予約が取りにくい
- 7 特に不満はない
- 8 その他



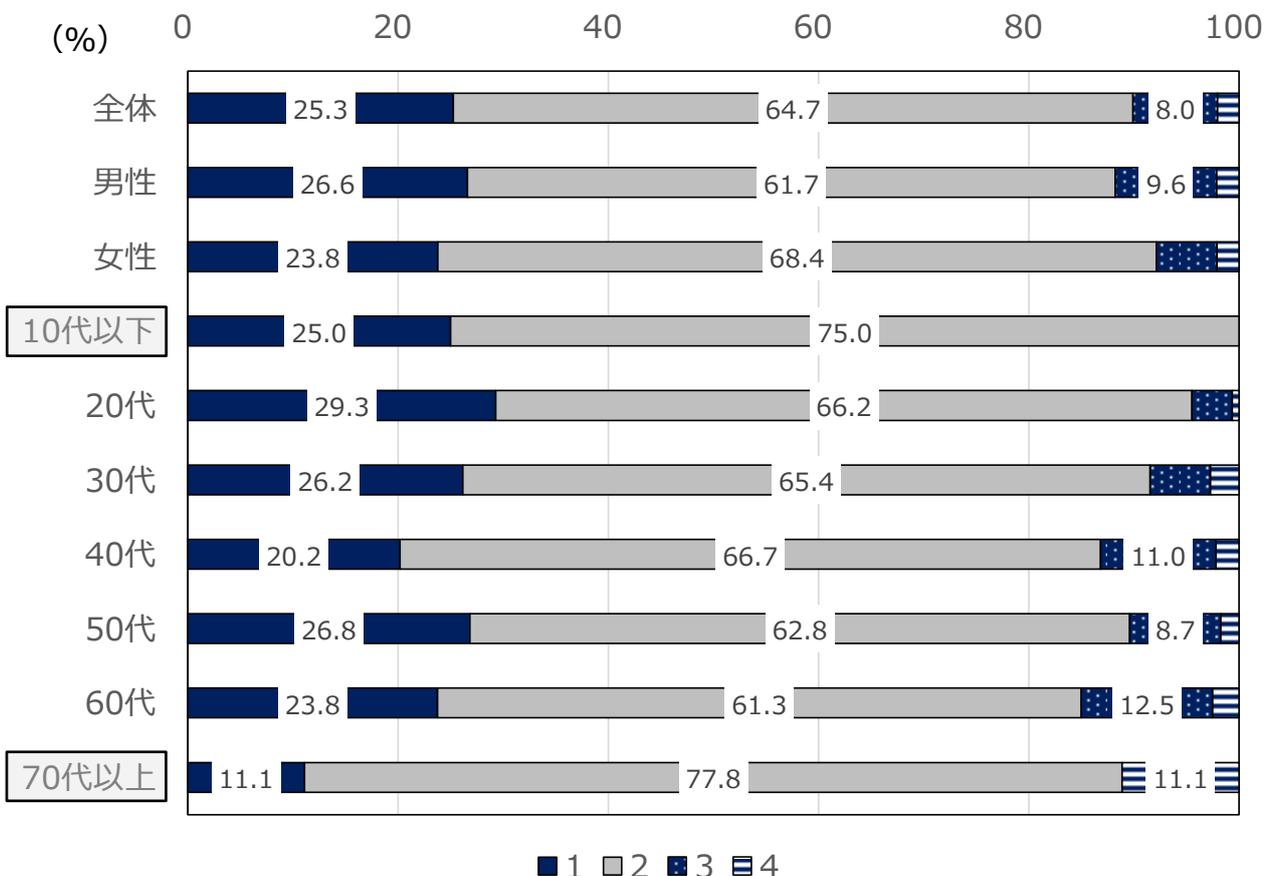
**Q3 Q2で挙げた不満を根本的に解決するには、建替えが必要となる場合があります。近年では、ゼロカーボンの観点から、建築物の省エネルギーを促進する動きが加速しており、ゼロカーボンの実現と建設費（イニシャルコスト）及び維持管理費（ランニングコスト）の抑制をどのように実現していくかが課題となっています。今後30年後を見据えて公共施設を新築・建替えする場合について、どのように考えますか。【n=982】**

公共施設を新築・建替えする場合については、全体で「選択肢2」が64.7%で最も高く、次いで「選択肢1」が25.3%、「選択肢3」が8.0%となっている。

性別・年代別を問わず「選択肢2」が6割から7割となっており、「選択肢1」が2割から3割となっている。

**【選択肢】**

- 1 一時的な建設費は未来への投資と捉え、積極的に省エネルギー設備や再生エネルギー設備を導入し、ゼロカーボンの早期実現と維持管理費の抑制を優先して整備すべき
- 2 省エネルギー設備や再生エネルギー設備は導入しつつも、コストとのバランスを取って整備すべき
- 3 省エネルギー設備や再生エネルギー設備の導入は一時的な建設費の増加と財政的な負担が大きいことから、必要最低限の性能に留めて整備すべき
- 4 その他



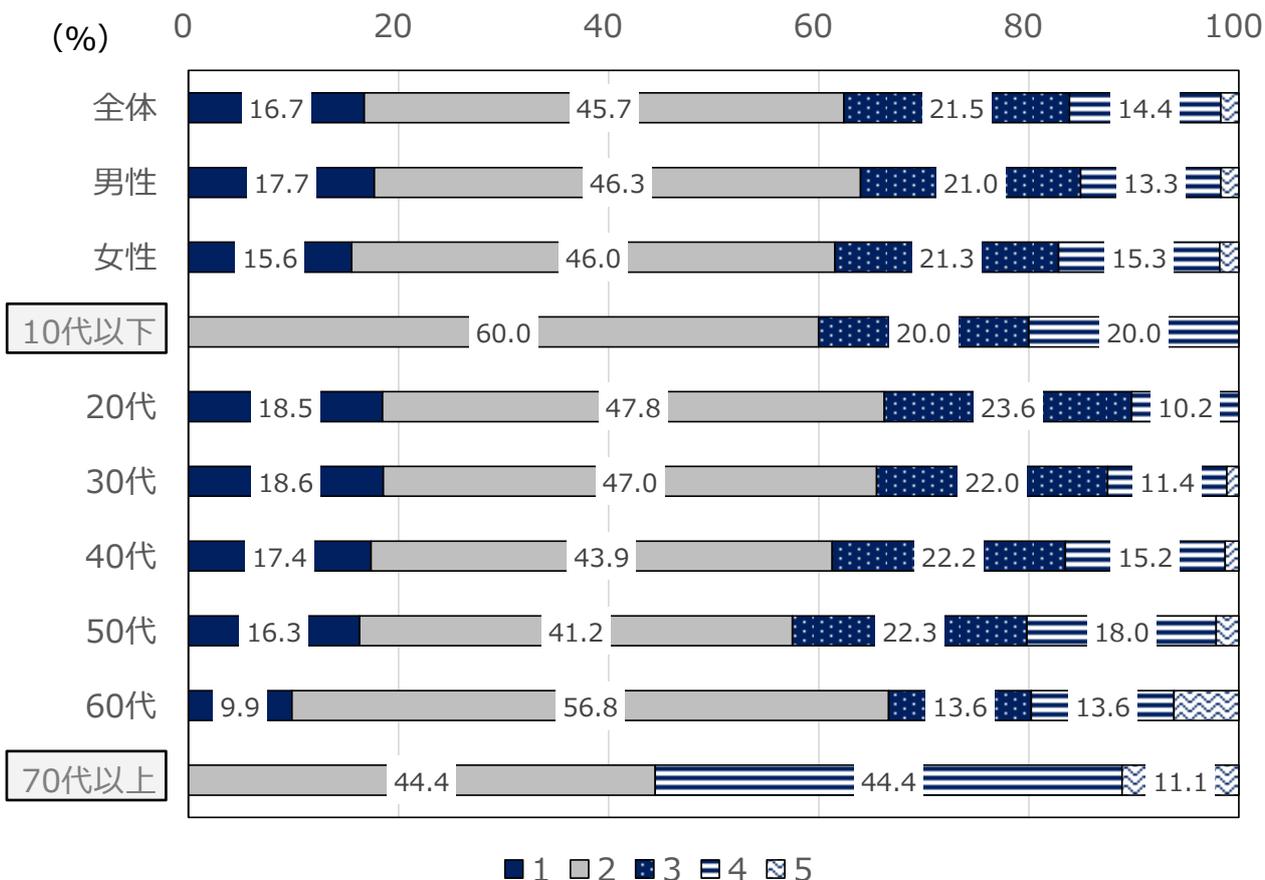
**Q 4 今ある施設での活動を継続しながら施設の長寿命化を図るために、改修や修繕を行なっています。改修や修繕について、どのように考えますか。【n=992】**

改修や修繕への考え方については、全体で「選択肢2」が45.7%で最も高く、次いで「選択肢3」が21.5%、「選択肢1」が16.7%となっている。

性別・年代別を問わず「選択肢2」が4割から6割となっており、「その他」を除く残りの項目が1割から2割程度となっている。

**【選択肢】**

- 1 財政的な負担を考慮して、雨漏れや外壁の剥離など、老朽化が確認されたものに対し、必要最低限の改修や修繕を行うべき
- 2 予防保全的な観点から、長期的な改修計画に基づいて老朽化が進行する前に定期的な改修や修繕を行うべき
- 3 大規模な改修や修繕は工事費の大幅な増加と活動の継続性に課題があるが、何回も工事をするよりも、1回の工事で施設全体を綺麗にリニューアルするべき
- 4 大規模な改修や修繕と併せて、積極的に省エネルギー設備や再生エネルギー設備を導入し、ゼロカーボンの早期実現と維持管理費の抑制を優先して整備するべき
- 5 その他



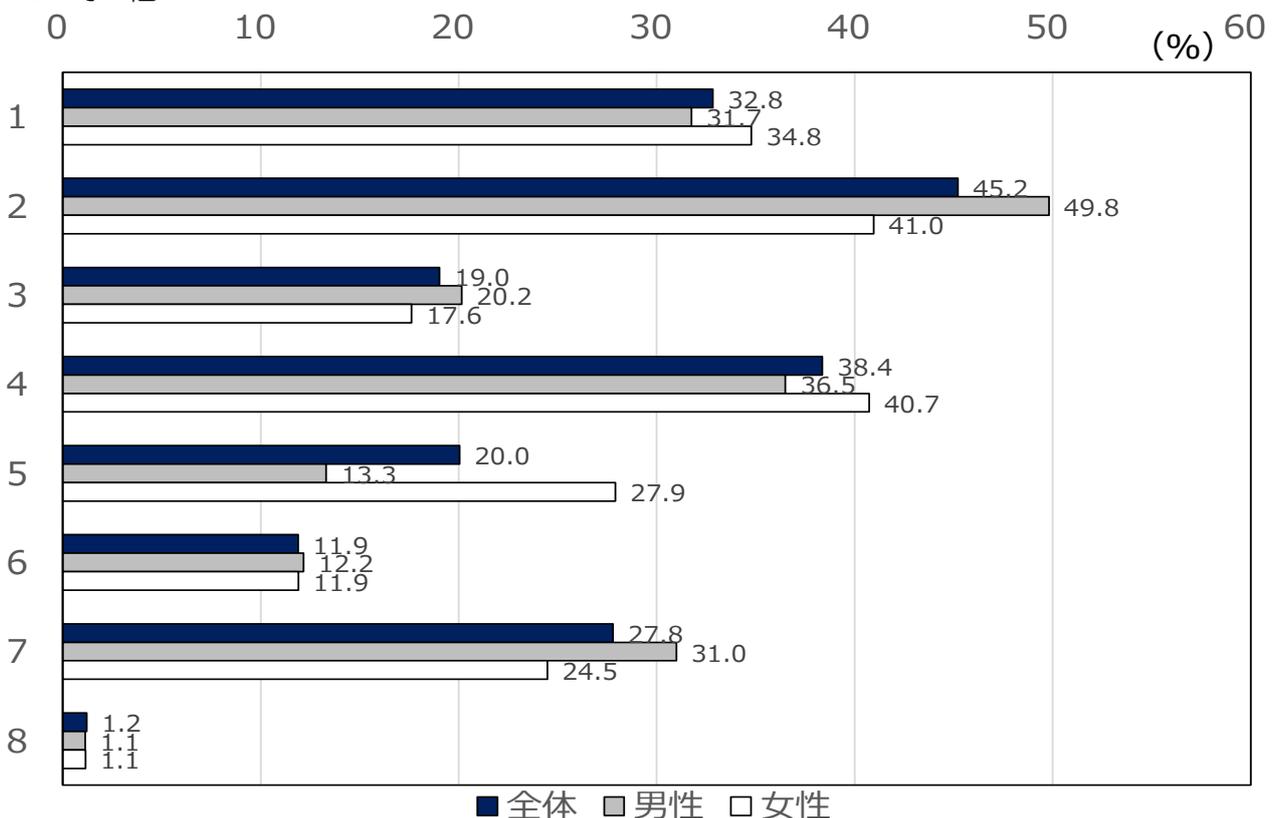
**Q5 人口減少や財政負担の増加といった課題がある中で、30年後も公共施設を維持していくためには、引き続き改修や修繕、建替えなどが必要となります。公共施設のマネジメント（新たな整備、統廃合、複合化などの合理化）を進めていくうえで、市はどのような取り組みを行うべきだと思いますか。（重要だと思うもの3つまで選択可）【n=993】**

公共施設のマネジメントへの取り組みについては、全体で「選択肢2」が45.2%で最も高く、次いで「選択肢4」が38.4%、「選択肢1」が32.8%となっている。

性別では、「選択肢5」が男性で13.3%である一方、女性で27.9%と高くなっている。

**【選択肢】**

- 1 計画段階でアンケートやワークショップを実施して市民の意見を取り入れ、その内容を発信して事業プロセスの透明性を高める。
- 2 財政負担の平準化やサービス向上を図るため、整備にあたって民間事業者の資金やノウハウを積極的に取り入れる。
- 3 ゼロカーボンの観点を重視し、最新の設備や仕様を取り入れ、市民や民間施設への啓発や普及促進の役割も担っていく。
- 4 商業施設の空きスペースなどの民間が所有する建築物のストックを活用することで、整備に伴うコストを抑える。
- 5 失われつつあるその地域にとって価値のある建築物（古民家や歴史的なもの、愛着がある施設など）を積極的に利活用し、その建築物の保存と唯一無二の価値を見出し、地域の活性化に繋げる。
- 6 車両を用いた移動型出張所や移動型図書館など、建築物にこだわらない公共施設のあり方を模索していく。
- 7 オンライン申請などのサービス充実を図り、真に必要な公共施設のあり方を模索していく。
- 8 その他



## ② 公共交通

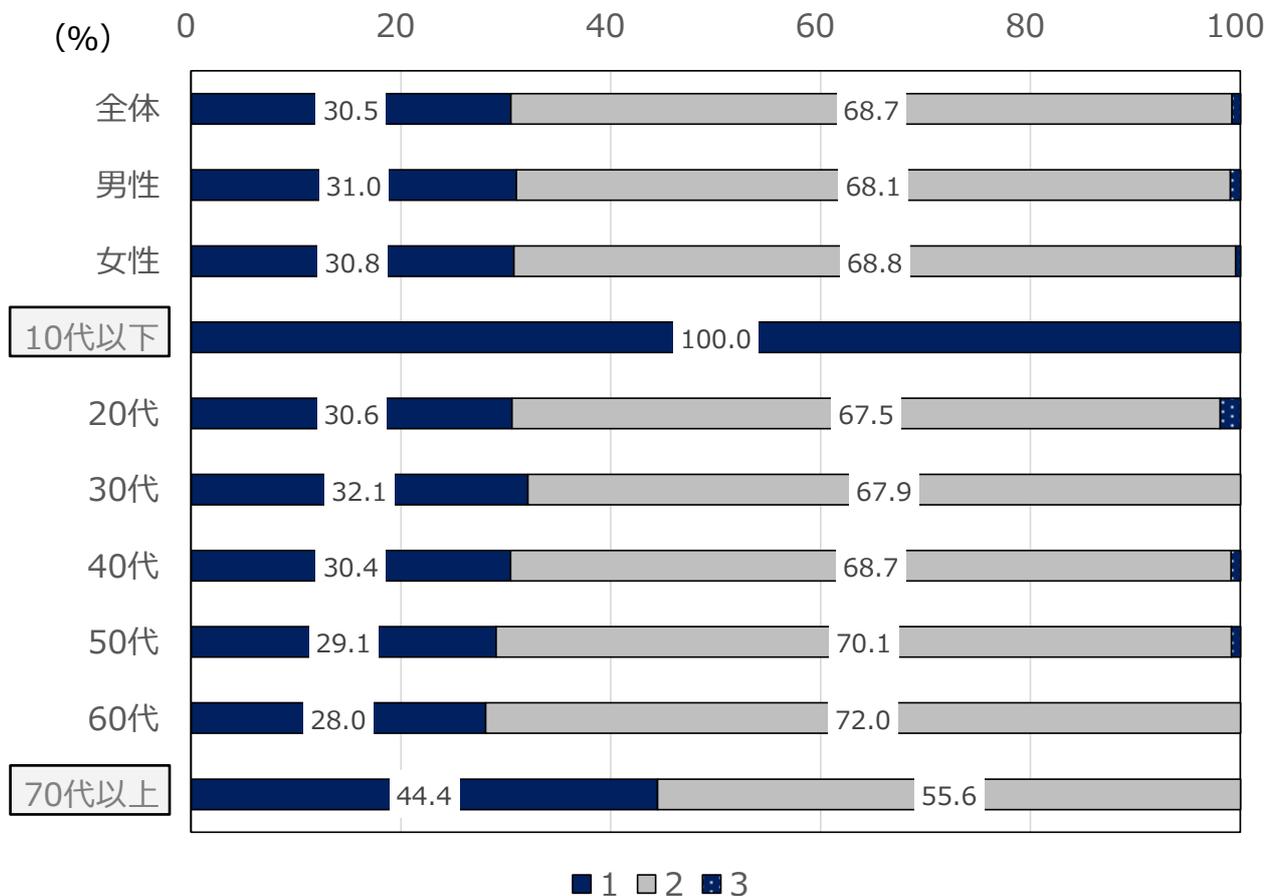
### Q 1 あなたはおーバスを利用していますか。【n=995】

おーバスの利用については、全体で「おーバスを利用していない。」が68.7%で最も高く、次いで「おーバスを利用している。」が30.5%となっている。

性別・年代別においても同様の傾向となっている。

#### 【選択肢】

- 1 おーバスを利用している。
- 2 おーバスを利用していない。
- 3 おーバスを知らなかった。



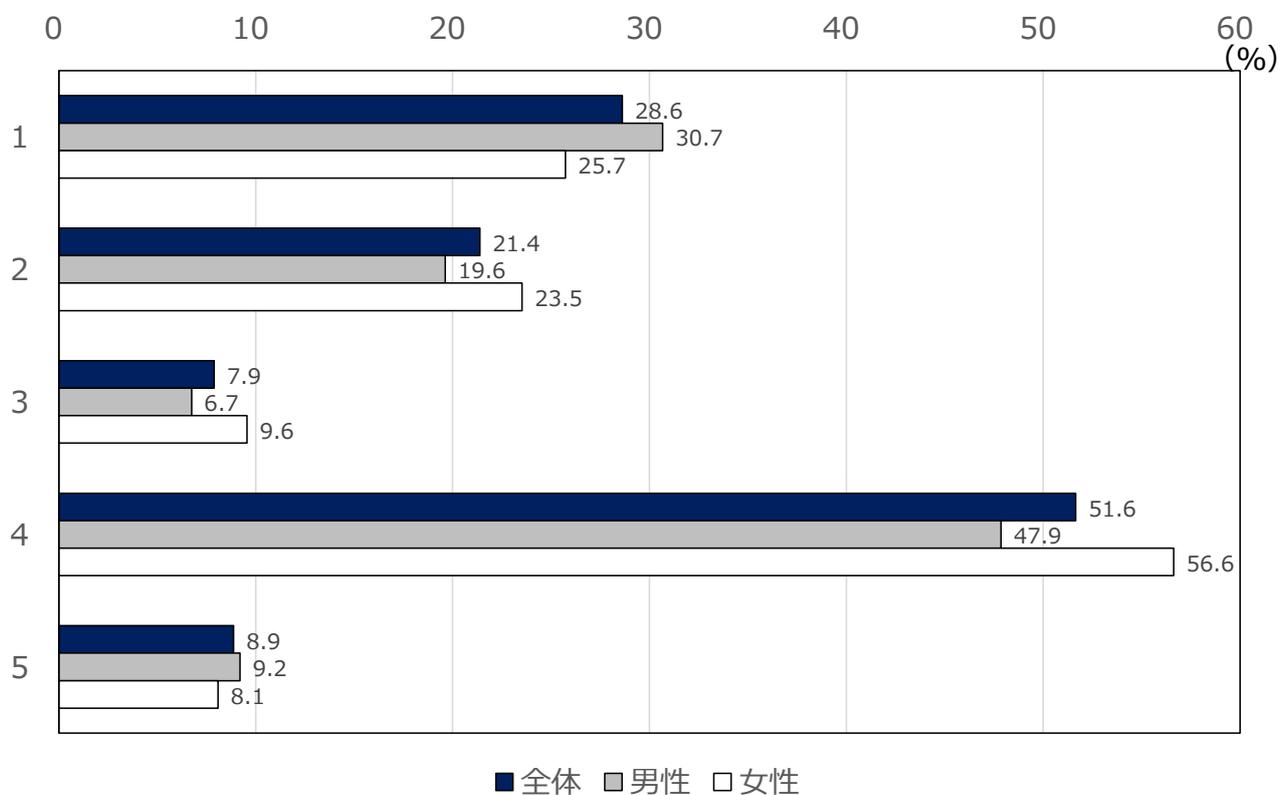
Q2 Q1で1と答えた方に質問します。あなたはどのような時におーバスを利用しているか教えてください。【n=304】

おーバスを利用している目的については、全体で「レジャー・娯楽」が51.6%で最も高く、次いで「通勤・通学」が28.6%、「日常生活での買い物」が21.4%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

【選択肢】

- 1 通勤・通学
- 2 日常生活での買い物
- 3 医療機関への通院
- 4 レジャー・娯楽
- 5 その他



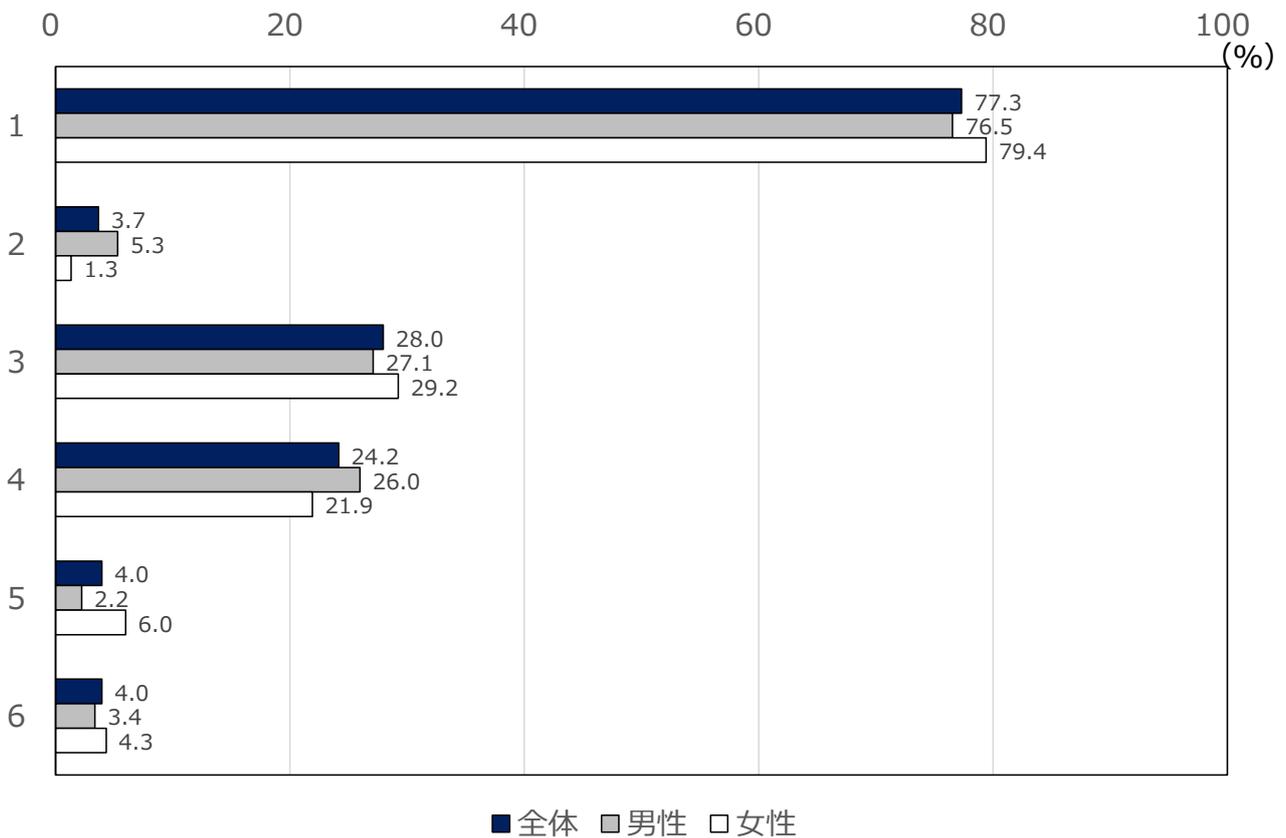
**Q3 Q1で2と答えた方に質問します。あなたがおーバスを利用していない理由を教えてください。  
(複数選択可)【n=683】**

おーバスを利用していない理由については、全体で「車や自転車などの移動手段で十分であり、必要ない」が77.3%で最も高く、次いで「希望する時間帯の運行がない」が28.0%、「希望する場所への運行がない」が24.2%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 車や自転車などの移動手段で十分であり、必要ない
- 2 利用料金が高い
- 3 希望する時間帯の運行がない
- 4 希望する場所への運行がない
- 5 利用方法がわからない
- 6 その他



**Q 4 30年後、小山市内で移動に関して不自由なく暮らすことができるまちであるために優先すべきと思うことを”1つ”お選び下さい。【n=997】**

異動に関して不自由なく暮らすために優先すべきことについては、全体で「おーバスのルートや便数を増やす」が32.7%で最も高く、次いで「公共施設の統廃合があっても最低限の乗り継ぎでアクセスできるような柔軟な公共交通網を検討する」が28.5%となっている。

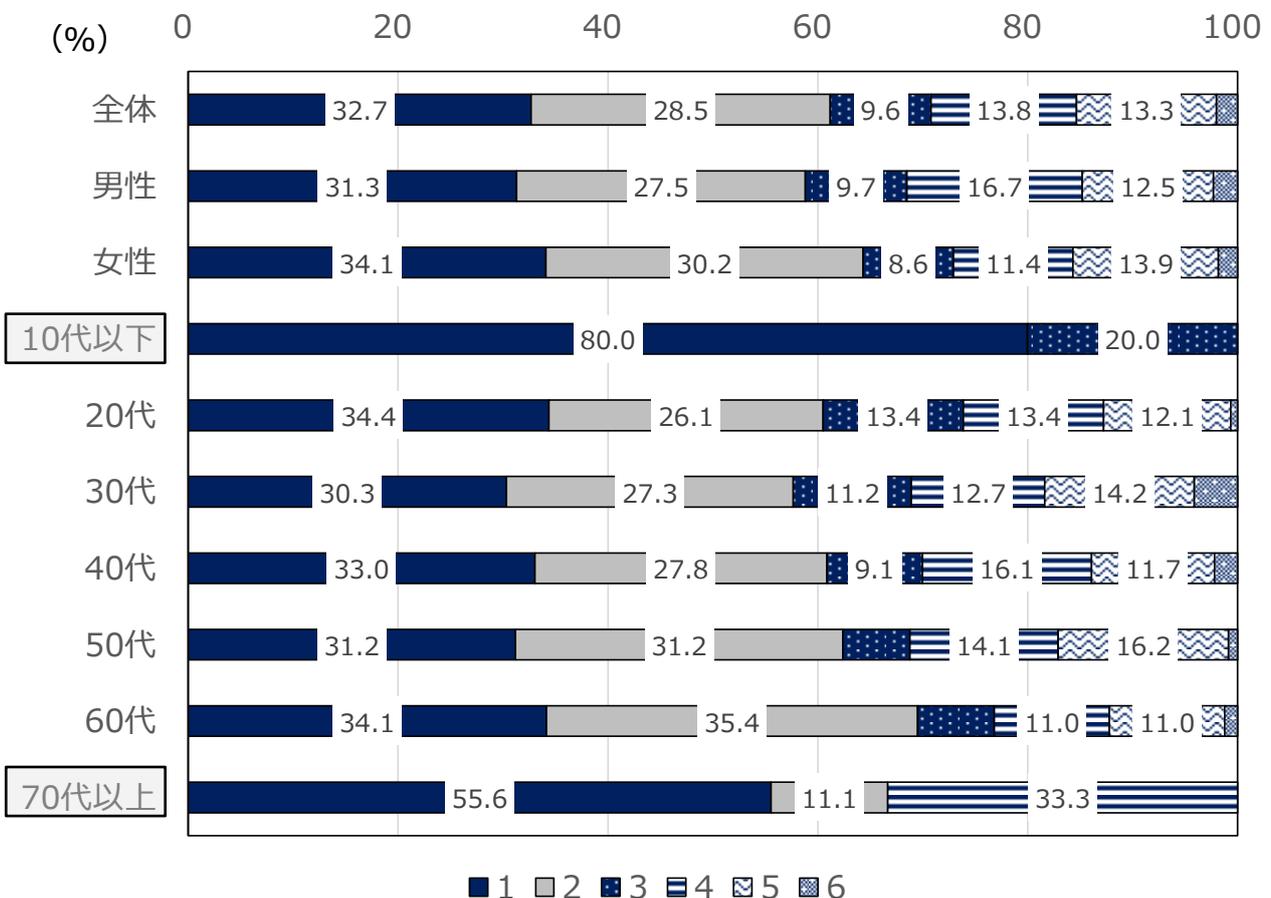
性別・年代別を問わず上記項目がそれぞれ3割前後となっている。

**【選択肢】**

- 1 おーバスのルートや便数を増やす
- 2 公共施設の統廃合があっても最低限の乗り継ぎでアクセスできるような柔軟な公共交通網を検討する
- 3 LRT（次世代型の路面電車）や DMV（線路も走れるバス）等、新しい公共交通機関の導入を検討する
- 4 公共交通機関以外の移動手段（タクシー料金助成やライドシェア※、シェアカー・シェアサイクル等）を検討する

※ライドシェアは車の貸出（シェア）をするカーシェアとは異なり、目的地が同じ人（いわゆる「相乗り」をする人）をマッチングするサービスのことです。

- 5 移動しなくても生活に不自由しない制度（オンライン診療や移動式コンビニ等）に注力する
- 6 その他



## (11)まちづくり

### ① ウォーカブルなまちづくり

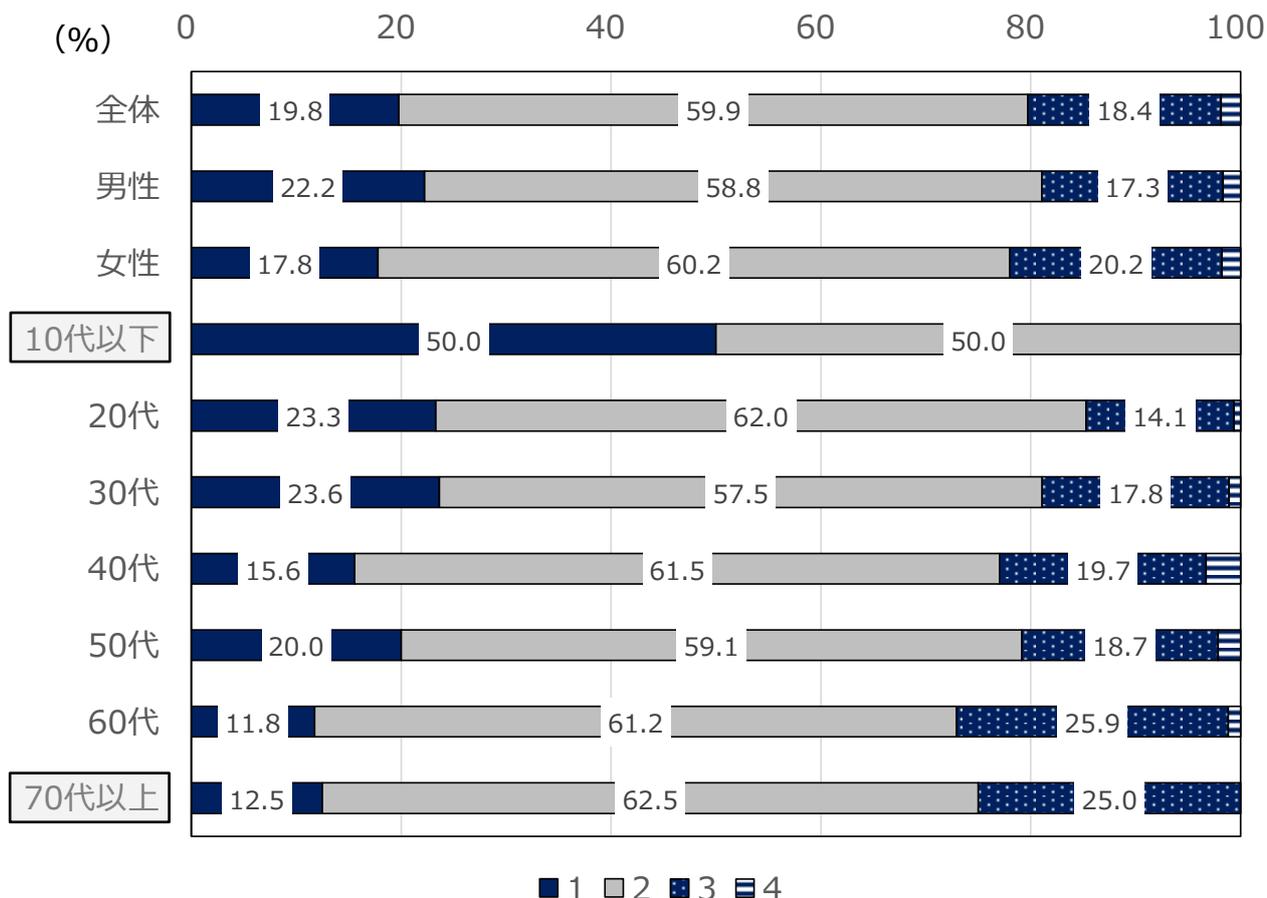
Q 1 あなたは現在の「まちなか」のまちづくりの方向性について、どのように感じていますか。【n=1,031】

現在の「まちなか」のまちづくりの方向性については、全体で「どちらかと言うと良い」が59.9%で最も高く、「良い」と合わせると79.7%となる。

性別・年代別においても同様の傾向であり、上記項目の合計は8割前後となっている。

#### 【選択肢】

- 1 良い
- 2 どちらかと言うと良い
- 3 どちらかと言うと悪い
- 4 悪い



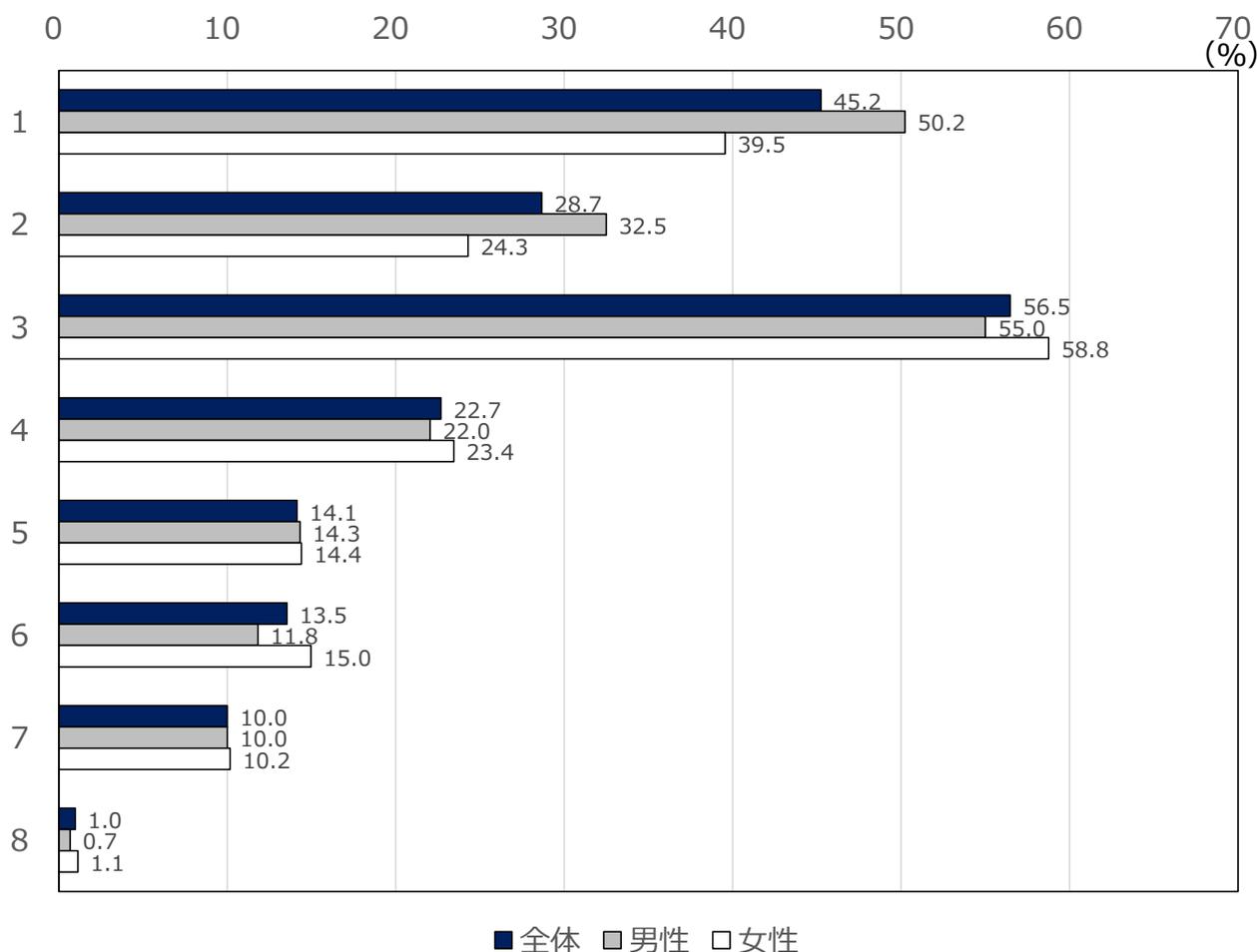
**Q2 Q1で1、2と答えた方に質問します。あなたが「まちなか」のまちづくりを良いと思う理由を教えてください。(複数選択可)【n=820】**

「まちなか」のまちづくりを良いと思う理由については、全体で「人中心のまちづくりはまちなかのにぎわいに繋がるから。」が56.5%で最も高く、次いで「公共交通の結節点であるまちなかは人中心の空間であるべきだから。」が45.2%、「まちなかは人中心の空間であるほうが都市景観的に印象が良いから。」が28.7%となっている。

性別では、「公共交通の結節点であるまちなかは人中心の空間であるべきだから。」が女性で39.5%である一方、男性で50.2%と高くなっている。

**【選択肢】**

- 1 公共交通の結節点であるまちなかは人中心の空間であるべきだから。
- 2 まちなかは人中心の空間であるほうが都市景観的に印象が良いから。
- 3 人中心のまちづくりはまちなかのにぎわいに繋がるから。
- 4 人中心のまちづくりは歩行機会が増えて健康に繋がるから。
- 5 人中心のまちづくりはウェルビーイングに繋がるから。
- 6 既存の広場や建物の活用はいきなり新たに施設を造るよりも失敗のリスクが少ないから。
- 7 今のまちなかのままでは誰もが安全・安心に歩くことができないと感じるから。
- 8 その他



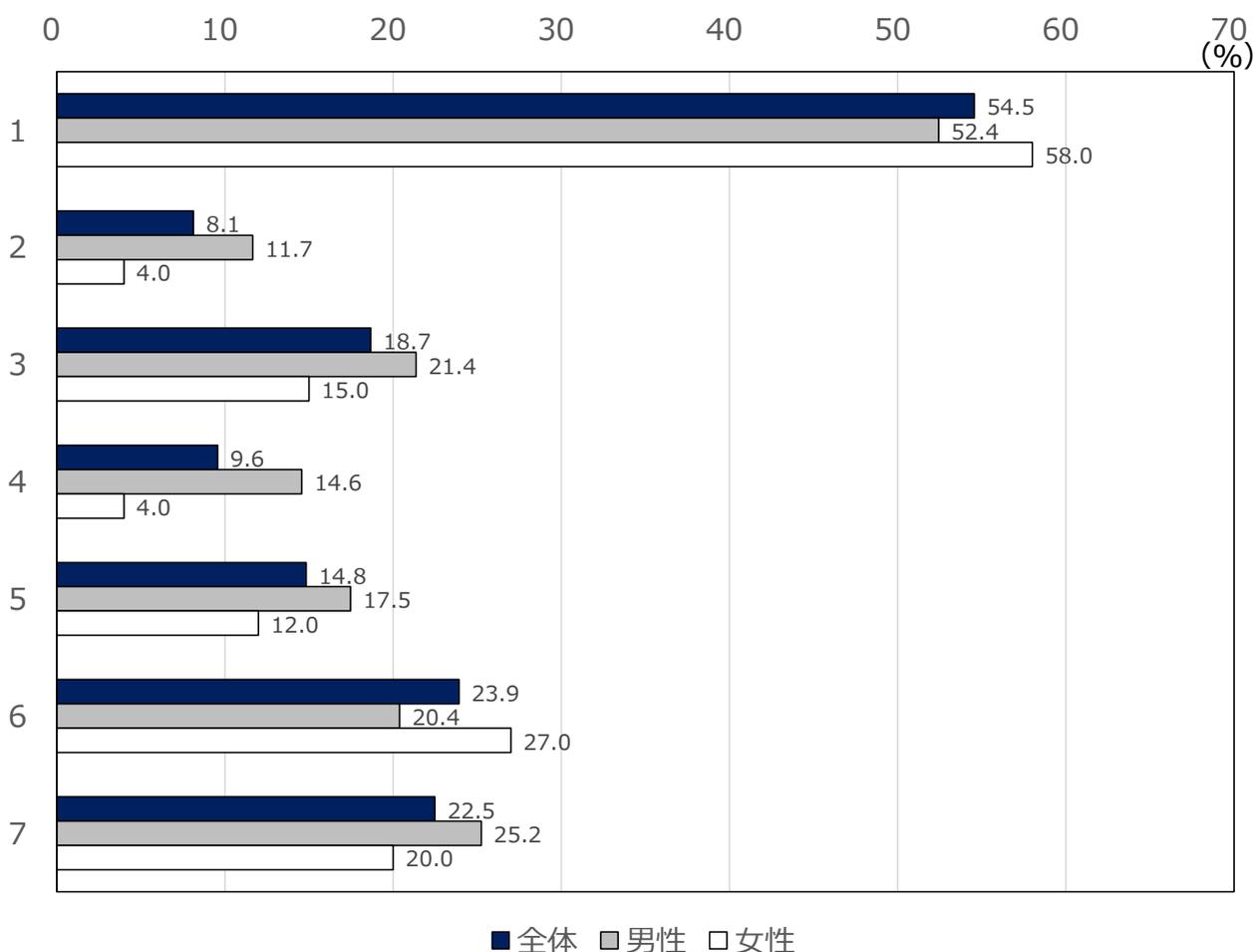
**Q3 Q1で3、4と答えた方に質問します。あなたが「まちなか」のまちづくりを悪いと思う理由を教えてください。(複数選択可)【n=209】**

「まちなか」のまちづくりを悪いと思う理由については、全体で「駅まで車で移動する人も多いから。」が54.5%で最も高く、次いで「まちなかをもっと車で移動しやすくして欲しいから。」が23.9%、「その他」が22.5%となっている。

性別では、「人中心のまちづくりはウェルビーイングに繋がらないから。」が女性で4.0%である一方、男性で14.6%と高くなっている。

**【選択肢】**

- 1 駅まで車で移動する人も多いから。
- 2 まちなかは車中心の空間であるほうが都市景観的に印象が良いから。
- 3 人中心のまちづくりはまちなかのにぎわいに繋がらないから。
- 4 人中心のまちづくりはウェルビーイングに繋がらないから。
- 5 既存の広場や建物の活用ではなく新たに施設を造る方が効果的だから。
- 6 まちなかをもっと車で移動しやすくして欲しいから。
- 7 その他



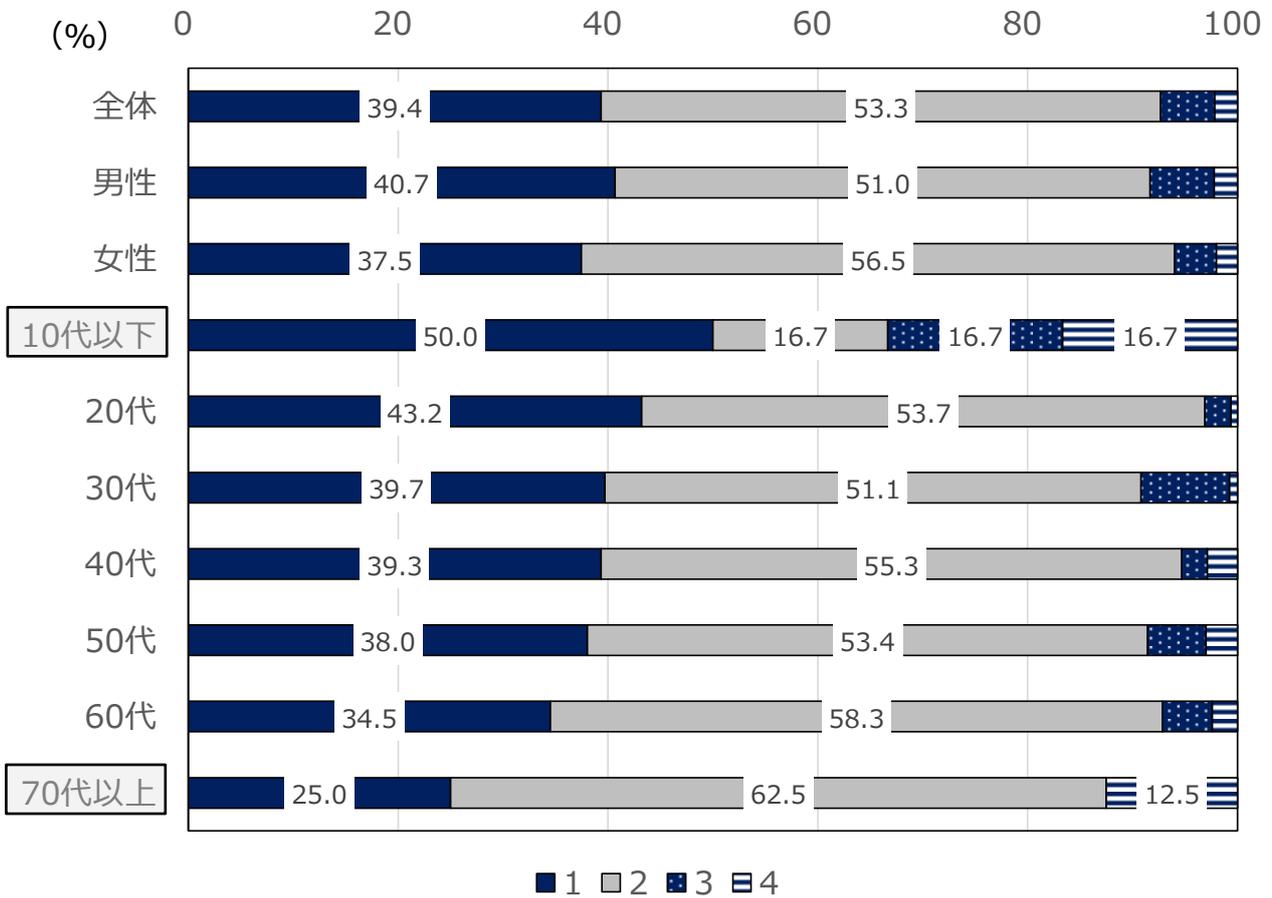
**Q4 まちなかの「ウォークラブルなまちづくり」の今後について、あなたはどのように思いますか。【n=1,024】**

まちなかの「ウォークラブルなまちづくり」の今後については、全体で「今後も継続して欲しいが、車社会であることも考慮してバランス良く取り組んで欲しい。」が53.3%で最も高く、次いで「今後も継続して欲しい。」が39.4%となっている。

性別・年代別を問わず同様の傾向であり、上記項目の合計は9割以上となっている。

**【選択肢】**

- 1 今後も継続して欲しい。
- 2 今後も継続して欲しいが、車社会であることも考慮してバランス良く取り組んで欲しい。
- 3 継続はせず、車社会に合ったまちづくりを進めて欲しい。
- 4 その他



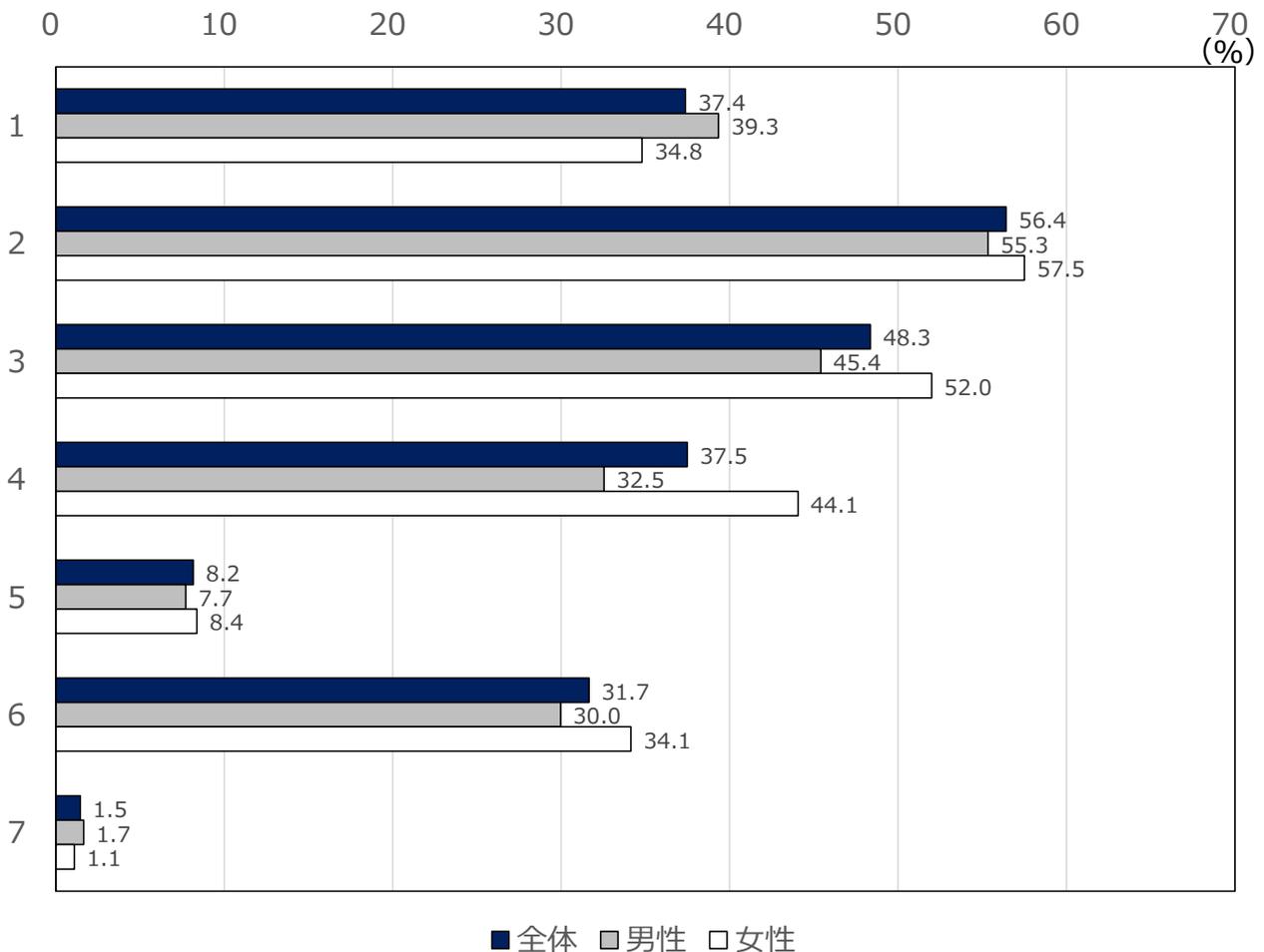
**Q5 あなたが思う 30 年後のまちなかのあるべき理想の将来像を教えてください。(3つまで)【n = 1,030】**

30 年後のまちなかのあるべき理想の将来像については、「魅力的なお店があり、イベント等が開催されるなど、にぎわいと活気のあるまちなか」が 56.4%で最も高く、次いで「住む人や働く人、学生などが安心して生活できる落ち着いたまちなか」が 48.3%、「思川や公園の緑などを身近に感じる、自然豊かな都市景観のまちなか」が 37.5%となっている。

性別では、「思川や公園の緑などを身近に感じる、自然豊かな都市景観のまちなか」が男性で 32.5%である一方、女性で 44.1%と高くなっている。

**【選択肢】**

- 1 「車」ではなく「人」を中心にデザインされた、車を持たない人も過ごしやすい居心地の良いまちなか
- 2 魅力的なお店があり、イベント等が開催されるなど、にぎわいと活気のあるまちなか
- 3 住む人や働く人、学生などが安心して生活できる落ち着いたまちなか
- 4 思川や公園の緑などを身近に感じる、自然豊かな都市景観のまちなか
- 5 重要な文化財などを保全した歴史を感じるまちなか
- 6 大雨・台風・地震などに対する防災機能を有した災害に強いまちなか
- 7 その他



## ② 道路交通網

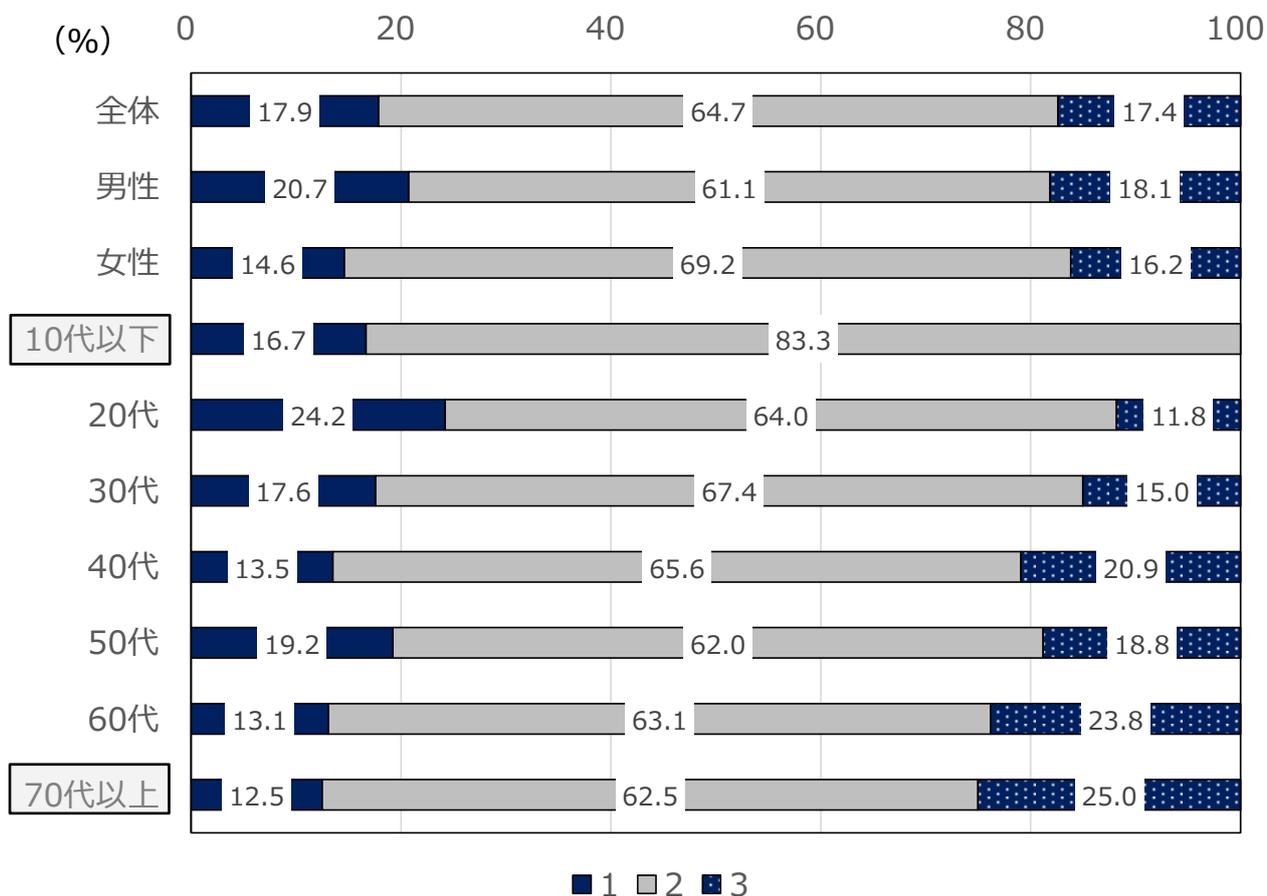
**Q 1 現在の小山市の道路交通網整備は、日常生活を行う上で必要十分な整備がされていると思いますか。【n=1,024】**

現在の小山市の道路交通網整備は、日常生活を行う上で必要十分な整備がされているかについては、全体で「十分ではないが、許容できる。」が64.7%で最も高く、次いで「十分整備されている。」が17.9%となっている。

性別・年代別を問わず「十分ではないが、許容できる。」が最も割合の大きい項目となっており、6割から7割となっている。

### 【選択肢】

- 1 十分整備されている。
- 2 十分ではないが、許容できる。
- 3 十分整備されていない。



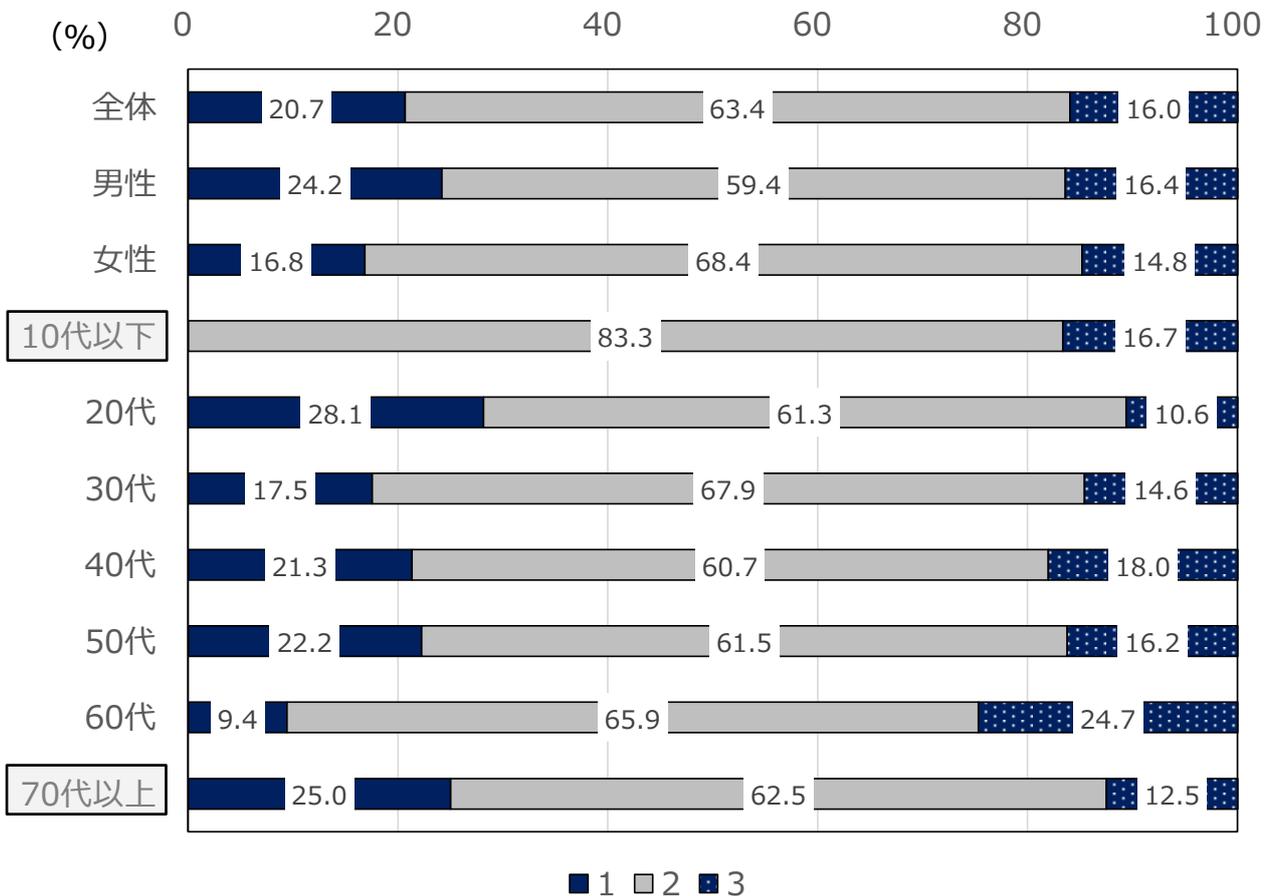
**Q2 人口減少時代を迎えたことで、30年後の日本を見据えると、約2割程度の人口が減る事が予想されており、小山市でも同様の事が考えられます。人口が減少することで車等の往来も現在より減少していることが予想されることを考えた際、30年後にあなたが住んでいる、又は働いている地域では道路交通網は十分に整備されていると思いますか。【n=1,026】**

30年後に道路交通網は十分に整備されているかについては、全体で「十分ではないが、許容できる。」が63.4%で最も高く、次いで「十分整備されている。」が20.7%となっている。

性別・年代別を問わず「十分ではないが、許容できる。」が最も割合の大きい項目となっており、6割から7割となっている。

**【選択肢】**

- 1 十分整備されている。
- 2 十分ではないが、許容できる。
- 3 十分整備されていない。



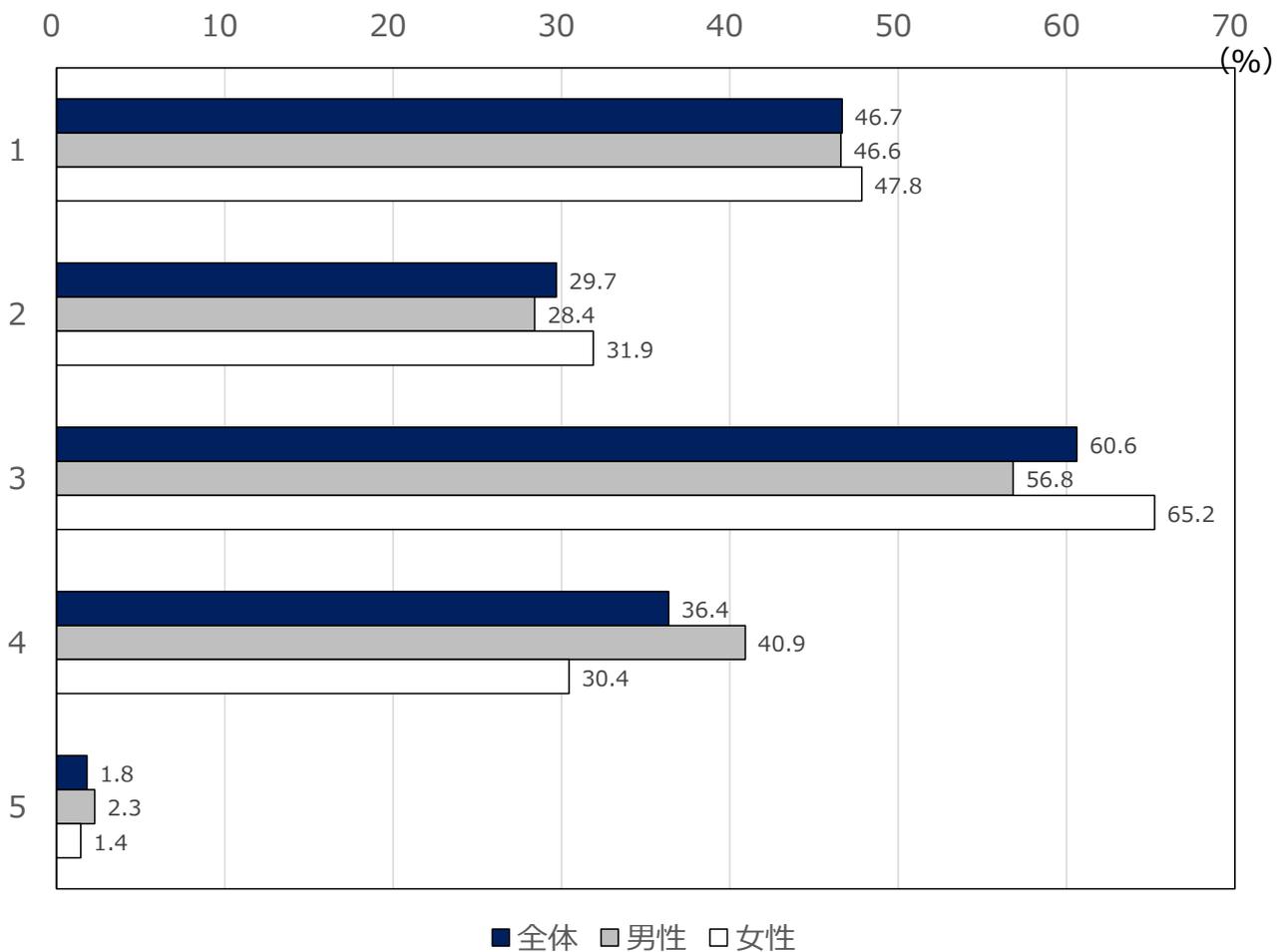
**Q3 Q2で3と答えた方に質問します。現在あなたが住んでいる、又は地域、働いている地域の道路交通網では30年後どのような道路が整備されているのが望ましいと思いますか。(2つまで)【n=165】**

30年後どのような道路が整備されているのが望ましいかについては、全体で「歩行者や自転車が快適に、安心して通行できる道路。」が60.6%で最も高く、次いで「狭い道路がほとんどなく、緊急車両の通行や、災害時の避難がスムーズに行える道路。」が46.7%、「幹線道路の交通渋滞がほとんどなく、スムーズに通行できる道路。」が36.4%となっている。

性別では、「幹線道路の交通渋滞がほとんどなく、スムーズに通行できる道路。」で男性が高く、「歩行者や自転車が快適に、安心して通行できる道路。」で女性が高くなっている。

**【選択肢】**

- 1 狭い道路がほとんどなく、緊急車両の通行や、災害時の避難がスムーズに行える道路。
- 2 公共施設や小山市の中心的施設同士を結ぶ道路が多く、アクセスに困らない道路。
- 3 歩行者や自転車が快適に、安心して通行できる道路。
- 4 幹線道路の交通渋滞がほとんどなく、スムーズに通行できる道路。
- 5 その他



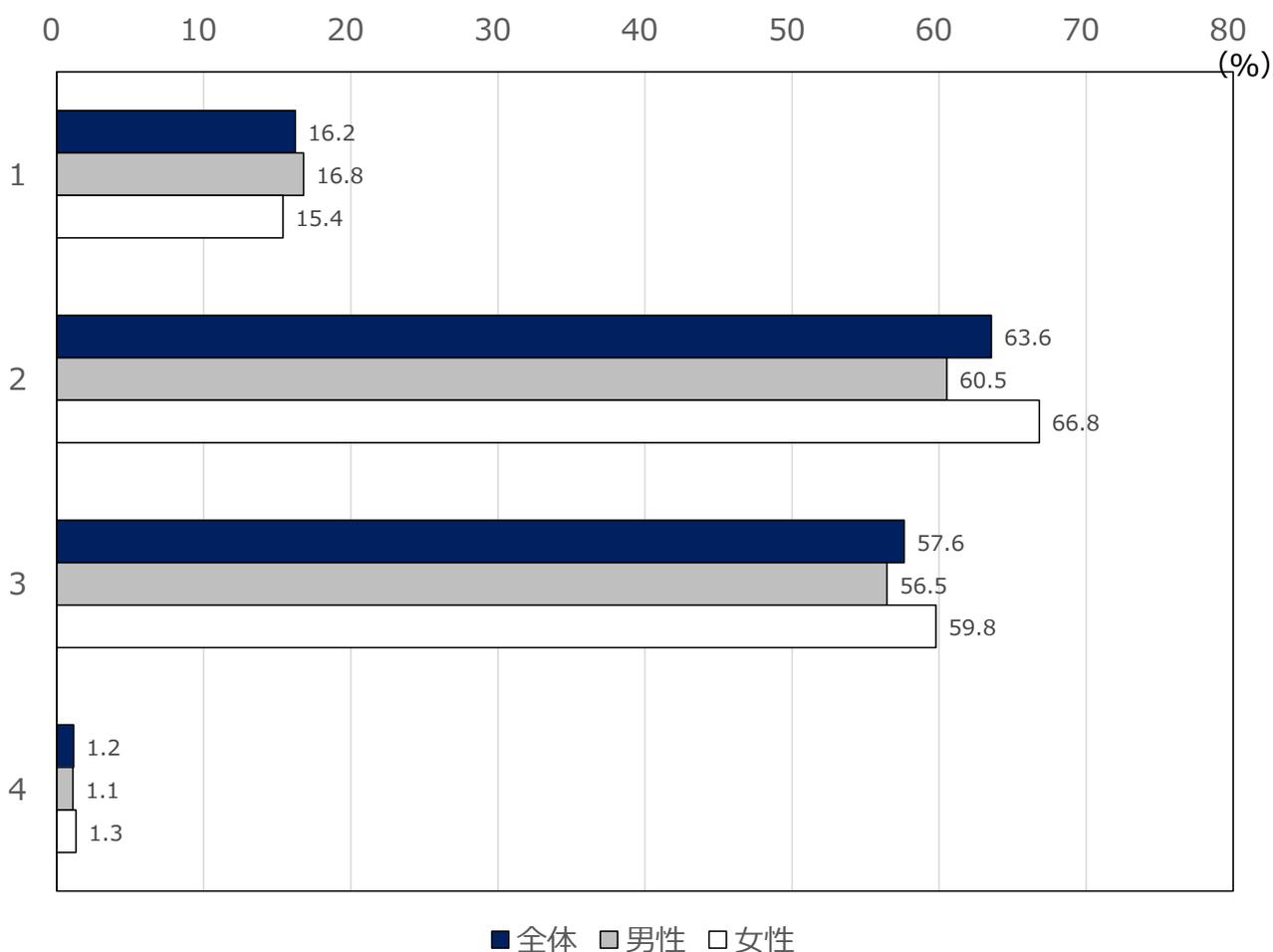
**Q 4** 30年後の人口減少を見据えると、市の財政もひっ迫していくことが考えられます。道路の整備においては概ね新規整備（新しい道路の建設）、改良整備（道路拡幅など）、維持補修（路面のひび割れや、穴ぼこの補修、街路樹の維持管理など）の3つに分けられ、新規・改良と維持補修の割合は概ね6：4となっています。30年後の道路交通網ではどの項目を重点的に行っていくべきだと思いますか。（2つまで）【n=1,029】

30年後の道路交通網ではどの項目を重点的に行っていくべきかについては、全体で「改良整備」が63.6%で最も高く、次いで「維持補修」が57.6%、「新規整備」が16.2%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 新規整備
- 2 改良整備
- 3 維持補修
- 4 その他

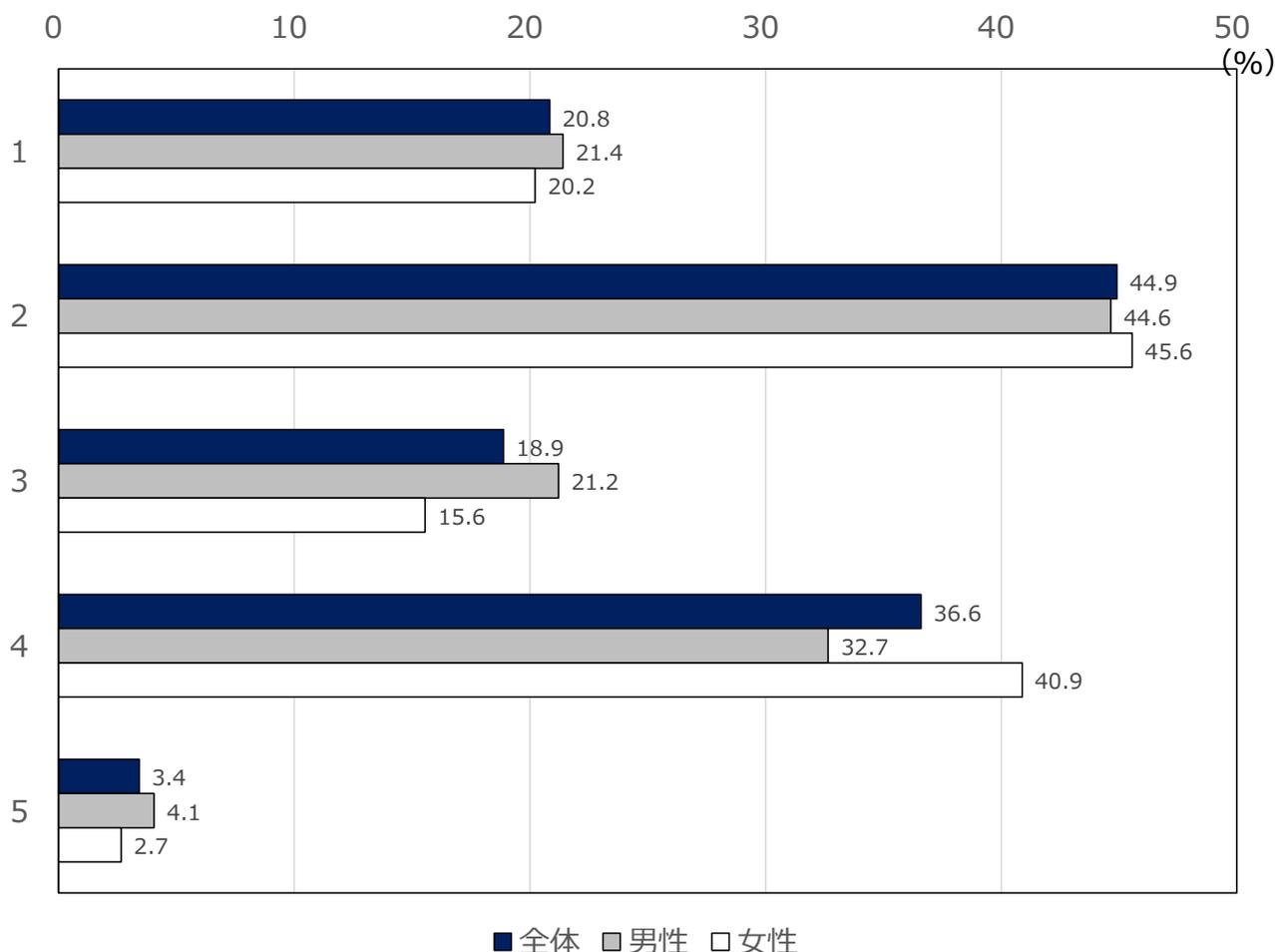


**Q5 30年後の将来を見据え、より良い小山市を創っていくにあたり道路空間に「新たな価値を付加する」という考え方があります。どのような付加価値を創出していくのが良いと思いますか。（複数選択可）【n=1,022】**

道路空間にどのような付加価値を創出していくかについては、「駅前の大きな道路などで、休憩施設を整備するなど新たな利用形態を導入し、歩きたくなるような道路空間を整備していく。」が44.9%で最も高く、次いで「安全・安心な道路利用ができるようにするため、自分がよく利用する道路をリアルタイムで撮影・市とデータリンクすることで、いち早く維持補修に対応できるシステムを整備する。」が36.6%となっている。

**【選択肢】**

- 1 農村地域において、信号機が少なくても通行がスムーズになる道路を整備していく。
- 2 駅前の大きな道路などで、休憩施設を整備するなど新たな利用形態を導入し、歩きたくなるような道路空間を整備していく。
- 3 より景観がよく、快適な道路空間とするため、道路隣接地域に在住する方や通勤通学で道路を使う方など（受益者）に維持管理費を支払っていただいたり、維持管理に実際に参加していただくシステムを作る。
- 4 安全・安心な道路利用ができるようにするため、自分がよく利用する道路をリアルタイムで撮影・市とデータリンクすることで、いち早く維持補修に対応できるシステムを整備する。
- 5 その他



### ③ インフラ整備・更新

Q1 あなたが住んでいる、又は働いている地域のインフラ（上下水道、公園、水路など）として必要とされるものは十分な整備が行われていると思いますか。（該当するものすべてを選択してください。）

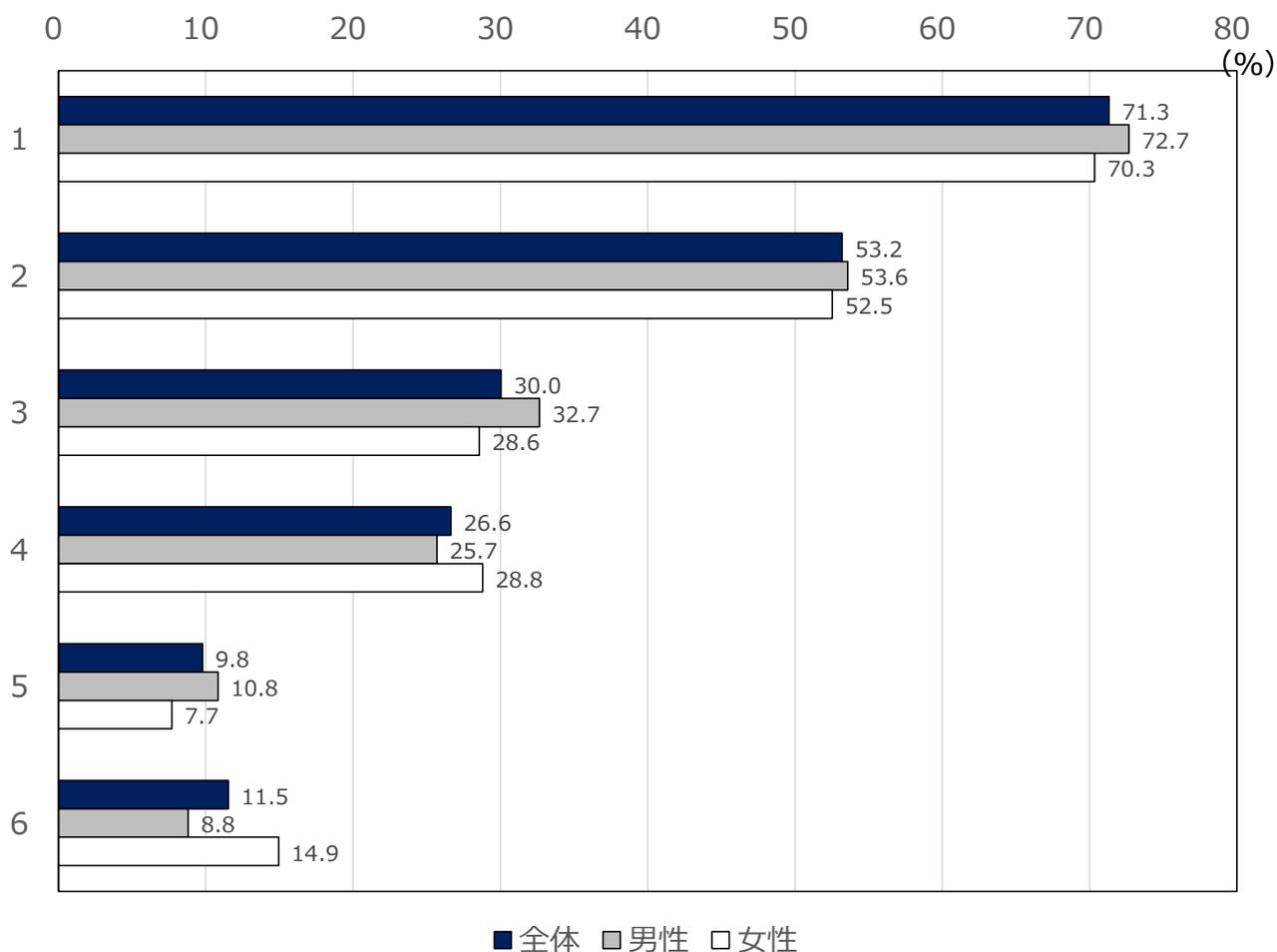
【n=1,032】

インフラとして必要とされるものは十分な整備が行われているかについては、全体で「上水道は十分に整備されている。」が71.3%で最も高く、次いで「下水道は十分に整備されている。」が53.2%、「公園は十分に整備されている。」が30.0%となっている。

男女ともに同様の傾向となっている。

#### 【選択肢】

- 1 上水道は十分に整備されている。
- 2 下水道は十分に整備されている。
- 3 公園は十分に整備されている。
- 4 水路（雨水管なども含む）は十分に整備されている。
- 5 どのインフラも十分な整備はされていない。
- 6 分からない。



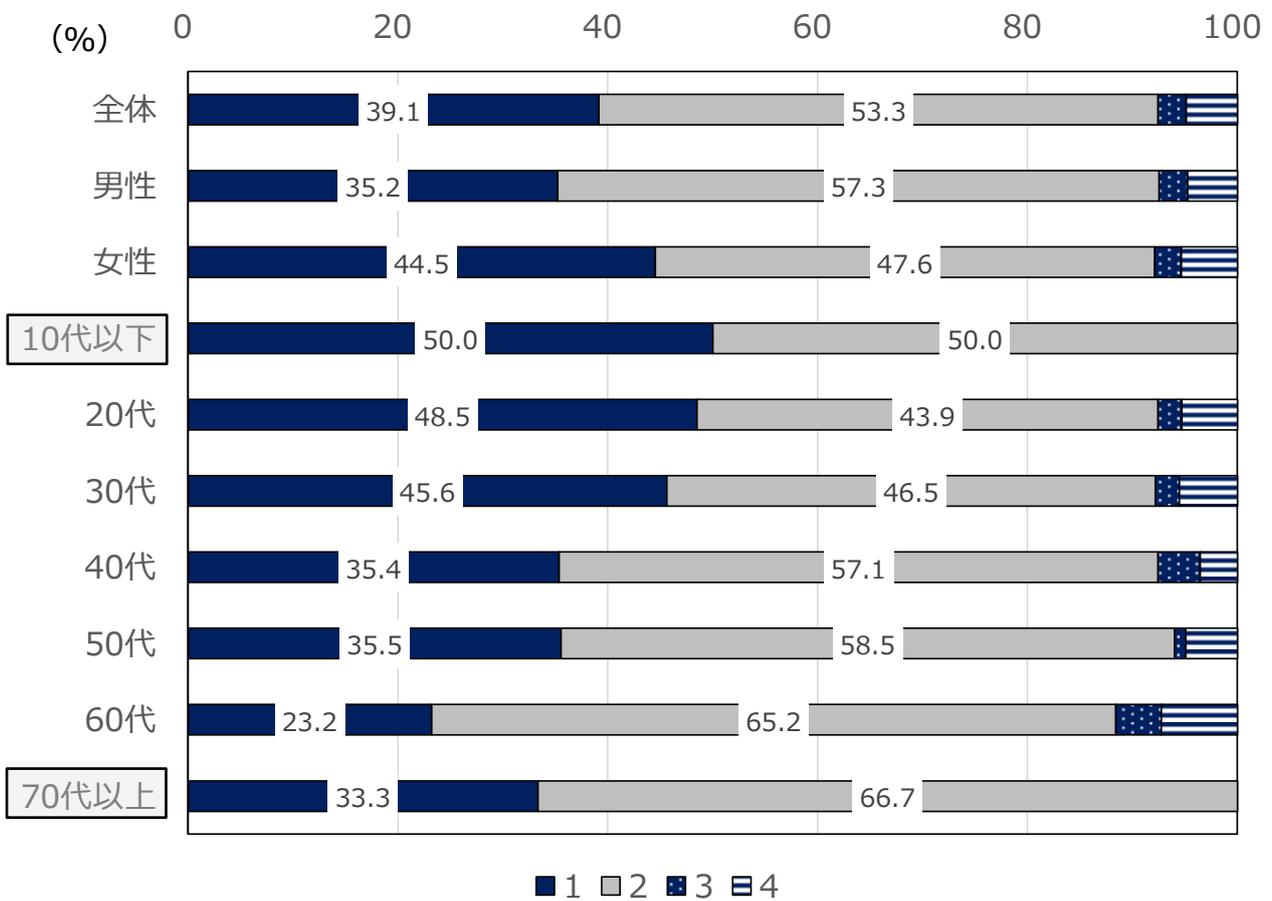
**Q2 Q1で1~4と答えた方に質問します。十分な維持・更新はなされていますか。【n=820】**

インフラの十分な維持・更新はなされているかについては、全体で「十分ではないが、許容できる。」が53.3%で最も高く、「十分になされている。」と合わせると92.4%となっている。

性別・年代別を問わず上記項目の合計は9割前後となっている。

**【選択肢】**

- 1 十分になされている。
- 2 十分ではないが、許容できる。
- 3 全くなされていない。
- 4 分からない。



**Q3 財政的にすべての整備・維持・更新が行えない中、どのように対応すべきと考えますか。【n = 1,026】**

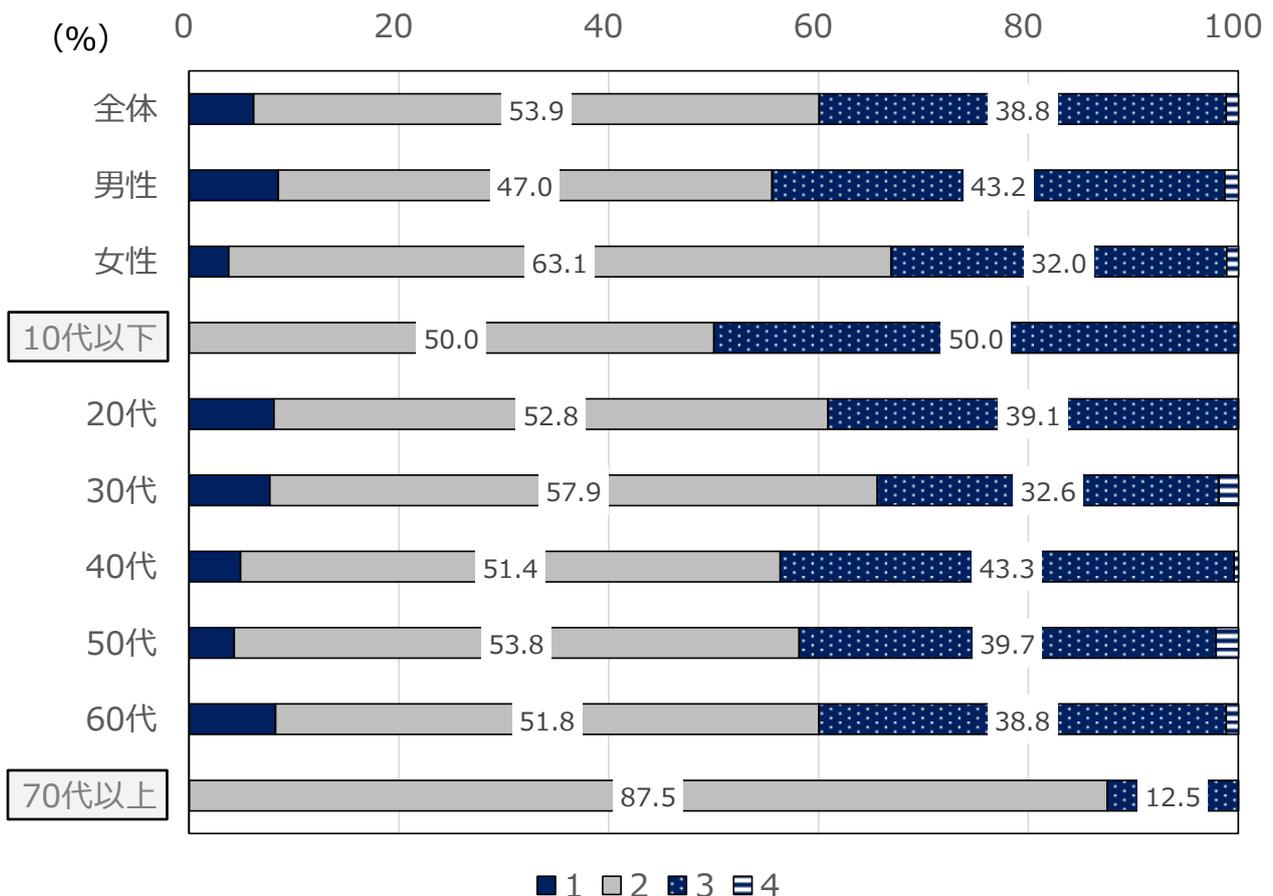
インフラの整備・維持・更新をどのように対応すべきかについては、全体で「新規整備の範囲を見直し、整備後の維持・更新とのバランスを考える。」が53.9%で最も高く、次いで「維持・更新を優先して、新規整備は可能な範囲のみ行う。」が38.8%となっている。

性別では、「新規整備の範囲を見直し、整備後の維持・更新とのバランスを考える。」が男性で47.0%である一方、女性で63.1%と高くなっている。

年代別では、「新規整備の範囲を見直し、整備後の維持・更新とのバランスを考える。」が5割台で最も割合の大きい項目となっている。

**【選択肢】**

- 1 新規整備を優先する。
- 2 新規整備の範囲を見直し、整備後の維持・更新とのバランスを考える。
- 3 維持・更新を優先して、新規整備は可能な範囲のみ行う。
- 4 その他



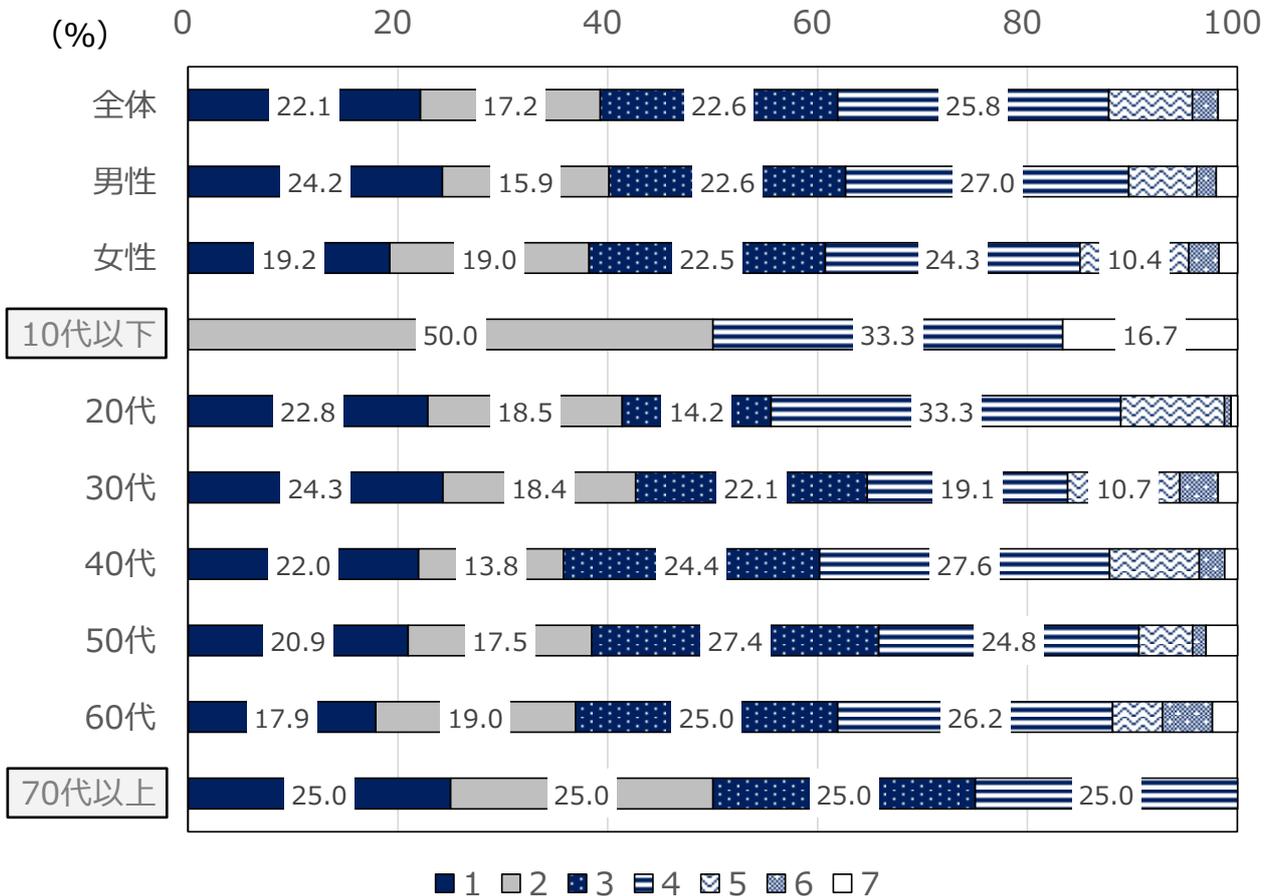
**Q 4 財政の制約がある中で、30年後の私たちにとって地域のインフラを持続可能なものにするために重点的な取り組みが必要とされる分野はありますか。【n=1,026】**

地域のインフラを持続可能なものにするために重点的な取り組みが必要とされる分野については、全体で「道路」が25.8%で最も高く、次いで「雨水排水」が22.6%、「上水道（共同水道を含む）」が22.1%となっている。

性別・年代別を問わず、「上水道（共同水道を含む）」「下水道（合併浄化槽を含み、雨水排水を除く）」「雨水排水」「道路」の項目が一定の割合となっている。

**【選択肢】**

- 1 上水道（共同水道を含む）
- 2 下水道（合併浄化槽を含み、雨水排水を除く）
- 3 雨水排水
- 4 道路
- 5 公園
- 6 水路
- 7 その他



#### ④ 企業

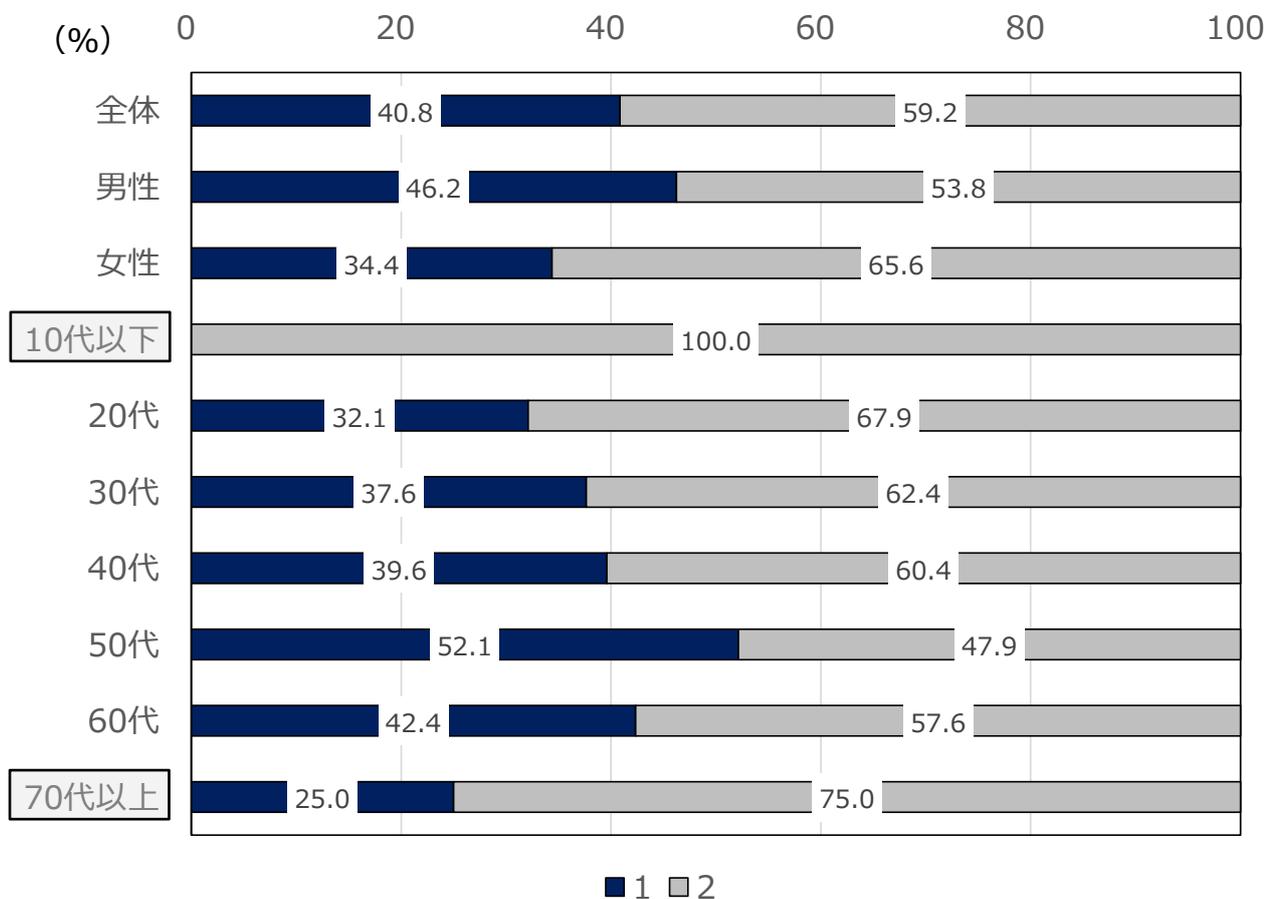
##### Q 1 社会貢献に取り組む市内の企業を知っていますか。【n=1,026】

社会貢献に取り組む市内の企業については、全体で「知らない」が59.2%、「知っている」が40.8%となっている。

性別・年代別では、50代を除き「知らない」が過半数を超えている。

##### 【選択肢】

- 1 知っている
- 2 知らない



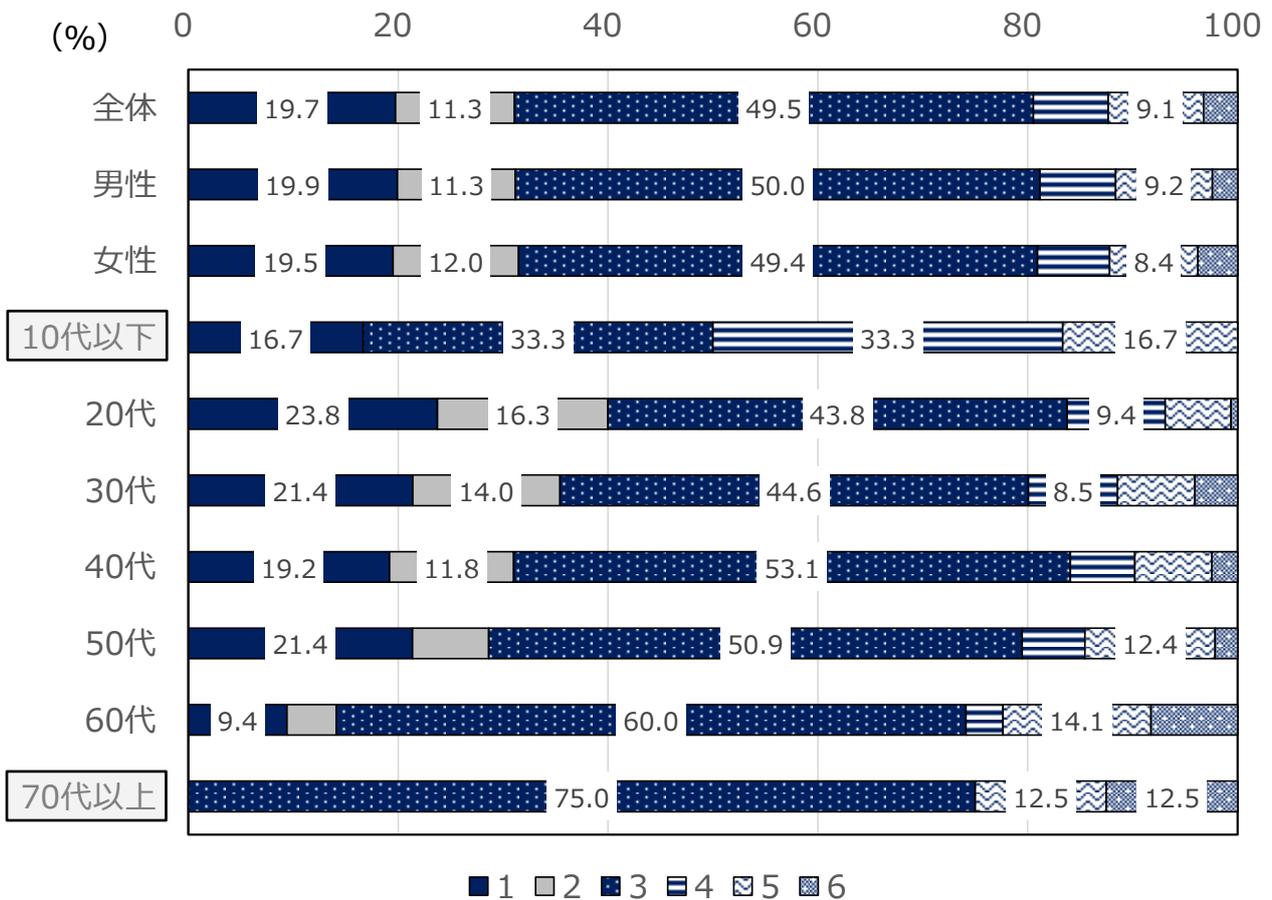
**Q2 社会貢献活動に取り組む企業にどのような印象を受けますか。【n=1,023】**

社会貢献活動に取り組む企業に受ける印象については、全体で「その企業に対して好感をもつ」が49.5%で最も高く、次いで「その企業に対して興味をもつ」が19.7%、「その企業の製品・サービスに興味をもつ」が11.3%となっている。

年代別では、「その企業に対して好感をもつ」の割合が最も大きく、年代が上がるにつれて割合も大きくなる傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 その企業に対して興味をもつ
- 2 その企業の製品・サービスに興味をもつ
- 3 その企業に対して好感をもつ
- 4 その企業の今後に期待できる
- 5 その企業に対する信頼が増す
- 6 その企業の製品・サービスを利用しようと思う



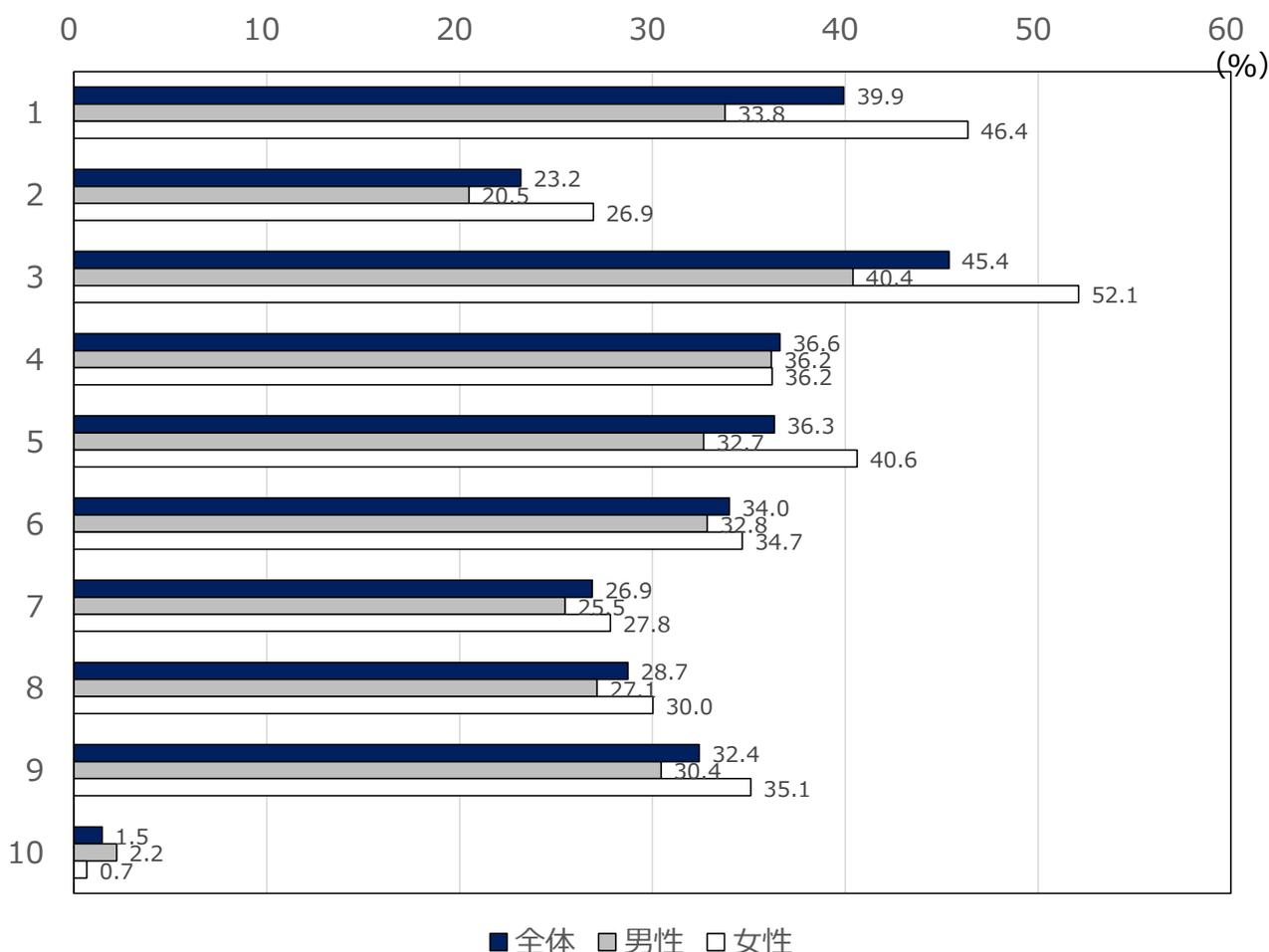
**Q3 どのような分野で、市内の企業が社会貢献活動に取り組んでほしいですか。(複数選択可)【n = 1,027】**

どのような分野で、市内の企業が社会貢献活動に取り組んでほしいかについては、全体で「子育て・教育の支援（学童、子ども食堂など）」が45.4%で最も高く、次いで「高齢者・障がい者の支援（移動スーパー、見守りサービス・就職あっせんなど）」が39.9%、「商業振興（商店街・中心市街地の活性化、地場産業、観光資源、伝統工芸の活性化など）」が36.6%となっている。

性別を問わず、全ての項目（「知らない」を除く）で2割以上の回答となっている。

**【選択肢】**

- 1 高齢者・障がい者の支援（移動スーパー、見守りサービス・就職あっせんなど）
- 2 地域のヘルスケア（健康増進・介護予防・疾病予防・生活支援など）
- 3 子育て・教育の支援（学童、子ども食堂など）
- 4 商業振興（商店街・中心市街地の活性化、地場産業、観光資源、伝統工芸の活性化など）
- 5 地域活性化（地域の祭り・伝統行事・地域イベントの開催など）
- 6 まちづくり（空き家・空き地の解消、街の景観保全など）
- 7 環境保全（再生エネルギー発電、廃棄物対策など）
- 8 防災・防犯・交通安全対策（防災情報配信サービス、自転車安全教育など）
- 9 雇用創出（働く場所の活性化）
- 10 知らない



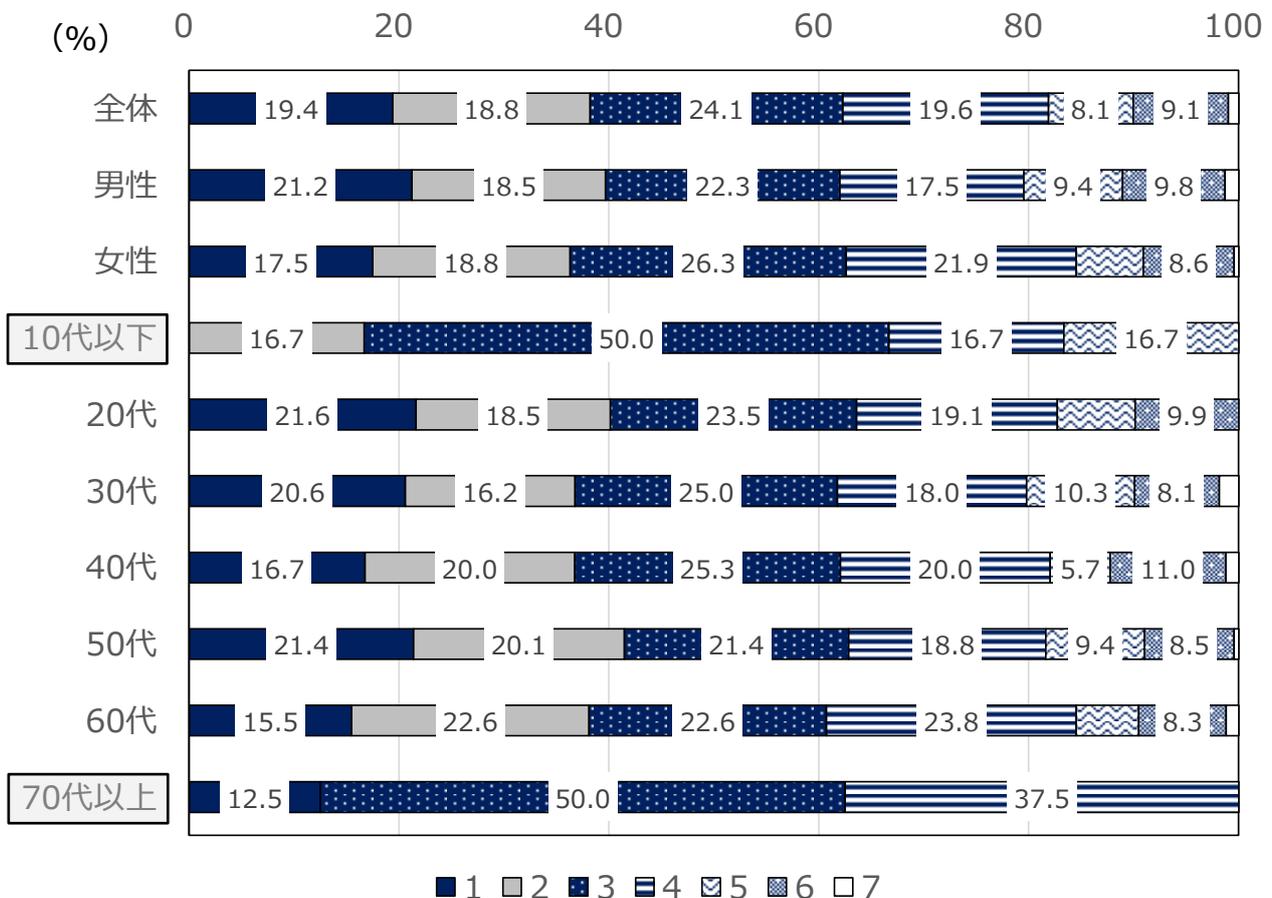
**Q 4 30年後の理想と考える企業の「社会貢献活動」がさらに活発になっていくために必要な行政の取り組みは何だと思えますか。【n=1,026】**

企業の「社会貢献活動」がさらに活発になっていくために必要な行政の取り組みについては、全体で「地域におけるまちづくりや市民活動に企業が参加できる仕組みをつくる」が24.1%で最も高く、次いで「企業と市民活動団体が協働して事業が行われるような仕掛けをつくる」、「企業の社会貢献活動に関する情報提供を充実する」、「地域が求めている情報を提示する」がそれぞれ2割弱となっている。

性別・年代別においても、「地域におけるまちづくりや市民活動に企業が参加できる仕組みをつくる」の割合が最も大きく、これ以外の上記3項目も2割前後の回答を集めている。

**【選択肢】**

- 1 企業の社会貢献活動に関する情報提供を充実する
- 2 地域が求めている情報を提示する
- 3 地域におけるまちづくりや市民活動に企業が参加できる仕組みをつくる
- 4 企業と市民活動団体が協働して事業が行われるような仕掛けをつくる
- 5 企業が資金提供や寄付を行える仕組み・制度を充実する
- 6 社会貢献が行える場所・機会を増やす
- 7 その他



## (12)関係人口・行政運営

### ① 関係人口

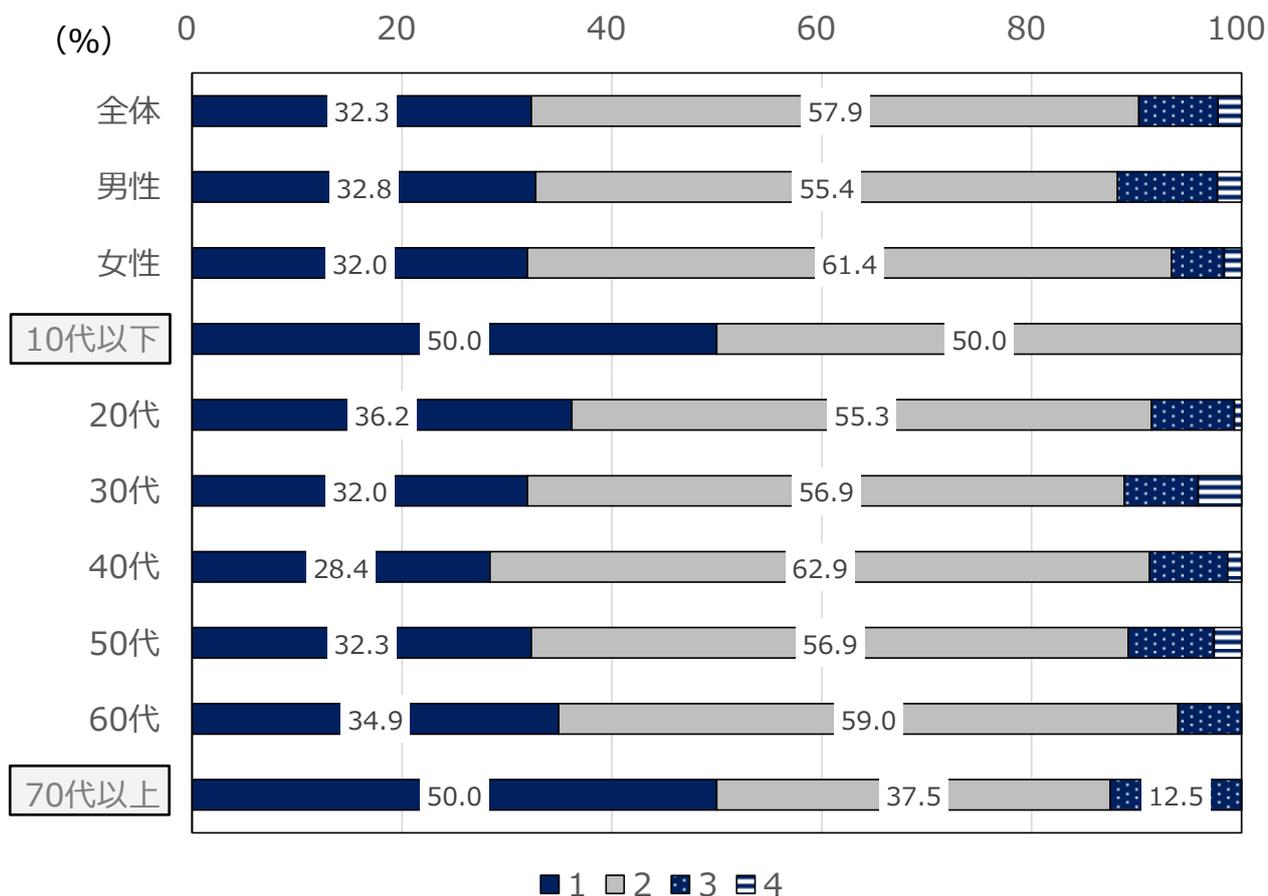
**Q 1 関係人口の創出・拡大の取り組みについてあなたはどのように考えますか。【n=933】**

関係人口の創出・拡大の取り組みについては、全体で「どちらかと言えば行う必要がある」が57.9%で最も高く、「積極的に行う必要がある」と合わせると90.2%となっている。

性別・年代別においても、上記2項目の合計は9割前後となっている。

#### 【選択肢】

- 1 積極的に行う必要がある
- 2 どちらかと言えば行う必要がある
- 3 どちらかと言えば行う必要はない
- 4 行う必要はない



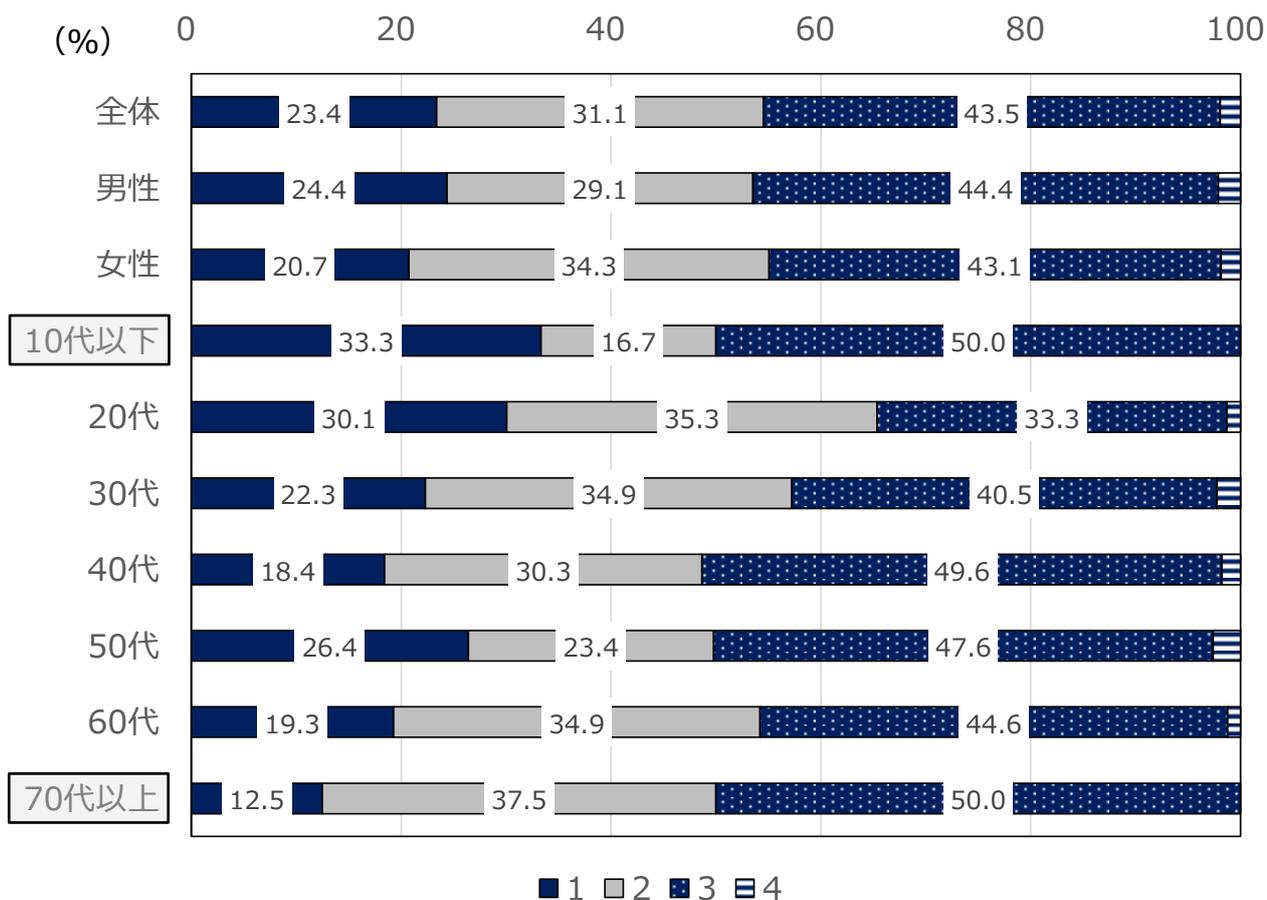
**Q2 30年後の将来、人口減少は現在よりも進んでいると予想されますが、関係人口の創出・拡大、移住・定住施策の推進について小山市はどのような方向性を目指すべきだと思いますか。【n=992】**

関係人口の創出・拡大、移住・定住施策の推進の目指すべき方向性については、全体で「人口減少化はやむを得ないので、関係人口、移住・定住の施策よりも、住んでいる市民が住み続けたいと思えるような施策を優先する」が43.5%で最も高く、次いで「人口減少化に少しでも歯止めがかけられるよう、定住人口増加のため、移住・定住施策を推進する」が31.1%となっている。

性別・年代別においては、20代を除き上記項目順の割合となっているが、20代では「人口減少化に少しでも歯止めがかけられるよう、定住人口増加のため、移住・定住施策を推進する」の割合が最も大きい。

**【選択肢】**

- 1 日本全体の人口が減少するため、関係人口の創出・拡大を図る
- 2 人口減少化に少しでも歯止めがかけられるよう、定住人口増加のため、移住・定住施策を推進する
- 3 人口減少化はやむを得ないので、関係人口、移住・定住の施策よりも、住んでいる市民が住み続けたいと思えるような施策を優先する
- 4 その他

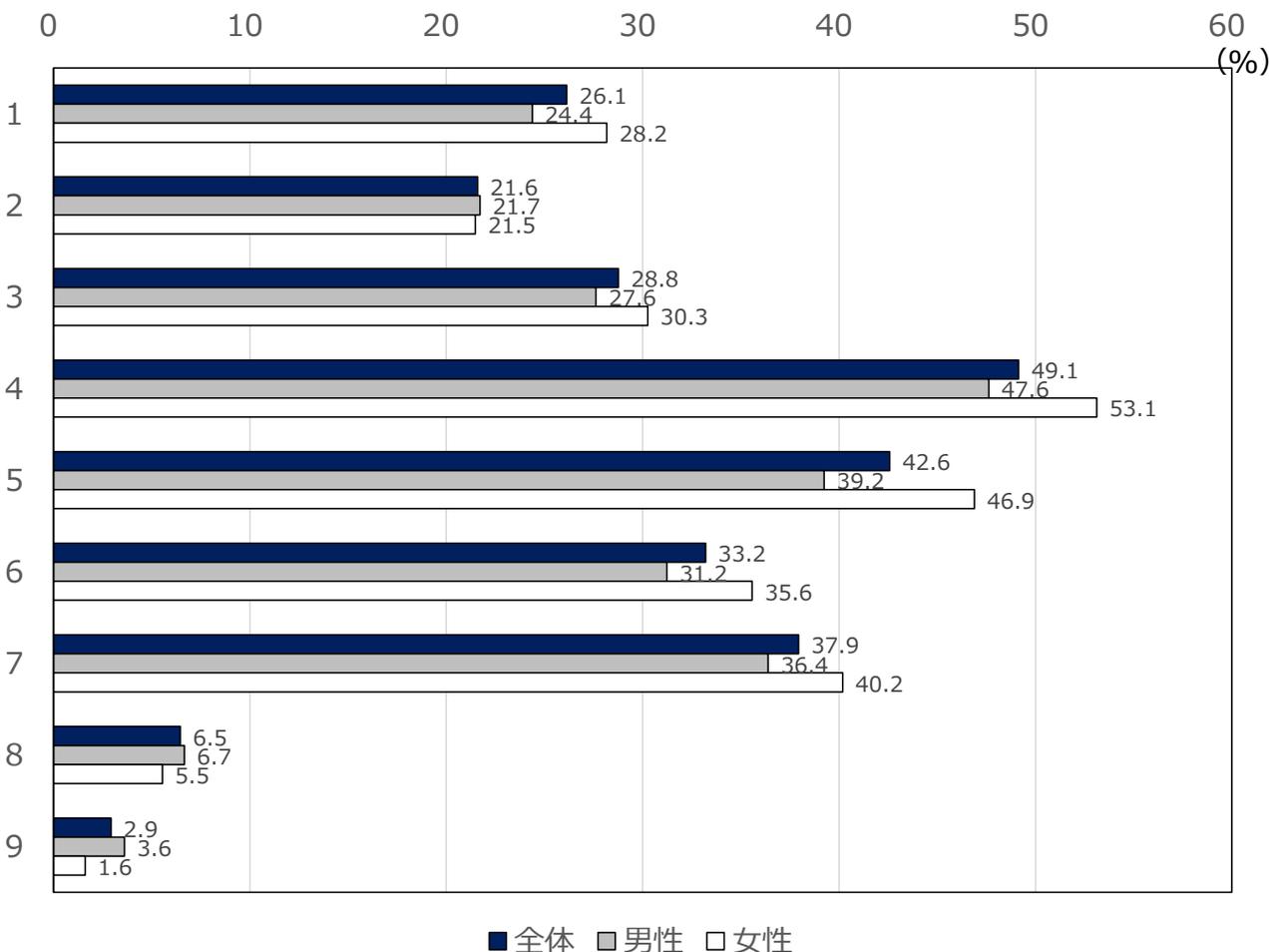


**Q3 Q2の理想のために、今後必要だと思う取り組みを選択してください。(3つまで)【n=991】**

関係人口の創出・拡大、移住・定住施策の推進に必要な取り組みについては、全体で「保育所や学校、塾などの子育て・教育施設の充実」が49.1%で最も高く、次いで「病院や介護施設などの医療・福祉施設の充実」が42.6%、「道路や鉄道、バスなどの道路・公共交通機関の充実」が37.9%となっている。男女ともに同様の傾向となっている。

**【選択肢】**

- 1 テレワーク・ワーケーションをきっかけとした関係人口化に向けた取り組み
- 2 ふるさと納税を通じた関係人口の創出・拡大の取り組み
- 3 地域おこし協力隊、補助金制度、移住相談窓口、田舎暮らし体験、就職支援、空き家バンクなど移住・定住の取り組み
- 4 保育所や学校、塾などの子育て・教育施設の充実
- 5 病院や介護施設などの医療・福祉施設の充実
- 6 スーパー、映画館などの商業施設の充実
- 7 道路や鉄道、バスなどの道路・公共交通機関の充実
- 8 多様な住宅建築が可能になるような規制緩和
- 9 その他



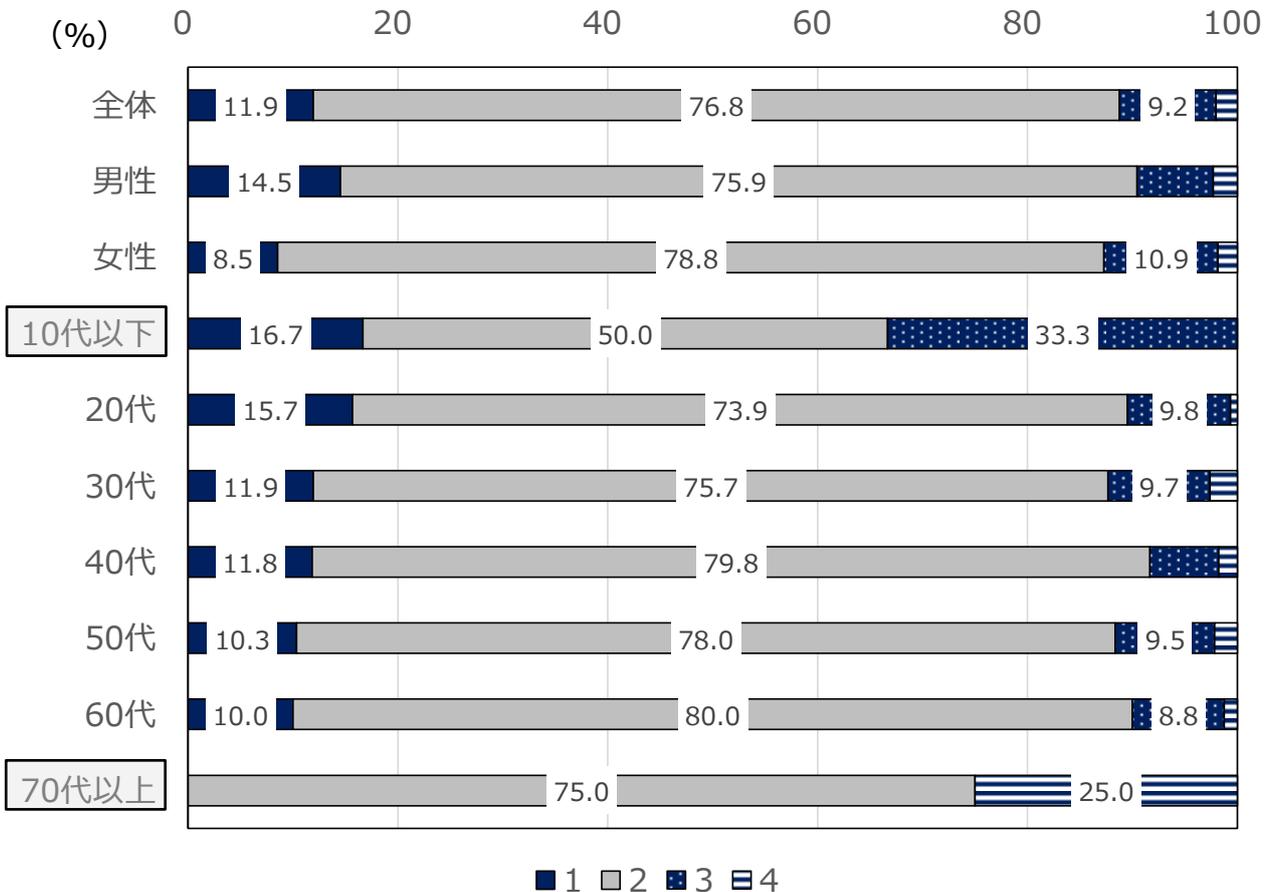
## ② 行政運営

**Q 1** 社会の変化や市民ニーズの多様化、複雑化に対応し、将来にわたり市民が満足のいく質の高い行政サービスを提供していくための行政運営のあり方について、あなたの考えに一番近いものをお選びください。【n=989】

質の高い行政サービスを提供していくための行政運営のあり方については、全体で「事業の優先順位を付け、新しい手法や代替手段の導入により行政サービスの転換を図る。市民満足度を維持しつつ、職員や出張所・窓口の数は規模に応じ最適化することで財政負担の抑制を図る。」が76.8%で最も高く、次いで「財政負担は増加するが、現在と同様の職員数・行政運営のあり方を維持する。出張所や窓口の数は維持しつつ、基本的に窓口は全て職員が直接対応する。」が11.9%となっている。

### 【選択肢】

- 1 財政負担は増加するが、現在と同様の職員数・行政運営のあり方を維持する。出張所や窓口の数は維持しつつ、基本的に窓口は全て職員が直接対応する。
- 2 事業の優先順位を付け、新しい手法や代替手段の導入により行政サービスの転換を図る。市民満足度を維持しつつ、職員や出張所・窓口の数は規模に応じ最適化することで財政負担の抑制を図る。
- 3 わからない
- 4 その他

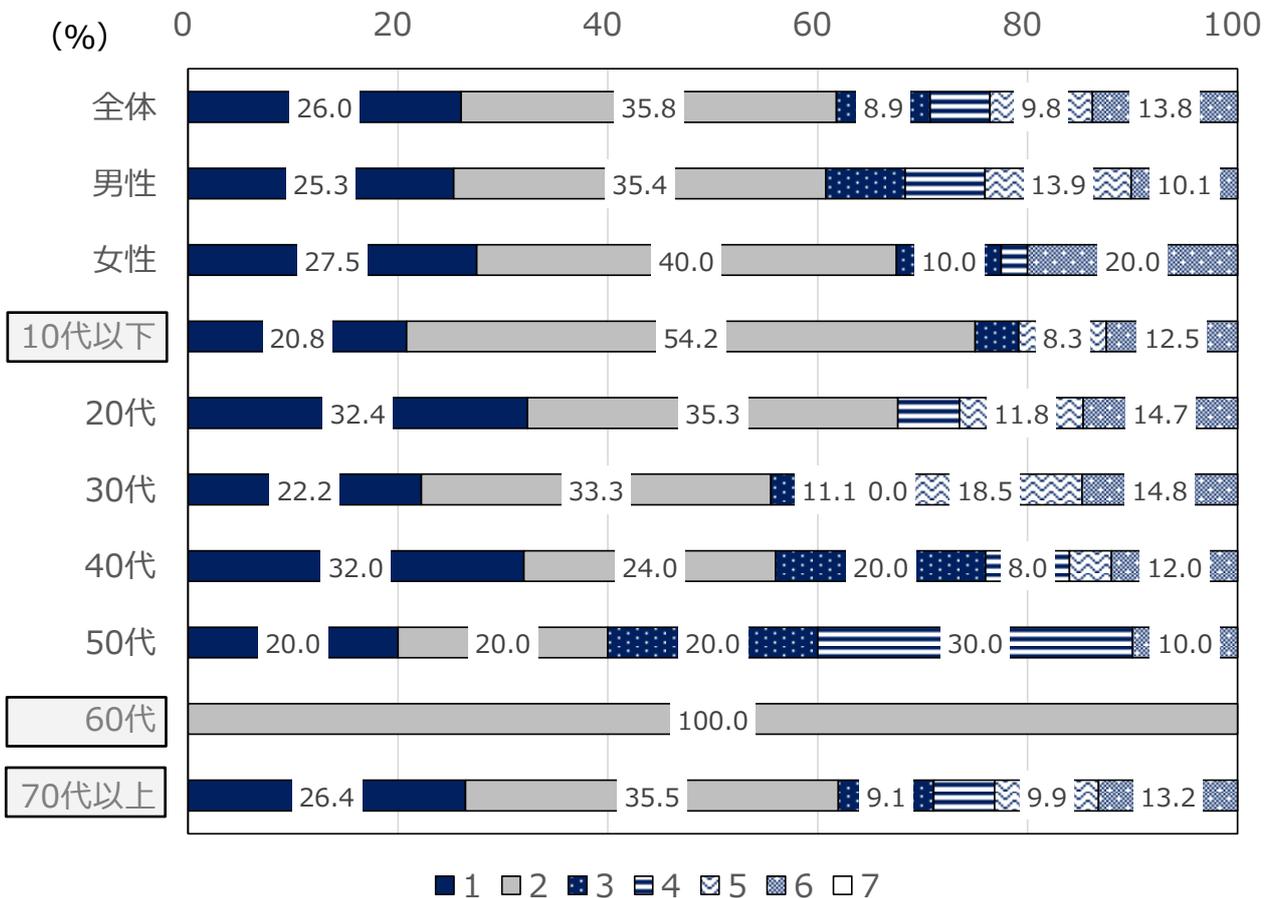


**Q2 Q1で1と答えた方に質問します。あなたが現在の行政の在り方を維持して、最も残したいものを教えてください。【n=123】**

現在の行政の在り方を維持して、最も残したいものについては、回答数が少ないものの全体で「窓口の待ち時間短縮と、きめ細やかな対応を両立する職員配置（委託職員含む）」が35.8%で最も高く、次いで「地区ごとの出張所の配備」が26.0%、「介護・保育サービス等の充実」が13.8%となっている。

**【選択肢】**

- |  |                      |
|--|----------------------|
| 1 地区ごとの出張所の配備                          | 4 紙の申請書による受付         |
| 2 窓口の待ち時間短縮と、きめ細やかな対応を両立する職員配置（委託職員含む） | 5 道路・水道等の老朽インフラの維持修繕 |
| 3 外部委託ではない、市役所の職員による窓口対応               | 6 介護・保育サービス等の充実      |
|  | 7 その他                |

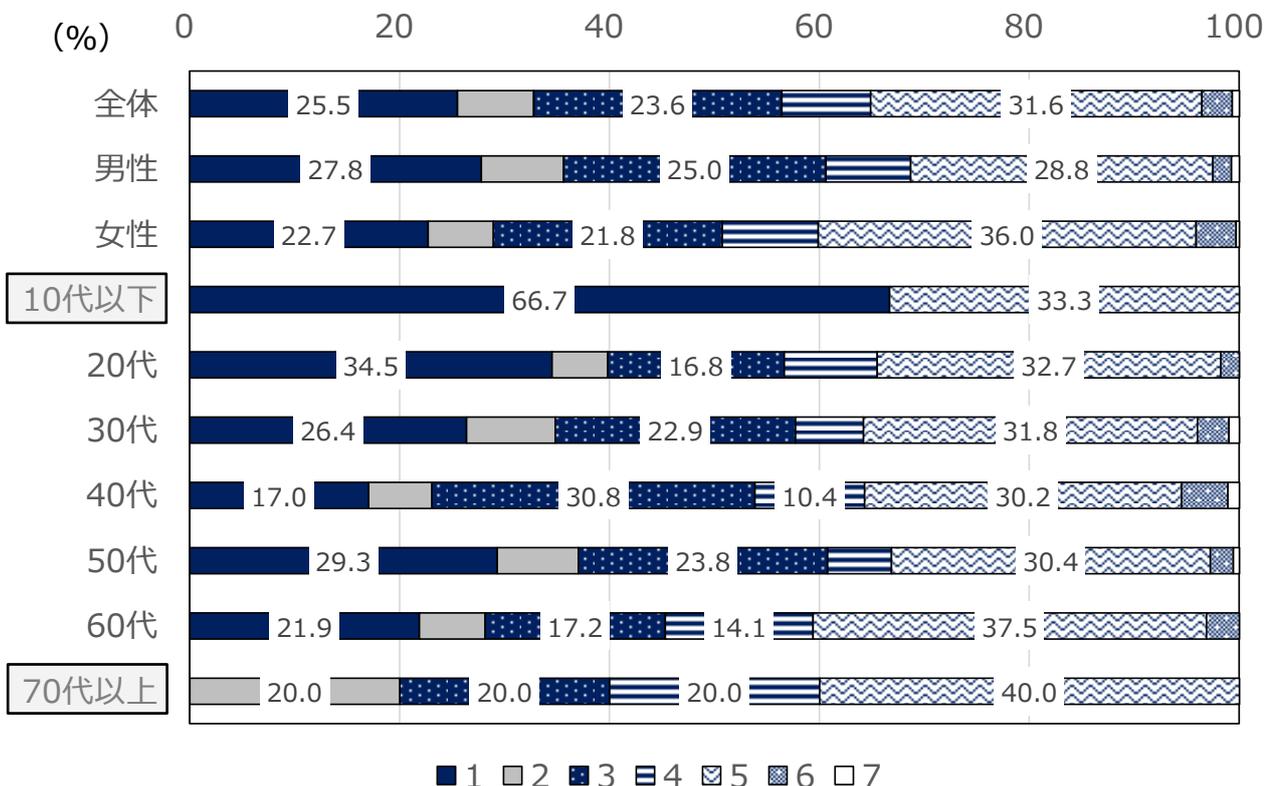


**Q3 Q1で2と答えた方に質問します。30年後も質の高い行政サービスを提供するために、あなたが最も良いと思う方法を選んでください。【n=757】**

30年後も質の高い行政サービスを提供するために良いと思う方法については、全体で「デジタル技術などの導入により、行政内部の事務効率化・最適化を図り、人・時間・財源を職員にしかできない業務に振り分けることで、サービス力の向上を図る」が31.6%で最も高く、次いで「電子申請などの拡大により業務の効率化を進め、不要となる市役所窓口の削減や出張所の統廃合を行う」が25.5%、「民間への業務委託などを拡大し、民間活力が活用できる部分は民間に任せ、職員は職員にしかできない業務に集中する」が23.6%となっている。

**【選択肢】**

- 1 電子申請などの拡大により業務の効率化を進め、不要となる市役所窓口の削減や出張所の統廃合を行う
- 2 市民と市役所の協働をよりいっそう進め、市民が行政に関わる部分を増やす
- 3 民間への業務委託などを拡大し、民間活力が活用できる部分は民間に任せ、職員は職員にしかできない業務に集中する
- 4 各種事業や補助金、公共施設の管理運営について、様々な立場の市民の意見を集約したうえで統廃合・縮小や民間への移管を進める
- 5 デジタル技術などの導入により、行政内部の事務効率化・最適化を図り、人・時間・財源を職員にしかできない業務に振り分けることで、サービス力の向上を図る
- 6 多様化する市民ニーズに柔軟に対応できる人材の育成・能力開発を図るため、職員研修制度を充実させる
- 7 その他



**Q 4 あなたが未来の市役所の窓口を求めることとして最も近いものを教えてください。【n=990】**

未来の市役所の窓口を求めることについては、全体で「電子申請により、役所にいかないでいつでも待たずに必要な手続きができる」が54.9%で最も高く、次いで「添付書類が省略され、行政手続きが簡素化される」が14.1%、「申請の届出から完了までが早くなる、手続処理体制の充実」が10.1%となっている。

性別・年代別を問わず、「電子申請により、役所にいかないでいつでも待たずに必要な手続きができる」が最も割合の大きい項目になっており、5割前後である。

**【選択肢】**

- 1 近くに出張所があり、あまり移動せずに窓口へ行くことができる
- 2 本庁と出張所やショッピングモールなどを映像・音声でつなぎ、職員がリモート対応する
- 3 電子申請により、役所にいかないでいつでも待たずに必要な手続きができる
- 4 窓口数の拡充により窓口での待ち時間が少なくなる
- 5 申請の届出から完了までが早くなる、手続処理体制の充実
- 6 添付書類が省略され、行政手続きが簡素化される
- 7 その他

